

茨城県教育財団文化財調査報告第170集

中根・金田台特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

中原遺跡 3

中 卷

平成 13 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第170集

中根・金田台特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

なか ほん 遺跡 3
中 卷

平成 13 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

目 次

— 中 卷 —

4 奈良・平安時代	517
(1) 竪穴住居跡	517
(2) 方形竪穴状遺構	809
(3) 掘立柱建物跡	819
(4) 土坑	936
5 中・近世	972
(1) 地下式墳	972
(2) 溝	973
(3) 道路跡	977
6 その他の遺構と遺物	978
(1) 遺物包含層	978
(2) 遺構外出土遺物	982
第4節 まとめ	998

挿 図 目 次

第376図 第393号住居跡実測図	518	第392図 第400号住居跡出土遺物実測図	542
第377図 第393号住居跡出土遺物実測図	519	第393図 第401号住居跡実測図(1)	545
第378図 第394号住居跡実測図	521	第394図 第401号住居跡実測図(2)	546
第379図 第395号住居跡実測図	523	第395図 第401号住居跡出土遺物実測図	547
第380図 第395号住居跡出土遺物実測図(1)	524	第396図 第402号住居跡実測図	549
第381図 第395号住居跡出土遺物実測図(2)	525	第397図 第402号住居跡出土遺物実測図	550
第382図 第396号住居跡実測図	527	第398図 第403号住居跡実測図	552
第383図 第396号住居跡出土遺物実測図	528	第399図 第403号住居跡出土遺物実測図	553
第384図 第397号住居跡実測図	530	第400図 第404号住居跡実測図	554
第385図 第397号住居跡出土遺物実測図	531	第401図 第404号住居跡・出土遺物実測図	555
第386図 第398号住居跡実測図	533	第402図 第405号住居跡実測図	557
第387図 第398号住居跡出土遺物実測図	533	第403図 第405号住居跡出土遺物実測図	558
第388図 第399号住居跡・出土遺物実測図	536	第404図 第406号住居跡実測図(1)	560
第389図 第399号住居跡出土遺物実測図	537	第405図 第406号住居跡実測図(2)	561
第390図 第400号住居跡実測図	540	第406図 第406号住居跡出土遺物実測図(1)	562
第391図 第400号住居跡・出土遺物実測図	541	第407図 第406号住居跡出土遺物実測図(2)	563

第408图	第407号住居跡実測図	565	第446图	第426号住居跡出土遺物実測図(2)	616
第409图	第407号住居跡出土遺物実測図	566	第447图	第427号住居跡実測図	618
第410图	第408号住居跡実測図	568	第448图	第427号住居跡出土遺物実測図	619
第411图	第408号住居跡出土遺物実測図	569	第449图	第428号住居跡・出土遺物実測図	620
第412图	第409号住居跡・出土遺物実測図	571	第450图	第429A号住居跡・出土遺物実測図	622
第413图	第410号住居跡実測図	573	第451图	第429B号住居跡実測図	623
第414图	第411号住居跡実測図	574	第452图	第431号住居跡実測図	625
第415图	第411号住居跡出土遺物実測図	575	第453图	第431号住居跡出土遺物実測図	626
第416图	第412号住居跡実測図	576	第454图	第432号住居跡実測図	628
第417图	第412号住居跡出土遺物実測図	577	第455图	第432号住居跡出土遺物実測図	629
第418图	第413号住居跡実測図	579	第456图	第433号住居跡実測図	630
第419图	第413号住居跡出土遺物実測図	580	第457图	第433号住居跡出土遺物実測図(1)	631
第420图	第414号住居跡実測図	581	第458图	第433号住居跡出土遺物実測図(2)	632
第421图	第414号住居跡出土遺物実測図	582	第459图	第435号住居跡・出土遺物実測図	634
第422图	第415号住居跡実測図	584	第460图	第436号住居跡実測図(1)	635
第423图	第415号住居跡出土遺物実測図	585	第461图	第436号住居跡実測図(2)	636
第424图	第416号住居跡・出土遺物実測図	587	第462图	第436号住居跡出土遺物実測図	637
第425图	第416号住居跡出土遺物実測図	588	第463图	第437号住居跡実測図	639
第426图	第417号住居跡実測図	589	第464图	第437号住居跡出土遺物実測図	640
第427图	第417号住居跡出土遺物実測図	591	第465图	第438号住居跡実測図	642
第428图	第418号住居跡実測図	593	第466图	第438号住居跡出土遺物実測図	643
第429图	第418号住居跡出土遺物実測図	594	第467图	第439号住居跡・出土遺物実測図	645
第430图	第419号住居跡実測図	595	第468图	第440号住居跡実測図	647
第431图	第419号住居跡出土遺物実測図	596	第469图	第440号住居跡出土遺物実測図(1)	648
第432图	第420号住居跡実測図	598	第470图	第440号住居跡出土遺物実測図(2)	649
第433图	第420号住居跡出土遺物実測図	599	第471图	第441号住居跡・出土遺物実測図	651
第434图	第421号住居跡・出土遺物実測図	602	第472图	第442号住居跡実測図	653
第435图	第421号住居跡出土遺物実測図	603	第473图	第442号住居跡出土遺物実測図	654
第436图	第422号住居跡実測図	605	第474图	第443号住居跡・出土遺物実測図	656
第437图	第422号住居跡出土遺物実測図	606	第475图	第444号住居跡実測図	659
第438图	第423号住居跡実測図	608	第476图	第444号住居跡・出土遺物実測図	660
第439图	第423号住居跡出土遺物実測図	608	第477图	第444号住居跡出土遺物実測図	661
第440图	第424号住居跡実測図	609	第478图	第446号住居跡実測図	663
第441图	第424号住居跡出土遺物実測図	610	第479图	第446号住居跡出土遺物実測図	664
第442图	第425号住居跡・出土遺物実測図	612	第480图	第447号住居跡実測図	667
第443图	第425号住居跡出土遺物実測図	613	第481图	第447号住居跡・出土遺物実測図	668
第444图	第426号住居跡実測図	614	第482图	第447号住居跡出土遺物実測図	669
第445图	第426号住居跡出土遺物実測図(1)	615	第483图	第448号住居跡実測図(1)	672

第484图	第448号住居跡実測図 (2) ……673	第522图	第465・466号住居跡実測図 (2) ……728
第485图	第448号住居跡出土遺物実測図 ……673	第523图	第465号住居跡出土遺物実測図 (1) ……728
第486图	第449号住居跡・出土遺物実測図 ……675	第524图	第465号住居跡出土遺物実測図 (2) ……729
第487图	第450号住居跡・出土遺物実測図 ……677	第525图	第466号住居跡出土遺物実測図 ……730
第488图	第450号住居跡出土遺物実測図 ……678	第526图	第467号住居跡・出土遺物実測図 ……732
第489图	第451号住居跡実測図 ……680	第527图	第467号住居跡出土遺物実測図 ……733
第490图	第451号住居跡・出土遺物実測図 ……681	第528图	第468号住居跡実測図 ……734
第491图	第452号住居跡・出土遺物実測図 ……683	第529图	第468号住居跡出土遺物実測図 ……735
第492图	第453号住居跡実測図 ……686	第530图	第469号住居跡・出土遺物実測図 ……736
第493图	第453号住居跡出土遺物実測図 (1) ……687	第531图	第470号住居跡実測図 ……738
第494图	第453号住居跡出土遺物実測図 (2) ……688	第532图	第470号住居跡出土遺物実測図 ……738
第495图	第454号住居跡実測図 ……691	第533图	第471・472号住居跡実測図 ……740
第496图	第454号住居跡出土遺物実測図 ……692	第534图	第472号住居跡実測図 ……741
第497图	第455号住居実測図 ……694	第535图	第471号住居跡出土遺物実測図 ……741
第498图	第455号住居跡出土遺物実測図 ……695	第536图	第472号住居跡出土遺物実測図 ……742
第499图	第456号住居跡実測図 ……697	第537图	第473号住居跡実測図 (1) ……744
第500图	第456号住居跡出土遺物実測図 (1) ……698	第538图	第473号住居跡実測図 (2) ……745
第501图	第456号住居跡出土遺物実測図 (2) ……699	第539图	第473号住居跡出土遺物実測図 ……746
第502图	第457号住居跡実測図 ……701	第540图	第474号住居跡実測図 ……748
第503图	第457号住居跡出土遺物実測図 ……702	第541图	第474号住居跡・出土遺物実測図 ……749
第504图	第458号住居跡実測図 ……704	第542图	第474号住居跡出土遺物実測図 ……751
第505图	第458号住居跡・出土遺物実測図 ……705	第543图	第475号住居跡実測図 ……753
第506图	第458号住居跡出土遺物実測図 ……706	第544图	第475号住居跡出土遺物実測図 ……754
第507图	第459号住居跡・出土遺物実測図 ……708	第545图	第476号住居跡・出土遺物実測図 ……756
第508图	第460号住居跡実測図 (1) ……710	第546图	第476号住居跡出土遺物実測図 ……757
第509图	第460号住居跡実測図 (2) ……711	第547图	第477号住居跡・出土遺物実測図 ……759
第510图	第460号住居跡実測図 (3) ……712	第548图	第478号住居跡・出土遺物実測図 ……761
第511图	第460号住居跡出土遺物実測図 (1) ……714	第549图	第479号住居跡・出土遺物実測図 ……763
第512图	第460号住居跡出土遺物実測図 (2) ……715	第550图	第480号住居跡実測図 ……765
第513图	第461号住居跡実測図 ……718	第551图	第480号住居跡出土遺物実測図 (1) ……766
第514图	第461号住居跡出土遺物実測図 ……718	第552图	第480号住居跡出土遺物実測図 (2) ……767
第515图	第462号住居跡実測図 ……720	第553图	第481号住居跡・出土遺物実測図 ……769
第516图	第462号住居跡出土遺物実測図 ……721	第554图	第481号住居跡出土遺物実測図 ……770
第517图	第463号住居跡実測図 ……723	第555图	第482号住居跡・出土遺物実測図 ……772
第518图	第463号住居跡出土遺物実測図 ……723	第556图	第483号住居跡実測図 ……773
第519图	第464号住居跡実測図 ……725	第557图	第483号住居跡出土遺物実測図 ……774
第520图	第464号住居跡出土遺物実測図 ……725	第558图	第484号住居跡・出土遺物実測図 ……775
第521图	第465・466号住居跡実測図 (1) ……727	第559图	第485号住居跡・出土遺物実測図 ……777

第560图	第485号住居跡出土遺物実測図 ……778	第598图	第63号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……825
第561图	第486号住居跡実測図 ……779	第599图	第64号掘立柱建物跡実測図（1） ……826
第562图	第486号住居跡出土遺物実測図 ……780	第600图	第64号掘立柱建物跡実測図（2） ……827
第563图	第487号住居跡実測図 ……781	第601图	第64号掘立柱建物跡出土遺物実測図…828
第564图	第487号住居跡出土遺物実測図 ……782	第602图	第80号掘立柱建物跡実測図……829
第565图	第488号住居跡実測図 ……783	第603图	第80号掘立柱建物跡出土遺物実測図…830
第566图	第488号住居跡出土遺物実測図 ……784	第604图	第81号掘立柱建物跡実測図……831
第567图	第489号住居跡・出土遺物実測図 ……786	第605图	第82号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……832
第568图	第489号住居跡出土遺物実測図 ……787	第606图	第84号掘立柱建物跡実測図……834
第569图	第490号住居跡実測図 ……788	第607图	第84号掘立柱建物跡出土遺物実測図 ……835
第570图	第490号住居跡出土遺物実測図 ……789	第608图	第85号掘立柱建物跡出土遺物実測図…836
第571图	第491号住居跡実測図 ……791	第609图	第85号掘立柱建物跡実測図 ……837・838
第572图	第491号住居跡出土遺物実測図 ……792	第610图	第86号掘立柱建物跡実測図……840
第573图	第492号住居跡実測図 ……795	第611图	第86号掘立柱建物跡出土遺物実測図…841
第574图	第492号住居跡出土遺物実測図 ……796	第612图	第87号掘立柱建物跡実測図……842
第575图	第493号住居跡・出土遺物実測図 ……798	第613图	第88号掘立柱建物跡実測図……844
第576图	第494号住居跡実測図（1）……800	第614图	第89号掘立柱建物跡出土遺物実測図…845
第577图	第494号住居跡実測図（2）……801	第615图	第89・90号掘立柱建物跡実測図……846
第578图	第494号住居跡出土遺物実測図 ……802	第616图	第91号掘立柱建物跡実測図……848
第579图	第496号住居跡実測図 ……804	第617图	第91号掘立柱建物跡出土遺物実測図…849
第580图	第496号住居跡出土遺物実測図 ……805	第618图	第92号掘立柱建物跡実測図……850
第581图	第497号住居跡・出土遺物実測図 ……806	第619图	第92号掘立柱建物跡出土遺物実測図…851
第582图	第499号住居跡実測図 ……807	第620图	第93号掘立柱建物跡実測図……852
第583图	第499号住居跡出土遺物実測図 ……808	第621图	第93号掘立柱建物跡出土遺物実測図…853
第584图	第1号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図…810	第622图	第94号掘立柱建物跡実測図（1） ……854
第585图	第2号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図…811	第623图	第94号掘立柱建物跡実測図（2） ……855
第586图	第3号方形竪穴状遺構実測図……812	第624图	第95号掘立柱建物跡実測図……856
第587图	第4号方形竪穴状遺構実測図……813	第625图	第95号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……857
第588图	第4号方形竪穴状遺構出土遺物実測図 ……814	第626图	第96号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……859
第589图	第5号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図…815	第627图	第97号掘立柱建物跡実測図……860
第590图	第6号方形竪穴状遺構実測図……816	第628图	第98号掘立柱建物跡実測図（1） ……862
第591图	第6号方形竪穴状遺構出土遺物実測図 ……817	第629图	第98号掘立柱建物跡実測図（2） ……863
第592图	第7号方形竪穴状遺構・出土遺物実測図…818	第630图	第99号掘立柱建物跡実測図……864
第593图	第14号掘立柱建物跡実測図……819	第631图	第100号掘立柱建物跡実測図 ……865
第594图	第15号掘立柱建物跡実測図……821	第632图	第101号掘立柱建物跡実測図 ……867
第595图	第52号掘立柱建物跡出土遺物実測図…822	第633图	第102号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……869
第596图	第52号掘立柱建物跡実測図……822	第634图	第104号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……870
第597图	第54号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 ……824	第635图	第105号掘立柱建物跡実測図 ……872

第636図	第106号掘立柱建物跡実測図 ……………873	第674図	第142号掘立柱建物跡実測図 ……………927
第637図	第107号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …874	第675図	第143号掘立柱建物跡実測図 ……………928
第638図	第108号掘立柱建物跡実測図 ……………876	第676図	第143号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …929
第639図	第109号掘立柱建物跡実測図 ……………877	第677図	第144号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …930
第640図	第111号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …879	第678図	第145号掘立柱建物跡実測図 ……………932
第641図	第112号掘立柱建物跡実測図 ……………881	第679図	第146号掘立柱建物跡実測図 ……………933
第642図	第112号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …882	第680図	第147号掘立柱建物跡実測図 ……………935
第643図	第113号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …883	第681図	第147号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …936
第644図	第113号掘立柱建物跡出土遺物実測図 884	第682図	第736号土坑・出土遺物実測図 ……………937
第645図	第114号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …886	第683図	第740A・B号土坑・出土遺物実測図 …938
第646図	第115号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …887	第684図	第740A・B号土坑出土遺物実測図 …939
第647図	第115号掘立柱建物跡実測図 ……………888	第685図	第812号土坑・出土遺物実測図 ……………942
第648図	第116号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …889	第686図	第898号土坑・出土遺物実測図 ……………943
第649図	第117号掘立柱建物跡実測図 ……………891	第687図	第940号土坑・出土遺物実測図 ……………945
第650図	第118号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …892	第688図	第949号土坑・出土遺物実測図 ……………946
第651図	第119号掘立柱建物跡実測図 ……………894	第689図	第957号土坑・出土遺物実測図 ……………948
第652図	第121号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …896	第690図	第1198号土坑・出土遺物実測図……………949
第653図	第122号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …898	第691図	第1202号土坑・出土遺物実測図……………951
第654図	第123号掘立柱建物跡実測図 ……………899	第692図	第1295号土坑・出土遺物実測図……………952
第655図	第124号掘立柱建物跡実測図 ……………901	第693図	第1570号土坑・出土遺物実測図……………953
第656図	第125号掘立柱建物跡実測図 ……………902	第694図	第1580号土坑・出土遺物実測図……………954
第657図	第125号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …903	第695図	第1588号土坑・出土遺物実測図……………955
第658図	第126号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …904	第696図	第1588号土坑出土遺物実測図……………956
第659図	第128号掘立柱建物跡実測図 ……………905	第697図	第1692号土坑・出土遺物実測図……………957
第660図	第129号掘立柱建物跡実測図 ……………907	第698図	第1857号土坑・出土遺物実測図……………958
第661図	第130号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …908	第699図	第1891号土坑・出土遺物実測図……………959
第662図	第131号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …911	第700図	その他の土坑出土遺物実測図 (1) ……959
第663図	第132号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …912	第701図	その他の土坑出土遺物実測図 (2) ……960
第664図	第133号掘立柱建物跡実測図 ……………914	第702図	第1号地下式廣実測図……………973
第665図	第134号掘立柱建物跡実測図 ……………915	第703図	溝実測図 (1) ……………974
第666図	第135号掘立柱建物跡実測図 ……………917	第704図	溝実測図 (2) ……………975
第667図	第136号掘立柱建物跡実測図 ……………918	第705図	第1号道路跡・出土遺物実測図……………977
第668図	第137号掘立柱建物跡実測図 ……………919	第706図	遺物包含層実測図 (1) ……………979
第669図	第138号掘立柱建物跡実測図 ……………920	第707図	遺物包含層実測図 (2) ……………980
第670図	第139号掘立柱建物跡・出土遺物実測図 …922	第708図	遺物包含層出土遺物実測図 (1) ……………980
第671図	第140号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …923	第709図	遺物包含層出土遺物実測図 (2) ……………981
第672図	第140号掘立柱建物跡実測図 ……………924	第710図	遺構外出土遺物実測図 (1) ……………983
第673図	第141号掘立柱建物跡実測図 ……………925	第711図	遺構外出土遺物実測図 (2) ……………984

第712図	中原遺跡第Ⅰ期の土器群	999	第721図	中原遺跡第Ⅶ期の土器群(2)	1011
第713図	中原遺跡第Ⅱ期の土器群(1)	1001	第722図	中原遺跡第Ⅰ期遺構群	1021
第714図	中原遺跡第Ⅱ期の土器群(2)	1002	第723図	中原遺跡第Ⅱ期遺構群	1023
第715図	中原遺跡第Ⅲ期の土器群(1)	1003	第724図	中原遺跡第Ⅲ期遺構群	1025
第716図	中原遺跡第Ⅲ期の土器群(2)	1004	第725図	中原遺跡第Ⅳ期遺構群	1027
第717図	中原遺跡第Ⅳ期の土器群	1005	第726図	中原遺跡第Ⅴ期遺構群	1029
第718図	中原遺跡第Ⅴ期の土器群	1007	第727図	中原遺跡第Ⅵ期遺構群	1031
第719図	中原遺跡第Ⅵ期の土器群(1)	1008	第728図	中原遺跡第Ⅶ期遺構群	1033
第720図	中原遺跡第Ⅵ期の土器群(2)	1009			

表 目 次

表6	土坑一覧表	961~972
表7	溝一覧表	976~977
表8	縄文時代住居跡一覧表	986
表9	古墳時代住居跡一覧表	986
表10	奈良・平安時代住居跡一覧表	986~995
表11	方形竪穴状遺構一覧表	995
表12	掘立柱建物跡一覧表	995~997
表13	出土文字資料一覧表	1015~1019

4 奈良・平安時代

(1) 竪穴住居跡

第393号住居跡（第376・377図）

位置 調査区域の中央部，E 7 i8区。

重複関係 第1833号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.94 m，短軸3.86 mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は28～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分と第1833号土坑に掘り込まれた北東コーナー部を除いて，壁下を巡っている。上幅16～31cm，下幅6～10cm，深さ11cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 全体的に平坦で，南壁付近から竈前面にかけて踏み固められている。南東コーナー部壁下から南西コーナー部壁下にかけては貼床である。貼床は，幅25～75cm，確認面から深さ35～42cmほど溝状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ98cm，袖部最大幅128cmである。西袖部は，ロームブロックを含む褐色土を2～5 cmほど地山に貼り付けて芯としている。煙道部は，北壁を幅110cm，奥行き32cmにわたり扁平な三角形状に掘り込んでいる。煙道は下半部では60度の傾きで，上半部では70度の傾きで立ち上がる。火床部は長径39cm，短径34cmの楕円形，確認面から41cmまでの深さに掘り込んでつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
2 褐色	粘土中ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量	9 褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4 暗褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量	10 褐色	焼土小ブロック中量
5 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	11 褐色	焼土小ブロック少量
6 褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子微量	12 褐色	ローム中ブロック中量

ピット 5か所（P 1～P 5）。P 1・P 4はそれぞれ径40cm・55cmの円形，深さ23cm・27cm，P 2・P 3はそれぞれ長径40cm・75cm，短径28cm・60cmの楕円形，深さ46cm・48cmであり，各コーナー部寄りに位置する。規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は長径46cm，短径35cmの楕円形，深さ21cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

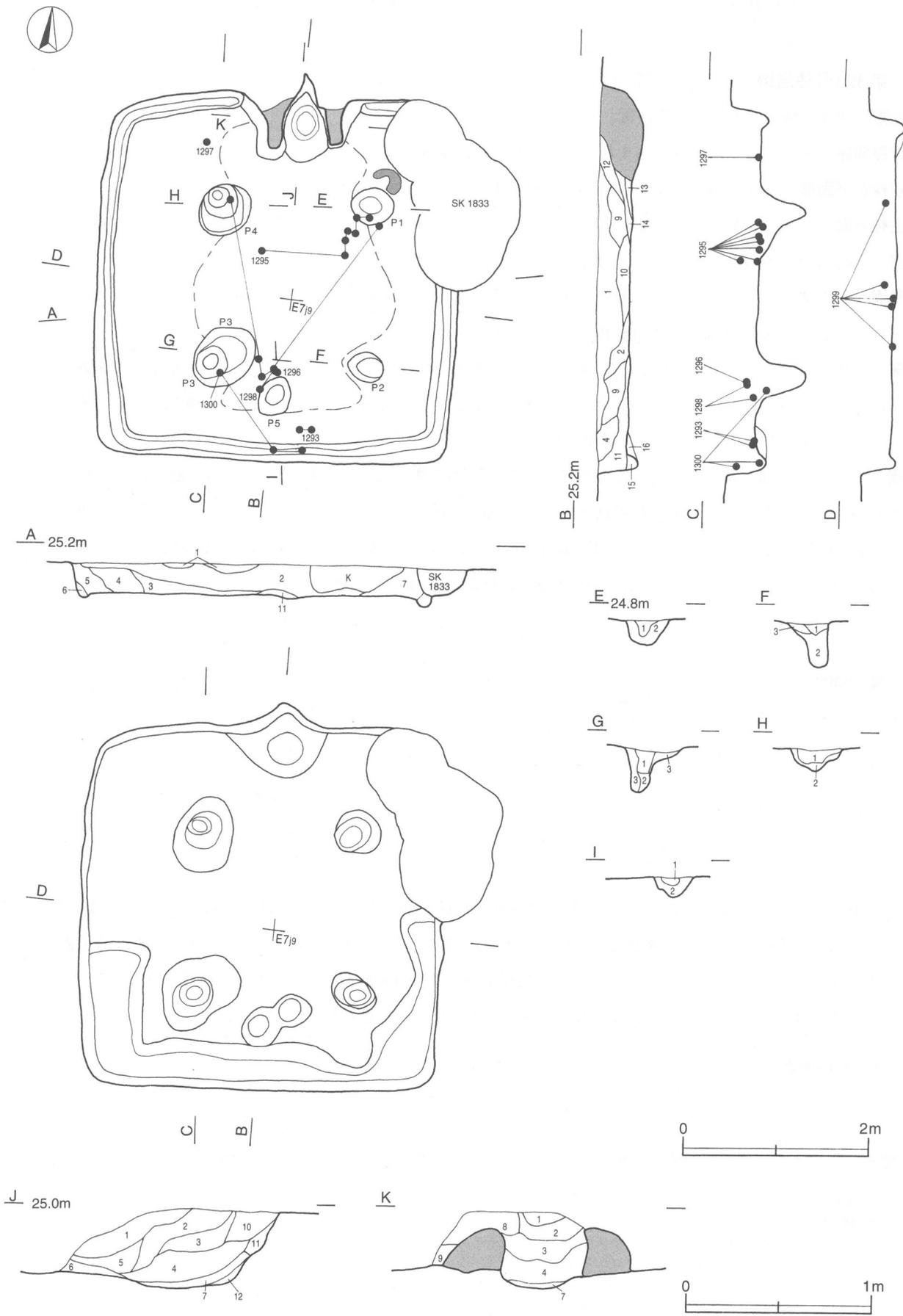
ピット土層解説

1 極暗褐色	ローム中ブロック中量	3 褐色	ローム中ブロック中量
2 暗褐色	ローム小ブロック中量		

覆土 15層からなる。不規則に堆積していること，ロームブロック・ローム粒子を多量に含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

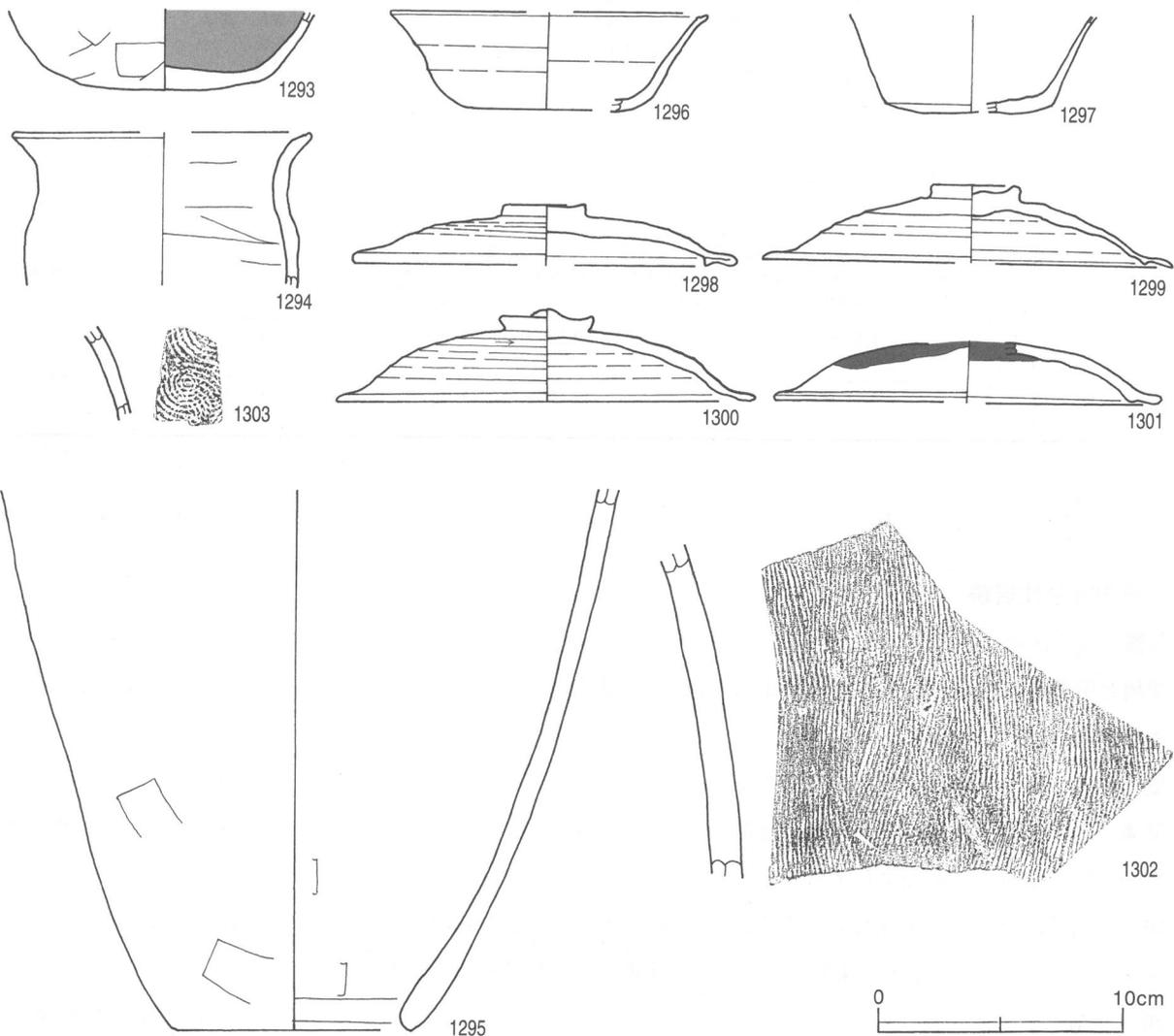
1 灰褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	4 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量



第376图 第393号住居跡实测图

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|---|
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子多量 | 12 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量 |
| 9 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 | 14 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| | | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 16 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 (貼床) |

遺物 土師器片287点, 須恵器片92点が出土している。第377図1293の土師器坏は, 南壁際の覆土下層から出土した破片と床面から出土した破片が接合したものである。1295の土師器甑は, 中央部の覆土上層から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1296の須恵器坏はP 5付近の覆土中層から, 1297の須恵器坏は北壁付近の床面からそれぞれ出土している。1298の須恵器蓋は, P 5付近の覆土下層から出土した破片と覆土中層から出土した破片が接合したものである。1299の須恵器蓋は, P 4の覆土中から出土した破片とP 5付近の床面から出土した破片及び中央部北東寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。1300の須恵器蓋は, P 3の覆土中から出土した破片と南壁際の覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1294の土師器甕, 1301の須恵器蓋, 1302・1303の須恵器甕体部片はそれぞれ覆土中から出土している。



第377図 第393号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、覆土中から出土した遺物と床面から出土した遺物が接合関係にあることから、短期間に埋められたと想定される。本跡の時期は、遺構の形態と出土土器から、8世紀前葉と推定される。

第393号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 1293	坏 土師器	B (3.3) C 7.2	底部から体部の破片。丸底気味。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面、底部ヘラ削り。体部内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰褐色、普通	5% P L 218
1294	甕 土師器	A [12.0] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 赤色、普通	5%
1295	甕 土師器	B (22.3) C 9.4	底部から体部の破片。無底式。体部は緩やかに内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	20% P L 219
1296	坏 須恵器	A [13.0] B 4.1 C [6.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部に棒状工具による沈線を巡らす。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	雲母 暗灰黄色 普通	5%
1297	坏 須恵器	B (4.0) C [7.0]	底部から体部の破片。丸みを帯びた平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	角礫・雲母 灰色、普通	60%
1298	蓋 須恵器	A 15.5 B 2.5 F 3.3 G 0.5	口縁部一部欠損。天井部はなだらかに下降する。口縁部内面に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	90% P L 218
1300	蓋 須恵器	A [16.9] B 3.2 F 3.3 G 0.6	つまみ部から口縁部の破片。天井部は丸く、外周部はなだらかに下降する。口縁部内面に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	70% P L 218
1301	蓋 須恵器	A 17.1 B 3.8 F 3.8 G 0.9	つまみ部から口縁部の破片。天井部は丸く、外周部はなだらかに下降する。口縁部内面に短いかえりが付く。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	40% P L 218
1301	蓋 須恵器	A [15.8] B (2.4)	天井部から口縁部の破片。天井部は丸く、外周部はなだらかに下降する。口縁部内面に短いかえりが付く。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	10% 天井部煤附着
1302	甕 須恵器	B (13.5)	体部の破片。	体部外面斜位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色、普通	5%
1303	甕 須恵器	B (3.7)	体部の破片。	体部外面同心円状の叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 褐灰色、普通	5%

第394号住居跡（第378図）

位置 調査区域の中央部，E 7 i4区。

規模と平面形 長軸3.84 m，短軸3.20 mの長方形である。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は36～50cmで，直立して立ち上がる。

壁溝 竈の部分，南東コーナー部，北西コーナー部を除いて，壁下を巡っている。上幅13～25cm，下幅5～13cm，深さ8 cmで，断面はU字形である。

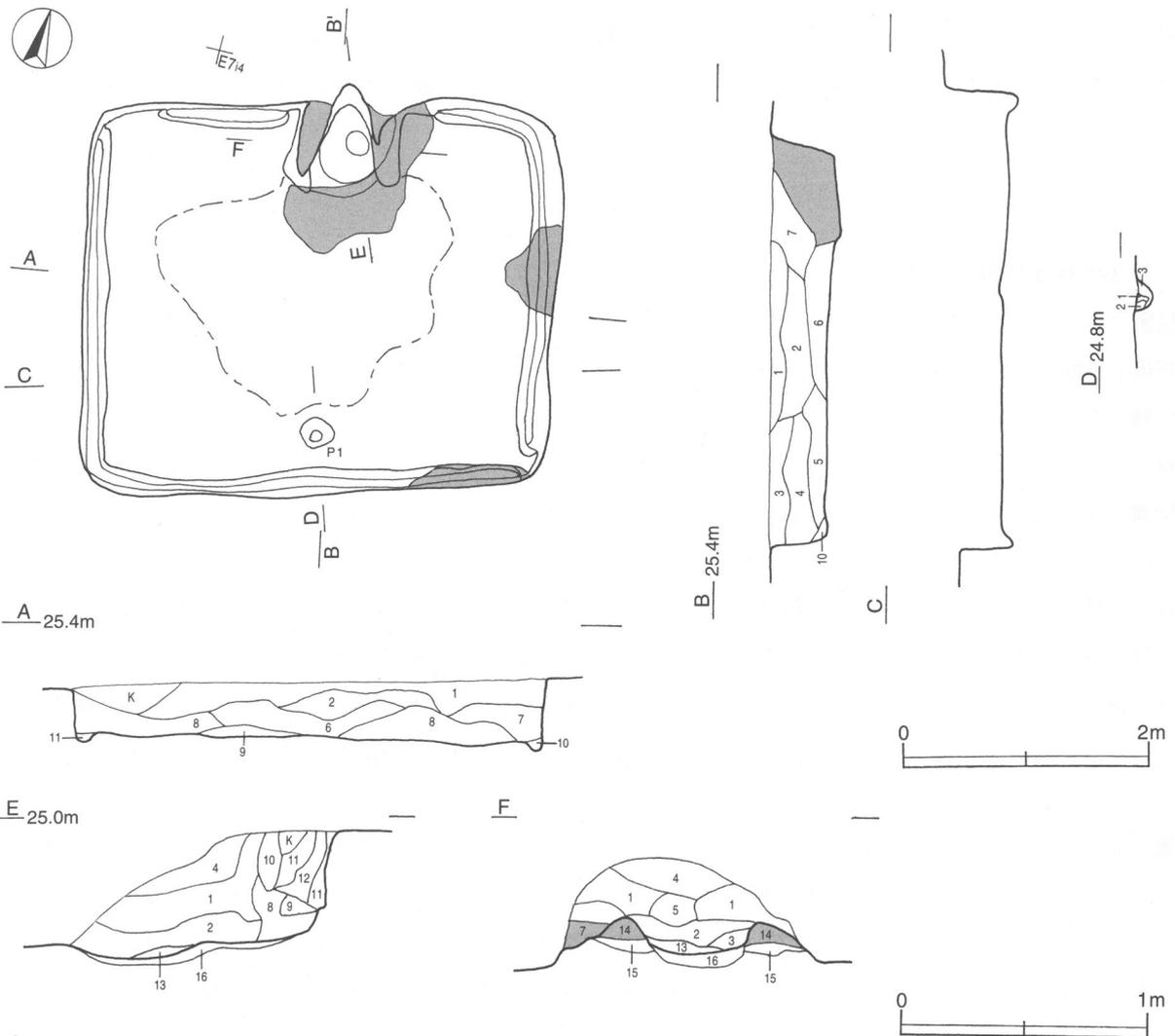
床 床面は西部が2～4 cm高い。中央部から竈前面にかけて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。竈の前面，東壁際，南壁際の床面に焼土塊が検出された。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ93cm，袖部最大幅91cmである。袖部は地山を12～27cmほど掘り残して芯とし，その上に黒色土ブロック・ロームブロックを含んだ褐色土を

貼り、さらにその上部に白色粘土を貼り付けて構築されている。天井部は崩落している。竈土層断面図中、第3層が崩落土層と考えられる。煙道部は、北壁を幅51cm、奥行き29cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部では20度の傾きで、上半部では70度の傾きで立ち上がる。火床部は、確認面から56cmの深さに掘り込み、ロームブロックを含んだ褐色土で埋土してつくっている。火床面は長径18cm、短径11cmの楕円形の範囲が特に火熱を受け、厚さ5cmほど赤変硬化しており、長期間にわたって使用されたと考えられる。火床面は北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム大ブロック中量, 粘土中ブロック・砂粒少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土中ブロック多量 |
| 2 黄褐色 | 粘土大ブロック多量, 焼土中ブロック中量 | 10 灰黄褐色 | 粘土中ブロック少量 |
| 3 赤褐色 | 焼土大ブロック多量 | 11 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 12 黄褐色 | ローム大ブロック・砂粒少量 |
| 5 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 13 赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土中ブロック多量 |
| 6 褐色 | ローム小ブロック少量 | 14 黄褐色 | 粘土粒子多量, ローム中ブロック少量 |
| 7 黄褐色 | 焼土中ブロック・粘土中ブロック中量 | 15 褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 8 暗褐色 | 粘土中ブロック少量 | 16 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量(掘り方) |



第378図 第394号住居跡実測図

ピット 1か所。P1は径25cmの円形、深さ16cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック中量 | 3 褐色 | ローム中ブロック多量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック多量、粘土小ブロック微量 | | |

覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土大ブロック・粘土中ブロック・砂粒少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| | | 11 褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片43点、須恵器片2点が出土している。遺物はいずれも細片のため、図示することはできなかった。

所見 本跡の時期は、土器が細片であるため判断材料に乏しいが、遺構の形態と出土土器片から8世紀代と推定される。

第395号住居跡（第379～381図）

位置 調査区域の中央部，E7f5区。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.54mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は35～43cmで，外傾して立ち上がる。

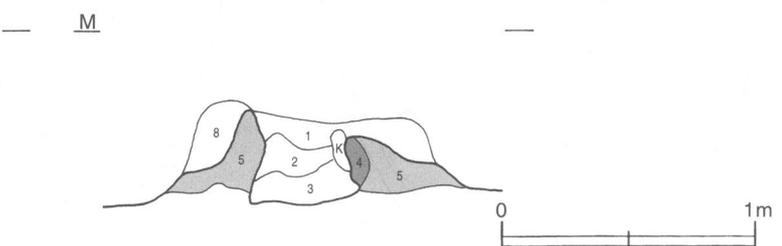
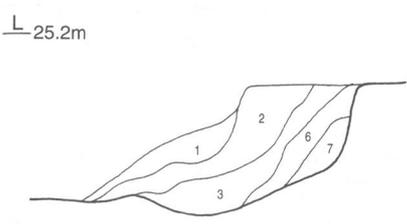
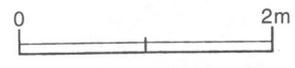
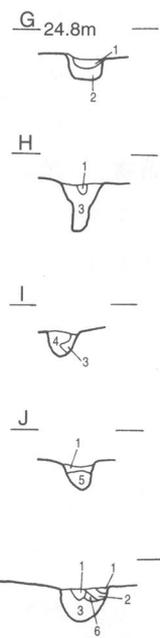
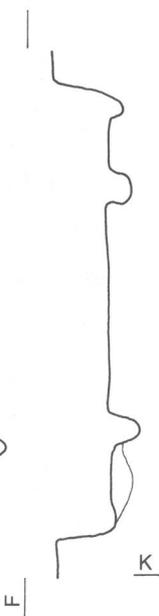
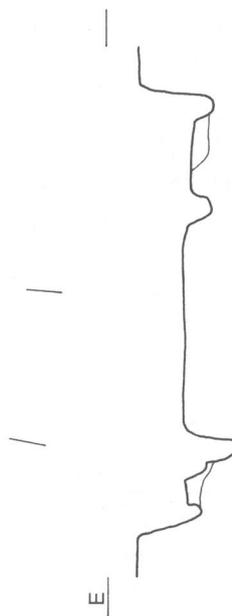
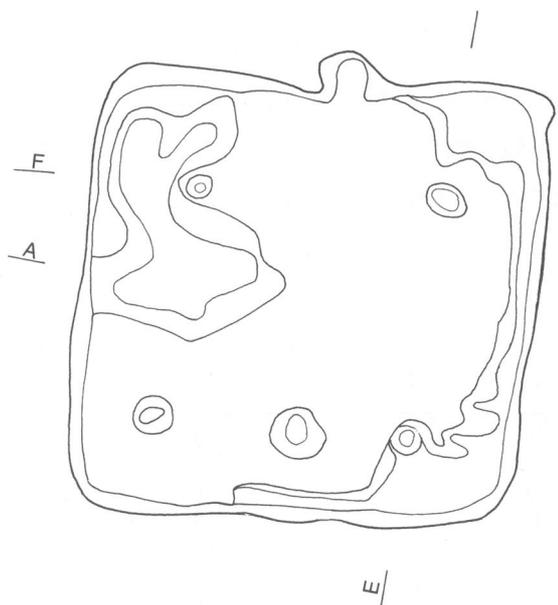
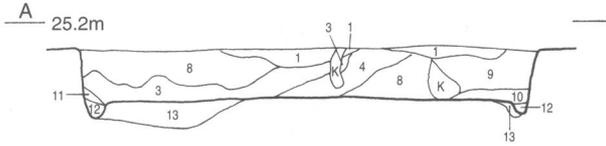
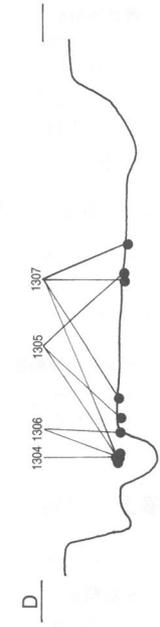
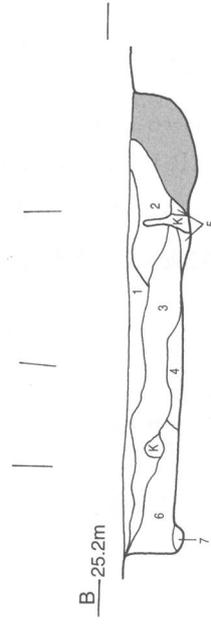
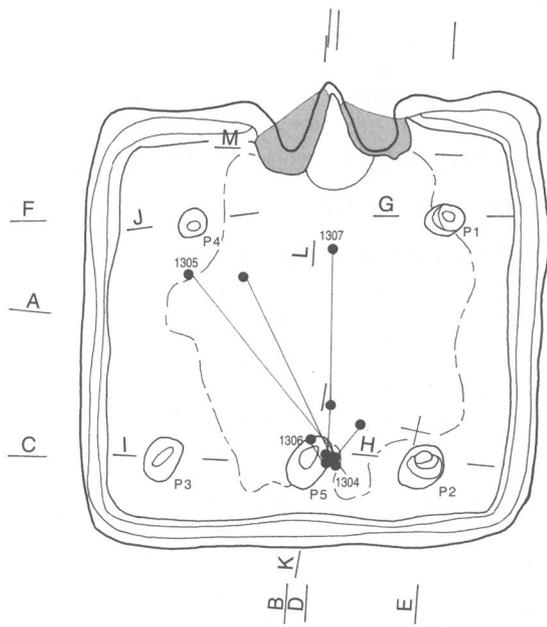
壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅17～36cm，下幅7～14cm，深さ12cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。4か所の主柱穴の内側はほぼ地山を床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，北東コーナー部と南東コーナー部が確認面から45～55cmほどの深さで土坑状に掘り込まれ，それをつなぐようにして，東壁際が溝状に掘り込まれている。北西コーナー部は，確認面から57～63cmほどの深さで不定形の土坑状に掘り込まれている。これらの掘り込みは，ロームブロック・ローム粒子主体の褐色土で埋土されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ86cm，袖部最大幅122cmである。袖部は地山を12～20cmほど台形状に掘り残して芯とし，その上にロームブロック・砂粒・粘土ブロックを含んだ黄褐色土を貼り付けて構築されている。両袖部の内壁は火熱を受け，2～7cmの厚さに赤変硬化している。天井部は崩落している。土層断面図中，第2層が崩落土層と考えられる。煙道部は，北壁を幅72cm，奥行き30cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は下半部では25度の傾きで，上半部では70度の傾きで立ち上がる。火床部は，地山を確認面から54cmまでの深さに掘り込んでつくっている。火床面は，床面から7cmほど下がっている。



E795



第379图 第395号住居跡実測图

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|--------|--------------------------|
| 1 濃い黄褐色 | ローム小ブロック少量 | 5 黄褐色 | 粘土小ブロック多量, ローム小ブロック・砂粒少量 |
| 2 灰黄色 | 粘土粒子多量, 砂粒少量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック微量 |
| 3 黄褐色 | 粘土中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 7 極暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土中ブロック多量 | 8 褐色 | ローム中ブロック・粘土小ブロック少量 |

ピット 5か所 (P 1～P 5)。P 1～P 3は長径32～37cm, 短径24～31cmの楕円形, 深さ21～42cm, P 4は径24cmの円形, 深さ22cmで, 各コーナー部寄りに位置することから, 主柱穴と考えられる。P 5は長径43cm, 短径29cmの楕円形, 深さ30cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

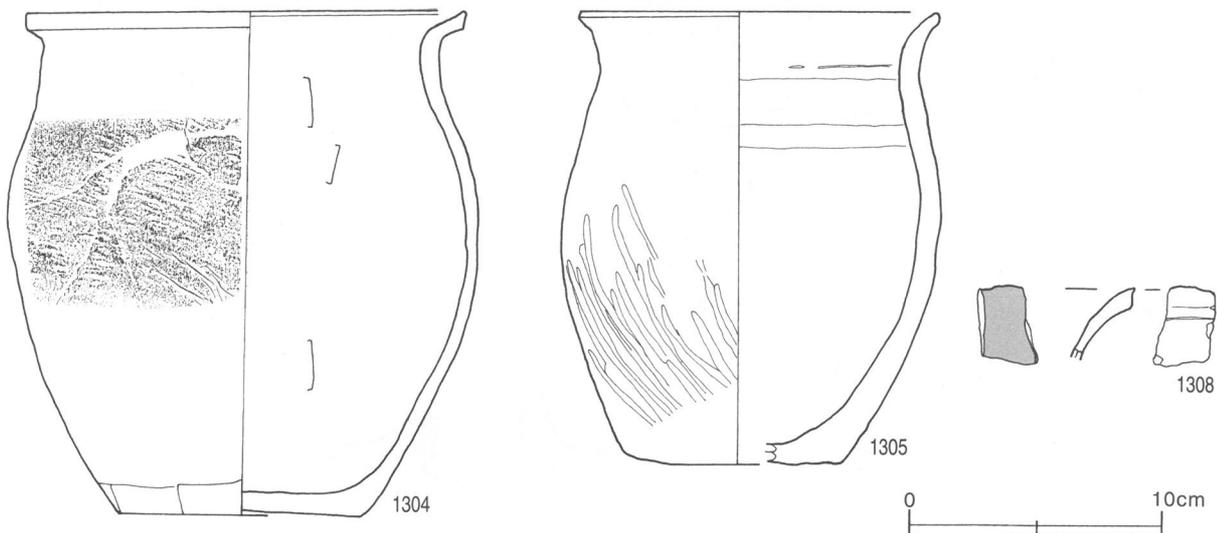
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していること, ロームブロックを多量に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | 粘土中ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 12 暗褐色 | ローム小ブロック多量 |
| | | 13 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 (貼床) |

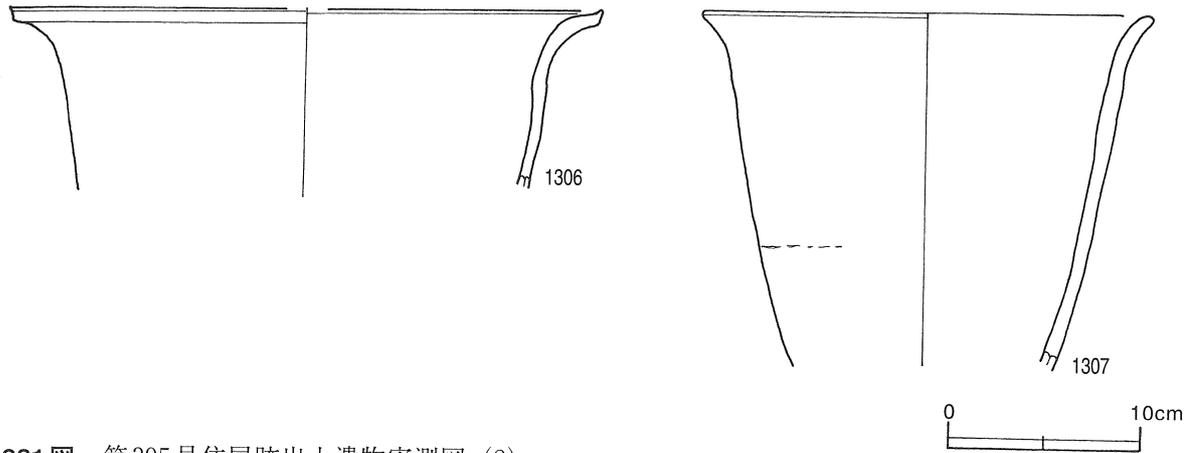
遺物 土師器片362点, 須恵器片18点, 灰釉陶器片1点が出土している。第380図1304・1306の土師器甕は, P 5付近の床面からそれぞれ出土している。1305の土師器甕は, P 5付近の床面から出土した破片と西壁付近の床面から出土した破片が接合したものである。1307の土師器甕は, 中央部北寄りの床面から出土した破片と



第380図 第395号住居跡出土遺物実測図 (1)

中央部北西寄りの床面から出土した破片及びP 5付近の床面から出土した破片が接合したものである。1308の灰釉陶器長頸瓶の口縁部片は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀後葉と考えられる。



第381図 第395号住居跡出土遺物実測図(2)

第395号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1304	甕 土師器	A 17.3 B 20.2 C 9.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は屈曲する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、一部横位の平行叩き、下端ヘラ削り。内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・雲母 橙色 普通	90% PL 219 体部外面煤付着
1305	甕 土師器	A 14.1 B 18.1 C [8.7]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、中位から下位ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ、輪積み痕あり。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	60% PL 219 外面器面荒れ
第381図 1306	甕 土師器	A [31.2] B (10.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	5%
1307	甕 土師器	A 23.6 B (18.7)	体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	30% PL 219
第380図 1308	長頸瓶カ 灰釉陶器	B (3.1)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面クロナデ。内面施釉。刷毛塗り。	砂粒 胎土 灰黄色 にぶい黄色釉、良好	5%

第396号住居跡(第382・383図)

位置 調査区域の中央部、E 7 f8区。

重複関係 第203号住居、第63号掘立柱建物、第1904・1905号土坑、第49号溝に掘り込まれていることから、本跡がいずれよりも古い。

規模と平面形 長軸3.20m、短軸3.02mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は28~37cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分，北壁下の一部，第1904号土坑に掘り込まれている部分を除いて，壁下を巡っている。上幅16～27cm，下幅5～10cm，深さ10cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 全体的に平坦であるが，特に踏み固められた部分はみられない。北西コーナー部及び南西コーナー部は，貼床である。貼床は，確認面から深さ42～51cmほど土坑状に掘り込み，ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ139cm，袖部最大幅101cmである。袖部は壁内の部分は壊されており，煙道部掘り方内の部分だけ遺存する。東袖部はロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを含む黄褐色土及び暗褐色土で構築されている。西袖部は地山を削り出して芯とし，その上に構築されている。煙道部は，北壁を幅108cm，奥行き62cmにわたり丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は45度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から55cmの深さで径87cmの円形に掘り込み，ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含んだ暗褐色土で埋土してつくっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子多量，焼土小ブロック中量	10 暗赤褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
2 黄褐色	粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量	11 にぶい赤褐色	焼土中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック少量
3 黄褐色	粘土中ブロック多量，焼土小ブロック中量	12 黄褐色	ローム大ブロック・粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4 黄褐色	焼土中ブロック中量，炭化物・粘土中ブロック少量	13 暗褐色	ローム中ブロック・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
5 にぶい赤褐色	焼土中ブロック・粘土中ブロック少量	14 褐色	ローム小ブロック・粘土粒子少量
6 にぶい赤褐色	焼土粒子中量	15 暗褐色	炭化物中量，ローム粒子・焼土粒子少量(掘り方)
7 にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量	16 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量(掘り方)
8 暗赤褐色	焼土中ブロック多量		
9 にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量		

ピット 1か所。P1は径28cmの円形，深さ10cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 褐色	ローム小ブロック中量	2 褐色	ローム中ブロック中量
------	------------	------	------------

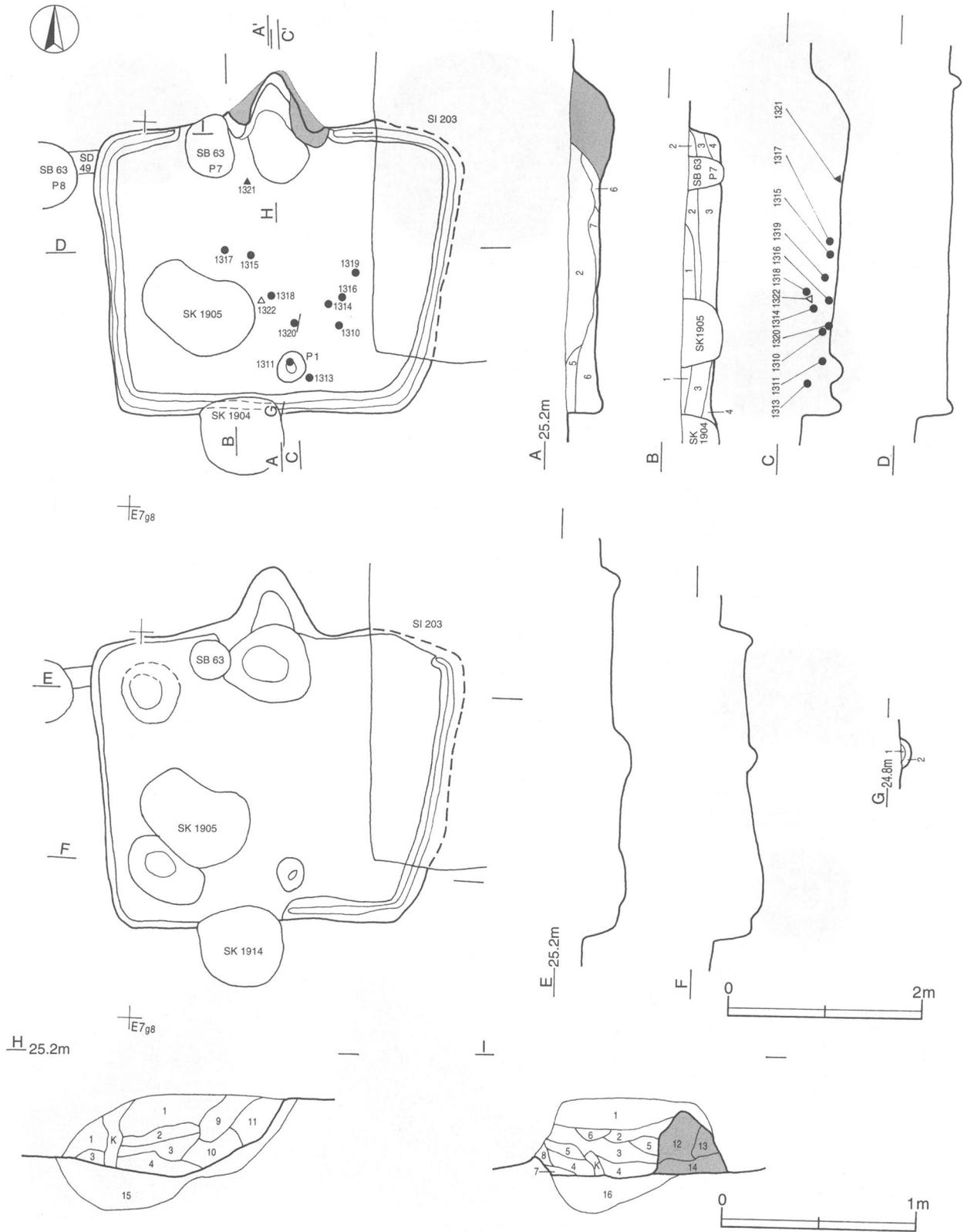
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

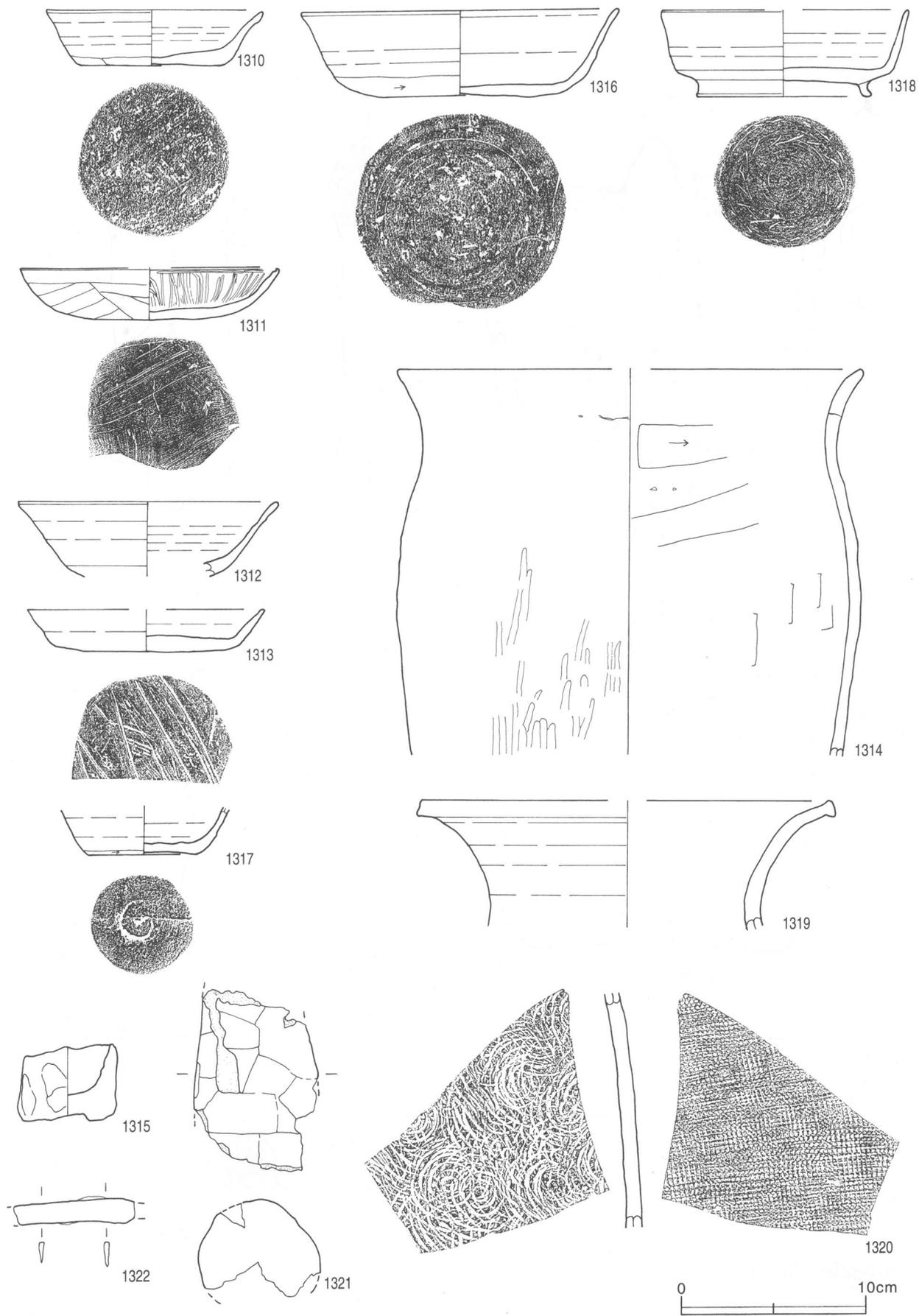
1 極暗褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量	4 極暗褐色	ローム中ブロック少量
2 極暗褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物少量	5 褐色	ローム大ブロック中量
3 極暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量	6 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
		7 褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量

遺物 土師器片101点，須恵器片27点，土製品7点(支脚片)，鉄器1点(刀子)が出土している。第383図1310の土師器坏は中央部南東寄りの覆土下層から，1311の土師器坏は南壁付近の覆土下層から，1313の土師器盤は南壁付近の覆土上層から，1314の土師器甕は中央部南東寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。1315の土師器手捏土器は中央部の覆土下層から出土している。1316の須恵器坏は中央部南東寄りの覆土下層から，1317の須恵器坏は中央部の覆土下層から，1318の須恵器高台付坏は中央部の覆土上層から，1319の須恵器甕は中央部東寄りの覆土中層から，1320の須恵器甕体部片は中央部南東寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。1318は逆位で出土している。1321の土製支脚は竈焚口部付近の覆土下層から，1322の刀子は中央部の覆土上層から，1312の土師器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と出土土器から，8世紀前葉と推定される。



第382图 第396号住居跡実測図



第383图 第396号住居跡出土遺物実測図

第396号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第383図 1310	坏 土師器	A 11.7 B 3.1 C 7.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色	90% P L 219 二次焼成
1311	坏 土師器	A [14.0] B (2.8) C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部内面に棒状工具による沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面横位のヘラ磨き。体部内面放射状のヘラ磨き。体部・底部の外面ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	50%
1312	坏 土師器	A 14.0 B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい褐色	40% P L 219 二次焼成
1313	盤 土師器	A [12.8] B 2.3 C 10.0	底部から口縁部の破片。平底。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色，普通	30% P L 219
1314	甕 土師器	A [25.0] B (20.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。体部外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色，普通	10%
1315	手捏土器 土師器	A 4.7 B 4.2 C 4.5	平底。体部は直立して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。外面指頭押圧。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色，普通	100% P L 219
1316	坏 須恵器	A 17.3 B 4.6 C 10.5	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端，底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 浅黄色 普通	60% P L 219
1317	坏 須恵器	B (2.6) C 5.7	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	砂粒 灰褐色 普通	60%
1318	高台付坏 須恵器	A [13.3] B 4.7 D 9.1 E 0.9	口縁部・体部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は下位に稜を有し，外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け，ロクロナデ。底部爪痕。	精良，砂粒 灰色 良好	75% P L 219
1319	甕 須恵器	A [22.0] B (7.0)	口縁部の破片。口縁部は外反し，上下に突出している。	口縁部，内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色，普通	5%
1320	甕 須恵器	B (12.4)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面格子目叩き，内面同心円状の当て具痕。	砂粒 灰色，普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
1321	支脚	(9.9)	6.7	5.6	(200.0)	土製	円錐状。側面ナデ。被熱痕。	

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	重量(g)			
1322	刀子	(6.5)	(6.5)	1.4	0.3	(6.0)	鉄	刃部欠損。	

第397号住居跡（第384・385図）

位置 調査区域の北部，B 6 h7区。

重複関係 第1294～1297号土坑に掘り込まれていることから，本跡がいずれよりも古い。

規模と平面形 長軸3.80m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は4～8cmで，外傾して立ち上がる。

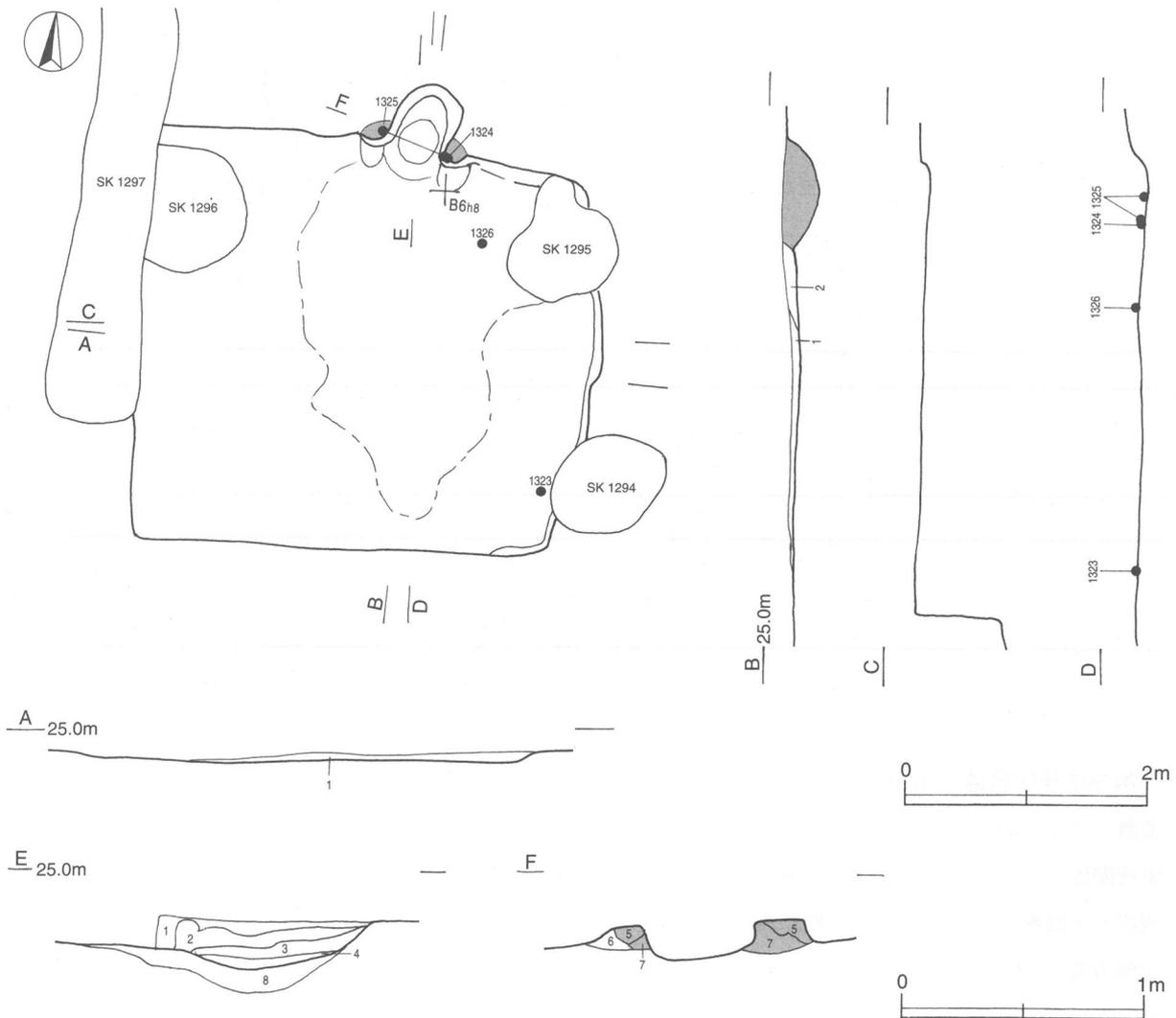
床 ほぼ平坦で、南壁付近から竈前面にかけて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部やや東寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ81cm、袖部最大幅91cmである。袖部は、ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子混じりの黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、北壁を幅73cm、奥行き60cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部は、確認面から30cmの深さで長径97cm、短径41cmの楕円形に掘り込み、ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を含んだ褐色土で埋土してつくっている。火床面は径37cmの円形で、皿状を呈し、北壁ライン上に位置する。東袖部内と西袖部内からは土師器甕がそれぞれ検出され、袖部の補強材として使用されたと考えられる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 粘土小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 粘土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 8 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (掘り方) |

覆土 2層からなる。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。



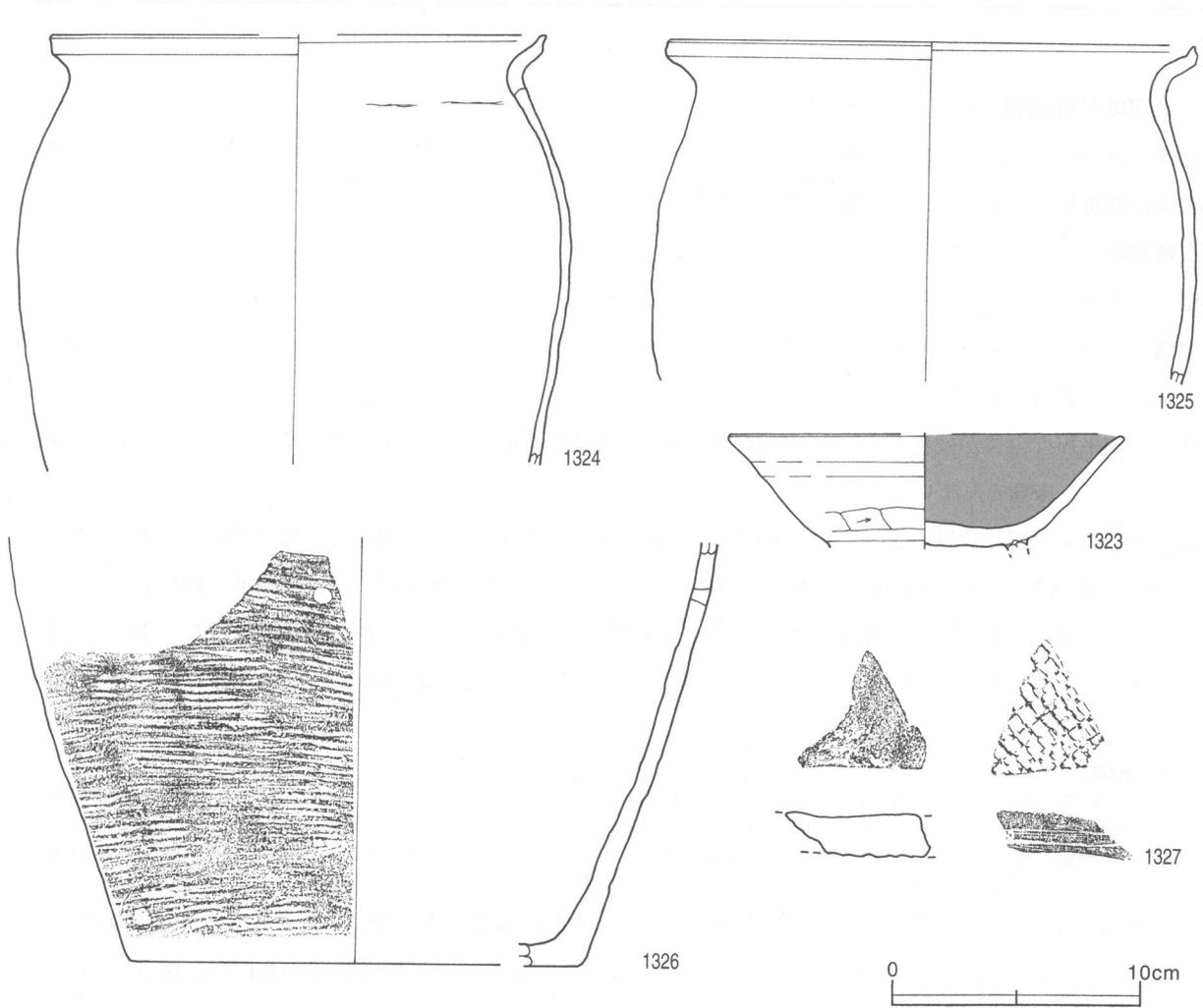
第384図 第397号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片190点, 須恵器片10点, 瓦片1点が出土している。第385図1323の土師器高台付坏は南東コーナー部の床面から, 1326の須恵器鉢は北東コーナー部の床面から, 1327の平瓦片は覆土中からそれぞれ出土している。1324の土師器甕は竈東袖部内から, 1325の土師器甕は竈西袖部内と東袖部内から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は, 重複関係と出土土器から, 10世紀前葉と推定される。



第385図 第397号住居跡出土遺物実測図

第397号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第385図 1323	高台付坏 土師器	A [15.8] B (4.6)	高台部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後, ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子に ぶい橙色 普通	40% PL219
1324	甕 土師器	A [19.8] B (17.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母に ぶい橙色 普通	25% PL219

遺物番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第385図 1325	甕 土 師 器	A 21.2 B (13.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がり、口縁部は外反す る。端部は上方にわずかにつまみ上 げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	30% PL219
1326	鉢 土 師 器	B (17.1) C [17.8]	底部から体部の破片。平底。体部は 内彎気味に立ち上がる。補修孔あり。	体部外面横位の平行叩き、内面ナデ 体部下端ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	20% 体部内・外面器 面剥離

遺物番号	器 種	計 測 値				特 徴	備 考
		長 さ(cm)	幅 (cm)	厚 さ(cm)	重 量(g)		
1327	平 瓦	(5.2)	(5.9)	1.8	(33.5)	凸面格子目叩き、凹面ヘラナデ。	

第398号住居跡（第386・387図）

位置 調査区域の北端部，B 6 h6区。

規模と平面形 長軸2.75 m，短軸2.65 mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は10～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分，東壁下を除いて，北西コーナー部の壁下を巡っている。上幅10～22cm，下幅4～17cm，深さ8 cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で全体が硬化しているが，竈の前面から南壁際にかけて特に踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。東袖部の一部が攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ79cm，確認された袖部幅107cmである。袖部は，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒混じりの粘土ブロックを地山に貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅60cm，奥行き45cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，30度の傾きで立ち上がる。火床部は，地山を確認面から21cmの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量 | 4 褐色 | 粘土小ブロック多量，ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量 | | |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | 粘土小ブロック中量，ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子微量 |

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径30cmの円形，深さ10cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径39cm，短径32cmの楕円形，深さ9 cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

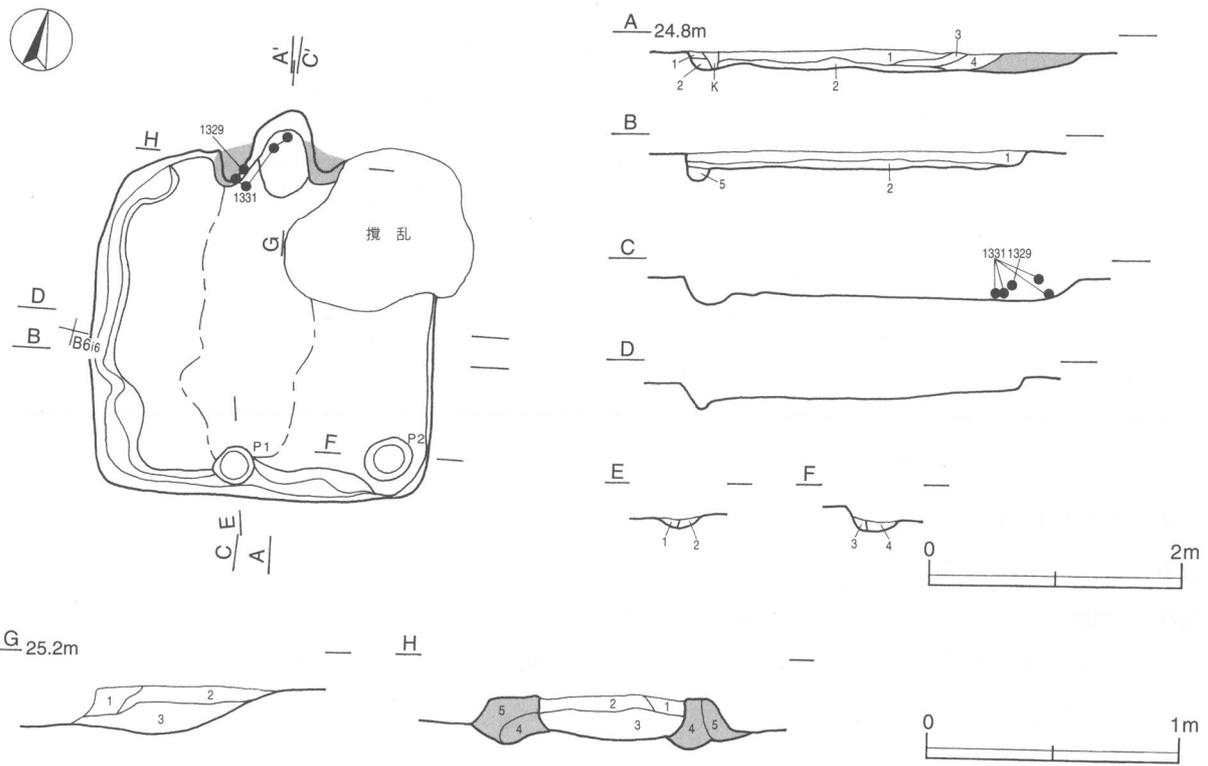
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

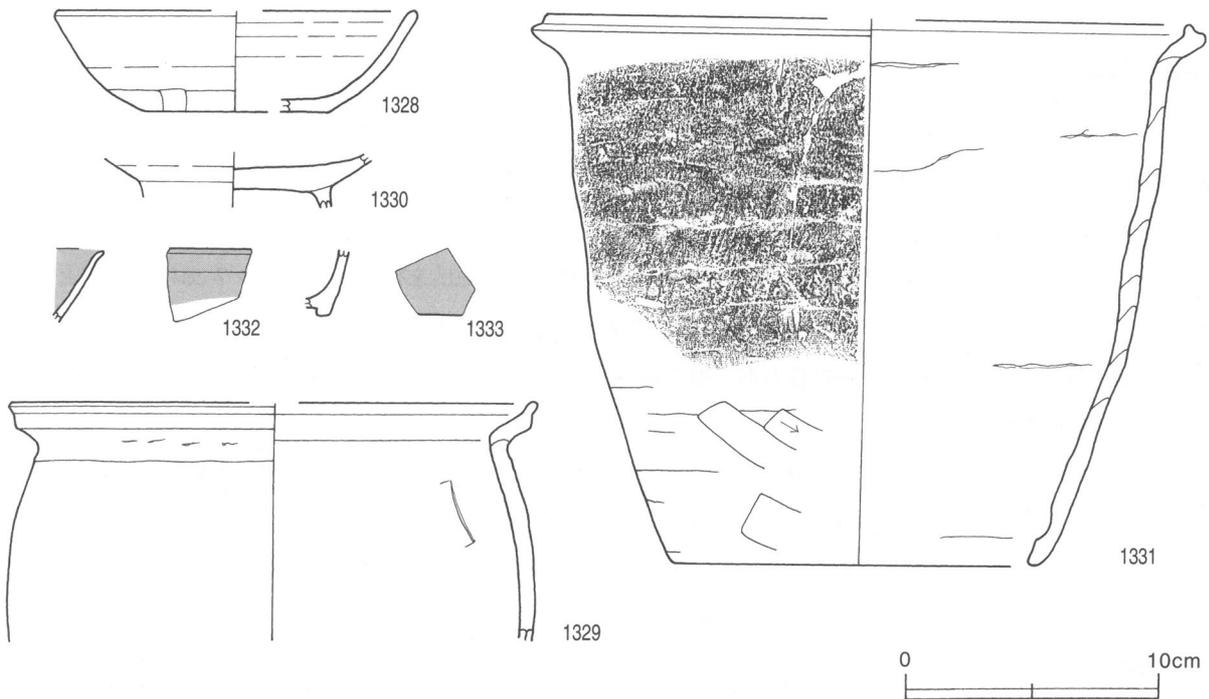
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 | | |

遺物 土師器片 152点, 須恵器片 20点, 灰釉陶器片 2点が出土している。第387図1328の土師器坏, 1329の土師器甕, 1331の須恵器甑は竈の覆土中からそれぞれ出土している。1330の須恵器高台付皿, 1332の灰釉陶器椀片と1333の灰釉陶器片は, 覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第386図 第398号住居跡実測図



第387図 第398号住居跡出土遺物実測図

第398号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第387図 1328	坏 土師器	A [15.0] B 4.0 C [7.4]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	10%
1329	甕 土師器	A [21.8] B (9.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は強く屈曲する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、内面一部ヘラナデ。外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	5% P L 220
1330	高台付皿 須恵器	B (2.1) E (0.8)	高台部から体部下位の破片。高台はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄色 普通	20%
1331	甗 須恵器	A [25.6] B 21.6 C [15.0]	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上擬格子目叩き、下位ヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	30% P L 220
1332	椀 灰釉陶器	A [17.8] B (2.9)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。口縁部、体部内・外面施釉。刷毛塗り。	砂粒・胎土 灰黄色 灰オリーブ釉、普通	5%
1333	短頸壺 灰釉陶器	B (2.8)	底部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。外面施釉。刷毛塗り。	砂粒・胎土 黄灰色、 黄灰色釉、普通	5%

第399号住居跡（第388・389図）

位置 調査区域の北端部，B 6 i2区。

規模と平面形 北壁中央部の竈を境に，西側は東側より80cmほど奥まで掘り込まれている。規模は，東側で南北長3.52m，西側で南北長4.32m，東西長3.76mである。棚状施設の存在が想定され，平面形は，棚状施設を含めて長方形になるものと考えられる。

主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は26～32cmで，外傾して立ち上がる。北壁の西半部には，粘土が西袖部と一体化して貼り付けられている。

北壁粘土層解説

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，粘土小ブロック・砂粒少量 | 3 暗赤褐色 焼土小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，砂粒少量 | |

壁溝 竈の部分，北壁下の一部，北東コーナー部を除いて，壁下を巡っている。上幅7～12cm，下幅3～6cm，深さ7cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，東壁際を除いて踏み固められている。西部の床は，地山を掘り残して5～7cmほど盛り上がり，ベッド状を呈している。ベッド状の高まりの部分の東側は貼床である。貼床は，南北長3.20m，東西長2.30m，確認面からの深さ35cmの長方形に掘り込み，ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ169cm，袖部最大幅165cmである。袖部はローム粒子・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒を含む褐色土及び暗褐色土で構築されている。煙道は30度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径35cm，短径27cmの楕円形に確認面から50cmほど掘り込んである。火床面は床面から15cmほど下がっている。土師器小形甕と土師器坏が，支脚として転用されている。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量 | 3 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，炭化物・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量 | 4 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土中ブロック少量 |

5 黒褐色	炭化粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量	17 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・粘土粒子微量
6 極暗赤褐色	粘土小ブロック・焼土小ブロック少量	18 にぶい褐色	焼土粒子・灰少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量	19 褐色	炭化粒子中量, 炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材微量
8 黒褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・砂粒微量	20 暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・焼土小ブロック少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物微量
9 黒褐色	粘土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒中量, 焼土粒子少量	21 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土中ブロック・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量	22 暗褐色	粘土粒子多量, 粘土小ブロック・砂粒中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
11 黒褐色	粘土小ブロック多量, 炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・砂粒少量	23 暗褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック微量
12 褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量	24 暗褐色	焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量	25 暗褐色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
14 にぶい褐色	粘土粒子多量, 粘土小ブロック・砂粒中量, 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	26 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
15 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物・炭化粒子・砂粒少量	27 褐色	粘土粒子・砂粒中量, 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
16 黒褐色	炭化粒子中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 粘土小ブロック微量	28 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量(掘り方)

ピット 2か所(P1・P2)。P1は長径47cm, 短径35cmの楕円形, 深さ21cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径66cm, 短径48cmの楕円形, 深さ11cmで, 性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・砂粒少量, 炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	4 褐色	粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

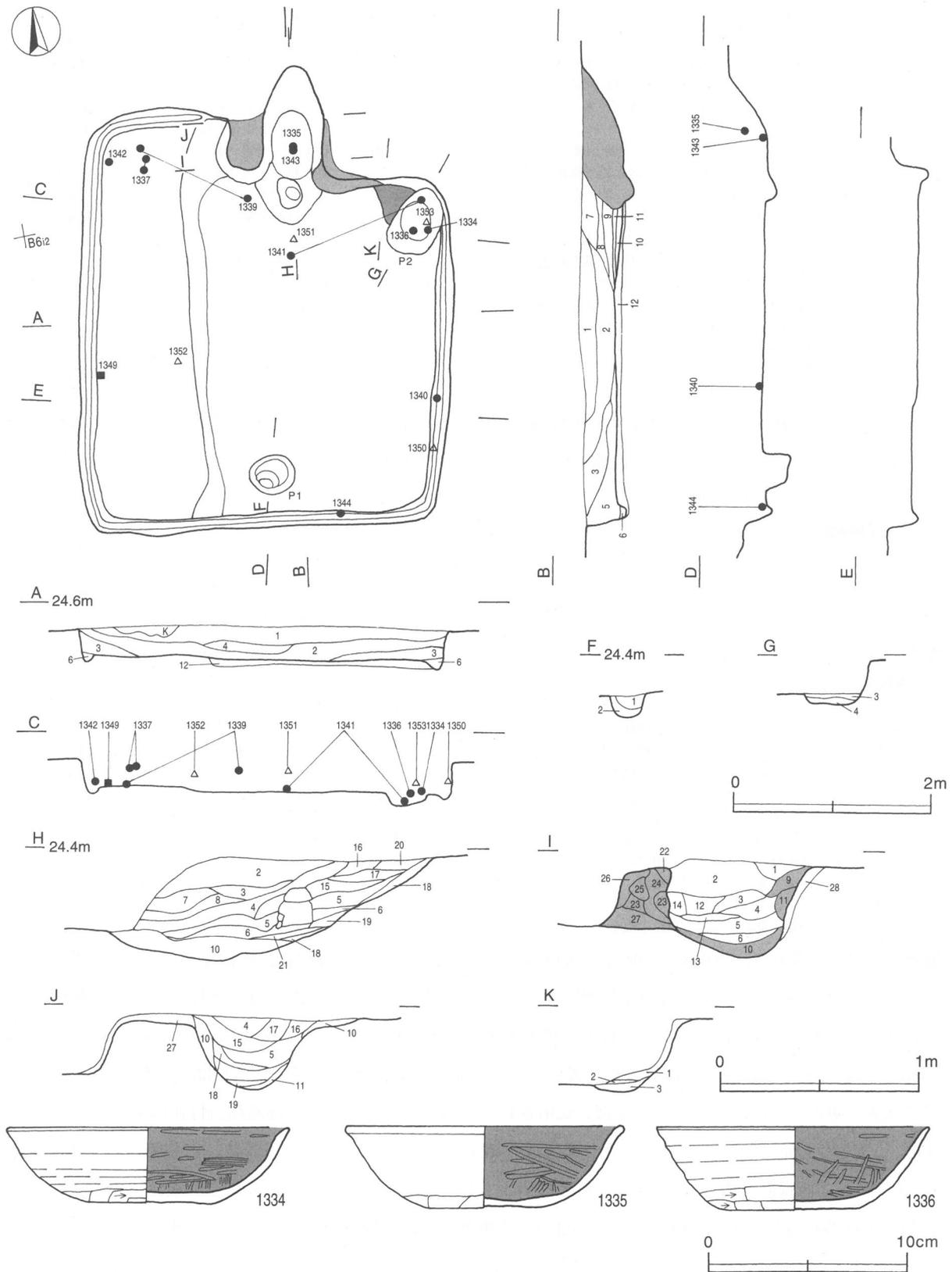
土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	7 黒褐色	焼土中ブロック・粘土中ブロック・砂粒少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量	8 黒褐色	砂粒中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物・粘土中ブロック・粘土粒子微量
3 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	9 暗褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒微量
4 黒褐色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土小ブロック微量	10 黒色	炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子少量
5 黒褐色	焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量	11 暗赤褐色	焼土粒子・炭化材・炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・粘土粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量(貼床)

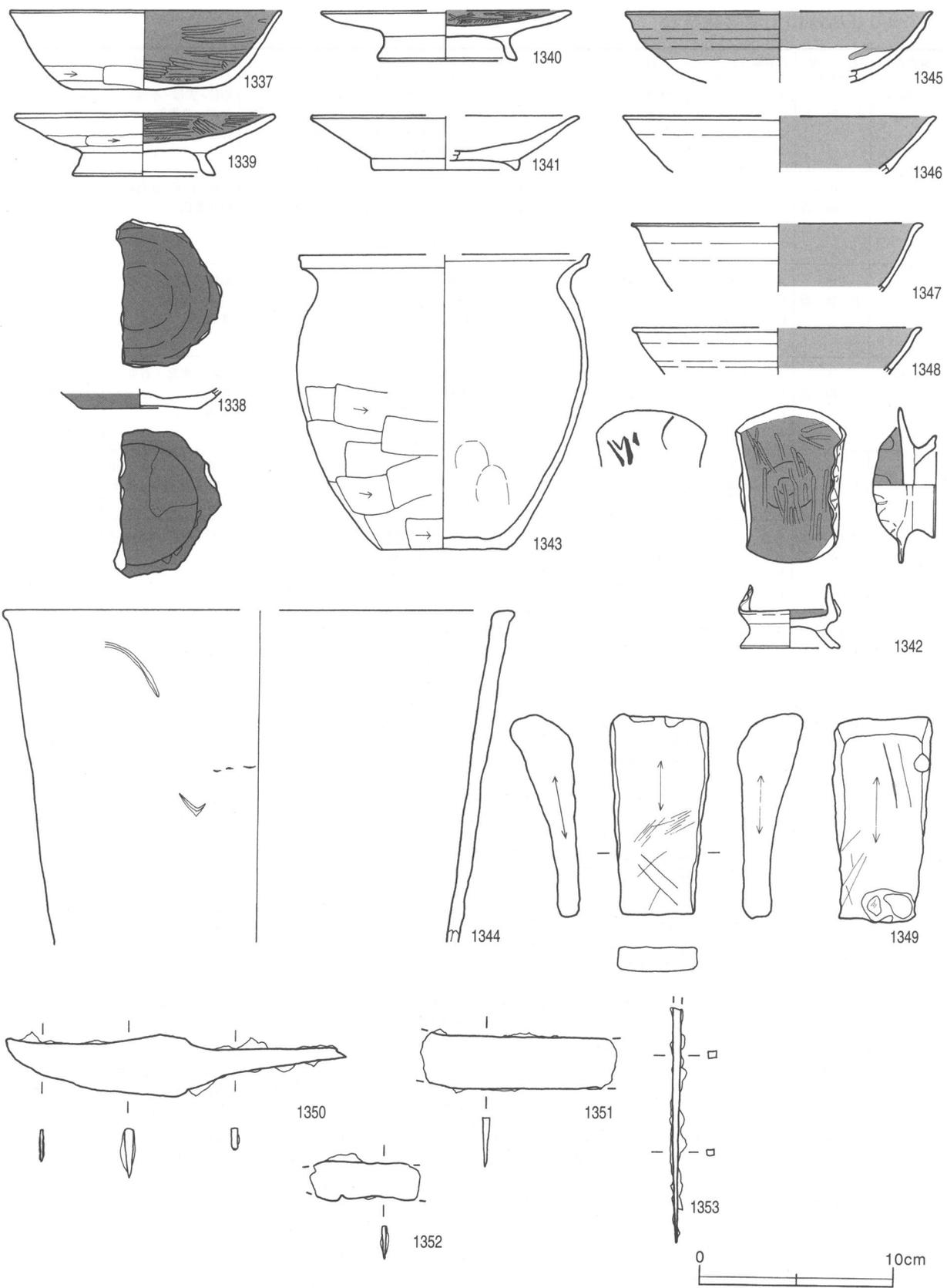
遺物 土師器片536点, 須恵器片106点, 灰釉陶器片10点, 石器1点(砥石), 鉄器4点(刀子3・鏃1)が出土している。第388・389図1334の土師器坏はP2付近の覆土下層から, 1336の土師器坏はP2の覆土下層から, 1337の土師器坏は北西コーナー部付近の覆土中層からそれぞれ出土している。1336は逆位で出土している。1335の土師器坏と1343の土師器甕は竈の覆土中から出土している。1343が下位, 1335が上位で, それぞれ逆位の状態で重なって出土しており, 支脚に転用されたものである。1340の土師器高台付皿は東壁際の覆土下層から, 1342の土師器耳皿は北西コーナー部付近の覆土下層から, 1344の須恵器鉢は南壁際の覆土下層から, 1349の砥石は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1340・1342はそれぞれ逆位で出土している。1339の土師器高台付皿は, 北西コーナー部付近と竈東袖部付近の覆土中層から出土した破片が接合したものである。1341の土師器高台付皿は, 中央部北寄りと北東コーナー部付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1350～1352は刀子である。1350は東壁際の覆土中層から, 1351は中央部北寄りの覆土中層から,

1352は中央部西寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。1353の鉄鏝は北東コーナー部の覆土中層から出土している。1338の土師器杯と1345～1348の灰釉陶器椀片は、それぞれ覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と出土土器から、9世紀後葉と推定される。



第388図 第399号住居跡・出土遺物実測図



第389图 第399号住居跡出土遺物実測図

第399号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第388図 1334	坏 土師器	A 14.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り，内面丁寧なヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。 内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	100% P L 219
		B 4.0				
		C 6.0				
1335	坏 土師器	A 14.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色	95% P L 219 二次焼成
		B 4.2				
		C 6.0				
1336	坏 土師器	A 13.8	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	60% P L 219
		B 4.2				
		C 6.8				
第389図 1337	坏 土師器	A 14.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	50%
		B 4.1				
		C 7.5				
1338	坏 土師器	B (1.0)	底部から体部下位の破片。平底。	体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	10% 底部内・外面漆 附着
		C 6.0				
1339	高台付皿 土師器	A 13.5	体部から口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は外傾して大きく開き，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子 黒色 普通	90% P L 219
		B 3.3				
		D 7.3				
		E 1.2				
1340	高台付皿 土師器	A [13.0]	体部から口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は外傾して大きく開き，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。 高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60% P L 219
		B 2.6				
		D 7.2				
		E 1.4				
1341	高台付皿 土師器	A [13.8]	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して大きく開き，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	40% P L 219 内・外面器面 荒れ
		B 2.8				
		D 7.4				
		E 0.6				
1342	耳皿 土師器	A 8.0	口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部から口縁部にかけて，外反気味に開く。口縁部は2側面で内側に丸く，折り曲げられている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部，底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	80% P L 220 体部外面墨書 「□」
		B 3.3				
		D 5.0				
		E 1.1				
1343	甕 土師器	A [14.8]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中から下位ヘラ削り，内面指頭押圧後，ナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	80% P L 220
		B 15.2				
		C 6.7				
1344	鉢 須恵器	A [26.2]	体部から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 体部外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	10%
		B (17.1)				
1345	椀 灰釉陶器	A [16.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 口縁部，体部上位内・外面施釉。刷毛塗り。	緻密，胎土 灰黄色 灰黄色釉 良好	30% P L 219
		B (3.8)				
1346	椀 灰釉陶器	A [16.2]	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 口縁部，体部内面施釉。刷毛塗り。	砂粒，胎土 灰色 灰黄色釉，普通	10%
		B (2.9)				
1347	椀 灰釉陶器	A [15.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は強く外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 口縁部，体部内面施釉。刷毛塗り。	砂粒 胎土 にぶい黄色 灰オリーブ色釉，普通	5%
		B (3.5)				
1348	椀 灰釉陶器	A [15.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。 口縁部，体部内面施釉。刷毛塗り。	砂粒，胎土 灰黄色 暗灰黄色釉 普通	5%
		B (2.4)				

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1349	砥石	10.0	5.1	3.4	176.0	凝灰岩	4面に使用痕あり。	P L 253

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
第389図1350	刀子	(17.6)	9.3	3.2	0.5	(8.2)	(38.7)	鉄	両関。	P L 254
1351	刀子	(10.0)	(10.0)	2.6	0.4	—	(26.3)	鉄	刃部片。	
1352	刀子	(5.7)	(5.7)	1.9	0.2	—	(6.7)	鉄	刃部片。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1353	鏃	(12.2)	(12.2)	0.4	(7.5)	鉄	鏃身部欠損。	

第400号住居跡（第390～392図）

位置 調査区域の中央部，E 8 f4区。

規模と平面形 長軸4.92m，短軸4.52mの方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は45～50cmで，ほぼ直立して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅7～27cm，下幅3～16cm，深さ12cmで，断面はU字形である。

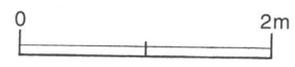
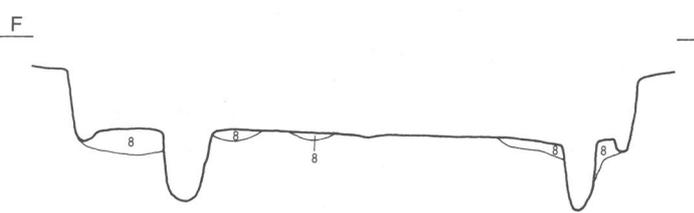
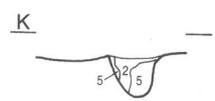
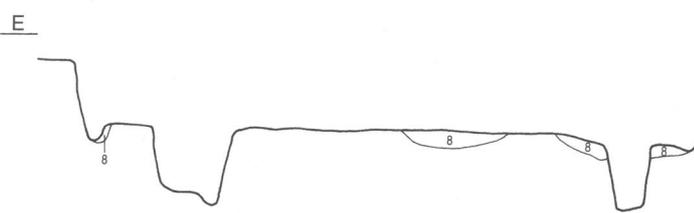
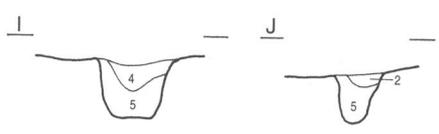
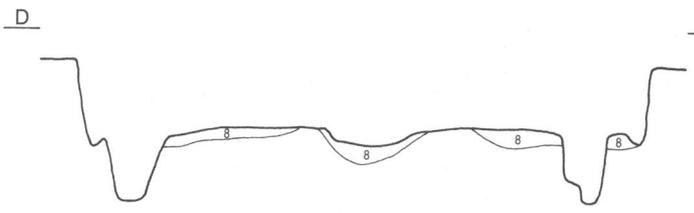
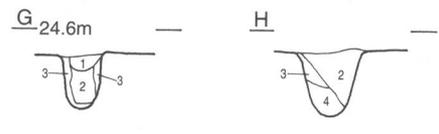
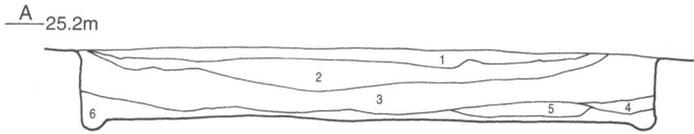
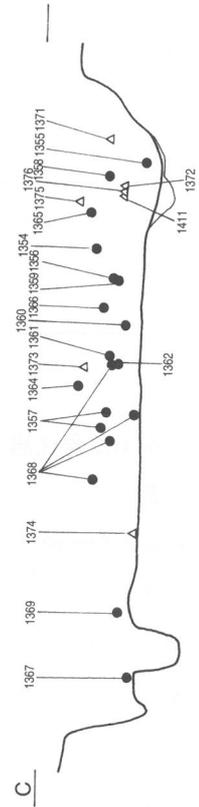
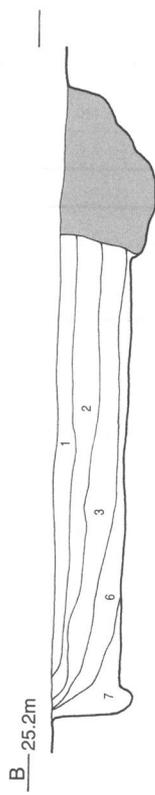
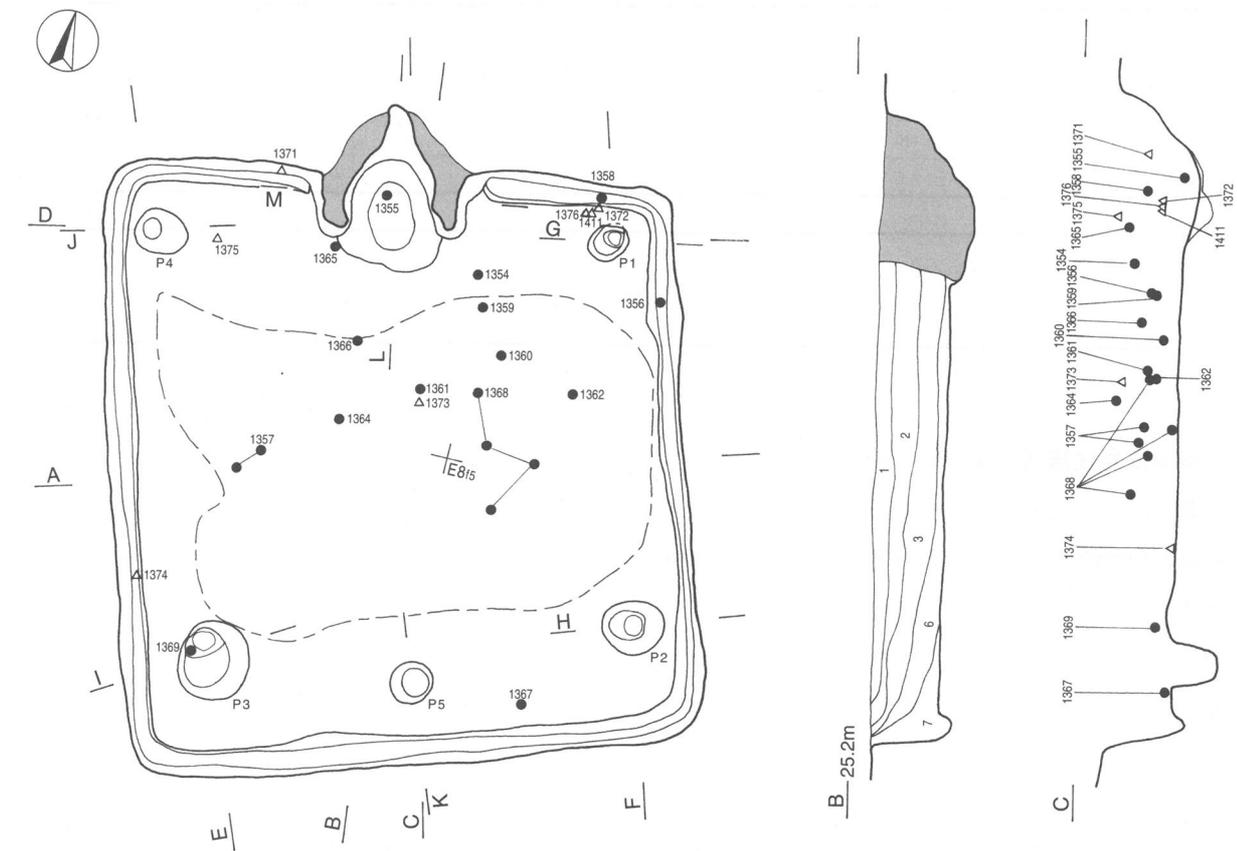
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。4か所の支柱穴の内側は地山のロームを床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁際を幅20～60cm，確認面から深さ60～66cmほど溝状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ134cm，袖部最大幅133cmである。袖部はロームブロック・ローム粒子混じりの褐色土を芯とし，その上部にロームブロック・ローム粒子・粘土ブロック・粘土粒子を含む暗褐色土及び灰褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅122cm，奥行き54cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は下半部では45度の傾きで，上半部では70度の傾きで立ち上がる。火床部は，径86cmの不整楕円形に確認面から81cmほど掘り込み，ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む褐色土及び暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は厚さ8cm，内壁は厚さ2～6cmほどが赤変硬化（第12層）しており，長期にわたって使用されていたと思われる。火床面は北壁ラインから内側に位置する。

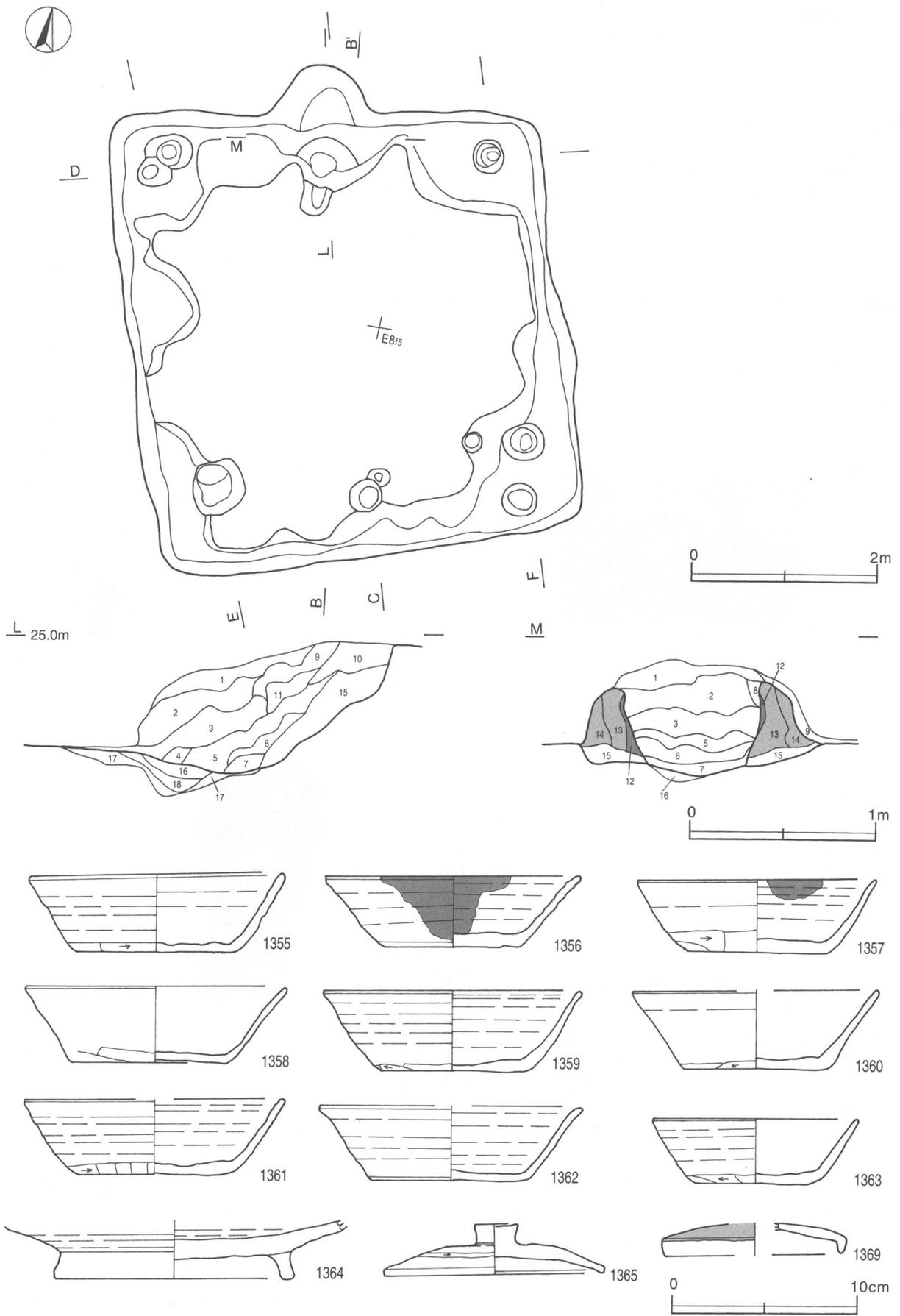
竈土層解説

1	褐色	ローム粒子・粘土大ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	12	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
2	褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量	13	灰褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量，焼土中ブロック・粘土粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量
4	暗褐色	炭化粒子多量，焼土粒子少量	15	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
5	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・灰多量，炭化粒子中量，ローム小ブロック少量	16	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量（掘り方）
6	暗赤褐色	焼土小ブロック多量，炭化粒子中量	17	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量（掘り方）
7	褐色	粘土小ブロック・砂粒多量，ローム小ブロック微量	18	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量（掘り方）
8	赤褐色	焼土粒子多量			
9	褐色	焼土粒子微量			
10	褐色	ローム粒子少量			
11	褐色	ローム小ブロック少量			

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径33～63cm，短径27～56cmの楕円形，深さ38～45cmであり，各コーナー部寄りに位置していることから支柱穴と考えられる。P5は径33cmの円形，深さ32cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。



第390图 第400号住居跡実測図



第391图 第400号住居跡・出土遺物実測図

ピット土層解説

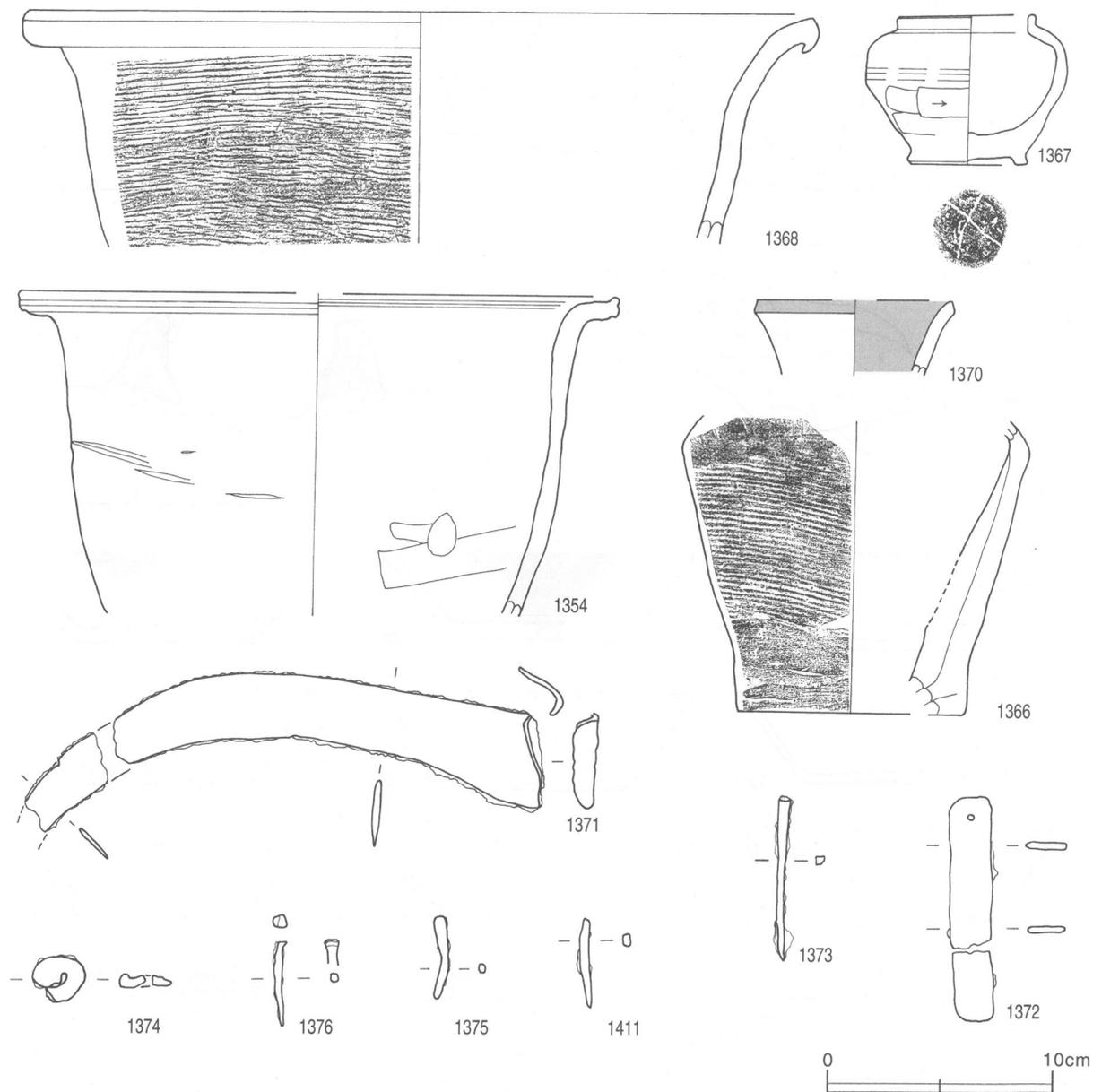
- | | | | |
|-------|----------------------|------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック中量 | | |

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|------|------------------|
| 1 にい赤褐色 | 焼土粒子微量 | 5 褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 にい赤褐色 | 焼土粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | 焼土小ブロック少量, 炭化物微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物少量 | 8 褐色 | ローム小ブロック少量 (貼床) |

遺物 土師器片274点, 須恵器片460点, 灰釉陶器片5点, 鉄器7点 (小札1, 鋸1, 鎌1, 火打金1, 釘3) が出土している。第392図1354の土師器鉢は, 竈付近の覆土上層から出土している。1355~1363は須恵器坏で



第392図 第400号住居跡出土遺物実測図

ある。1355は竈の覆土下層から、1356は東壁際の覆土中層から、1357は中央部西寄りの覆土下層から、1358は北壁際の覆土上層から、1359は竈付近の覆土中層から、1360・1361は中央部北寄りの覆土中層から、1362は中央部北東寄りの覆土中層から、1363は覆土中からそれぞれ出土している。1356は逆位で出土している。1364の須恵器盤は中央部の覆土上層から、1365の須恵器蓋は竈西袖部付近の覆土上層から、1366の須恵器鉢は中央部北寄りの覆土中層から、1367の須恵器短頸壺は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1364は正位で、1367は斜位でそれぞれ出土している。1368の須恵器鉢は、中央部北東寄りの覆土中層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1369の灰釉陶器蓋は南西コーナー部付近の覆土下層から、1370の灰釉陶器長頸瓶は覆土中からそれぞれ出土している。1371～1376・1411は鉄器である。1371の手鎌と1372の小札は北壁際の覆土中層から、1373の鉄鍬は中央部北寄りの覆土上層から、1374の火打金は西壁下の床面から、1375の釘は北西コーナー部付近の覆土上層から、1376と1411の釘は北壁付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と出土土器から、8世紀後葉と推定される。

第400号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第392図 1354	鉢 土師器	A [26.4] B (14.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く屈曲する。端部は上方につまみあげられ、棒状工具による沈線を巡らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内外面ナデ、内面一部ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい黄橙色普通	5%
第391図 1355	坏 須恵器	A 13.7 B 4.3 C 8.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・石英 褐灰色普通	95% P L 220
1356	坏 須恵器	A 13.8 B 3.8 C 7.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母 灰黄褐色普通	60% P L 220 体部内・外面煤 附着
1357	坏 須恵器	A 13.0 B 4.0 C 7.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 暗灰黄色普通	90% P L 220 口縁部内面油煙 附着
1358	坏 須恵器	A 14.0 B 4.1 C 8.3	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外反気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色普通	70% P L 220
1359	坏 須恵器	A 13.8 B 4.3 C 7.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	角礫・砂粒・雲母 灰黄褐色普通	80% P L 220
1360	坏 須恵器	A [13.4] B 4.2 C 7.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外反気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 黄灰色普通	50% P L 220
1361	坏 須恵器	A [14.0] B 4.0 C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 暗灰黄色普通	40% P L 220
1362	坏 須恵器	A [14.3] B 4.1 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色普通	50% P L 220
1363	坏 須恵器	A 11.1 B 3.5 C 6.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	角礫・砂粒・石英 灰色普通	90% P L 220
1364	盤 須恵器	B (3.2) D 12.8 E 1.5	口縁部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色普通	60% P L 220
1365	蓋 須恵器	A 11.8 B 2.8 F 2.4 G 1.1	天井部・口縁部一部欠損。天井部は内彎気味に開き、口縁部は屈曲し、短く垂下する。つまみは腰高の擬宝珠状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色普通	65% P L 220

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第392図 1366	厚底鉢 須恵器	B (13.0) C [10.0]	底部から体部の破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、上部に最大径を有する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き、下端ヘラ削り。	砂粒 黒褐色 普通	20% P L 220
1367	短頸壺 須恵器	A 6.0 B 6.7 D 5.3 E 0.4	高台はハの字状に短く開く。体部は内彎して立ち上がり、上部に最大径を有する。口縁部は直立する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	100% P L 220 底部外面ヘラ 記号「+」
1368	鉢 須恵器	A 35.2 B (10.2)	体部から口縁部の破片。体部は外傾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は下方に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き後、指ナデによる横位の摺り消し線を巡らす。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄褐色 普通	40% P L 220 体部外面煤付 着
第391図 1369	蓋 灰釉陶器	A [9.6] B 1.7	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎気味に開き、口縁部は屈曲し垂下する。	天井部、口縁部内・外面ロクロナデ 天井部、口縁部外面施釉。刷毛塗り	砂粒、胎土 暗灰黄色 灰オリーブ釉 普通	5%
第392図 1370	長頸瓶 灰釉陶器	A [8.6] B (3.3)	口縁部の破片。口縁部は外反し、端部は上下にわずかに突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部、体部内面施釉。刷毛塗り。	砂粒、胎土 にぶい黄色、 灰オリーブ釉 普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1371	鎌	(22.8)	2.9	0.3	(56.3)	鉄	柄付部折り返し。刀身部一部欠損。	P L 256
1372	小札	[10.0]	1.9	0.3	(12.2)	鉄	一部欠損。径0.2cmの穿孔あり。	P L 258
1374	火打金	(2.4)	(2.0)	(0.6)	(4.0)	鉄	大きく屈曲する。断面はやや扁平。	
1375	釘	(3.6)	0.5	0.3	(1.8)	鉄	頭部欠損。	
1376	釘	(3.8)	0.6	0.4	(1.3)	鉄	頭部は薄く叩き伸ばされ、折り曲げられている。	
1411	釘	(3.9)	0.4	0.5	(1.6)	鉄	頭部欠損。	

第401号住居跡（第393～395図）

位置 調査区域の中央部，E 8 e6区。

規模と平面形 長軸4.52m，短軸4.30mの方形である。

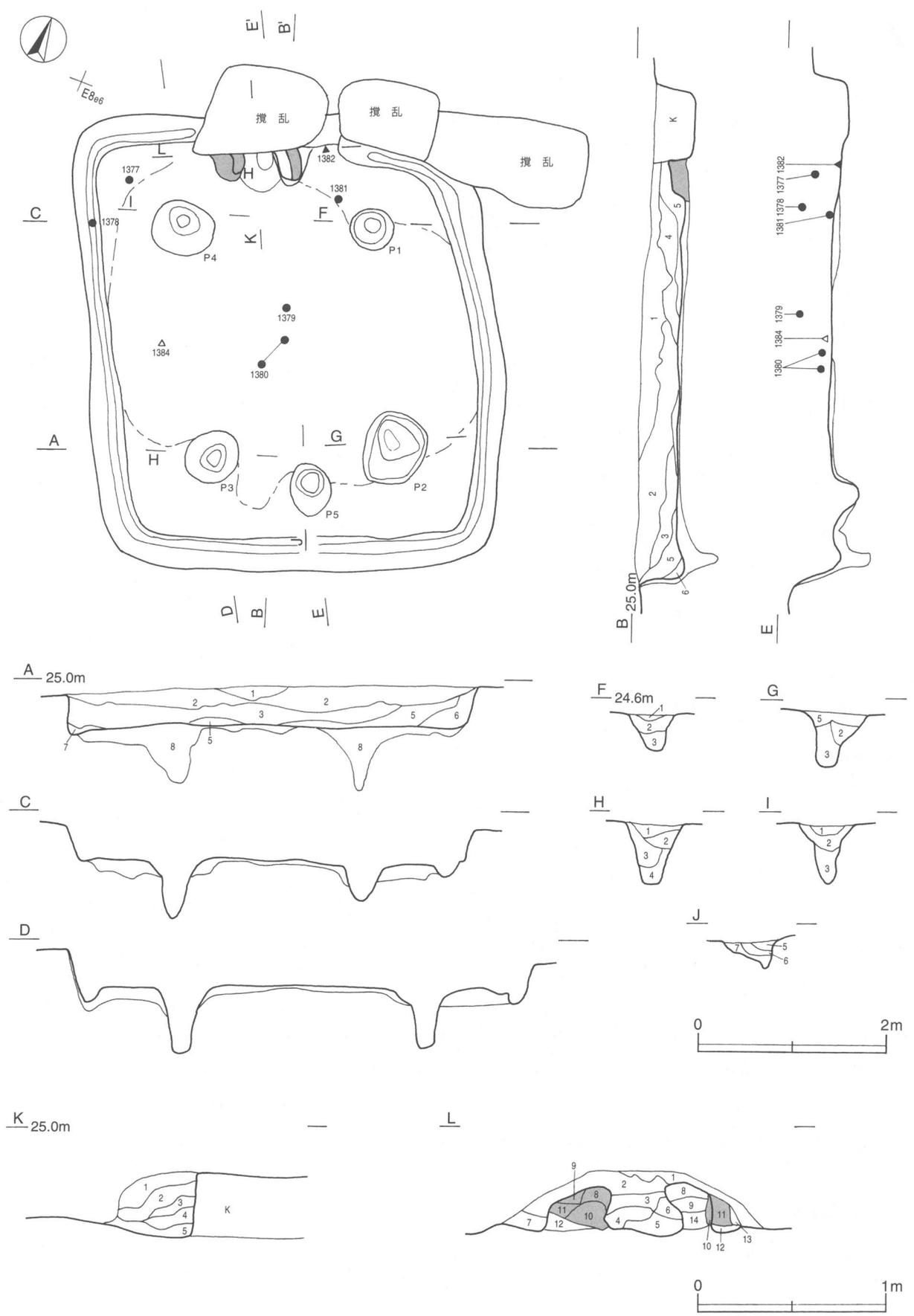
主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は28～38cmで，外傾して立ち上がる。北壁中央部から北東コーナー部にかけては攪乱を受けている。

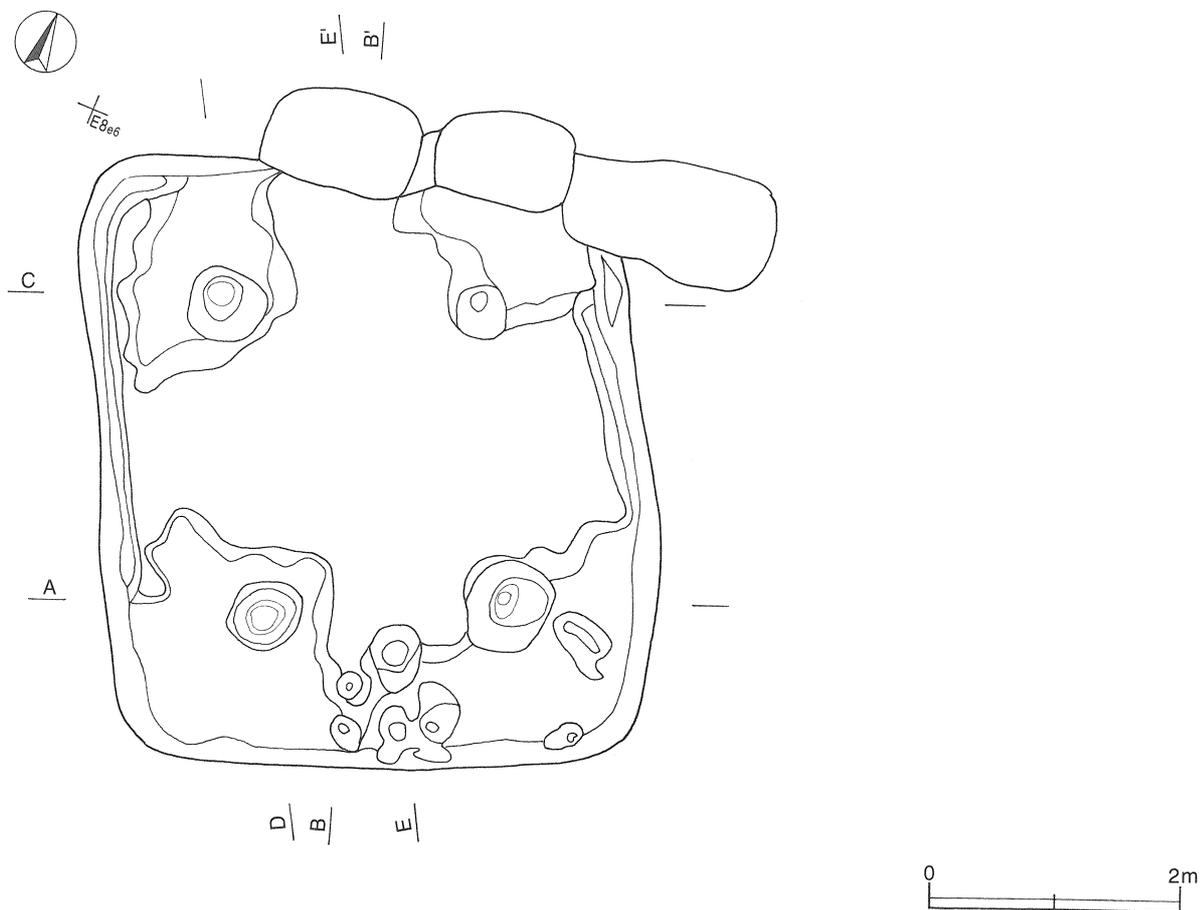
壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅11～20cm，下幅5～18cm，深さ11cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。4か所の支柱穴の内側は地山を床としているが，各コーナー部は貼床である。貼床は北東コーナー部が長径155cm，確認された短径125cmの不整形，確認面からの深さ50cmに，南東コーナー部が長径285cm，短径155cmの不整形，確認面からの深さ50cmに，南西コーナー部が径150cmの不整形，確認面からの深さ49cmに，北西コーナー部が長径185cm，短径130cmの不整形楕円形，確認面からの深さ57cmにそれぞれ掘り込まれ，ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。袖部の一部，火床部の一部，煙道部は攪乱を受けている。確認された規模は，焚口部から火床部までの長さ45cm，袖部最大幅103cmである。袖部はロームブロック・ローム粒子・粘土ブロック・粘土粒子混じりの暗褐色土及び灰褐色土を貼り付けて構築されている。火床部は，確認される長径40cm，短径36cmの楕円形，確認面から70cmの深さに地山を掘り込んでつくっている。



第393图 第401号住居跡実測图 (1)



第394図 第401号住居跡実測図(2)

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|-----------|--|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 灰褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 にぶい褐色 | 焼土小ブロック・粘土中ブロック・砂粒少量, 焼土中ブロック微量 | 10 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 4 灰褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 8 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 5か所 (P1～P5)。P1・P3はそれぞれ径45cm・59cmの円形, 深さ36cm・55cmで, P2・P4はそれぞれ長径64cm・76cm, 短径55cm・64cmの楕円形, 深さ60cm・63cmである。P1～P4は各コーナー部に寄りに位置することから主柱穴と考えられる。P5は長径56cm, 短径42cmの楕円形, 深さ28cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |

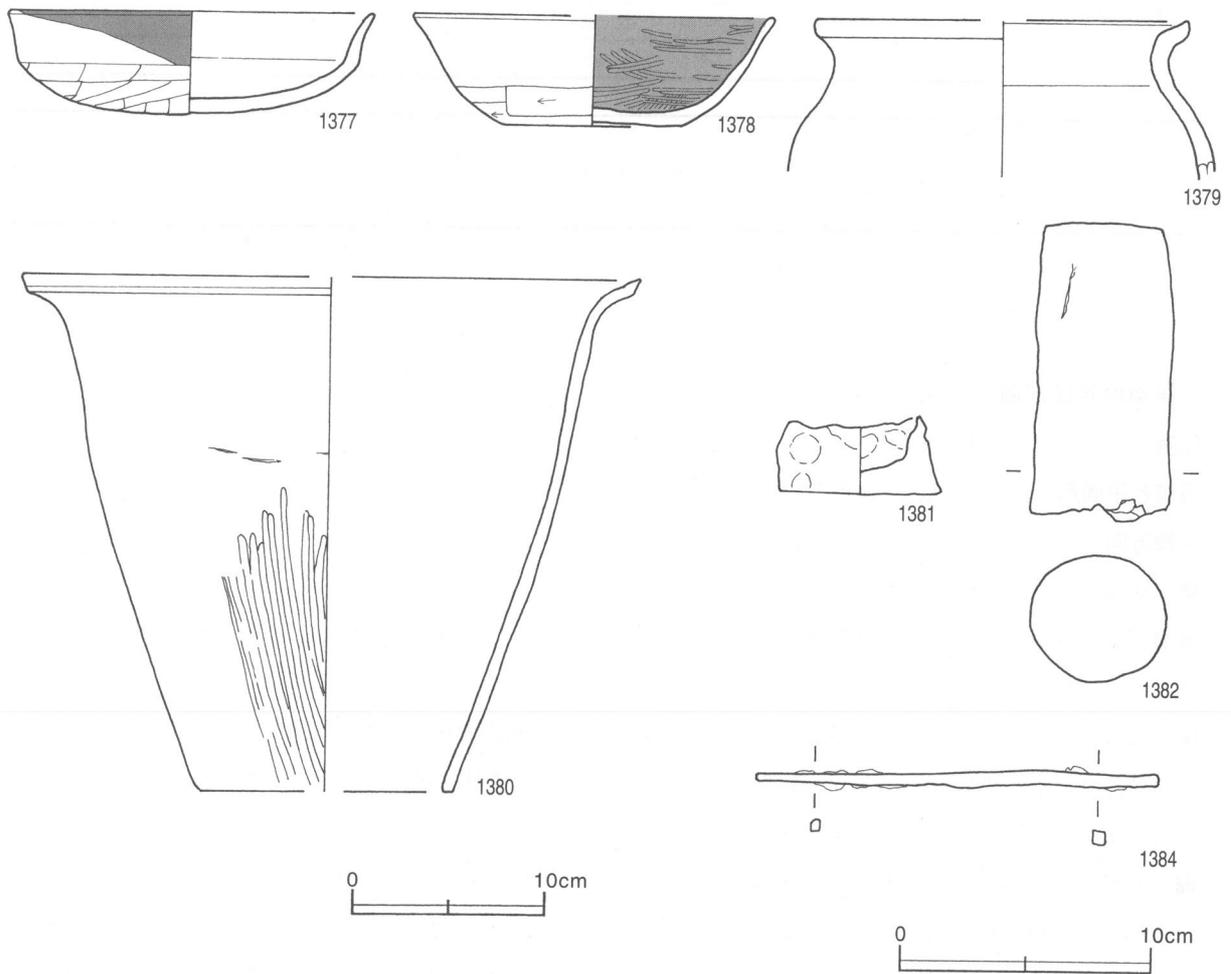
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|---------------|---|-----|-------------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック少量 | 5 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化物少量 | 6 | 黄褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 暗赤褐色 | ローム粒子少量 | 7 | 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 砂粒少量 | 8 | 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量(貼床) |

遺物 土師器片164点, 須恵器片33点, 土製品1点(支脚), 鉄器1点(刀子), 鉄製品1点(不明)が出土している。第395図1377の土師器坏は北西コーナー部付近の覆土上層から, 1378の土師器坏は西壁際の覆土上層から, 1379の土師器甕は中央部の覆土上層から, 1380の土師器甕は中央部の覆土中層から, 1381の土師器手捏土器は竈付近の床面からそれぞれ出土している。1377は斜位で, 1378は正位でそれぞれ出土している。1382の支脚は竈東袖部付近の覆土下層から, 1384の不明鉄製品は中央部西寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態と出土土器から, 8世紀中葉と推定される。



第395図 第401号住居跡出土遺物実測図

第401号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図 1377	坏 土師器	A 14.6 B 4.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。体部と口縁部の境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	100% PL220 口縁部外面煤 附着

第401号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図 1378	坏 土師器	A [14.2] B 4.4 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	30% P L 220
1379	甕 土師器	A [14.8] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子、橙色、普通	5% P L 221
1380	甌 土師器	A [32.0] B 27.4 C [13.0]	底部から口縁部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。体部内面ナデ。外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	30% P L 221
1381	手捏土器 土師器	A 5.0 B 3.1 C 6.2	平底。体部は直立して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部内・外面指頭押圧。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	100% P L 220

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
1382	支脚	(11.8)	5.5	4.8	(382.0)	土製	円筒状。側面ナデ。	P L 250

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1384	不明	(16.0)	0.5	0.4	(13.3)	鉄	断面は方形。鉄鏝の茎カ。	

第402号住居跡（第396・397図）

位置 調査区域の北東部、D 8 g9区。

規模と平面形 長軸3.84 m，短軸3.80 mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は10～20cmで、外傾して立ち上がる。

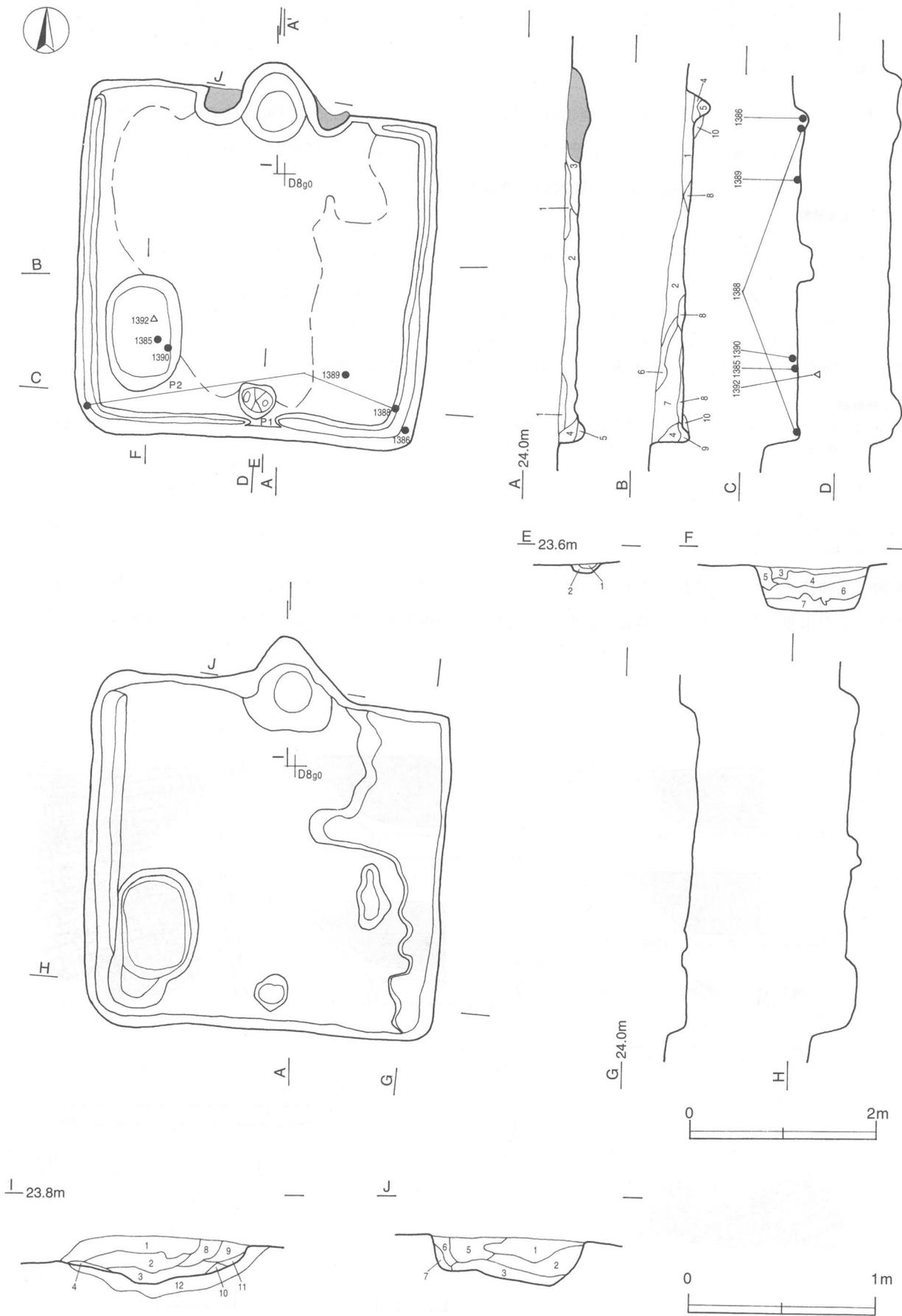
壁溝 竈の部分、北壁の西半部を除いて、壁下を巡っている。上幅10～16cm，下幅4～11cm，深さ12cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。西側は地山を床としているが、東壁付近は貼床である。貼床は、壁に沿って幅40～145cm，確認面からの深さ20cmほど溝状に掘り込み、ロームブロック・ローム粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ86cm，袖部最大幅170cmである。煙道部は、北壁を幅153cm，奥行き57cmにわたり、丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部で30度，上半部で50度の傾きで立ち上がる。火床部は、径72cmの不整形に確認面から66cmほど掘り込み，焼土ブロック・焼土粒子・粘土粒子を含んだ褐色土で埋土してつくっている。火床面は、床面から9 cmほど下がっており，北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|-------|--|
| 1 赤褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック中量，粘土小ブロック・粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 6 黒褐色 | 粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |



第396图 第402号住居跡実測図

- 8 褐灰色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土中ブロック微量
- 9 暗褐色 焼土粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子中量

- 11 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 12 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量 (掘り方)

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径37cmの円形, 深さ9cmで, 南壁際の竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径124cm, 短径80cmの楕円形, 深さ47cmで, 南西コーナー部に位置することと規模から貯蔵穴の可能性も考えられる。

ピット土層解説

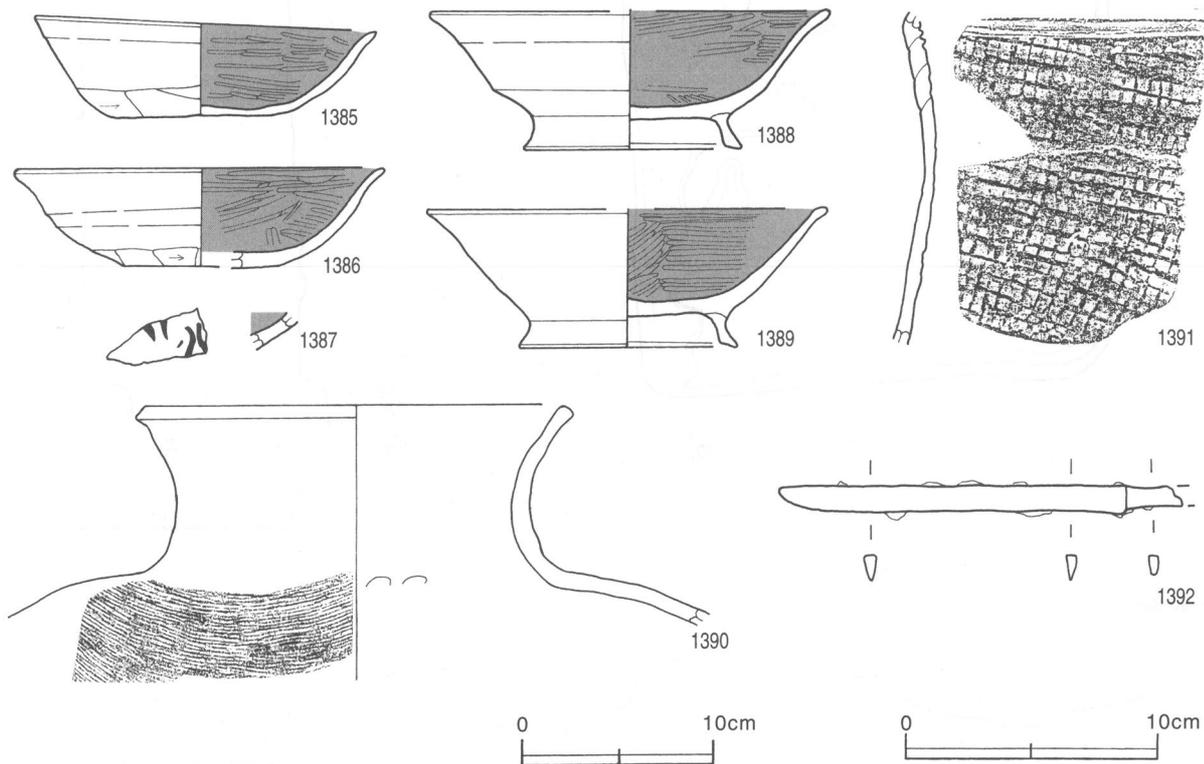
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量

覆土 9層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 (貼床)

遺物 土師器片175点, 須恵器片36点, 鉄器1点 (刀子) が出土している。第397図1385の土師器坏は南西コーナー部の床面から, 1386の土師器坏は南東コーナー部の覆土下層から, 1389の土師器高台付椀は南東コーナー



第397図 第402号住居跡出土遺物実測図

一部付近の覆土下層から、1390の須恵器甕は南西コーナー部の覆土下層から、1392の刀子はP 2の覆土中からそれぞれ出土している。1387の土師器坏は覆土中から、1391の須恵器甕は竈内の覆土中からそれぞれ出土している。1388の土師器高台付椀は南東コーナー部と南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と出土土器から、10世紀前葉と推定される。

第402号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第397図 1385	坏 土師器	A 13.5 B 4.1 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	50% P L 221
1386	坏 土師器	A 14.7 B 4.0 C [6.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	55% P L 221
1387	坏 土師器	B (1.3)	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母 明黄褐色 普通	5% 体部外面墨書 「□□」
1388	高台付椀 土師器	A 15.6 B 5.5 D 8.8 E 1.4	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。体部下位に弱い稜をもつ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	50% P L 221
1389	高台付椀 土師器	A [15.8] B 5.4 D 8.8 E 1.1	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	40% P L 221
1390	甕 須恵器	A [22.0] B (11.8)	体部上位から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き、内面指頭押圧後、ナデ。	砂粒 褐灰色 普通	10% P L 221
1391	甕 須恵器	B (13.2)	体部の破片。体部は内彎する。	体部外面格子目叩き、内面ナデ。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母 にぶい橙色、普通	10%

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
1392	刀子	(16.1)	13.8	1.0	0.4	(2.3)	(21.6)	鉄	両関。茎部欠損。	P L 255

第403号住居跡（第398・399図）

位置 調査区域の北東部，D 8 g8区。

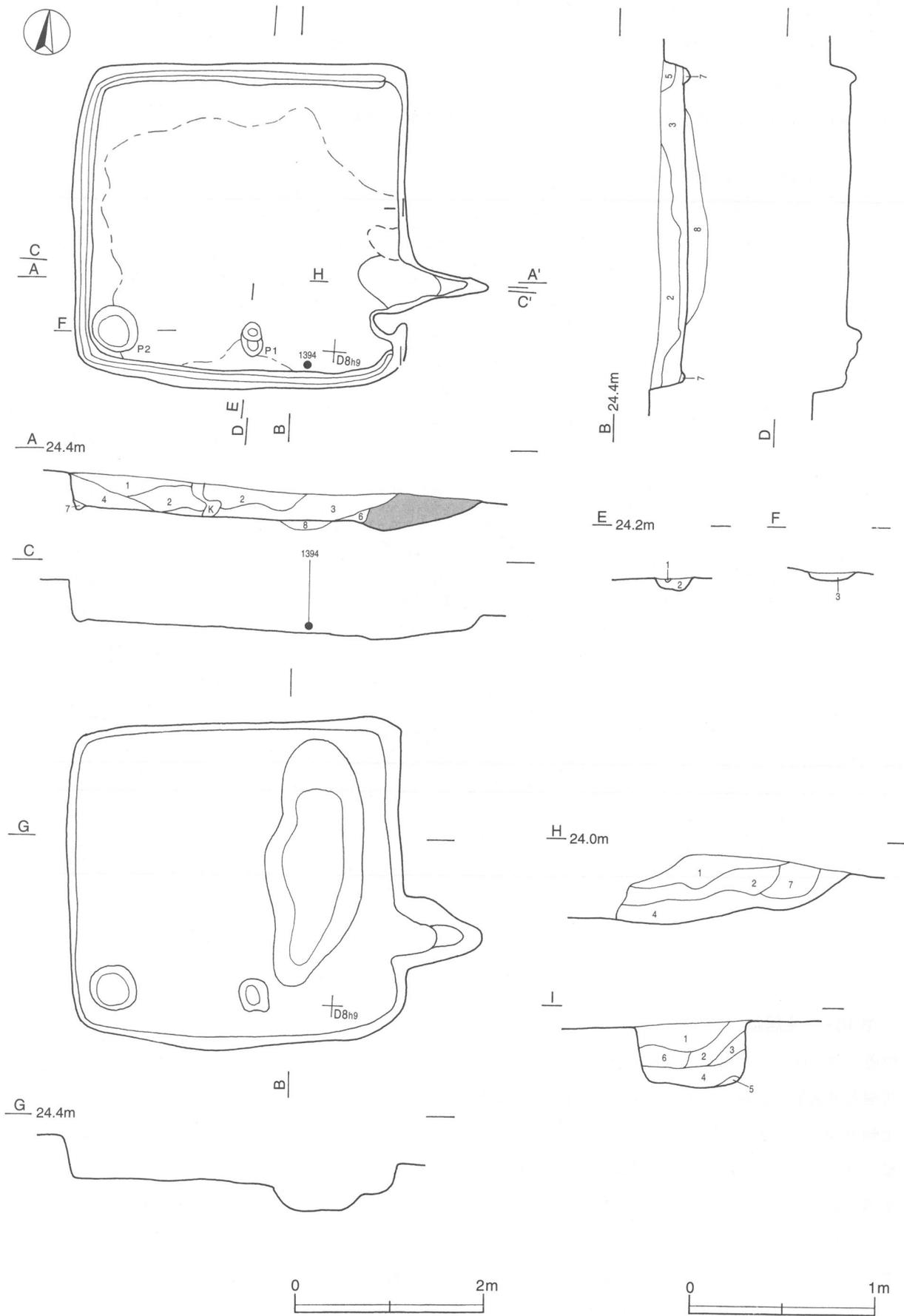
規模と平面形 長軸3.52m，短軸3.20mの方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は23～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分と東壁を除いて，壁下を巡っている。上幅10～16cm，下幅3～8cm，深さ7cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 わずかな起伏はあるがほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。西半部及び東半部の壁付近は地山を床としているが，東半部の中央部寄りには貼床である。貼床は，長径2.71m，短径1.03mの不整楕円形，確認面からの深さ55cmほどに掘り込み，ロームブロックを多量に含む極暗褐色土を埋土して構築されている。



第398图 第403号住居跡実測図

竈 東壁の南寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ138cmである。北袖部が攪乱を受けて遺存しないが、袖部幅は推定で130cmである。南袖部は、ロームブロック・粘土粒子混じりの褐色土で構築されている。煙道部は、北壁を幅80cm、奥行き86cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部では15度の傾きで、上半部では35度の傾きで立ち上がる。火床部は、地山を確認面から37cmまでの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|---------|-------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 4 極暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・粘土中ブロック微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| | | 7 褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 |

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径36cm, 短径30cmの楕円形, 深さ15cmで, 南壁寄りの位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径48cmの円形, 深さ9cmで南東コーナー部に位置するが, 性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土中ブロック中量, ローム大ブロック少量

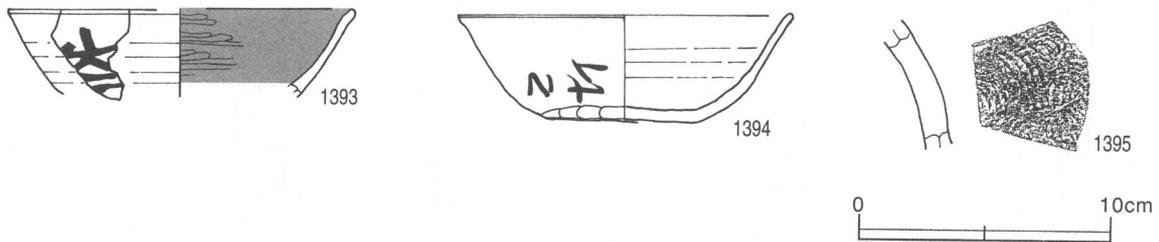
覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 粘土粒子微量 | 5 灰黄褐色 | 焼土小ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| | | 7 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| | | 8 極暗褐色 | ローム中ブロック多量 (貼床) |

遺物 土師器片153点, 須恵器片47点, 鉄製品1点 (釘), 鉄滓3点が出土している。第399図1394の須恵器坏は, 南壁際の覆土下層から正位で出土しており, 体部外面に横位で「坏」の墨書が認められる。1393の土師器坏, 1395の須恵器甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第399図 第403号住居跡出土遺物実測図

第403号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1393	坏 土師器	A [13.6] B (3.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明褐色, 普通	5% 体部外面墨書「□」

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1394	坏 須恵器	A 13.0 B 4.3 C 5.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母にぶい黄橙色普通	100% P L 221 体部外面墨書横位「万坏」
1395	甕 須恵器	B (4.9)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母灰色、普通	5%

第404号住居跡（第400・401図）

位置 調査区域の北東部，D 8 h6区。

規模と平面形 長軸3.96 m，短軸3.24 mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は15～22cmで，外傾して立ち上がる。

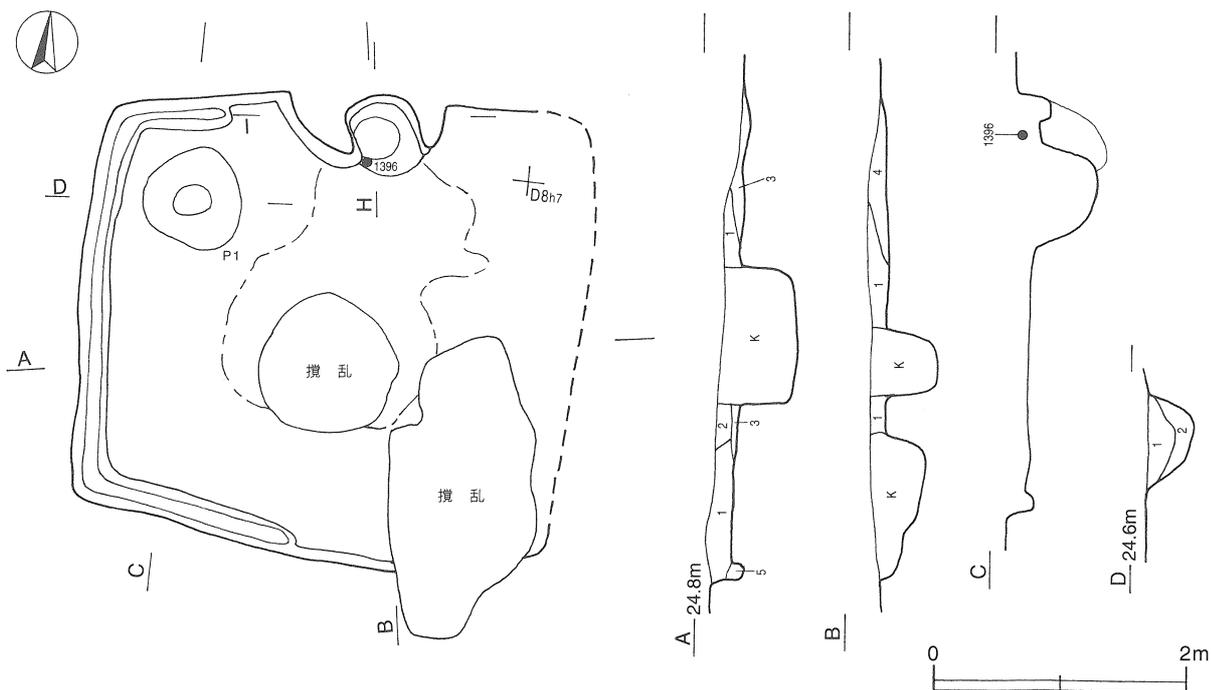
壁溝 南壁下の西半部，西壁下，北西コーナー部壁下を巡っている。上幅12～16cm，下幅7～11cm，深さ8 cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。床面は，地山を平坦に掘り込んで使用している。

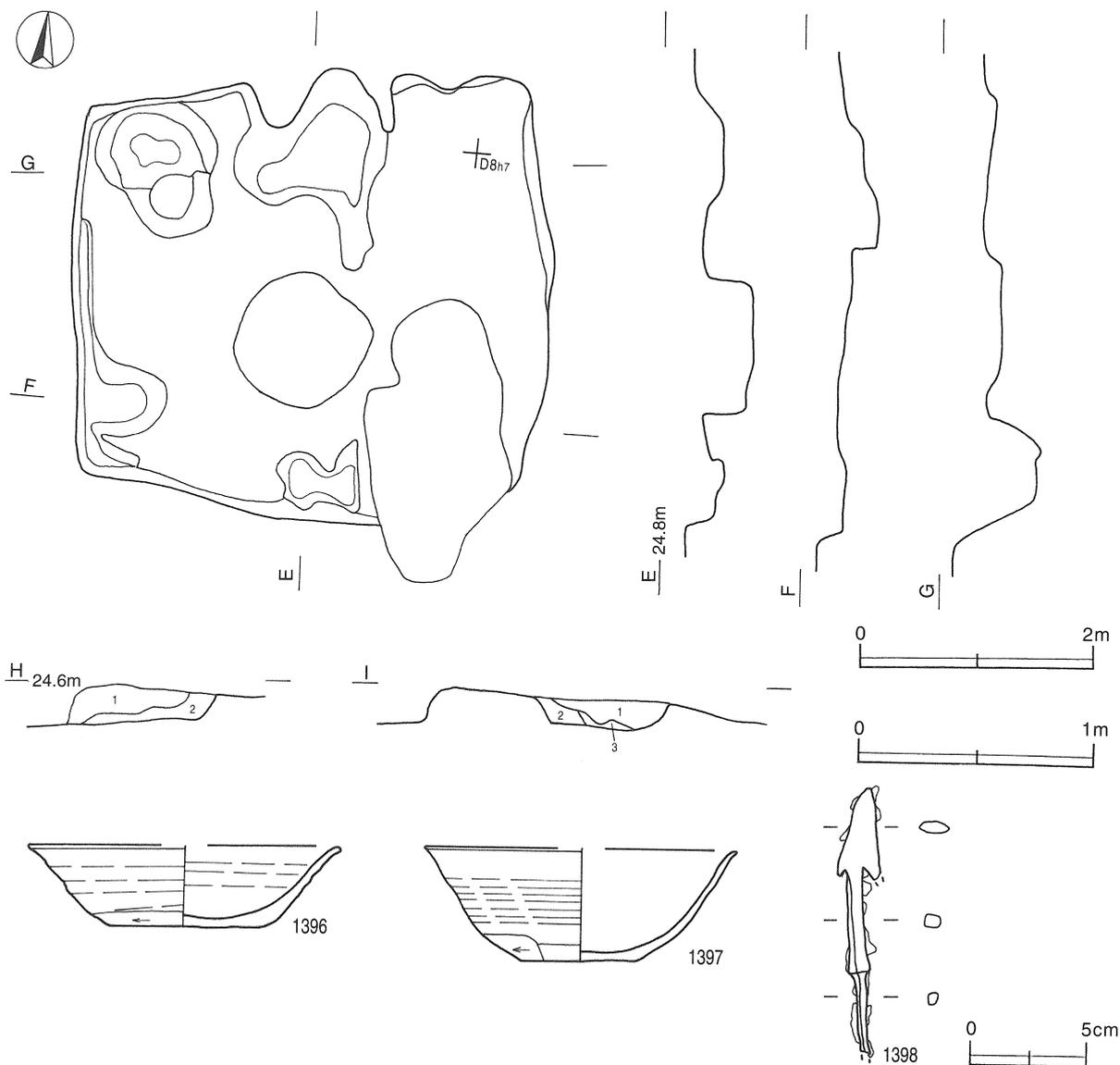
竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ66cm，袖部最大幅131cmである袖部は，ロームブロック・粘土ブロックで構築されている。煙道部は，北壁を幅37cm，奥行き9 cmにわたり掘り込んでいる。煙道は50度の傾きで立ち上がる。火床部は，地山を確認面から16cmの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 2 赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量 |
| | | 3 赤褐色 | 粘土中ブロック中量 |



第400図 第404号住居跡実測図



第401図 第404号住居跡・出土遺物実測図

ピット 1か所。P1は径75cmの円形、深さ49cmで、北西コーナー部に位置し、貯蔵穴と考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

覆土 5層からなる。不規則に堆積していること，ロームブロック・焼土粒子が多いことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片196点，須恵器片60点，鉄器3点（鏝3），椀状滓2点が出土している。第401図1396の土師器坏は，竈の覆土上層から出土している。1397の須恵器坏と1398の鉄鏝は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される。

第404号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1396	坏 土師器	A [13.4] B 3.5 C 6.3	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・石英 橙色 普通	30% P L 221
1397	坏 須恵器	A [13.4] B 4.8 C 4.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	30%

遺物番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鎌身長(cm)	身幅(cm)	筥椀部長(cm)	筥椀部幅(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1398	鎌	(11.5)	3.8	1.9	4.5	0.7	(3.2)	0.5	(16.9)	鉄	逆刺一部欠損。	P L 255

第405号住居跡（第402・403図）

位置 調査区域の北西部，C 6 f7区。

規模と平面形 長軸3.42 m，短軸3.28 mの方形である。竈の西側に棚状施設が付設されている。規模は幅156cm，奥行43cmの長方形で，10cmの厚さにロームブロック・粘土ブロックを含む褐色土を貼り付けている。床面からの高さは22cmで，確認面からの深さは10cmである。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は30～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分，北東コーナー部，東壁の一部を除いて壁下を巡っている。上幅8～17cm，下幅3～11cm，深さ6cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，南壁下から竈前面にかけて踏み固められている。中央部は地山を平坦に掘り込んで床としていたが，各コーナー部は貼床である。貼床は，各コーナー付近を径70～120cm，確認面から深さ46～62cmほど不整形の土坑状に掘り込み，ロームブロックを含む暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部やや東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ118cm，残存する袖部幅125cmである。袖部は壁内の部分はほとんど壊されており，壁外の部分だけが遺存する。この壁外に掘り込んだ地山に砂粒混じりの粘土粒子を含む黒褐色土及び灰黄褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅121cm，奥行70cmの不整形に掘り込み，ローム小ブロック・ローム粒子を含んだ褐色土で埋土してつづいている。

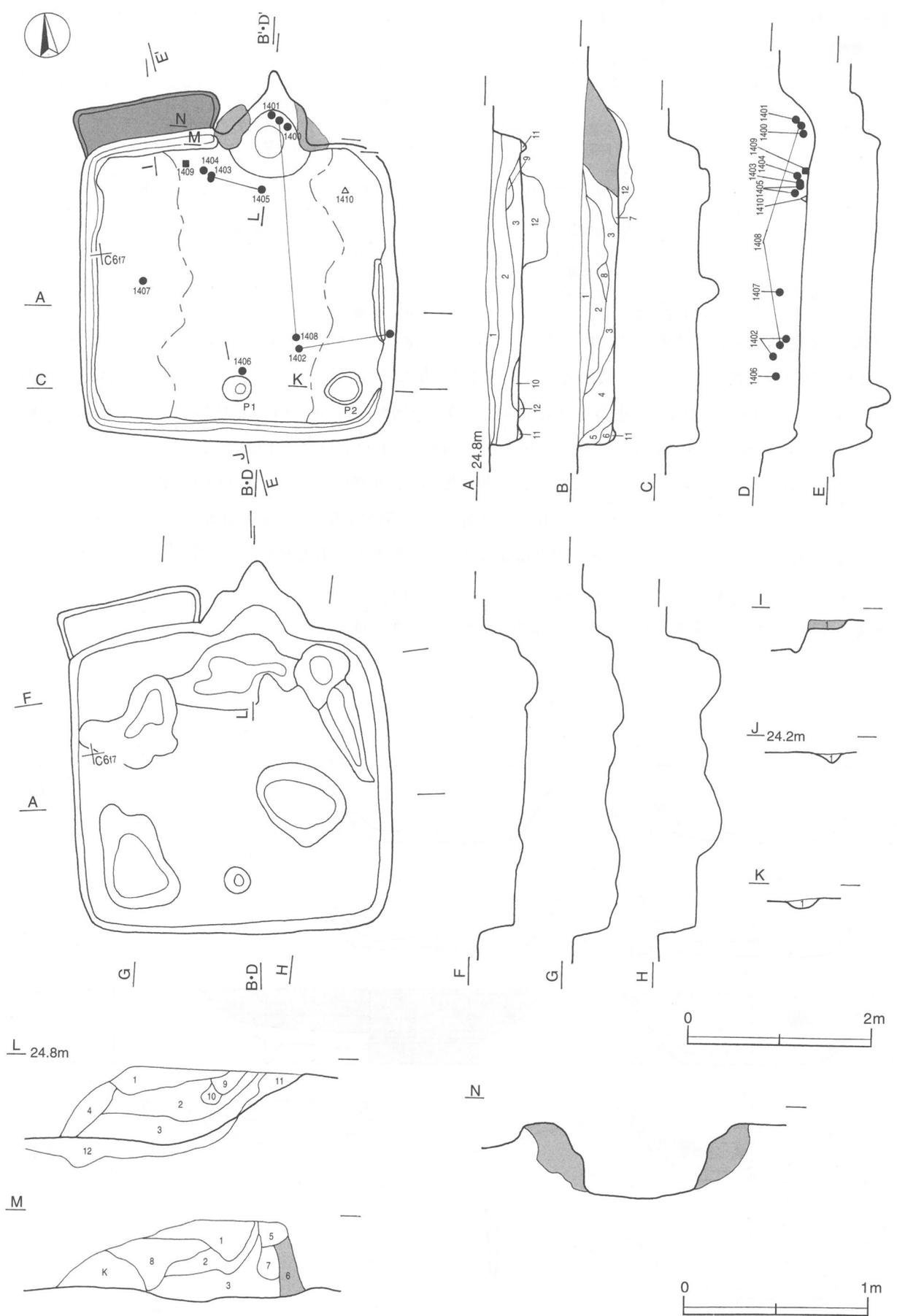
竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂粒中量，ローム中ブロック少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，砂粒少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子中量，砂粒少量 | 8 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 3 褐色 | 焼土小ブロック中量，ローム中ブロック少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子微量 | 10 褐色 | 粘土小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 砂粒中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量（掘り方） |

ピット 2か所（P 1・P 2）。P 1は径27cmの円形，深さ22cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P 2は径38cmの円形，深さ8cmで，性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



第402图 第405号住居跡実測图

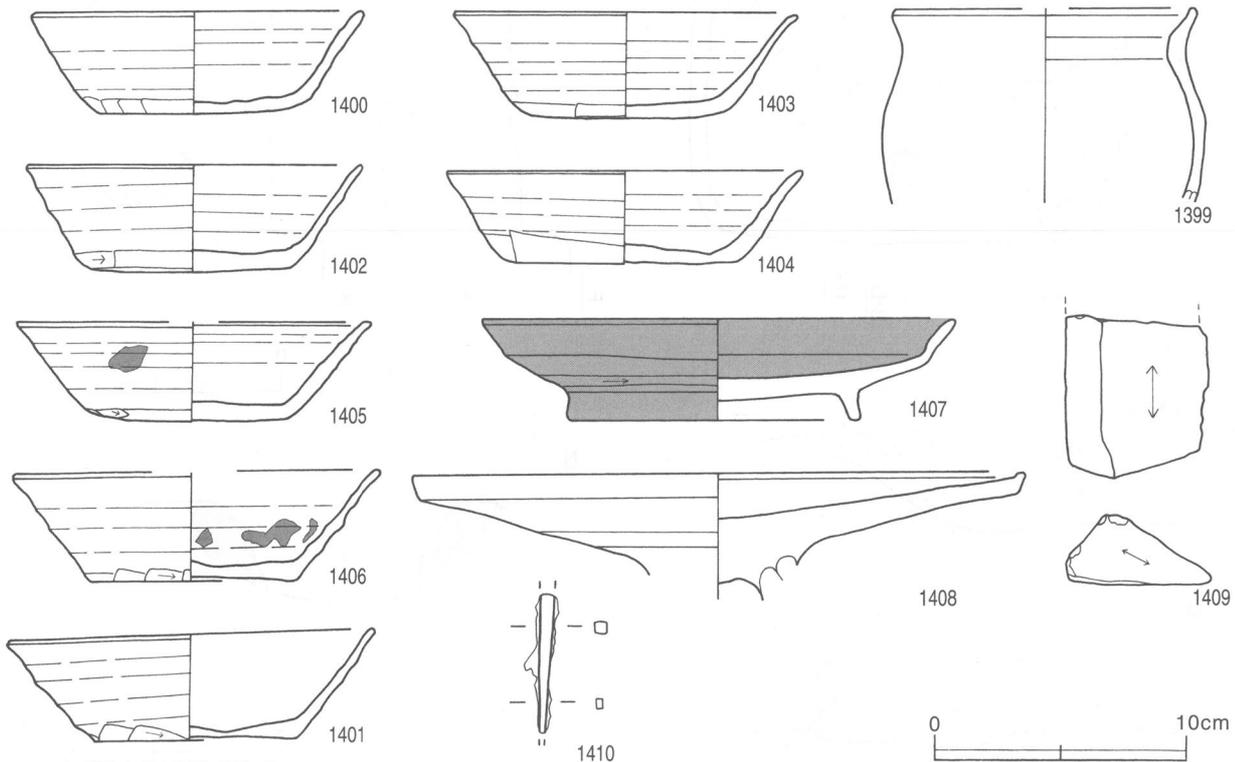
覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | 砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| | | 11 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| | | 12 暗褐色 | ローム小ブロック少量（貼床） |

遺物 土師器片57点，須恵器片132点，石器1点（砥石），鉄器1点（鎌）が出土している。第403図1400・1401の須恵器坏は竈の覆土中から，1400は逆位で，1401は斜位でそれぞれ出土している。1403の須恵器坏は北壁付近の覆土下層から，1404の須恵器坏は北壁付近の覆土下層から，1406の須恵器坏はP1付近の覆土上層から，1407の須恵器盤は中央部西寄りの覆土上層から，1409の砥石は北壁際の床面から，1410の鎌は北東コーナー付近の床面からそれぞれ出土している。1402の須恵器坏は，東壁際の覆土中層と中央部南寄りの覆土上層から出土した破片が接合したものである。1405の須恵器坏は，竈焚口部付近と竈西袖部付近の覆土中層から出土した破片が接合したものである。1408の須恵器高盤は，竈の覆土中と中央部南寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。1399の土師器甕は，覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，8世紀後葉と推定される。



第403図 第405号住居跡出土遺物実測図

第405号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1399	甕 土師器	A [12.0] B (7.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。頸部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 暗灰褐色、普通	10% P L 221
1400	坏 須恵器	A 13.0 B 4.0 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は端部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削	粗い、角礫・砂粒・雲母・石英 暗灰黄色、普通	100% P L 221
1401	坏 須恵器	A 14.4 B 4.4 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	粗い、角礫・砂粒・雲母・石英 灰黄褐色、普通	95% P L 221
1402	坏 須恵器	A 13.2 B 4.2 C 7.8	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色 普通	90% P L 221
1403	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 7.2	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	粗い、角礫・砂粒 褐色 普通	60% P L 221
1404	坏 須恵器	A 14.2 B 3.7 C 9.0	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、外周部ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	60% P L 221
1405	坏 須恵器	A [14.0] B 5.0 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	角礫・砂粒・石英・雲母 灰色、普通	50% 底部外面煤付着
1406	坏 須恵器	A [14.4] B (4.4) C 8.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	角礫・砂粒・石英 灰黄褐色 普通	50% P L 221 体部内面煤付着
1407	盤 須恵器	A 18.8 B 4.0 D 11.3 E 1.1	高台部から口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	60% P L 221
1408	高 須恵器	A 24.2 B (5.0)	坏部の破片。体部から口縁部にかけて、外反気味に立ち上がり、端部は短く上方につまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラ削り。	砂粒・石英 灰色 普通	30%

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1409	砥石	(6.6)	5.8	2.7	(107.9)	凝灰岩	2面に使用痕。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1410	鎌	(5.5)	(5.5)	0.4	(4.6)	鉄	鎌身部欠損。	

第406号住居跡（第404・407図）

位置 調査区域の北東部、D 8 e7区。

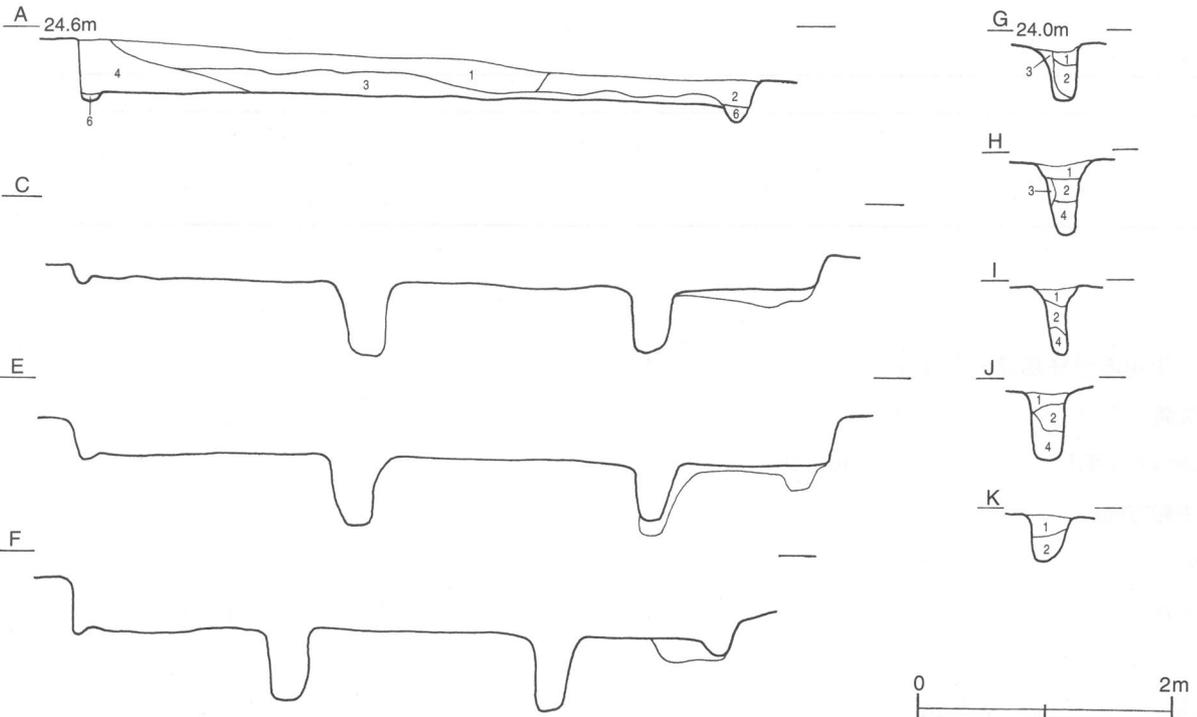
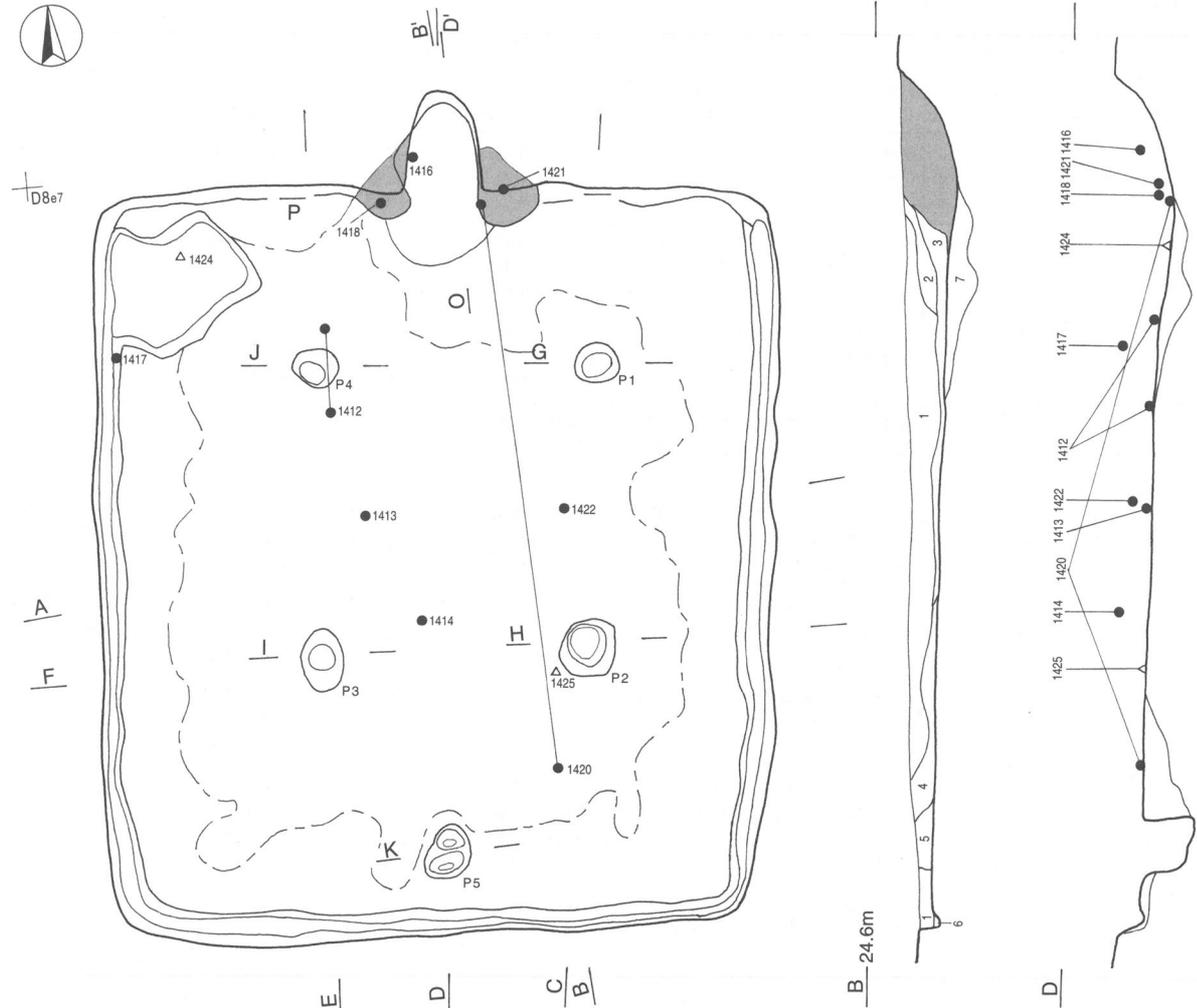
規模と平面形 長軸6.08m、短軸5.10mの長方形である。

主軸方向 N-4°-E

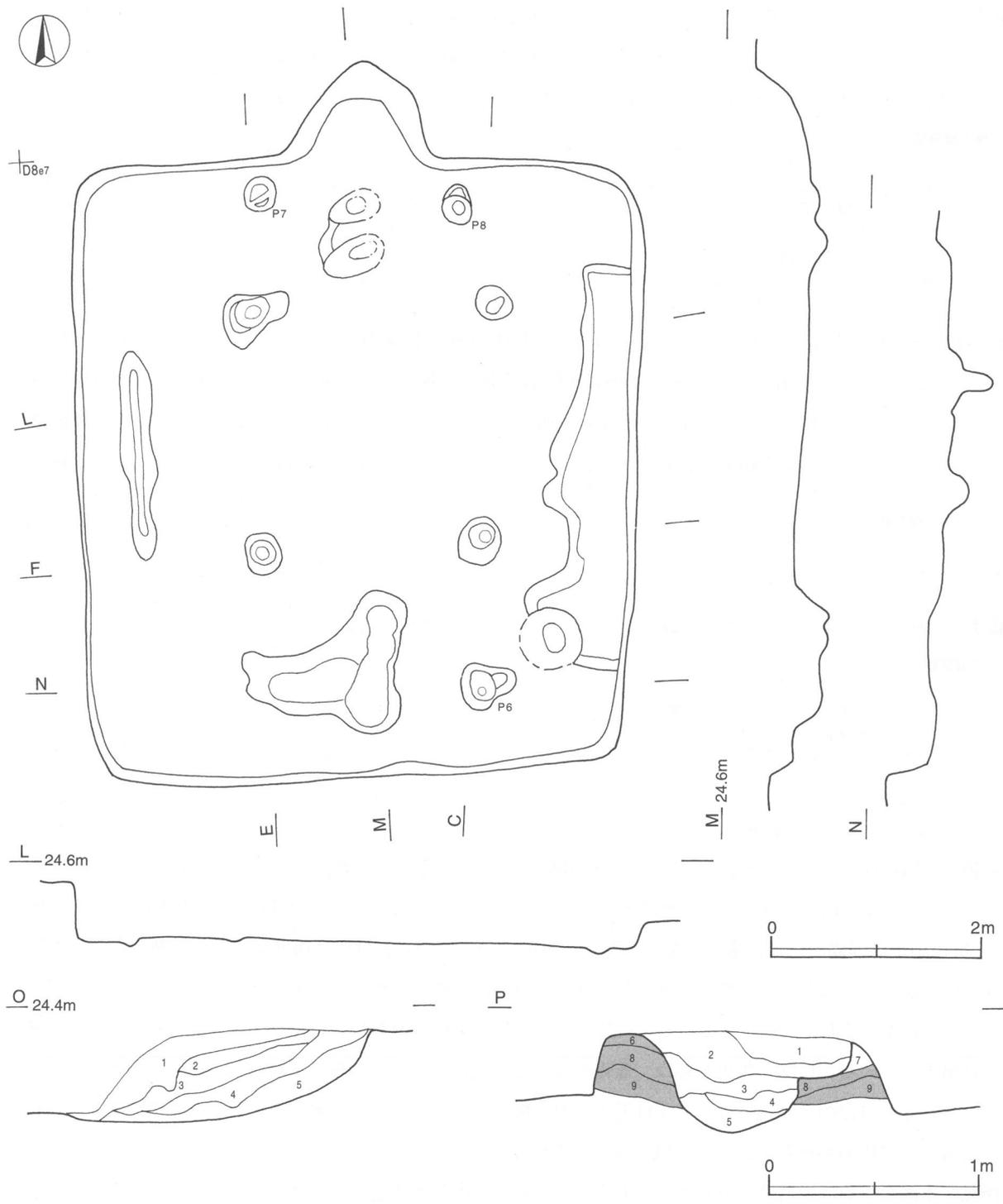
壁 壁高は9~29cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分と北壁を除いて、壁下を巡っている。上幅8~23cm、下幅4~15cm、深さ10cmで、断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いてほぼ全体的に踏み固められている。4か所の主柱穴の内側は地山を床としているが、その外側は貼床である。貼床は、中央部は平坦で、確認面からの深さ24cmとやや浅いが、周辺部には東



第404图 第406号住居迹实测图 (1)



第405図 第406号住居跡実測図(2)

壁に沿って幅90cm, 確認面から深さ30~55cmほどの溝状のもの, 径140cm, 確認面からの深さ53cmほどの土坑状のもの, 竈焚口付近には長径85cm, 短径58cmの楕円形, 確認面から深さ64cmほどの土坑状のものがあり, それらにロームブロック・ローム粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ137cm, 袖部最大幅144cmである。袖部は地山を扁平な台形状に掘り残して芯とし, ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロックを含む暗褐色土及び黄褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は, 北壁を幅147cm, 奥行き90cmにわたり,

丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は、30度の傾きで立ち上がる。火床部は、地山を確認面から47cmの深さに掘り込んでつくっている。東袖部内から須恵器鉢と須恵器甕が、西袖部内から土師器甕がそれぞれ出土しており、補強材として使用されたと考えられる。

竈土層解説

- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 粘土粒子中量 | 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量 |
| 2 黄褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子中量 | 8 褐色 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 黄褐色 粘土粒子多量 | 9 にぶい黄褐色 粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量 | |
| 5 にぶい赤褐色 砂粒中量, 焼土粒子微量 | |
| 6 赤褐色 粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | |

ピット 8か所 (P1～P8)。P1・P2はそれぞれ径34cm・45cmの円形, 深さ39cm・55cm, P3・P4はそれぞれ長径35cm・49cm, 短径31cm・34cmの楕円形であり, 各コーナー部寄りに位置することと規模から主柱穴と考えられる。P5は長径40cm, 短径34cmの楕円形, 深さ35cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P6～P8は掘り方調査で確認されたものである。

ピット土層解説

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 褐色 ローム中ブロック中量 | 3 褐色 ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック中量 |

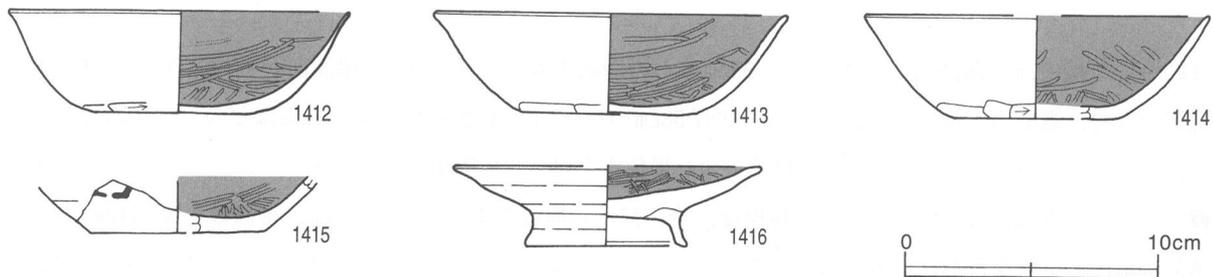
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

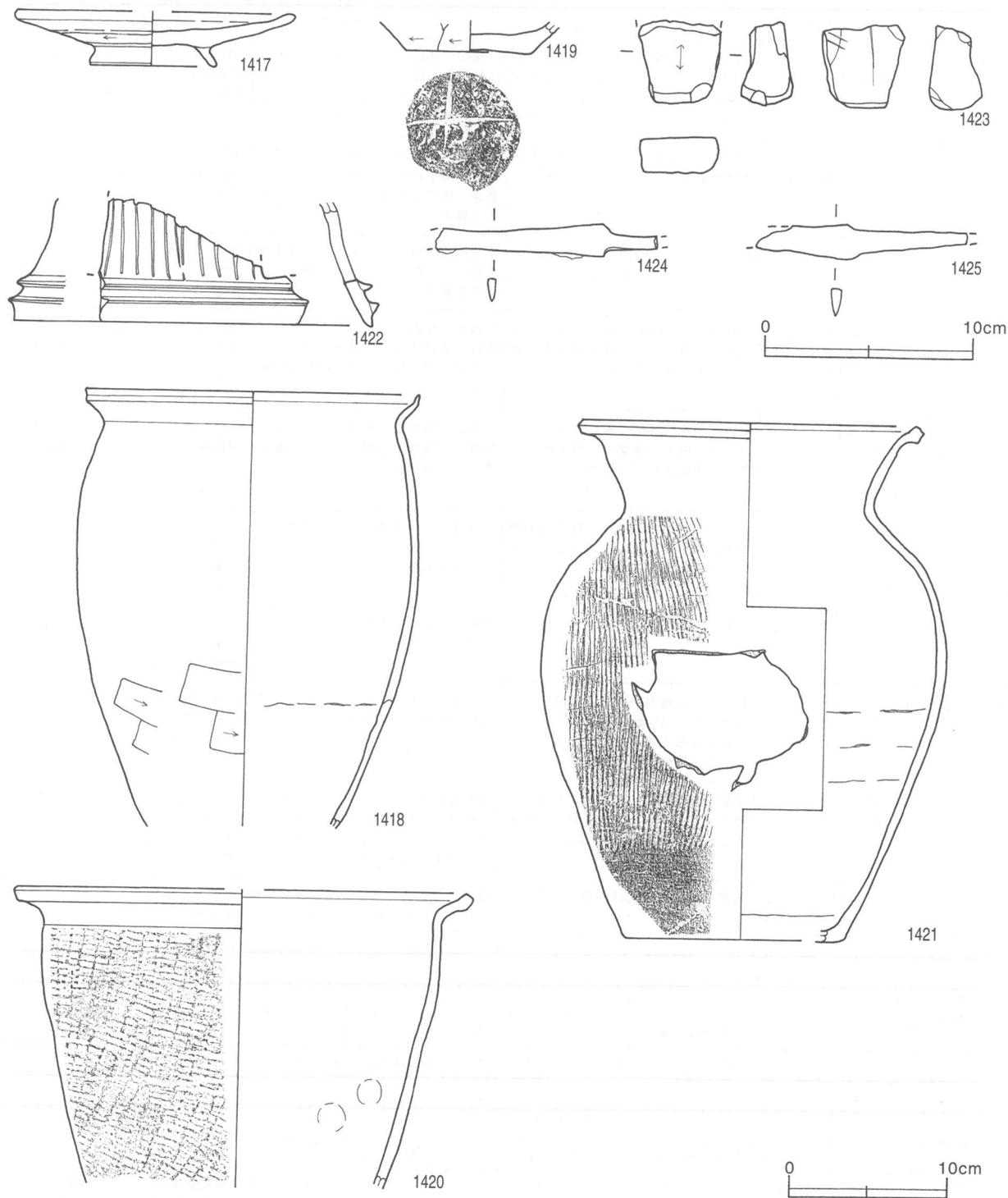
- | | |
|--|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 5 暗褐色 ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| | 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 (貼床) |

遺物 土師器片759点, 須恵器片269点, 灰釉陶器片3点, 石器1点 (砥石), 鉄器1点 (刀子), 鉄滓1点が出土している。第406図1413の土師器坏は中央部の覆土下層から, 1414の土師器坏は中央部の覆土上層から, 1416の土師器高台付皿は竈内の覆土中層から, 1417の土師器高台付皿は西壁際の覆土上層から, 1422の須恵器円面硯は中央部東寄りの覆土中層から, 1424の刀子は北西コーナー部の覆土下層から, 1425の刀子はP2付近の床面からそれぞれ出土している。1421の須恵器甕は東袖部内から, 1418の土師器甕は西袖部内からそれぞれ出土している。1420の須恵器鉢は, 竈東袖部内と中央部南東寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。1412の土師器坏は, P4付近の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1415の土師器坏, 1419の須恵器坏, 1423の砥石はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第406図 第406号住居跡出土遺物実測図 (1)



第407図 第406号住居跡出土遺物実測図 (2)

第406号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1412	坏 土師器	A 13.4 B 4.2 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	80% PL221

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第406図 1413	坏 土師器	A 13.8 B 4.0 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	30% P L 221
1414	坏 土師器	A [13.6] B 4.1 C [6.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部2方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	30%
1415	坏 土師器	B (2.2) C [6.6]	底部から体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	10% 体部外面墨書「□」
1416	高台付皿 土師器	A [12.2] B 3.2 D 6.4 E 1.3	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に開き、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部・底部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色	50% P L 221 二次焼成
第407図 1417	高台付皿 土師器	A [13.6] B 2.7 D 6.0 E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に開き、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色	30% P L 221 二次焼成
1418	甕 土師器	A 21.2 B (27.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り、内面ナデ。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 明褐色 普通	70% P L 222
1419	坏 須恵器	B (1.6) C 6.0	底部から体部下位の破片。平底。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	雲母・石英 明褐色 普通	5% 底部外面ヘラ 記号「+」
1420	鉢 須恵器	A [29.4] B (19.1)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く屈曲し、つまみ上げられた後、外側に折り返される。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き、内面指頭押圧後、ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	20%
1421	甕 須恵器	A 21.1 B 33.2 C [14.0]	底部から口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部で強く屈曲する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、下位ヘラ削り。体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部中に焼成後穿孔あり。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 橙色 普通	70% P L 221
1422	円面硯 須恵器	B (5.9) D [17.4]	脚部の破片。脚部は内傾して立ち上がる。	脚部内・外面ロクロナデ。脚部外面棒状工具による縦位の凹線。透かしのヘラ切り痕。	砂粒・石英 黄灰色 良好	20% P L 221

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1423	砥石	(4.0)	4.0	1.8	(51.0)	凝灰岩	1面に使用痕。	

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
1424	刀子	(10.7)	(8.2)	1.0	0.3	(2.6)	(5.4)	鉄	切先部欠損。両関。	P L 255
1425	刀子	(10.2)	(4.8)	1.6	0.5	(5.4)	(16.7)	鉄	両関。	

第407号住居跡（第408・409図）

位置 調査区域の北東部、D 8 d0区。

重複関係 第130号掘立柱建物に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.52m、短軸2.49mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は32～34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分と北壁を除いて、壁下を巡っている。上幅7～12cm、下幅4～9cm、深さ3cmで、断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で、南壁際から竈前面にかけて踏み固められている。地山を掘り込んで、床面としている。西半部の床は、東半部より4～6cmほど高く、ベッド状を呈している。

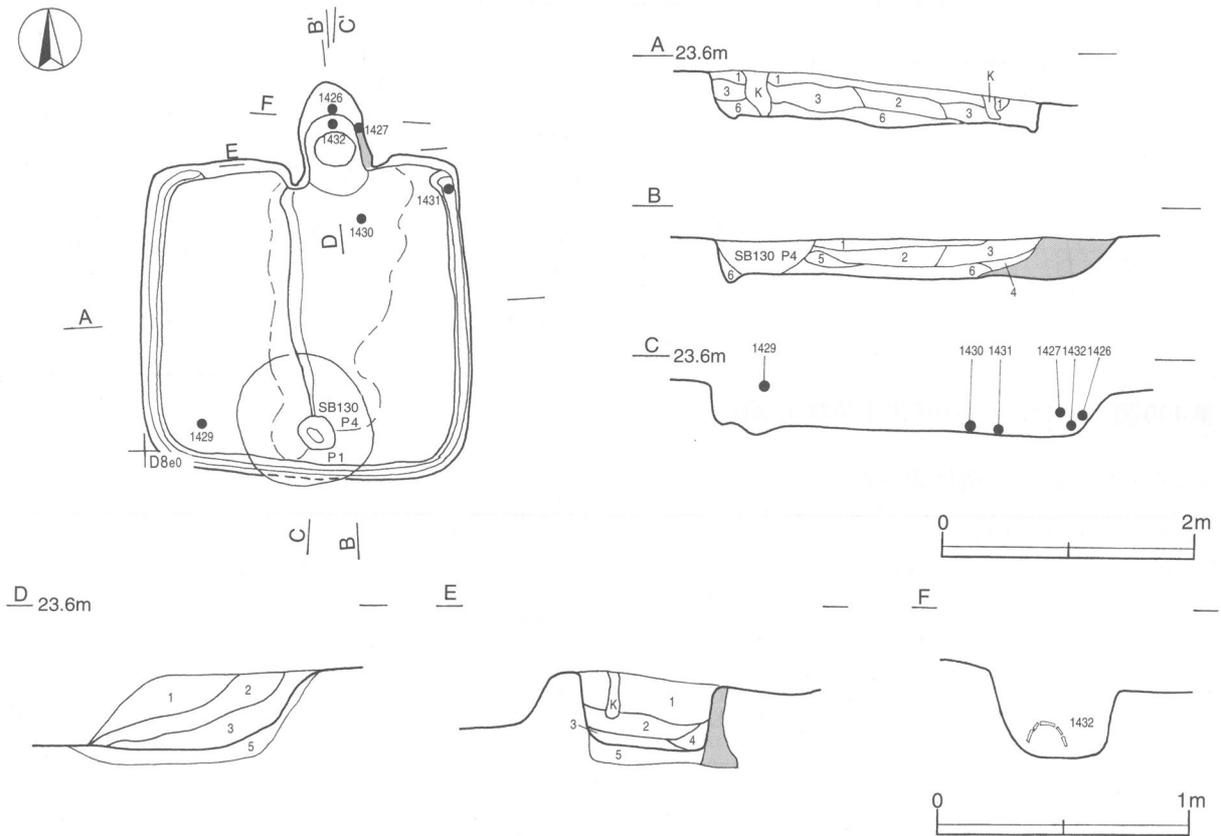
竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、袖部最大幅91cmである。袖部は粘土ブロックを含む褐色土で構築されている。煙道部は、北壁を幅79cm、奥行き52cmにわたり、丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は、50度の傾きで立ち上がる。火床部は、径70cmの不整形に確認面から70cmほど掘り込み、ロームブロック・ローム粒子を含んだ褐色土で埋土してつくっている。火床面は径27cmの円形で赤変硬化しており、北壁ラインの外側に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂粒少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| | | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量（掘り方） |

ピット 1か所。P1は長径33cm、短径26cmの楕円形、深さ8cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



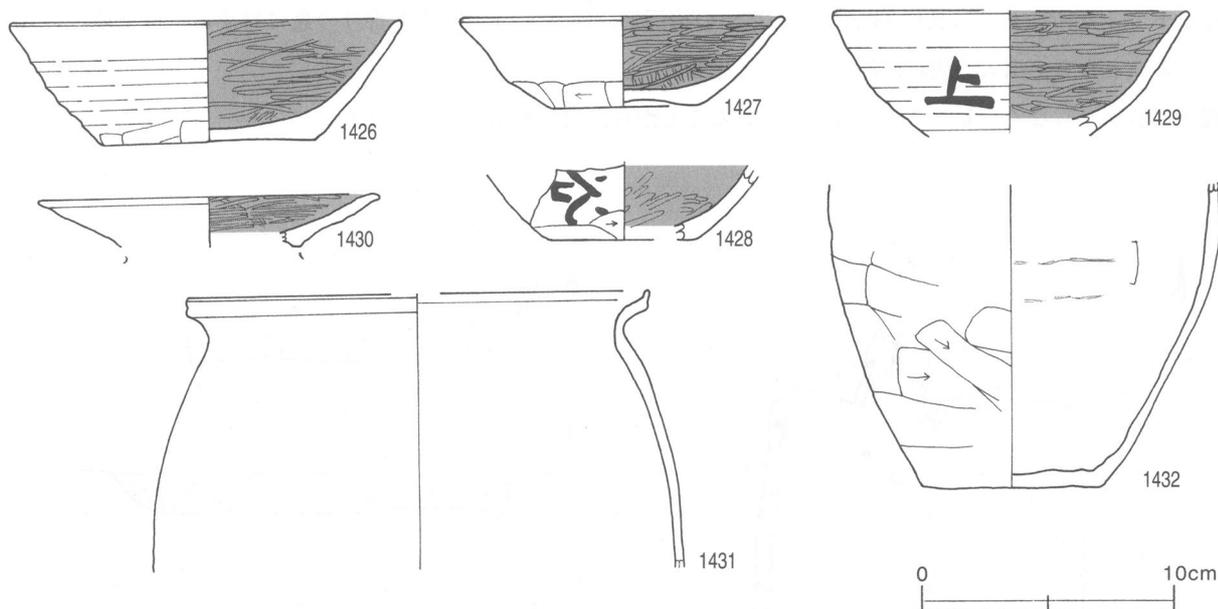
第408図 第407号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |

遺物 土師器片 138点, 須恵器片 19点が出土している。第409図1426・1427の土師器坏は, 竈の覆土中層から, 1432の土師器甕は, 竈の覆土下層からそれぞれ出土している。1426・1432は逆位で, 1427は斜位でそれぞれ出土している。1428の土師器坏は覆土中から, 1429の土師器高台付椀は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。1428の体部外面には「谷」が横位で, 1429の体部外面には「上」が正位でそれぞれ墨書されている。1430の土師器高台付皿は竈焚口部付近の覆土下層から, 1431の土師器甕は北東コーナー部の壁溝からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 重複関係と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第409図 第407号住居跡出土遺物実測図

第407号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1426	坏 土師器	A 15.2 B 5.0 C 8.3	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子 橙色	80% PL222 二次焼成
1427	坏 土師器	A 12.6 B 3.7 C 5.6	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。ヘラ磨き。底部1方向のヘラ削り。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端雑な手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明褐色 普通	95% PL222
1428	坏 土師器	B (3.0) C [5.6]	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	20% PL222 体部外面墨書 横位「谷」
1429	高台付椀 土師器	A [14.0] B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き, 黒色処理。	石英・赤色粒子 橙色 普通	20% PL222 体部外面墨書 正位「上」

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1430	高台付皿 土師器	A 13.5 B (2.0)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に開き、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。口縁部、体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け痕を残す。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 橙色、普通	30% P L 222
1431	甕 土師器	A [18.4] B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母 明褐色 普通	10%
1432	甕 土師器	B (17.1) C 6.1	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り、内面ナデ、一部ヘラナデ。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 にぶい黄橙色、普通	20% P L 222 内面器面荒れ

第408号住居跡（第410・411図）

位置 調査区域の北東部，D 8 b9区。

重複関係 第1号地下式竈に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.34 m，短軸3.24 mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は35～37cmで，外傾して立ち上がる。

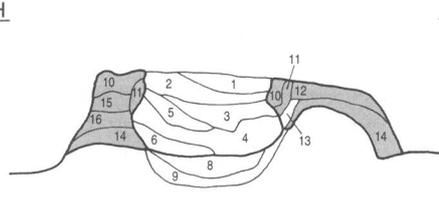
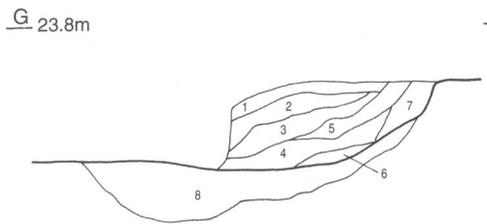
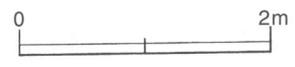
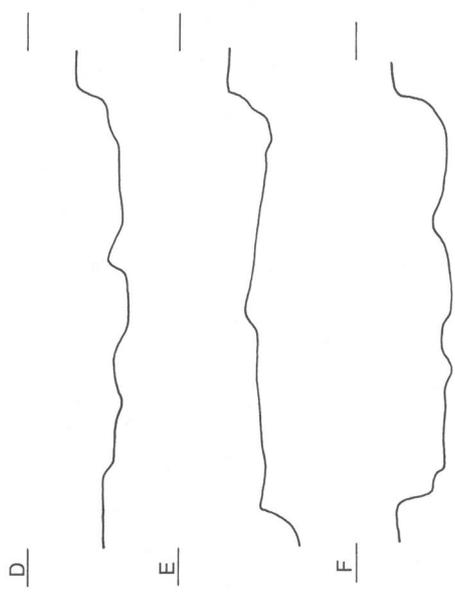
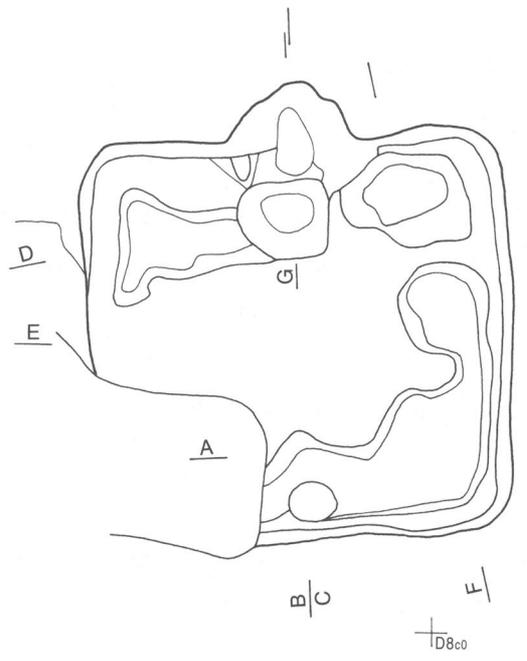
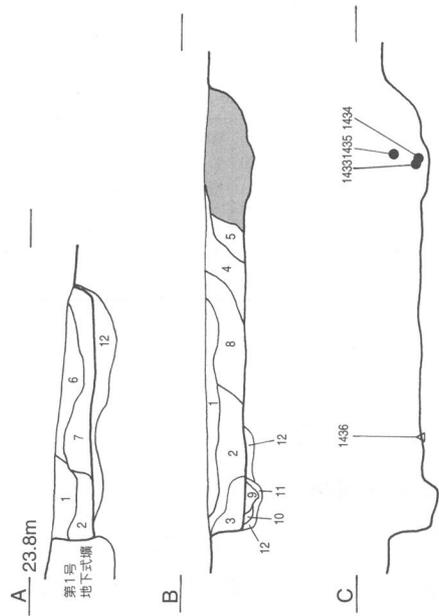
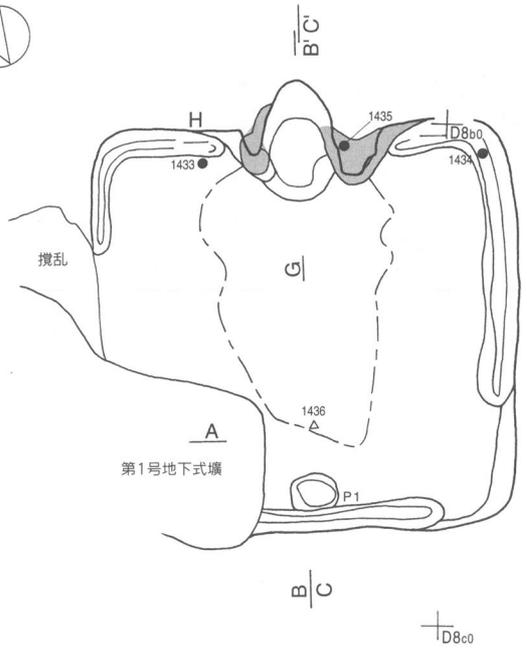
壁溝 竈の部分，南東コーナー部，第1号地下式竈に掘り込まれている南西コーナー部，西壁を除いて，壁下を巡っている。上幅7～18cm，下幅4～12cm，深さ8 cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。中央部はロームを床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，東壁から南壁に沿った幅50～70cm，確認面からの深さ42cmほどの溝状のもの，北東コーナー部に位置する径99cm，確認面からの深さ37cmほどの土坑状のもの，北西コーナー部に位置する径100cm，確認面からの深さ15cmほどの土坑状のものがあり，それにロームブロック・ローム粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ97cm，袖部最大幅114cmである。袖部は地山を山形と台形状に掘り残して芯とし，周りに粘土ブロック・粘土粒子・ロームブロック・ローム粒子混じりの黄褐色土及び灰褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅103cm，奥行き46cmにわたり半円形に掘り込んである。煙道は，40度の傾きで立ち上がる。火床部は，径61cmの不整形に確認面から56cmほどに掘り込み，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を含む褐色土及び暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は，床面より5 cmほど下がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|-----------|---|
| 1 黄褐色 | ローム中ブロック・粘土大ブロック少量，ローム粒子微量 | 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量（掘り方） |
| 2 黄褐色 | ローム小ブロック・粘土大ブロック中量，ローム粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 粘土大ブロック多量 |
| 3 黄褐色 | 粘土大ブロック多量，ローム粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 |
| 4 黄褐色 | 焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・粘土大ブロック少量，ローム粒子微量 | 12 灰褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 5 暗灰黄色 | 粘土大ブロック中量 | 13 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 6 暗灰黄色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量 | 14 にぶい黄褐色 | 粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量 | 15 灰褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・粘土中ブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量（掘り方） | 16 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子少量，ローム大ブロック・粘土大ブロック微量 |



第410图 第408号住居跡実測図

ピット 1か所。P1は長径39cm，短径29cmの楕円形，深さ12cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

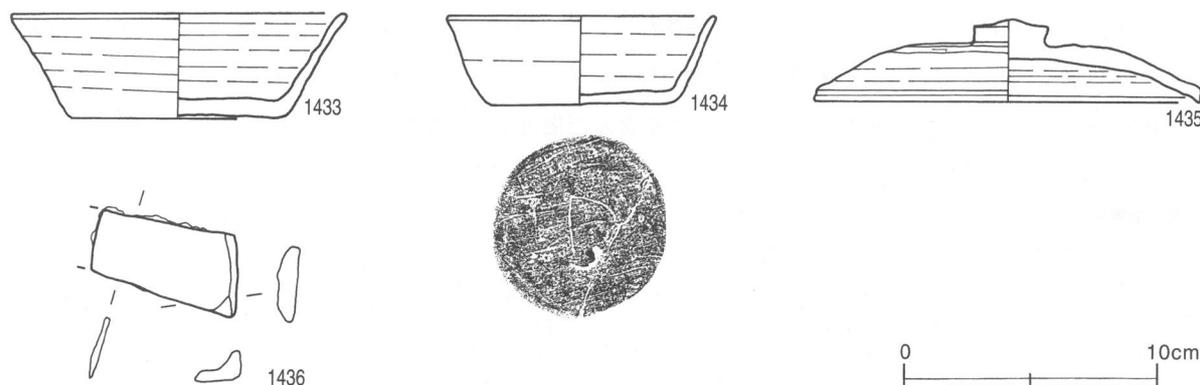
覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していること，ロームブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム中ブロック少量
- 5 極暗褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック少量
- 6 褐色 ローム大ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
- 8 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量（貼床）
- 10 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量（貼床）
- 11 褐色 ローム粒子少量（貼床）
- 12 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量（貼床）

遺物 土師器片45点，須恵器片17点，瓦片1点，鉄器1点（鎌）が出土している。第411図1433の須恵器坏は北壁際の覆土下層から正位で，1435の須恵器蓋は竈の東袖部付近の覆土上層から斜位でそれぞれ出土している。1434の須恵器坏は北東コーナー付近の覆土下層から，1436の鎌は中央部南寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と出土土器から，8世紀中葉と推定される。



第411図 第408号住居跡出土遺物実測図

第408号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第411図 1433	坏 須恵器	A 13.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	70% PL222
		B 4.2				
		C 8.4				
1434	坏 須恵器	A 10.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 暗灰黄色 普通	80% PL222 底部外面ヘラ 記号
		B 3.5				
		C 7.2				
1435	蓋 須恵器	A 15.4	口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で，外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し，短く垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部・口縁部ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	90% PL222
		B 3.3				
		F 2.9				
		G 1.0				

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第411図1436	鎌	(6.2)	2.5	0.3	(21.8)	鉄	柄付部全面折り曲げ。	

第409号住居跡（第412図）

位置 調査区域の北東部，D 8 j8区。

重複関係 第410号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.84 m，短軸3.68 mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は8～30cmで，直立する。

壁溝 竈の部分，攪乱を受けている南壁の西半部を除いて，壁下を巡っている。上幅8～18cm，下幅3～13cm，深さ7 cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。攪乱を受け，南壁付近の一部は遺存しない。主柱穴の内側は地山を床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って幅21～47cm，確認面から深さ37cmで溝状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。西袖部，煙道部及び火床部の一部は攪乱を受けている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ114cm，推定される袖部幅120cmである。残存する東袖部は砂粒混じりの粘土ブロックを含む黄褐色土及び暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を，推定幅76cm，奥行き66cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，40度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径96cm，短径66cmの楕円形に確認面から73cmほど掘り込み，焼土ブロックを含んだ褐色土及び暗褐色土で埋土してつくっている。内壁は厚さ3 cmほどが赤変硬化（第11層）しており，長期にわたって使用されていたと思われる。

竈土層解説

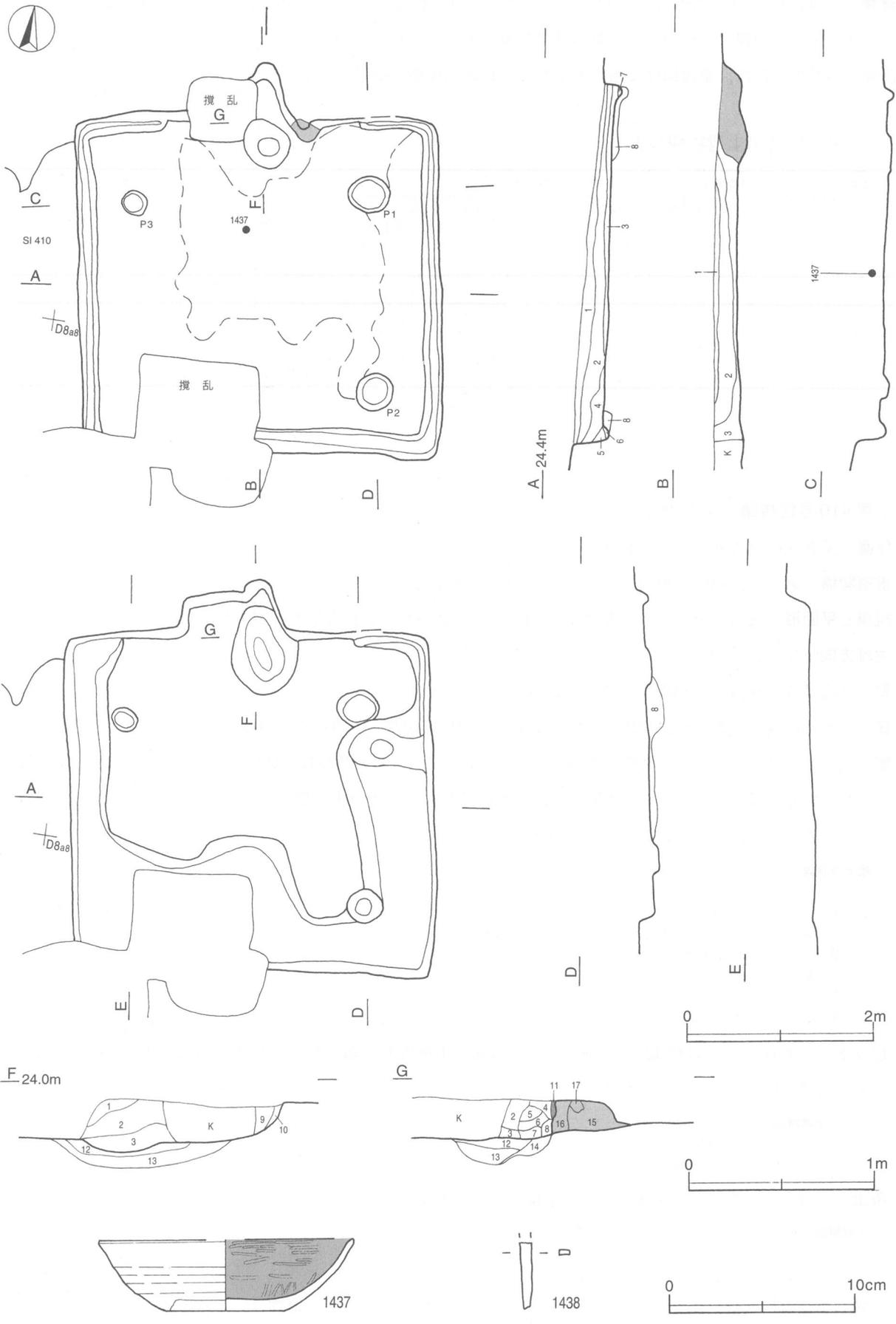
- | | | | |
|---------|--|----------|------------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 8 にい黄褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量，焼土大ブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 10 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土大ブロック多量 |
| 5 にい黄褐色 | 焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | 焼土小ブロック少量（掘り方） |
| 6 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 13 褐色 | 焼土小ブロック微量（掘り方） |
| 7 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック微量 | 14 褐色 | 焼土小ブロック少量（掘り方） |
| | | 15 黄褐色 | 砂粒少量 |
| | | 16 にい黄褐色 | 粘土小ブロック多量 |
| | | 17 暗褐色 | 粘土小ブロック少量 |

ピット 3か所（P 1～P 3）。P 1～P 3は径28～45cmの円形，深さ7～8 cmで，各コーナー部寄りに位置することから主柱穴と考えられる。

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色
 - 2 黒褐色
 - 3 暗褐色
 - 4 黒褐色
 - 5 黒褐色
 - 6 褐色
 - 7 褐色
 - 8 褐色
- ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量
ローム粒子・焼土粒子少量
ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
ローム中ブロック微量
ローム粒子少量
ローム粒子中量
ローム小ブロック少量（貼床）



第412図 第409号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片62点，須恵器片45点，灰釉陶器片1点，鉄器1点（鎌）が出土している。第412図1437の土師器坏は中央部の覆土上層から，1438の鉄鎌は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と出土土器から，9世紀後葉と推定される。

第409号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1437	坏 土師器	A [13.6]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	70% PL 222 内面器面荒れ
		B 3.8				
		C 6.3				

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	茎長(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1438	鎌	(3.7)	(3.7)	0.3	(1.7)	鉄	鎌身部欠損。	

第410号住居跡（第413図）

位置 調査区域の北東部，D 8 a7区。

重複関係 第409号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.38mで，短軸は2.84mだけが確認された。長方形と推定される。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は5～9cmで，外傾して立ち上がる。

床 緩やかな起伏があるが，全体的に平坦である。中央部が踏み固められている。

竈 北壁に設けられている。東袖部は削平されて遺存していない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ61cm，推定される袖部幅120cmである。西袖部は，粘土粒子を含む黄褐色土で構築されている。煙道は，35度の傾きで立ち上がる。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 6 黄褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 7 黄褐色 粘土粒子中量

ピット 1か所。P 1は径32cmの円形，深さ15cmで南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

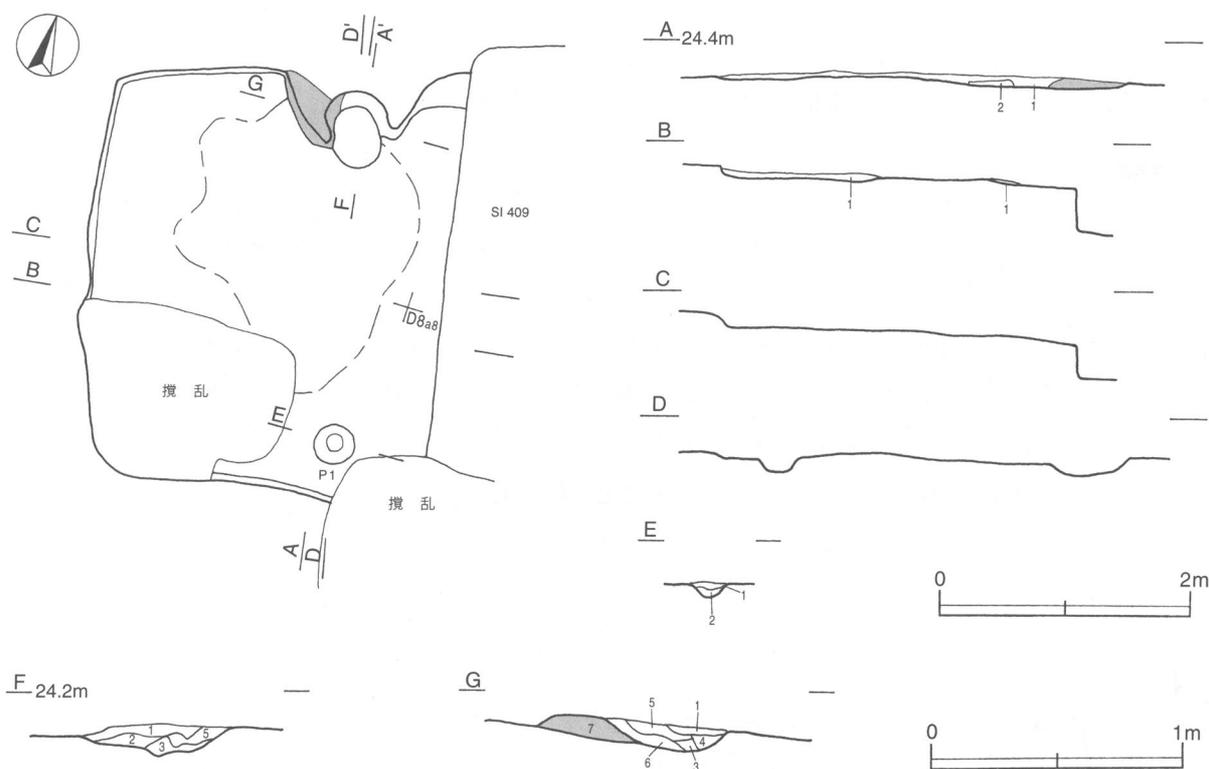
覆土 2層からなる。覆土が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック少量

遺物 土師器片4点，須恵器片4点，鉄器1点（釘）が出土している。遺物はいずれも細片のため，図示することはできなかった。

所見 本跡の時期は、重複関係と出土土器から、9世紀中葉以前と推定される。



第413図 第410号住居跡実測図

第411号住居跡 (第414・415図)

位置 調査区域の北東部，D 8 a6区。

重複関係 第145号掘立柱建物に掘り込まれ，第328号住居跡を掘り込んでおり，本跡は第145号掘立柱建物より古く，第328号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.48m，短軸3.34mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は23~30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下中央部と攪乱を受けている南壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅8~12cm，下幅3~8cm，深さ4cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 遺存していないが，北壁中央部の攪乱内に粘土ブロック・粘土粒子・焼土ブロックが混じっていることから竈が付設されていたと思われる。

ピット 5か所 (P 1~P 5)。P 1・P 2はそれぞれ径34cm・30cmの円形，深さ43cm・34cmで，P 3・P 4はそれぞれ長径34cm・27cm，短径30cm・23cmの楕円形，深さ56cm・44cmで，各コーナー部寄りに位置することから主柱穴と考えられる。P 5は径22cmの円形，深さ10cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

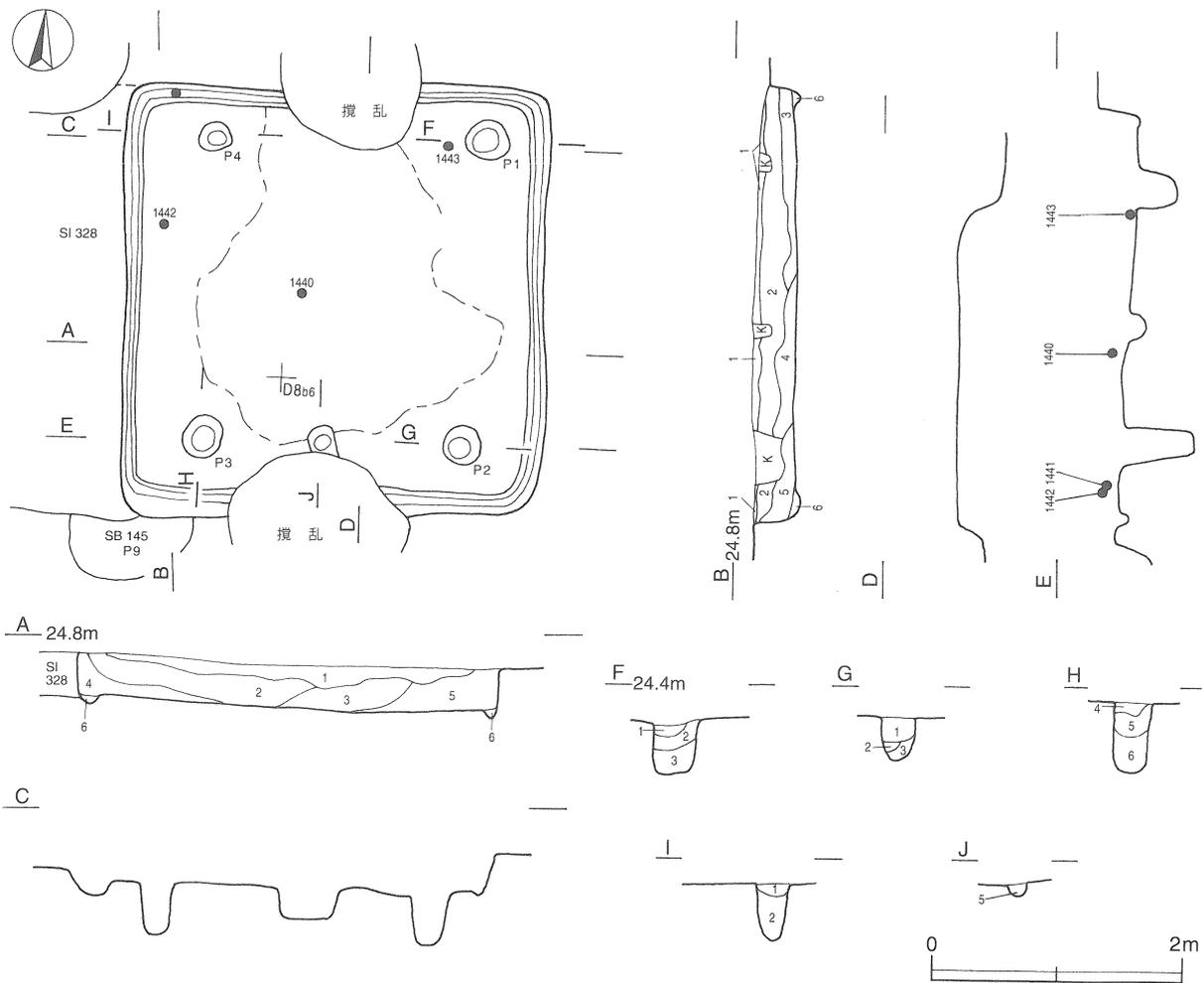
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

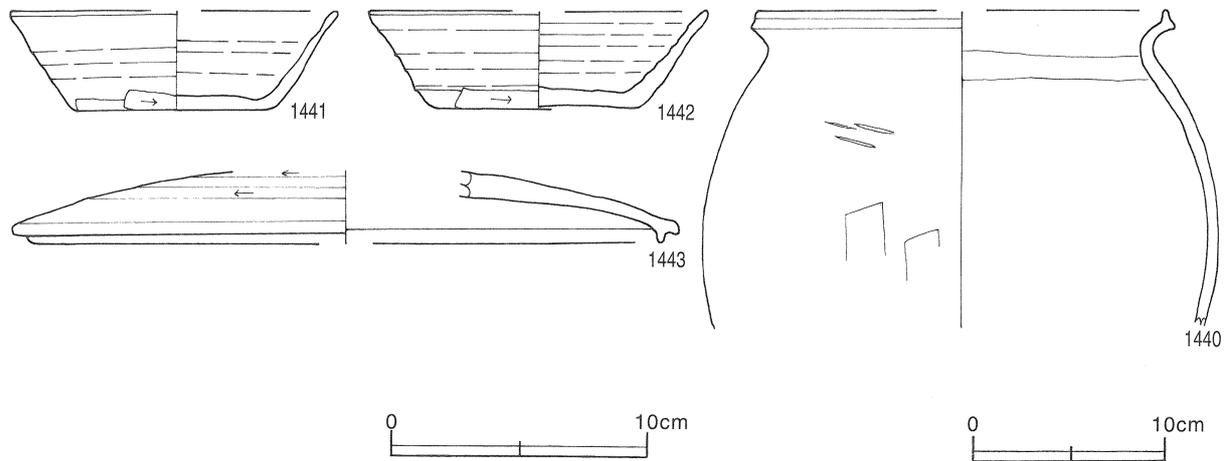
- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量 |
| | | 5 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| | | 6 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片77点，須恵器片70点，瓦片3点が出土している。第415図1440の土師器甕は中央部の覆土中層から，1441の須恵器坏は北西コーナー部の覆土上層から，1442の須恵器坏は西壁際の覆土上層から，1443の須恵器蓋は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と出土土器から，8世紀後葉と推定される。



第414図 第411号住居跡実測図



第415図 第411号住居跡出土遺物実測図

第411号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1440	甕 土師器	A [21.4] B (16.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	20% P L 222
1441	坏 須恵器	A [13.0] B 3.9 C 7.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 暗灰黄色 普通	60% P L 222 底部外面油煙 附着
1442	坏 須恵器	A [13.2] B 3.8 C [8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 灰色、普通	40% P L 222
1443	蓋 須恵器	A [26.4] B (2.8)	口縁部から天井部の破片。天井頂部から口縁部にかけて内彎気味に開く。口縁部内面に返りをもつ。	天井部、口縁部内・外面クロナデ。天井頂部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	20%

第412号住居跡（第416・417図）

位置 調査区域の北東部，D 8 e5区。

規模と平面形 長軸3.36m，短軸3.12mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は28～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅8～31cm，下幅3～14cm，深さ6cmで，断面は緩やかなU字形である。

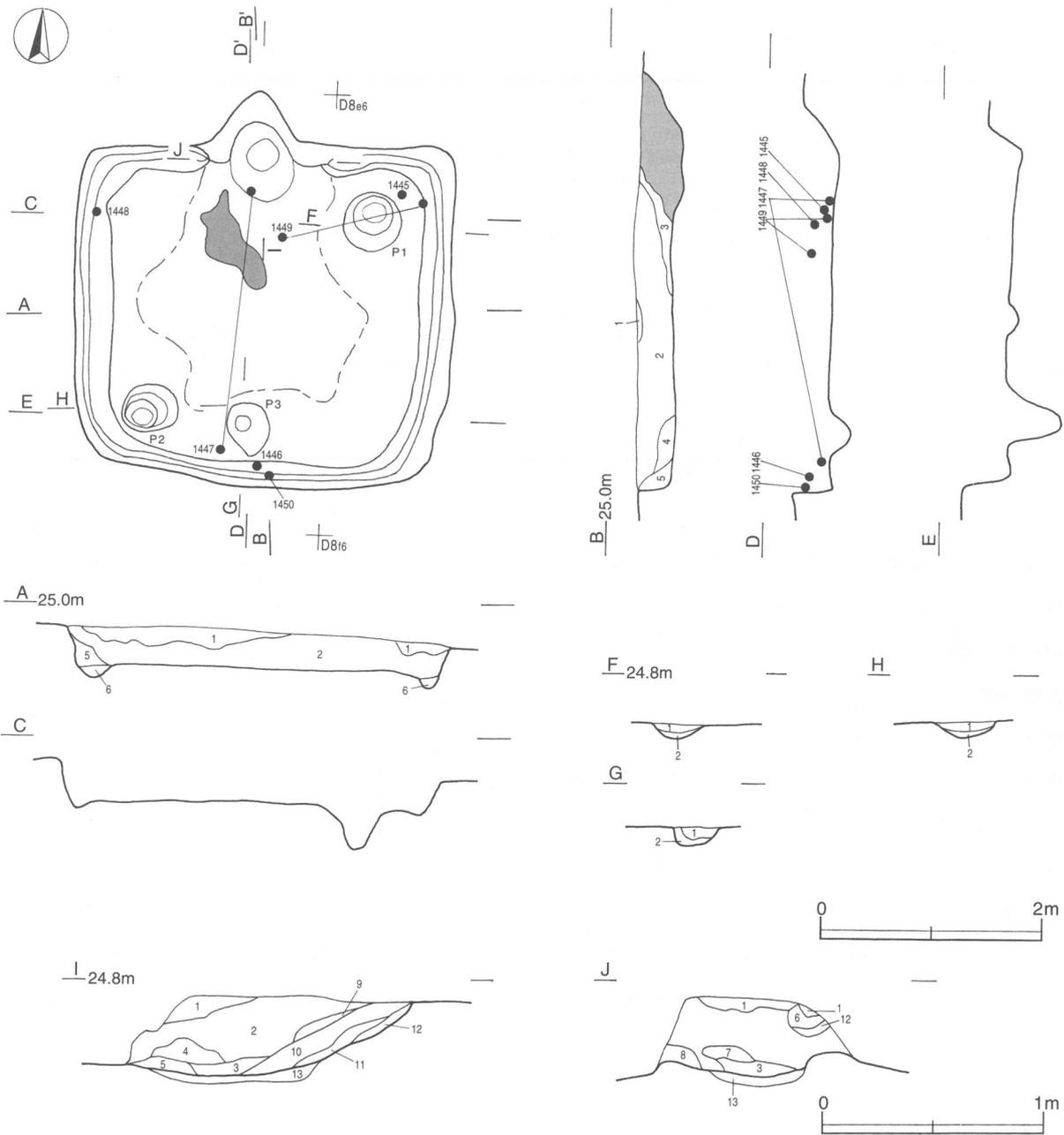
床 はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に設けられている。袖部は攪乱を受けており遺存しない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ98cmである。煙道部は，北壁を幅83cm，奥行き48cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は35度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径73cm，短径55cmの楕円形に確認面から78cmほど掘り込み，ローム小ブロック・焼土小ブロックを含んだ暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は，床面から4cmほど下がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 8 暗褐色 | 粘土小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量 | 9 にぶい黄色 | 粘土粒子多量, 砂粒少量 |
| 3 暗赤褐色 | 火熱を受け赤変硬化した砂質粘土多量 | 10 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック少量 |
| 4 にぶい黄色 | 粘土粒子多量 | 11 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子多量 | 12 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 粘土小ブロック多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量(掘り方) |
| 7 にぶい黄褐色 | 粘土中ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 炭化物微量 | | |

ピット 3か所 (P1~P3)。P1・P2はそれぞれ径55cm・50cmの円形, 深さ41cm・50cmで, 各コーナーから主柱穴の可能性がある。P3は長径47cm, 短径33cmの楕円形, 深さ9cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。



第416図 第412号住居跡実測図

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
|-------|--------------------------------|-------|------------------|

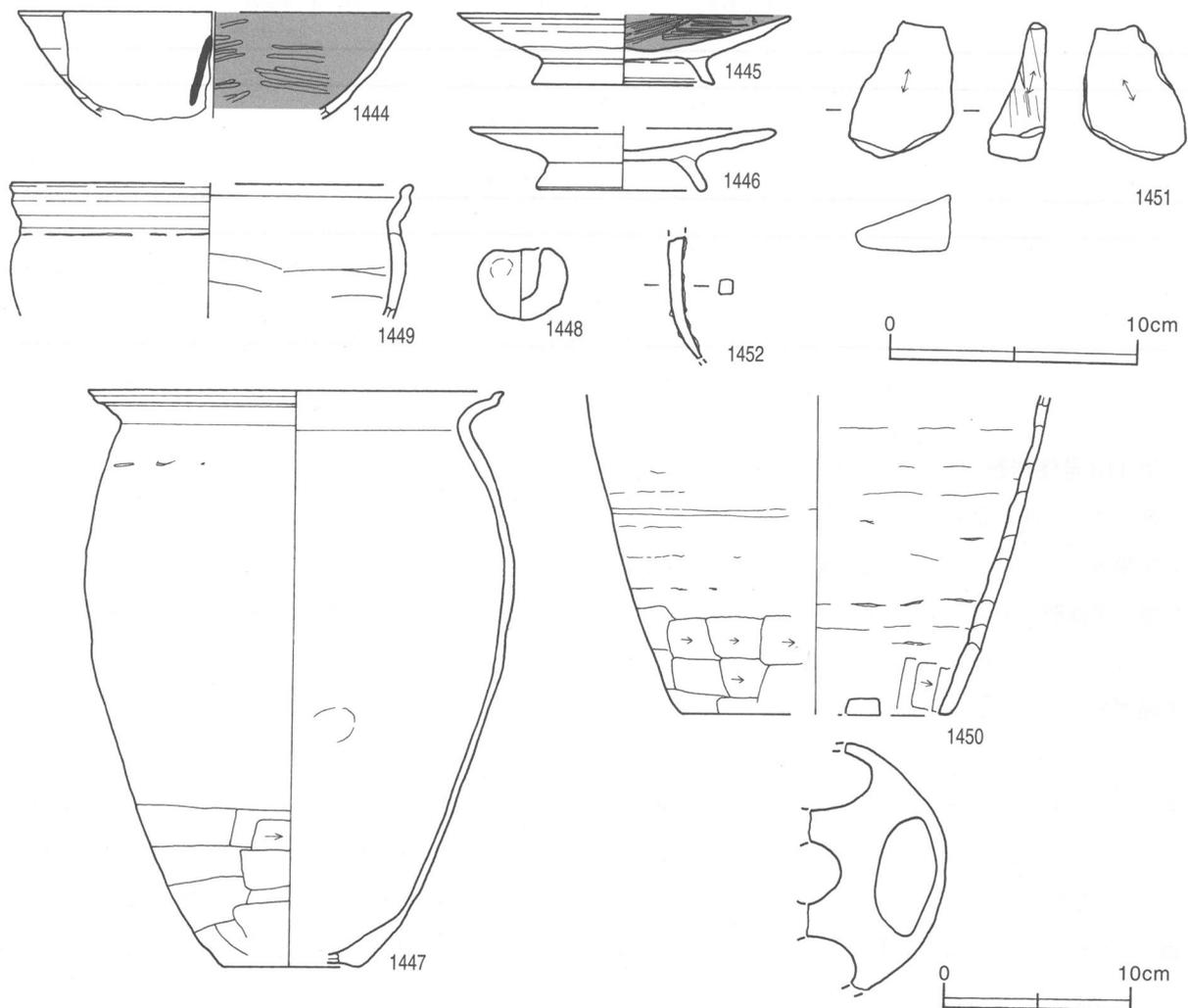
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 4 黒褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土中ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・粘土大ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片330点, 須恵器片122点, 灰釉陶器片1点, 土製品1点(管状土錘), 石器1点(砥石), 不明鉄製品1点が出土している。第417図1445の土師器高台付皿は北東コーナー部の覆土下層から, 1446の土師器高台付皿は南壁際の覆土中層から, 1448の土師器ミニチュア土器は西壁際の覆土中層から, 1450の須恵器甃は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。1447の土師器甕は, 竈焚口部付近と南壁際の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。1449の須恵器甕は, 北東コーナー部の覆土下層と中央部北寄りの覆土上層から出土した破片が接合したものである。1444の土師器高台付椀, 1451の砥石, 1452の不明鉄製品はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第417図 第412号住居跡出土遺物実測図

第412号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第417図 1444	高台付碗 土師器	A [16.0] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	10% 体部外面墨書「□」
1445	高台付皿 土師器	A [13.6] B 2.8 D 7.4 E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部・底部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	40% PL222
1446	高台付皿 土師器	A [12.4] B 2.5 D 6.9 E 1.2	高台部から口縁部の破片。高台は長く、ハの字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・赤色粒子 橙色普通	30% PL222
1447	甕 土師器	A 21.8 B 30.9 C [7.3]	底部から口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位へラ削り。内面指頭押圧後ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色普通	65% PL223
1448	ミニチュア土器 土師器	A 2.0 B 3.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指頭押圧。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい黄橙色、普通	100% PL222
1449	甕 須恵器	A [16.2] B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。頸部外面棒状工具による沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ナデ、内面へラナデ。外面輪積み痕あり。	砂粒・石英 黄灰色普通	5% PL222
1450	甗 須恵器	B (17.1) C [14.0]	底部から体部の破片。五孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部内・外面下端へラ削り。底部へラ削り。内・外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子にぶい橙色、普通	20% PL223

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1451	砥石	(5.6)	4.2	2.3	(43.4)	凝灰岩	3面に使用痕。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1452	不明	(5.0)	0.7	0.8	(8.2)	鉄	断面は方形。一方で屈曲する。	

第413号住居跡 (第418・419図)

位置 調査区域の北東部、D8e2区。

重複関係 第227号住居に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 南部が第227号住居に掘り込まれているため、確認された南北軸は2.15mで、東西軸は2.90mである。方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は40~44cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、竈の前面から中央部にかけて踏み固められている。外周部はロームを床としているが、中央部は貼床である。貼床は、中央部を、確認される長径164cm、短径121cmの楕円形、確認面からの深さ74cmほどの土坑状に掘り込み、ロームブロックとローム粒子を含む暗褐色土を埋土して構築されている。

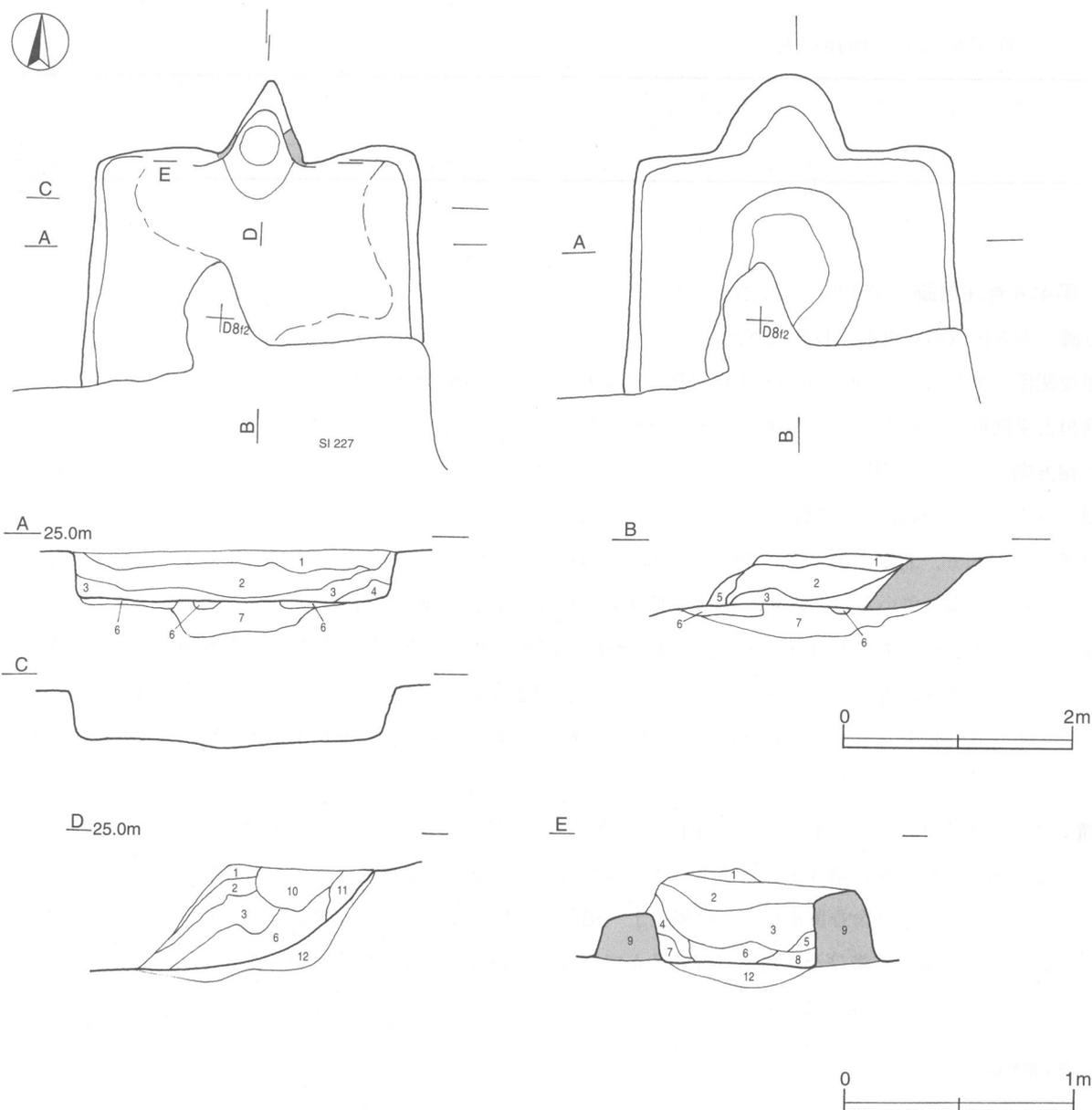
竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ104cm、袖部最大幅121cmである。攪乱を受け、両袖部の大部分が壊されている。遺存する部分は、ロームブロックを含む黒褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は、北壁を幅110cm、奥行き66cmにわたり半円形に掘り込んでいいる。煙道は40度の傾

きで立ち上がる。火床部は、径60cmの楕円形に確認面から51cmほど掘り込み、ロームブロック・焼土ブロックを含んだにぶい赤褐色土で埋土してつくっている。火床面は径35cmの円形で、厚さ9cmほどが赤変硬化している。

甕土層解説

- | | | | |
|----------|--|-----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量，粘土粒子少量，砂粒微量 | 9 黒褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量，粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 褐灰色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量，砂粒微量 | 11 にぶい黄褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 5 褐灰色 | 粘土粒子少量，砂粒微量 | 12 にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量(掘り方) |
| 6 にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 7 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物微量 | | |

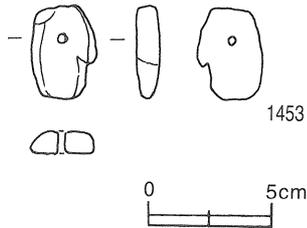
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



第418図 第413号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子少量, 砂粒微量
- 6 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 (貼床)
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 (貼床)



遺物 土師器片56点, 須恵器片10点, 土製品1点 (支脚片), 石器1点 (砥石) が出土している。第419図1453の砥石は覆土中から出土している。

所見 本跡は, 遺物が細片のため時期決定は困難であるが, 本跡を掘り込んでいる第227号住居の時期が9世紀中葉と考えられることと出土土器から, 時期は9世紀中葉以前と推定される。

第419図 第413号住居跡
出土遺物実測図

第413号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第419図1453	砥石	3.7	2.6	0.9	11.0	凝灰岩	径0.3cmの穿孔あり。	P L 253

第414号住居跡 (第420・421図)

位置 調査区域の北東部, D 8 d2区。

重複関係 第1937・1959・1960号土坑に掘り込まれており, 本跡がいずれよりも古い。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸3.03mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は26~30cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分, 北壁, 第1937・1959・1960号土坑に掘り込まれている部分及び攪乱を受けている部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅9~16cm, 下幅4~8cm, 深さ8cmで, 断面はU字形である。

床 わずかな起伏はあるがほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。外周部及び中央部南寄りには地山を床としているが, 中央部北寄りは貼床である。貼床は, 長径230cm, 短径106cmの楕円形で, 確認面から深さ84cmほどの土坑状に掘り込み, ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む褐色土及び暗褐色土を埋土して構築されている。

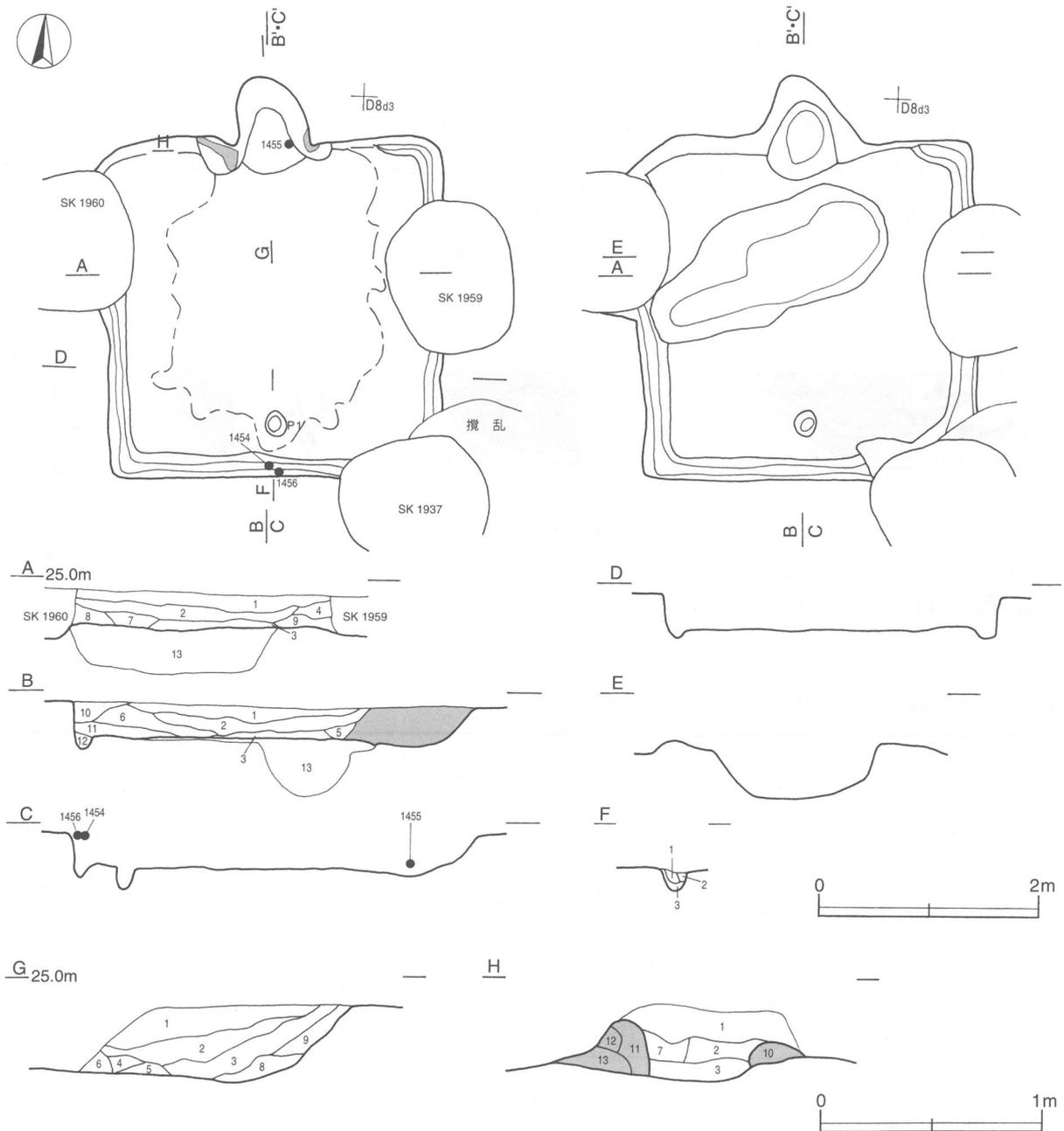
竈 北壁の中央部に設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ88cm, 袖部最大幅121cmである。天井部は崩落しており, 第3層が崩落土と考えられる。袖部はロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・粘土粒子を含む黄褐色土・暗褐色土・褐色土で構築されている。煙道部は, 北壁を幅95cm, 奥行き55cmにわたり, 丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は, 45度の傾きで立ち上がる。火床部は, 地山を確認面から33cmまでの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・砂粒微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・粘土大ブロック少量

- 3 赤褐色 焼土小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 4 灰黄褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・砂粒微量
- 5 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 8 にい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量
- 9 にい黄褐色 粘土中ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 10 暗褐色 焼土小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子少量
- 12 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 13 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量

ピット 1か所。P1は長径22cm, 短径19cmの楕円形, 深さ16cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。



第420図 第414号住居跡実測図

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・粘土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

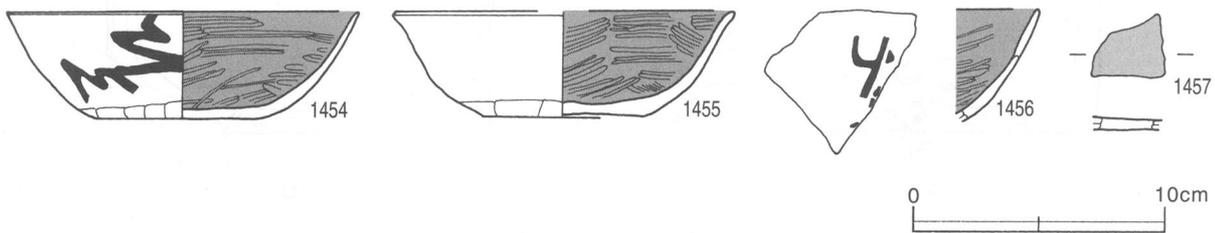
覆土 12層からなる。不規則に堆積していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 7 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
- 11 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子中量
- 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量(貼床)

遺物 土師器片76点, 須恵器片89点, 緑釉陶器片1点, 不明鉄製品1点が出土している。第421図1454・1456の土師器坏は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。1455の土師器坏は竈の覆土下層から, 1457の緑釉陶器の底部片は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 重複関係と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第421図 第414号住居跡出土遺物実測図

第414号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1454	坏 土師器	A 14.1 B 4.2 C 6.5	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に多い橙色普通	50% P L 222・246 体部外面墨書 横位「万坏」
1455	坏 土師器	A 13.5 B 4.2 C 6.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後, 1方向のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子に多い橙色普通	40% P L 222
1456	坏 土師器	B (5.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・赤色粒子に多い明褐色普通	5% P L 246 体部外面墨書 倒位「万坏」
1457	碗 緑釉陶器	C (3.1)	底部の破片。	底部回転ヘラ削り。底部内・外面施釉。刷毛塗り。	細砂, 胎土 灰色 オリープ黄釉 良好	5%

第415号住居跡（第422・423図）

位置 調査区域の北東部，B 8 el区。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.26mの長方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は15～21cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分，攪乱を受けている西壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅7～15cm，下幅2～7cm，深さ6cmで，断面はU字形である。

床 わずかな起伏がある。中央部は踏み固められている。中央部はロームを床としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って幅33～133cm，確認面から深さ32～78cmほど溝状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。竈焚口部付近で焼土ブロックを多量に含む赤変硬化した焼土塊が3か所検出されたが，いずれも床面から10～20cm上位にあり，投棄されたものと思われる。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ137cm，袖部最大幅127cmである。東袖部はロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・粘土ブロック・粘土粒子を含む黄褐色土及び赤褐色土で構築されている。また，土師器鉢が東袖部の補強材として利用されている。西袖部は地山を半円形に掘り残して芯とし，周りにローム粒子・粘土ブロック・粘土粒子を含む黄褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は，北壁を幅100cm，奥行き60cmにわたり，丸みを帯びた三角形に掘り込んでいく。煙道は，40度の傾きで立ち上がる。火床部は，地山を確認面から33cmまでの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量	7 にぶい黄褐色	粘土粒子中量，粘土中ブロック少量，焼土粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土大ブロック中量，砂粒微量	8 黄褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量
3 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量	9 にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
4 暗褐色	焼土小ブロック中量，灰少量	10 にぶい黄褐色	ローム粒子中量，粘土小ブロック・粘土粒子少量
5 褐色	焼土小ブロック中量		
6 黒褐色	焼土大ブロック少量		

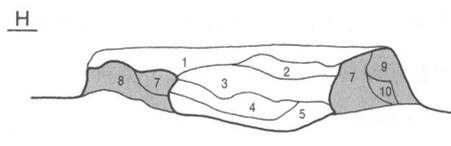
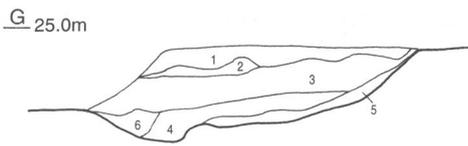
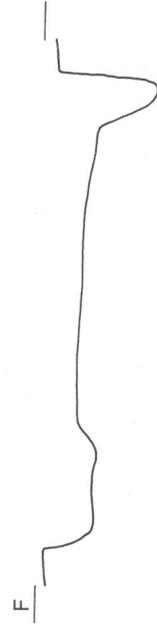
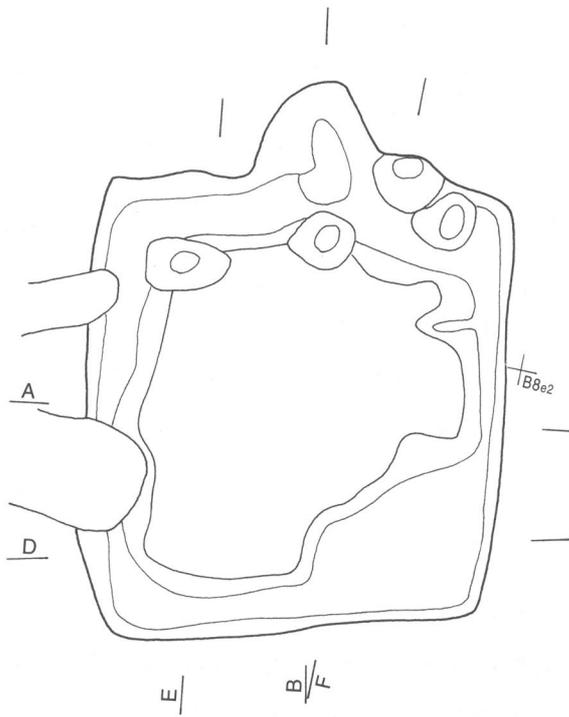
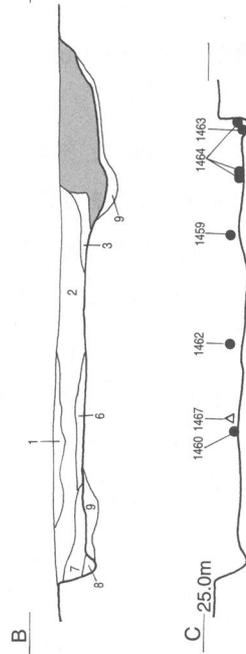
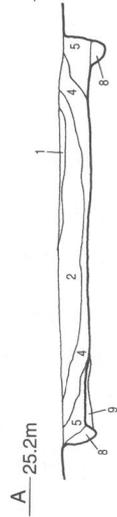
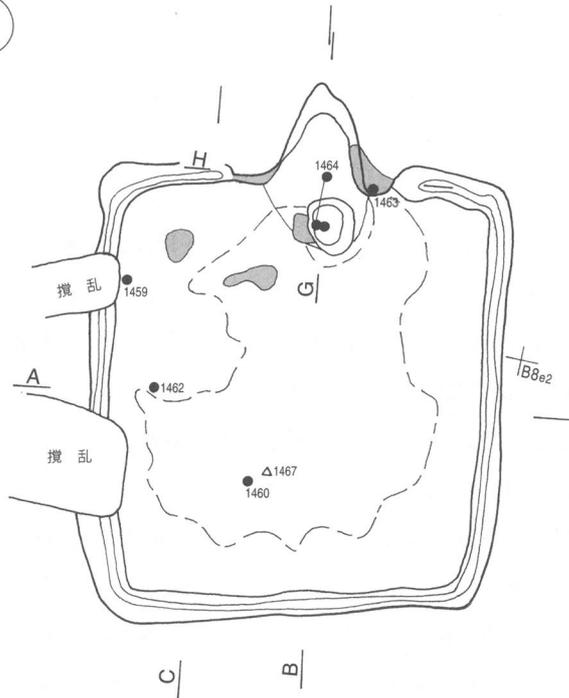
覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

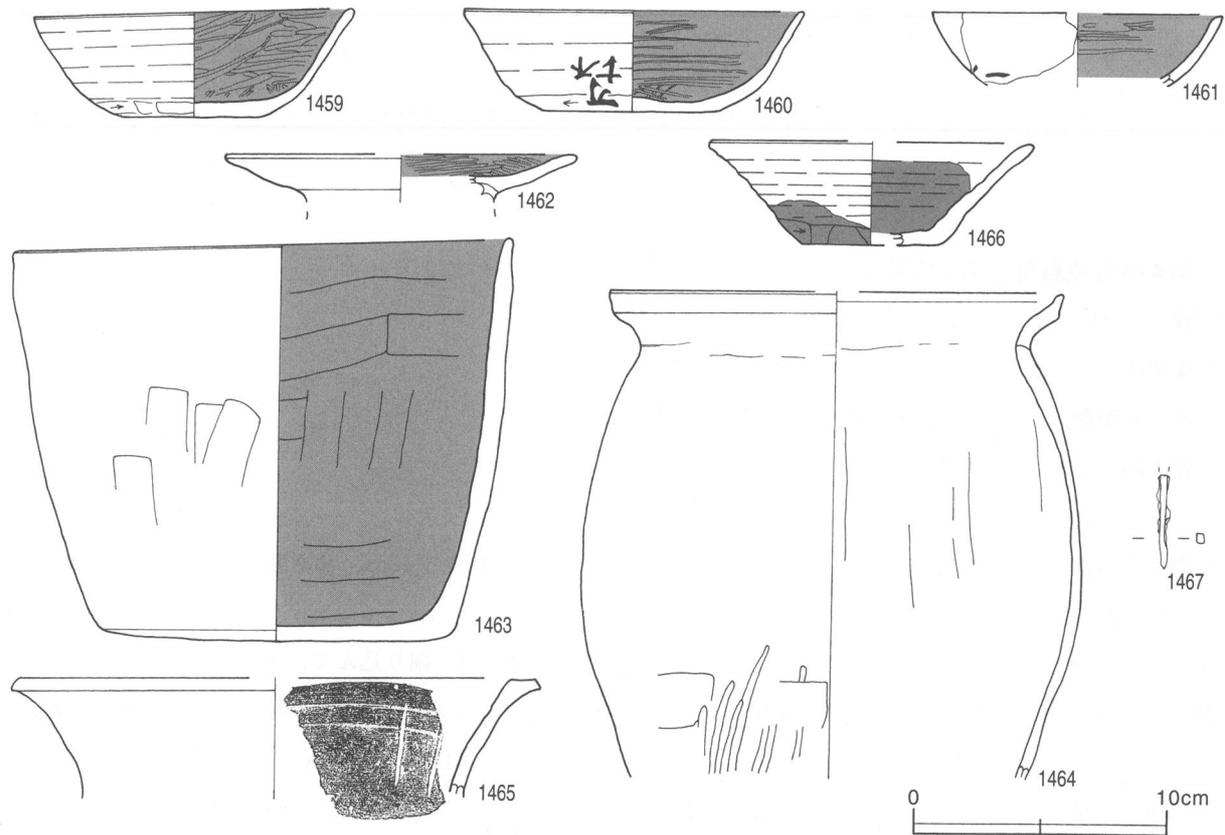
1 黒褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量	6 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量
2 暗褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化物少量	7 極暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4 暗赤褐色	ローム中ブロック少量	9 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土粒子微量（貼床）
5 褐色	ローム大ブロック中量		

遺物 土師器片285点，須恵器片111点，土製品1点（管状土錘），鉄器3点（釘）が出土している。第423図1459の土師器坏は西壁際の覆土中層から，1460の土師器坏は中央部南寄りの覆土下層から，1462の土師器高台付皿は西壁付近の覆土中層から，1463の土師器鉢は竈東袖部内から，1464の土師器甕は竈内の覆土下層から，1467の釘は中央部南寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。1463の土師器鉢は，東袖部の補強材として使用されていたものである。1461の土師器坏，1465の土師器甕，1466の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。1460の土師器坏は体部外面に倒位で「万坏」の墨書が，1461の土師器坏は体部外面に墨書痕がそれぞれ認められる。1465の土師器甕はヘラ記号が認められる。

所見 本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第422图 第415号住居跡实测图



第423図 第415号住居跡出土遺物実測図

第415号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1459	坏 土師器	A 12.7 B 4.3 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎 気味に立ち上がり、口縁部にいた る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ 磨き。底部1方向のヘラ削り。内面 黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい褐色 普通	95% P L 222
1460	坏 土師器	A 13.4 B 4.0 C 6.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は内彎して立ち上がり、口縁部はわ ずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部外面下端手持ちヘラ削り、内面 ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 明褐色 普通	90% P L 222 体部外面墨書 倒位「万坏」
1461	坏 土師器	A [11.6] B (2.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 気味に立ち上がり、口縁部にいた る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	5% 体部外面墨書 「□」
1462	高台付皿 土師器	A [14.0] B (1.9)	体部から口縁部の破片。体部は大き く開き、口縁部はわずかに外反す る。高台部欠損。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英 橙色 普通	20% P L 223
1463	鉢 土師器	A 19.8 B 16.0 C 14.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部 は直立して立ち上がり、口縁部にい たる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上 位ナデ、下位ヘラ削り。体部内面ヘ ラナデ。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	80% P L 223
1464	甕 土師器	A [18.0] B (19.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎 して立ち上がり、口縁部は外反する。 端部は外上方につまみ上げられてい る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上 位ナデ、下位ヘラ削り後、縦位のヘ ラ磨き。体部内面ヘラナデ。内・外 面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	20% P L 223
1465	甕 土師器	A [20.6] B (4.7)	口縁部の破片。口縁部は外反して立 ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	5% 口縁部外面ヘ ラ記号
1466	坏 須恵器	A [12.8] B 4.1 C [5.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部 は外反して立ち上がり、口縁部にい たる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部1方 向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄褐色 普通	20% 内・外面煤付 着

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第423図1467	釘	(3.8)	0.4	0.3	(1.5)	鉄	頭部欠損。	

第416号住居跡（第425図）

位置 調査区域の中央部，D 7 e6区。

重複関係 第329号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.72m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は15～37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅11～21cm，下幅4～13cm，深さ8cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山のロームを平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ115cm，袖部最大幅119cmである。袖部は，ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック混じりの褐色土・暗褐色土・黒褐色土・黄褐色土で構築されている。煙道部は，北壁を幅150cm，奥行き80cmにわたり三角形に掘り込んでい。煙道は，45度の傾きで立ち上がる。火床部は，長径80cm，短径50cmの不整形に，確認面から43cmほど掘り込み，焼土ブロックを含んだ赤褐色土で埋土してつくっている。火床面は，厚さ7cmほどが赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------------|-----------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量 | 13 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，焼土大ブロック微量 | 14 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量 | 15 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム小ブロック微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，粘土中ブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土小ブロック少量，焼土中ブロック微量 | 17 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子少量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子少量 |
| 9 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量 | 19 にぶい黄褐色 | 粘土大ブロック・焼土小ブロック少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子少量 | 20 暗赤褐色 | 焼土粒子少量（掘り方） |
| | | 21 赤褐色 | 焼土粒子中量（掘り方） |

ピット 1か所。P 1は径32cmの円形，深さ20cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|------|------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量 | 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
|------|------------|-------|------------------|

覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，炭化物微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量 | 6 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量 |
| | | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 |

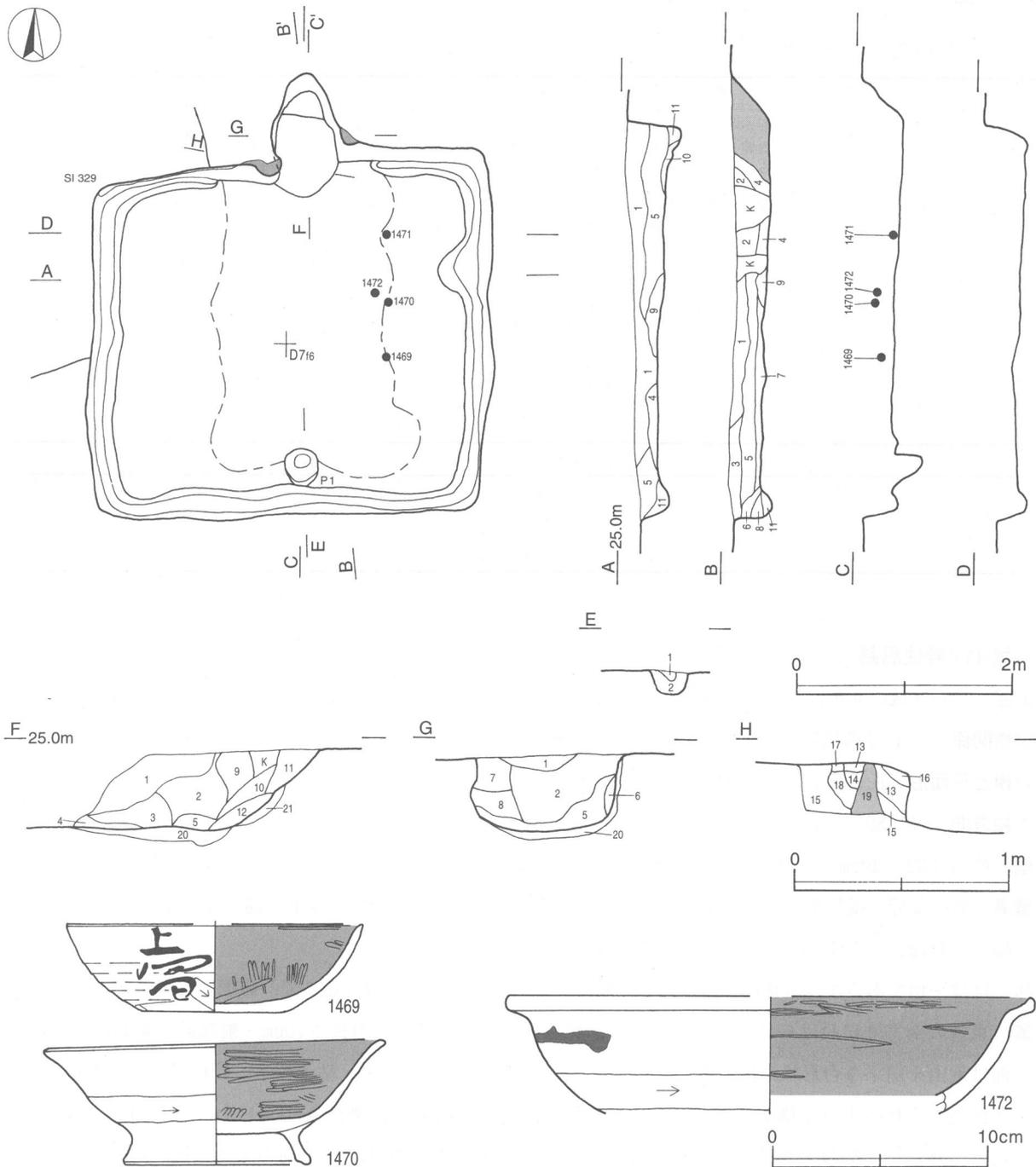
9 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量

10 褐色 ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量

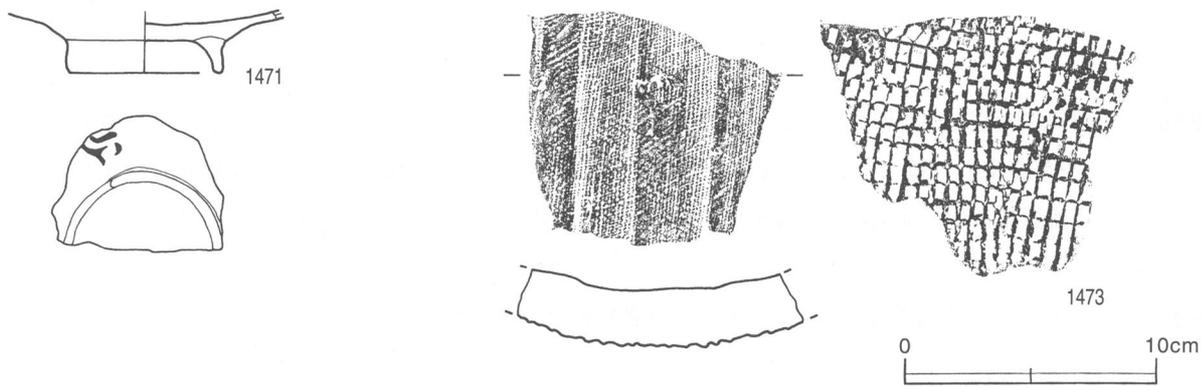
11 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片104点, 須恵器片42点, 瓦片2点が出土している。第424図1469の土師器坏, 1470の土師器高台付椀は中央部東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。1471の土師器高台付皿は北東部の覆土下層から, 1472の土師器椀は中央部東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。1473の平瓦は, 覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 重複関係と出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第424図 第416号住居跡・出土遺物実測図



第425図 第416号住居跡出土遺物実測図

第416号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 1469	坏 土師器	A 13.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子 橙色 普通	20% PL222 体部外面墨書 正位「上富」
		B 4.2				
		C 6.4				
1470	高台付椀 土師器	A 15.8	体部・口縁部一部欠損。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母・赤色粒子 明黄褐色 普通	70% PL223
		B 5.6				
		D 8.4				
		E 1.5				
第425図 1471	高台付坏 土師器	B (2.5)	高台部から体部の破片。高台はわずかにハの字状に開く。体部は外傾して開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	30% 体部外面墨書 「□」
		D [6.0]				
		E 1.2				
第424図 1472	鉢 土師器	A [24.2]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はつまみ上げられている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英 にぶい黄褐色 普通	10% 体部外面油煙 付着
		B (5.4)				

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第425図1473	平瓦	(10.5)	(11.4)	2.2	(309.0)	凹面布目痕、凸面格子目叩き。	

第417号住居跡 (第426・427図)

位置 調査区域の北東部、D7b7区。

重複関係 第24号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.48m、短軸4.40mの長方形である。

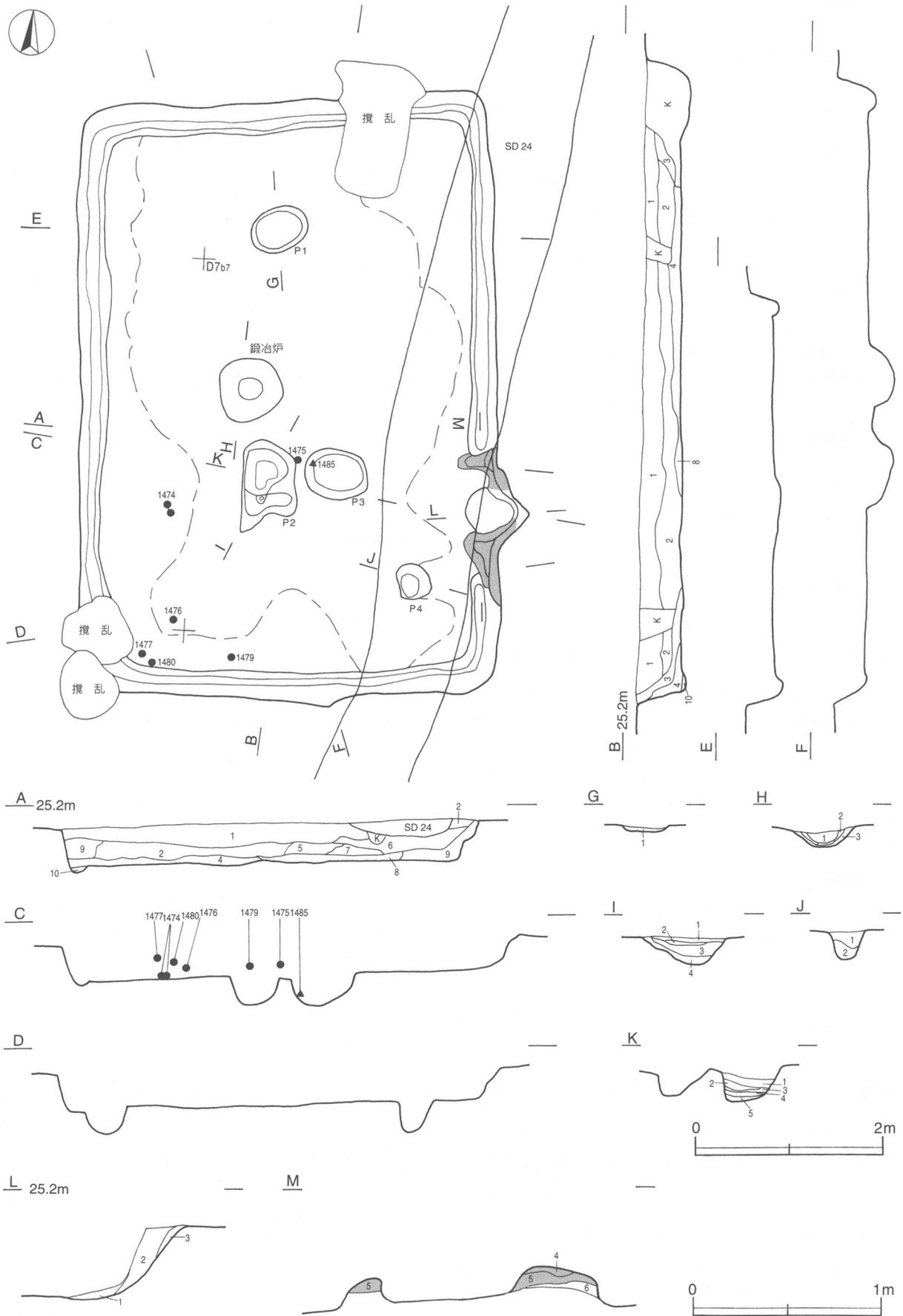
主軸方向 N-89°-E

壁 壁高は32~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分、攪乱を受けている北壁の一部、南西コーナー部を除いて、壁下を巡っている。上幅8~25cm、下幅4~15cm、深さ7cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦であるが、全体的に踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 東壁の南寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ70cm、袖部最大幅138cmである。袖部は地山を扁平な台形状に掘り残して芯とし、その上部にローム粒子・粘土粒子・砂粒混じりの褐色土及び灰黄褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、北壁を幅80cm、奥行き50cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は、55度の傾きで立ち上がる。火床部は、地山を確認面から40cmの深さに掘り込んでつくっている。



第426图 第417号住居跡実測图

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 4 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量 |
| 2 褐色 | 焼土小ブロック微量 | 5 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, 砂粒少量 |
| 3 明黄褐色 | 粘土粒子・砂粒少量 | 6 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |

ピット 4か所 (P1～P4)。P1は中央部北寄りに位置し、長径62cm、短径48cmの楕円形、深さ10cmで、底面が赤変し、覆土中に鉄滓が含まれている。P2は中央部に位置し、長径101cm、短径55cmの不整楕円形、深さ40cmで、ロームブロックの中に鍛造剥片が多量に混じっている。P3は中央部に位置し、長径68cm、短径52cmの楕円形、深さ38cmである。覆土中層から鍛造剥片が、覆土下層から鉄滓・雲母片岩がそれぞれ多く出土している。雲母片岩には被熱痕がみられる。また、鞆羽口片が出土している。これらのことから、P1～P3は鍛冶関連施設と考えられる。P4は南東コーナー部に位置し、径37cmの円形、深さ29cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

P1土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム小ブロック・鉄滓少量 | 2 黒褐色 | 鍛造剥片多量, 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量 |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------------------|

P2土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・鍛造剥片少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 鉄滓多量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック少量 | 4 黒褐色 | 鍛造剥片多量, ローム粒子少量 |
| 3 にがい赤褐色 | 鉄滓中量, ローム中ブロック少量 | 5 褐色 | 鍛造剥片多量, ローム粒子・鉄滓中量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック・鉄滓少量 | | |

P3土層解説

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 1 黄褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, 炭化物微量 |
|-------|---------------------------------|

P4土層解説

- | | |
|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム大ブロック中量 |

鍛冶炉 中央部に設けられている。径67cmの円形、深さ47cmである。底面は赤変硬化し、その上部には鍛造剥片が多量に混じった青灰色の層、さらにその上部には鉄滓が混じった層がみられる。

鍛冶炉土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|-------|-------------------|
| 1 青黒色 | 鉄滓中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 3 赤褐色 | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子中量 |
| 2 暗青灰色 | 鍛造剥片多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム小ブロック微量 | | |

覆土 10層からなる。ブロック状に堆積していることから、人為堆積と思われる。

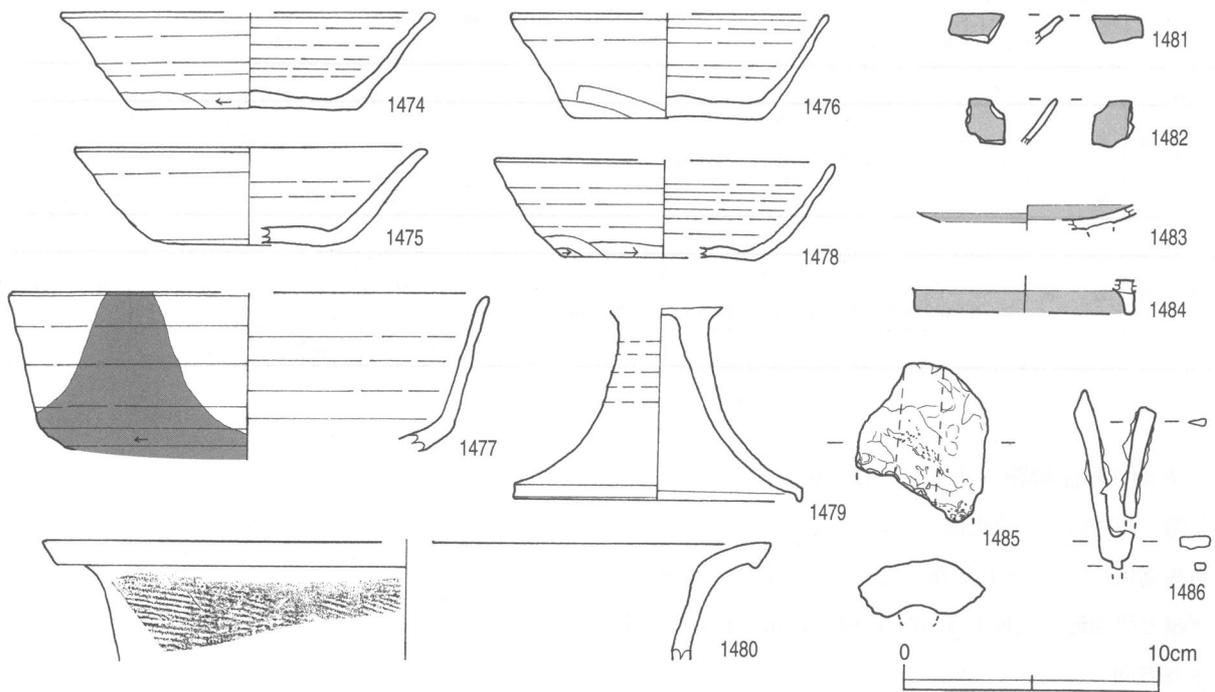
土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 粘土粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量, 焼土小ブロック微量 | 7 極暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | 8 灰黄褐色 | ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 9 灰黄褐色 | 粘土粒子中量, ローム小ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片307点、須恵器片268点、緑釉陶器片4点、土製品1点(鞆羽口)、鉄器1点(鏃)、椀状滓4点(1,080g)、鉄滓(3,613g)、粒状滓、鍛造剥片が出土している。第427図1474の須恵器坏は中央部南西寄りの床面から、1475の須恵器坏は中央部の覆土中層から、1476の須恵器坏は南西コーナー部付近の覆土下層から、1477の須恵器坏は南西コーナー部付近の覆土中層から、1479の須恵器高盤は南壁付近の覆土中層から、1480の須恵器甕は南西コーナー部付近の覆土中層からそれぞれ出土している。1481～1484の緑釉陶器片は覆土中からそれぞれ出土し、混入したと考えられる。1485の鞆羽口はP3の覆土中層から出土している。1486の鉄鏃は覆土中から出土している。

所見 本跡は、鍛冶炉の可能性のあるP2や鍛冶関連施設と考えられるP1・P3が検出されていること、床

面中央部に鉄滓が集中して検出されていることから、鍛冶工房跡と思われる。本跡の時期は、重複関係と出土土器から、8世紀中葉と推定される。



第427図 第417号住居跡出土遺物実測図

第417号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第427図 1474	坏 須恵器	A [14.7] B 3.8 C 8.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	50% P L 223
1475	坏 須恵器	A [13.8] B 3.8 C [7.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	40% P L 223
1476	坏 須恵器	A [12.5] B 4.1 C 7.3	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 暗灰黄色 普通	40% P L 223
1477	坏 須恵器	A [18.8] B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。体部下端に稜を持つ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 黄褐色 普通	15% 体部外面煤付着
1478	坏 須恵器	A [13.4] B 3.8 C [7.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 暗灰黄色 普通	20% P L 223
1479	高盤 須恵器	D 11.3 E 7.6	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ロクロナデ。脚部下端回転ヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰色 普通	50% P L 223
1480	甕 須恵器	A [28.8] B (4.8)	体部上位から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部は上下に突出している。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	5%
1481	椀 緑釉陶器	B (1.1)	口縁部の破片。	口縁部内・外面ロクロナデ。内・外面施釉。刷毛塗り。	緻密、胎土にぶい黄 橙色、オリブ釉 良好	5%
1482	椀 緑釉陶器	B (1.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内・外面施釉。刷毛塗り。	緻密、胎土黄灰色 オリブ黒色釉 良好	5%

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第427図 1483	皿 緑釉陶器	B (1.0)	体部の破片。体部は大きく開き立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。内・外面施釉。刷毛塗り。	緻密、胎土にぶい橙色、浅黄色釉、良好	5%
1484	皿 緑釉陶器	B (1.4) D [8.6] E 0.9	高台部の破片。高台はややふんばる。	高台貼り付け後、ロクロナデ。底部内面、高台部施釉。刷毛塗り。	緻密、胎土灰黄色、オリーブ黄色釉、良好	5%

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
1485	罎羽口	(6.4)	(5.3)	(1.7)	(45.6)	一方の先端部分残存。被熱痕。	P L 252

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	鉄身長(cm)	身幅(cm)	竈被部長(cm)	竈被部幅(cm)	重量(g)			
1486	鉄	(7.2)	6.8	(3.2)	(0.4)	0.4	(9.5)	鉄	鉄身部は雁又。	

第418号住居跡（第428・429図）

位置 調査区域の北東部、D 8 c2区。

重複関係 第320号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.20m、短軸3.42mの長方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分、攪乱を受けている北壁、南東コーナー部を除いて、壁下を巡っている。上幅10～21cm、下幅2～12cm、深さ8cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁下にかけて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部やや東寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ139cm、袖部最大幅131cmである。袖部は壁内のほとんどの部分が攪乱されており、壁内の一部と壁外の部分だけが残存する。袖部は砂粒混じりの粘土ブロックで構築されている。煙道部は、北壁を幅116cm、奥行き73cmにわたり、丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は、35度の傾きで立ち上がる。火床部は、径85cmの不整形、確認面からの深さ66cmほどに掘り込まれている。この掘り込みに、ロームブロック・焼土ブロックを含む暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は、床面から8cmほど下がっており、北壁ラインの外側に位置する。

竈土層解説

1	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、粘土小ブロック微量	6	暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量	7	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
3	にぶい赤褐色	焼土小ブロック多量、炭化物中量	8	黄褐色	粘土粒子多量、砂粒少量
4	褐色	ローム小ブロック・粘土大ブロック少量、ローム粒子・砂粒微量	9	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック微量(掘り方)
5	褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、砂粒微量	10	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック少量(掘り方)

ピット 1か所。P 1は長径42cm、短径35cmの楕円形、深さ33cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

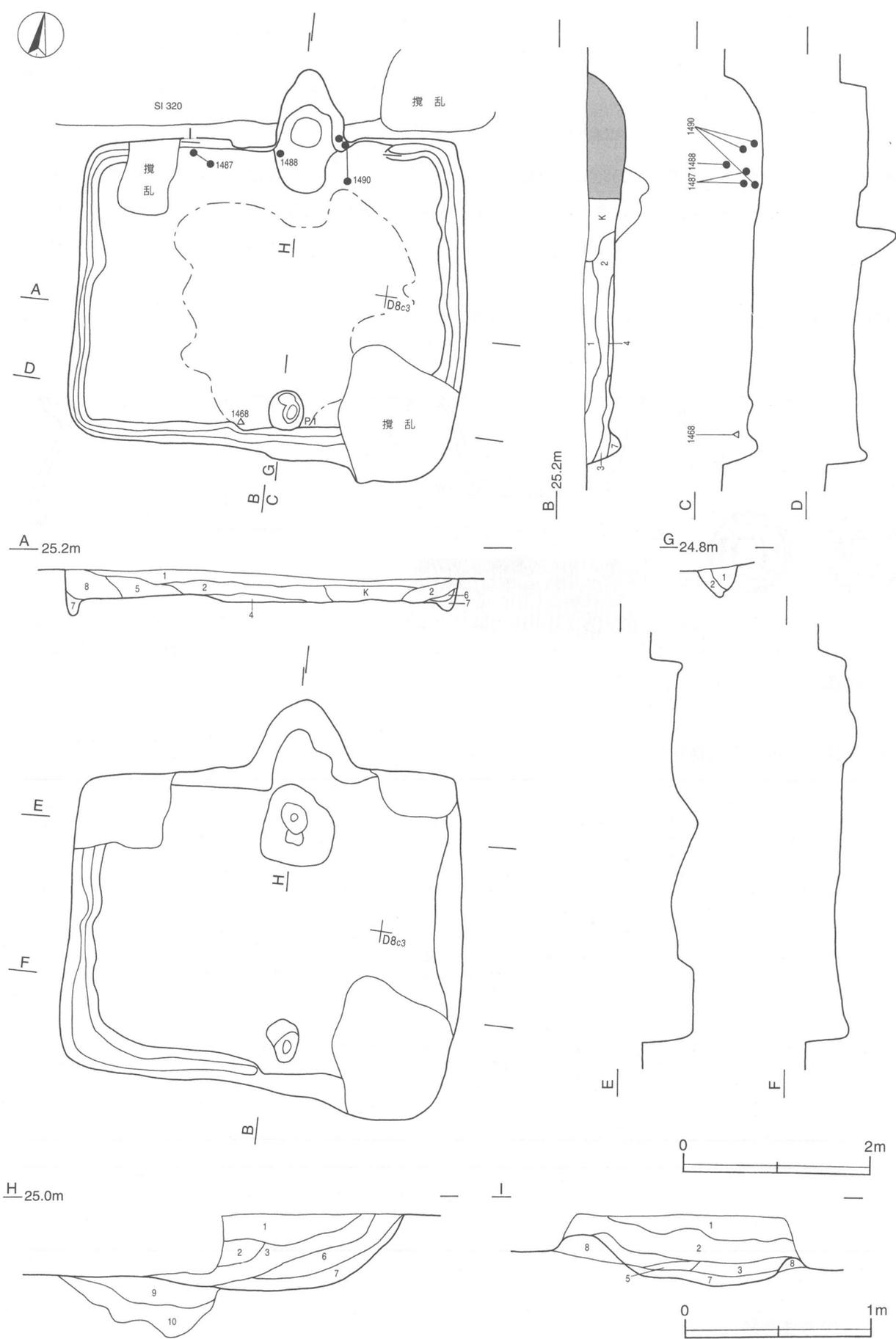
ピット土層解説

1	褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
---	----	-----------------------	---	----	-------------------------------

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量	2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
---	-----	---	---	-----	---

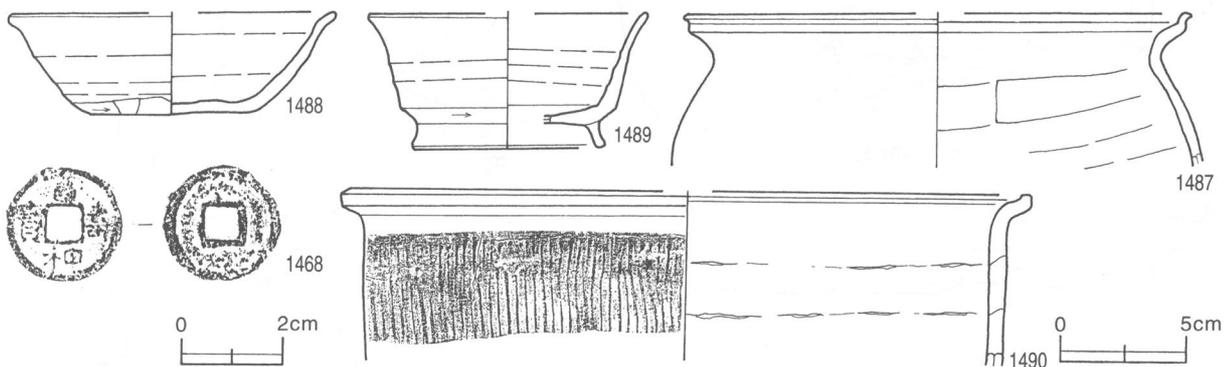


第428图 第418号住居迹实测图

- | | | | |
|-------|---|-------|---------------------------------------|
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子微量 |

遺物 土師器片 233点, 須恵器片 253点, 灰釉陶器片 1点が出土している。第429図1487の土師器甕は北壁際の覆土下層から, 1488の須恵器坏は竈の覆土上層から, 1490の須恵器甕は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。1489の須恵器高台付坏は, 覆土中から出土している。1468は皇朝十二銭の「富壽神寶」は, 南壁際の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 重複関係と出土土器から, 9世紀前葉と推定される。



第429図 第418号住居跡出土遺物実測図

第418号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 1488	坏 土師器	A [12.8] B 4.0 C 6.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	雲母・石英 橙色 普通	50% PL 223
1487	甕 土師器	A [20.0] B (6.0)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎し, 口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。	雲母・赤色粒子 赤褐色 普通	10% PL 223
1489	高台付坏 土師器	A [10.9] B 5.4 D [7.5] E 1.0	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。体部下端に稜をもつ。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り, 高台貼り付け後, ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰白色 普通	50% PL 223
1490	甕 須恵器	A [27.0] B (6.8)	体部上位から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部は強く屈曲し, 端部はわずかにつまみ上げられている。端部は棒状工具による沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き, 内面ナデ。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母 にぶい橙色	10% 二次焼成

遺物番号	銭名	計測値				初鑄年(時代, 年号)	特徴	備考
		径(cm)	孔(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1468	富壽神寶	2.3	0.6×0.6	0.2	2.8	平安, 弘仁9年(818年)	皇朝十二銭。銅銭。背面無文。	PL 258

第419号住居跡(第430・431図)

位置 調査区域の北東部, D 8 a2区。

重複関係 第320号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.60m、短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は5~20cmで、外傾して立ち上がる。

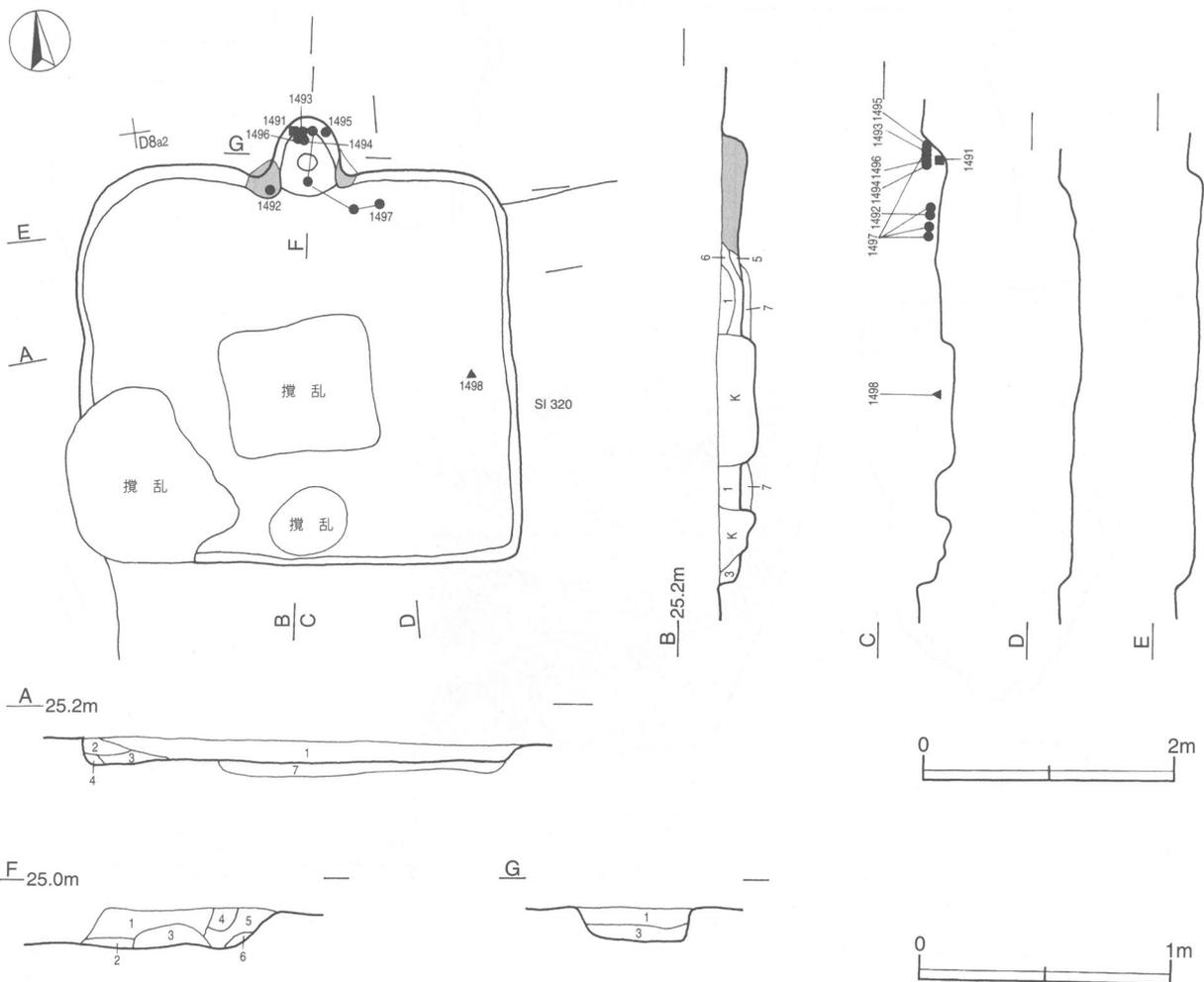
床 ほぼ平坦で、特に踏み固められた部分はみられない。中央部は貼床である。貼床は、焼土小ブロック・粘土小ブロック・ローム中ブロックを含む灰褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ67cm、袖部最大幅89cmである。袖部は、ロームブロック・粘土ブロック混じりの褐色土で構築されている。煙道は、47度の傾きで立ち上がる。火床部は、地山を確認面から14cmの深さに掘り込んでつくっている。雲母片岩が支脚として転用されている。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

竈土層解説

- | | |
|--|---|
| <p>1 極暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量</p> <p>2 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化材微量</p> <p>3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量</p> | <p>4 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子中量、焼土小ブロック少量</p> <p>5 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック微量</p> <p>6 極暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量</p> |
|--|---|



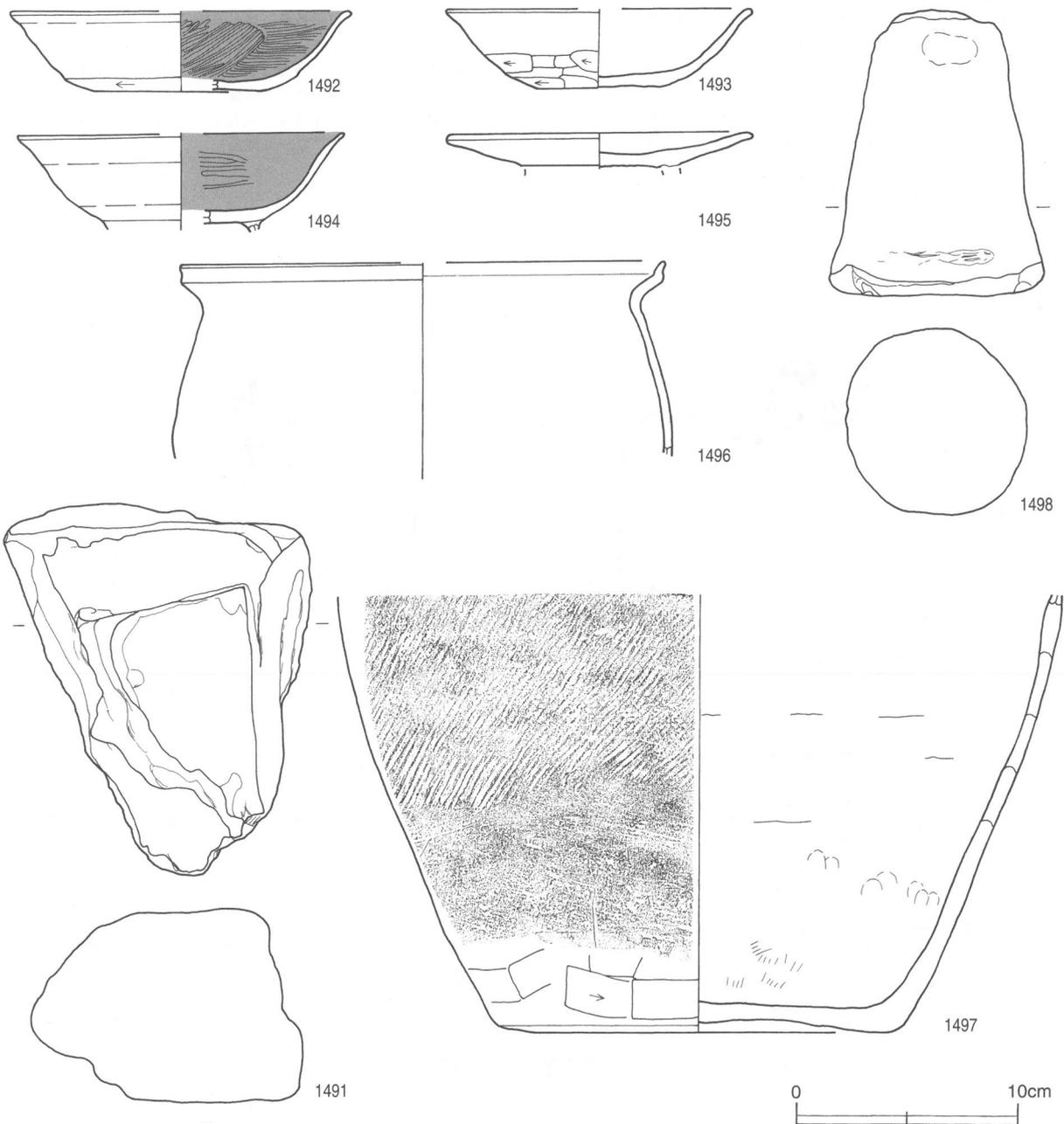
第430図 第419号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム中ブロック・粘土粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量（貼床） |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量 | 7 灰褐色 | 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック微量（貼床） |
| 4 褐色 | ローム中ブロック少量 | | |

遺物 土師器片151点，須恵器片79点，土製品3点（支脚片），支脚1点（雲母片岩），瓦片1点が出土している。第431図1492の土師器坏，1497の須恵器鉢は竈内の覆土下層から，1493の土師器坏，1494の土師器高台付椀，1495の土師器高台付皿，1496の土師器甕は竈の覆土上層からそれぞれ出土している。1491の雲母片岩は竈火床部から出土し，支脚として転用されていたものである。1498の支脚は東壁際の床面から出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第431図 第419号住居跡出土遺物実測図

第419号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第431図 1492	坏 土師器	A [15.5] B 3.6 C [7.3]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	50% P L 223
1493	坏 土師器	A [13.8] B 3.6 C 5.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 明褐色 普通	30% P L 223
1494	高台付碗 土師器	A [15.0] B (4.3) E (0.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け痕を残す。内面黒色処理。	砂粒・雲母 明褐色 普通	30% 器面荒れ
1495	高台付皿 土師器	A 14.0 B (1.7)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して大きく開き、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け。	砂粒・石英 橙色 普通	40% P L 223
1496	甕 土師器	A [22.0] B (8.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は屈曲する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 明褐色 普通	5% P L 223
1497	鉢 須恵器	B (20.0) C 18.4	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き、下端ヘラ削り。内面ヘラナデ。内面指頭押圧痕、輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	30% P L 223 外面油煙付着か

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
1498	支脚	(13.1)	9.8	5.6	(908.0)	土製	円錐形。側面ナデ。被熱痕。	P L 251

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1491	支脚	16.9	14.0	8.8	2,330.0	雲母片岩	被熱痕。	P L 253

第420号住居跡（第432・433図）

位置 調査区域の北東部、D 8 a1区。

規模と平面形 長軸2.80m、短軸2.72mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は34～40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分、北壁、北東コーナー部を除いて、壁下を巡っている。上幅15～19cm、下幅7～18cm、深さ8cmで、断面は緩やかなU字形である。

床 わずかな起伏はあるが、ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。床面は、平坦に掘り込んだ地山を使用している。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ97cm、袖部最大幅116cmである。袖部は地山を扁平な台形状に掘り残して芯とし、周りにロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック混じりの灰黄褐色土及び極暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は、北壁を幅110cm、奥行き55cmにわたり、丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は、25度の傾きで立ち上がる。火床部は、径36cmの不整形に確認面から45cmほど掘り込み、ロームブロック・ローム粒子を含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は、床面から4cmほど下がっている。

竈土層解説

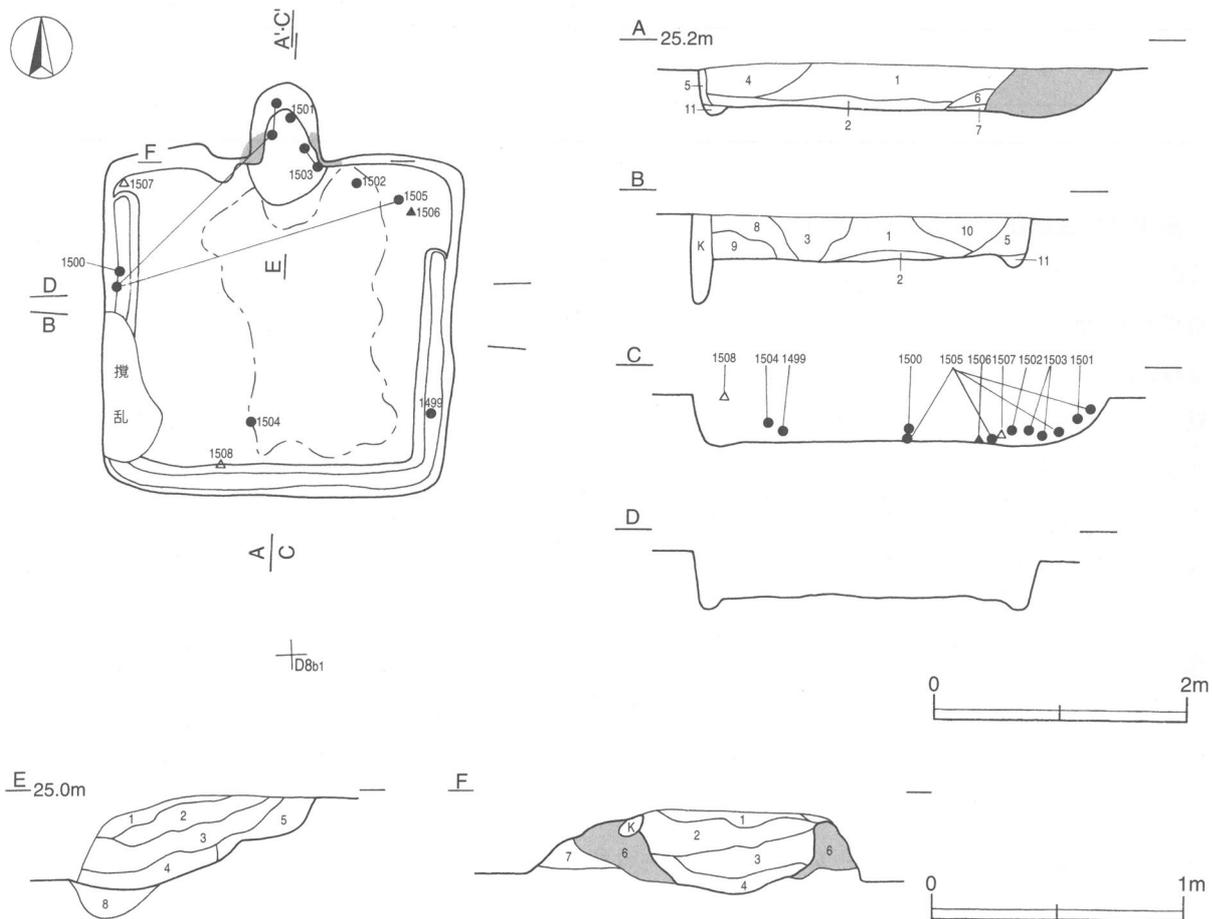
- | | | | |
|-------|--|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 7 極暗褐色 | ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 (掘り方) |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 | | |
| 5 褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量 | | |

覆土 11層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | 砂粒中量, 焼土中ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |

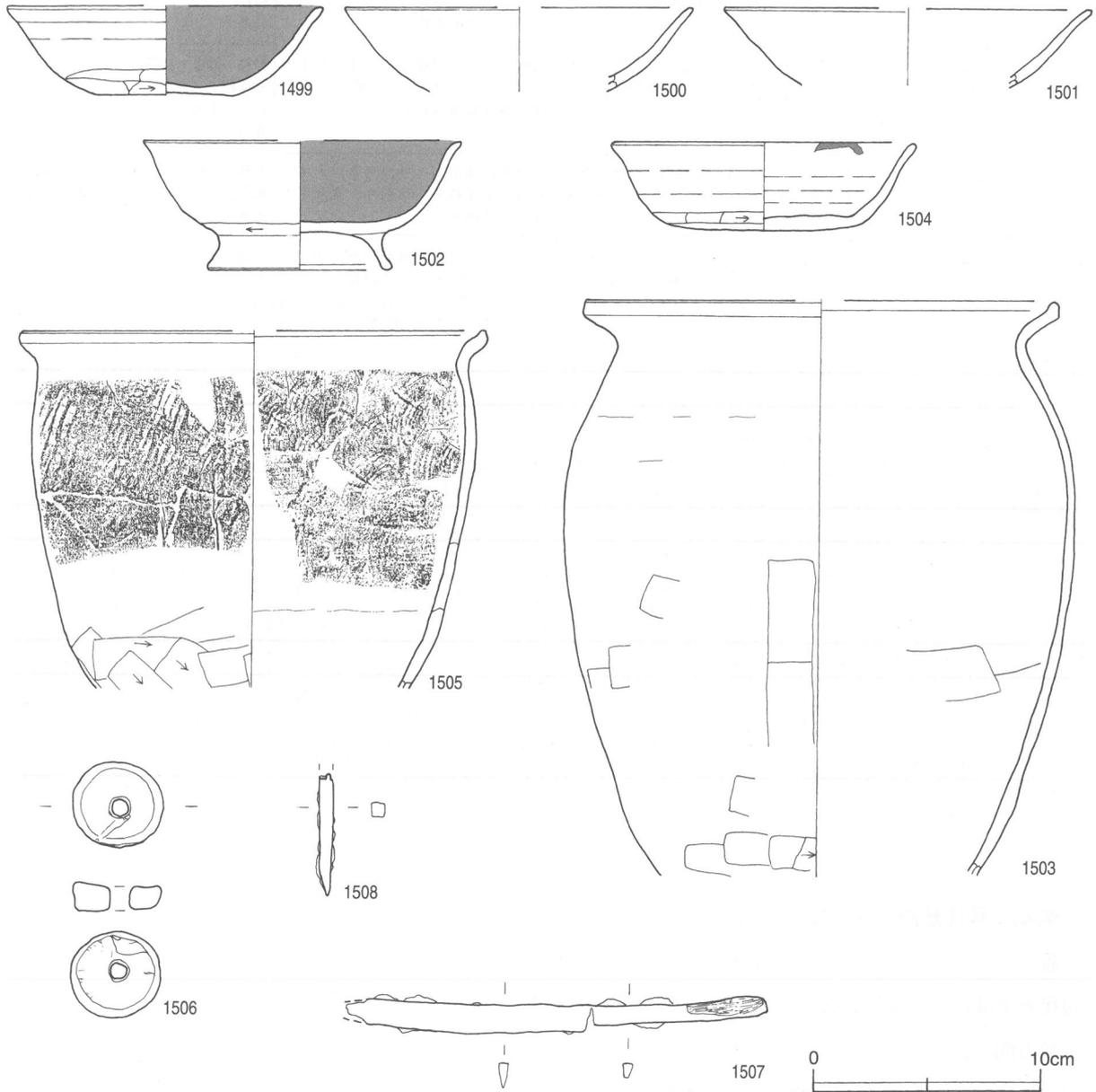
遺物 土師器片335点, 須恵器片129点, 土製品1点 (紡錘車), 鉄器2点 (刀子・鍬), 鉄滓1点が出土している。第433図1499の土師器坏は東壁際の覆土下層から, 1500の土師器坏は西壁際の覆土下層から, 1502の土師器高台付椀は竈東袖部付近の覆土下層から, 1504の須恵器坏は南側の覆土中層から, 1506の紡錘車は北東コーナー部の覆土下層から, 1507の刀子は北西コーナー部の覆土下層から, 1508の鍬は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。1504は正位で出土している。1501の土師器坏は竈内の覆土中層から, 1503の土師器甕は



第432図 第420号住居跡実測図

竈の覆土下層からそれぞれ出土している。1505の須恵器鉢は、竈の覆土下層と西壁際の床面と北東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、遺構の形態と出土土器から、9世紀後葉と推定される。



第433図 第420号住居跡出土遺物実測図

第420号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1499	坏 土師器	A [14.0] B 3.9 C 6.0	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	40% P L 223
1500	坏 土師器	A [15.4] B (3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	30%

遺物番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第433図 1501	坏 土 師 器	A [16.4] B (3.4)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色，普通	20%
1502	高台付 土 師 器	A [15.0] B 5.8 D 8.0 E 1.5	体部・口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り，高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 橙色 普通	60% P L 224
1503	斲 土 師 器	A [20.8] B (25.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は屈曲する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。体部外面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 にぶい橙色 普通	30% P L 224
1504	坏 須 惠 器	A 13.4 B 3.8 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	角礫・砂粒・雲母 褐灰色 普通	60% P L 223 口縁部内面油 煙付着
1505	鉢 須 惠 器	A [20.4] B (15.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位斜位の平行叩き，下位ヘラ削り。体部内面上位同心円状の当て具痕，輪積み痕あり。下位ヘラナデ。	小礫・雲母・石英 黄橙色 普通	50% P L 224

遺物番号	器 種	計 測 値					材 質	特 徴	備 考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚 さ(cm)	孔 径(cm)	重 量(g)			
1506	紡錘車	3.9	3.5	1.2	0.9	(20.4)	土 製	断面逆台形。	P L 250

遺物番号	器 種	計 測 値						材 質	特 徴	備 考
		全 長(cm)	刀身長(cm)	身 幅(cm)	重 ね(cm)	茎 長(cm)	重 量(g)			
1507	刀 子	(18.3)	(10.6)	1.2	0.4	3.6	(27.2)	鉄	木質付着。	

遺物番号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		全 長(cm)	茎 長(cm)	厚 さ(cm)	重 量(g)			
1508	鏃	(5.3)	(5.3)	0.6	(8.7)	鉄	鏃身部欠損。	

第421号住居跡（第434・435図）

位置 調査区域の北東部，C7i7区。

規模と平面形 長軸3.73m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向 N-103°-E

壁 壁高は55～62cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分，南壁の一部，西壁の一部を除いて，壁下を巡っている。上幅10～20cm，下幅4～12cm，深さ9cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 はほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。中央部及び南部はロームを床としているが，北東コーナー部と北西コーナー部は貼床である。貼床は，北東コーナー部の径97cmの不整形，確認面からの深さ76cmほどの土坑状のもの，北西コーナー部の径92cmの不整形，確認面からの深さ73cmほどの土坑状のものが検出され，ロームブロックを含む褐色土で埋土して構築されている。

竈 東壁の南東コーナー部寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ73cm，袖部最大幅111cmである。袖部はロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック・粘土粒子混じりの黄褐色土・褐灰色土・暗褐色土で構築されている。煙道部は，北壁を幅55cm，奥行き25cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，

下半部では50度の傾きで、上半部では70度の傾きでそれぞれ立ち上がる。火床部は、地山を確認面から58cmの深さに掘り込んでつくっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量	9 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量	10 暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量	11 灰黄褐色	焼土粒子・粘土小ブロック少量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量	12 褐灰色	ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
5 ぶい黄褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量	13 褐灰色	粘土大ブロック・粘土中ブロック少量
6 ぶい黄褐色	粘土小ブロック少量，ローム中ブロック微量	14 灰黄褐色	粘土粒子少量，ローム大ブロック・砂粒微量
7 暗褐色	ローム小ブロック少量	15 暗褐色	粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム小ブロック中量		

ピット 1か所。P1は長径45cm，短径34cmの円形，深さ14cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量	2 褐色	ローム小ブロック少量
------	--------------------	------	------------

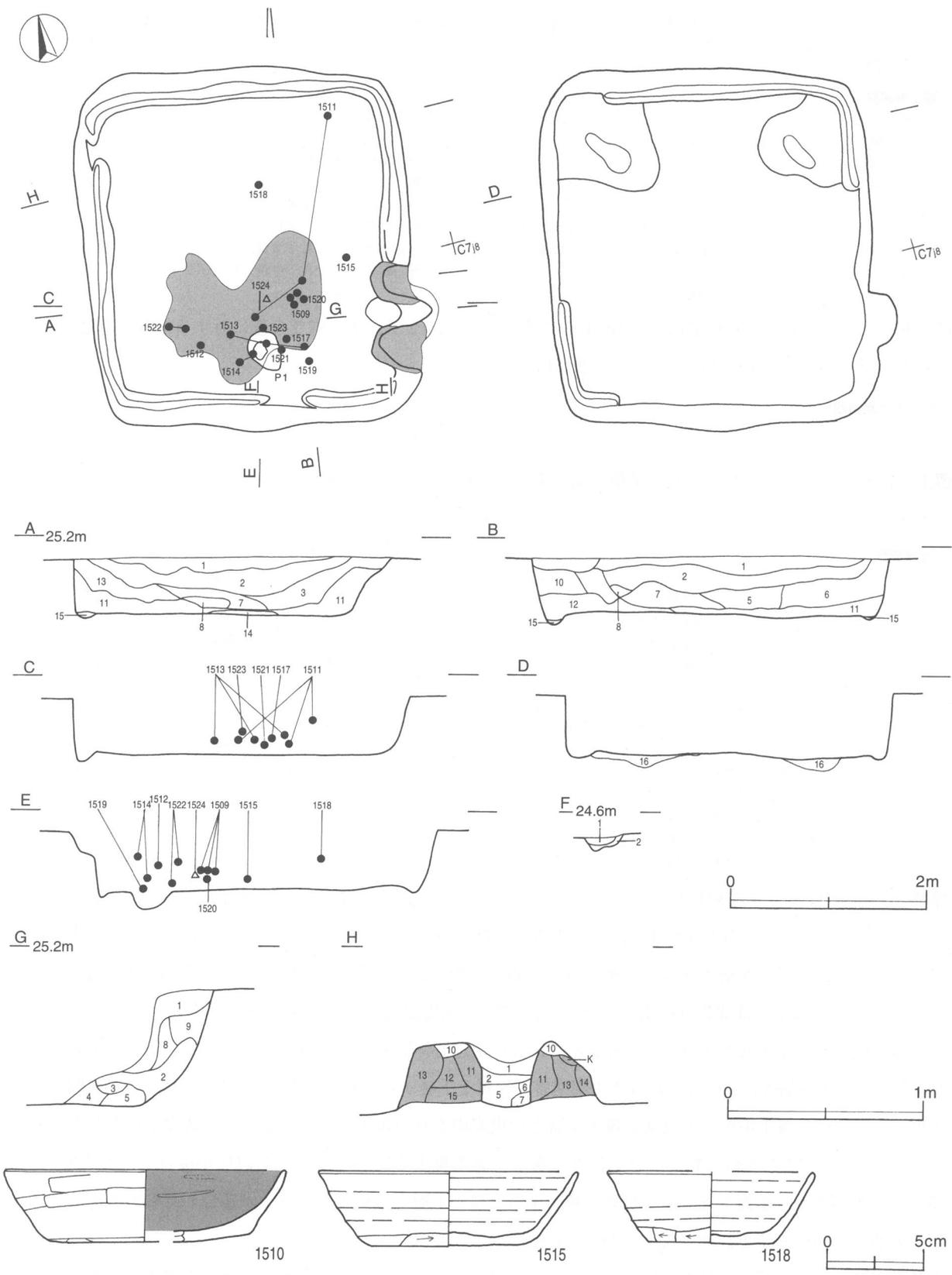
覆土 15層からなる。ブロック状の堆積状況や覆土中層に焼土ブロックがみられることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

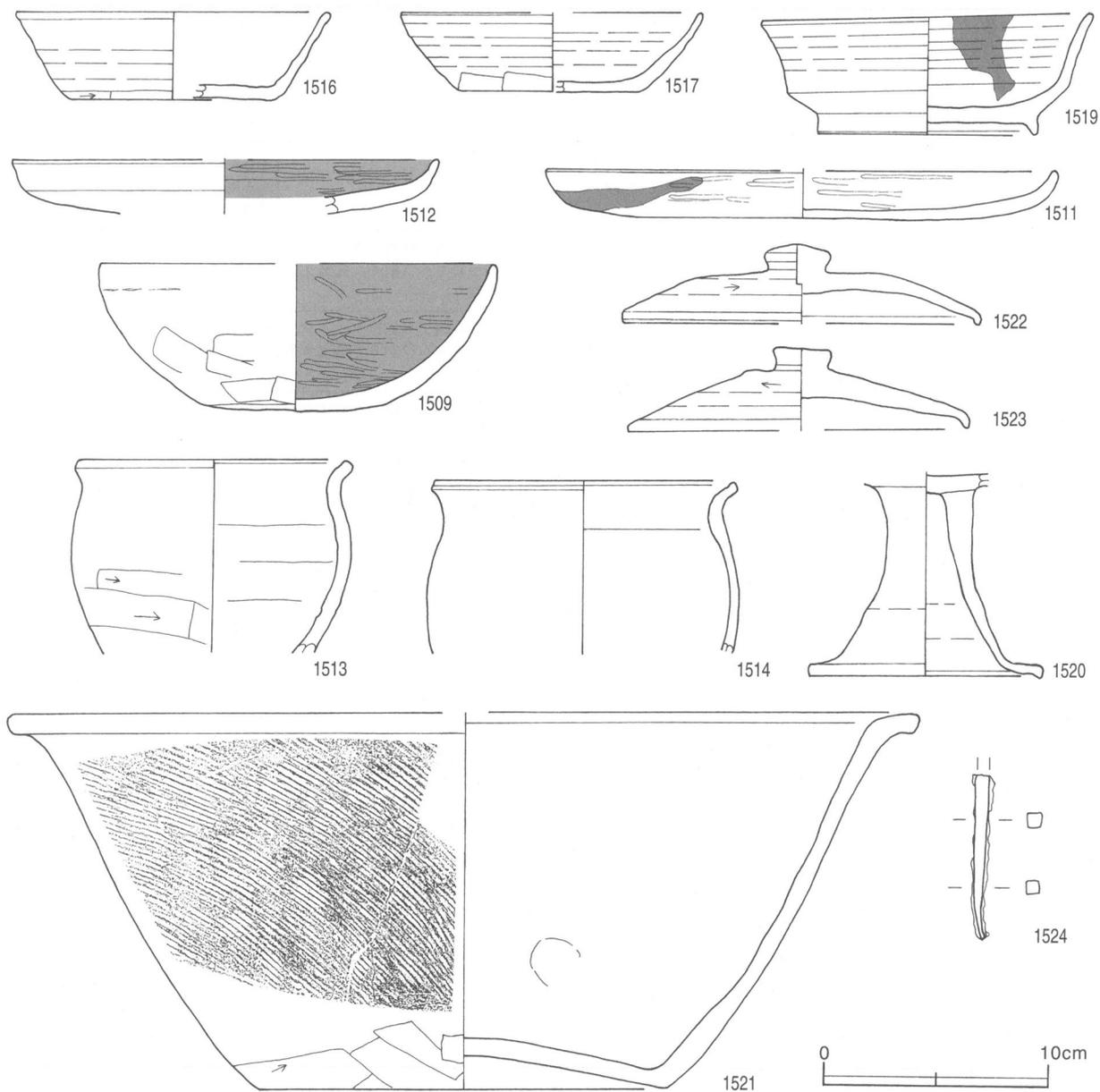
1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量	8 極暗赤褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック少量
2 暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物微量	9 極暗赤褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量	10 黒色	焼土小ブロック少量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5 黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量	12 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量	13 黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
7 暗赤褐色	焼土小ブロック多量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量	14 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
		15 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量
		16 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量(貼床)

遺物 土師器片487点，須恵器片527点，土製品1点（支脚片），鉄器1点（釘），鉄滓10点（椀状滓）が出土している。第435図1509の土師器坏は中央部南寄りの覆土中層から，1512の土師器皿は南西コーナー部付近の覆土中層から，1515の須恵器坏は竈北袖部付近の覆土下層から，1517の須恵器坏はP1付近の覆土下層から，1518の須恵器坏は中央部北寄りの覆土中層から，1519の須恵器高台付坏は南壁付近の覆土下層から，1520の須恵器高盤は中央部南東寄りの覆土下層から，1521の須恵器鉢はP1付近の覆土下層から，1523の須恵器蓋はP1付近の覆土中層から，1524の釘は中央部南寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。1511の土師器皿は，北東コーナー部の覆土中層と中央部の覆土下層と中央部南寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。1513・1514の土師器甕は，P1付近の覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。1522の須恵器蓋は，南西コーナー部付近の覆土中層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1510の土師器坏，1516の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の南部の覆土下層から覆土中層にかけて焼土塊が，中央部から北側にかけての覆土下層から椀状滓がそれぞれ検出されている。いずれも南側から投棄されたような状態にあること，本跡の約2m南側に鍛冶工房跡と考えられる第417号住居跡が位置していること，両住居跡がほぼ同時期に存在したと考えられることから，第417号住居跡の焼土及び椀状滓が本跡に投棄された可能性が高い。本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，8世紀中葉以前と推定される。



第434图 第421号住居跡・出土遺物実測図



第435図 第421号住居跡出土遺物実測図

第421号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1509	坏 土師器	A [17.6] B 6.5 C 8.1	底部から体部の破片。丸みを帯びた平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面へら磨き。底部へら削り。外面輪積み痕あり。内面黒色処理。	小礫・砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	50% P L 224
第434図 1510	坏 土師器	A 14.2 B 3.8 C [10.0]	底部から口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。体部下端に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面へら磨き。底部へら削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	70% P L 224
第435図 1511	皿 土師器	A [22.8] B 2.2 C 15.0	底部から口縁部の破片。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら磨き。底部多方向のへら削り。	小礫・砂粒・石英・ 赤色粒子 明赤褐色、普通	50% P L 224 口縁部外面煤 附着
1512	皿 土師器	A [18.8] B (2.4)	底部から口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へら磨き。底部へら削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 明赤褐色、普通	15% P L 224

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1513	小形甕 土師器	A 11.8 B (8.5)	底部から口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 明褐色、普通	60% PL224
1514	小形甕 土師器	A 13.4 B (7.8)	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 明赤褐色 普通	20% PL224
第434図 1515	坏 須恵器	A 13.2 B 3.8 C 7.6	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部1方向のへラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	60% PL224
第435図 1516	坏 須恵器	A 13.8 B 3.9 C [9.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部多方向のへラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	50% PL224
1517	坏 須恵器	A [13.4] B 3.5 C [8.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部多方向のへラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	50% PL224
第434図 1518	坏 須恵器	A [10.6] B 3.7 C 6.2	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部1方向のへラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	50% PL224 内・外面火櫛
第435図 1519	高台付坏 須恵器	A 14.8 B 5.4 D 9.6 E 0.8	高台部は短くハの字状に開く。体部から口縁部にかけて外反して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り、高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・石英 黄灰色 普通	100% PL224 内面油煙付着
1520	高盤 須恵器	B (9.0) D 10.4 E 8.3	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。裾部は外反し、口縁部は垂下する。	脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	50% PL224
1521	鉢 須恵器	A [40.0] B 16.8 C 18.0	底部から口縁部の破片。上げ底気味の平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は強く屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位斜位の平行叩き、下位へラ削り。体部内面指頭押圧後、ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	40% PL224
1522	蓋 須恵器	A [15.8] B 3.5 F 2.9 G 1.2	天井部から口縁部一部欠損。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、短く垂下する。つまみは擬宝珠状。	天井頂部回転へラ削り。外周部・口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	60% PL224
1523	蓋 須恵器	A [15.2] B 3.7 F 2.6 G 1.0	天井部から口縁部の破片。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、垂下する。つまみは腰高のボタン状。	天井頂部回転へラ削り。外周部・口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 黄灰色 普通	50% PL224

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1524	釘	(7.3)	0.6	0.7	(12.0)	鉄	頭部欠損。	

第422号住居跡（第436・437図）

位置 調査区域の北東部，C 7 e9区。

重複関係 第24号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m，短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は34cmで，外傾して立ち上がる。

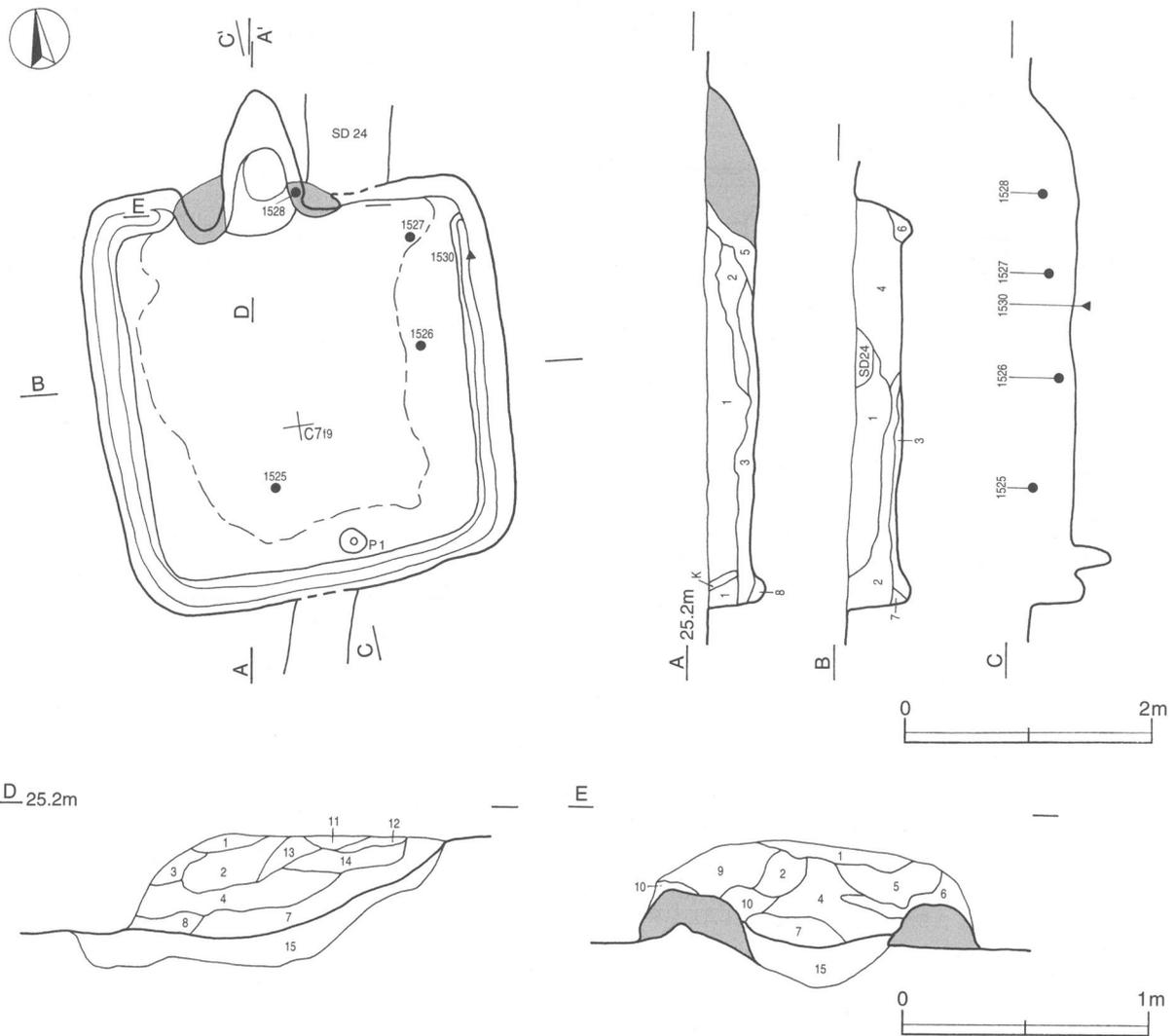
壁溝 竈の部分，北壁の東半部を除いて，壁下を巡っている。上幅11～21cm，下幅5～16cm，深さ8cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部やや西寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ119cm、袖部最大幅144cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、第7・8層が崩落土と考えられる。袖部は、ロームブロック・粘土ブロックを含む黄褐色土及び暗褐色土で構築されている。煙道部は、北壁を幅150cm、奥行き81cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は25度の傾きで立ち上がる。火床部は、長径96cm、短径63cmの不整楕円形で確認面から57cmほど掘り込み、ロームブロック・焼土粒子を含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は、北壁ラインの外側に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|--------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土中ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 | 10 灰褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量 | 11 黒褐色 | 粘土小ブロック少量、砂粒微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量 | 12 暗褐色 | 粘土中ブロック中量、砂粒微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量 | 13 灰褐色 | 粘土粒子・焼土小ブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量、焼土中ブロック微量 | 14 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| | | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量（掘り方） |



第436図 第422号住居跡実測図

ピット 1か所。P 1は径22cmの円形、深さ32cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

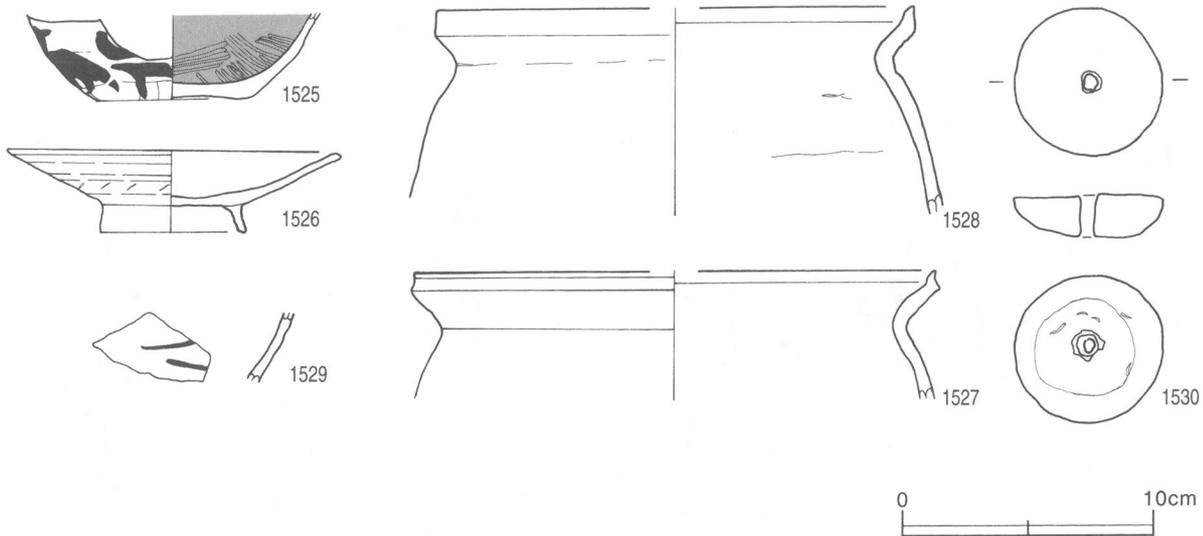
覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 5 灰褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒少量 |
| 2 褐色 | 焼土小ブロック・ローム中ブロック少量, 砂粒微量 | 6 褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 3 灰褐色 | ローム中ブロック・粘土中ブロック中量, 焼土小ブロック少量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物少量 | 8 褐色 | ローム中ブロック中量 |

遺物 土師器片340点, 須恵器片71点, 土製品1点(紡錘車)が出土している。第437図1525の土師器坏は中央部南寄りの覆土上層から, 1526の土師器高台付皿は東壁付近の覆土下層から, 1527の土師器甕は北東コーナー部の覆土中層から, 1528の土師器甕は竈の覆土中層から, 1530の紡錘車は東壁下の壁溝内からそれぞれ出土している。1529の須恵器坏は覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、重複関係と出土土器から、9世紀後葉と推定される。



第437図 第422号住居跡出土遺物実測図

第422号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1525	坏 土師器	B (3.4) C 6.0	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 橙色 普通	30% P L 224 体部外面墨書 横位「万坏」カ
1526	高台付皿 土師器	A 13.2 B 3.2 D 5.7 E 1.1	高台部から口縁部の破片。高台部はハの字状に開く。体部は大きく開き, 口縁部は緩やかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後, ロクロナデ。体部下端爪痕を残す。	砂粒・雲母・石英・ 赤色粒子 明黄褐色 普通	40% P L 224
1527	甕 土師器	A [20.7] B (5.2)	体部上位から口縁部の破片。口縁部は屈曲し, 端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・石英 明褐色 普通	5% P L 225
1528	甕 土師器	A [19.0] B (8.3)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部は屈曲する。端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。輪積み痕あり。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	5% P L 225

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1529	坏 須恵器	B (2.7)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄色 普通	5% 体部外面墨書 「□」

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
1530	紡錘車	5.9	(4.1)	1.7	0.7	(61.5)	土製	上面・下面・側面ナデ。	P L 250

第423号住居跡（第438・439図）

位置 調査区域の北東部，C 7 i5区。

規模と平面形 長軸3.77m，短軸3.73mの方形を呈していたものと思われる。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は2～3cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下の一部と西壁下を巡っている。上幅8～19cm，下幅4～8cm，深さ5cmで，断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で西側の中央部に踏み固められた部分が遺存するが，東半部は削平されている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。煙道部の一部と両袖部は削平され遺存しない。規模は，焚口部から煙道部までの長さ114cmである。煙道部は北壁を幅61cm，奥行き49cmにわたり半円形に掘り込み，煙道は20度の傾きで立ち上がる。火床部は，径33cmの円形に確認面から24cmほど掘り込み，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物を含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土小ブロック中量 | 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 焼土小ブロック中量，ローム粒子・炭化物少量 |
| 3 褐色 焼土粒子少量 | |

ピット 3か所（P1～P3）。P1は長径33cm，短径28cmの楕円形，深さ8cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P2・P3は，それぞれ径32cm・30cmの円形，深さ8cm・13cmである。P2・P3の性格はいずれも不明である。

ピット土層解説

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 2 褐色 ローム粒子中量 |
|------------------------|--------------|

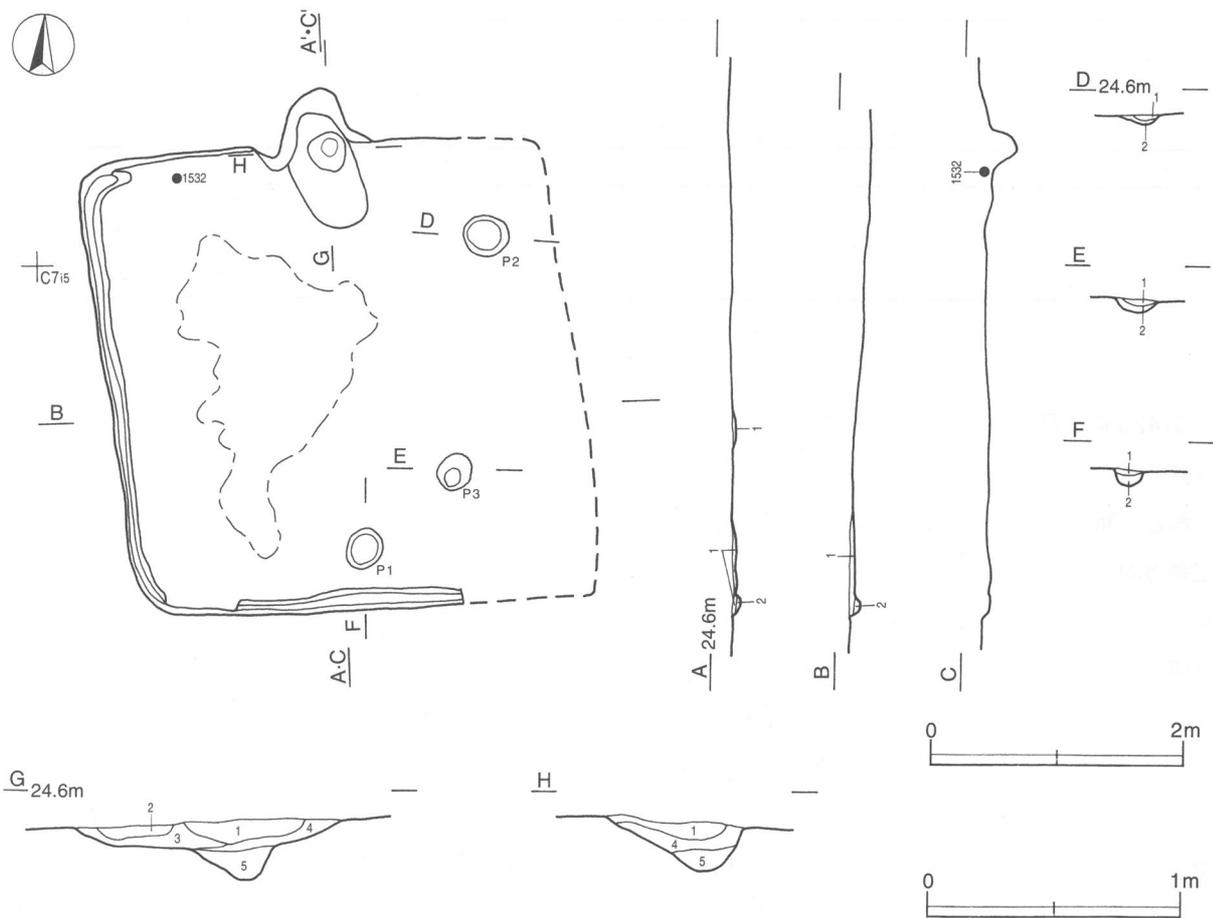
覆土 2層からなる。覆土は薄く，堆積状況は不明である。

土層解説

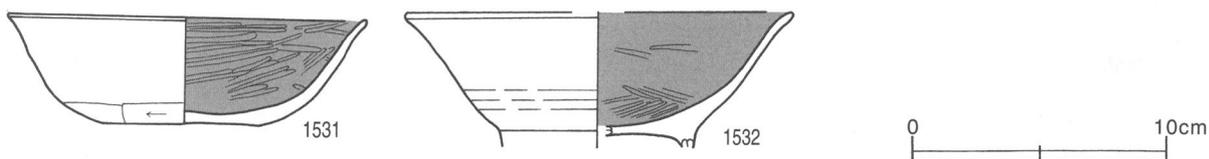
- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 |
|--------------------------|----------------------------|

遺物 土師器片64点，須恵器片6点が出土している。第439図1532の土師器高台付椀は北壁際の床面に近い層から，1531の土師器坏は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態と出土土器から，9世紀後葉と推定される。



第438図 第423号住居跡実測図



第439図 第423号住居跡出土遺物実測図

第423号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1531	坏 土師器	A 14.2 B 4.2 C 6.2	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り、内面へら磨き。底部回転へら削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 橙色 普通	70% PL225
1532	高台付碗 土師器	A [15.2] B (5.2)	高台部から口縁部の破片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。底部回転へら削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	20% PL225

第424号住居跡 (第440・441図)

位置 調査区域の北東部、C8f4区。

規模と平面形 長軸3.41m、短軸2.56mの長方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は16cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分、北壁の東半部、東壁を除いて、壁下を巡っている。上幅7~12cm、下幅3~6cm、深さ8cmで、断面は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。両袖部は攪乱を受けており、遺存しない。規模は、焚口部から煙道部までの長さ105cmである。煙道部は、北壁を幅98cm、奥行き64cmにわたり、丸みを帯びた三角形に掘り込んでい。煙道は、30度の傾きで立ち上がる。火床部は、地山を確認面から19cmまでの深さに掘り込んでつくっている。煙道の立ち上がり部から、雲母片岩を使用した支脚が検出されている。火床面は、北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

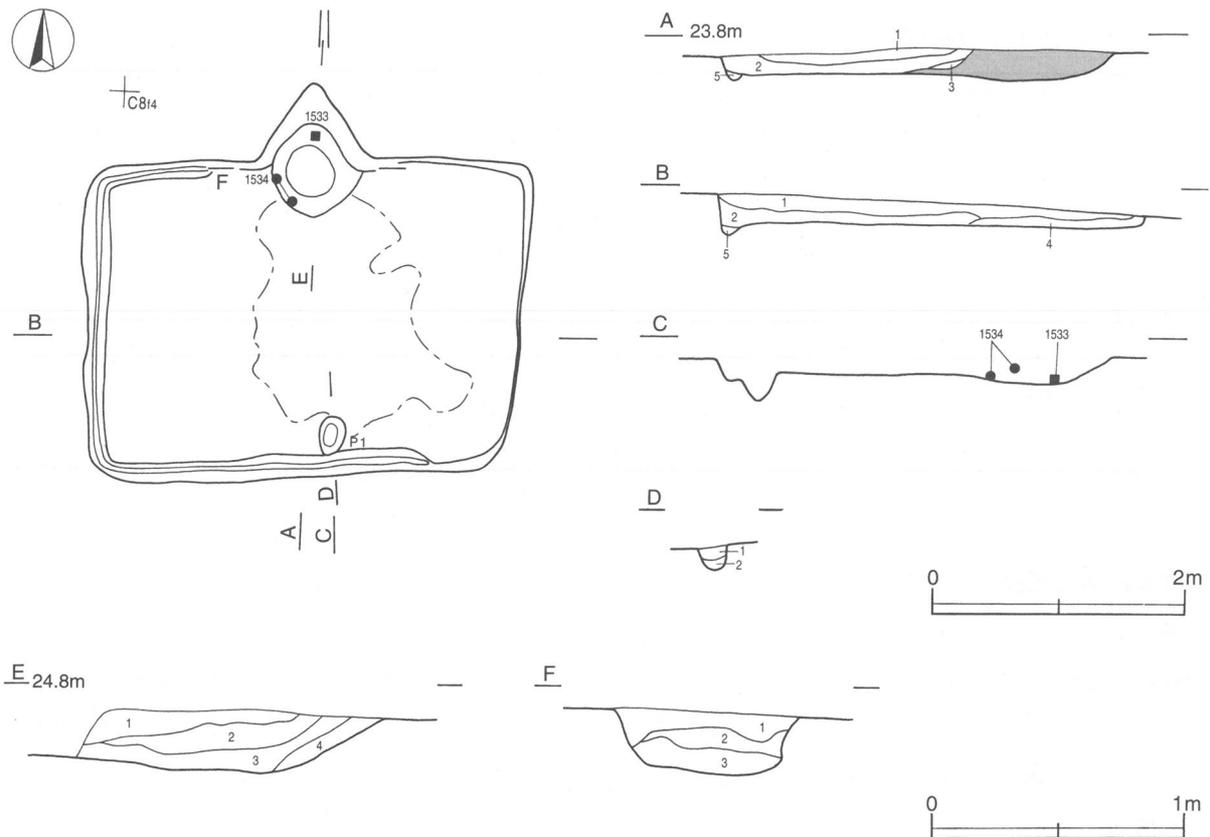
- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 |

ピット 1か所。P1は長径30cm、短径21cmの楕円形、深さ17cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|-------|---------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子中量 |
|------|-----------------------|-------|---------|

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



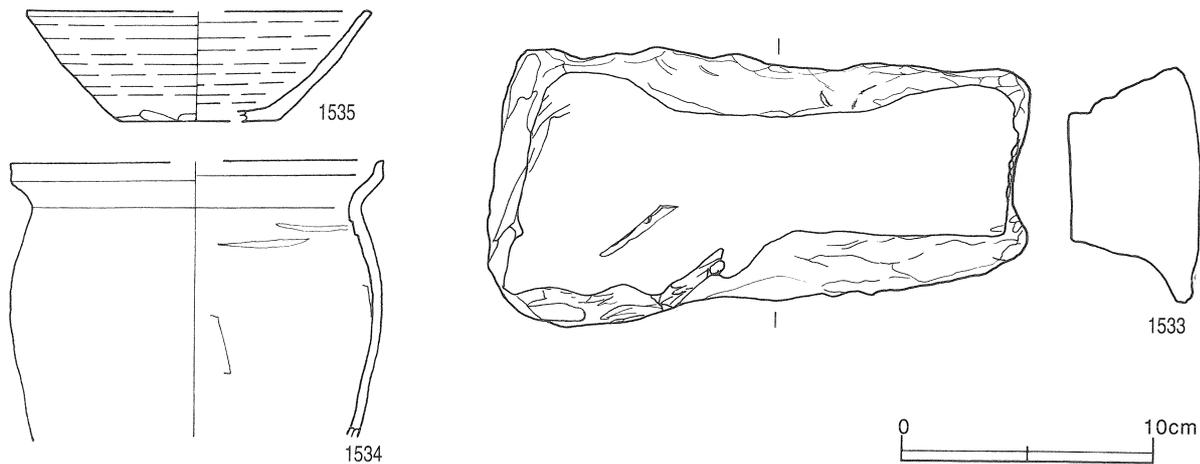
第440図 第424号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 | | |

遺物 土師器片70点, 須恵器片49点, 支脚1点(雲母片岩)が出土している。第441図1534の土師器甕は竈の覆土下層から, 1533の支脚は竈内の煙道の立ち上がり部からそれぞれ出土している。1535の須恵器坏は竈内と覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態と出土土器から, 9世紀中葉と推定される。



第441図 第424号住居跡出土遺物実測図

第424号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1534	甕 土師器	A [14.8] B (11.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ, 内面一部ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	15% P L 225
1535	坏 須恵器	A [13.6] B 4.3 C [6.2]	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	25% P L 225

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1533	支脚	21.5	11.2	5.3	2,030.0	雲母片岩	被熟痕。	P L 253

第425号住居跡(第442・443図)

位置 調査区域の中央部, E 6 a0区。

規模と平面形 北壁は直線的でなく, 西側は東側より48cmほど奥へ掘り込まれている。規模は東側で南北長3.31m, 西側で南北長3.77m, 東西長3.50mである。こうした形状から, 竈の東側に棚状施設の存在が想定され, それを含めて平面形は方形になると思われる。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は21~25cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分及び北東コーナー部を除いて、壁下を巡っている。上幅6～15cm，下幅4～7cm，深さ6cm，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，P1付近から竈前にかけて帯状に踏み固められている。中央部は地山を平坦に掘り込んで床面としているが，その外周部は貼床である。貼床は，壁に沿って幅20～38cm，確認面からの深さ35cmほどに溝状に掘り込み，ローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ105cm，袖部最大幅121cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第7層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。西袖部は地山を掘り残して基部とし，その上に砂粒を含む黄褐色粘土を積んで構築されている。東袖部は砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は，壁を幅102cm，奥行き48cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，23度の傾きで立ち上がる。火床部は北壁ラインの外側を，確認面から35cmほどの深さで掘り込み，5cmほど埋土している。火床面は北壁ラインの外側に位置し，埋土は赤変している。煙道部の立ち上がり部には，雲母片岩が据えられている。火熱を受け赤変していることから，支脚として使われていたと思われる。焚口部には，後述するP3が位置する。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	7 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量
2 暗褐色	砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
3 にい黄褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・黄褐色粘土小ブロック微量	9 黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量	10 にい黄褐色	黄褐色粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
6 極暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	12 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）

ピット 4か所（P1～P4）。P1は長径47cm，短径39cmの楕円形，深さ25cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径91cm，短径78cmの楕円形，深さ58cmで，北西コーナー部に位置する。性格は不明である。P3は長径49cm，短径41cmの楕円形，深さ31cmで，焚口部に位置する。覆土は焼土・炭化物をわずかに含む黒褐色土で，しまりはない。竈に関するピットと考えられるが，詳細は不明である。P4は長軸118cm，短軸100cmの長方形，深さ47cmで，西壁寄りに位置する。性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
2 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
3 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	7 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

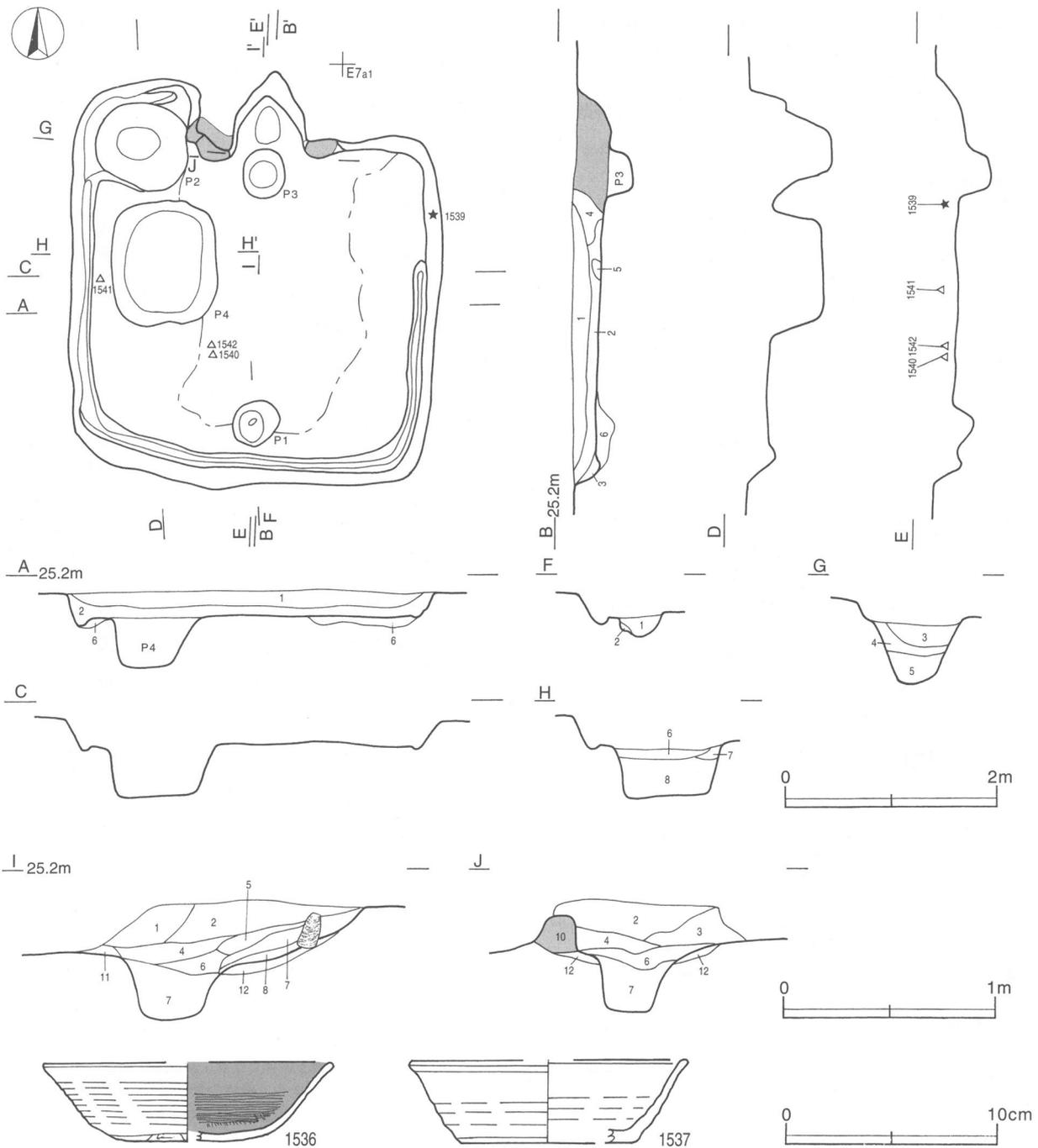
覆土 5層からなる。第2・4・5層が不自然な堆積状況を呈することから，人為堆積と思われる。

土層解説

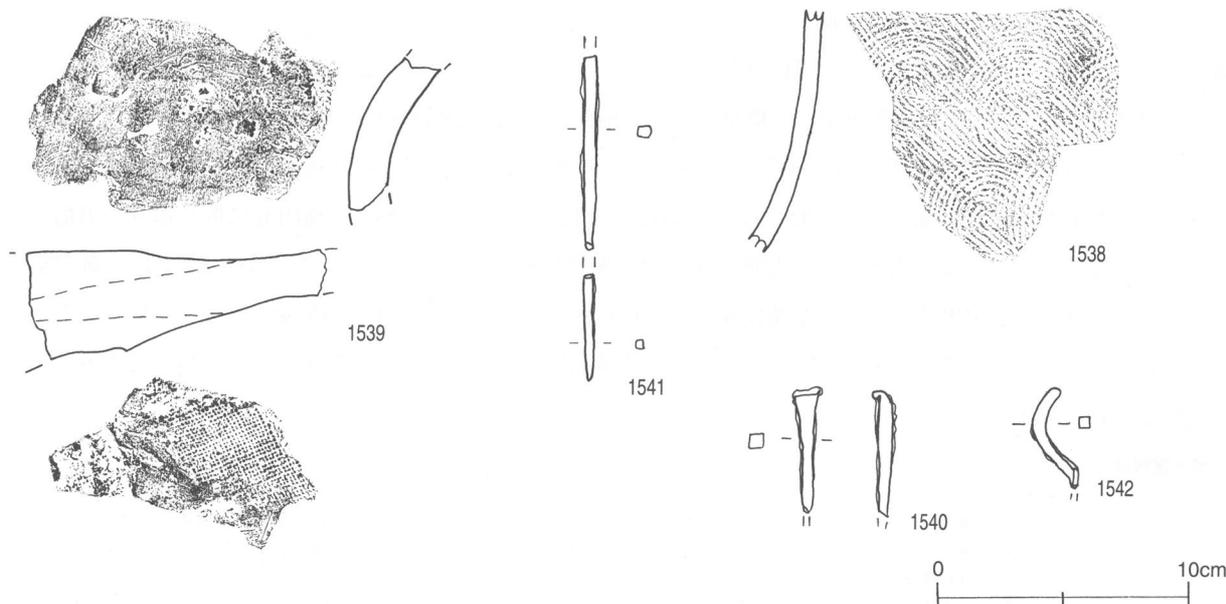
1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	4 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量	6 褐色	ローム小ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量（貼床）

遺物 土師器片423点, 須恵器片235点, 灰釉陶器片2点, 瓦片1点, 鉄器5点(鎌1, 釘2, 刀子1, 鎌1)・鉄製品2点(不明2), 混入したとみられる縄文土器片3点, 攪乱により混入したとみられる陶器片2点が出土している。第442図1536の土師器坏は南西部の覆土上層から出土した破片が, 1537の須恵器坏は北西部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。1538の須恵器甕は北東部の覆土上層から, 1539の軒丸瓦は北東コーナー部付近の覆土中層から, 1540の釘・1542の不明鉄製品は中央部の覆土下層から, 1541の不明鉄製品は西壁際の覆土中層から出土している。

所見 本跡は前述したように, 北壁の西側が東側に比べて48cmほど奥まで掘り込まれていることから, 棚状施設を有していたと思われる。本跡の時期は, 出土土器から9世紀前葉と推定される。



第442図 第425号住居跡・出土遺物実測図



第443図 第425号住居跡出土遺物実測図

第425号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1536	坏 土師器	A [13.6] B 3.8 C [5.1]	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	30%
1537	坏 須恵器	A [12.9] B 3.9 C [7.9]	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は肥厚する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	20%
第443図 1538	甕 須恵器	B (9.8)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色、普通	5% P L 244

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1539	軒丸瓦	(11.7)	(7.6)	4.4	(317.0)	瓦当面欠損。凸面ヘラ削り。凹面布目。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1540	釘	(5.0)	1.2	0.6	(7.5)	鉄	頭部先端は薄く叩き伸ばされ折り曲げられている。	P L 256
1541	不明	(13.0)	0.6	0.5	(11.0)	鉄	鍔の茎部。	P L 258
1542	不明	(4.0)	(1.8)	0.5	(2.9)	鉄	彎曲開始点で、ねじられている。	P L 258

第426号住居跡 (第444～446図)

位置 調査区域の中央部、E 6 a9区。

規模と平面形 長軸3.55 m、短軸3.08 mの長方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は22～27cmで、直立する。

壁溝 北壁を除いて、壁下を巡っている。上幅15～20cm、下幅5～12cm、深さ9 cm、断面はU字形である。

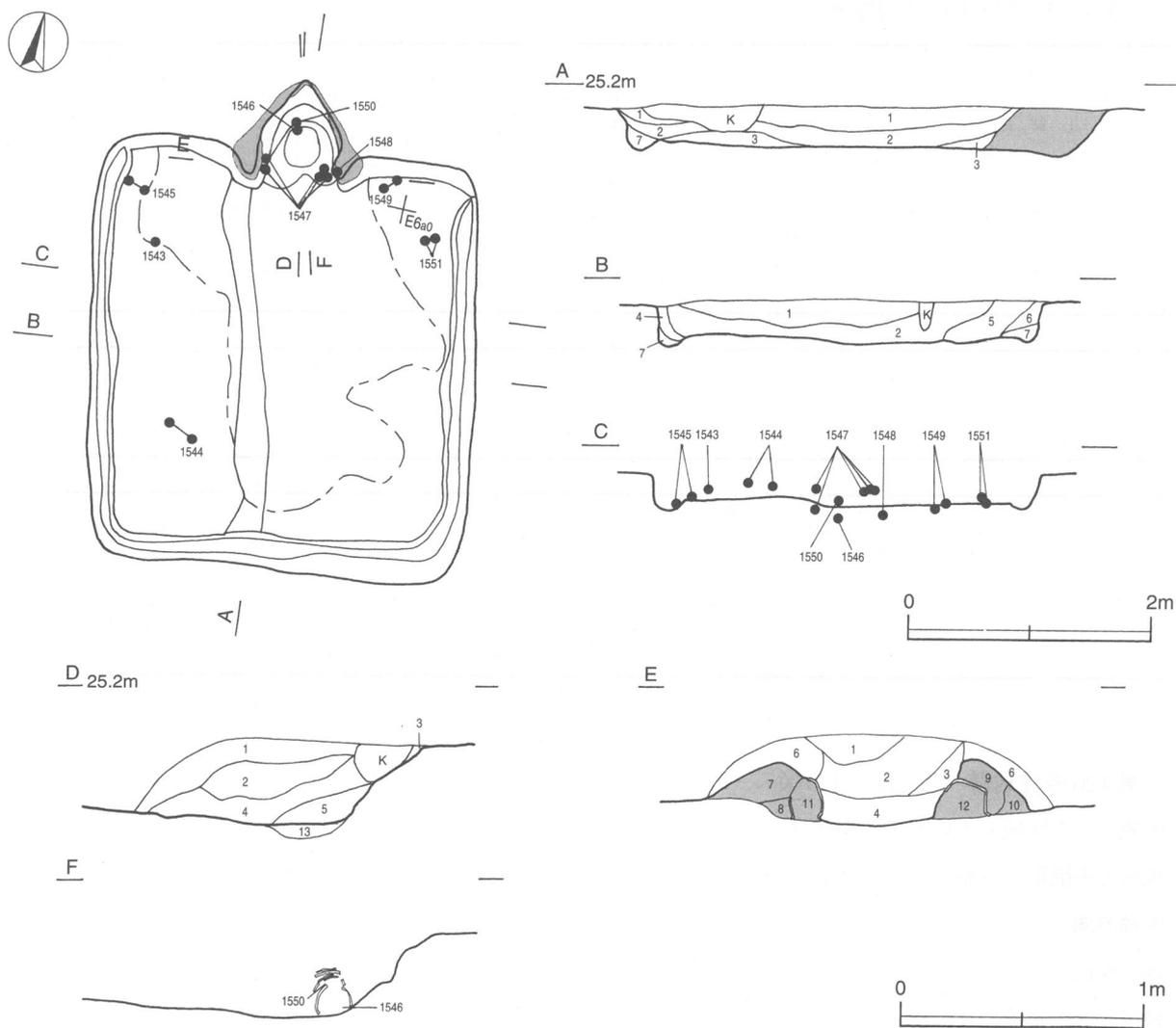
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。西側部分は、東側部分に比べて4～6 cmほど高く、ベッド状

を呈している。東西两部分ともに、地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm，袖部最大幅110cmである。天井部は崩落している。袖部は黄褐色粘土で構築され、両袖部の内部には構築材として土師器甕片が逆位で据えられている。煙道部は、壁を幅111cm，奥行き65cmにわたり角の丸い三角形に掘り込んでいる。煙道は、50度の傾きで立ち上がる。火床部は、確認面から40cmの深さで長径30cm，短径20cmの楕円形に掘り込み、黒褐色土を埋土してつくっている。火床部は、北壁ラインの外側に位置する。煙道部の立ち上がり部には、土師器甕が据えられ、その上に須恵器坏，土師器甕体部片が重ねられている。これらは火熱を受け赤変していることから、支脚として転用されていたと思われる。袖部から煙道部にかけての内壁は火熱を受けて赤変しており、長期間使用されたと思われる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|----------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 にぶい黄褐色 | 灰中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 8 灰黄褐色 | ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・黄褐色粘土中ブロック微量 |



第444図 第426号住居跡実測図

- | | | | | | |
|----|--------|--|----|------|---|
| 9 | にぶい黄褐色 | 砂粒・黄褐色粘土中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 12 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| | | | 13 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |

覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

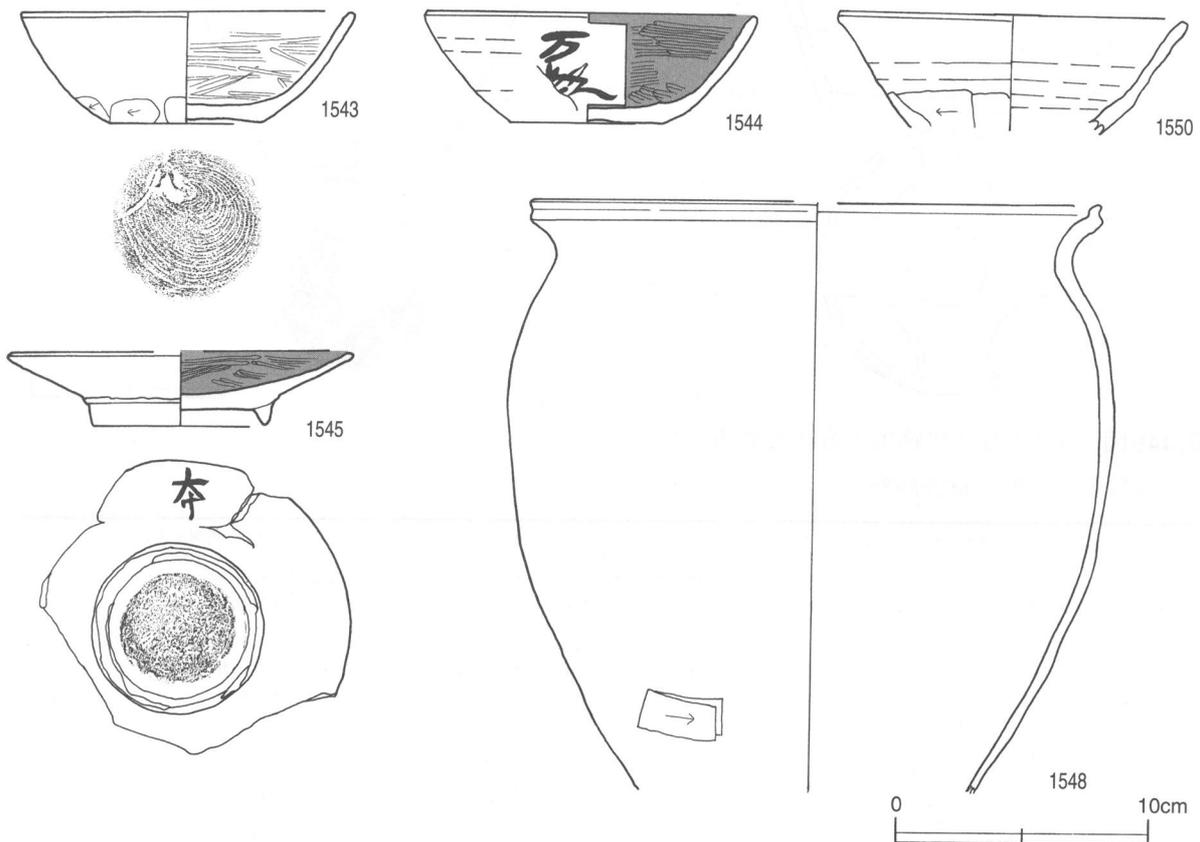
(掘り方)

土層解説

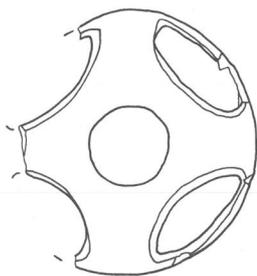
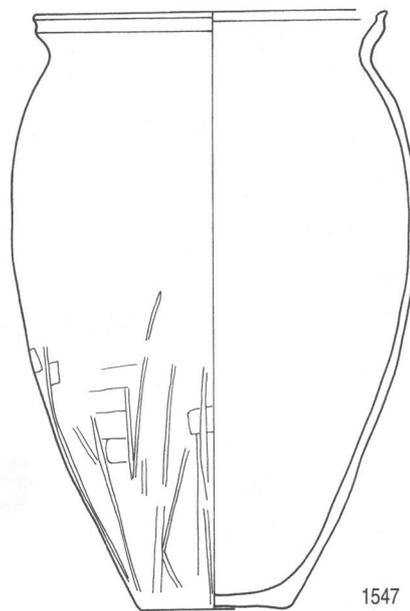
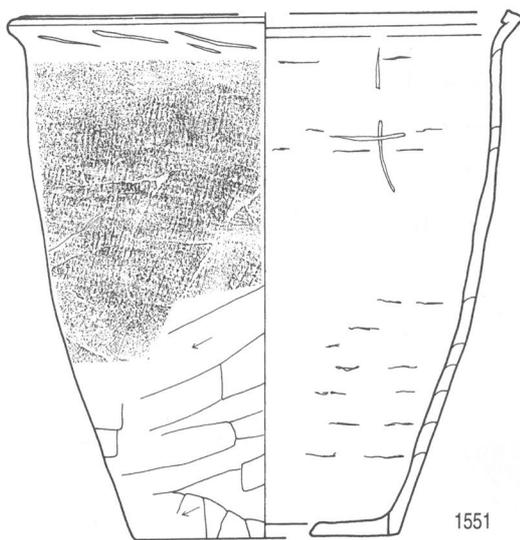
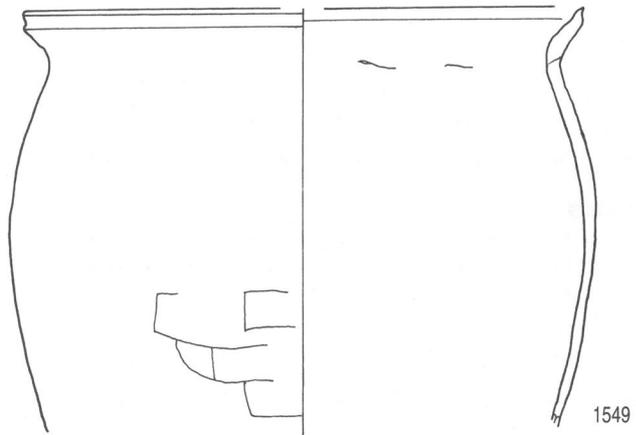
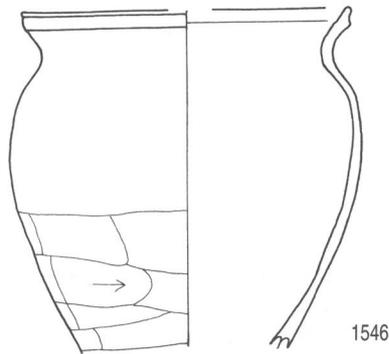
- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 6 | 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | 焼土小ブロック少量 | 7 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 4 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量 | | | |

遺物 土師器片660点，須恵器片367点，灰釉陶器片1点，瓦片1点，雲母片岩3点，混入したとみられる縄文土器片1点が出土している。第445図1543・1544は土師器坏である。1543は北西コーナー部付近の覆土中層から出土している。1544は中央部南西コーナー寄りの覆土中層から出土し，体部外面に正位で「万坏」と墨書されている。1545の土師器高台付皿は北西コーナー部の床面直上から出土し，体部外面に正位で「本」と墨書されている。1546の土師器小形甕，1550の須恵器坏は，煙道部で支脚に転用されていたものである。1547～1549は土師器甕である。1547は竈西袖と東袖，1548は竈東袖の構築材として，逆位で据えられていたものである。1549は北壁際の床面から出土している。1551の須恵器甕は北東コーナー部の床面直上から出土し，体部内面に「+」のヘラ記号が記されている。なお，墨痕が認められるが細片のため図示できなかった土師器片が2点出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から9世紀中葉と推定される。



第445図 第426号住居跡出土遺物実測図 (1)



第446図 第426号住居跡出土遺物実測図(2)

第426号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第445図 1543	坏 土師器	A 13.1 B 4.5 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 にぶい橙色、普通	85% P L 225
1544	坏 土師器	A 12.9 B 4.4 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	75% P L 225・246 体部外面墨書 正位「万坏」
1545	高台付皿 土師器	A [13.6] B 2.9 D 6.7 E 0.9	口縁部一部欠損。体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。高台は垂下し、接地面が細くなる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。内面ヘラ磨き黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	70% P L 225・247 体部外面墨書 正位「本」

遺物番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第446図 1546	小形甕 土師器	A [13.0] B (13.5)	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部にいたる口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位横位のヘラ削り内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 にぶい橙色	70% PL 225 二次焼成 支脚転用
1547	甕 土師器	A 18.6 B 31.4 C 8.0	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部にいたる口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位横位のヘラ削り後、ナデ、縦位の雑なヘラ磨き。底部木葉痕。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色 普通	55% PL 225 甕袖構築材
第445図 1548	甕 土師器	A [22.6] B (23.5)	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部にいたる口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下位横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 赤色粒子 にぶい橙色、普通	30% PL 226 甕袖構築材
第446図 1549	甕 土師器	A [22.2] B (16.7)	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲し、口縁部にいたる口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、下半横位のヘラ削り。内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・石英 明赤褐色	20% PL 225 二次焼成
第445図 1550	坏 須恵器	A 13.7 B (4.6)	底部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色	75% PL 225 二次焼成 支脚転用
第446図 1551	甗 須恵器	A [26.2] B 27.8 C 13.8	底部中央に円形の孔1、周縁に木の葉形の孔4を穿孔する5孔式。体部は外傾し、口縁部は外方に屈曲する端部は内側に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面擬格子目叩き。体部下端斜位のヘラ削り。体部内面輪積み痕あり。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	60% PL 225 体部内面ヘラ 記号「+」

第427号住居跡（第447・448図）

位置 調査区域の中央部，E 6 c9区。

規模と平面形 長軸3.10m，短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は40～45cmで，ほぼ直立する。

壁溝 北壁を除いて，壁下を巡っている。上幅12～22cm，下幅6～13cm，深さ6cm，断面はU字形である。

床 ゆるやかな起伏がみられ，P1付近から竈前にかけて踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，中央部は確認面からの深さ75cmほど不定形の土坑状に，周辺部は比較的平坦に掘り込み，ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ97cm，袖部最大幅125cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第5層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。袖部の内側及び奥壁は火熱を受け赤変している。煙道部は壁を幅130cm，奥行き60cmにわたり半円形に，火床部は確認面から55cmほどの深さで長径60cm，短径55cmの楕円形に掘り込み，ロームを含む暗褐色土を埋土して煙道及び火床をつくっている。火床部は，北壁ライン上に位置する。煙道は38度の傾きで立ち上がる。煙道部の立ち上がり部付近で，炭化材が確認されている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 6 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 極暗褐色 | 砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂粒中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |

- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 灰少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 10 におい黄褐色 砂粒中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒微量
- 12 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒微量

- 13 におい黄褐色 黄褐色粘土中ブロック多量, 砂粒少量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 粘土中ブロック多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック微量
- 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 (掘り方)

ピット 1か所。P1は長径35cm, 短径23cmの楕円形, 深さ12cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。覆土はローム主体の褐色土の単一層である。

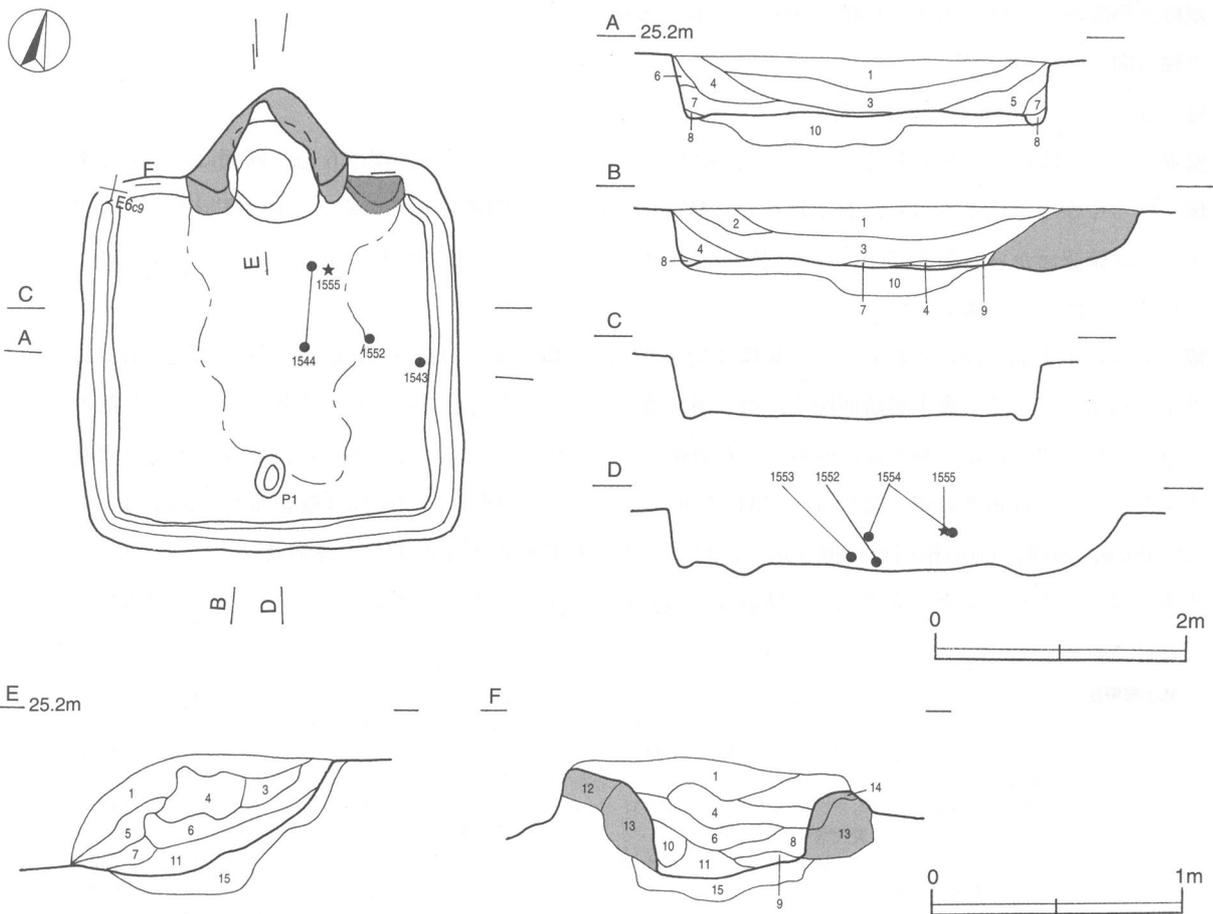
覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と思われる。第9層は砂粒・粘土を含んでいることから, 竈材が流出した層と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土・砂粒少量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (貼床)

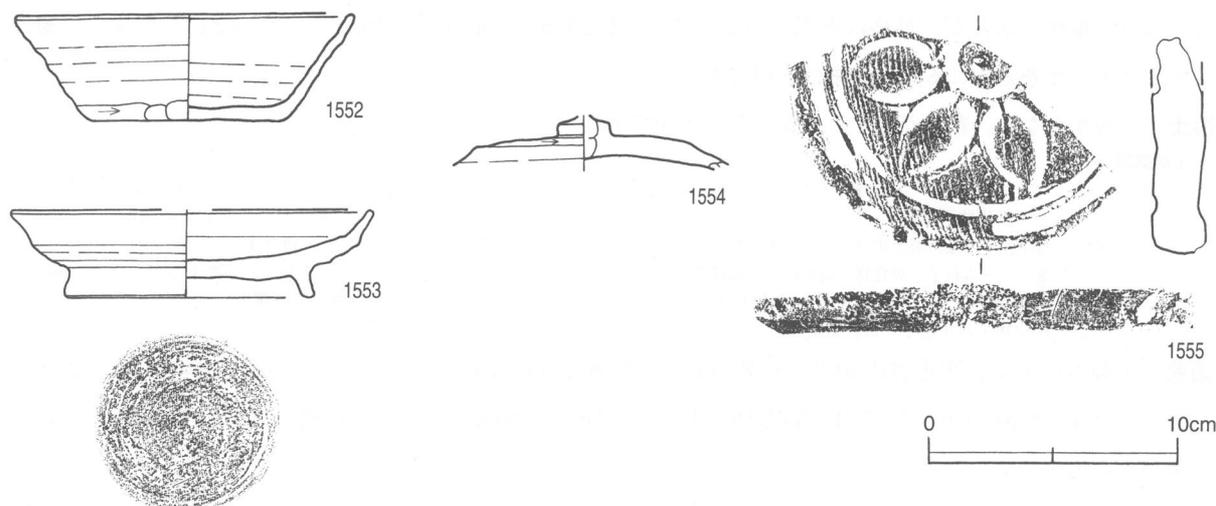
遺物 土師器片257点, 須恵器片279点, 灰釉陶器片1点, 瓦片1点, 鉄器1点(刀子)が出土している。第448図1552の須恵器坯は, 中央部東壁寄りの覆土下層と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。1553の須恵器盤は東壁際の覆土下層から, 1554の須恵器蓋, 1555の軒丸瓦は中央部の覆土中層から出土して



第447図 第427号住居跡実測図

いる。1555の瓦当文様は素縁単弁七葉蓮華文と思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉と推定される。



第448図 第427号住居跡出土遺物実測図

第427号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 1552	坏 須恵器	A 13.3 B 4.2 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	50% P L 225
1553	盤 須恵器	A [14.4] B 3.5 D 9.7 E 1.2	口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部内・外面、底部内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	90% P L 225
1554	蓋 須恵器	B (2.2) F [2.2] G (0.8)	口縁部欠損。天井頂部は平坦。つまみは擬宝珠状。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 小礫、明褐色 普通	60% P L 225
遺物番号	器種	計測値			特徴	備考
		面径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1555	軒丸瓦	[15.3]	2.0	(256.0)	瓦当部の破片。素縁単弁七葉蓮華文カ。	

第428号住居跡 (第449図)

位置 調査区域の中央部、E 6 c7区。

重複関係 第429 A号住居に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.75m、短軸2.70mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は4~10cmである。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。床面近くまで削平されているため、煙道部及び火床部を確認しただけである。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、煙道部は、壁を幅90cm、奥行き45cmにわたり三角形に掘

り込んでいる。火床面は地山面をそのまま使用しており、北壁ラインの内側に位置する。焚口部には、後述するP2が位置する。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径62cm、短径50cmの楕円形、深さ15cmで、北西コーナー部に位置し、覆土は自然堆積であるが、性格は不明である。P2は径25cmの円形、深さ18cmで、焚口部に位置する。竈に関するピットと考えられるが、詳細は不明である。

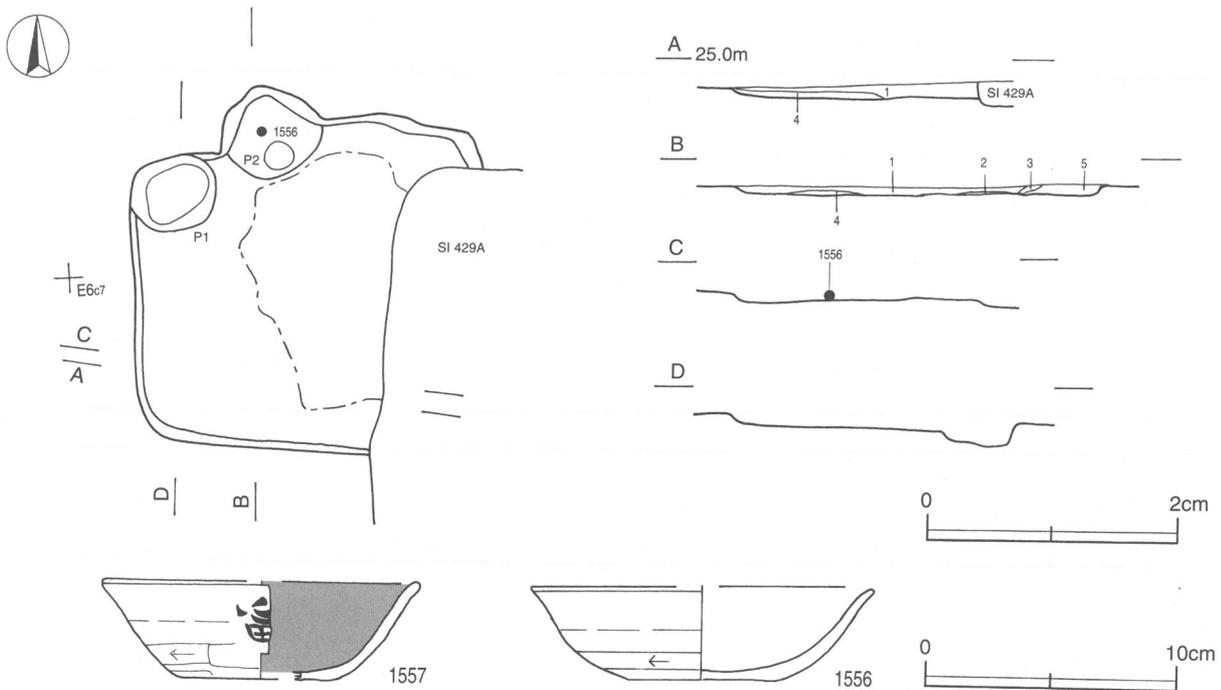
覆土 5層からなる。覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 (竈覆土) |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | | |

遺物 土師器片57点、須恵器片40点、鉄製品1点 (不明)、攪乱により混入したとみられる陶器片2点が出土している。第449図1556・1557は土師器坏である。1556は、竈内から破片の状態が出土している。1557は、北東部から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と推定される。



第449図 第428号住居跡・出土遺物実測図

第428号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第449図 1556	坏 土師器	A [13.4] B 3.7 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	50% P L 225
1557	坏 土師器	A [12.6] B 3.9 C [5.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色、普通	10% P L 248 体部外面墨書 正位「富」

第429 A号住居跡（第450図）

位置 調査区域の中央部，E 6 c8区。

重複関係 第428号住居跡を掘り込み，第429 B号住居跡の上に構築されているので，いずれよりも本跡が新しい。

規模と平面形 北壁が直線的でなく，竈の西側が東側より60cmほど奥へ掘り込まれている。規模は，西部で南北4.05m，東部で南北3.45m，東西3.48mである。竈の東側に棚状施設の存在が想定され，それを含めて長方形になるものと考えられる。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は18～24cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。第429 B号住居跡と重複する部分は貼床とし，その他の部分は地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ94cm，袖部最大幅は，東袖が遺存しないが，135cmと推測される。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第5層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。煙道部は，壁を幅60cm，奥行き50cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は，30度の傾きで立ち上がる。火床部は，長軸60cm，短軸50cmの楕円形に確認面から33cmほど掘り込んでつくっており，地山面を火床面としている。火床部は，北壁ラインの外側に位置する。

竈土層解説

1 極暗褐色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量	5 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
2 褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3 暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量		

ピット 4か所（P 1～P 4）。P 1は径40cmの円形，深さ5cmである。掘り込みは浅いが，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P 2は径43cmの円形，深さ20cmで，北東コーナー部に位置する。P 3は長径50cm，短径42cm楕円形，深さ25cmで，南東コーナー部に位置する。いずれも柱穴の可能性が考えられるが，規模を考えると詳細は不明である。P 4は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ21cmで，中央部に位置する。性格は不明である。

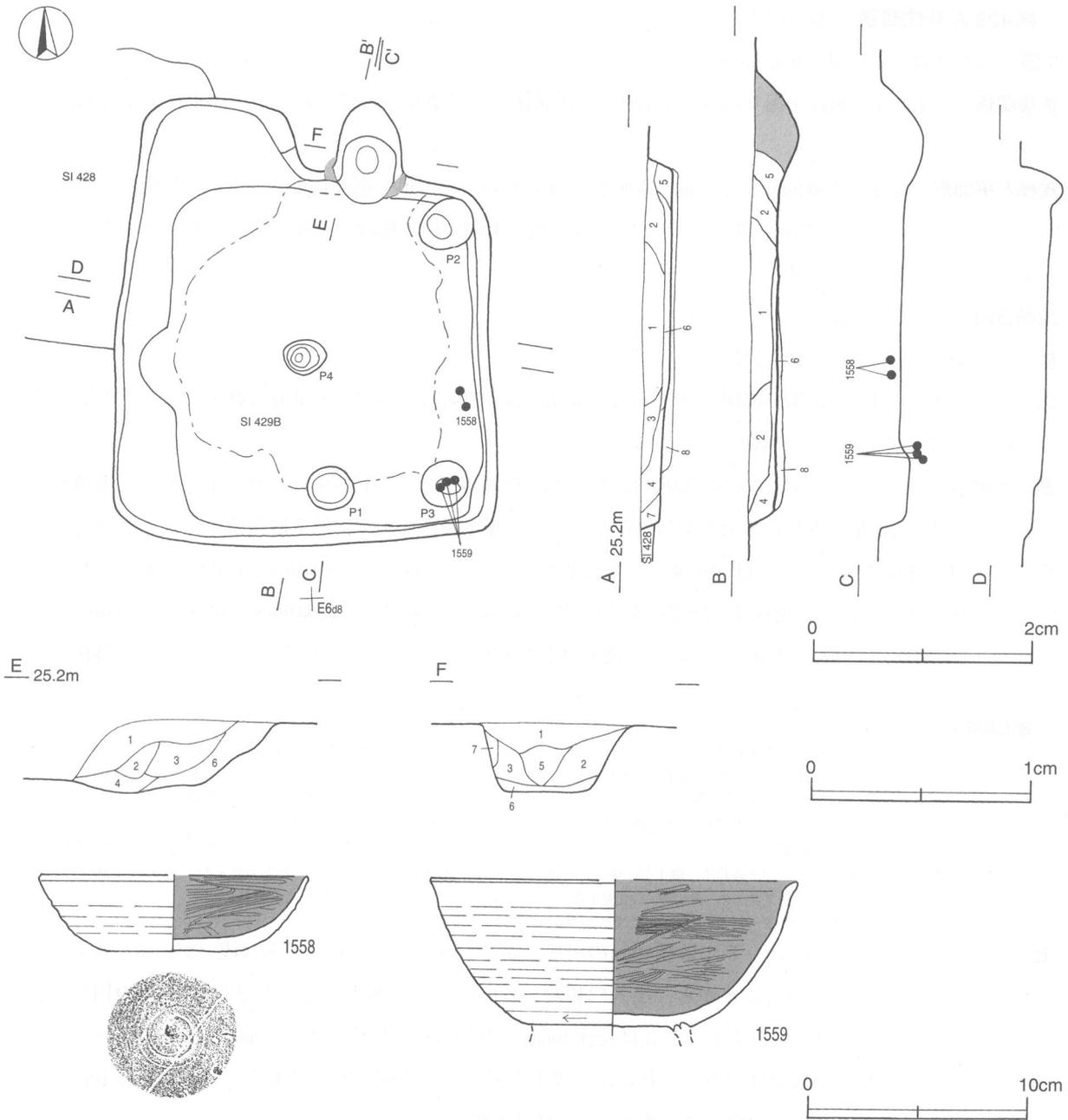
覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量，粘土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量（貼床）
4 褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量		
5 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量		

遺物 土師器片273点，須恵器片128点，灰釉陶器片1点，鉄製品1点（釘），雲母片岩1点，攪乱により混入したとみられる陶器片2点が出土している。第450図1558の土師器坏は東壁際の覆土下層から，1559の土師器高台付椀はP 3内から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から9世紀後葉と推定される。



第450図 第429 A号住居跡・出土遺物実測図

第429 A号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1558	坏 土師器	A [12.2] B 3.6 C 5.8	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。ロクロ目は強い。底部回転ヘラ切り後、ナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・石英 赤色粒子 橙色、普通	60% P L 225
1559	高台付碗 土師器	A [16.6] B (7.0) E (0.3)	高台部・体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	60% P L 225

第429 B号住居跡 (第451図)

位置 調査区域の中央部, E 6 c8区。

重複関係 第429 A号住居に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.14m, 短軸2.73mの方形である。

主軸方向 N-88°-W

壁 壁高は5~10cmである。

壁溝 西壁を除いて, 壁下を巡っている。上幅12~26cm, 下幅4~12cm, 深さ5cm, 断面はU字形である。

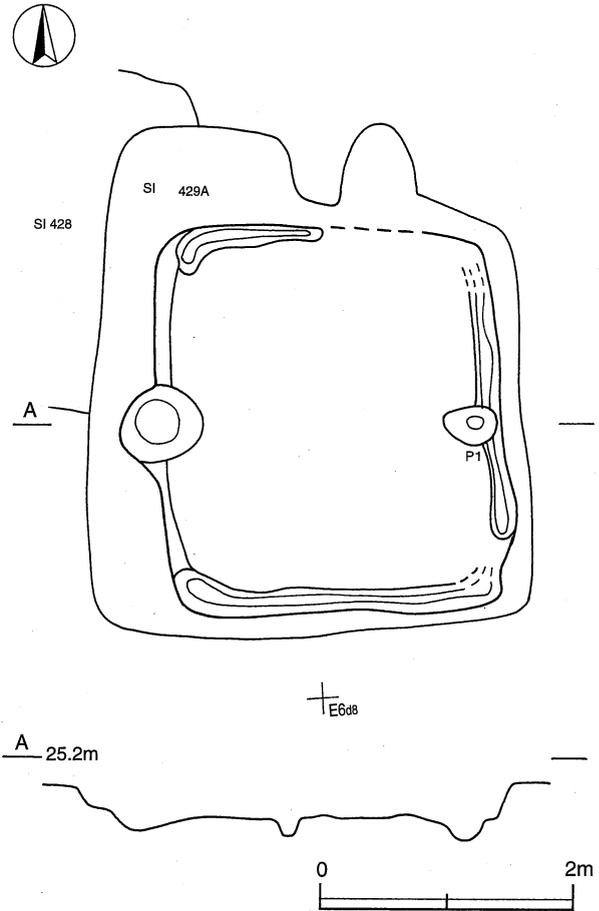
床 ほぼ平坦である。地山を平坦に掘り込んで, 床面としている。

竈 西壁の中央部に設けられている。第429 A号住居に掘り込まれているため, 火床部を確認しただけである。火床部は, 西壁ライン上に位置し, 規模は長軸67cm, 短軸58cmの楕円形である。確認面から32cmほどの深さに掘り込んでおり, 地山面を火床面としている。覆土は, 焼土・炭化粒子を含む暗赤褐色土である。

ピット 1か所。P1は長径40cm, 短径30cmの卵形, 深さ20cmで, 竈に対する東壁際で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。

遺物 土師器片1点が出土している。細片のため図示できない。

所見 本跡の時期は, 重複関係から9世紀後葉もしくはそれ以前と推定される。



第451図 第429 B号住居跡実測図

第431号住居跡 (第452・453図)

位置 調査区域の中央部, E 6 a5区。

規模と平面形 長軸3.73m, 短軸3.60mの方形である。南壁の中央部の外側に, 幅80cm, 長さ45cmの階段状の出入口施設を持つ。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は41~45cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅13~23cm, 下幅11~21cm, 深さ6cm, 断面はU字状である。

床 ほぼ平坦で, 各コーナー部を除いて踏み固められている。中央部は地山のロームを床としているが, その外周部は貼床である。貼床は, 壁に沿って幅60~90cm, 確認面から深さ55~75cmほど溝状に掘り込み, 焼土・炭化物・ロームを含む暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ133cm、袖部最大幅150cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中、第10・15層が焼土ブロックを含むことから、火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は、砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、壁を幅115cm、奥行き45cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は、50度の傾きで立ち上がる。火床部は、径75cmほどの不整楕円形に確認面から63cmほど掘り込み、ロームブロックを含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの内側に位置し、6cmの厚さで赤変している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	13 灰黄褐色	灰中量、焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
2 にぶい黄褐色	黄褐色粘土小ブロック中量、砂粒少量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 灰黄褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰微量
3 暗褐色	砂粒・黄褐色粘土中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・灰少量、炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	黄褐色粘土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
5 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	17 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒・黄褐色粘土小ブロック微量	18 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量	19 にぶい黄褐色	黄褐色粘土中ブロック多量、砂粒少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量	20 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土中ブロック・砂粒微量
9 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量	21 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
10 暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量、炭化物・炭化粒子・砂粒微量	22 赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量（掘り方）
11 にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・黄褐色粘土中ブロック微量	23 極暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量（掘り方）
12 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量	24 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量（掘り方）
		25 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量（掘り方）

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は、径40～62cmの円形、深さ47～72cmで、規模と配置から主柱穴と思われる。P5は径60cmの円形、深さ30cmで、南壁際の竈に対する位置で確認されていることから、後述する、出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	4 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
		5 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

出入口施設 南壁の中央部の外側に設けられている。幅80cm、長さ45cmのU字形に、確認面から8cmほどの深さで平坦に掘り込まれ、底面は踏み固められている。床面から硬化面までの高さは33cmほどである。出入口施設が設けられている部分の壁面には、ローム・焼土・炭化物・粘土・砂粒を含む褐色土（土層断面図中、第10層）が貼り付けられ、硬く締まっている。

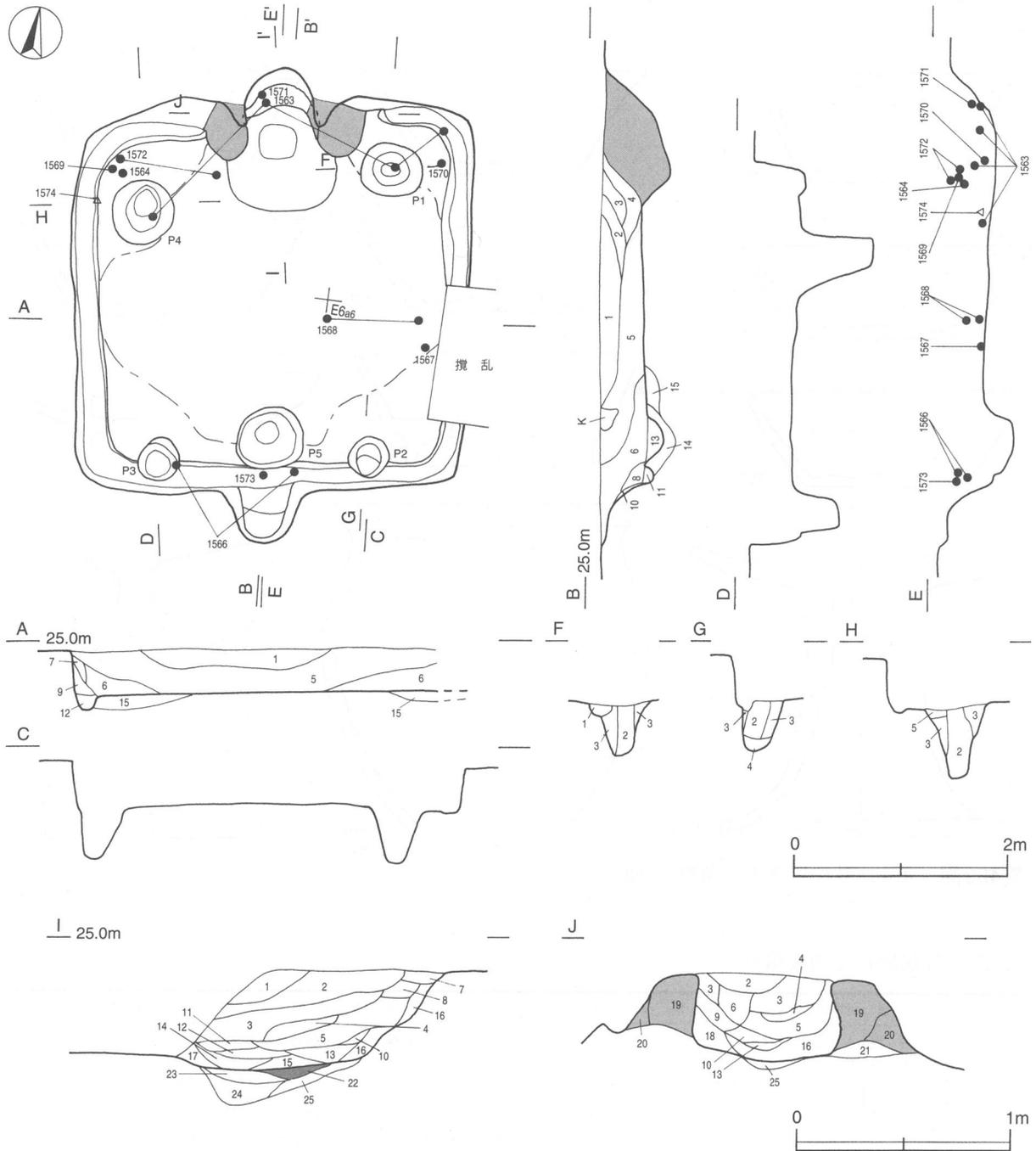
覆土 12層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	6 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
3 暗褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量		

- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 10 褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 12 暗褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土大ブロック・焼土粒子微量

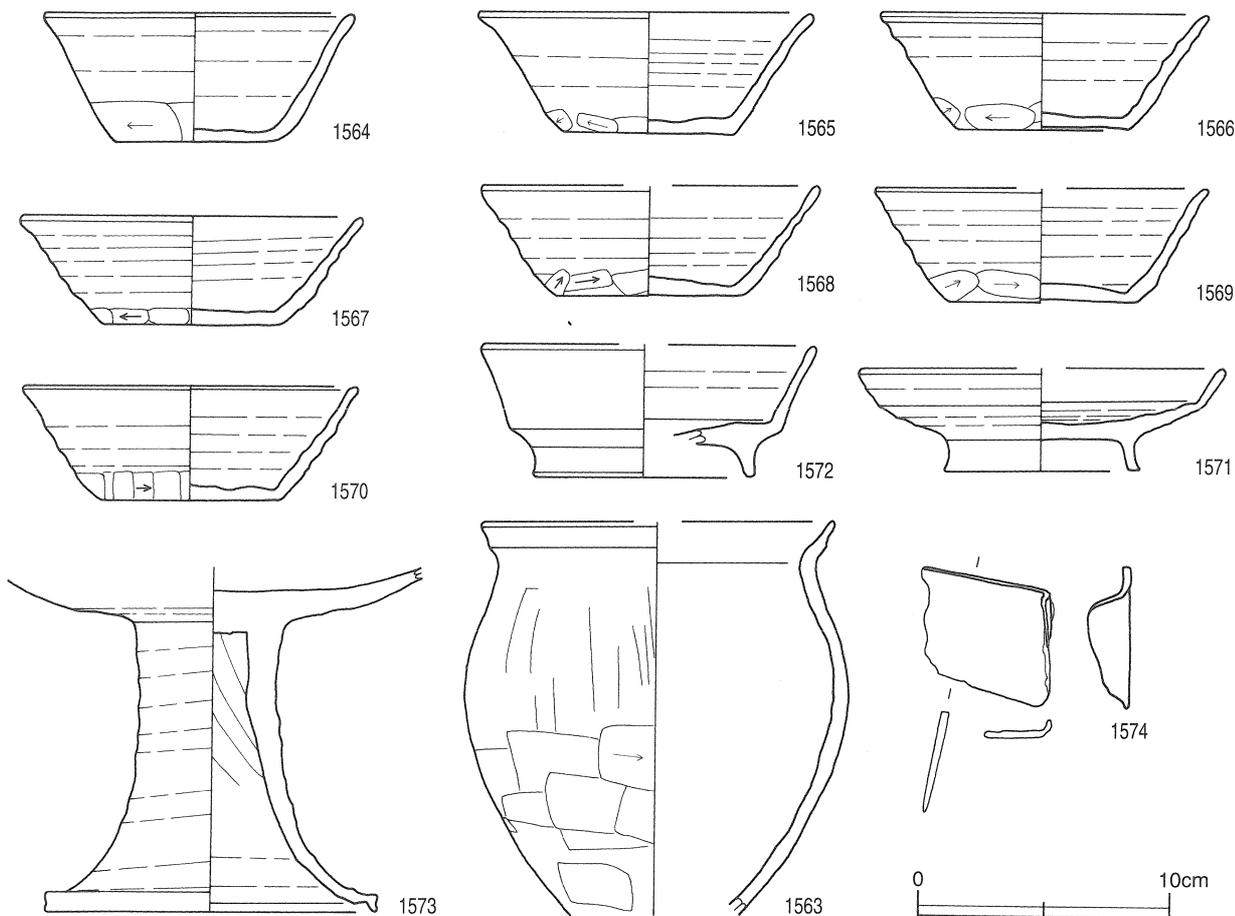
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 (P5覆土)
- 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (貼床)
- 15 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 (貼床)



第452図 第431号住居跡実測図

遺物 土師器片419点，須恵器片587点，灰釉陶器片4点，鉄器3点（鏃・釘・鎌），攪乱により混入したとみられる陶器片1点が出土している。第453図1563の土師器小形甕は，竈内と北壁寄りの覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。1564～1570は須恵器坏である。1564・1565・1569は北西コーナー部の覆土上層から，1566は南壁際の覆土中層から，1567は東壁寄りの床面直上から出土している。1568は，中央部の床面直上と東壁寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。1570は，北東コーナー際の覆土下層から出土している。1571の須恵器盤は竈内から，1572の須恵器高台付坏は北西コーナー部の覆土上層から，1573の須恵器高盤は南壁際の覆土中層から，1574の鎌は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から9世紀中葉と推定される。



第453図 第431号住居跡出土遺物実測図

第431号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第453図 1563	小形甕 土師器	A [13.8] B (15.6)	体部は内彎して立ち上がり，頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半縦位のヘラナデ。下半横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 石英・赤色粒子 橙色，普通	60% PL226
1564	坏 須恵器	A 12.4 B 5.0 C 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色	60% PL226 二次焼成
1565	坏 須恵器	A 13.2 B 4.9 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	85% PL226

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第453図 1566	坏 須恵器	A 12.9 B 4.6 C 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	85% P L 226
1567	坏 須恵器	A 13.5 B 4.3 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 暗灰黄色 普通	75% P L 226
1568	坏 須恵器	A [13.2] B 4.4 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	50% P L 226
1569	坏 須恵器	A [13.1] B 4.6 C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰白色、普通	50% P L 226
1570	坏 須恵器	A 13.0 B 4.5 C 7.1	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	50% P L 226
1571	盤 須恵器	A [14.4] B 4.1 D 7.7 E 1.9	体部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。高台はハの字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	60% P L 226
1572	高台付坏 須恵器	A [13.0] B 5.3 D 8.6 E 1.2	体部・口縁部一部欠損。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰色 普通	30% P L 226
1573	高 須恵器	B (13.6) D 13.2 E 11.5	裾部から体部の破片。体部は内彎気味に開く。脚部はラッパ状に開く。裾部はなだらかに広がり端部は屈曲して垂下する。	体部内・外面、裾部、底部内・外面ロクロナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石、角礫 灰色 普通	60% P L 226

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃部最大幅(cm)	刃部最小幅(cm)	重量(g)			
1574	鎌	(5.1)	0.3	4.6	4.0	(32.2)	鉄	着柄部全面折り返し。	P L 256

第432号住居跡（第454・455図）

位置 調査区域の中央部，E 6 d6区。

重複関係 第129号掘立柱建物跡を掘り込み，第26号溝に掘り込まれており，第129号掘立柱建物跡より新しく，第26号溝より古い。

規模と平面形 長軸2.80 m，短軸2.78 mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は7～12cmである。

床 ほぼ平坦で，P 1付近から竈の前にかけて帯状に踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の東寄りに設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ95cm，袖部最大幅は，袖部が遺存しないため不明である。煙道部は，壁を幅78cm，奥行き55cmにわたり逆U字形に掘り込んである。煙道は，20度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面からの深さ20cmほど掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ライン上に位置する。煙道部の立ち上がり部から，土師器坏が逆位で出土している。二次焼成を受けていることから，支脚に転用されていたと思われる。なお，覆土土層断面図中，第4～6層が覆土である。

竈土層解説

- 4 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径38cm, 短径28cmの楕円形, 深さ26cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径85cm, 短径75cmの不整楕円形, 深さ40cmで, 南西コーナー部に位置する。性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

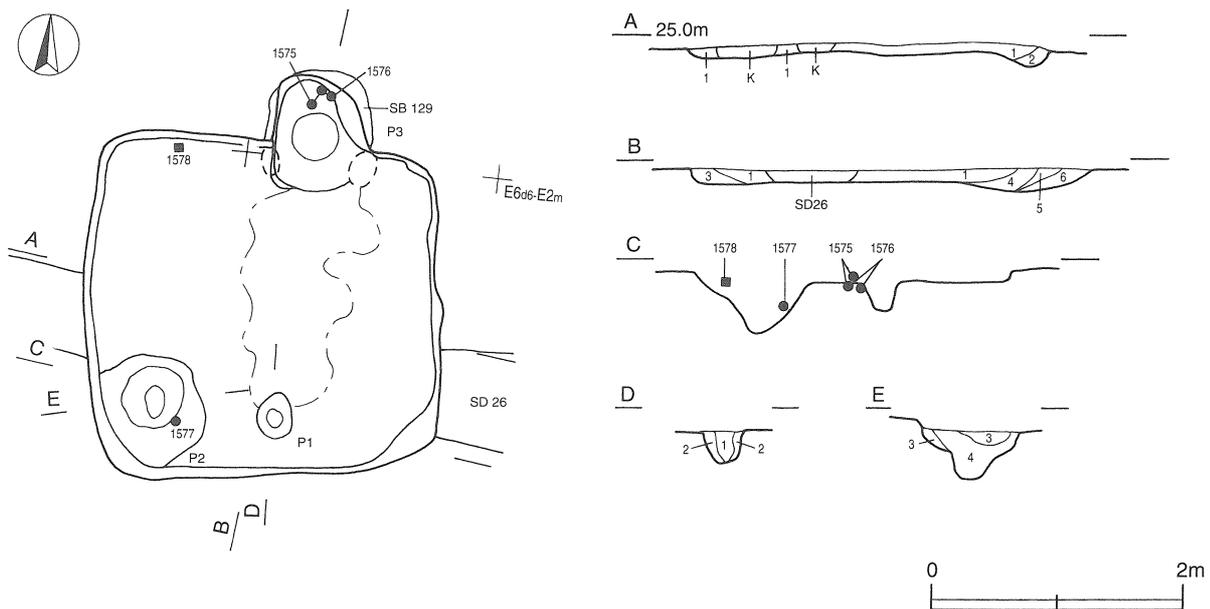
覆土 3層からなる。覆土が薄いため, 堆積状況は不明である。

土層解説

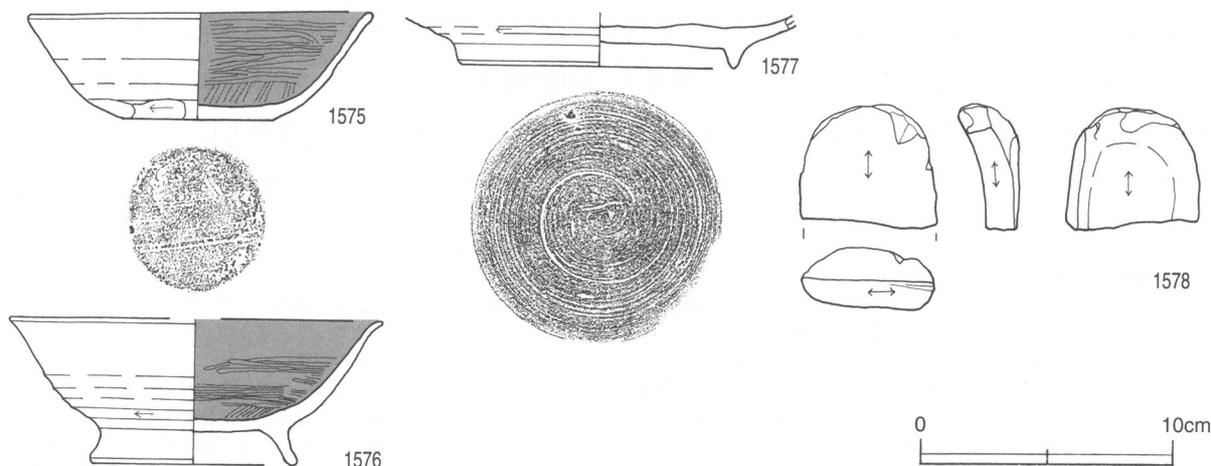
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 土師器片108点, 須恵器片49点, 石器1点(砥石), 雲母片岩2点, 攪乱により混入したとみられる陶器片1点が出土している。第455図1575の土師器坏は煙道部の立ち上がり部から逆位で, 1576の土師器高台付碗は煙道部から, いずれも二次焼成を受けて出土している。1577の須恵器盤はP2内から, 1578の砥石は北壁際の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀前葉と推定される。



第454図 第432号住居跡実測図



第455図 第432号住居跡出土遺物実測図

第432号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1575	坏 土師器	A 13.6 B 4.4 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・長石 橙色	75% P L 226 二次焼成
1576	高台付碗 土師器	A [14.7] B 5.8 D 8.0 E 1.4	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部、体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 褐灰色	40% P L 226 二次焼成
1577	盤 須恵器	B (1.8) D 10.9 E 0.9	底部は丸底気味。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。高台は短く、垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	70% P L 226

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1578	砥石	(4.9)	5.3	2.5	(65.6)	凝灰岩	砥面4面。	P L 253

第433号住居跡 (第456～458図)

位置 調査区域の中央部、E 6 d4区。

重複関係 第434号住居・第129号掘立柱建物・第26号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.52m、短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は37～50cmで、ほぼ直立する。

壁溝 南西部から西部にかけてを、第434号住居によって掘り込まれ、また攪乱を受けているため確認できないが、竈の部分と北壁の一部を除いて、壁下を巡っていたと推測される。上幅13～25cm、下幅5～19cm、深さ5cm、断面はU字形である。

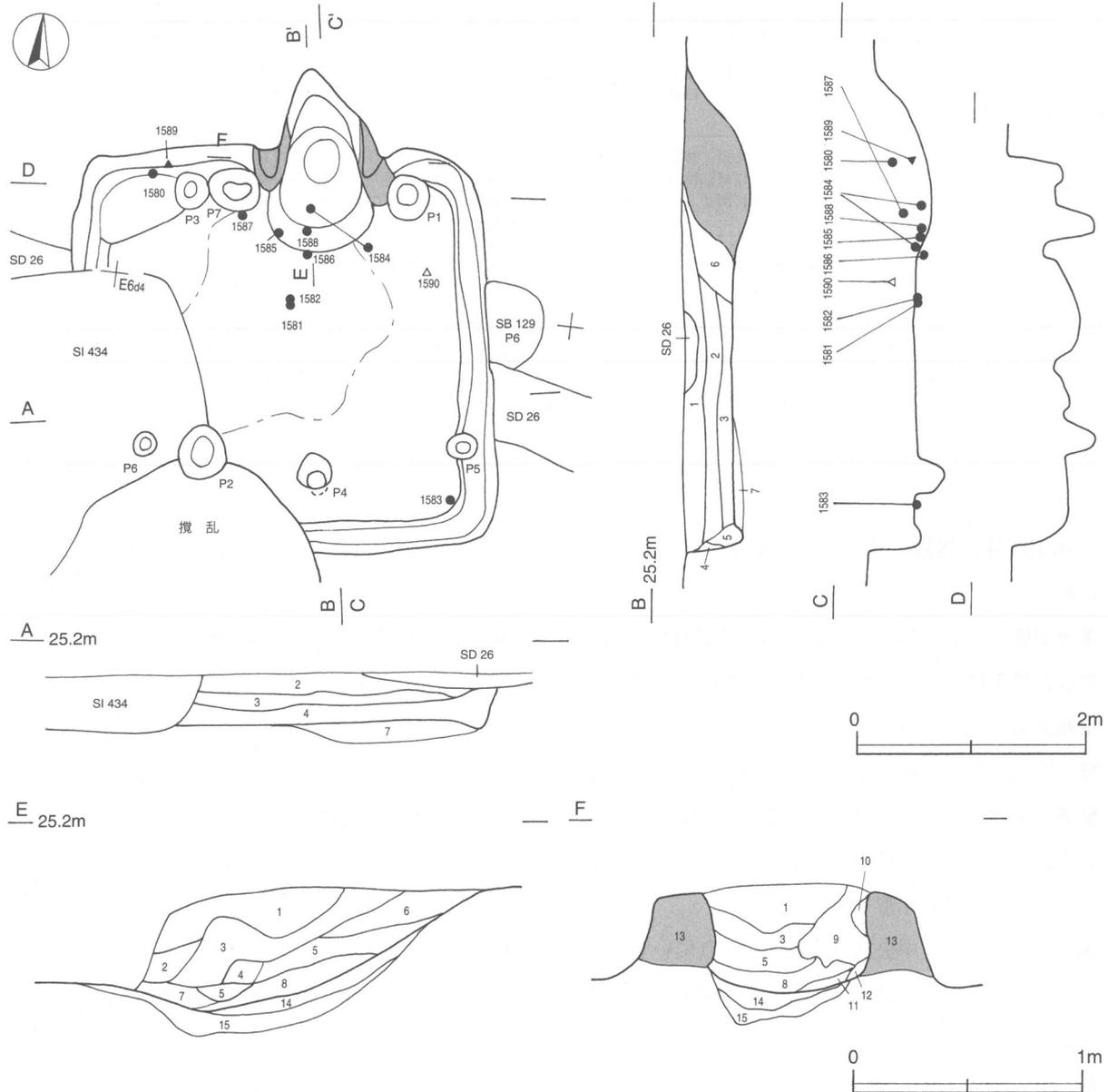
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。中央部は掘り込んだ地山のロームを床としているが、その外周部は貼床である。貼床は、四隅を不定形の土坑状に、またその間をつなぐように溝状に掘り込み、ローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部やや東寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ166cm、袖部最大幅130cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中、第7・8層が焼土ブロックを含むことから、火熱を

受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は、黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、壁を幅90cm、奥行き75cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は、20度の傾きで立ち上がる。火床部は、長軸145cm、短軸70cmの涙滴形に確認面から65cmほど掘り込み、ロームブロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ライン上に位置し、6cmほどの厚さで赤変している。被熱の様子から、長期間使用されたと思われる。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量</p> <p>2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量</p> <p>3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・黄褐色粘土ブロック・砂粒微量</p> <p>4 にぶい黄褐色 黄褐色粘土ブロック多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化材微量</p> <p>5 暗褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量</p> | <p>6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量</p> <p>7 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量</p> <p>8 灰黄褐色 灰多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量</p> <p>9 にぶい黄褐色 焼土粒子・黄褐色粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量</p> |
|---|---|



第456図 第433号住居跡実測図

- | | | | | | |
|----|--------|--|----|------|--|
| 10 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・黄褐色粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量 (掘り方) |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 15 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (掘り方) |
| 12 | にぶい黄褐色 | 黄褐色粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | | |
| 13 | にぶい黄褐色 | 黄褐色粘土ブロック多量, 焼土粒子微量 | | | |

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P3は径30~42cmの円形, 深さ21~35cmで, 規模と配置から主柱穴と思われる。P4は径30cmの円形, 深さ20cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P5は長径30cm, 短径25cmの楕円形, 深さ37cmで, 東壁際に位置する。P6は径20cmの円形, 深さ11cmで, 西壁際に位置する。P7は長径45cm, 短径35cmの楕円形, 深さ15cmで, 北壁際に位置する。いずれも柱穴の可能性が考えられるが, 詳細は不明である。

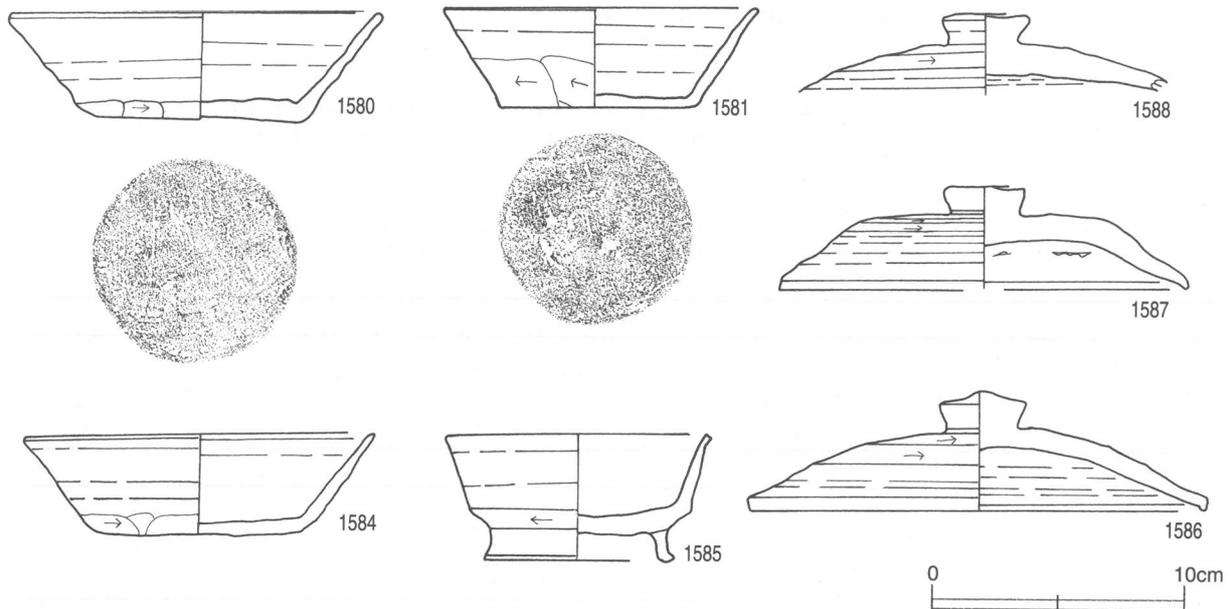
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と思われる。

土層解説

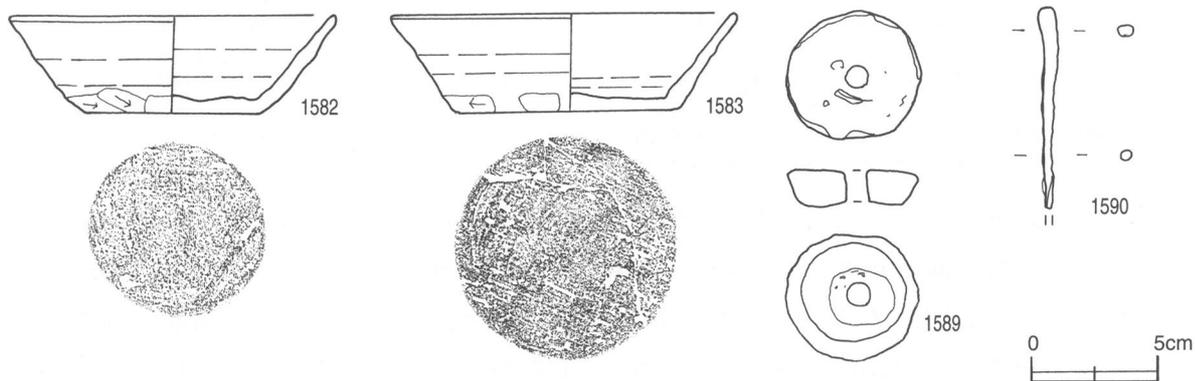
- | | | | | | |
|---|-----|--|---|-----|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (貼床) |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | | | |

遺物 土師器片319点, 須恵器片251点, 灰釉陶器片2点, 土製品1点 (紡錘車), 鉄製品1点 (不明) が出土している。第457図1580~1584は須恵器片である。1580は北壁際の覆土上層から斜位で, 1581・1582は中央部の床面から逆位で重ねられた状態で出土している。1583は南東コーナー際の覆土下層から逆位で, 1584は竈前の覆土下層から出土している。1585の高台付片は, 竈前の床面直上から出土している。1586~1588は須恵器蓋である。1586・1588は竈前の床面から, 1587は竈西側の覆土中層から出土している。1589の土製紡錘車は北壁際の覆土中層から, 1590の不明鉄製品は東壁寄りの覆土中層から出土している。なお, 本跡から出土している灰釉陶器片は, 混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉と推定される。



第457図 第433号住居跡出土遺物実測図 (1)



第458図 第433号住居跡出土遺物実測図(2)

第433号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 1580	坏 須恵器	A 14.6 B 4.2 C 7.9	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	100% P L 226
1581	坏 須恵器	A 12.4 B 4.0 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	95% P L 226
第458図 1582	坏 須恵器	A 13.0 B 4.8 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 暗青灰色 普通	95% P L 226
1583	坏 須恵器	A 13.6 B 3.8 C 8.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	95% P L 226
第457図 1584	坏 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す，1方向のヘラ削り。	粗い，砂粒・長石 角礫 暗青灰色，普通	95% P L 227
1585	高台付坏 須恵器	A 10.3 B 5.1 D 7.4 E 1.3	口縁部一部欠損。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。高台はハの字状に開く。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	90% P L 227
1586	蓋 須恵器	A 18.0 B 4.8 F 3.5 G 1.6	口縁部一部欠損。天井部は丸みを持ち，なだらかに口縁部にいたる。口縁部はわずかに屈曲する。つまみは高く，擬宝珠状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後，ナデ。	粗い，砂粒・雲母・ 長石・石英・角礫 灰色 普通	95% P L 227
1587	蓋 須恵器	A [16.2] B 4.1 F 3.2 G 1.2	天井部から口縁部の破片。天井部はなだらかに下降する。口縁部は外反した後，短く屈曲する。つまみは，擬宝珠状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	50% P L 227
1588	蓋 須恵器	B (2.7) F 3.3 G 1.1	口縁部欠損。天井部は丸みを持ち，なだらかに下降する。つまみは，擬宝珠状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 石英 灰黄色，普通	80% P L 227

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第458図1589	紡錘車	5.3	4.2	1.5	0.9	41.9	土製	断面逆台形。上面ナデ。	P L 250

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1590	不明	(8.0)	0.7	0.5	(6.8)	鉄	頭部楔形。	P L 258

第435号住居跡（第459図）

位置 調査区域の中央部，E 6 e3区。

規模と平面形 南北軸は3.15mで，東西軸は東側が攪乱を受けているため，最大2.00mである。平面形は方形と推定される。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は40cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っていたと推定される。上幅7～15cm，下幅5～8cm，深さ6cm，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁のおそらく中央部に設けられていたと推測される。規模は焚口部から煙道部までの長さ75cm，袖部最大幅107cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第10層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は，壁を幅40cm，奥行き20cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は61度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面からの深さ40cmほどに掘り込んでおり，地山面をそのまま火床面としている。火床部は，北壁ラインの内側に位置する。袖部内壁は最大厚7cmほど赤変硬化しており，長期間使用されたと思われる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	7 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック微量	9 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量	11 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 にい黄褐色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
		13 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量

ピット 1か所。P1は長径24cm，短径15cmの楕円形，深さ15cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

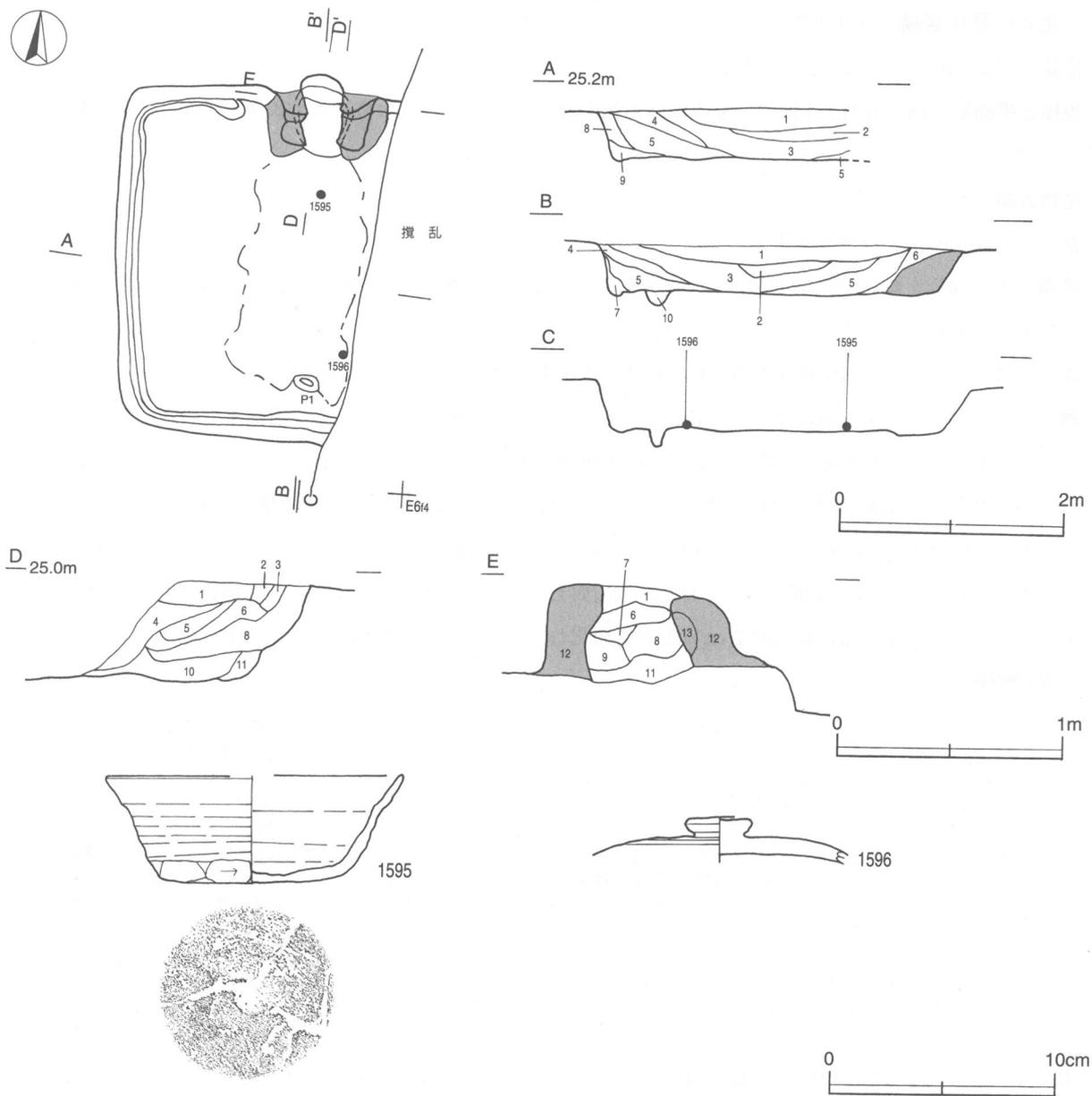
覆土 10層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量	9 褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量（P1覆土）

遺物 土師器片15点，須恵器片41点が出土している。第459図1595の須恵器坏は，竈内からと竈前の床面から出土した破片が接合したものである。1596の須恵器蓋は，中央部南寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から9世紀前葉と推定される。



第459図 第435号住居跡・出土遺物実測図

第435号住居跡出土遺物観察表

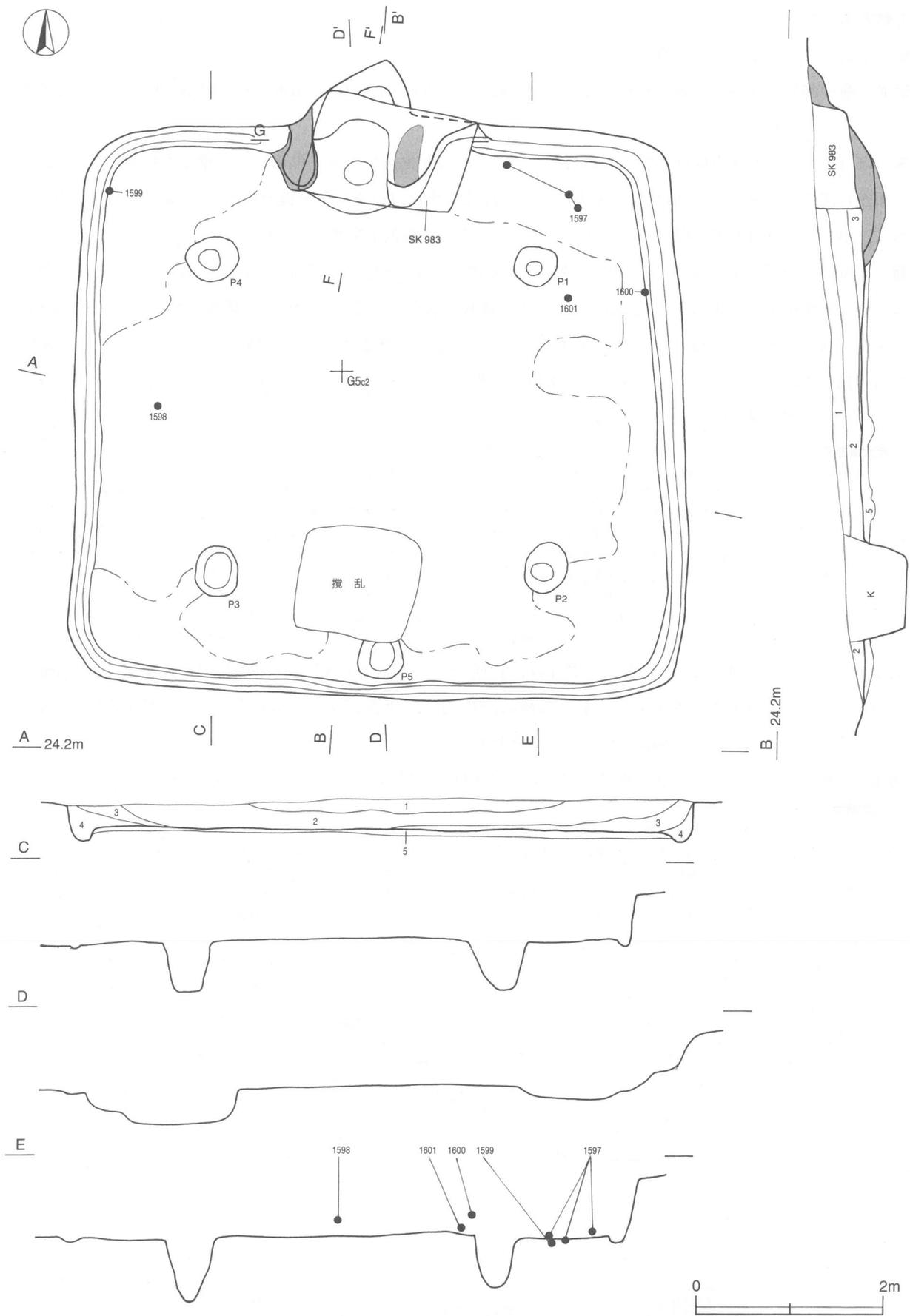
遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第459図 1595	坏 須恵器	A [13.1] B 4.8 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	50% P L 227
1596	蓋 須恵器	B (1.8) F 2.9 G 0.9	天井部の破片。天井部は丸みをもつつまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	20% P L 227

第436号住居跡 (第460～462図)

位置 調査区域の南西部端，G 5 c2区。

重複関係 第983号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.58m，短軸6.16mの方形である。



第460图 第436号住居迹实测图(1)

主軸方向 N-0°

壁 壁高は3～60cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて、壁下を巡っている。上幅12～20cm、下幅6～14cm、深さ10cm、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、四隅を除いて踏み固められている。全面が貼床である。貼床は、北壁際を幅70～150cm、確認面から深さ68～90cmほど溝状に、南東コーナー部及び南西コーナー部を確認面から20cmほど不定形の土坑状に、中央部はほぼ平坦に掘り込み、ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に位置する。規模は、焚口部から煙道部までの長さ205cm、袖部最大幅185cmである。袖部は、地山を掘り残した基部の上に、粘土ブロック・砂粒を含む褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は、壁を幅150cm、奥行き70cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は、35度の傾きで立ち上がる。火床部は、住居の掘り方に、ロームブロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの内側に位置し、6cmの厚さで赤変している。

竈土層解説

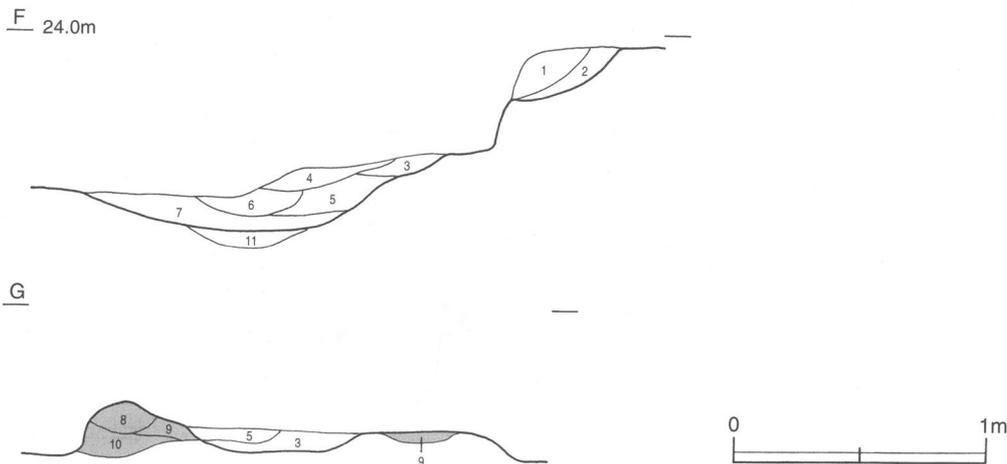
- | | | | |
|----------|--|----------|--|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 6 赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック少量、砂粒微量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量 | 8 褐色 | 粘土小ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・砂粒微量 |
| 5 におい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大ブロック・炭化粒子微量 | 10 におい褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量 |
| | | 11 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子中量、炭化粒子・砂粒少量(掘り方) |

ピット 5か所(P1～P5)。P1～P4は、長径50～58cm、短径45～48cmの楕円形、深さ55～72cmで、規模と配置から、主柱穴と思われる。P5は径47cmの円形、深さ26cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

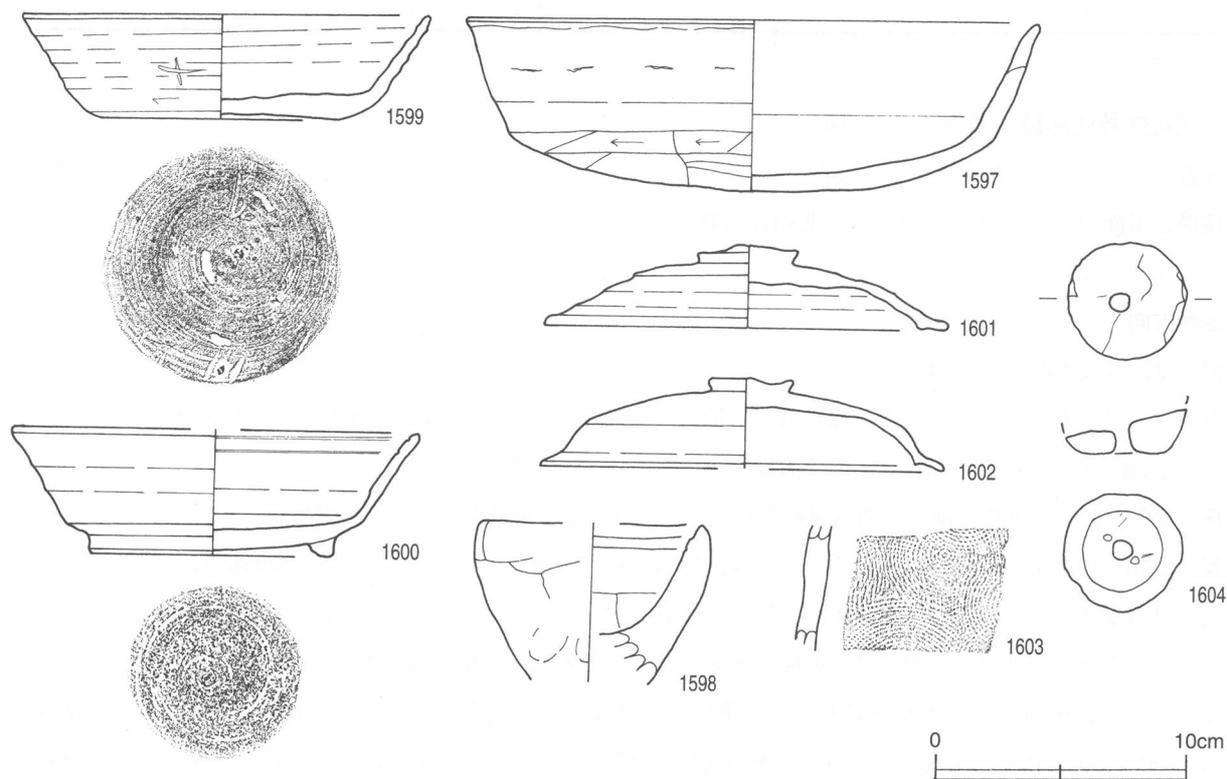
- | | | | |
|------|---|------|-------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| | | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量(貼床) |



第461図 第436号住居跡実測図(2)

遺物 土師器片458点, 須恵器片197点, 灰釉陶器片4点, 石製品1点(紡錘車), 鉄器1点(鎌)が出土している。第462図1597の土師器坏は北壁際の覆土下層から, 1598の手捏土器は西壁寄りの覆土中層から出土している。1599の須恵器坏は北西コーナー部の床面から正位で出土し, 体部外面に「+」のヘラ記号が認められる。1600の須恵器高台付坏は, 東壁際の覆土中層から出土している。1601・1602は須恵器蓋である。1601は北東コーナー寄りの覆土下層から, 1602は中央部東寄りの覆土上層から下層にかけて破片の状態出土している。1603の須恵器甕は北東部の覆土下層から, 1604の石製紡錘車は, P5内から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀前葉と推定される。



第462図 第436号住居跡出土遺物実測図

第436号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 1597	坏 土師器	A 22.5 B 6.9	口縁部一部欠損。丸底。底部と体部との境に明瞭な稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	90% P L 227
1598	手捏土器 土師器	A [8.5] B (6.4)	底部欠損。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・小礫 橙色 普通	30% P L 227
1599	坏 須恵器	A 16.0 B 4.3 C 9.4	平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 不良	100% P L 227 体部外面ヘラ 記号「+」
1600	高台付坏 須恵器	A [16.0] B 5.0 D 9.5 E 0.8	口縁部一部欠損。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。口縁部は外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰白色 普通	60% P L 227
1601	蓋 須恵器	A [15.9] B 3.3 F 4.0 G 0.7	天井部は丸く, ならだかに口縁部にいたる。口縁部の内面に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後, ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	45% P L 227

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 1602	蓋 須恵器	A [15.9]	天井部は丸く、なだらかに口縁部にいたる。口縁部の内面に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ割り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後、ナデ。	砂粒・長石・石英 赤色粒子 にぶい黄色 不良	50% P L 227
		B 3.6				
		F 3.0				
		G 0.6				
1603	甕 須恵器	B (5.0)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き。内面剥離が激しく調整不明。	砂粒・長石 にぶい赤褐色、不良	5% P L 244

遺物番号	器種	計測値					石材	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
1604	紡錘車	—	3.3	(1.8)	0.8	(31.2)	粘板岩	下面に2か所のくぼみ有り。	P L 252

第437号住居跡 (第463・464図)

位置 調査区域の南西部端，G 4 co区。

規模と平面形 東西軸5.87mで，南北軸は南側がエリア外の，4.93mが確認できただけである。平面形は方形と推測される。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は最大42cmで，ほぼ直立する。

壁溝 一部攪乱を受けているが，竈の部分を除いて，壁下を巡っていると推測される。上幅16～20cm，下幅6～14cm，深さ10cm，断面はU字形である。

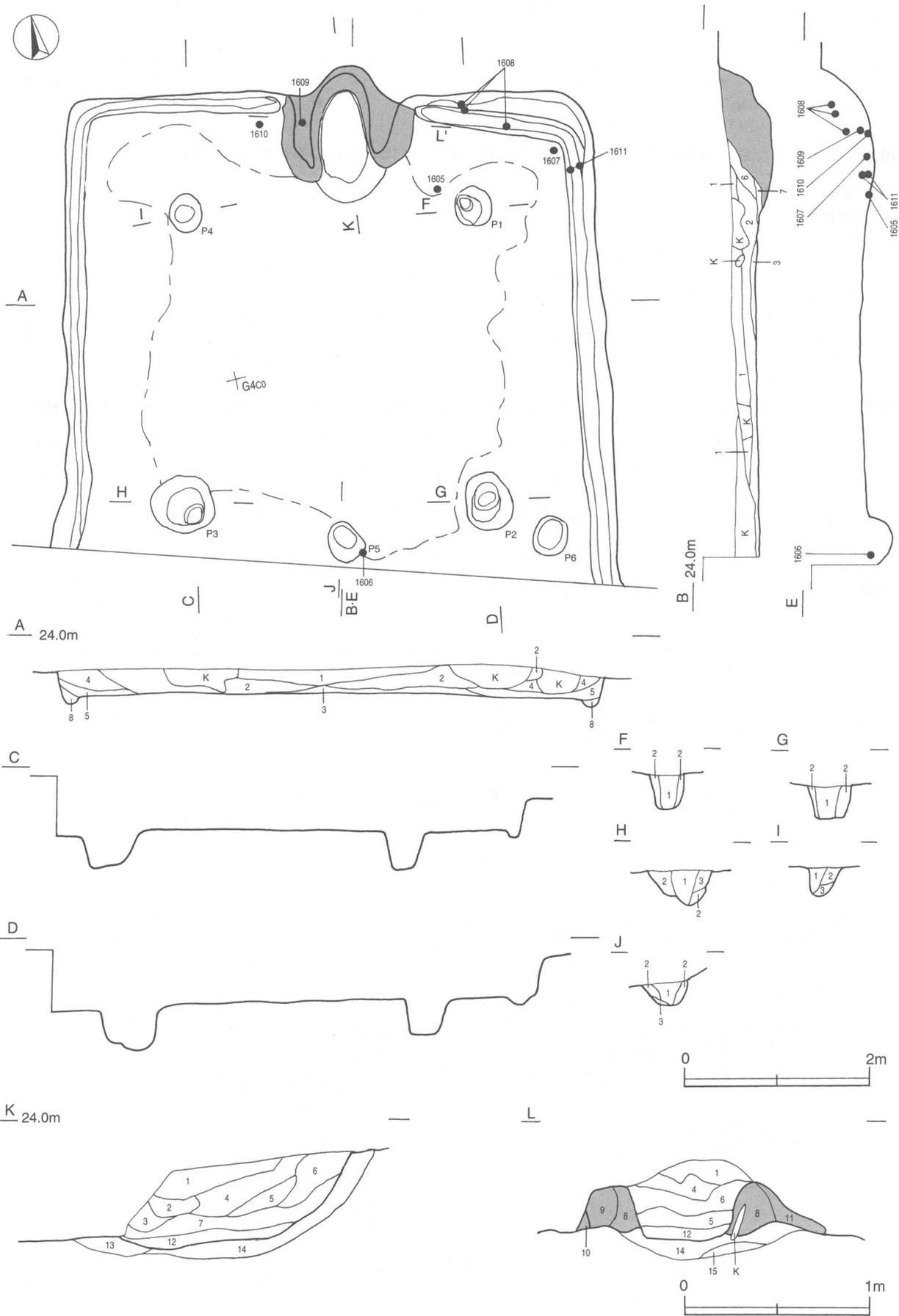
床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ143cm，袖部最大幅140cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第7層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，黄褐色粘土ブロックを多量に含むにぶい黄褐色土で構築されている。煙道部は，壁を幅90cm，奥行き38cmにわたり三角形に，火床部は，長径90cm，短径60cmの不整楕円形に確認面から55cmほど掘り込み，暗褐色土を用いて煙道部奥壁及び火床をつくっている。火床部は，北壁ラインの内側に位置する。煙道は，48度の傾きで立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒・黄褐色粘土小ブロック微量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	10 にぶい黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	砂粒・黄褐色粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	12 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
5 にぶい黄褐色	黄褐色粘土中ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	13 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
6 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・黄褐色粘土中ブロック微量	14 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
7 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰微量	15 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量（掘り方）
8 にぶい黄褐色	黄褐色粘土中ブロック多量，焼土粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量		

ピット 6か所（P 1～P 6）。P 1～P 4は，長径40～70cm，短径37～62cmの楕円形，深さ39～47cmで，規模と配置から主柱穴と思われる。P 5は長径43cm，短径36cmの楕円形，深さ26cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P 6は長径45cm，短径35cmの楕円



第463图 第437号住居跡実測图

形、深さ22cmで、P2の東側に位置する。補助柱穴の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

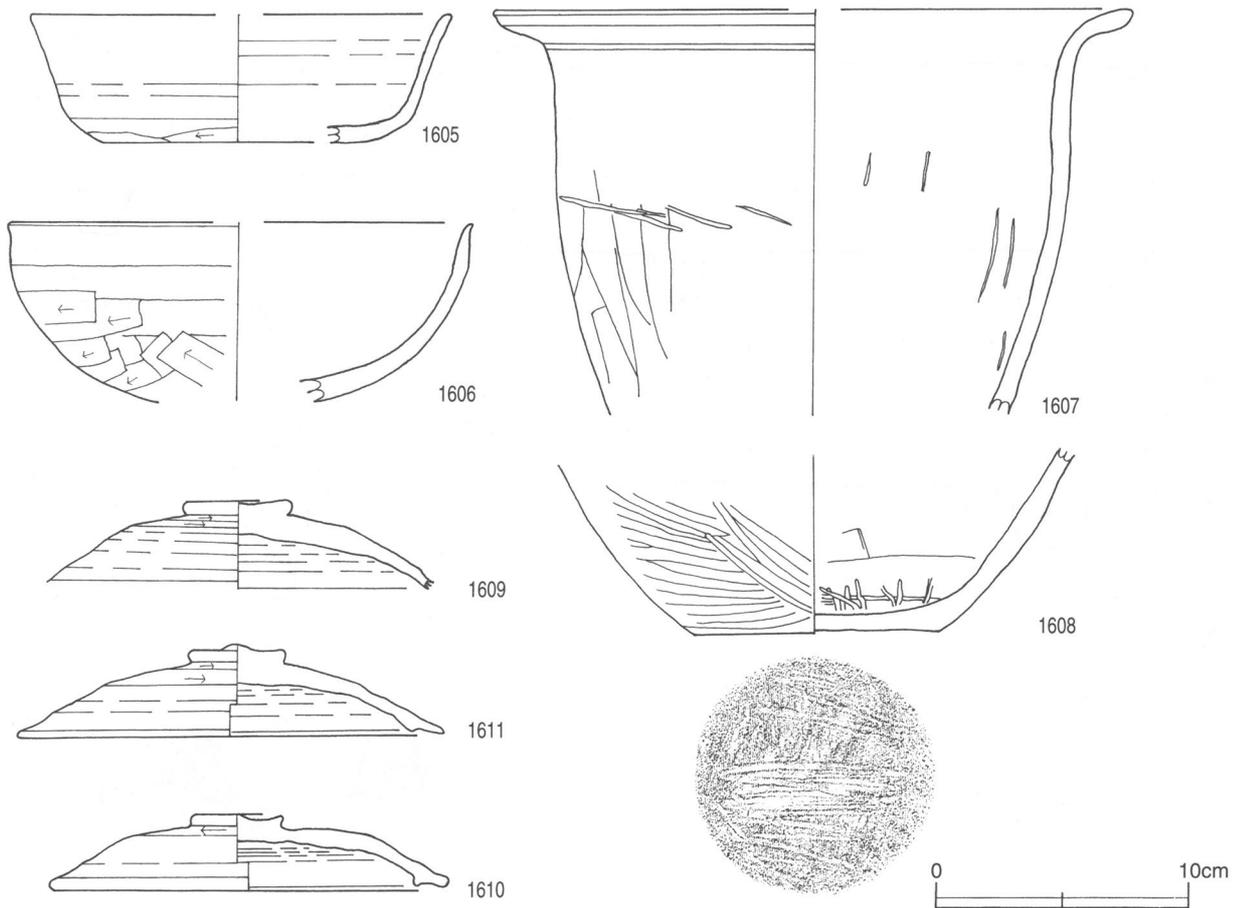
覆土 8層からなる。中央部の床面上に堆積する第3層が、ブロック状の不自然な堆積状況を呈することから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | 焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 土師器片96点，須恵器片40点が出土している。第464図1605・1606は土師器坏である。1605は竈前の覆土下層から，1606は中央部南壁寄りの覆土下層から出土している。1607・1608は土師器甕である。1607は北東コーナー部の覆土下層から，1608は北壁際の覆土中層から出土している。1609～1611は須恵器蓋である。1609は竈西袖の基部から正位で，1610は北壁際の床面から，1611は北東コーナー部の床面から出土している。なお，1609は埋納されたような状況で出土しているが，詳細は不明である。

所見 本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と推定される。



第464図 第437号住居跡出土遺物実測図

第437号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464図 1605	坏 土師器	A [16.5] B 5.1 C [10.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部磨滅のため調整不明。	砂粒・雲母・長石・石英、橙色普通	20% P L 227
1606	坏 土師器	A [18.2] B (7.1)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面・底部多方向のヘラ削り。体部内面ナデ	砂粒・雲母・長石 橙色普通	35% P L 227
1607	甕 土師器	A [25.1] B (16.1)	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部下半縦位のナデ。内面ナデ、ヘラ当て痕。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色普通	20% P L 227
1608	甕 土師器	B (7.2) C 9.8	底部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部下端・底部外面ヘラ磨き。底部内面ヘラ状工具による放射状のナデ	砂粒・雲母・長石・石英、にぶい橙色普通	15% P L 227
1609	蓋 須恵器	B (3.5) F 4.2 G 0.7	口縁部欠損。天井部は丸みをもち、なだらかに口縁部にいたる。つまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後、ナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰色普通	90% P L 227
1610	蓋 須恵器	A 15.6 B 3.0 F 3.6 G 0.5	口縁部一部欠損。天井部は丸みをもち、なだらかに口縁部にいたる。口縁部の内面に短いかえりをもつ。つまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰色普通	60% P L 228
1611	蓋 須恵器	A 16.8 B 3.7 F 3.8 G 0.8	口縁部一部欠損。天井部は丸みをもち、なだらかに口縁部にいたる。口縁端部の内面に短いかえりをもつ。つまみは扁平なボタン状。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色普通	45% P L 228

第438号住居跡（第465・466図）

位置 調査区域の南西部端，G 4 b9区。

規模と平面形 長軸3.82m，短軸3.42mの不整形である。

主軸方向 N-2°-W（長軸方向）

壁 壁高は30～45cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で，特に踏み固められたところはみられない。中央部は貼床で，その外周部は地山を平坦に掘り込んで，床面としている。貼床は，確認面から60cmほどの深さで，長軸190cm，短軸150cmの不整形に掘り込み，ローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈 北東コーナー部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ123cm，袖部最大幅155cmである。袖部は，地山のロームを掘り残して芯材にしている。袖部を構築したと考えられる粘土は，確認できなかった。煙道部は，壁を幅75cm，奥行き30cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は52度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から45cmの深さで掘り込んでおり，地山面をそのまま火床面としている。火床部はコーナーの内側に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--|------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | | |

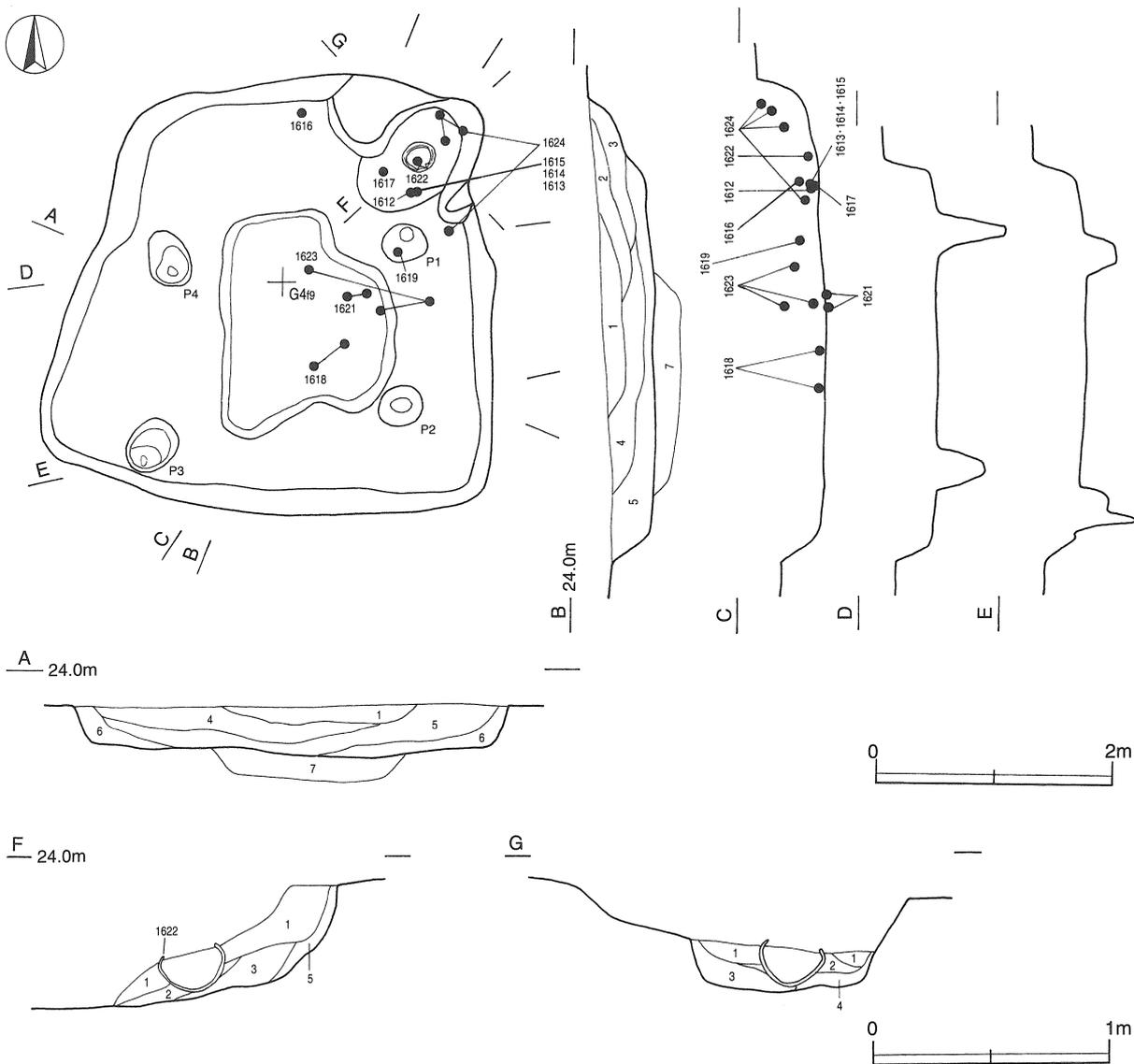
ピット 4か所（P1～P4）。P1～P4は，長径40～50cm，短径33～40cmの楕円形，深さ31～61cmである。配置はやや歪んでおり，深さも一定ではないが，主柱穴と思われる。

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|--|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量(貼床) |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

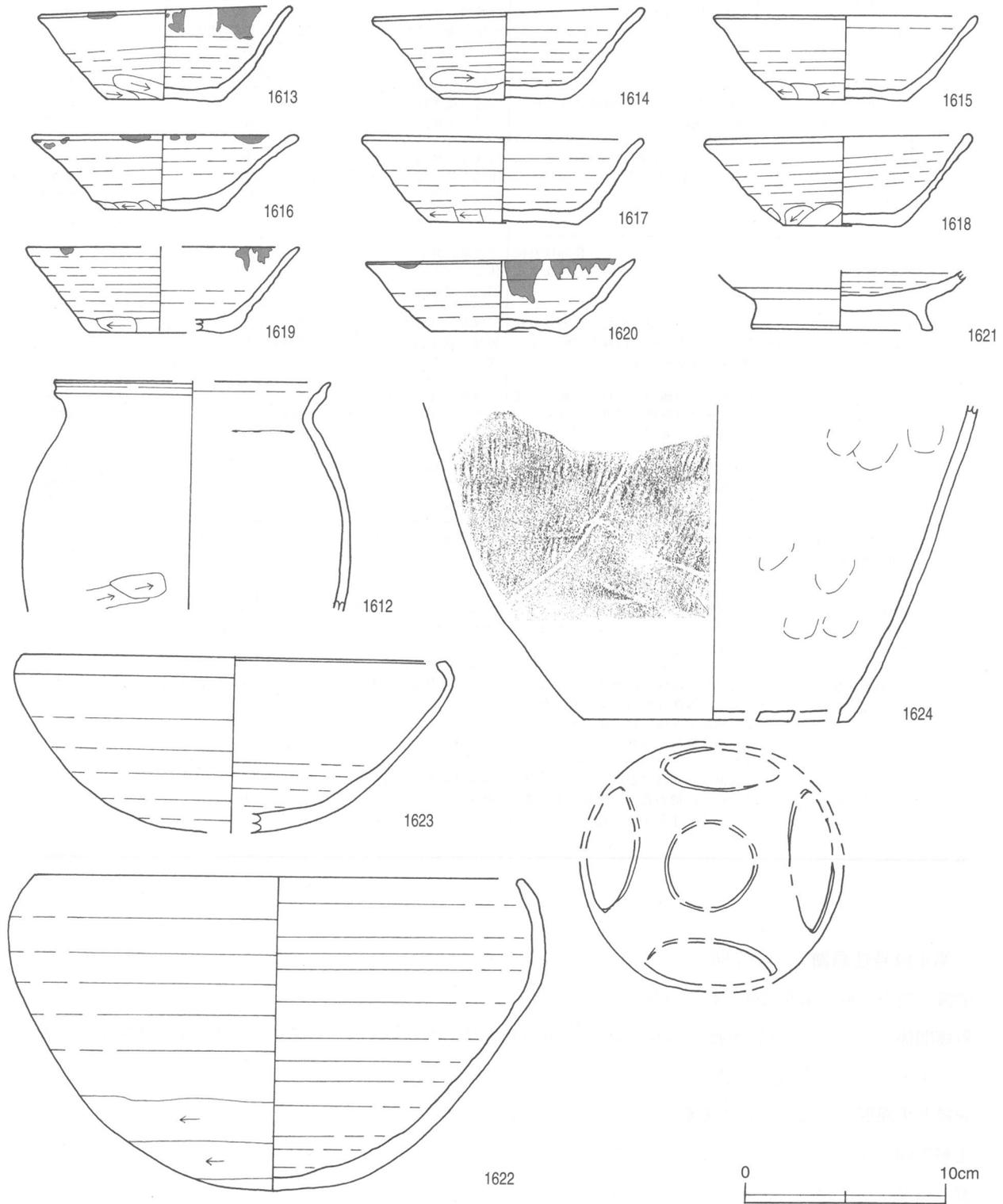
遺物 土師器片112点, 須恵器片172点, 混入したとみられる縄文土器片3点が出土している。第466図1612の土師器甕は竈内から出土している。1613~1620は須恵器坏である。1613・1614・1615は竈前の床面から, 下から1613・1614・1615の順に逆位で重ねられた状態で出土している。1616は北壁際の覆土中層から正位で, 1617は竈前の床面から逆位で, 1618は中央部の覆土下層から出土している。1619は, 中央部竈寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。1620は, 北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものであ



第465図 第438号住居跡実測図

る。1621の須恵器高台付坏は、中央部の床面から出土している。1622・1623は須恵器鉄鉢形土器である。1622は、竈内から正位で出土している。1623は、中央部東壁寄りの覆土中層から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。1624の須恵器甑は、竈覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀中葉と推定される。



第466図 第438号住居跡出土遺物実測図

第438号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1612	壺 土師器	A [13.8] B (11.5)	体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ナデ。体部下半横位のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 明赤褐色、普通	35% PL 227
1613	坏 須恵器	A 12.5 B 4.8 C 5.9	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	100% PL 228 口縁部油煙付着
1614	坏 須恵器	A 13.3 B 4.6 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部は外反し、端部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 不良	100% PL 228
1615	坏 須恵器	A 13.2 B 4.2 C 6.3	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部は外反し、端部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	100% PL 228 底部外面ヘラ記号「-」
1616	坏 須恵器	A 13.1 B 3.8 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	100% PL 228 口縁部油煙付着，底部外面ヘラ記号「-」
1617	坏 須恵器	A 13.8 B 4.3 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	90% PL 228
1618	坏 須恵器	A 13.1 B 4.6 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	90% PL 228
1619	坏 須恵器	A [13.4] B 4.3 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	55% PL 228 口縁部油煙付着
1620	坏 須恵器	A 13.3 B 3.7 C 6.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す，1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色 普通	60% PL 228 口縁部油煙付着
1621	高台付坏 須恵器	B (3.0) D [9.0] E 1.5	底部の破片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	20% PL 228 皿に転用か
1622	鉄鉢形土器 須恵器	A 24.0 B 15.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で内側に強く屈曲する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。体部下半・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色，普通	85% PL 228
1623	鉄鉢形土器 須恵器	A [21.1] B (8.8)	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で内側に強く屈曲する。口縁端部は面取りされている。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	55% PL 228
1624	甗 須恵器	B (16.0) C 13.1	底部から体部にかけての破片。底部中央に円形の孔1，周縁に木の葉状の孔4を穿孔する5孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。内面指頭押圧痕。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	40% PL 228

第439号住居跡（第467図）

位置 調査区域の南西部端，G 5 a1区。

重複関係 第450号住居跡を掘り込み，第972・979号土坑に掘り込まれているので，第450号住居跡より新しく，第972・979号土坑より古い。

規模と平面形 一辺3.20mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は5～20cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。第972号土坑に掘り込まれているため、残存するのは東袖の一部のみである。袖部は粘土ブロックを含む、にぶい黄褐色土で構築されている。

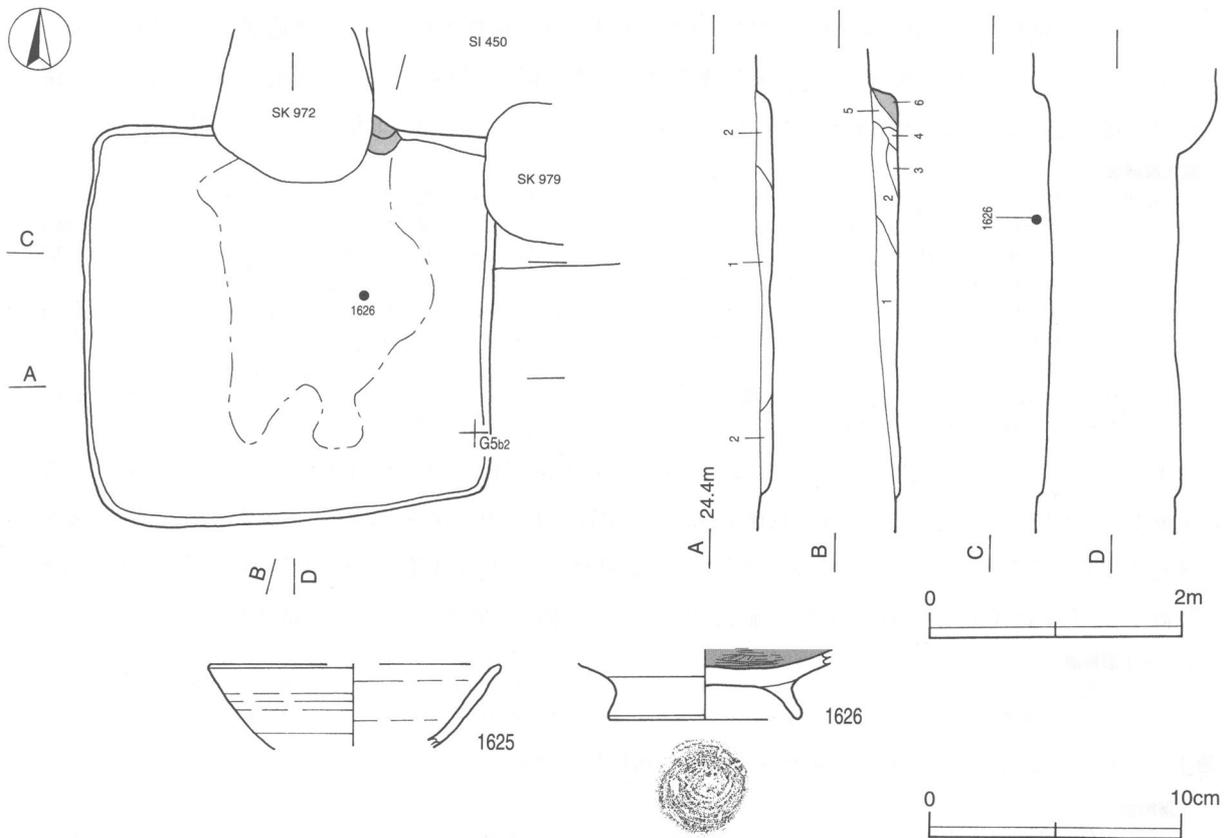
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|----------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量（竈袖部） |

遺物 土師器片21点，須恵器片10点が出土している。第467図1625の土師器坏は北東部の覆土上層から，1626の土師器高台付坏は，中央部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と9世紀後葉の土器片が覆土上層から出土していることから，9世紀後葉もしくはそれ以降と推定される。



第467図 第439号住居跡・出土遺物実測図

第439号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第467図 1625	坏 土師器	A [11.4] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	5%
1626	高台付坏 土師器	B (2.8) D 7.5	底部の破片。高台はハの字状に開く	底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	20% P L 228

第440号住居跡（第468～470図）

位置 調査区域の南西部端，F 5 j1区。

重複関係 第450号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.80m，短軸4.80mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は26～45cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 第450号住居に掘り込まれている部分は確認できないが，竈の部分を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅16～19cm，下幅8～14cm，深さ12cm，断面はU字形である。

床 東部がわずかに高く，4か所の主柱穴の内側が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ109cm，袖部最大幅142cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第5層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，粘土ブロックを含む褐色土で構築されている。煙道部は，壁を幅80cm，奥行き30cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，57度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から深さ53cmほど掘り込んでおり，地山面をそのまま火床面としている。火床部は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量	6 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック中量，焼土中ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2 褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量	8 極暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	粘土小ブロック・砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量	10 褐色	粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

ピット 7か所（P1～P7）。P1～P4は，長径54～75cm，短径43～65cmの楕円形，深さ39～66cmで，規模と配置から，主柱穴と思われる。P5は長径39cm，短径32cmの楕円形，深さ35cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P6は径44cmの円形，深さ17cmでP1の西側に位置する。P7は径37cmの円形，深さ21cmで，P1とP2の間に位置する。ともに性格は不明である。

ピット土層解説

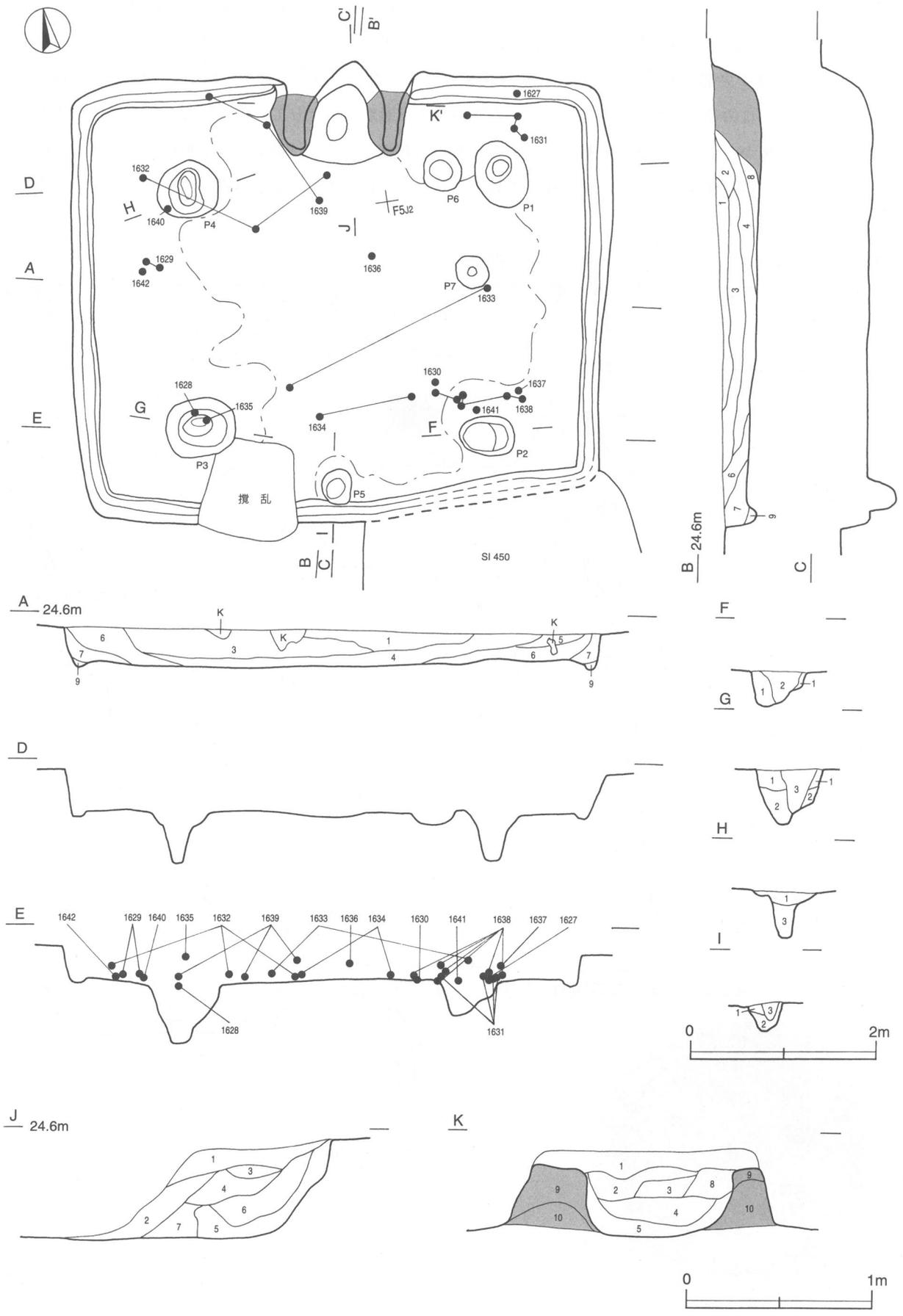
1 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
		3 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
4 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
		9 褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

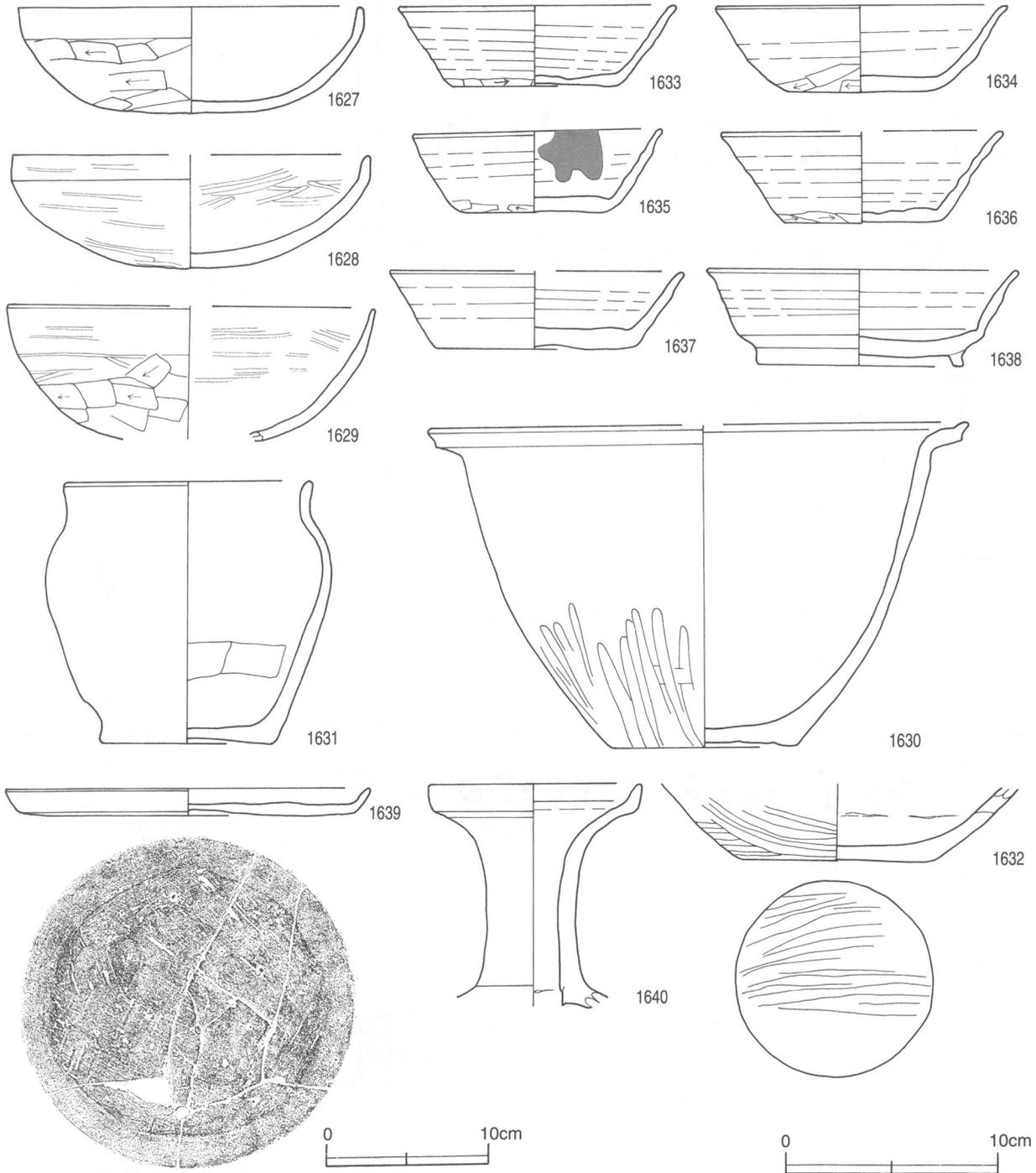
遺物 土師器片626点，須恵器片348点，灰陶陶器片1点，混入したとみられる黒曜石2点（剥片）が出土している。第469図1627～1629は土師器坏である。1627は正位で北壁際の床面から，1628は南西部の覆土下層から，1629は西壁寄りの覆土下層から出土している。1630の土師器鉢は南東部の床面から，1631の土師器小形甕は北壁際の覆土下層から出土している。1632の土師器甕は，北西部の覆土中層から下層にかけて出土した



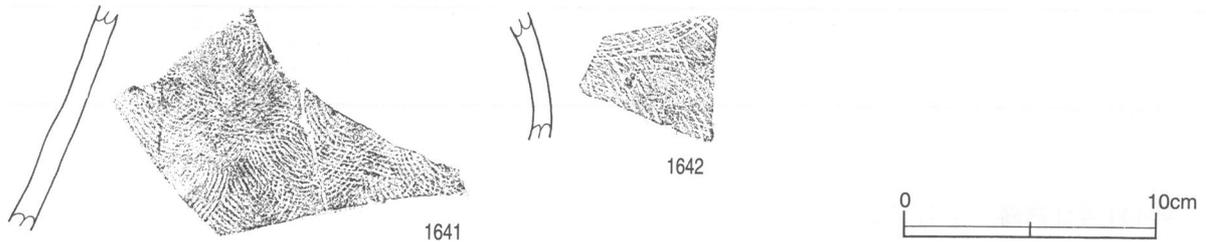
第468图 第440号住居跡实测图

破片が接合したものである。1633～1637は須恵器坏である。1633は、東壁寄りの覆土中層と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1634は南壁寄りの覆土下層から、1635は南西コーナー寄りの覆土上層から、1636は中央部の覆土中層から、1637は南東コーナー寄りの覆土中層から出土している。1638の須恵器高台付坏，1641の須恵器甕は、南東コーナー寄りの覆土下層から出土している。1639の須恵器皿は北壁際と竈前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。在地のものではあるが、器形的には希有なものである。1640の須恵器長頸瓶は北西コーナー寄りの覆土下層から、1642の須恵器甕は西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中葉と推定される。



第469図 第440号住居跡出土遺物実測図(1)



第470図 第440号住居跡出土遺物実測図(2)

第440号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第469図 1627	坏 土師器	A 16.2 B 5.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面・底部多方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい橙色、普通	80% P L 228
1628	坏 土師器	A [16.8] B 5.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面、体部内・外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	25% P L 228
1629	坏 土師器	A [17.4] B (6.3)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部内面ヘラ磨き。体部外面・底部多方向のヘラ削り後、ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色、普通	30% P L 228
1630	鉢 土師器	A [25.3] B 15.2 C 9.0	口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は屈曲して外方に開く。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端縦位のヘラナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい橙色 普通	60% P L 228
1631	小形甕 土師器	A 11.6 B 12.5 C 8.0	体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。	砂粒・長石・石英にぶい赤褐色	70% P L 228 二次焼成
1632	甕 土師器	B 3.5 C 9.2	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き。底部外面ヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子にぶい黄橙色、普通	10% P L 229
1633	坏 須恵器	A 12.8 B 3.9 C 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	80% P L 229
1634	坏 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	75% P L 229
1635	坏 須恵器	A 11.6 B 4.0 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	85% P L 229 口縁部油煙付着
1636	坏 須恵器	A [13.2] B 4.4 C 7.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す、1方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	55% P L 229
1637	坏 須恵器	A [13.9] B 3.7 C [9.3]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	45% P L 229
1638	高台付坏 須恵器	A 14.5 B 4.6 D 9.7 E 0.8	口縁部一部欠損。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	90% P L 229
1639	皿 須恵器	A 22.7 B 1.7 C 17.0	口縁部一部欠損。平底。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面、底部内面ロクロナデ。底部外面多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	95% P L 229
1640	長頸瓶 須恵器	A 10.0 B (10.6)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部はラッパ状に開き、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部、頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	30% P L 229
第470図 1641	甕 須恵器	B (9.0)	体部の破片。	体部外面同心円状の叩き。内面ナデ	砂粒・雲母・長石 灰色、普通	5% P L 244

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第470図 1642	甕 須恵器	B (5.7)	体部の破片。	体部外面同心円状の叩き。内面指頭痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色, 不良	5% PL244

第441号住居跡（第471図）

位置 調査区域の南西部端，F4j9区。

規模と平面形 長軸3.55m，短軸3.35mの方形と推定される。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は14～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分と北壁の東側を除いて，壁下を巡っている。上幅7～16cm，下幅4～9cm，深さ10cm，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ133cm，袖部最大幅は袖部が遺存しないため不明である。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第5層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。煙道部は，壁を幅125cm，奥行き74cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は，25度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から35cmほど掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床は北壁ライン上に位置する。焚口部には，後述するP5が位置する。

竈土層解説

1 暗褐色	粘土小ブロック・砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	7 暗褐色	砂粒少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	8 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量（P5覆土）
		9 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（P5覆土）

ピット 5か所（P1～P5）。P1は長径32cm，短径28cmの楕円形，深さ20cmで，北東コーナー部付近に位置する。P2は径35cmの円形，深さ20cmで，南東コーナー部付近に位置する。P3は長径50cm，短径35cmの楕円形，深さ20cmで，北西コーナー部付近に位置する。P1～P3は，規模と配置から支柱穴の可能性が考えられる。P4は，長径44cm，短径40cmの楕円形，深さ23cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P5は長径40cm，短径28cmの楕円形，深さ20cmで，焚口部に位置する。竈に関するピットと考えられるが，詳細は不明である。

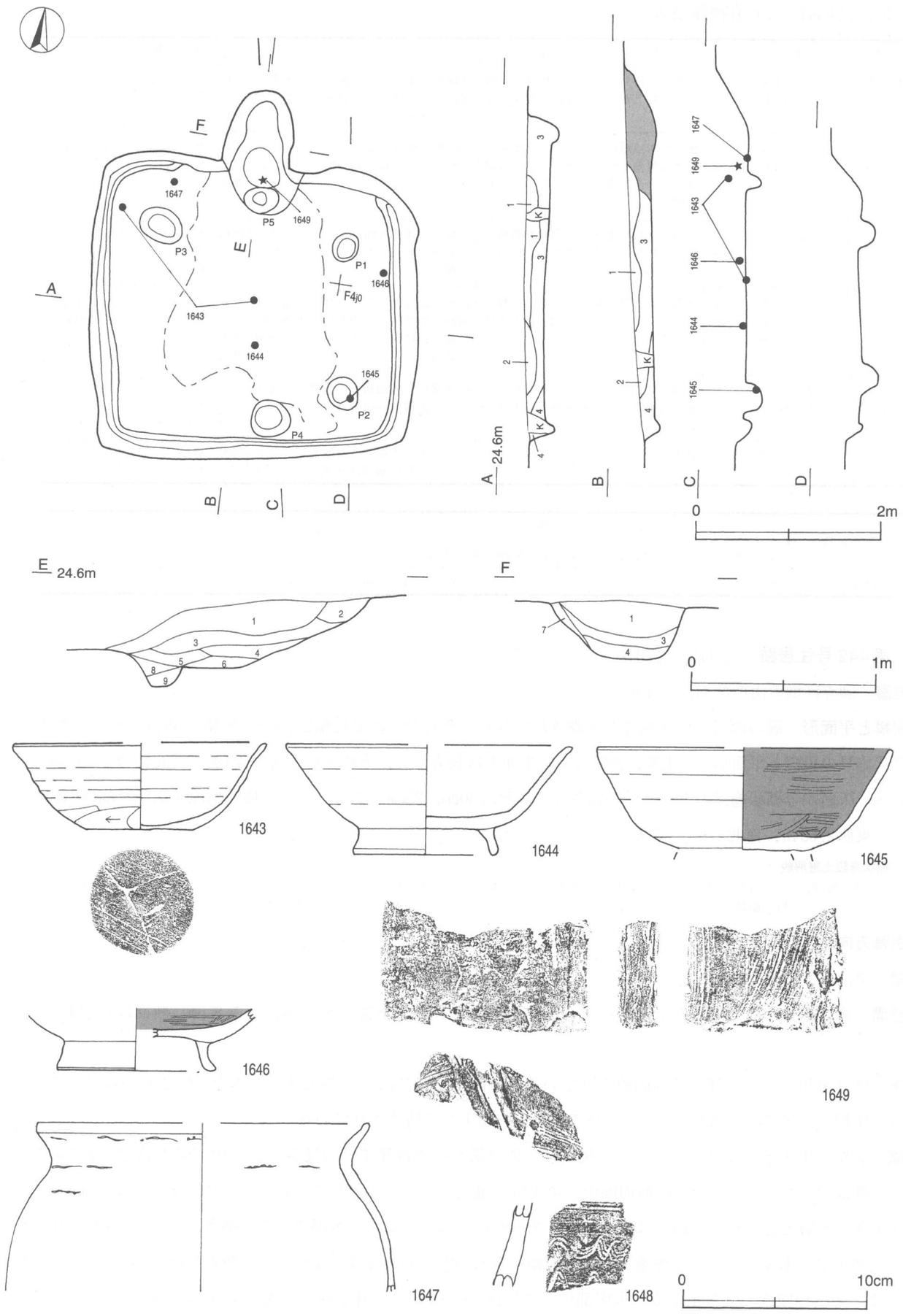
覆土 4層からなる。不自然な堆積状況を呈することから，人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック微量	3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
2 褐色	ローム小ブロック少量	4 褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量

遺物 土師器片206点，須恵器片139点，瓦片1点，鉄製品1点（不明），混入したとみられる黒曜石4点（剥片）が出土している。第471図1643の土師器坏は，北西コーナー部の覆土中層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。1644・1645は土師器高台付椀，1646は土師器高台付坏である。1644は中央部の床面から，1645はP2内から，1646は東壁際の覆土下層から出土している。1647の土師器甕は北壁際の床面から，1648の須恵器甕は北東部の覆土上層から，1649の丸瓦は竈内から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から10世紀前葉と推定される。



第471图 第441号住居跡・出土遺物実測図

第441号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第471図 1643	坏 土師器	A 13.5 B 4.7 C 5.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	65% PL229
1644	高台付碗 土師器	A [15.3] B 6.0 D 7.7 E 1.6	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。高台は長く、ハの字状に開く。	口縁部、体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	50% PL229 二次焼成
1645	高台付碗 土師器	A [16.1] B 5.6	高台部欠損、底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 にぶい橙色、普通	25% PL229
1646	高台付坏 土師器	B (3.4) D 8.6 E 1.6	底部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。高台は長く、ハの字状にふんばる。	体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・ 赤色粒子 橙色 普通	30% PL229 二次焼成
1647	甕 土師器	A [18.0] B (9.1)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	5%
1648	甕 須恵器	B (4.8)	頸部の破片。	上位に単位不明の平行沈線。下位に3条1単位の櫛描波状文。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色、不良	5% PL244

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1649	丸瓦	—	(9.3)	(6.5)	2.5	(259.0)	凹・凸面ナデ。	

第442号住居跡 (第472・473図)

位置 調査区域の南西部端，F 4 h9区。

規模と平面形 竈の両脇に棚状施設が付設されており，それを含めて長軸2.95 m，短軸2.69 mの方形である。棚状施設の規模と平面形は，東側，西側ともに平面形は長方形で，それぞれ手前の幅70cm，75cm，奥行き35cm，40cm，床面から棚状施設の上面までの高さはそれぞれ30cm，25cmである。なお，棚状施設を除いた部分の規模は，東西2.69 m，南北2.60 mである。

棚状施設土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は30～40cmである。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～16cm，下幅4～12cm，深さ8 cm，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，全体的に確認面から35～50cmほど比較的平坦に掘り込み，ローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

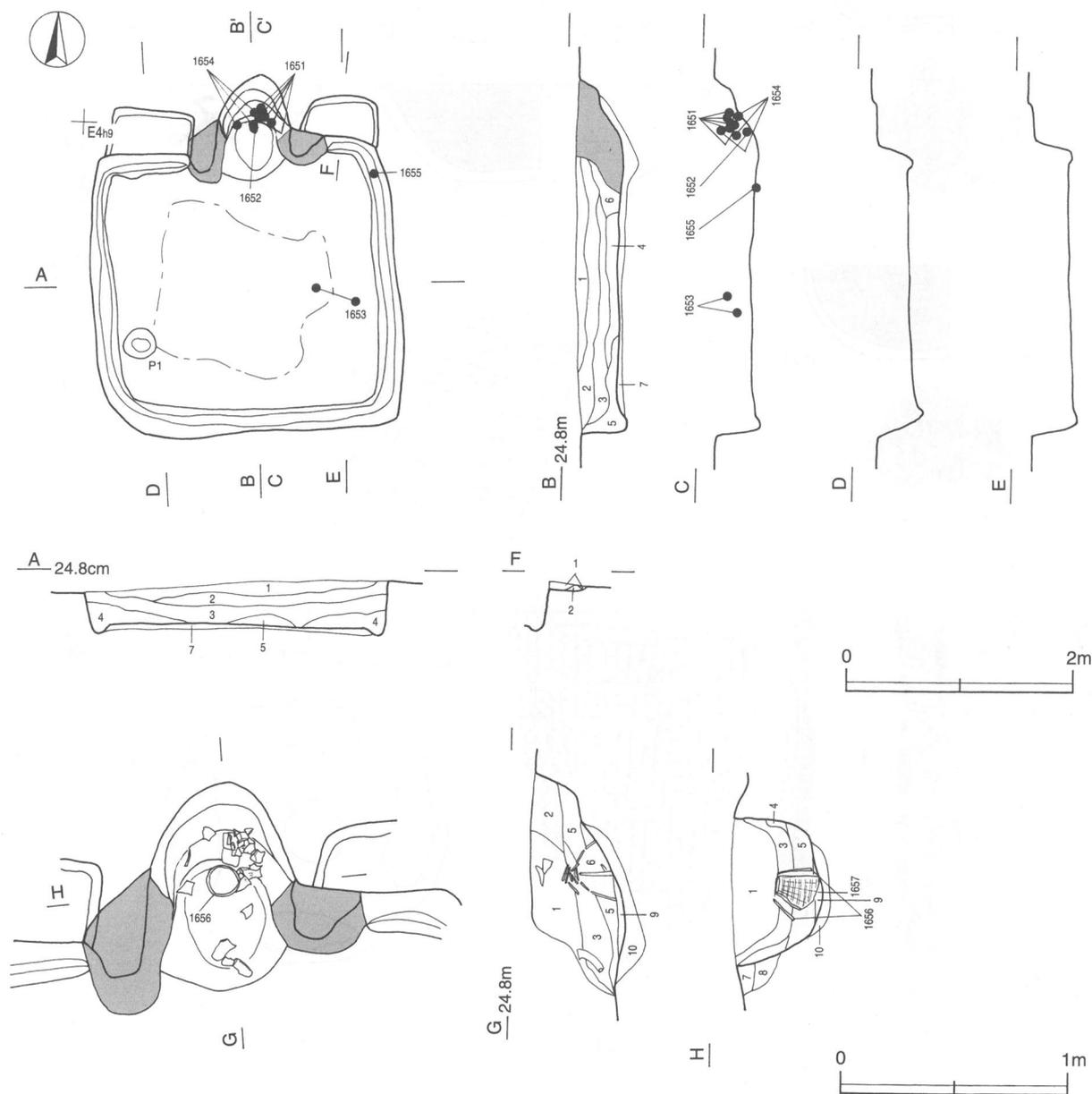
竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ93cm，袖部最大幅124cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第4層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は粘土ブロック・砂粒を含む，にぶい黄褐色土で構築されている。袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は，壁を幅105cm，奥行き60cmほどにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は，36度の傾きで立ち上がる。火床部は，径52cmの楕円形に，確認面から深さ50cmほど掘り込み，ロームブロック・粒子を含んだ褐色土を埋土してつくっている。火床は北壁ラインの外側に位置し，埋土は3 cmほど

の厚さで焼土化している。煙道部の立ち上がり部には平瓦片が据えられ、甑の体部が被せられた上に土師器甕の体部片が重ねられている。これらは火熱を受け赤変していることから、支脚として転用されていたと思われる。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|----------|--|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量 | 9 にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量（掘り方） |

ピット 1か所。P1は長径30cm，短径26cmの楕円形，深さ25cmで，南西コーナー部付近に位置する。覆土はロームブロック・粒子を少量含む暗褐色土で，性格は不明である。



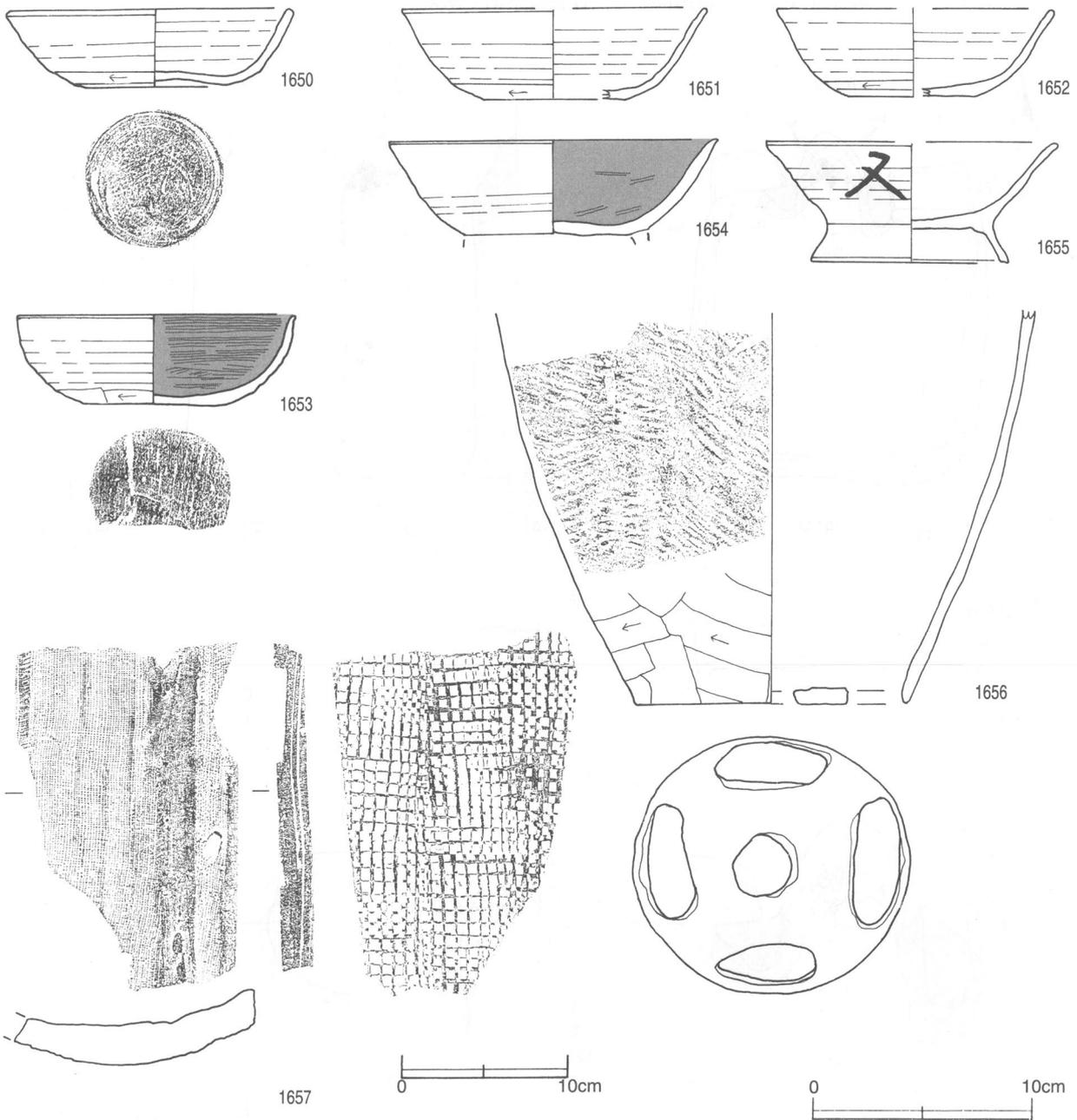
第472図 第442号住居跡実測図

覆土 6層からなる。第4層がブロック状に堆積すること、および各層のロームの含有状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム中ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量（貼床） |
| 4 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量 | | |

遺物 土師器片225点，須恵器片48点，瓦片1点，混入したとみられる縄文土器片3点，攪乱により混入したとみられる陶器片1点が出土している。第473図1650～1653は土師器坏である。1650～1652は竈内から，



第473図 第442号住居跡出土遺物実測図

1650は正位で、1651・1652は破片の状態出土している。1653は東壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。1654の土師器高台付坏は竈内から破片の状態出土している。1655の土師器高台付椀は北東コーナー部の床面から出土し、体部外面に正位で「又」と墨書されている。1656の須恵器甑，1657の平瓦は煙道部の立ち上がり部から出土している。竈内から出土した1650・1651・1652・1654・1656・1657は、いずれも二次焼成を受けており、前述したように支脚の一部として転用されていたと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前葉と推定される。

第442号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第473図 1650	坏 土師器	A 12.7 B 3.6 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 橙色	100% P L 229 二次焼成 支脚転用カ
1651	坏 土師器	A [14.0] B 4.2 C [6.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色	55% P L 229 二次焼成 支脚転用カ
1652	坏 土師器	A [12.6] B 4.1 C [5.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 橙色	45% P L 229 二次焼成 支脚転用カ
1653	坏 土師器	A [12.4] B 4.1 C 6.4	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	30% P L 229
1654	高台付坏 土師器	A 15.0 B (4.4)	高台部、体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色	50% P L 229 二次焼成 支脚転用カ
1655	高台付椀 土師器	A [13.3] B 5.5 D [9.0] E 1.7	高台部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。高台は長く、ハの字状に開く。	口縁部、体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	30% P L 229 体部外面墨書 正位「又」
1656	甑 須恵器	B (17.9) C 12.6	底部中央に円形の孔1，周縁に木の葉状の孔4を穿孔する5孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位の平行叩き。下端斜位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 橙色	50% P L 229 二次焼成

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1657	平瓦	(14.5)	(20.9)	2.5	(1030)	凸面格子目叩き。凹面布目痕。支脚転用。	二次焼成

第443号住居跡（第474図）

位置 調査区域の南西部，F 5 h2区。

重複関係 第444号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.32m，短軸3.15mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は12～17cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分と北壁下を除いて、壁下を巡っている。上幅11～17cm，下幅5～12cm，深さ7cm，断面はU字形である。

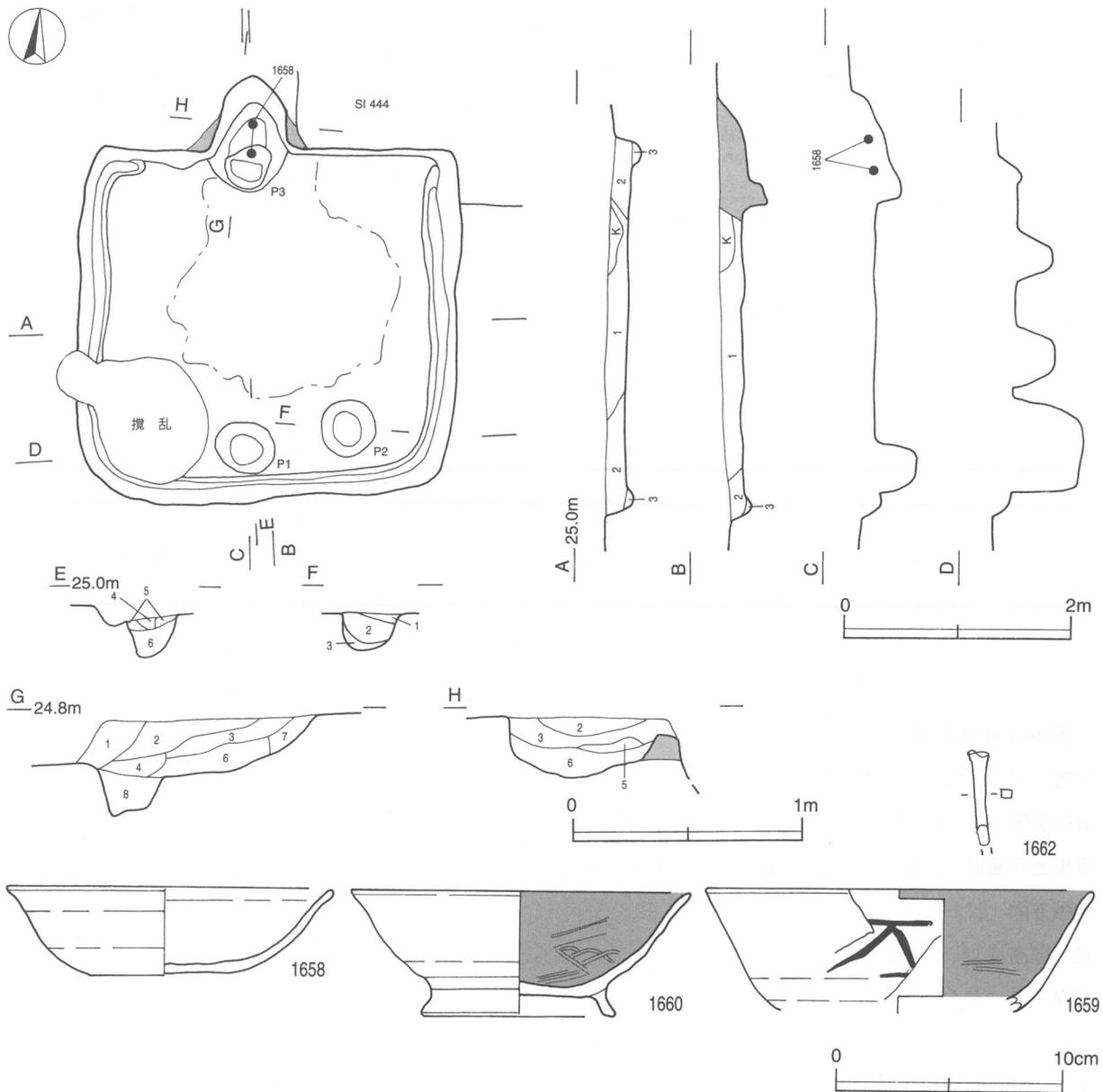
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁のやや西寄りに設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ103cm，残存するのは西袖の一

部及び火床面のみである。袖部最大幅は、西袖が遺存しないが、110cmと推定される。袖部は、砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、壁を推定で幅120cm、奥行き70cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部では25度、上半部では50度で立ち上がる。火床部は、長径80cm、短径50cmの楕円形に、確認面から25cmの深さで掘り込んでおり、地山面をそのまま火床面としている。火床面は北壁ラインの内側に位置する。焚口部には、後述するP3が位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰微量 |
| 2 暗褐色 | 黄褐色粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量(P3覆土) |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 5 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土大ブロック少量，炭化粒子微量 | | |



第474図 第443号住居跡・出土遺物実測図

ピット 3か所 (P1～P3)。P1は長径55cm, 短径48cmの楕円形, 深さ38cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径50cmの円形, 深さ32cmで, 南東コーナー寄りに位置する。規模と位置から柱穴の可能性が考えられる。P3は長径38cm, 短径33cmの楕円形, 深さ22cmで, 焚口部に位置する。覆土はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む黒褐色土で, しまりはない。竈に関するピットと考えられるが, 詳細は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片304点, 須恵器片75点, 鉄器1点(釘), 鉄滓1点, 混入したとみられる黒曜石1点(剥片)が出土している。第474図1658は土師器坏である。1658は竈内から出土し, 二次焼成を受け, 焼土が付着していることから, 支脚の一部として転用されていた可能性が考えられる。1659・1660の土師器高台付椀は, 南西部の覆土上層から出土している。1659は体部外面に正位で「万」と墨書されている。1662の釘は覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と推定される。

第443号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 1658	坏 土師器	A 14.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	粗い, 砂粒・雲母・長石 橙色	70% PL229 二次焼成 支脚転用カ
		B 4.0				
		C 6.3				
1659	高台付椀 土師器	A [17.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色, 普通	5% PL246 体部外面墨書 正位「万」
		B (5.4)				
1660	高台付椀 土師器	A 14.9	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。高台はハの字状にふんばる。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ロクロナデ内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	80% PL229
		B 5.6				
		D 8.5				
		E 1.2				

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1662	釘	(4.2)	(0.9)	0.4	(2.4)	鉄	頭部, 脚部先端欠損。	PL 256

第444号住居跡 (第475～477図)

位置 調査区域の南西部端, F5g2区。

重複関係 第443号住居に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m, 短軸3.70mの方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は43～48cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて、壁下を巡っている。上幅12～22cm、下幅6～15cm、深さ13cm、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。四隅以外は地山を平坦に掘り込んで、床面としている。四隅は貼床で、不定形の土坑状に確認面からの深さ65cmほどに掘り込み、焼土粒子・炭化粒子をわずかに含むローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ165cm、袖部最大幅140cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中、第7層が焼土を含むことから、火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。袖部は黄褐色粘土・砂粒を含む暗褐色土で構築されている。煙道部は、壁を幅117cm、奥行き67cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は、30度の傾きで立ち上がる。火床部は、確認面から70cmほどの深さ、径60cmの不整円形の掘り込みを、褐色土及び暗褐色土で埋土してつくっている。火床面は、北壁ラインの内側に位置し、火熱を受け赤変している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	11 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	12 黒褐色	黄褐色粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量
3 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
4 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	14 にぶい黄褐色	黄褐色粘土小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・白色粘土粒子微量	15 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土小ブロック微量
6 灰黄褐色	粘土小ブロック多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量	16 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
7 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	17 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量（掘り方）
8 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・灰少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量	18 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
9 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・灰微量	19 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
10 暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	20 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）
		21 褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量（掘り方）

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径37～75cm、短径35～60cmの楕円形、深さ45～70cmで、規模と配置から、主柱穴と思われる。P5は長径52cm、短径47cmの楕円形、深さ15cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

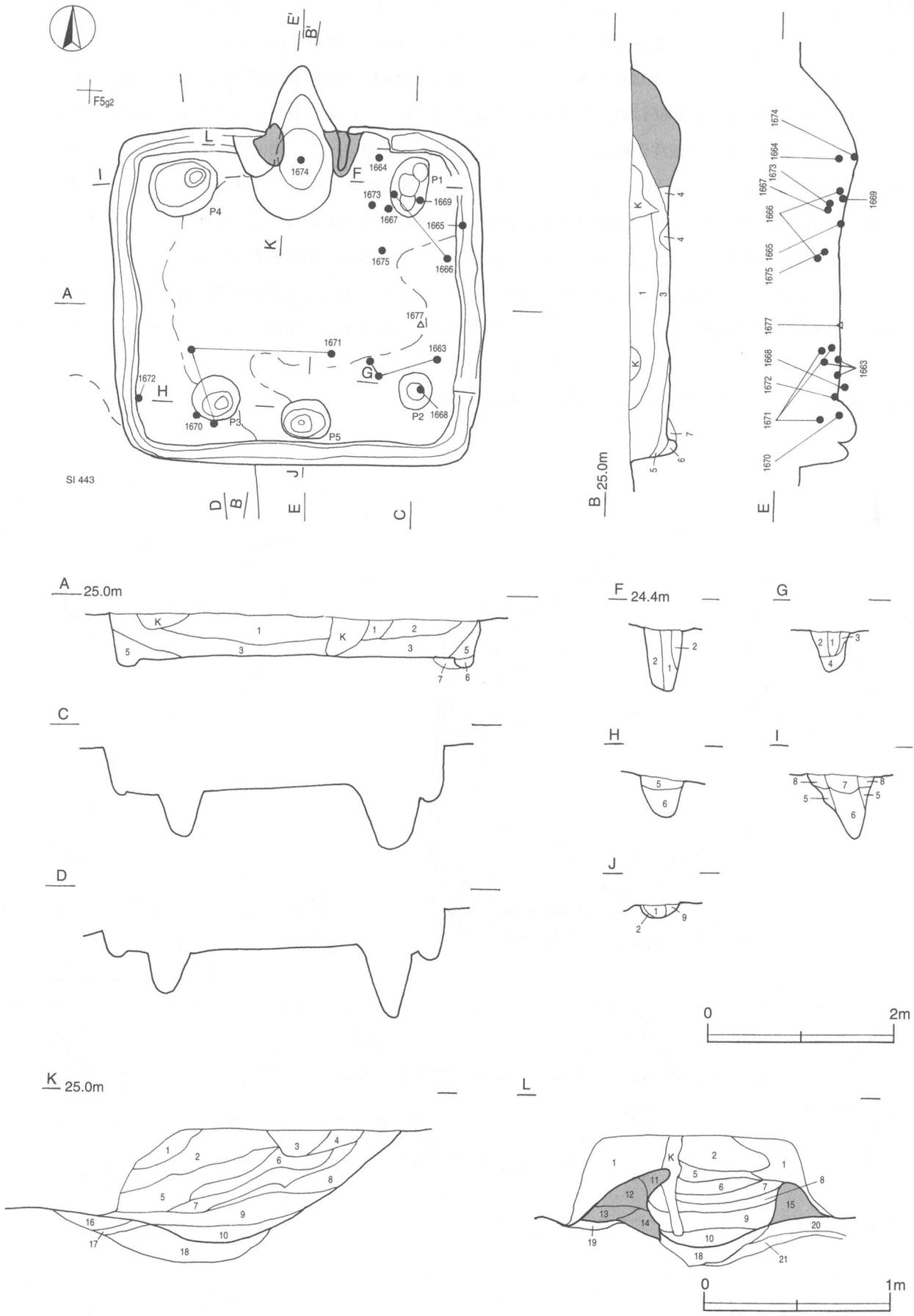
ピット土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
2 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子微量	9 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量		

覆土 6層からなる。第4層がブロック状に堆積すること、及び各層のロームブロックの含有状況から人為堆積と思われる。

土層解説

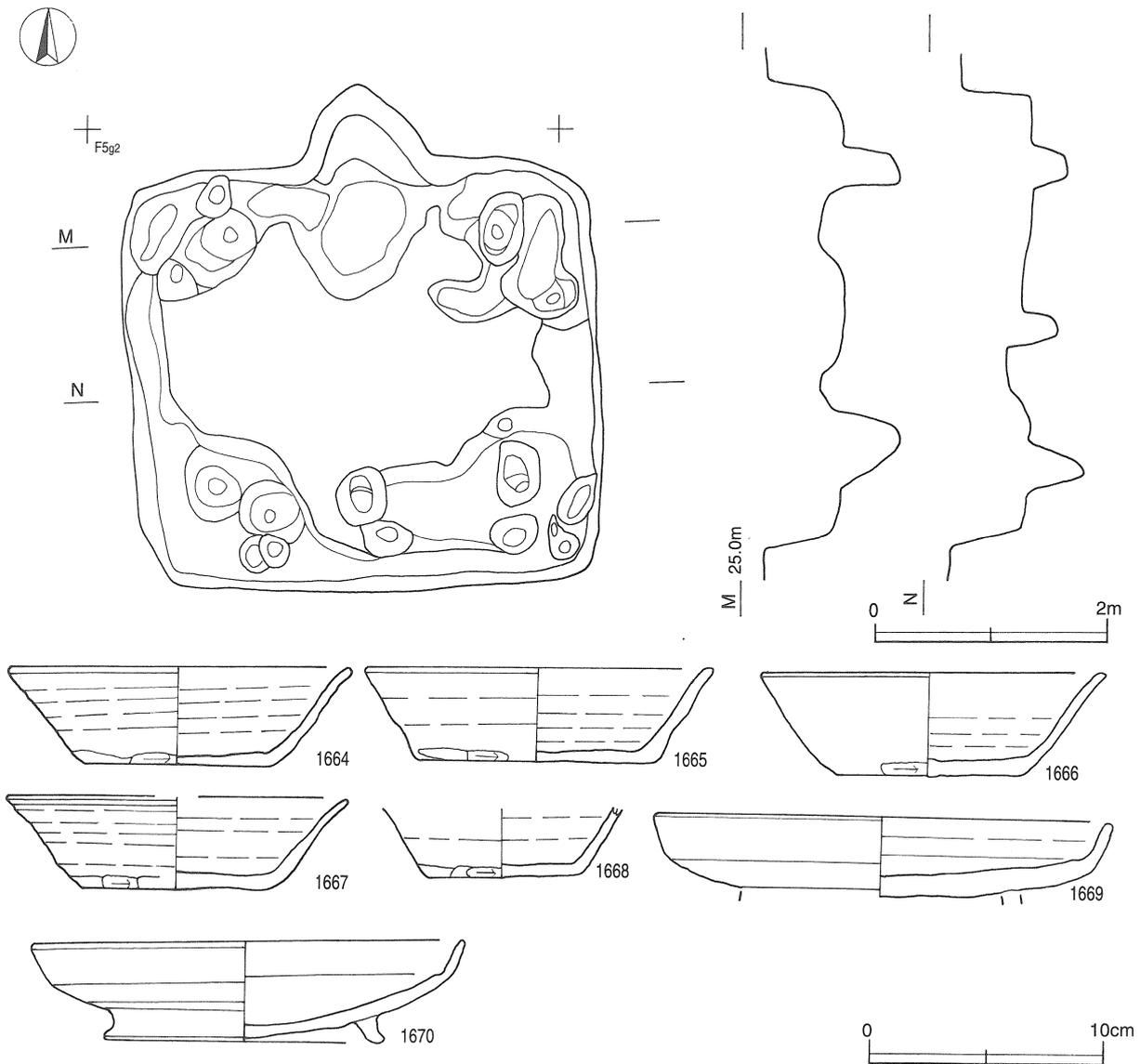
1 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	4 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・粘土小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
		7 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床）



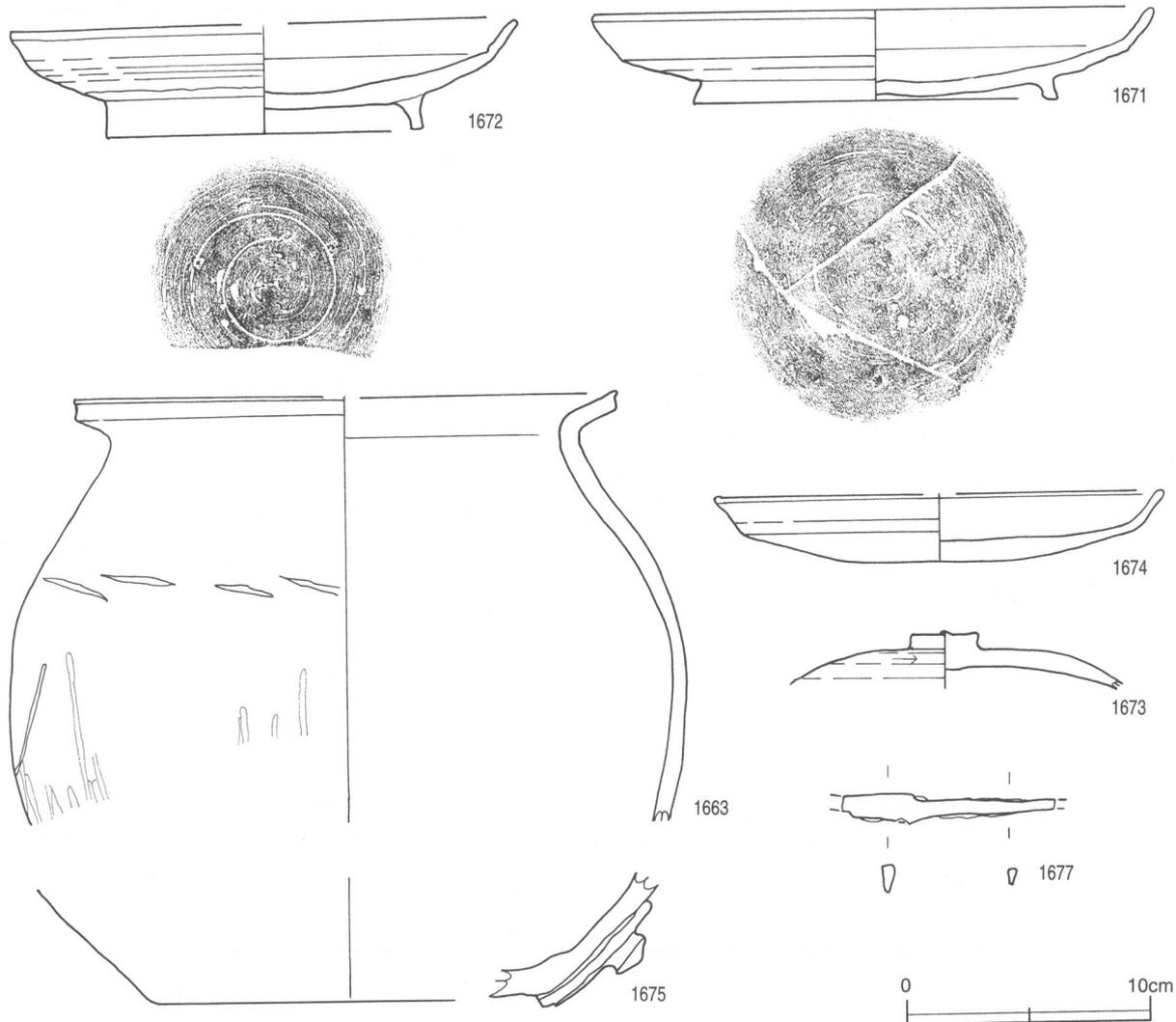
第475图 第444号住居跡実測图

遺物 土師器片396点, 須恵器片175点, 灰釉陶器片1点(椀), 鉄器2点(刀子, 釘), 鉄製品1点(不明), 混入したとみられる縄文土器片2点が出土している。第477図1663の土師器甕は, 南東コーナー付近の覆土中層から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。1664~1668は須恵器坏である。1664は北東コーナー付近の覆土下層から, 1665は東壁際の床面から出土している。1666は北東コーナー部付近の覆土中層から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。1667は北東コーナー部付近の覆土中層から, 1668は南東コーナー部付近の床面から出土している。1669~1672は須恵器盤である。1669は北東コーナー部付近の床面直上から, 1670は南西コーナー部付近の覆土下層から, 1671は中央部南寄り及び南西コーナー部付近の覆土中層から, 1672は南西コーナー部の覆土下層から出土している。1673の須恵器蓋は北東コーナー部付近の覆土中層から, 1674の須恵器盤は火床面直上から出土している。1675の須恵器甕は中央部北東寄りの覆土中層から出土し, 体部下端に須恵器蓋片が付着している。1677の刀子は東壁寄りの床面から出土している。覆土上層から出土した灰釉陶器片は, 混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と推定される。



第476図 第444号住居跡・出土遺物実測図



第477図 第444号住居跡出土遺物実測図

第444号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第477図 1663	甕 土師器	A [22.2] B (17.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半ナデ、上位にヘラ状工具によるヘラ当て痕、下半縦位のヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色 普通	15% PL 229
第476図 1664	坏 須恵器	A 14.4 B 4.3 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	80% PL 230
1665	坏 須恵器	A 14.7 B 4.2 C 10.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	60% PL 230
1666	坏 須恵器	A 14.6 B 4.5 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 灰色 普通	80% PL 230
1667	坏 須恵器	A [14.5] B 4.0 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	60% PL 230
1668	坏 須恵器	B (3.0) C 6.7	口縁部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰色 普通	70% PL 230

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1669	盤 須恵器	A 19.7 B (3.4)	高台部、口縁部一部欠損。体部は外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外傾する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 青灰色 良好	80% P L 230
1670	盤 須恵器	A 18.3 B 4.6 D 11.3 E 1.3	口縁部一部欠損。丸底気味。体部は外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外傾する。高台はハの字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰白色 普通	85% P L 230
第477図 1671	盤 須恵器	A [22.9] B 3.7 D 14.8 E 1.0	高台部・口縁部一部欠損。体部は外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外傾する。高台はハの字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	80% P L 230
1672	盤 須恵器	A [20.6] B 4.5 D 12.8 E 1.6	高台部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外傾する。高台は長く、ほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付けロクロナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄色 普通	50% P L 230
1673	蓋 須恵器	B (2.2) F 2.6 G 0.8	口縁部欠損。天井頂部は平坦で、なだらかに下降する。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部回転ヘラ削り。外周部ロクロナデ。つまみ貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	50% P L 230
1674	盤 須恵器	A [18.3] B (2.8)	底部から口縁部の破片。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	20% P L 230
1675	甕 須恵器	B (4.9) C [16.0]	底部から体部の破片。	体部下端横位のヘラ削り。	砂粒・石英 褐灰色 普通	5% P L 230 体部下端に焼き台に転用した須恵器蓋片付着

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)			
1677	刀子	(8.7)	(3.0)	(1.3)	0.4	(5.7)	(7.1)	鉄	両刃。 P L 254

第446号住居跡（第478・479図）

位置 調査区域の南西部，F 5 e2区。

規模と平面形 長軸3.34 m，短軸3.24 mの方形である。

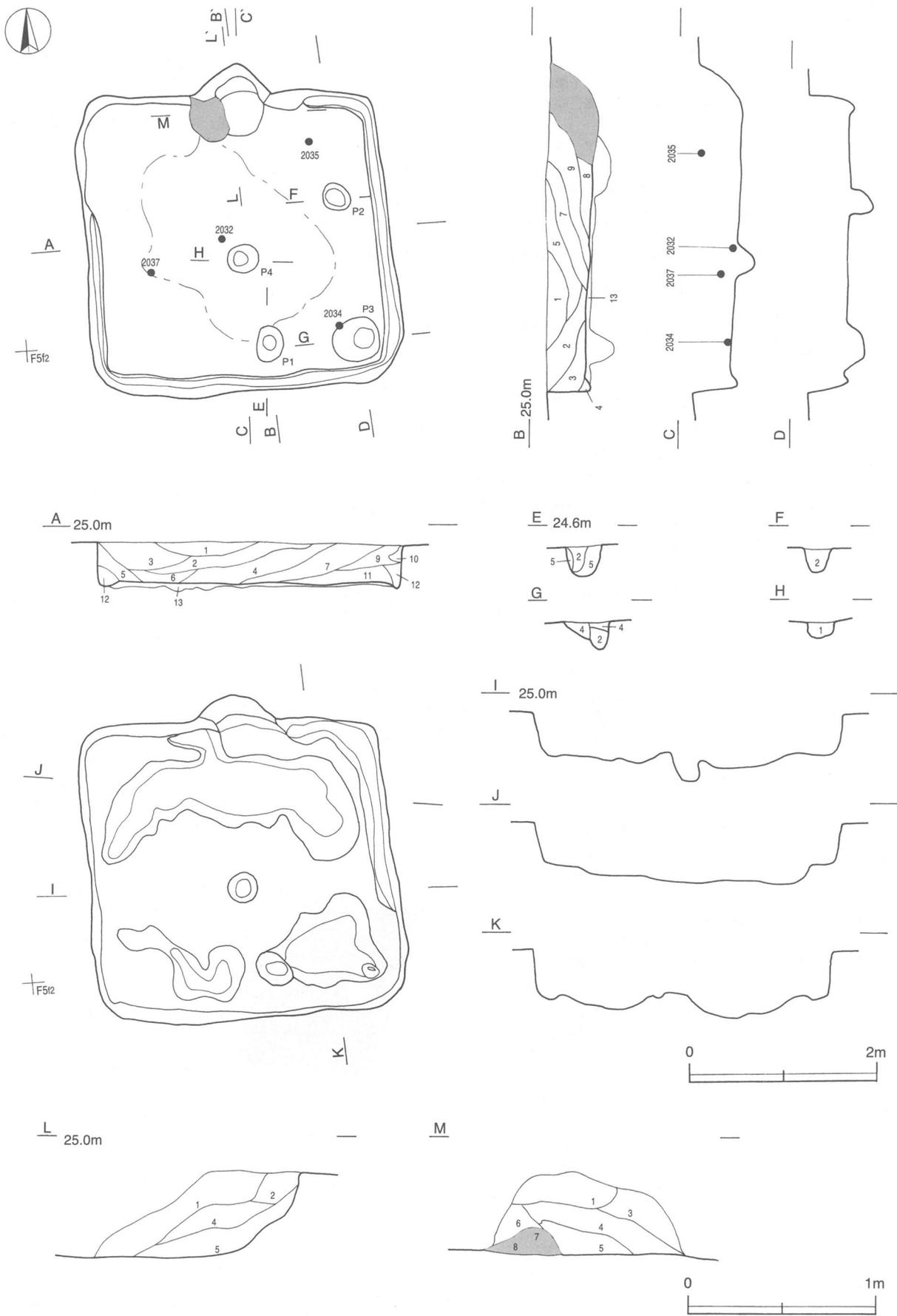
主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は40cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分と北西コーナー部を除いて，壁下を巡っている。上幅6～17cm，下幅4～12cm，深さ7 cm，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，北壁側を幅50～65cm，不定形の溝状に確認面からの深さ65～70cmほど，南東コーナー付近を不定形の土坑状に確認面からの深さ65cmほどに掘り込み，焼土粒子及び炭化粒子をわずかに含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ78cm，袖部最大幅は東袖が遺存しないが，100cmと推定される。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第5層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，粘土ブロックを含む暗褐色土で構築されている。煙道部は，壁を幅90cm，奥行き30cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，60度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から45cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。



第478图 第446号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・砂粒微量 | 7 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・灰微量 | | |

ピット 4か所（P1～P4）。P1は径23cmの円形，深さ38cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径33cm，短径28cmの楕円形，深さ26cmで，東壁寄りに位置する。P3は径50cmの円形，深さ23cmで，南東コーナー部に位置する。P4は径30cmの円形，深さ20cmで，中央部に位置する。いずれも性格は不明である。

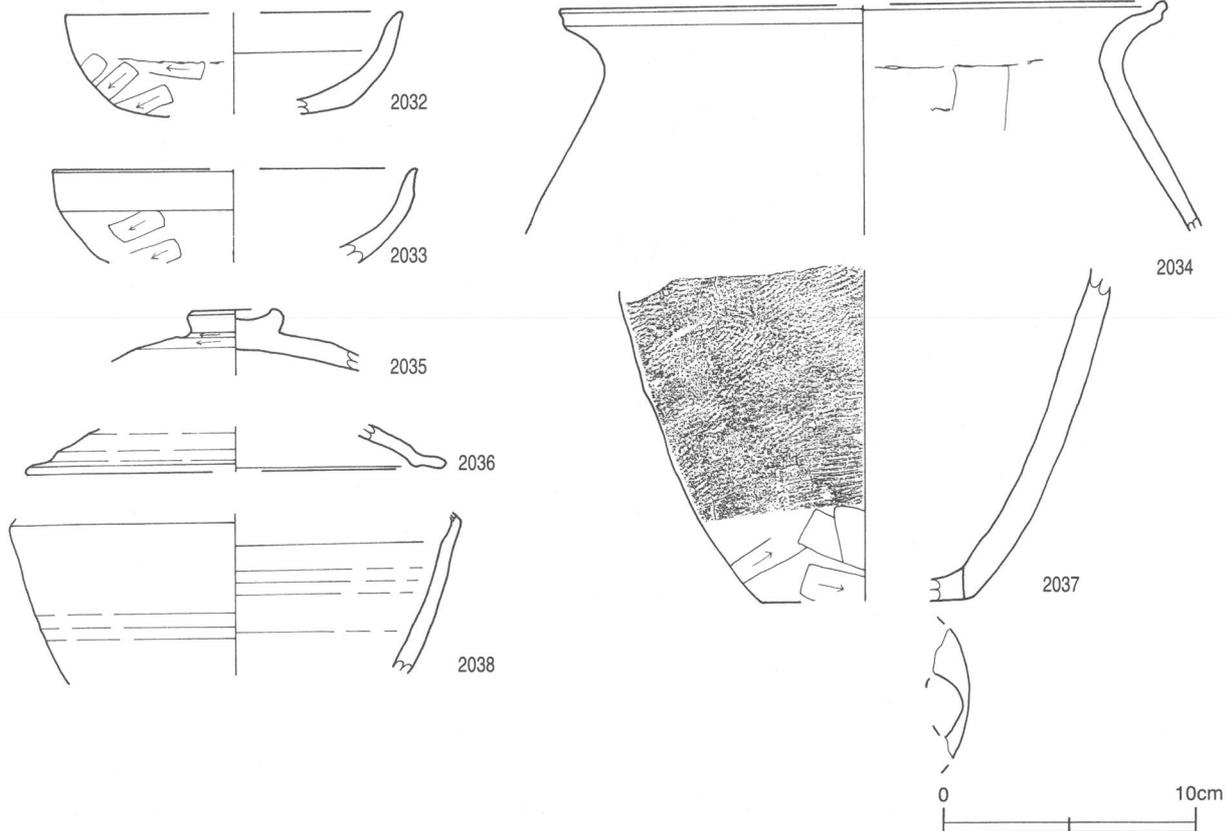
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|---|------|---|
| 1 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | | |

覆土 12層からなる。第2層と第3層の層序が，場所によって逆転すること，及び各層のロームの含有状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量 | | |



第479図 第446号住居跡出土遺物実測図

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------------------|----|-----|--|
| 4 | 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 9 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 10 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 11 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 12 | 褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子中量, 砂粒少量 | 13 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (貼床) |

遺物 土師器片153点, 須恵器片28点, 灰釉陶器片1点, 雲母片岩1点が出土している。第479図2032・2033は土師器坏である。2032は中央部の覆土下層から, 2033は北東部の覆土上層から出土している。2034の土師器甕は南東コーナー部の覆土下層から出土している。2035・2036は須恵器蓋である。2035は北東コーナー付近の覆土上層から, 2036は北東部の覆土中層から出土している。2037の須恵器甌は中央部西壁寄りの覆土中層から出土している。2038の灰釉陶器平瓶は, 北西部の覆土中から出土しているが, 混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀前葉と推定される。

第446号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第479図 2032	土師器 坏	A [13.3] B (4.1)	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部多方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰褐色, 普通	30% P L 230
2033	土師器 坏	A [14.4] B (3.7)	体部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面多方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	10%
2034	土師器 甕	A [24.0] B (9.1)	体部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲し, 口縁部は外反する。端部はつまみ上げられ, 内・外面に1条の沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面輪積み痕を残すヘラナデ。	粗い, 砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	5%
2035	須恵器 蓋	B (2.5) F 3.8 G 0.9	天井部の破片。天井部は丸く, 扁平なボタン状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後, つまみ貼り付け, ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 不良	20% P L 230
2036	須恵器 蓋	A [16.5] B (1.8)	口縁部の破片。口縁部の内面に短いかえりが付く。	口縁部内・外面口ロナデ	砂粒・雲母・長石 灰黄色, 普通	5%
2037	須恵器 甌	B (13.2) C [8.2]	底部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。多孔式か。	体部外面同心円状の叩き。体部外面下端横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色, 普通	10%
2038	灰釉陶器 平瓶	B (6.3)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	緻密, 砂粒, 胎土 にぶい黄色, 灰黄色釉, 良好	5%

第447号住居跡 (第480～482図)

位置 調査区域の南西部, F 5 f4区。

重複関係 第448号住居跡を掘り込み, 第980・981号土坑に掘り込まれており, 第448号住居跡より新しく, 第980・981号土坑より古い。

規模と平面形 長軸4.40m, 短軸3.91mの長方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は40cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅14～22cm, 下幅9～17cm, 深さ10cm, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 各コーナー付近を除いて踏み固められている。4か所の支柱穴の内側は地山のロームを床と

しているが、その外周部は貼床である。貼床は、壁に沿って幅30～100cm、確認面からの深さ55cmほど溝状に掘り込み、焼土粒子・炭化粒子を含むローム主体の暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ155cm、袖部最大幅193cmである。天井部は崩落している。袖部は暗褐色土及び褐色土で基部をつくり、砂粒を含む黄褐色粘土を貼り付けて構築されている。袖部の内側は火熱を受け赤変している。煙道部は、壁を幅150cm、奥行き60cmにわたり三角形に掘り込んである。煙道は、60度の傾きで立ち上がる。火床部は、径90cmの円形、確認面から60cmの深さに掘り込み、ロームブロックを含む褐色土を埋土してつくっている。火床部は、北壁ラインの内側に位置し、4cmほどの厚さで赤変している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	10 極暗褐色	焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量	11 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4 暗褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・黄褐色粘土中ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	13 にぶい黄褐色	黄褐色粘土中ブロック多量、砂粒少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、焼土大ブロック少量、炭化物・炭化粒子・砂粒微量	14 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	15 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量(掘り方)
8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	16 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量(掘り方)

ピット 5か所(P1～P5)。P1～P4は、長径29～45cm、短径26～40cmの楕円形、深さ51～71cmで、規模と配置から、主柱穴と思われる。P5は径35cmの円形、深さ18cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量		

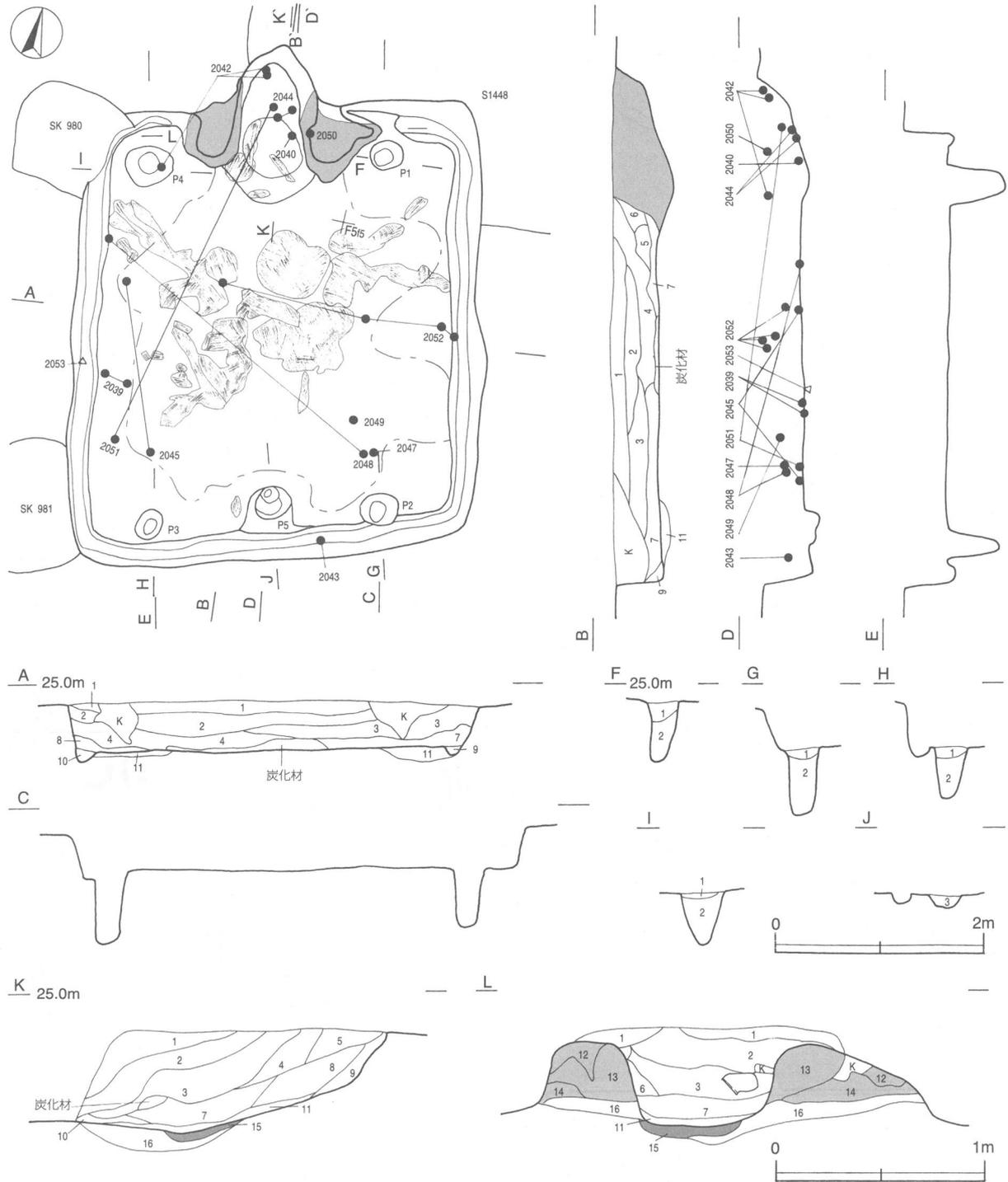
覆土 10層からなる。第5層がブロック状に堆積し不自然な堆積状況を呈することから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化材・炭化物微量	7 黒褐色	炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化物少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・粘土ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 にぶい黄褐色	粘土中ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
		11 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量(掘り方)

遺物 土師器片300点、須恵器片276点、灰釉陶器片3点、鉄器1点(鎌)、雲母片岩1点、混入したとみられる黒曜石1点(剥片)、攪乱により混入したとみられる陶器片1点が出土している。第481図2039の土師器坏は、西壁際の床面から出土している。2040・2041は土師器甕で、いずれも竈内から出土し、2040は横位で出土している。2042の土師器甕は、竈内と北西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2043～2046は須恵器坏である。2043は南壁際の覆土中層から出土し、底部外面に「川」と墨書されている。

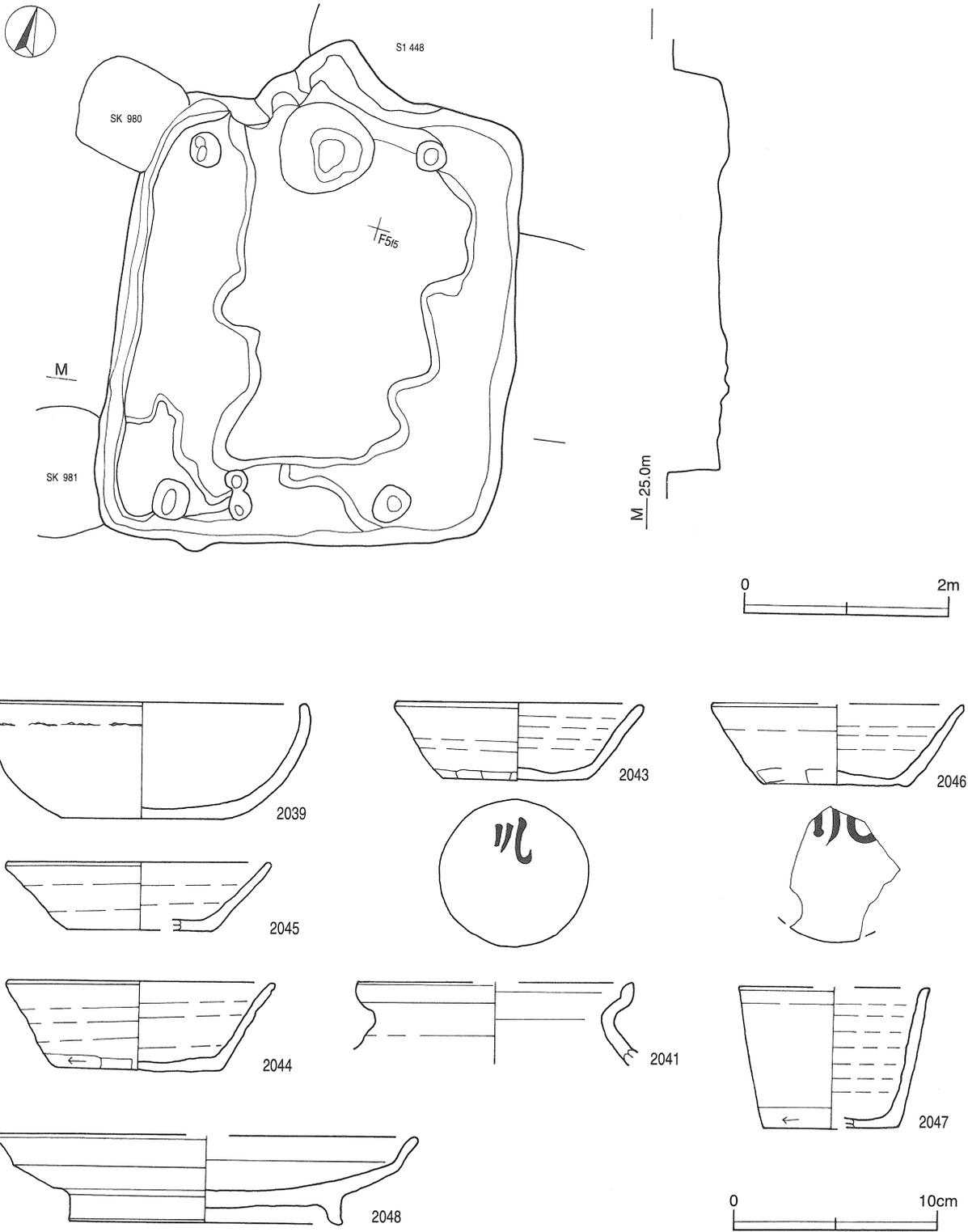
2044は竈内から、2045は西壁寄りの覆土下層から、2046は竈前の覆土中層から出土している。2047の須恵器コップ形土器は、南東コーナー部付近の覆土中層から出土している。2048・2049は須恵器盤である。2048は南東コーナー部の覆土中層と北西コーナー部付近の床面から出土した破片が接合したものである。2049は、中央部南東コーナー寄りの覆土中層から出土している。2050の須恵器高盤は、竈の覆土上層から逆位で出土し、脚部内面に墨書が認められる。2051の須恵器鉢は、西壁際の覆土下層と竈内から出土した破片が接合したものである。2052・2087は須恵器長頸瓶である。2052は中央部の覆土中層から、2087は東壁際の覆土上層及び中



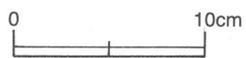
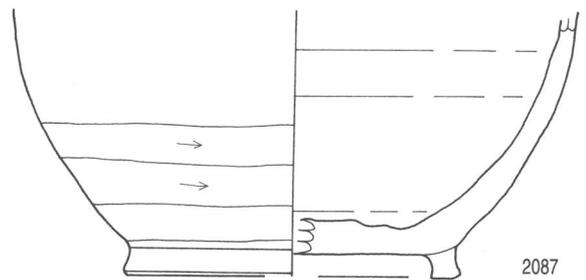
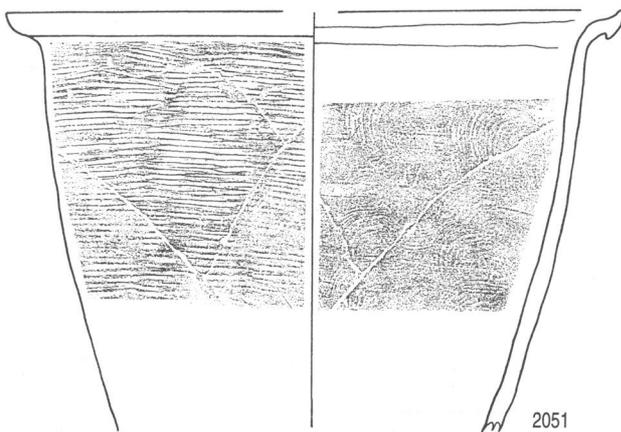
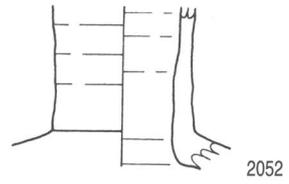
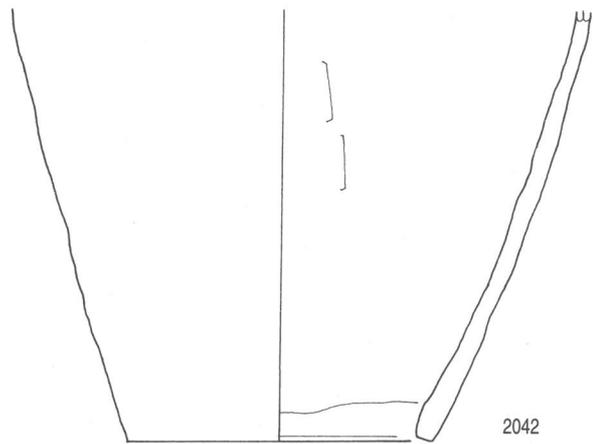
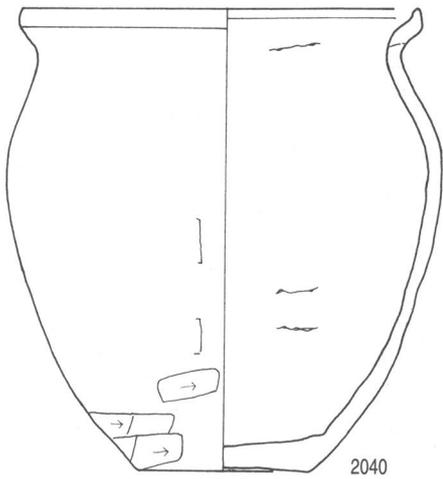
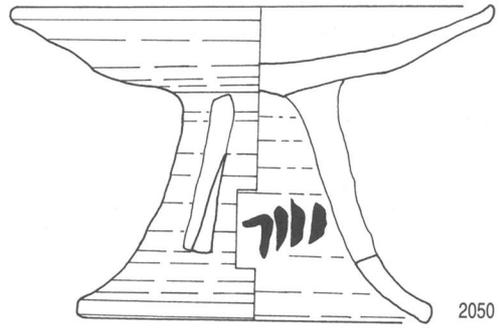
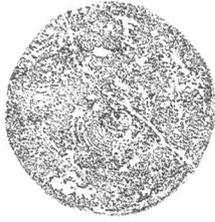
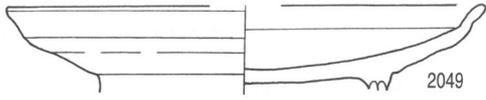
第480図 第447号住居跡実測図

中央部の覆土中層から出土している。2052・2087は同一個体の可能性がある。なお、多量の炭化材が中央部の床面及び火床部で確認されている。

所見 本跡は、炭化材の出土状況から焼失住居と思われる。本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉と推定される。



第481図 第447号住居跡・出土遺物実測図



第482图 第447号住居跡出土遺物実測図

第447号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 2039	坏 土師器	A 15.6 B 5.7 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内・外面剥離が激しく調整不明。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	95% P L 230
第482図 2040	甕 土師器	A 15.6 B 18.4 C 6.8	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ、下端横位のヘラ削り。内面輪積み痕を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色	90% P L 231 二次焼成 支脚転用♯
第481図 2041	甕 土師器	A [13.4] B (4.0)	頸部から口縁部の破片。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部にいたる。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 淡橙色、普通	5%
第482図 2042	甕 土師器	B (17.2) C 12.2	底部から体部の破片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面剥離が激しく調整不明、内面ヘラ当て痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色、普通	35% P L 230
第481図 2043	坏 須恵器	A 12.1 B 5.8 C 7.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	100% P L 230 底部外面墨書「川」
2044	坏 須恵器	A 12.7 B 3.4 C 7.0	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	70% P L 230
2045	坏 須恵器	A 13.0 B 4.4 C [8.0]	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・長石、にぶい橙色 不良	80% P L 230
2046	坏 須恵器	A [12.4] B 4.0 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	30% P L 230 底部外面墨書「川」
2047	コップ形 土器 須恵器	A [9.3] B 7.0 C [6.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好	40% P L 230
2048	盤 須恵器	A [20.6] B 4.3 D 13.2 E 1.3	体部・口縁部一部欠損。体部は外方に大きく開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部、底部内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色 普通	70% P L 231
第482図 2049	盤 須恵器	A [19.0] B (3.5)	高台部から口縁部の破片。体部は外方に大きく開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部は外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部、底部内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 不良	50% P L 231
2050	高 須恵器	A 18.8 B 12.7 D 13.4 E 9.6	盤部は外方に大きく開き、口縁端部はつまみ上げられている。脚部はハの字状に開き、裾部で外反する。裾端部は屈曲し垂下する。脚3か所、長方形の透かし孔。	坏部及び脚部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	70% P L 230 脚部内面墨書「□」
2051	鉢 須恵器	A [32.2] B (22.3)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外側に屈曲する。口縁端部は上下につまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。内面同心円状の当て具痕、横ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰黄褐色	20% P L 230 二次焼成
2052	長頸瓶 須恵器	B (5.4)	頸部の破片。頸部は直立する。	頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色、普通	5% P L 231 外面自然釉 2087と同一個体♯
2087	長頸瓶 須恵器	B (10.5) D [13.2] E 1.3	底部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	25% P L 231 2052と同一個体♯

第448号住居跡（第483～485図）

位置 調査区域の南西部，F 5 d5区。

重複関係 第447・452号住居，第1022・1023号土坑に掘り込まれており，いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.85m, 短軸6.70mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は35~43cmで、ほぼ直立する。

壁溝 第447・452号住居, 第1022・1023号土坑に掘り込まれている部分は確認できないが、竈の部分を除いて、壁下を巡っていたと推測される。上幅10~19cm, 下幅5~13cm, 深さ8cm, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、壁際を除き踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ110cm, 袖部最大幅135cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中、第6~8層が焼土ブロックを含むことから、火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は、砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、壁を幅70cm, 奥行き53cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は、25度の傾きで立ち上がり、端部ではほぼ直立する。火床部は、長軸110cm, 短軸75cmの楕円形に確認面からの深さ50cmほど掘り込み、ロームブロックを含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は、北壁ラインの内側に位置する。火床部から煙道部にかけでは最大7cmの厚さで赤変しており、長期間使用されていたと思われる。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	7 におい赤褐色	焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量	8 赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量	9 暗赤褐色	焼土中ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量, 炭化物微量
4 におい赤褐色	ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム中ブロック・砂粒微量	10 におい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土粒子微量
5 極暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土中ブロック・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量	11 赤褐色	粘土小ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量(掘り方)
6 におい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック中量, 砂粒少量	12 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量(掘り方)

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は、長径65~95cm, 短径65~87cmの楕円形, 深さ60~70cmで、規模と配置から、主柱穴と思われる。P5は長径32cm, 短径24cmの楕円形, 深さ24cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。P6は長径42cm, 短径30cmの不整楕円形, 深さ35cmで、P2に隣接する。補助柱穴の可能性が考えられる。

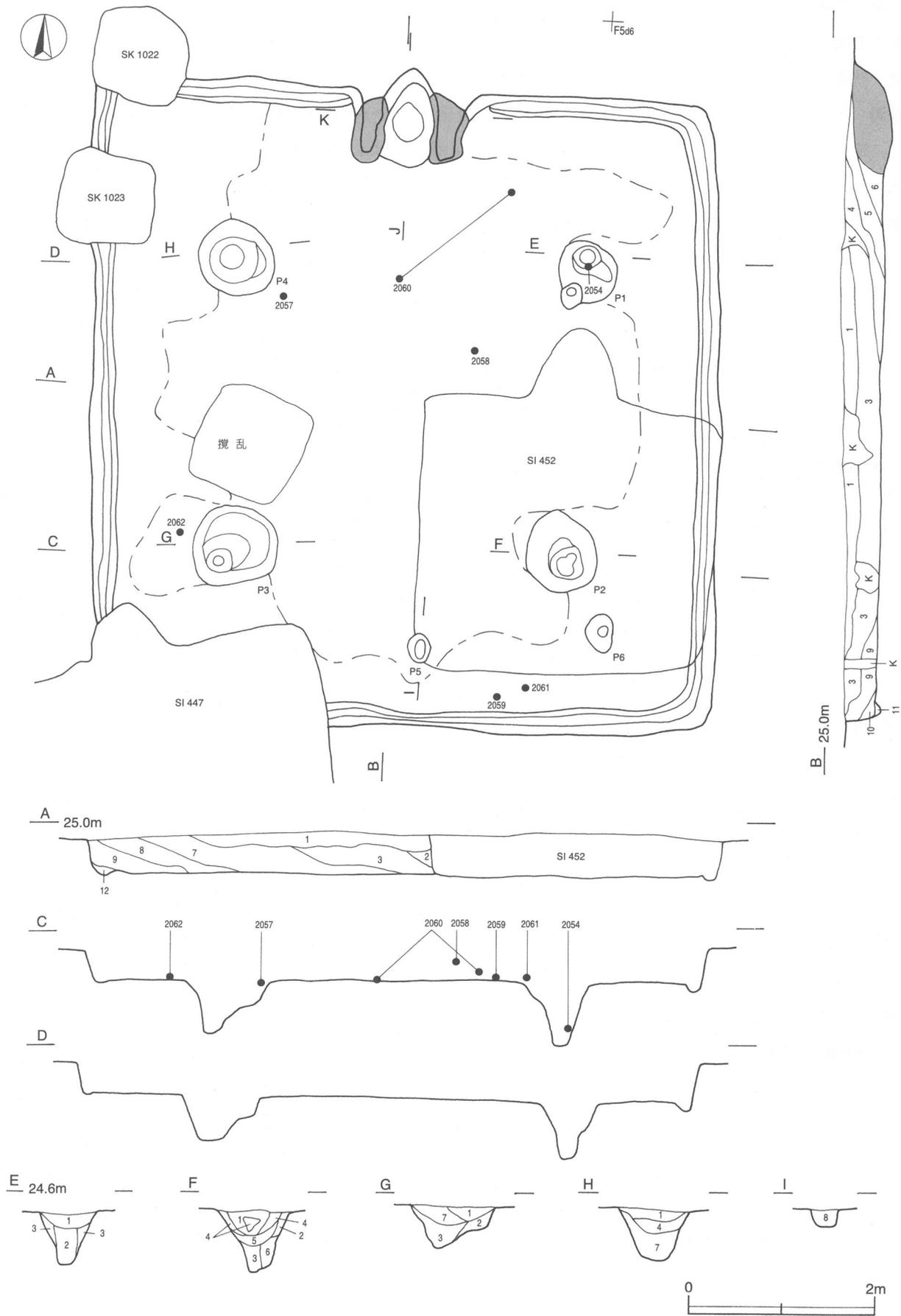
ピット土層解説

1 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	5 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 12層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

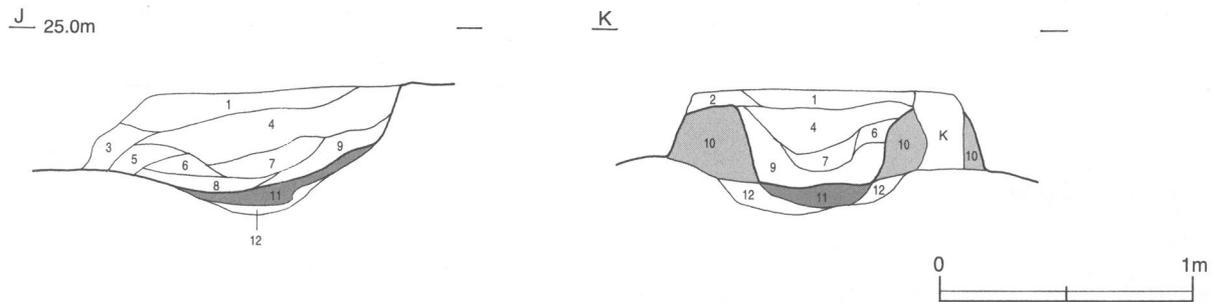
1 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子微量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	10 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	11 褐色	ローム粒子少量
6 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量



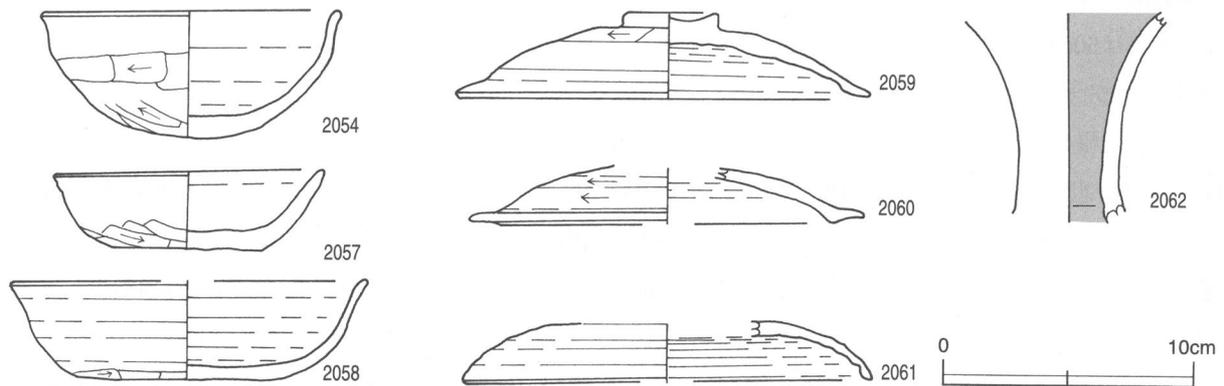
第483图 第448号住居跡実测图 (1)

遺物 土師器片376点、須恵器片145点、灰釉陶器片3点、鉄滓2点、雲母片岩1点が出土している。第485図2054の土師器坏は、P1内から出土している。2057・2058は須恵器坏である。2057は中央部のP4寄りの覆土下層から、2058は中央部の覆土中層から出土している。2059・2060は須恵器蓋である。2059は、南壁際の覆土下層から出土している。2060は、竈前の覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。2061の須恵器蓋は南壁際の覆土下層から出土している。2062の灰釉陶器長頸瓶は、南西コーナー部付近の覆土下層から出土しているが、混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前葉と推定される。



第484図 第448号住居跡実測図(2)



第485図 第448号住居跡出土遺物実測図

第448号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第485図 2054	坏 土師器	A 11.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面多方向のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	60% P L 231
		B 5.2				
2057	坏 須恵器	A 10.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英、暗灰黄色 普通	85% P L 231
		B 3.3				
		C 6.1				
2058	坏 須恵器	A [14.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	30% P L 231
		B 3.9				
		C 8.2				

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第485図 2059	蓋 須恵器	A 16.3 B 3.7 F 3.7 G 0.8	口縁部一部欠損。天井部は丸く、なだらかに口縁部にいたる。口縁部の内面に退化したかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部多方向のヘラ削り。口縁部内外面ロクロナデ。つまみ貼り付け後ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	95% P L 231
2060	蓋 須恵器	A [15.6] B (2.3)	天井部から口縁部の破片。天井部は丸く、なだらかに口縁部にいたる。口縁部の内面にかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 不良	25% P L 231
2061	蓋 須恵器	A [16.4] B (2.4)	天井部から口縁部の破片。天井部は丸く、なだらかに口縁部にいたる。口縁部は屈曲して短く垂下する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	20% P L 231
2062	長頸瓶 灰釉陶器	B (8.4)	頸部の破片。頸部は上方でラッパ状に開く。	頸部内・外面ロクロナデ。	砂質分が多い、胎土にぶい黄色。外面自然釉。内面灰黄色釉。内面黒色小斑点状吹き出し。	5%

第449号住居跡（第486図）

位置 調査区域の中央部，F 5 a7区。

重複関係 第957号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.49m，短軸3.37mの方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は50cmで，ほぼ直立する。

壁溝 第957号土坑に掘り込まれている部分は確認できないが，竈の部分を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅12～20cm，下幅4～7cm，深さ7cm，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は，全体を確認面から深さ60～65cmほど平坦に掘り込み，ローム主体の褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ76cm，袖部最大幅は西袖の一部が第957号土坑に掘り込まれているが，90cmと推定される。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第2層が焼土を比較的多く含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は粘土・砂粒を含む暗褐色土で構築されている。煙道部は，壁を幅40cm，奥行き15cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は，50度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から50cmほどの深さで掘り込み，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・灰微量 | 5 暗褐色 | 粘土小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | | |

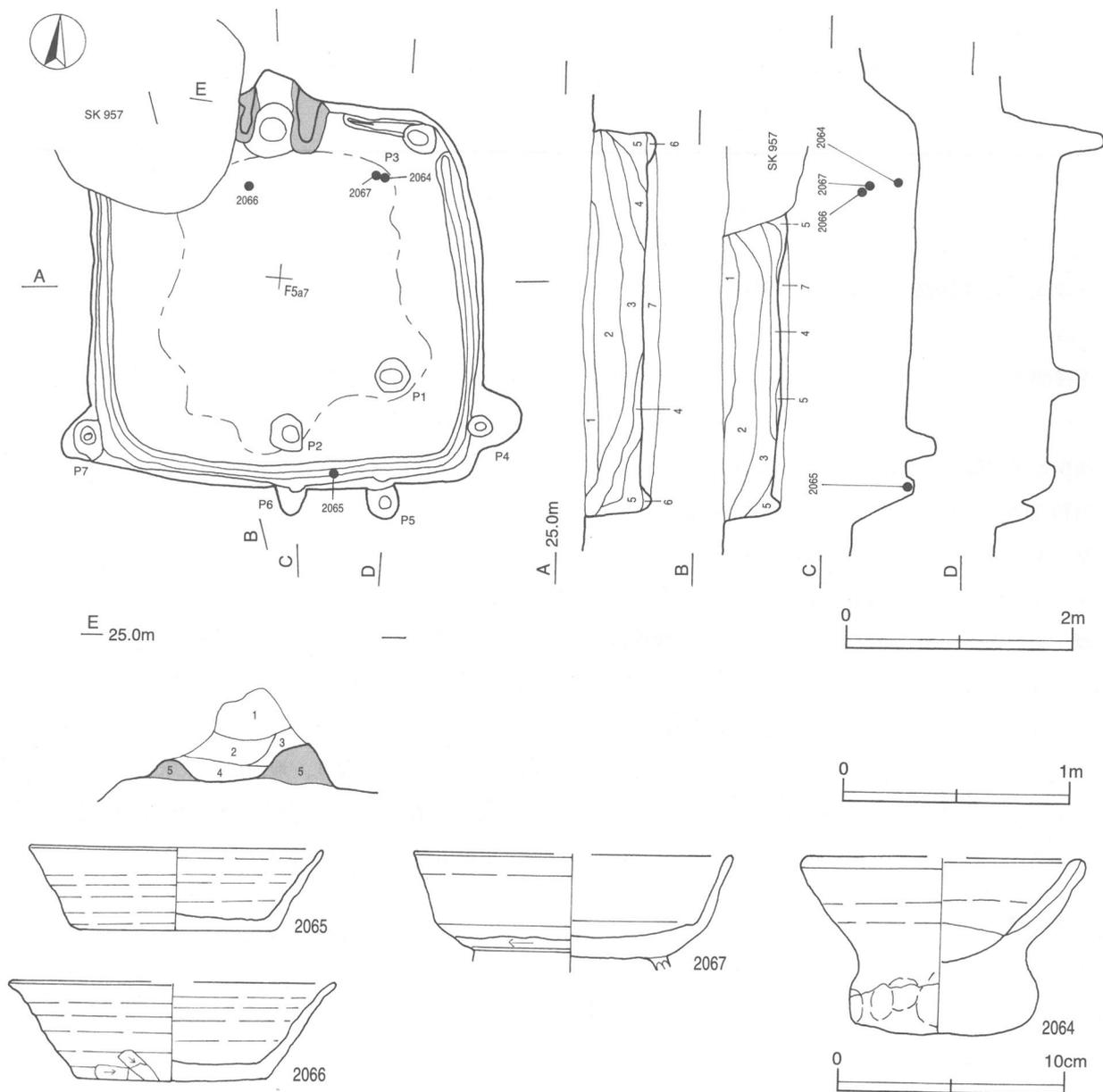
ピット 7か所（P1～P7）。P1は径30cmの円形，深さ27cmで，南東コーナー部付近に位置する。柱穴の可能性が考えられる。P2は径32cmの円形，深さ26cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P3は長径30cm，短径25cmの楕円形，深さ46cmで，北東コーナー部に位置する。P4は，南東コーナー部の東壁を，確認面からの深さ63cmで，幅55cm，奥行き35cmにわたり半円形に掘り込んでいる。P5は，南壁のやや東寄りの壁を，確認面からの深さ33cmで，幅25cm，奥行き

30cmにわたり楕円形に掘り込んでいる。P 7は、南西コーナー部の西壁を、確認面からの深さ60cmで、幅53cm、奥行き40cmにわたり半円形に掘り込んでいる。P 4・P 5・P 7はいずれも壁を掘り込んでおり、特にP 4・P 7は対応する位置で確認されていることから、壁柱穴の可能性が考えられる。P 6は、南壁の中央部を、幅25cm、奥行き25cmの三角形に、確認面からの深さ55cmほど掘り込んでいる。出入口施設に伴うピットと思われるP 2に関連するピットと考えられる。

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物微量 | 7 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量（貼床） |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | |



第486図 第449号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片123点, 須恵器片53点, 瓦片1点, 混入したとみられる縄文土器片3点が出土している。第486図2064の須恵器捏鉢は北東コーナー付近の覆土下層から出土している。2065・2066は須恵器坏である。2065は南壁際の覆土下層から, 2066は竈前の覆土上層から出土している。2067の須恵器高台付坏は, 北東コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と推定される。

第449号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第486図 2064	捏鉢 須恵器	A [11.8] B 7.9 C 6.6	口縁部一部欠損。円盤状の厚い平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面剥離のため, 調整不明。底部指頭痕。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	60% PL231
2065	坏 須恵器	A 12.8 B 3.7 C 8.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	80% PL231
2066	坏 須恵器	A [14.2] B 4.5 C 8.4	体部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	50% PL231
2067	高台付坏 須恵器	A [13.9] B (5.3) E (0.9)	高台部, 体部・口縁部一部欠損。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後, ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	65% PL231

第450号住居跡 (第487・488図)

位置 調査区域の南西端, G5 a2区。

重複関係 第440号住居跡を掘り込み, 第439号住居, 第972・975・979号土坑に掘り込まれており, 第440号住居跡より新しく, 第439号住居, 第972・975・979号土坑より古い。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.04mの長方形である。

主軸方向 N-89°-E (竈を通る軸線方向)

壁 壁高は16~35cmで, ほぼ直立する。

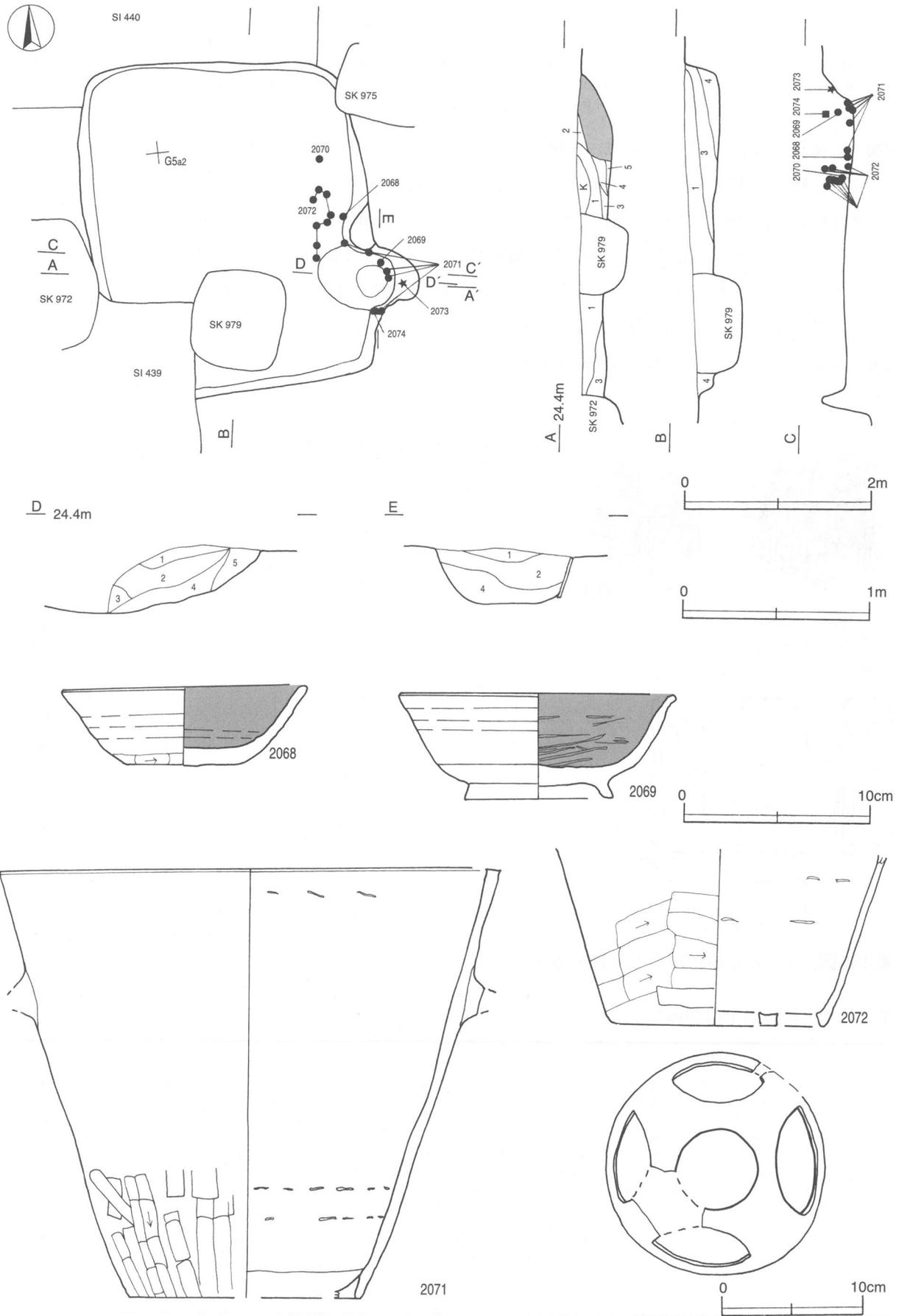
床 ほぼ平坦で, 特に踏み固められたところはみられない。地山を平坦に掘り込んで, 床面としている。

竈 東壁のやや南寄りに設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ110cm, 袖部最大幅は, 南袖が遺存しないが, 150cmと推定される。両袖部の内側には, 須恵器甌片を構築材として貼り付けている。天井部は崩落している。煙道部は, 壁を幅95cm, 奥行き45cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は, 20度の傾きで立ち上がる。火床部は, 確認面から33cmほどの深さに掘り込んでおり, 地山面を火床面としている。火床面は, 東壁ライン上に位置する。煙道部の立ち上がり部には, 須恵器甌及び須恵器甕の体部片が据えられている。これらは二次焼成を受けていることから, 支脚として転用されていたと思われる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| | | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と思われる。



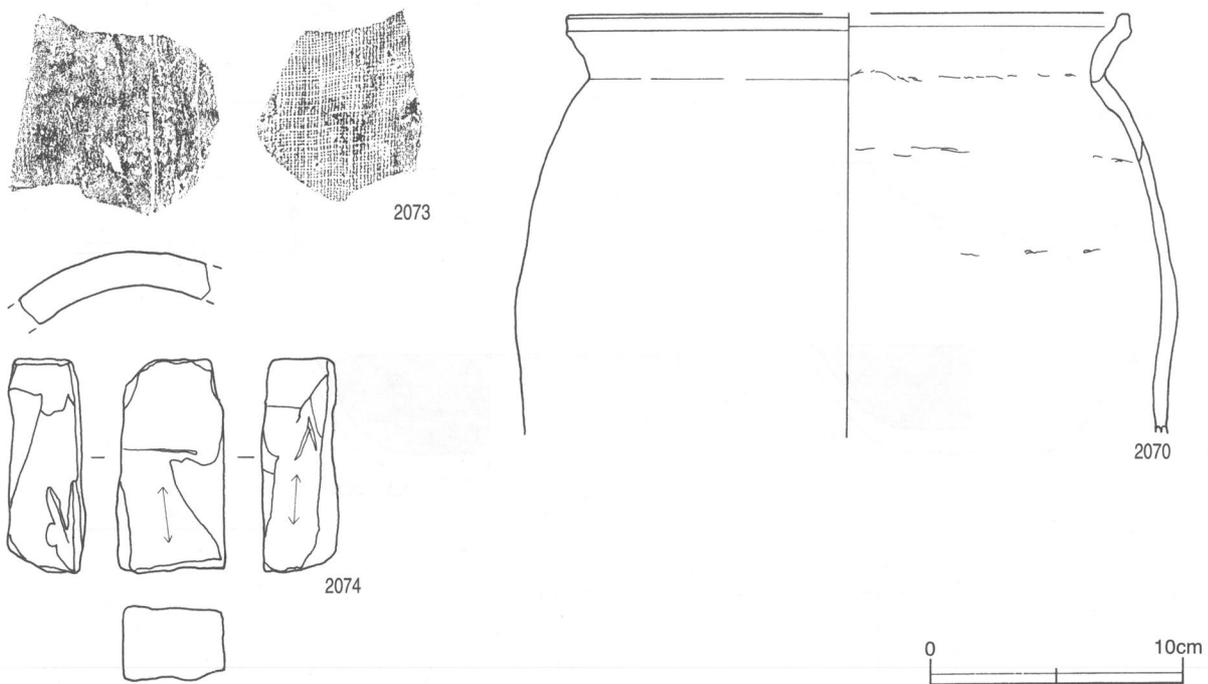
第487图 第450号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片93点, 須恵器片95点, 灰釉陶器片3点, 瓦片2点, 石器1点(砥石), 混入したとみられる黒曜石1点(剥片), 縄文土器片1点が出土している。第487図2068の土師器坏は東壁際の覆土下層から逆位で, 2069の土師器高台付椀は竈内から斜位で出土している。2070の土師器甕は, 東壁際の覆土中層から出土している。2071・2072は須恵器甕である。2071は, 竈袖部の構築材として転用されていた破片と支脚として転用されていたと思われる破片が接合したものである。2072は, 東壁際の覆土中層から破片の状態出土している。2073の丸瓦は竈内から, 2074の砥石は竈南袖上から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と推定される。



第488図 第450号住居跡出土遺物実測図

第450号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第487図 2068	坏 土師器	A 13.2 B 4.5 C 5.9	平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい褐色普通	100% P L 231
2069	高台付椀 土師器	A 15.0 B 5.5 D 7.9 E 1.0	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け後, ロクロナデ。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	粗い, 砂粒・雲母長石にぶい黄橙色普通	80% P L 231
第488図 2070	甕 土師器	A [22.2] B (16.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, く字状に屈曲して口縁部にいたる。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面輪積み痕を残す, ナデ。	砂粒・雲母・石英にぶい黄褐色普通	20% P L 231

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第487図 2071	甌 須恵器	A 35.6 B 31.1 C [16.4]	体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は面取りされている。	口縁部、体部内・外面横ナデ。体部下端縦位のヘラ削り。内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	60% P L 231
2072	甌 須恵器	B (12.2) C 15.6	底部中央に円形の孔1、周縁に木の葉形の孔4を穿孔する5孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端横位のヘラ削り。内面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	40% P L 231

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第488図2073	丸瓦	(7.5)	(7.2)	(1.3)	(117.0)	凸面ヘラ削り。凹面布目痕。	

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2074	砥石	(8.5)	4.2	3.1	(176.9)	凝灰岩	砥面2面。	P L 253

第451号住居跡（第489・490図）

位置 調査区域の南西端，F 3 f0区。

規模と平面形 南西部が調査区域外に位置しているが，長軸4.92m，短軸4.66mの方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20～45cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分と北壁の一部を除いて，壁下を巡っていたと推測される。上幅12～28cm，下幅7～17cm，深さ12cm，断面はU字形である。

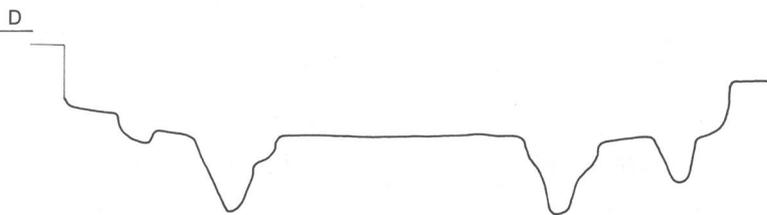
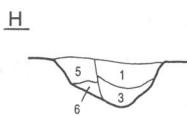
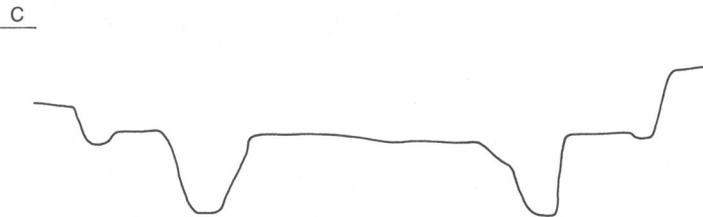
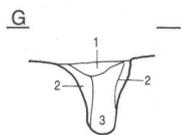
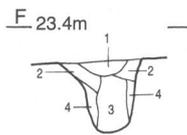
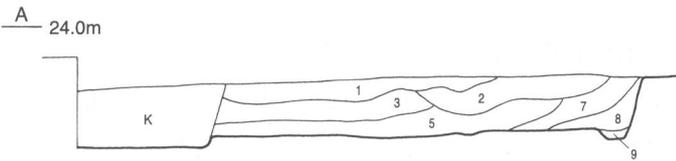
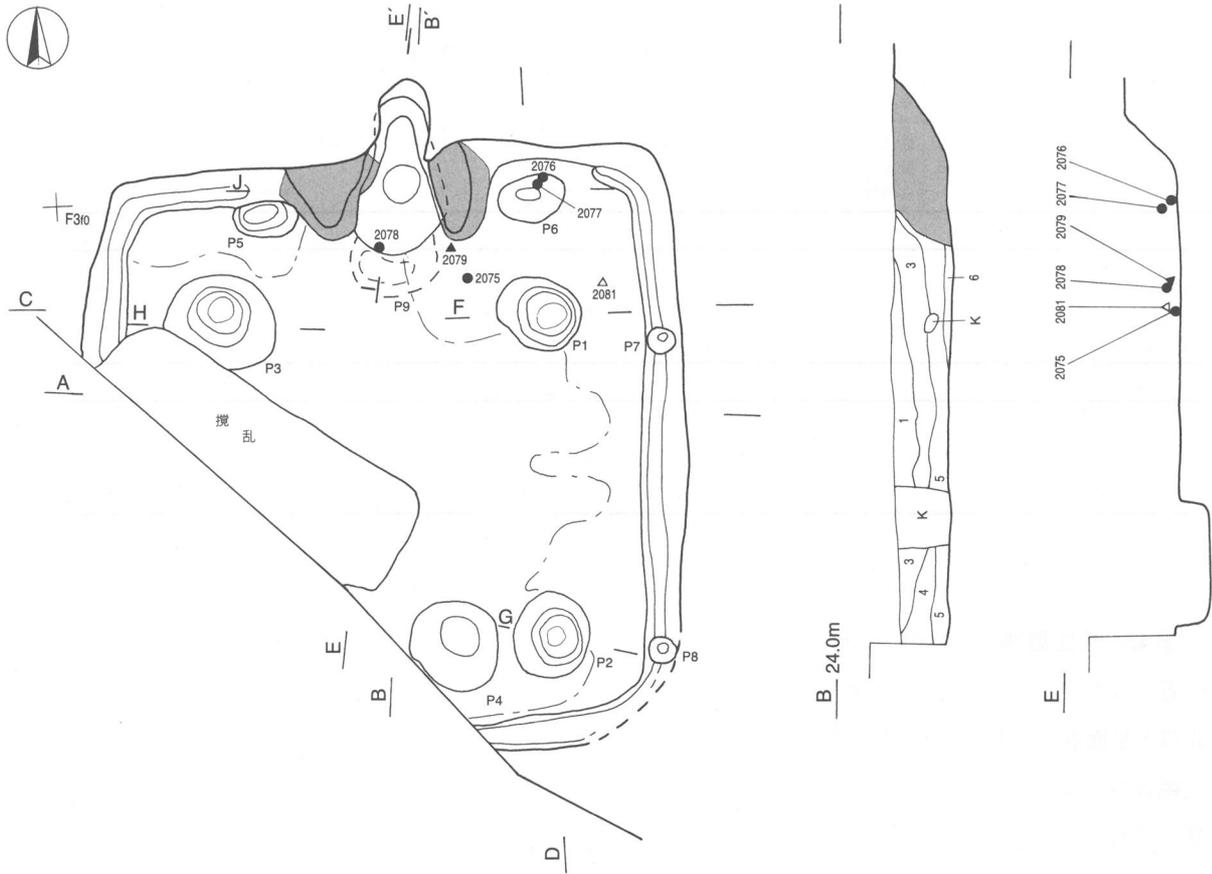
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ140cm，袖部最大幅170cmである。天井部は崩落している。竈土層断面図中，第4・5層が焼土ブロックを含むことから，火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と思われる。袖部は，砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は，壁を幅90cm，奥行き57cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は，37度の傾きで立ち上がる。火床部は，確認面から40cmほどの深さで掘り込んでおり，地山面を火床面としている。火床面は，北壁ラインの内側に位置する。焚口部手前には，後述するP 9が位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--|---------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 砂粒少量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土ブロック微量 | 8 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | 黄褐色粘土粒子中量，砂粒少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量（P 9埋土） |
| 4 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（P 9埋土） |
| 5 に近い赤褐色 | 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量 | | |
| 6 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | | |

ピット 9か所（P 1～P 9）。P 1～P 3は，長径68～88cm，短径56～70cmの楕円形，深さ60～65cmで，規模と配置から，主柱穴と思われる。P 4は長径75cm，短径70cmの楕円形，深さ27cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。P 5・P 6はそれぞれ，長径52cm，53cm，短径30cm，38cmの楕円形，深さ31cm，42cmで，竈両袖部の外側に位置する。補助柱穴もしくは，住居



第489图 第451号住居跡实测图

内構造物に関するピットの可能性が考えられる。P 7・P 8は、径25cmの円形、それぞれの深さ14cm, 21cmで、東壁下の壁溝に位置する。壁柱穴の可能性が考えられる。P 9は、径70cmの円形、深さ17cmで、焚口部に位置する。上層は踏み固められていることから、竈の掘り方に伴うものと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子微量 |

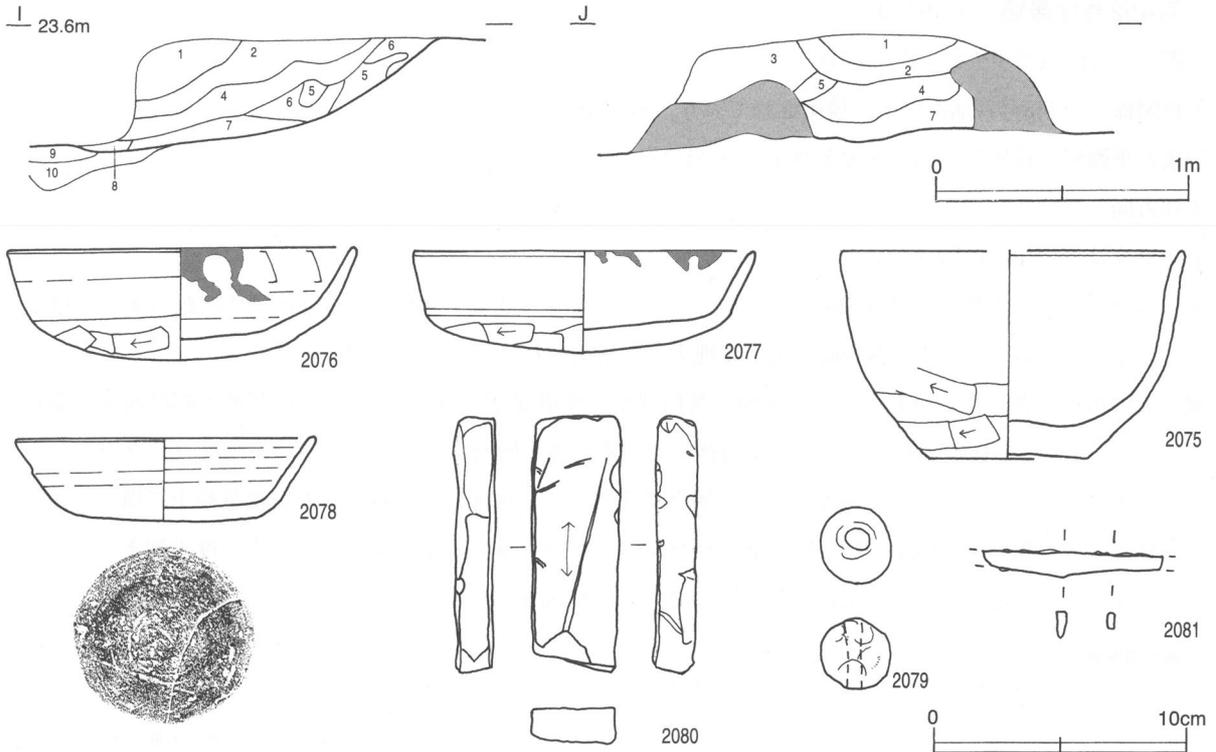
覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片245点, 須恵器片89点, 灰釉陶器片1点, 瓦片1点, 土製品1点(球状土錘), 石器2点(砥石), 鉄器1点(刀子), 混入したとみられる縄文土器片5点, 攪乱により混入したとみられる陶器片24点が出土している。第490図2075の土師器小形甕は、竈前の覆土下層から出土している。2076・2077は須恵器坏である。いずれも竈東側の床面直上から、2076は正位で、2077は2076の上に伏せられた状態で出土している。ともに口縁部の内面に油煙が付着している。2078の須恵器坏, 2079の球状土錘は竈前の覆土下層から、2080の砥石は南東部の覆土中層から、2081の刀子は北東コーナー部付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前葉と推定される。



第490図 第451号住居跡出土遺物実測図

第451号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第490図 2075	小形甕 土師器	A [13.5] B 8.3 C 6.3	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下端横位のヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	55% P L 232
2076	坏 土師器	A 13.6 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部はわずかにつまみ出される。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	90% P L 232 口縁部油煙付着
2077	坏 土師器	A 14.7 B 5.8 C 7.8	底部から口縁部にかけて一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。底部多方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色 普通	60% P L 232 口縁部油煙付着
2078	坏 須恵器	A 11.7 B 3.4 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70% P L 232

遺物番号	器種	計測値			材質	特徴	備考
		径(cm)	孔径(cm)	重さ(g)			
2079	球状土錘	2.8	0.7	20.7	土製	外面指頭痕。	P L 250

遺物番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
2080	砥石	(10.2)	3.4	1.5	(91.5)	凝灰岩	砥面1面。	

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
2081	刀子	(7.1)	(3.2)	1.0	0.3	(3.9)	(5.4)	鉄	片関。	P L 254

第452号住居跡 (第491図)

位置 調査区域の中央部, F 5 e5区。

重複関係 第448号住居跡の上に構築されており, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.17m, 短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は35~40cmである。

床 ほぼ平坦で, 全体的に踏み固められている。全面が貼床である。貼床は, 第448号住居跡の床面に焼土・炭化粒子・ロームブロックを含む暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ115cm, 袖部最大幅は西袖が遺存しないため, 130cmと推定される。天井部は崩落している。竈土層断面図中, 第5層は焼土ブロックを含むことから, 火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。袖部は, 砂粒を含む黄褐色粘土で構築されている。煙道部は, 壁を幅100cm, 奥行き75cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部は, 確認面から深さ32cmほど掘り込んで, 火床面をつくっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 黄褐色粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 焼土大ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |

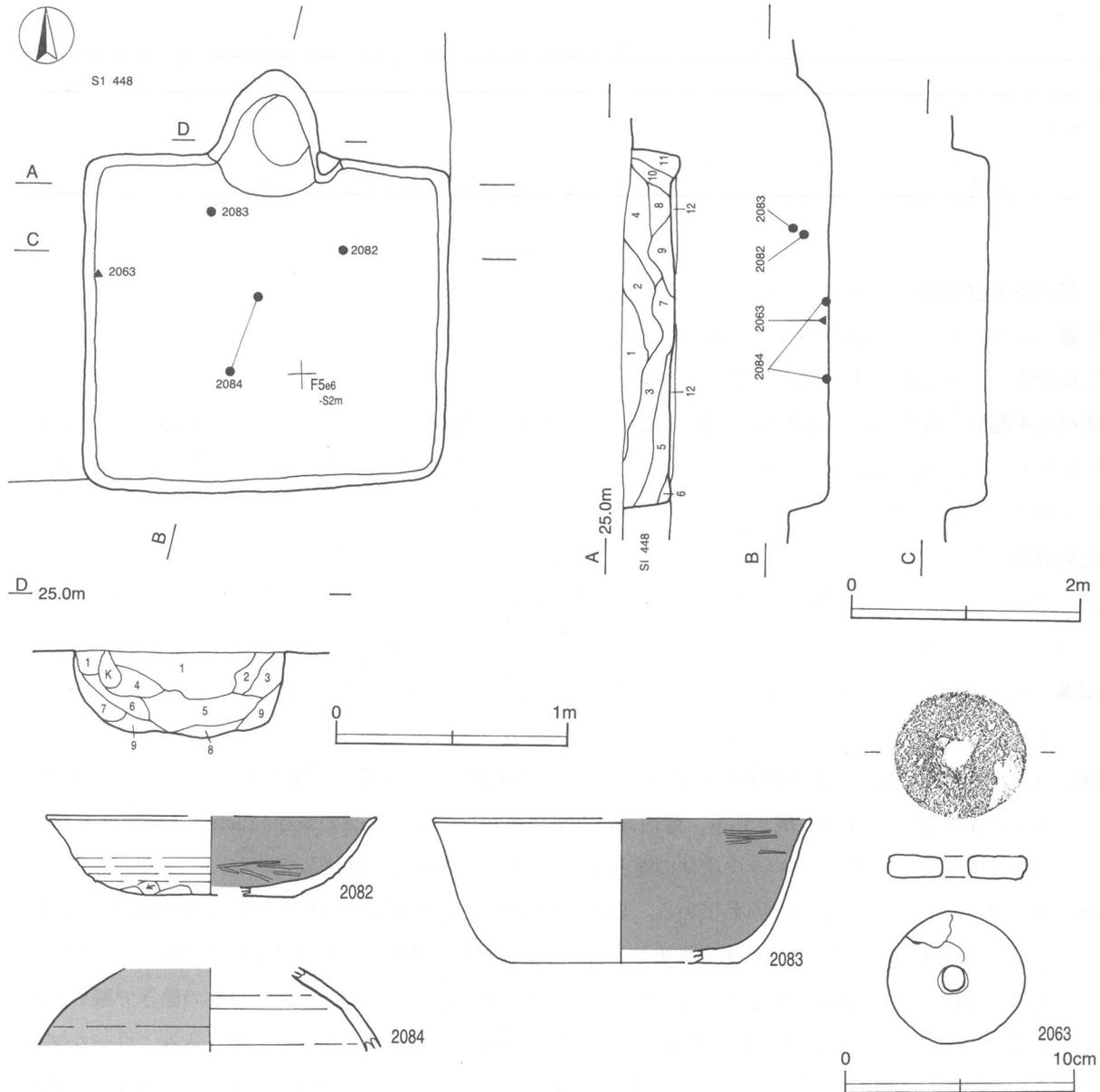
- 7 黒褐色 黒色土粒子中量, 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 11層からなる。不自然な堆積状況を呈することから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量 | <ul style="list-style-type: none"> 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 9 泥い黄褐色 黄褐色粘土ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量, ローム中ブロック・焼土粒子微量 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 (貼床) |
|---|--|



第491図 第452号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片133点, 須恵器片76点, 灰釉陶器片4点, 雲母片岩5点が出土している。第491図2063の土製紡錘車は西壁際の床面直上から出土している。土師器坏の底部を転用したものである。2082・2083は土師器坏である。2082は北東部の覆土中層から, 2083は竈前の覆土上層から出土している。2084の灰釉陶器長頸瓶は中央部の床面直上から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と推定される。

第452号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第491図 2082	坏 土師器	A [14.4] B 3.5 C [7.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色	20% PL232 二次焼成
2083	坏 土師器	A [16.4] B 6.4 C [12.0]	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き, 黒色処理。底部磨滅のため調整不明。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子にぶい黄橙色, 普通	10% PL232
2084	長頸瓶 灰釉陶器	B (2.4)	体部の破片。	体部内・外面ロクロナデ。外面施釉。	緻密, 胎土 灰白色 灰オリーブ色釉 普通	5%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
2063	紡錘車	6.0	1.0	1.2	38.8	土製	土師器坏底部片を転用。	PL250

第453号住居跡 (第492～494図)

位置 調査区域の中央部西寄り, E 5 a3区。

重複関係 第28号溝に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 西壁の竈の南側は, 北側より25cmほど奥まで掘り込んでいる。南側で東西長4.55m, 北側で東西長4.30m, 南北長4.40mである。後述するように, 棚状施設の存在が想定され, それを含めて平面形は長方形になると思われる。

主軸方向 N-105°-W

壁 壁高は19～21cmで, 外傾して立ち上がる。西壁の竈北側部分には, 北袖と一体化して粘土が貼り付けられている。

壁溝 竈の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅13～23cm, 下幅3～12cm, 深さ5～8cmで, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北東部の床面は, 白色粘土で覆われている。全面が貼床で, 確認面から深さ32～40cmほど掘り込み, 竈前面には確認面からの深さ58cmの長径125cm, 短径55cmの楕円形の土坑状に掘り込み, ロームブロック主体の褐色土・暗褐色土を埋土して構築している。

竈 西壁の中央から南寄りに設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ123cm, 袖部最大幅は148cmである。袖部はローム粒子混じり粘土で構築されている。北袖と一体化して西壁には粘土が貼り付けられている。煙道部は西壁を幅110cm, 奥行き72cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は12度の傾きで緩やかに立ち上がる。火床部は, 確認面から30～35cmの深さで長径98cm, 短径78cmの楕円形に掘り込み, ロームブロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。竈は二つ掛けで, 北壁ラインの外側に位置し, 一方には土製支脚に土師器甕が, もう一方には土師器坏をかぶせている。

竈土層解説

1 暗褐色	砂粒少量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物微量
2 黄褐色	灰多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・砂粒微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・灰微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰微量	12 暗赤褐色	焼土小ブロック少量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
4 灰黄褐色	灰多量, 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量	13 黄褐色	粘土大ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量	14 黄褐色	粘土大ブロック中量, 焼土粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰微量	15 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック微量
7 黄褐色	焼土粒子・灰少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	17 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 (掘り方, 土層断面第8層と同一)
9 赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量, 灰少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量		

ピット 8か所 (P1～P8)。P1は長径47cm, 短径40cmの楕円形, 深さ10cmで, 東壁際の竈に対する位置で確認されており, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P6は径75cmの隅丸方形, 深さ40cmで, 前者は北西コーナー, 後者は南西コーナーに位置する。P3は径65cmの円形, 深さ45cm, P4は径50cmの円形, 深さ33cm, P5は径50cmの円形, 深さ42cm, P7は径46cmの円形, 深さ17cm, P8は長径110cm, 短径75cmの楕円形, 深さ17cmである。このうちP5・P8の周りは白色粘土が覆っている。P2～P8はいずれも性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
2 黄褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	白色粘土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子微量
5 黄褐色	白色粘土小ブロック中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化材・炭化粒子微量	10 褐色	ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量
		11 黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
		12 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

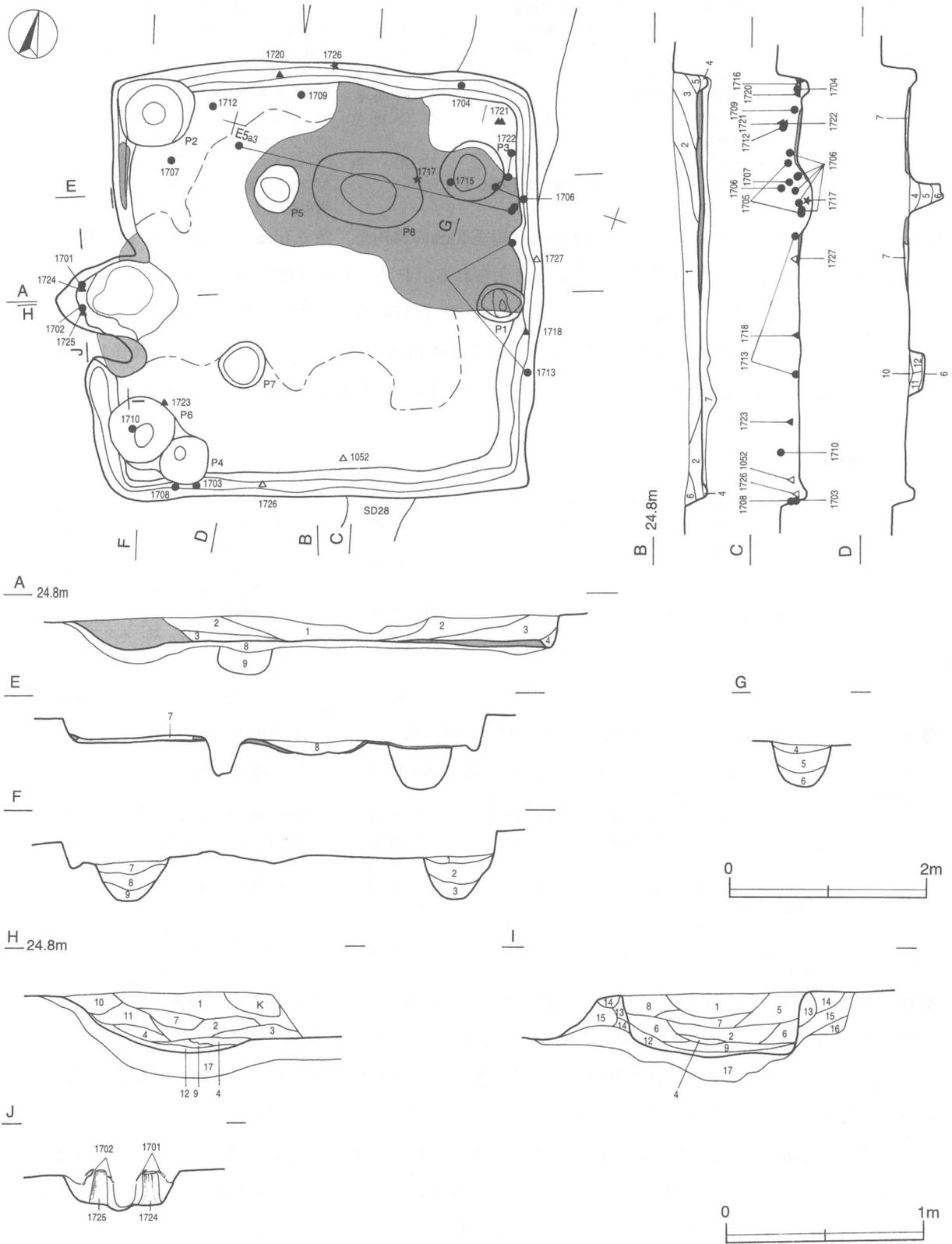
覆土 7層からなる。第7層はほぼ均一に床面に粘土が貼り付いており, 人為的なものと思われる。第1～6層は, レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。第9層は床下土坑の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	炭化物・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
		7 淡黄色	粘土層 (貼床)
		8 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 (貼床)
		9 暗褐色	ローム大ブロック多量 (貼床)

遺物 土師器片1950点, 須恵器片186点, 灰釉陶器片11点, 瓦片6点, 土製品8点 (紡錘車2・管状土錘3・支脚片3), 鉄器2点 (刀子), 銅製品1点 (鉸具) が出土している。土師器と須恵器の出土した割合は圧倒的に土師器が多い。特に須恵器の食膳具は少なく破片数にしてわずか21点である。第493図1724・1725は2つ掛けの竈支脚で, 前者は北側, 後者は南側に据えられていたものである。1724の支脚の上には1701の土師器坏が, 1725の支脚の上には1702の土師器坏が伏せられた状態で出土している。1703の土師器坏, 1708の土師器高台付皿, 1726の刀子は南壁際の床面から, 1713の須恵器甕片, 1718の土製紡錘車, 1727の刀子は東壁際の床面からそれぞれ出土している。1710の須恵器高台付皿は南西コーナー部の覆土上層から出土したもので, 底部外面には「=」のヘラ記号が施されている。1704・1705の土師器坏, 1706の土師器高台付椀, 1707の土

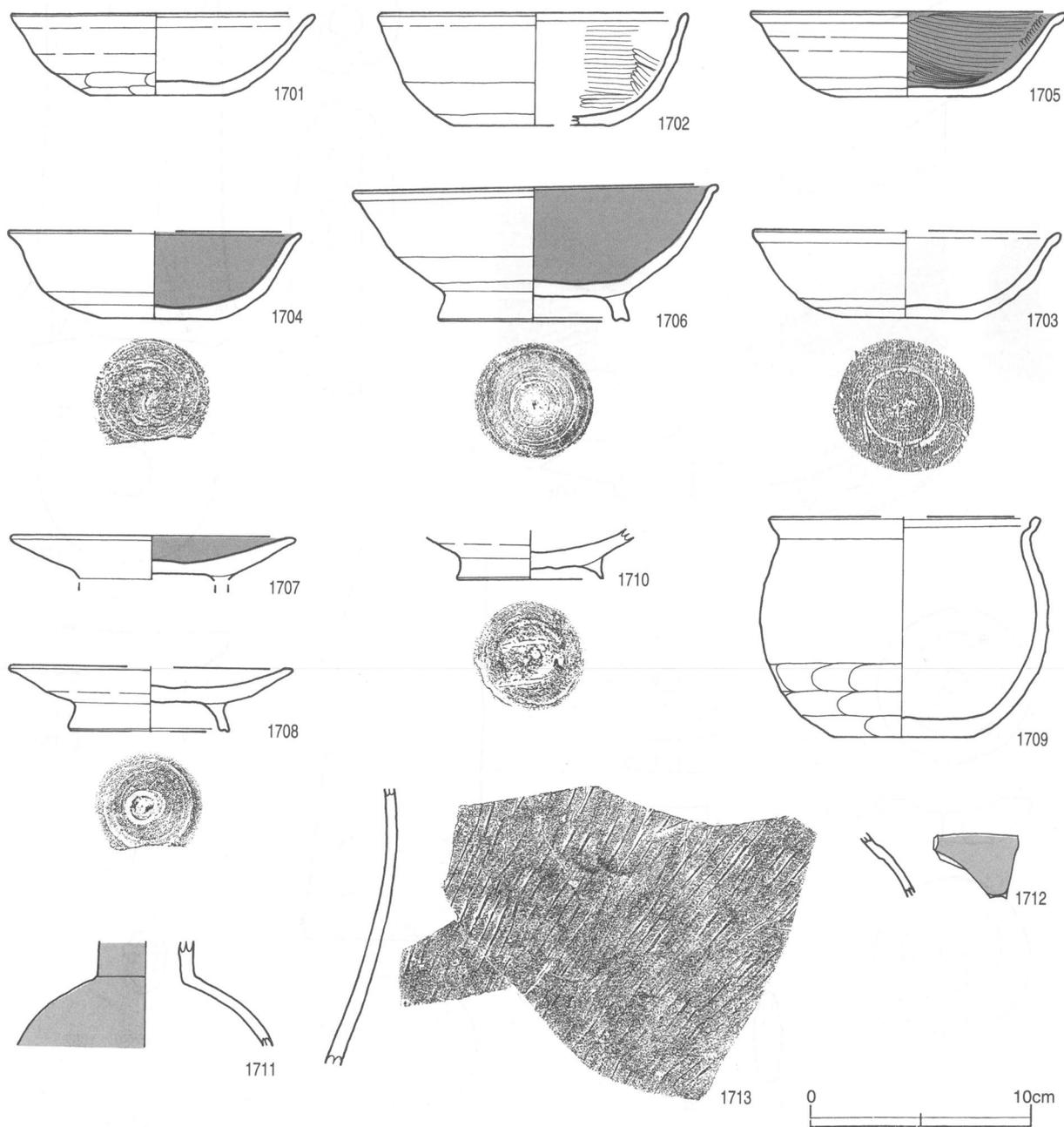
師器高台付皿はいずれも内面に黒色処理がされている。これらのうち、1705は磨きが施されているのに対し、他の3点は磨きは見られず、器壁はざらついている。1711・1712は灰釉陶器で、いずれも長頸瓶の肩部片と思われる。前者は胎土が堅緻であるのに対し、後者は軟質で白っぽい胎土で、黄色がかった釉の発色をしている



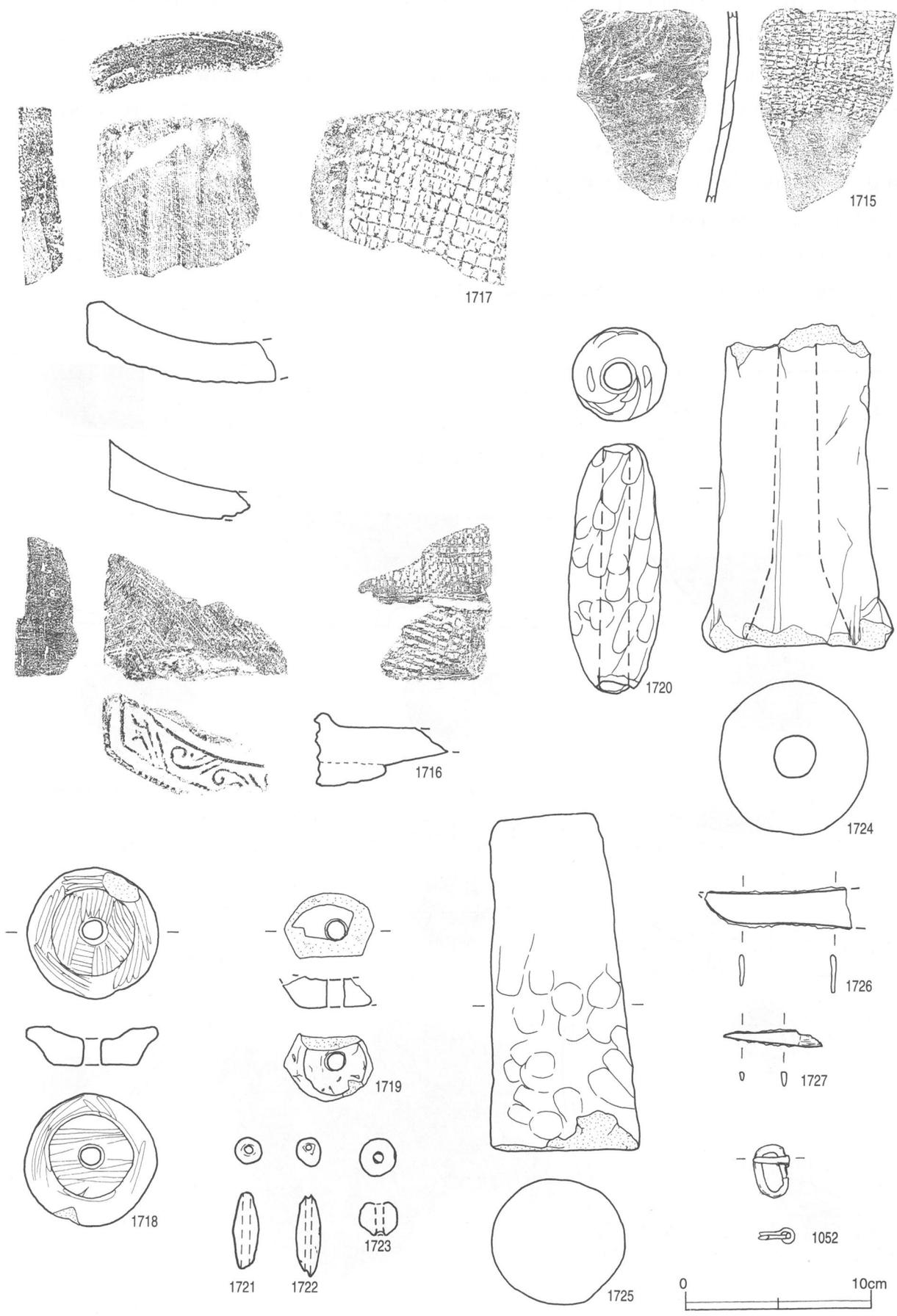
第492図 第453号住居跡実測図

る。1714は斜位方向の平行叩き，1715は格子目叩きを施した須恵器甕片である。1716は唐草文軒平瓦で，平瓦部凹面には糸切り痕がみられ，凸面全体に格子目叩きを施している。1717は格子目叩きの平瓦で，凹面には布目がみられる。1052は鉸具で，南壁際の覆土下層から出土している。1719の土製紡錘車は覆土中から，1720の管状土錘は北壁溝から，1721・1722の管状土錘は北東コーナー部の覆土中層から，1723の球状土錘は南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の西壁は竈の南側が奥まで掘り込まれ，北側は南側より25cmほど手前で立ち上がっており，南側は東西長4.55m，北側は東西長4.30mである。西壁の竈北側は竈の項でも触れたように，形状と北袖と壁が一体化して粘土で構築されていることから，棚状の施設が存在していたものと考えられる。本跡の時期は，出土土器と食膳具の組成などからも，10世紀前葉と推定される。



第493図 第453号住居跡出土遺物実測図(1)



第494图 第453号住居跡出土遺物実測图 (2)

第453号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第493図 1701	坏 土師器	A 13.7 B 3.7 C 6.0	平底。底部と体部の境に稜をもつ。 体部は内彎し、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 にぶい褐色 普通	80%
1702	坏 土師器	A 14.2 B 5.3 C [6.6]	平底。底部と体部の境に稜をもつ。 体部は内彎し、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面 ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ 削り。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	90% P L 232
1703	坏 土師器	A [14.0] B 4.0 C 6.0	平底。底部と体部の境に稜をもつ。 体部は内彎し、口縁部で外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端・底部回転ヘラ削り。底部 内面中央に指頭痕。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60%
1704	坏 土師器	A [13.4] B 4.0 C 5.2	平底。底部と体部の境に稜をもつ。 体部は外傾し、口縁部にいたる。口 縁端部は細くすぼむ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端・底部回転ヘラ削り。内面 黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	60%
1705	坏 土師器	A 14.4 B 3.9 C 6.6	平底。底部と体部の境に稜をもつ。 体部は外傾し、口縁部で外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部 下端・底部回転ヘラ削り。体部・底 部内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	50%
1706	高台付碗 土師器	A 16.6 B 6.3 D 8.8 E 1.3	体部は外傾して立ち上がり、口縁部 にいたる。高台はハの字状にふんば る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端・底部回転ヘラ削り。高台 貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色 処理。内面調整は磨滅のため不明。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	95%
1707	高台付皿 土師器	A 13.0 B (2.0)	高台部欠損。体部は外方に大きく開 き、口縁部にいたる。	口縁部外面ロクロナデ。体部下端・ 底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	80% P L 232
1708	高台付皿 土師器	A [12.9] B 2.9 D [7.2] E 1.2	体部は外方に大きく開き口縁部にい たる。口縁部はわずかに外反する。 高台はやや高く、ハの字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付 け後、ロクロナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	40% P L 232
1709	小形甕 土師器	A [12.1] B 10.1 C 6.4	体部は丸みをもって立ち上がり、頸 部は緩やかにくの字状に折れる。口 縁端部に平坦面をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナ デ。体部下端横位の手持ちヘラ削り。 内面ナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	50% P L 232
1710	高台付皿 須恵器	B (2.4) D 6.6 E 1.0	高台部の破片。体部は外方に大きく 開く。高台は断面三角形で、接地面 が細い。	高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 普通	40% 底部外面「=」 焼成前ヘラ記 号
1711	長頸瓶 灰釉陶器	B (4.8)	体部は丸みをもち、頸部は直立する。	頸部、体部内・外面ロクロナデ。肩 部施釉。頸部二段接合。	緻密 胎土 灰色 オリブ黒色釉, 良好	5%
1712	瓶 灰釉陶器	B (2.8)	肩部の破片。	内・外面ロクロナデ。外面施釉。	砂粒, 胎土 灰白色 灰オリブ釉 普通	5%
1713	甕 須恵器	B (12.5)	体部片。	体部外面目の粗い斜位の平行叩き, 内面ナデ。	砂粒・小石 褐灰色, 良好	10% P L 244
第494図 1715	甕 須恵器	B (10.5)	体部片。	体部外面格子目叩き, 下端横位の手 持ちヘラ削り。内面同心円状当て具 痕, ナデ。	砂粒・小石 褐灰色, 良好	10%

遺物番号	器種	計測値						特徴	備考
		瓦当厚(cm)	頸長(cm)	厚さ(cm)	全長(cm)	幅(cm)	重量(g)		
1716	軒平瓦	5.0	1.3	2.3	(10.7)	(12.2)	(490.0)	均整唐草文。凸面格子目叩き。	

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1717	平瓦	(10.2)	—	(9.3)	2.2	(351.0)	凸面格子目叩き。凹面布目痕。	

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第494図1718	紡錘車	7.0	4.5	2.1	1.0	90.7	土製	上・側・下面へラ磨き。側面下端へラ削り。	P L 250
1719	紡錘車	—	4.7	1.7	0.8	27.1	土製	上面はくぼむ。側面下端・下面へラ削り。	P L 250

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	孔径(cm)	重さ(g)			
1720	管状土錘	13.4	5.0	1.8	1.5	255.0	土製	側面へラ削り、指頭押圧。	P L 250
1721	管状土錘	4.15	1.4	0.6	0.4	5.8	土製	側面ナデ。須恵質。	P L 250
1722	管状土錘	4.5	1.6	0.6	0.3	4.7	土製	側面ナデ。須恵質。	P L 250
1723	球状土錘	1.7	2.0	—	0.3	6.1	土製	側面ナデ。指頭痕。	P L 250

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
1724	支脚	(17.8)	10.4	7.7	(1170.0)	土製	裾広がり。中空で、断面ドーナツ状。側面へラ削り。	P L 251
1725	支脚	18.4	8.0	1.2	1030.0	土製	裾広がり。側面指頭押圧。	P L 251

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
1726	刀子	(8.0)	(8.0)	2.1	0.3	—	(13.0)	鉄	刀身部破片。	P L 254
1727	刀子	(5.4)	4.0	0.8	0.3	(1.4)	(2.5)	鉄	片闕。茎部木質付着。	

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1052	鈹具	2.85	1.9	0.8	4.8	銅	形状は楕円形。	P L 257

第454号住居跡（第495・496図）

位置 調査区域の中央部西寄り，E 4 a0区。

重複関係 第455号住居跡の上部に構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.87m，短軸2.76mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は10～17cmで，ほぼ直立する。

床 住居の西半分はわずかに高まりがみられ，ベッド状を呈している。中央部が踏み固められている。ベッド状の高まりの部分は地山を床とし，第455号住居跡の上に構築した部分は，ローム・焼土・炭化物混じりの暗褐色土で埋土をして貼床としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ145cm，袖部最大幅119cmである。袖部は山砂を混ぜた粘土で構築されている。煙道部は，北壁を幅72cm，奥行き59cmにわたり，逆U字形に掘り込んでおり，煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床面は北壁ラインから外側に位置し，径30cmの円形で，地山を利用している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・灰微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子・灰中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒微量 | | |

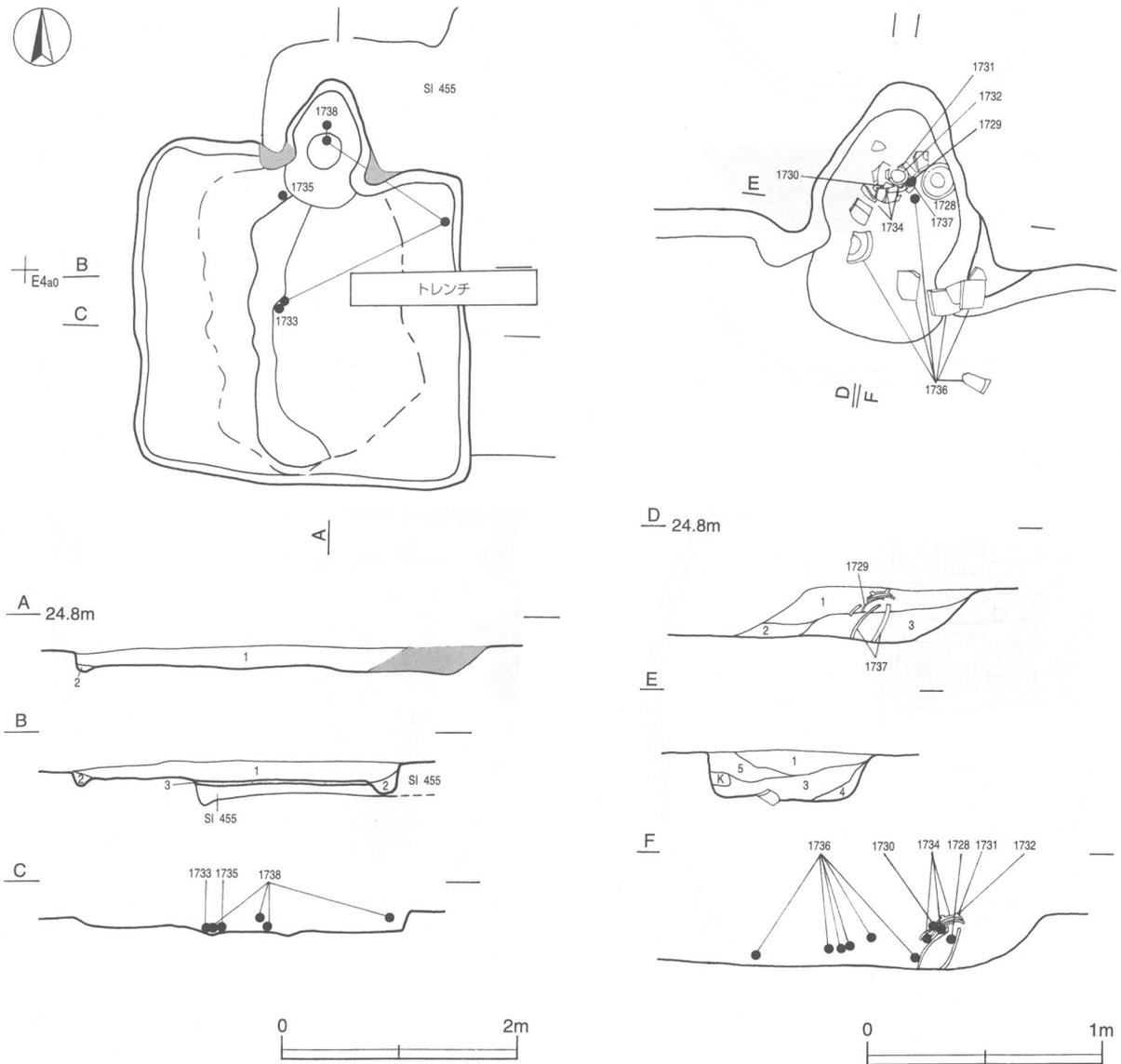
覆土 2層からなる。第2層は壁溝の覆土である。第3層は貼床である。覆土は壁溝の覆土を除くと単一層なので、自然堆積か人為堆積かは不明である。

土層解説

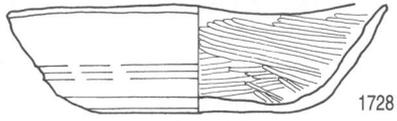
- | | | | |
|-------|-------------------------------|------|--|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子微量 (貼床) |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片281点, 須恵器片78点, 灰釉陶器片1点が出土している。図示した遺物は大部分が竈内及び竈周辺から出土している。第496図1728・1730～1733は土師器坏である。1728は竈内の東の内壁から伏せられた状態で出土している。1735は土師器高台付皿で, 焚口付近から出土している。1728・1730～1732の土師器坏は底部に回転ヘラ削り調整が施され, 胎土には白色粒子を含んでいる。それに対し, 1733は底部及び体部下端は手持ちヘラ削り調整で, 胎土には雲母を多く含んでいる。1737は器壁の薄い格子目叩きの須恵器甕体部片で, 支脚として使用されており, その上には, 1729・1734の高台付椀が逆位の状態で載せられている。1736の土師器甕は, 東袖部分から出土しており, 火熱を受けている。1738の土師器小形甕は, 支脚に転用されていた1737の北側から出土している。

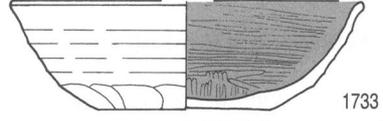
所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀に近い9世紀後葉と推定される。



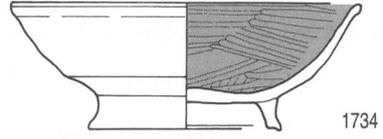
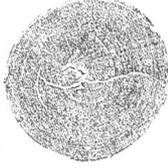
第495図 第454号住居跡実測図



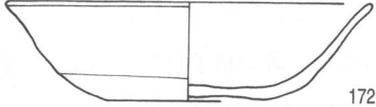
1728



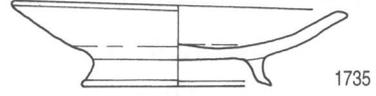
1733



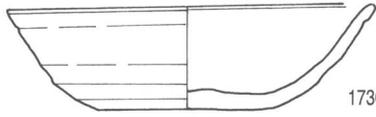
1734



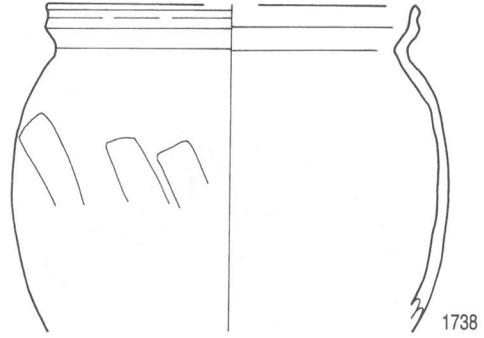
1729



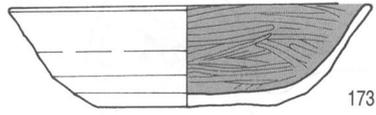
1735



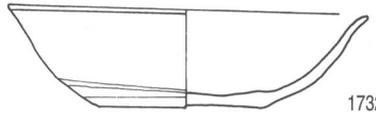
1730



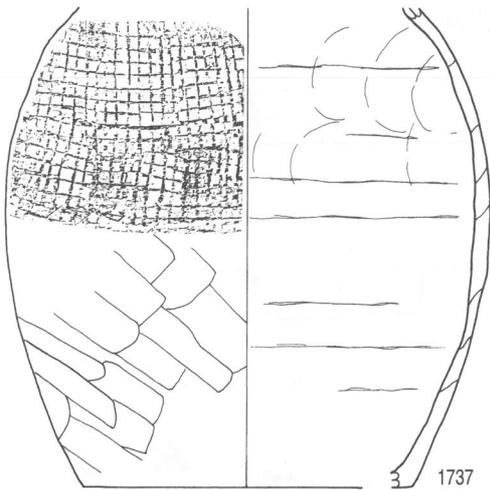
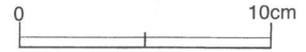
1738



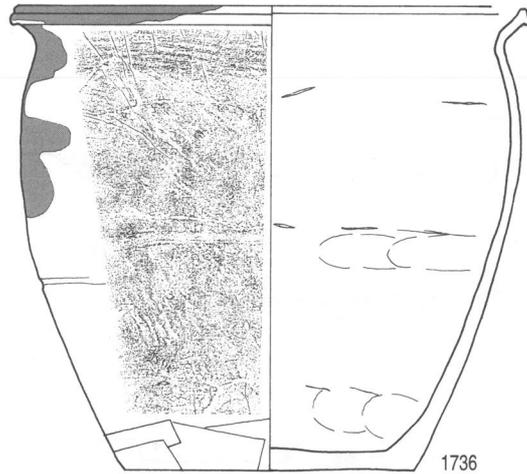
1731



1732



1737



1736



第496图 第454号住居跡出土遺物実測図

第454号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第496図 1728	坏 土師器	A 15.0 B 4.4 C 7.5	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎し、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色普通	100% P L232
1729	高台付碗 土師器	A 14.4 B 4.0 C 6.1	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎し、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 橙色普通	60% P L232
1730	坏 土師器	A 14.6 B 4.2 C 6.9	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎し、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。底部に回転ヘラ切り痕を残す。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色普通	90% P L232
1731	坏 土師器	A 14.3 B 4.1 C 6.9	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾し、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色普通	60% P L232
1732	坏 土師器	A 14.2 B 4.0 C 6.4	平底。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部で弱く外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・赤色粒子 橙色普通	60% P L232
1733	坏 土師器	A [13.8] B 4.3 C [6.8]	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色普通	50%
1734	高台付碗 土師器	A 13.8 B 5.0 D 7.7 E 1.3	底部と体部の境は不明瞭。体部は丸みをもって立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状である。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・白色粒子にぶい橙色普通	70% P L232
1735	高台付皿 土師器	A 13.5 B 3.4 D 7.6 E 1.0	体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。高台はハの字状に端部で反り、接地面は細い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色普通	100% P L232
1736	甕 土師器	A 26.1 B 24.3 C 15.1	体部は外傾しながら立ち上がり、上部でわずかに内彎する。頸部はくの字状に屈曲する。口縁端部は上下につまみ出される。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面斜位の平行叩き後、ナデ。体部下端横位の手持ちヘラ削り、体部内面指頭押圧後、ナデ。底部多方向のヘラ削り。内面輪積痕あり。	砂粒・白色粒子にぶい橙色良好	50% P L232 二次焼成 口縁部・体部外面煤付着
1737	甕 須恵器	B (25.0) C [17.0]	体部片。体部は内彎する。体部中位に最大径をもつ。	体部外面上半格子目叩き、下半斜位の手持ちヘラ削り。体部内面指頭押圧後、ナデ。内面輪積痕。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色不良	40%
1738	小形甕 土師器	A [14.6] B (13.1)	底部欠損。体部は丸みをもつ。頸部はくの字状に折れ、口縁端部は長くつまみ上げられる。	口縁部横ナデ。体部外面縦位の手持ちヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒子にぶい橙色普通	20% P L232 二次焼成

第455号住居跡 (第497・498図)

位置 調査区域の中央部の西寄り、E 4 j0区。

重複関係 本跡の上部には第454号住居が構築されており、本跡が古い。

規模と平面形 一辺が3.54mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は20~25cmで、ほぼ直立する。

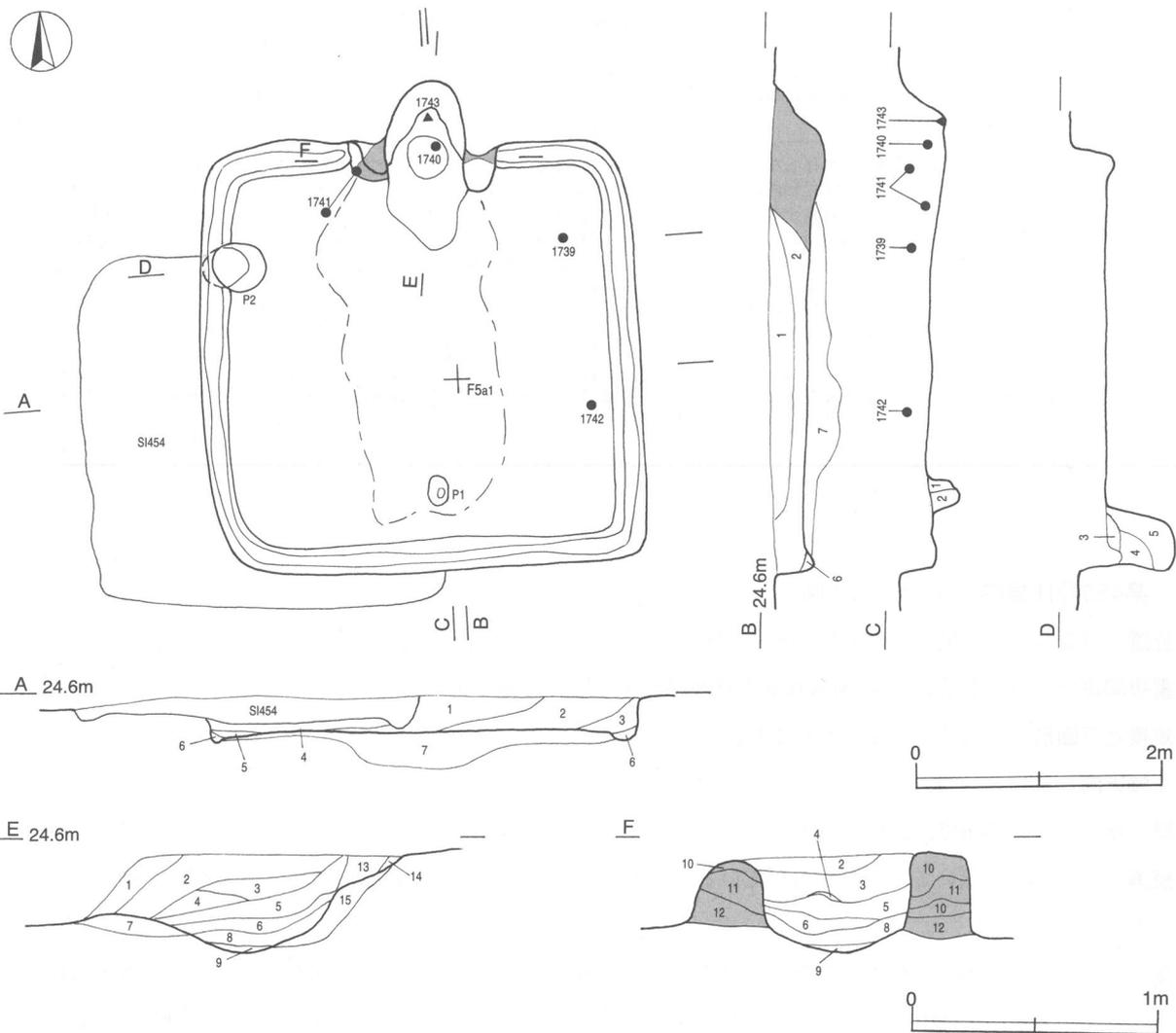
壁溝 竈の部分を除いて、壁下を巡っている。上幅12~21cm、下幅6~14cm、深さ4~7cmで、断面はU字状である。

床 ほぼ平坦で、出入口付近から竈付近にかけてが踏み固められている。中央部が貼床で、その外周は地山を床としている。貼床は中央部が確認面から48~60cmの深さで長径160cm、短径130cmの不整楕円形に掘込まれて、ロームブロック・焼土・炭化物が混じった褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ138cm、袖部の最大幅は121cmである。西袖部は黄褐色粘土と砂粒混じりの暗褐色土を交互に積み重ねている。煙道部は北壁を幅100cm、奥行き48cmにわたり三角形に掘り込んでおり、火床部は径75cm円形で、14cmほどくぼんでいる。煙道は60度の傾きで立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|---------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子黄褐色粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物・砂粒微量 | 10 灰黄褐色 | 黄褐色粘土中ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量 |
| 4 灰黄褐色 | 黄褐色粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、ローム粒子・焼土大ブロック・炭化物・黄褐色粘土小ブロック微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・砂粒微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物黄褐色粘土小ブロック微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土中ブロック少量、ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・黄褐色粘土小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量（掘り方） | 14 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 15 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物微量（掘り方） |



第497図 第455号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径25cm, 短径18cmの楕円形, 深さ25cmで, 南壁際中央部に位置するもので, 出入口施設に伴うピットと思われる。P2は西壁の北寄りに位置し, 径40cmの円形, 深さ55cmで, 斜めに掘り込まれており, 底面は壁外に位置している。P2の性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・灰少量, ローム大ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量 | | |

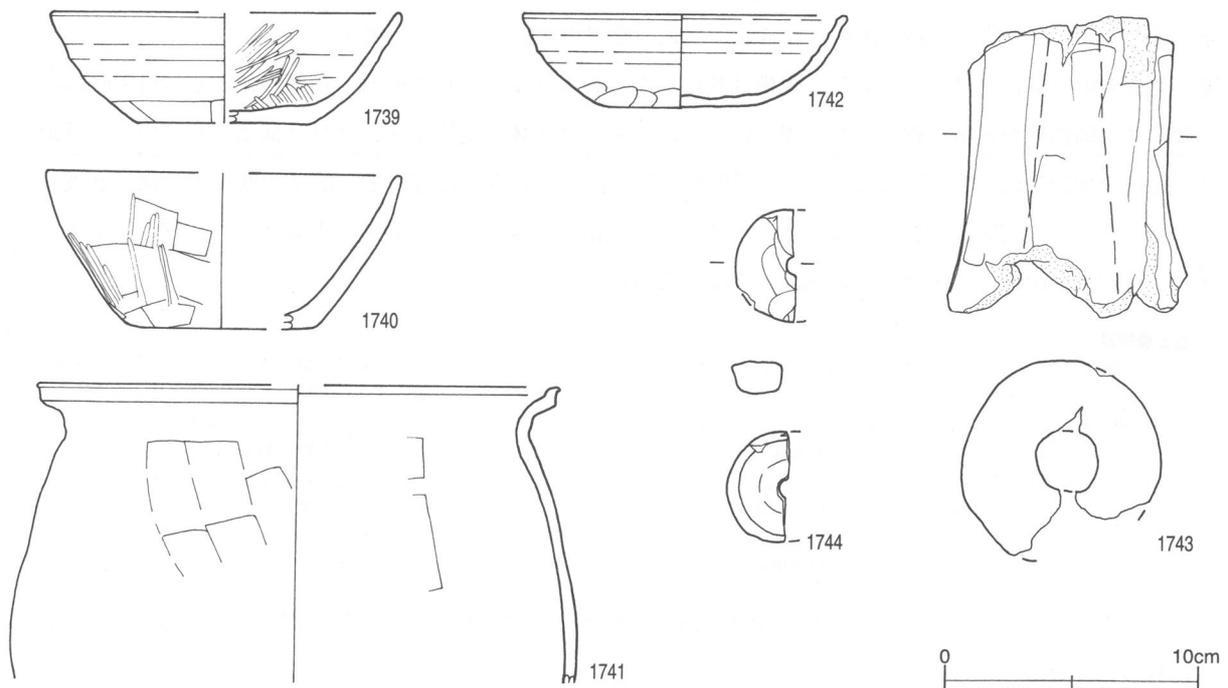
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材微量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 7 褐色 | ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (貼床) |

遺物 土師器片290点, 須恵器片127点, 灰釉陶器片1点, 土製品1点 (支脚), 石製品1点 (紡錘車) が出土している。遺物は覆土中層から上層に多く, 図示した遺物も同様である。第498図1739の土師器坏は北東コーナー部から, 1740の土師器坏は竈の覆土から, 1741の土師器甕は西袖付近から, 1742の須恵器坏は東壁際から, それぞれ出土している。このうち, 1740は器形も, 調整技法も当該期のものとしては特異なものであり, 混入品と思われる。1743の土製支脚は竈に据えられた状態で出土している。1744の石製紡錘車は南東部の覆土から出土したものである。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と推定される。



第498図 第455号住居跡出土遺物実測図

第455号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第498図 1739	坏 土師器	A [13.9] B 4.5 C [6.8]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は丸い。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部一方手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	40% P L 232
1740	坏 土師器	A [13.8] B 6.2 C [7.1]	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は細くすぼむ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・雲母にぶい赤褐色普通	25%
1741	甕 土師器	A [20.6] B (11.9)	体部は長胴形を呈し、頸部はコの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石明赤褐色良好	10% P L 233
1742	坏 須恵器	A [12.9] B 3.9 C [5.9]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・白色粒子灰黄色普通	40% P L 232

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
1743	支脚	(12.1)	(9.5)	8.0	(530.0)	土製	裾広がり。中空で、断面ドーナツ状。側面ヘラ削り。	

遺物番号	器種	計測値					石材	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
1744	紡錘車	(4.4)	(3.8)	1.3	0.7	(19.8)	粘板岩	側面擦痕有り。	P L 252

第456号住居跡（第499～501図）

位置 調査区域の西北部，D 4 d7区。

規模と平面形 長軸2.80m，短軸2.62mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は24～34cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて壁下を巡っている。上幅9～14cm，下幅5～9cm，深さ5cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ98cm，袖部の最大幅は110cmである。袖部には土師器甕が逆位で据えられ，周りにロームブロック主体の褐色土を貼り付け構築されている。煙道部は，北壁を幅105cm，奥行き65cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部は30度，上半部は20度の傾きで立ち上がる。火床部の掘り方は住居と一体化し，地山を火床面としている。火床面は，北壁ライン上に位置し，径23cmの円形で，床面から8cmほどくぼんでいる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗灰色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 7 暗灰色 | ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 1か所。P 1は径30cmの円形，深さ35cmで南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 2 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量 |
|-------|------------------------------|------|---------------------------------------|

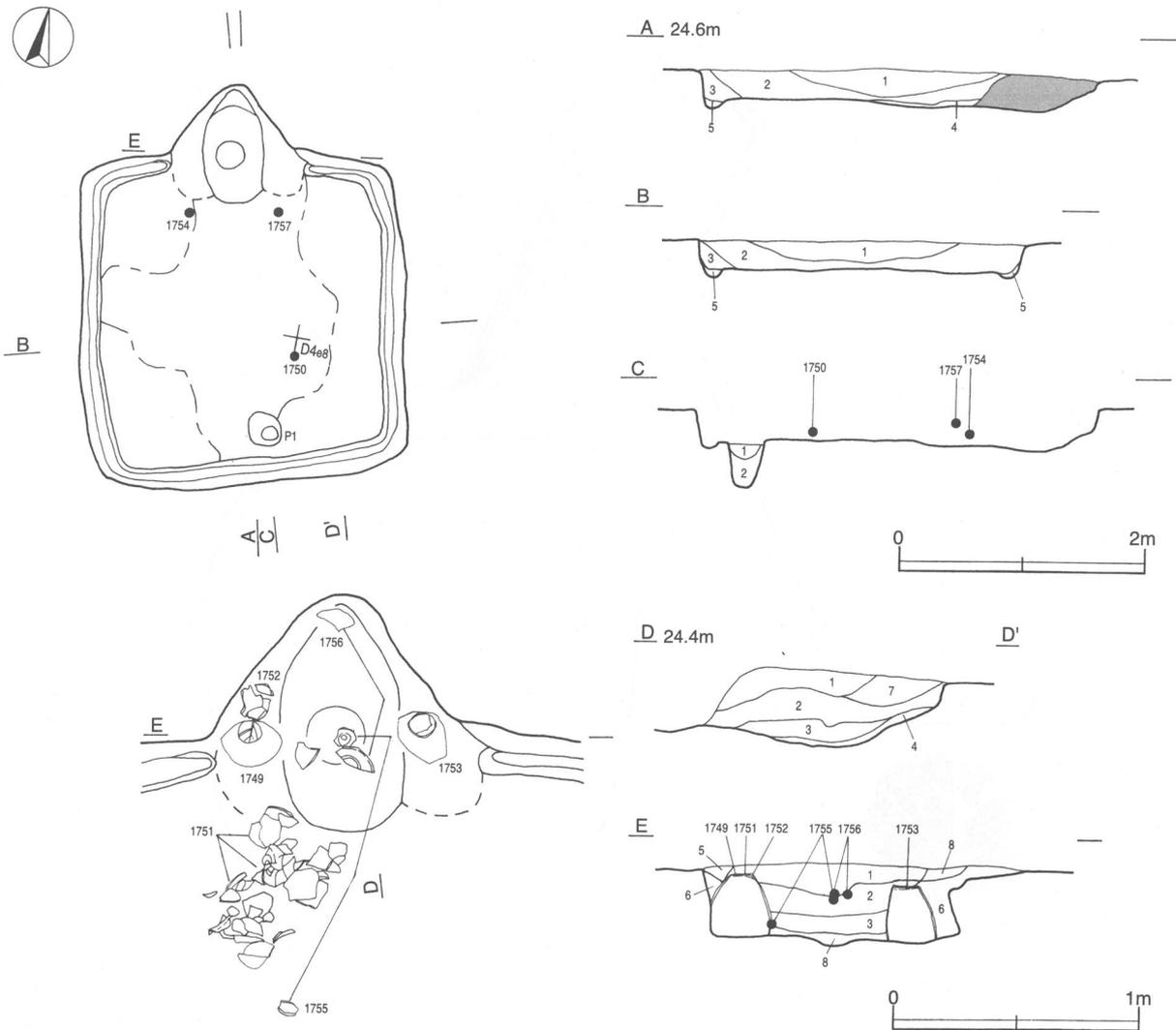
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

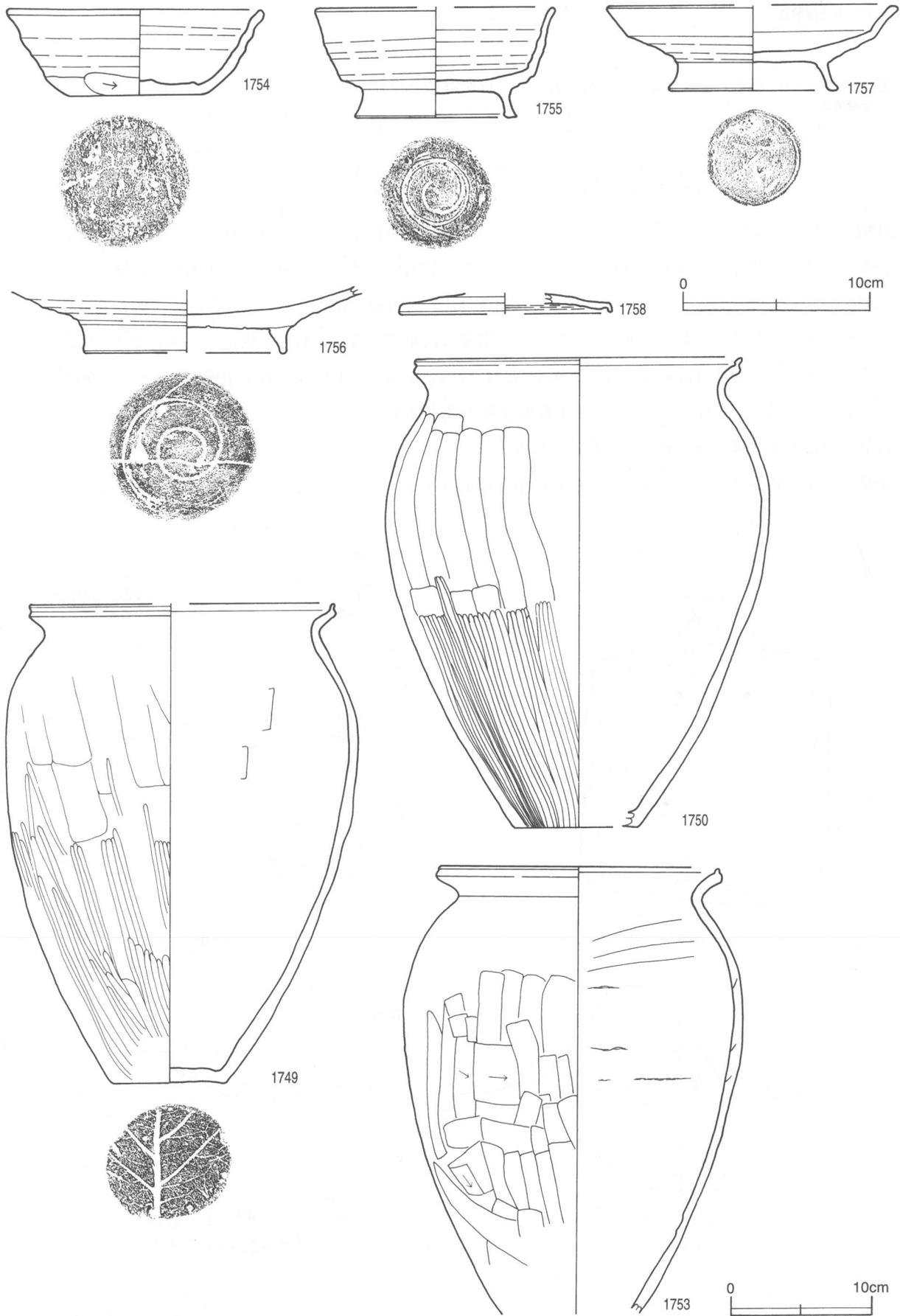
- | | | | |
|-------|---|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| | | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |

遺物 土師器片353点, 須恵器片53点が出土している。第500図1749・1753は袖部材として使用されていた土師器甕で、逆位の状態で、西袖・東袖に据えられていた。1751の土師器甕は竈内の火床面から、横位でつぶれた状態で出土しており、天井のブリッジとして使用されていた可能性が考えられる。1752の土師器甕は西袖の竈材として使用されていたものである。1750の土師器甕は南東部の覆土下層から横位でつぶれた状態で出土している。1754の須恵器坏は竈前面の覆土下層から、1757の須恵器盤は竈前面の覆土中層からそれぞれ出土している。1755の須恵器高台付坏, 1756の須恵器盤は竈の煙道部から出土しており、いずれも煤が付着している。1758の須恵器蓋は覆土から出土したものである。

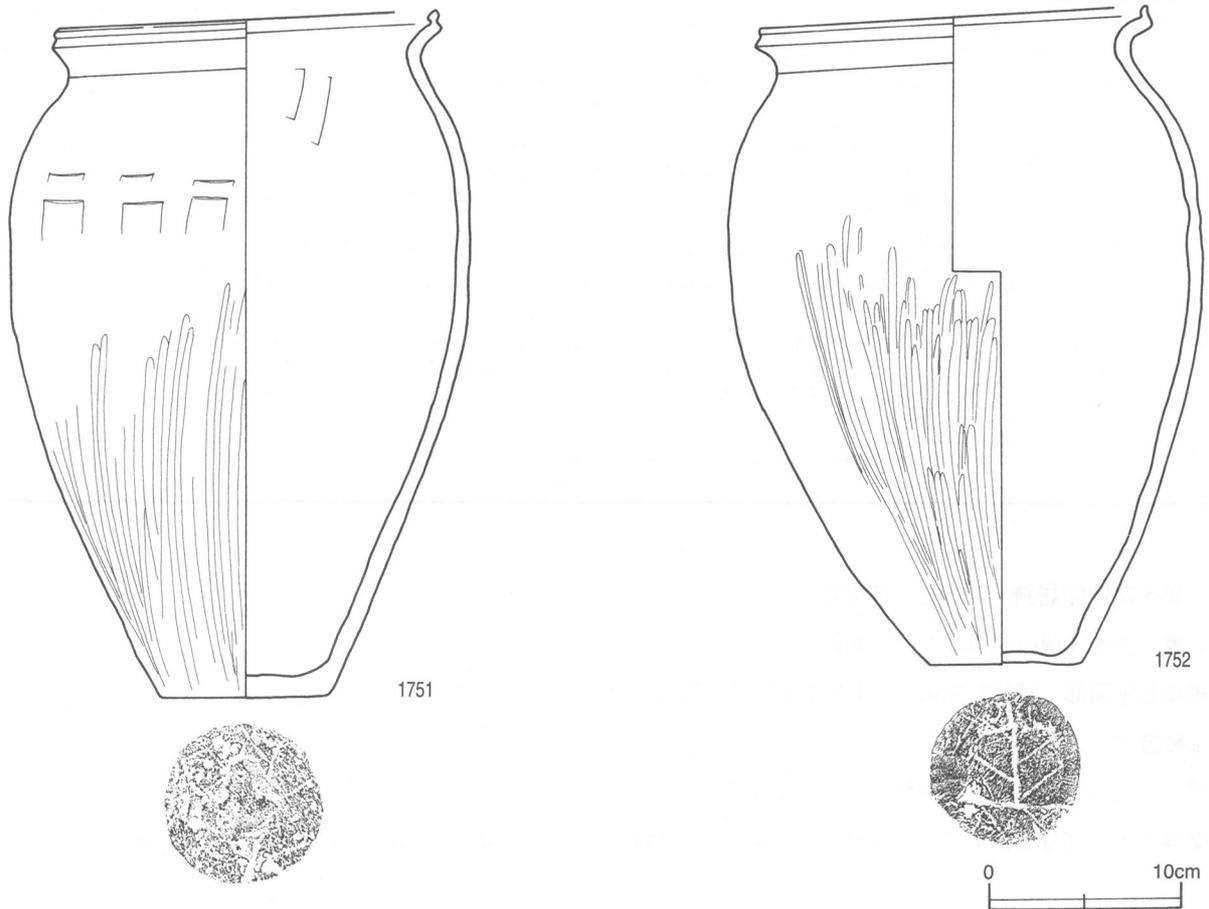
所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀前葉と推定される。



第499図 第456号住居跡実測図



第500图 第456号住居跡出土遺物実測図(1)



第501図 第456号住居跡出土遺物実測図(2)

第456号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第500図 1749	甕 土師器	A [21.3] B 34.0 C 8.0	体部は長胴形を呈し、最大径を上位にもつ。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面上半縦位ヘラ削り、下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部外面木葉痕。	砂粒・長石・小石 にぶい橙色 普通	85% P L 233 西袖材
1750	甕 土師器	A 22.8 B 33.1 C 8.7	体部は長胴形を呈し、最大径を上位にもつ。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面上半縦位のヘラ削り後ナデ、下半縦位のヘラ磨き。内面磨減。	砂粒・長石 橙色 普通	95% P L 233
第501図 1751	甕 土師器	A 19.5 B 35.7 C 8.8	体部は長胴形を呈し、最大径を上位にもつ。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面上半ヘラ当て痕、下半縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部雑なヘラナデ。	砂粒・雲母・小石 明赤褐色 普通	80% P L 233 天井部ブリッジ材
1752	甕 土師器	A 20.4 B 34.4 C 7.8	体部は長胴形を呈し、最大径を上位にもつ。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き、内面磨減。底部木葉痕。	砂粒・雲母・小石 にぶい赤褐色 普通	80% P L 233 西袖材
第500図 1753	甕 土師器	A 19.8 B (31.8)	体部は長胴形を呈し、最大径を上位にもつ。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	80% P L 233 東袖材

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第500図 1754	坏 須恵器	A 13.9	平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部にいたる。器壁は厚い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部1方 向のヘラ削り。	粗い、雲母・長石 褐灰色 不良	95% PL232
		B 4.5				
		C 7.2				
1755	高台付坏 須恵器	A [12.6]	底部と体部の境に稜をもつ。体部は 外傾して立ち上がり、口縁部にいた る。高台はハの字状で、接地面で開 く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端・底部回転ヘラ削り後、高 台貼り付け、ナデ。	粗い、雲母・長石 灰色 普通	70% PL233
		B 5.9				
		D 8.6				
		E 1.5				
1756	盤 須恵器	B (4.2)	口縁部欠損。体部は大きく外方に開 く。高台はほぼ垂下し、接地面が細 くなる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	粗い、雲母・長石 灰黄色 普通	60% PL233
		D [10.8]				
		E 1.4				
1757	盤 須恵器	A [15.4]	体部は外方に開き、屈曲して口縁部 にいたる。高台は高く、ハの字状に ふんばり、端部が厚くなる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端・底部回転ヘラ削り後、高 台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70% PL233
		B 4.6				
		D 8.9				
		E 1.5				
1758	蓋 須恵器	A [11.1]	口縁部の破片。口縁部は短く屈曲す る。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色、良好	5%
		B (1.1)				

第457号住居跡（第502・503図）

位置 調査区域の北西部，D 3 d0区。

規模と平面形 長軸3.56m，短軸3.42mの方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は9～11cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～16cm，下幅4～11cm，深さ3～5cmで，断面はU字形である。

床 床面は，中央部がやや高く，踏み固められている。中央部は地山を床とし，その外周である各コーナー部は貼床である。貼床は各コーナーに確認面から深さ40～50cmの不整形の土坑状に掘り込み，ロームブロックを含む褐色土を埋土して構築されている。土層断面図中，第5層がこの土層である。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ83cm，袖部最大幅147cmである。袖部は地山を山形に掘り残し，周りに山砂を混ぜた粘土を貼り付けて構築されている。煙道部は北壁を幅60cm，奥行き15cmほど掘り込んでおり，壁外への掘り込みはほんのわずかである。煙道は38度の傾きで立ち上がる。焚口部は確認面から20cmの深さで，壁の内側に長径80cm，短径65cmの楕円形に掘り込み，ロームブロックを埋土してつくっている。火床面は，北壁ラインの内側に位置し，径25cmの円形で床面から10cmほどくぼんでいる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 10 黄褐色 | 粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | 粘土粒子中量，炭化粒子・砂粒少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒・灰微量 | 13 暗褐色 | 粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 1か所。P 1は径40cmの円形，深さ18cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

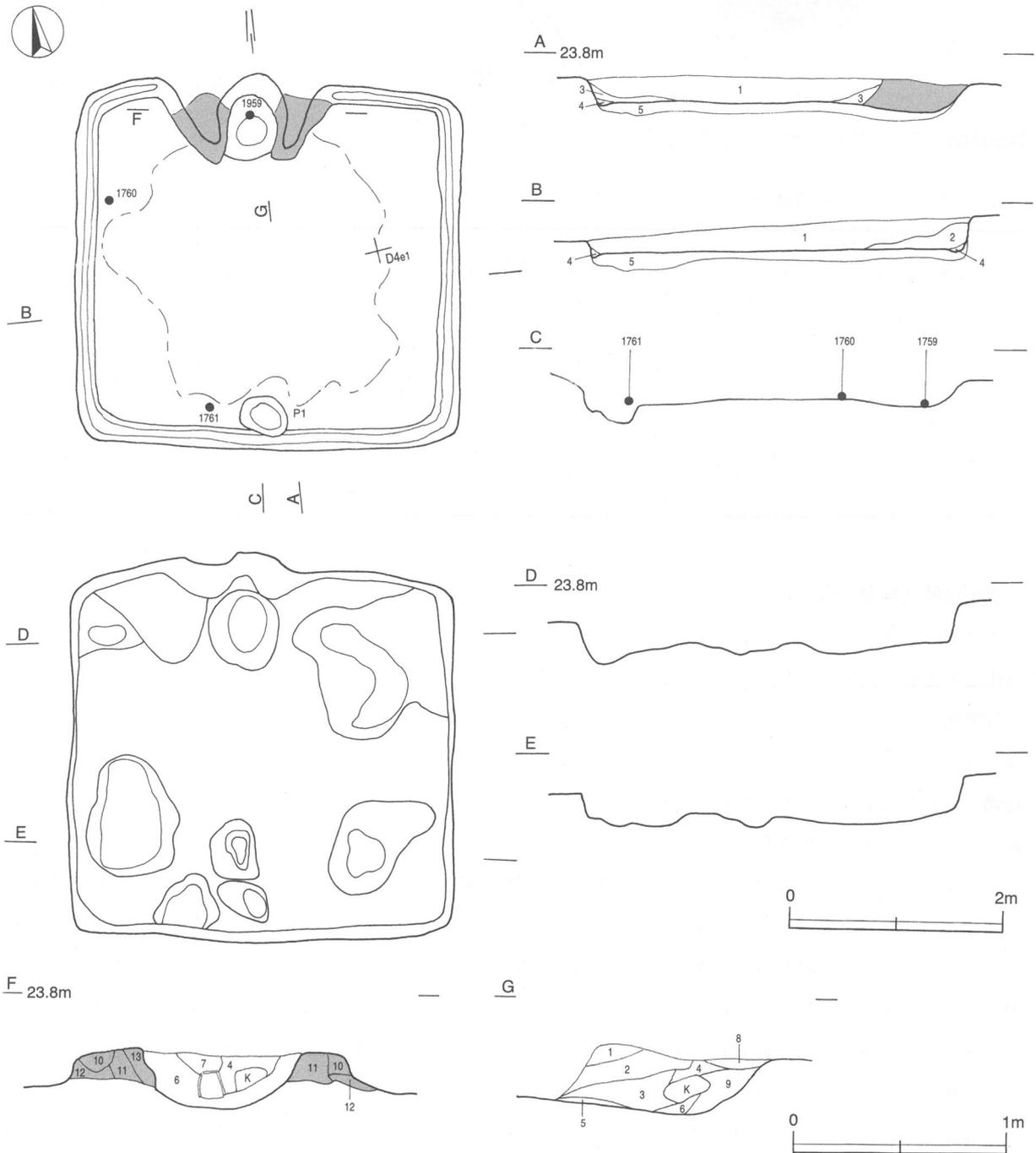
覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と思われる。

土層解説

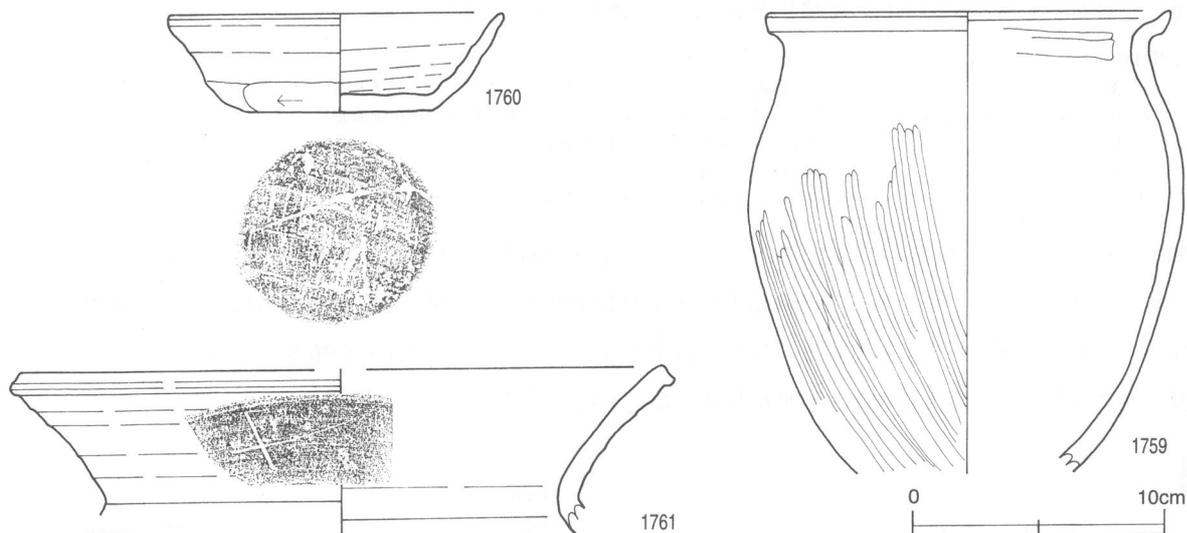
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (貼床)

遺物 土師器片90点, 須恵器片70点が出土している。第503図1759の土師器小形甕は逆位で、支脚として竈に据えられた状態で出土している。1760の須恵器坏は中央部西壁寄りの覆土下層から、1761の須恵器甕は中央部南壁寄りの覆土中層から出土している。1761の頸部外面には「×」のヘラ記号が施されている。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と推定される。



第502図 第457号住居跡実測図



第503図 第457号住居跡出土遺物実測図

第457号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第503図 1759	小形甕 土師器	A 16.0 B (18.5)	体部は長胴形を呈し、上位に最大径をもつ。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色普通	60% PL234
1760	坏 須恵器	A 13.2 B 3.9 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・角礫 灰黄褐色、不良	80% PL233
1761	甕 須恵器	A [25.1] B (6.7)	口縁部片。口縁部は外反し、端部は下方につまみ出され、断面は三角形を呈する。口縁端部に平坦面有り。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・白色粒子 灰色 良好	5% 頸部外面の焼成前ヘラ記号「+」

第458号住居跡（第504～506図）

位置 調査区域の北西部，D3c0区。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.77mの方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は20～30cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて壁下を巡っている。上幅10～24cm，下幅5～14cm，深さ5cmで、断面はU字形である。

床 床面は、わずかに壁際付近が低くなっているものの、全体としてはほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。中央部、北東・北西コーナー部は貼床で、その他の部分は地山を床としている。貼床は支柱穴の内側が確認面から45cmほどの深さに、北東・北部コーナー部では確認面から30～50cmの深さの楕円形に掘り込み、ロームブロック混じりの暗褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部まで長さ123cm，袖部最大幅154cmである。袖部は地山を山形に掘り残し、砂質粘土を貼り付けて構築されている。煙道部は、北壁を幅50cm，奥行き17cmの半円形に掘り込んでおり、壁外への掘り込みはわずかである。煙道は48度の傾きで立ち上がる。焚口部・火床部は確認面から45cmの深さで、壁内に長径83cm，短径65cmの楕円形に掘り込み、焼土・粘土粒子・炭化粒子混じりの暗赤褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの内側に位置する。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色	炭化物・砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量	12 黒褐色	炭化粒子・砂質粘土小ブロック中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
3 暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 (掘り方，住居土層断面図第13層と同一)
4 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量 (掘り方，住居土層断面図第14層と同一)
5 褐色	砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量	15 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 (掘り方，住居土層断面図第15層と同一)
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	16 赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量 (掘り方，住居土層断面図第16層と同一)
7 褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・砂粒微量	17 褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量 (掘り方，住居土層断面図第11層と同一)
8 黄褐色	砂質粘土中ブロック多量，焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量		
9 黒褐色	炭化粒子・砂質粘土中ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量，焼土小ブロック微量		
10 暗褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒少量，ローム小ローム粒子微量		

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は長径51～56cm，短径40～47cmの楕円形，深さ60～67cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。P5は長径65cm，短径60cmの不整形，深さ23cmで，南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量微量		

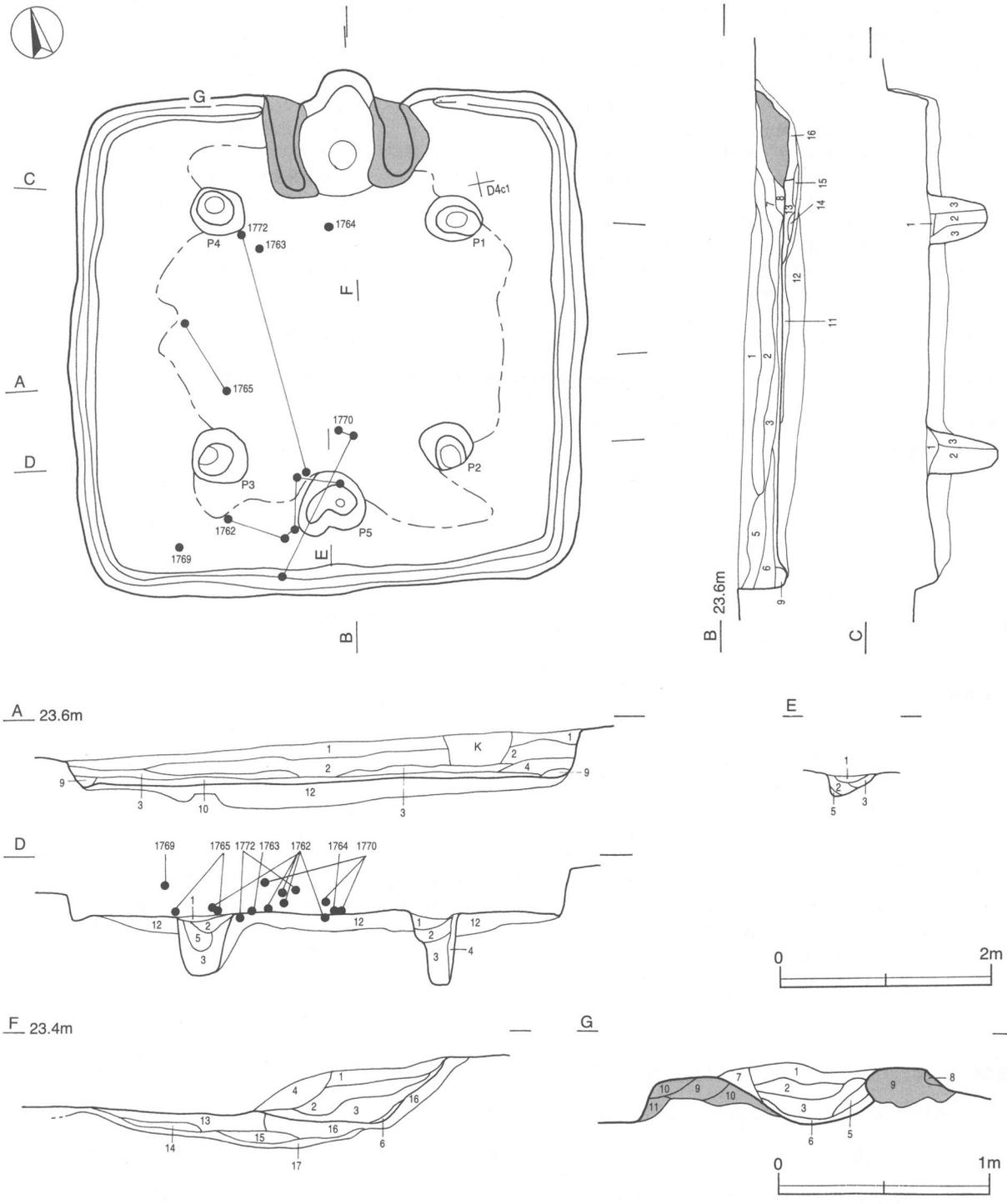
覆土 10層からなる。不規則な堆積状況をしていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

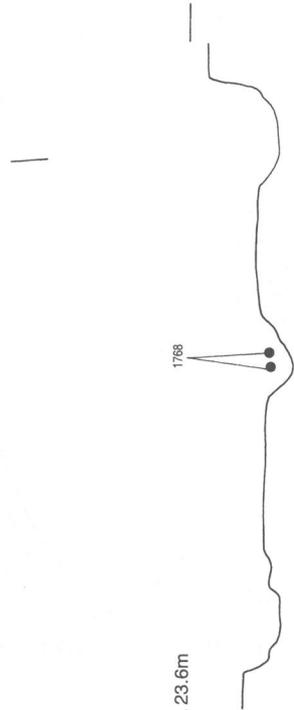
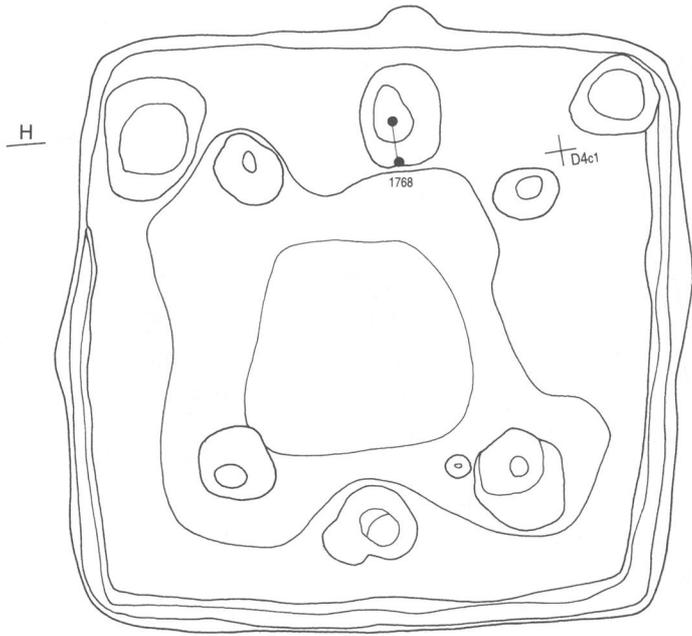
1 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	10 褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒化粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	11 褐色	竈土層断面図第17層と同一
4 黒褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量 (貼床)
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	13 黒褐色	竈土層断面図第13層と同一 (竈掘り方)
6 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子微量	14 暗赤褐色	竈土層断面図第14層と同一 (竈掘り方)
7 褐色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	15 暗赤褐色	竈土層断面図第15層と同一 (竈掘り方)
8 黒褐色	焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量	16 赤褐色	竈土層断面図第16層と同一 (竈掘り方)
		17 褐色	竈土層断面図第17層と同一 (竈掘り方)

遺物 土師器片191点，須恵器片145点が出土している。第506図1762の土師器甕は出入り口付近の床面から出土した破片が接合したものである。1763・1764の土師器甕は，前者はP4付近の床面から，後者は竈前面の床面からそれぞれ出土している。1765の須恵器坏は中央部西寄りの床面から，1766の須恵器坏，1771の須恵器甕は南東部の覆土から，1767の須恵器高台付坏は南西部の覆土から出土している。1768・1769は須恵器蓋で，それぞれ竈内，南西コーナー部の覆土上層から出土している。1770の須恵器高盤は出入口付近の覆土上層から出土した破片と床面から出土した破片が接合したもので，1772の須恵器甕はP4付近の上層から出土した破片と床面から出土した破片が接合したものである。1771の体部外面には横位の平行叩きが，1772は体部外面に擬格子目叩きが施されている。

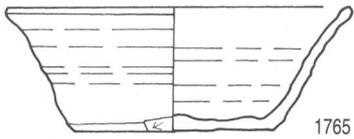
所見 本跡の出土土器のなかには、床面から出土した破片と覆土上層から出土した破片が接合しているものがあることから、本跡は短期間のうちに埋め戻されたことが想定できる。本跡の時期は出土土器から9世紀前葉と推定される。



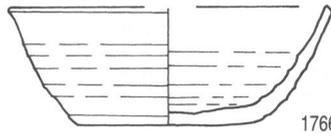
第504図 第458号住居跡実測図



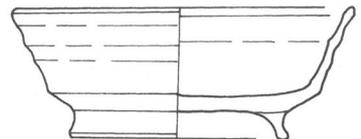
H 23.6m



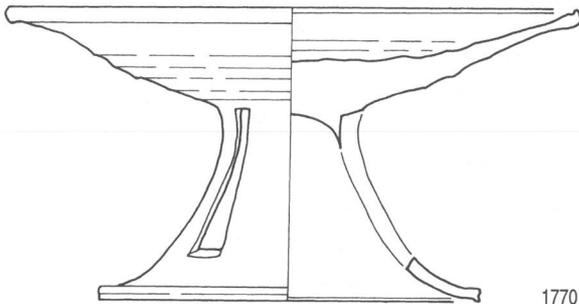
1765



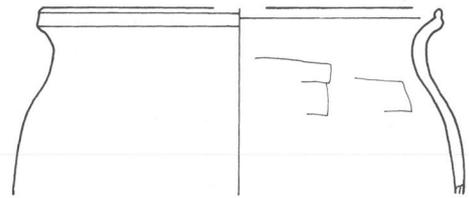
1766



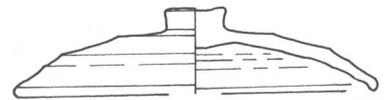
1767



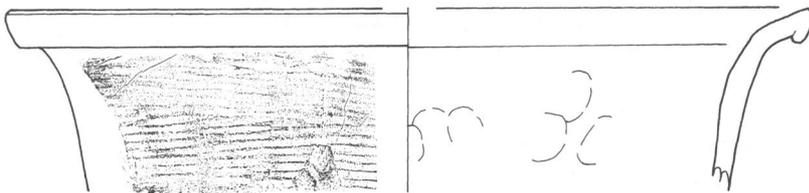
1770



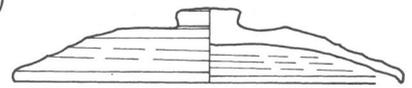
1763



1769



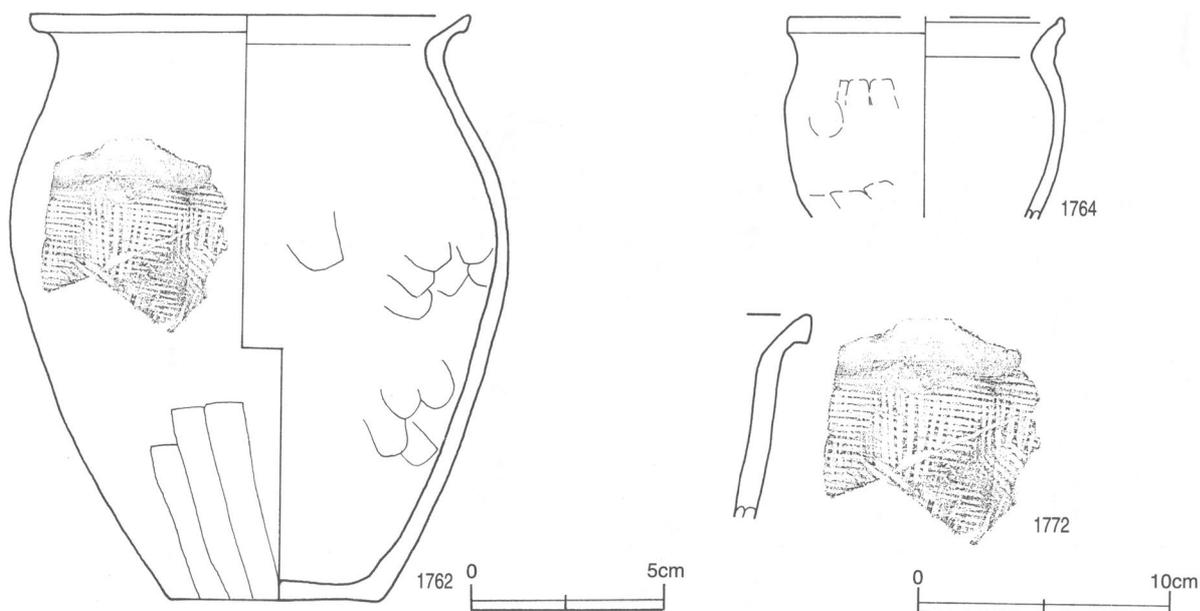
1771



1768



第505图 第458号住居跡・出土遺物実測図



第506図 第458号住居跡出土遺物実測図

第458号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第506図 1762	甕 土師器	A 22.6 B 30.8 C 10.9	体部は緩やかに立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上下に短くつまみみ出されている。	口縁部横ナデ。体部外面下半縦位のヘラ削り、内面指頭押圧後、ナデ。底部外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・小石 明赤褐色、普通	50% P L234
第505図 1763	甕 土師器	A [15.8] B (7.5)	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられ、内面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・小石 明赤褐色、普通	10% P L233
第506図 1764	小形甕 土師器	A [10.8] B (8.1)	底部欠損。体部は丸みをもち、口縁部は短く外反し、端部はつまみ上げられる。	口縁部横ナデ。体部外面指頭押圧、内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	20% P L233
第505図 1765	坏 須恵器	A [13.6] B 4.9 C 6.8	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反し、端部は肥厚する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向の削り。	砂粒・長石・小石 灰色 普通	50% P L233
1766	坏 須恵器	A [12.5] B 4.7 C 6.8	丸底気味。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	60% P L233
1767	高台付坏 須恵器	A 13.6 B 5.2 D 8.6 E 1.1	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はハの字状である。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母 灰色 普通	50% P L233
1768	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.0 F 2.5 G 0.7	天井部はなだらかで、口縁部は短く屈曲する。つまみはボタン状を呈する。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後、ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色 普通	65% P L233
1769	蓋 須恵器	A [14.2] B 3.5 F 2.5 G 0.9	天井部は丸みをもち、なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後、ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色 普通	30% P L233
1770	高盤 須恵器	A 22.5 B 11.8 D 15.0 E 8.0	盤部は大きく外方に開き、口縁端部はつまみ上げられる。脚部はハの字状に開き、裾部で外反する。裾端部は屈曲し垂下する。脚3か所長方形の透かし。	坏部内・外面ロクロナデ。脚部内・外面ロクロナデ。	粗い、雲母・長石・角礫 灰オリーブ 普通	70% P L233

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第505図 1771	甕 須恵器	A [31.4] B (7.4)	口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。口縁端部は下方につまみだされている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き。体部内面指頭押圧後、ナデ。	砂粒・雲母・長石 浅黄色 普通	10% PL234
第506図 1772	甕 須恵器	B (8.2)	口縁部から体部にかけての破片。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面擬格子目叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色、普通	5%

第459号住居跡（第507図）

位置 調査区域の北西部，D 4 b9区。

重複関係 本跡は第460号住居跡の上に貼床して構築されており，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.47m，短軸3.37mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は6～26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 検出できたのは，南西コーナー壁下から西壁下の部分である。上幅6～13cm，下幅2～9cm，深さ2cmで，断面はU字形である。

床 重複していない西側部分は地山を床面とし，第460号住居跡の上部に構築した部分は，ロームブロックと焼土混じりの褐色土の貼床としている。貼床部はわずかに沈んでいる。

竈 北壁中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ135cm，袖部最大幅は114cmである。袖部は粘土を含む黄褐色土を芯にして，周りに暗褐色土を貼って構築されている。煙道部は北壁を幅95cm，奥行き25cmにわたり半円形に掘り込んでおり，煙道は下半部は30度，上半部は70度の傾きで立ち上がる。火床面は，北壁ライン上に位置し，径25cmの円形で，床面から5cmほどくぼんでいる。

竈土層解説

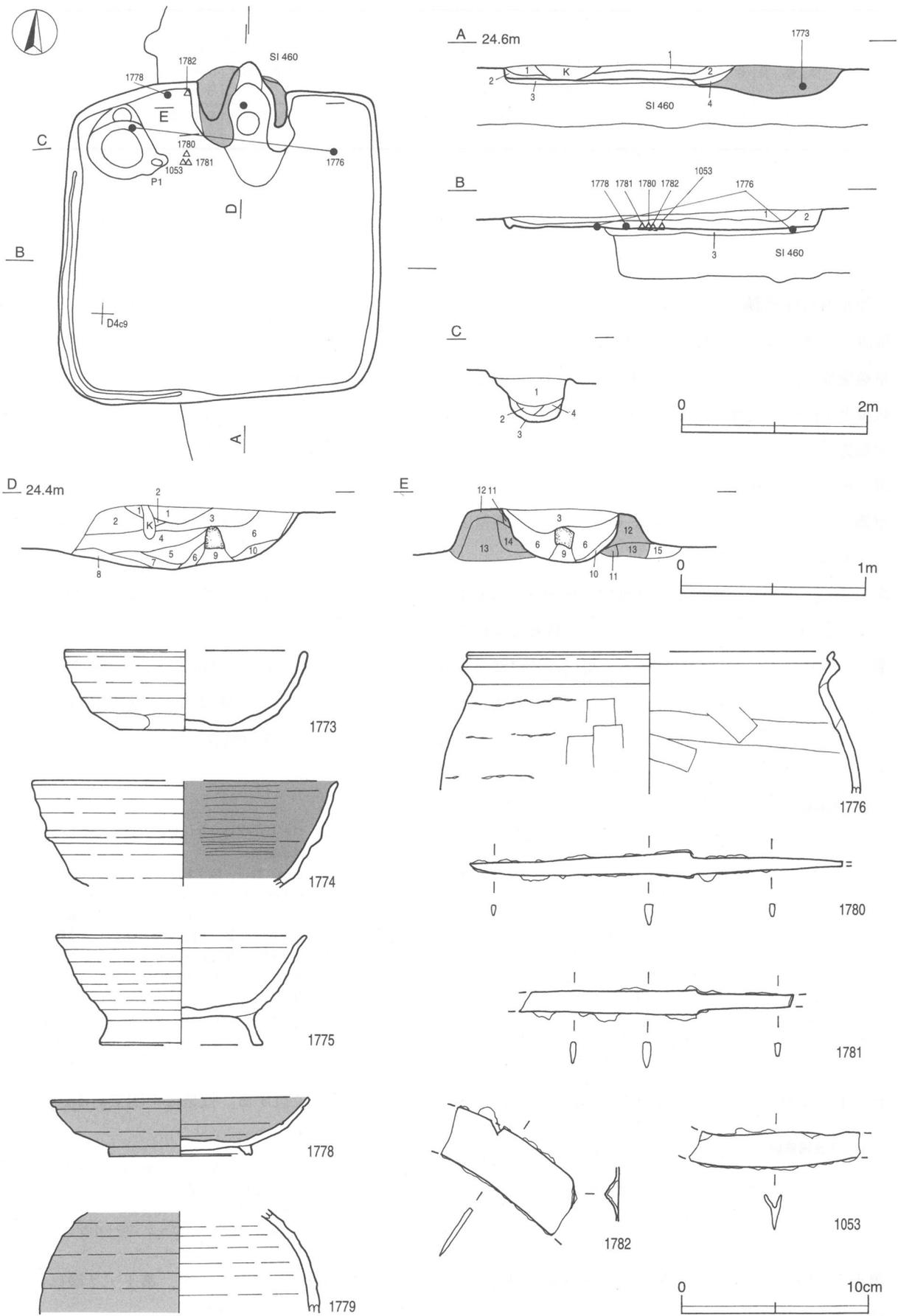
1 黄褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	9 黄褐色	粘土中ブロック多量，焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック小ブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黄褐色	灰中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土粒子少量，粘土小ブロック・砂粒微量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，焼土大ブロック・炭化物・砂粒・灰微量	12 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・砂粒微量
		13 黄褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・炭化物微量
		14 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
		15 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量

ピット 1か所。P 1は径70cmの円形，深さ50cmで，北西コーナー部に位置する。性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 黄褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	4 暗赤褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック微量

覆土 3層からなる。土層断面図中第3層は貼床である。第4層は竈材が流入したもの，第1・2層は自然堆積と考えられる。



第507图 第459号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物少量, ローム小ブロック
微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
(貼床) |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブ
ロック少量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 | 粘土中ブロック中量, 焼土小ブロック・砂粒少量 |

遺物 土師器片339点, 須恵器片122点, 緑釉陶器1点, 灰釉陶器1点, 鉄器4点(刀子2・鎌1・鋤先1)が出土している。土師器高台付椀と思われる第507図1774は覆土上層から, 1775の土師器高台付椀はP1の覆土中から, 1779の灰釉陶器片は南東部の覆土中から, 1773の土師器坏は竈内からそれぞれ出土している。1776の土師器甕は, 西部と東部の床面から出土した破片が接合したものである。1778の緑釉陶器稜皿は北壁際の覆土下層から出土し, この西脇からは1782の鎌が出土している。1053の鋤先, 1780・1781の刀子は北側の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から10世紀前葉と推定される。

第459号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第507図 1773	坏 土師器	A [12.8] B 4.3 C 7.0	平底。体部は内彎して立ち上がり, 丸みを持ち, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向の削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	70% P L 234
1774	高台付椀 土師器	A [16.3] B (5.7)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。口縁端部は内削ぎ状。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き, 黒色処理。体部中位強いロクロ目。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	15%
1775	高台付椀 土師器	A [13.2] B 5.9 D 8.6 E 1.7	底部から体部への立ち上がりは不明瞭。体部は丸みを持ちながら外傾して立ち上がる。口縁部で軽く外反する。高台はハの字状にふんばる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	50% P L 234
1776	甕 土師器	A [19.7] B (7.7)	口縁部片。頸部はくの字状に折れ, 口縁端部はつまみ上げられ, 内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ, ヘラ当て痕。外面輪積み痕。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	10% P L 234
1778	稜皿 緑釉陶器	A [13.8] B 3.1 D 7.7 E 0.6	口縁部一部欠損。体部中位に稜をもつ。口縁部外面に1条の沈線をもつ。高台は短く, 垂下する。接地面に沈線が巡る。	口縁部, 体部内・外面丁寧な磨き。底部回転ヘラ削り後, 高台貼り付け, ナデ。	軟質で灰白色の胎土 オリープ黄色釉 普通	50% P L 234・267
1779	長頸瓶 灰釉陶器	B) 5.5)	肩部破片。	内・外面ロクロナデ。灰オリープ色の施釉。	砂粒が多く粗い。 胎土灰色, 灰オリープ釉, 普通	5%

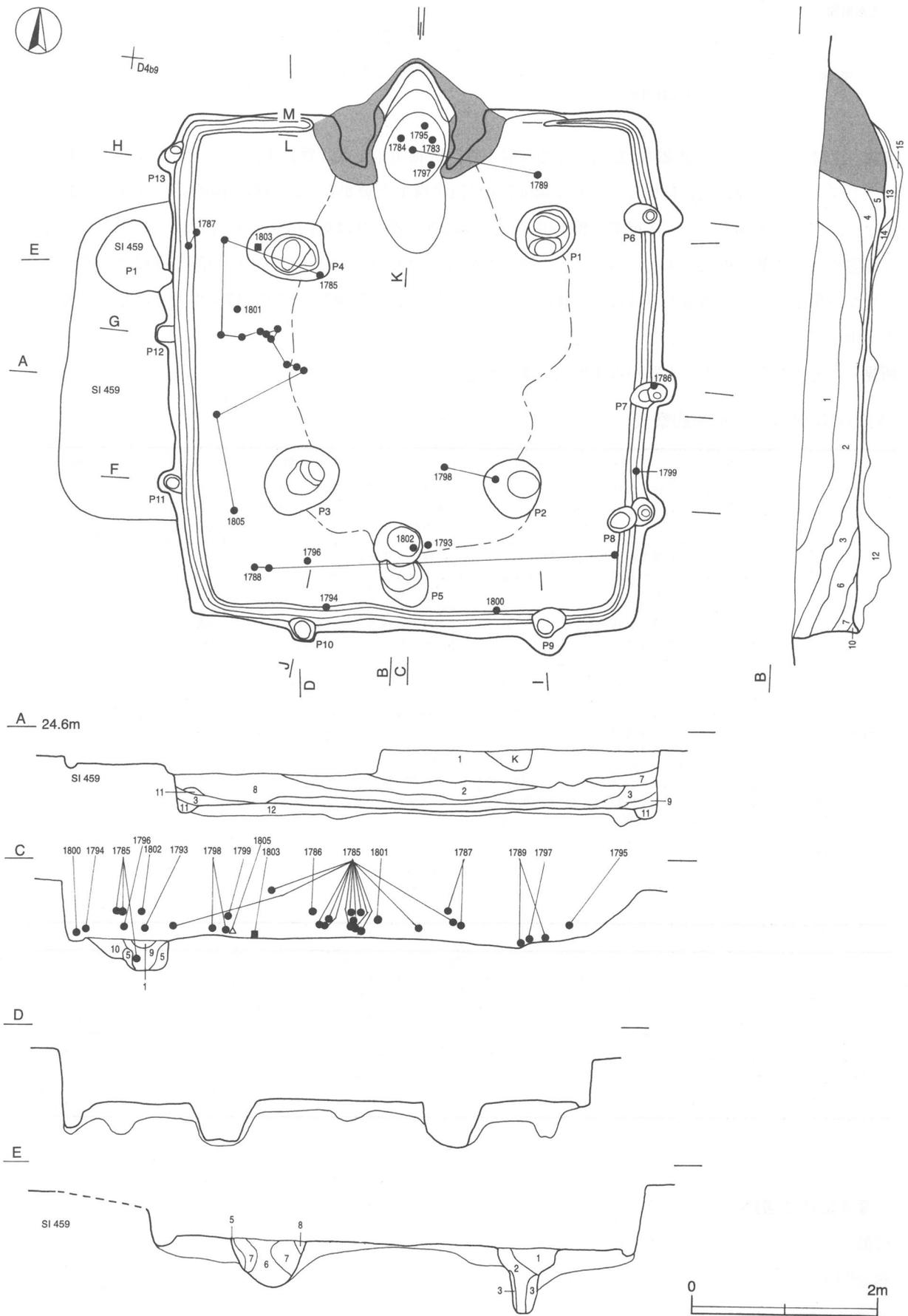
遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
1053	鋤先	(8.9)	—	1.8—	—	—	(22.9)	鉄		P L 254
1780	刀子	20.1	11.9	1.4	0.5	8.2	22.8	鉄	両関。	P L 255
1781	刀子	(14.8)	(9.6)	1.4	0.5	(5.2)	(26.0)	鉄	両関。	P L 254
1782	鎌	(8.1)	—	3.0	0.2	—	(21.9)	鉄		P L 256

第460号住居跡 (第508~512図)

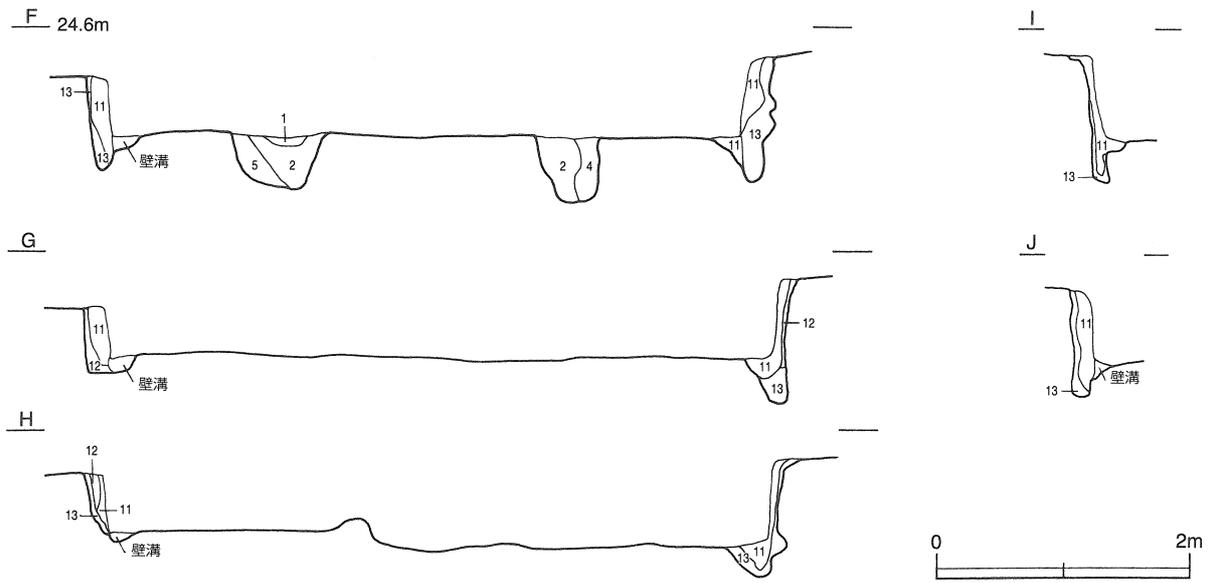
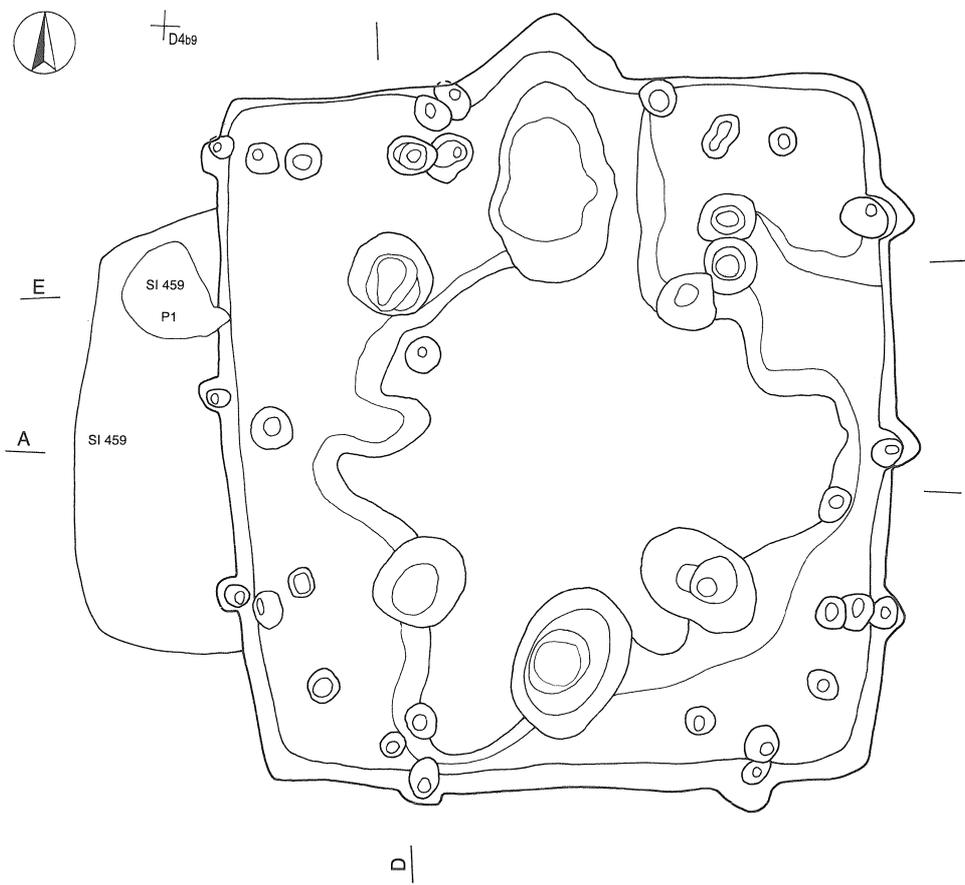
位置 調査区域の北西部, D4b9区。

重複関係 本跡の上部に第459号住居が構築されており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.56m, 短軸5.26mの方形である。

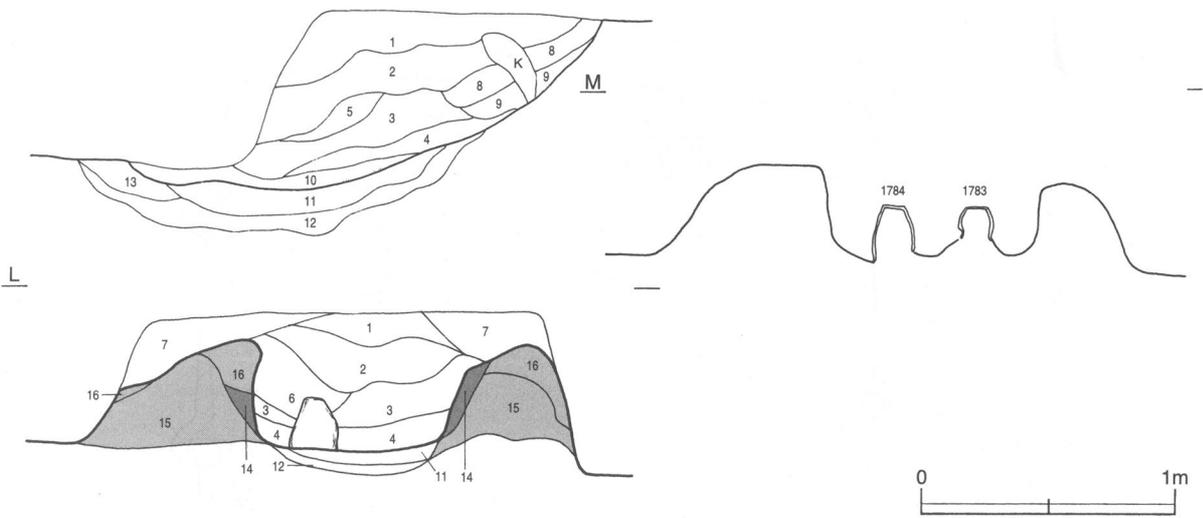


第508图 第460号住居跡実测图(1)



第509图 第460号住居跡実測图(2)

K 24.4m



第510図 第460号住居跡実測図(3)

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は44~69cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて、壁下を巡っている。上幅15~22cm、下幅5~10cm、深さ3~6cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。4か所の主柱穴の内側は地山を床としているが、その外周部は貼床である。貼床は住居の壁際を15~35cmの深さの溝状に掘り込み、ロームブロックを含んだ褐色土を埋土して構築している。

竈 北壁中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ209cm、袖部最大幅203cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。煙道部は、北壁を幅143cm、奥行き60cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部と焚口部は確認面から65~92cmの深さで、壁の内側に長径160cm、短径105cmの楕円形に掘り込み、ロームブロックを含んだ褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|---------|--|
| 1 黄褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黄褐色 | 焼土小ブロック中量、炭化物・砂質粘土粒子少量 | 11 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量(掘り方) |
| 3 褐色 | 焼土中ブロック中量、砂質粘土中ブロック少量 | 12 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量(掘り方) |
| 4 褐色 | 焼土中ブロック・灰中量 | 13 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量(掘り方) |
| 5 黄褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 黄褐色 | 砂質粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 15 黄褐色 | 砂質粘土小ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 16 褐色 | 砂質粘土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・砂粒微量 | | |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | | |

内側に位置し、土師器甕の転用支脚が2個体据えられている。

ピット 13か所(P1~P13)。P1~P3は径60~70cmの円形、深さ50~70cm、P4は長径82cm、短径62cmの楕円形、深さ50cmである。P1~P4は規模や配置から主柱穴と思われる。P5は長径90cm、短径50cmの楕円形、深さ35cmで、南壁際の竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。P6~P11は径25~50cmの円形、深さ10~35cmである。P6~P8は東壁に約20度の角度で、P9~P10は南

ピット土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量	7 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック少量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	9 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量
		13 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

壁に約20度の角度で、P 11～P 13は西壁に約10度の角度でわずかに斜めに掘り込まれている壁柱穴である。

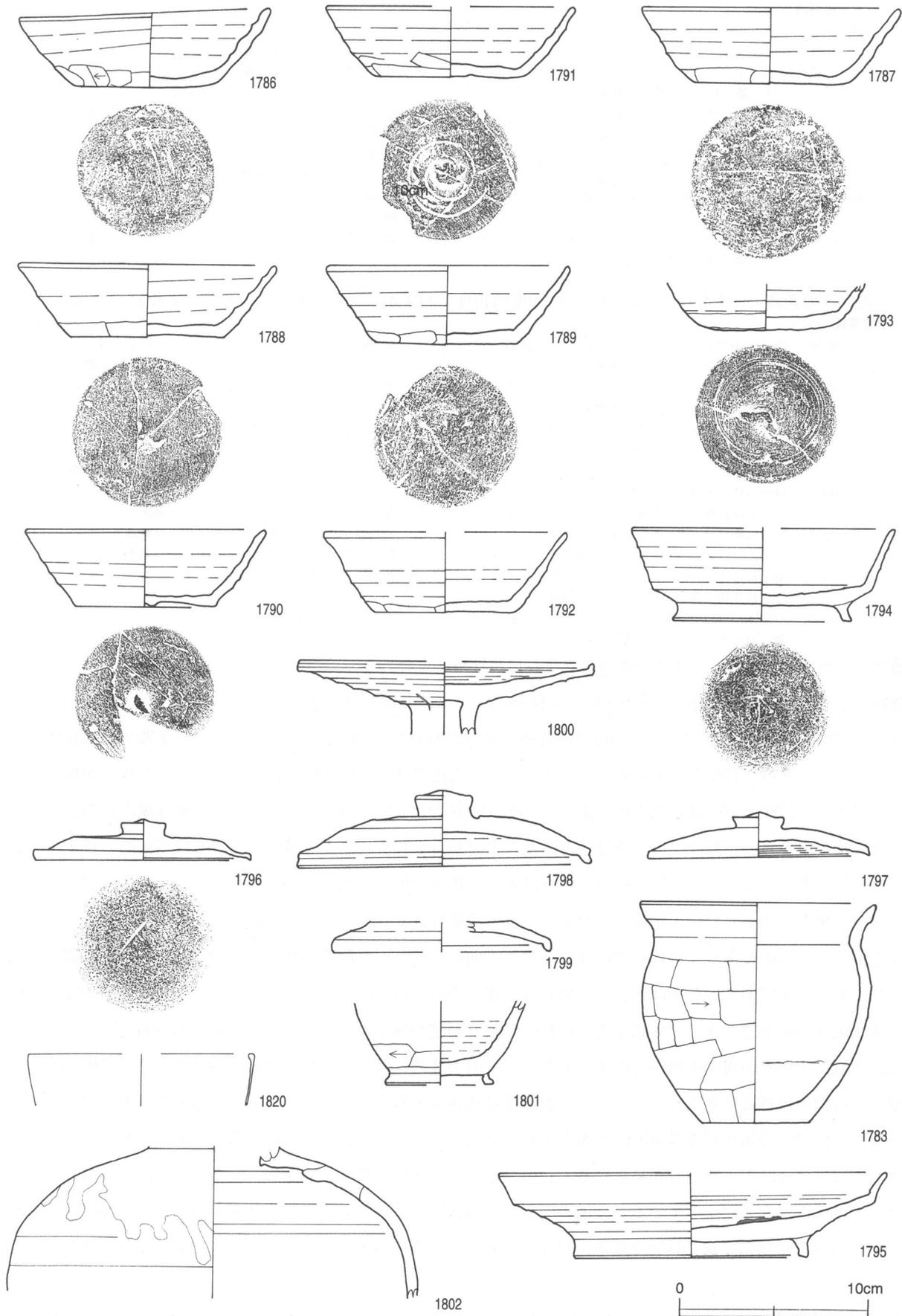
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、炭化物微量	8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・砂粒微量	9 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3 極暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量	10 褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量（壁溝）
4 黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化物・砂粒微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	12 褐色	ローム中ブロック中量（貼床）
6 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量、焼土中ブロック微量	13 黄褐色	竈土層断面第11層と同一（竈堀り方）
7 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック微量	14 暗褐色	竈土層断面第13層と同一（竈堀り方）
		15 褐色	竈土層断面第12層と同一（竈堀り方）

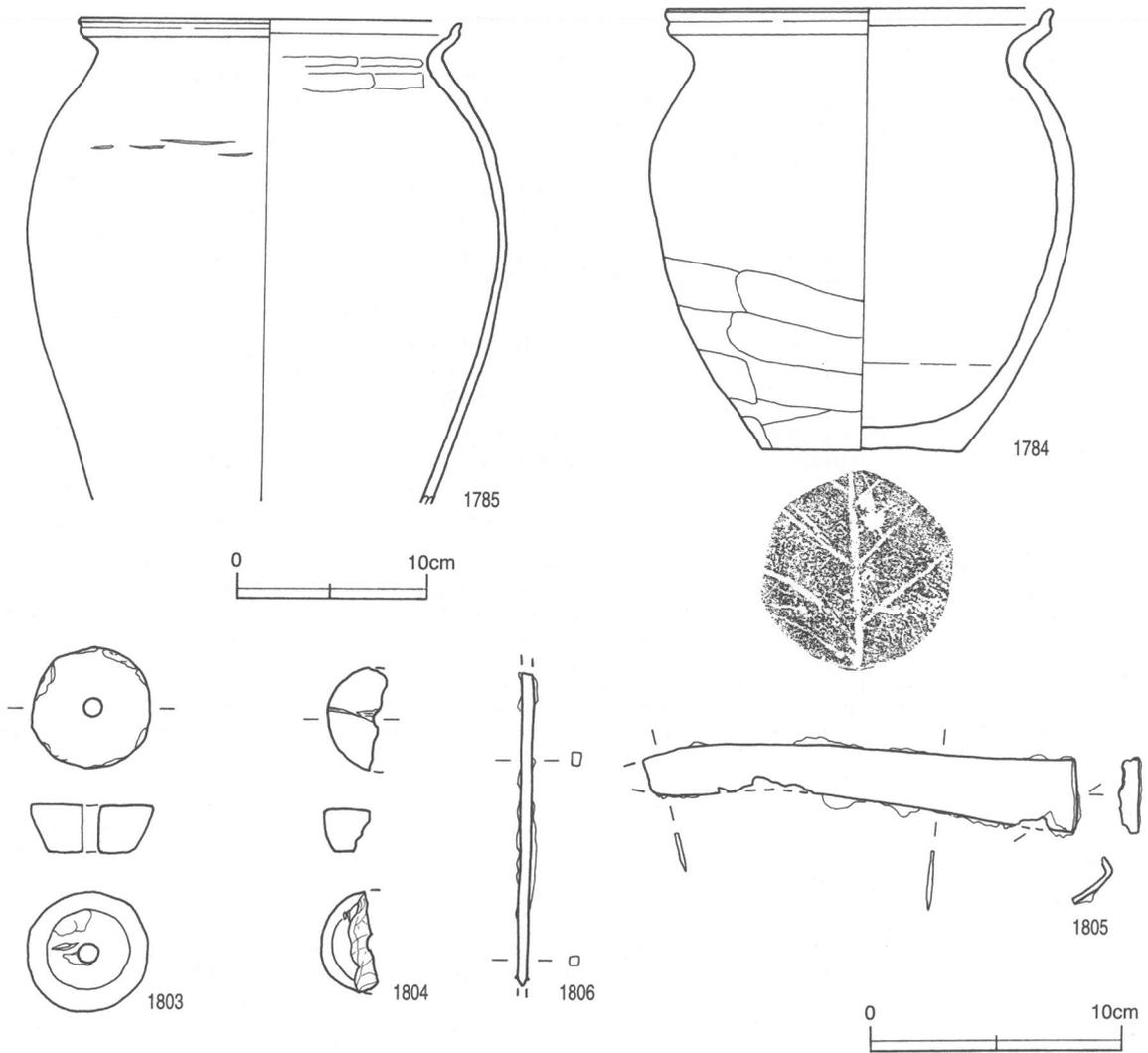
覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

遺物 土師器片1153点、須恵器片946点、灰釉陶器片4点、石器3点（紡錘車2、砥石1）、鉄器2点（鎌1、鋸1）、銅鏡1点が出土している。第511図1783、第512図1784の土師器小形甕は、竈内で支脚として転用されていたものである。1785の土師器甕は、P 3・P 4の周辺の床から覆土中層にかけて出土した破片が接合したものである。1786～1793は須恵器坏である。1786は壁柱穴P 7付近の覆土中層から、1789は竈内から、1792は北部の覆土中から、1793は出入口施設付近の覆土上層からそれぞれ出土している。1787は西壁際の覆土下層・中層から出土した破片が接合したもの、1788は南部の覆土中層から出土した破片が接合したもの、1790は覆土中層・上層から出土した破片が接合したもの、1791は壁柱穴P 6から出土した破片とその周辺から出土した破片が接合したものである。これらの坏は底部に一方向の手持ちヘラ削り、体部下端に手持ちヘラ削り調整が施されたものが主である。1790は回転ヘラ切り後、雑な手持ちヘラ削りが施され、ヘラ記号を有している。1793は丸底気味の底部で、底部・体部下端に回転ヘラ削り調整が施されている。1794の須恵器高台付坏、1800の須恵器高盤は南壁際の覆土中層から出土しており、1794の底部には「下」の刻書が施されている。1795の須恵器盤、1797の須恵器蓋は竈内から、1796の須恵器蓋は南西部の覆土中層から、1798の須恵器蓋はP 2付近の覆土下層から、1799の須恵器蓋は東壁際の覆土中層から出土している。1796・1797・1799の蓋は小形で、1796の天井部内面には「×」ヘラ記号が見られる。1801の小形壺は西部の覆土中層から、1802の須恵器長頸瓶は出入口付近の覆土中層から出土している。1802の肩部は3段接合で、肩部外面には自然釉がみられる。1803・1804は石製の紡錘車、1805は鎌、1806は鉄鋸、1820は銅鏡片である。1803・1805はP 4付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、壁柱穴を持つ住居である。当遺跡では、本跡の他には第257号住居跡のみみられるだけである。本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と推定される。



第511图 第460号住居跡出土遺物実測図(1)



第512図 第460号住居跡出土遺物実測図(2)

第460号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第511図 1783	小形甕 土師器	A 12.5 B 11.8 C 5.8	体部は内彎して立ち上がる。体部中位に最大径をもつ。頸部はコの字状を呈し、口縁部はつまみ上げられる。	口縁部横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・小石にぶい黄橙色普通	90% P L 234 支脚転用
第512図 1784	小形甕 土師器	A 15.3 B 17.8 C 7.8	体部は丸みをもち、上位に最大径をもつ。頸部はくの字状で、口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に沈線。	口縁部横ナデ。体部外面下半横位のヘラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石・小石橙色普通	95% P L 234 支脚転用
1785	甕 土師器	A 20.0 B (25.3)	底部欠損。体部は丸みをもって立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲し、口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ当て痕。内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・小石にぶい橙色、普通	30% P L 235
第511図 1786	坏 須恵器	A 13.2 B 4.3 C 7.3	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は丸く収めている。器壁は厚い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。ロクロ目が強い。	粗い、砂粒・雲母・長石・小石黄灰色、普通	95% P L 234
1787	坏 須恵器	A 13.7 B 4.1 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は丸く収めている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・長石・小石灰色、普通	80% P L 234

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第511図 1788	坏 須恵器	A 13.6 B 3.9 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部はわずかに肥厚する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰オリーブ色 普通	60% P L 234
1789	坏 須恵器	A 12.8 B 4.3 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70% P L 234
1790	坏 須恵器	A 12.7 B 4.2 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部は細くすぼむ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒・長石 灰オリーブ色 良好	60% P L 234 底部外面「一」 ヘラ記号
1791	坏 須恵器	A [13.2] B 3.8 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後雑な削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	50% P L 234
1792	坏 須恵器	A [12.8] B 4.3 C 7.4	平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに肥厚する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、雑な削り。	粗い、砂粒・雲母・ 角礫 灰色、普通	40% P L 234
1793	坏 須恵器	B (2.6) C 7.2	丸底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 黄灰色、普通	35% P L 234
1794	高台付坏 須恵器	A [14.0] B 5.0 D 9.4 E 1.0	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はハの字状で、端部がふんばる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	粗い、砂粒・長石・ 角礫 灰色、良好	50% P L 234 底部外面刻書 「下」
1795	盤 須恵器	A [20.5] B 4.6 D 12.3 E 1.1	体部は外方に開き、口縁部は屈曲して立ち上がる。高台はほぼ垂下する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	粗い、砂粒・雲母 長石・角礫 灰黄色 普通	70% P L 234 内面油煙付着
1796	蓋 須恵器	A 11.4 B 2.2 F 2.4 G 0.8	天井部は低く扁平である。口縁部は外反した後、短く屈曲する。つまみは高めのボタン状である。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	粗い、長石・白色粒子 青灰色 良好	100% P L 235 天井部内面ヘ ラ記号「×」
1797	蓋 須恵器	A 11.8 B 2.4 F 2.8 G 0.8	天井部はなだらかで、口縁部は短くつまみ出される。つまみはボタン状である。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	粗い、砂粒・長石 青灰色 良好	100% P L 235
1798	蓋 須恵器	A 15.4 B 4.0 F 2.9 G 1.4	天井部は丸みをもち、なだらかに口縁部にいたる。口縁部は短く屈曲する。つまみは擬宝珠形である。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 黄灰色 不良	90% P L 235
1799	蓋 須恵器	A [11.3] B (1.6)	つまみ欠損。天井部は平らで、なだらかに口縁部にいたる。口縁端部は屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰黄色 不良	70% P L 235
1800	高盤 須恵器	A [15.5] B (4.0) E (1.7)	坏部は大きく外方に開き、口縁端部はつまみ上げられている。	坏部内・外面ロクロナデ。坏部底部外面回転ヘラ削り、脚貼り付け、貼り付けのための刻み。	粗い、雲母・長石・ 小石 灰色、普通	30% P L 235
1801	小形壺 須恵器	B (4.4) D 5.6 E 0.6	底部の破片。体部はゆるやかに立ち上がる。高台は短く外方に開く。	体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子 灰黄色、普通	30% P L 234
1802	長頸瓶 須恵器	B (8.0)	体部の破片。肩部が大きく張る。	体部内・外面ロクロナデ。頸部は三段接合。肩部自然釉。	砂粒・白色粒子 灰オリーブ釉 胎土灰色、良好	30%
1820	銅製品	A [12.0] B (2.8)	口縁部の破片。口縁端部は内面が肥厚し、断面が三角形を呈する。	ロクロ挽きと思われる。		5% P L 258

遺物番号	器種	計測値					石材	特徴	備考
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第512図1803	紡錘車	4.7	3.3	1.9	0.7	55.2	粘板岩	断面逆台形。	P L 252
1804	紡錘車	(4.1)	(3.0)	1.7	—	(19.3)	滑石	残存約3分の1。	

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(g)	重量(g)			
第512図1805	鎌	17.5	—	2.5	0.2	—	(34.7)	鉄	柄付部全面折り曲げ。曲刃。	P L 256
1806	鎌	(12.6)	—	—	—	(12.6)	(18.7)	鉄	茎部片。	

第461号住居跡（第513・514図）

位置 調査区域の北西部，D 4 b5区。

重複関係 第134・135号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.40m，短軸2.87mの長方形である。

主軸方向 N-16°-E

壁 壁高は20～23cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～18cm，下幅6～10cm，深さ4cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。床面は地山面をそのまま利用している。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ82cm，袖部最大幅110cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。西袖は第135号掘立柱建物跡P 4の埋土の上に粘土を貼って構築されている。煙道部は，北壁を幅120cm，奥行き50cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は60度の傾きで立ち上がる。火床部は径15cmの円形で北壁ラインから内側に位置する。地山を火床面とし，4～10cmの厚さで赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量	7 赤褐色	砂質粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量	8 赤褐色	地山が赤変硬化した層（火床）
3 赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂質粘土小ブロック少量	9 暗赤褐色	焼土小ブロック多量，焼土中ブロック・砂質粘土粒子中量
4 暗褐色	砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量	10 褐色	砂質粘土小ブロック多量，焼土小ブロック少量
5 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量

ピット 3か所（P 1～P 3）。P 1・P 2は径45cmの円形，深さ10cmである。P 1・P 2は規模と位置から支柱穴と思われる。P 3は径30cmの円形，深さ20cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

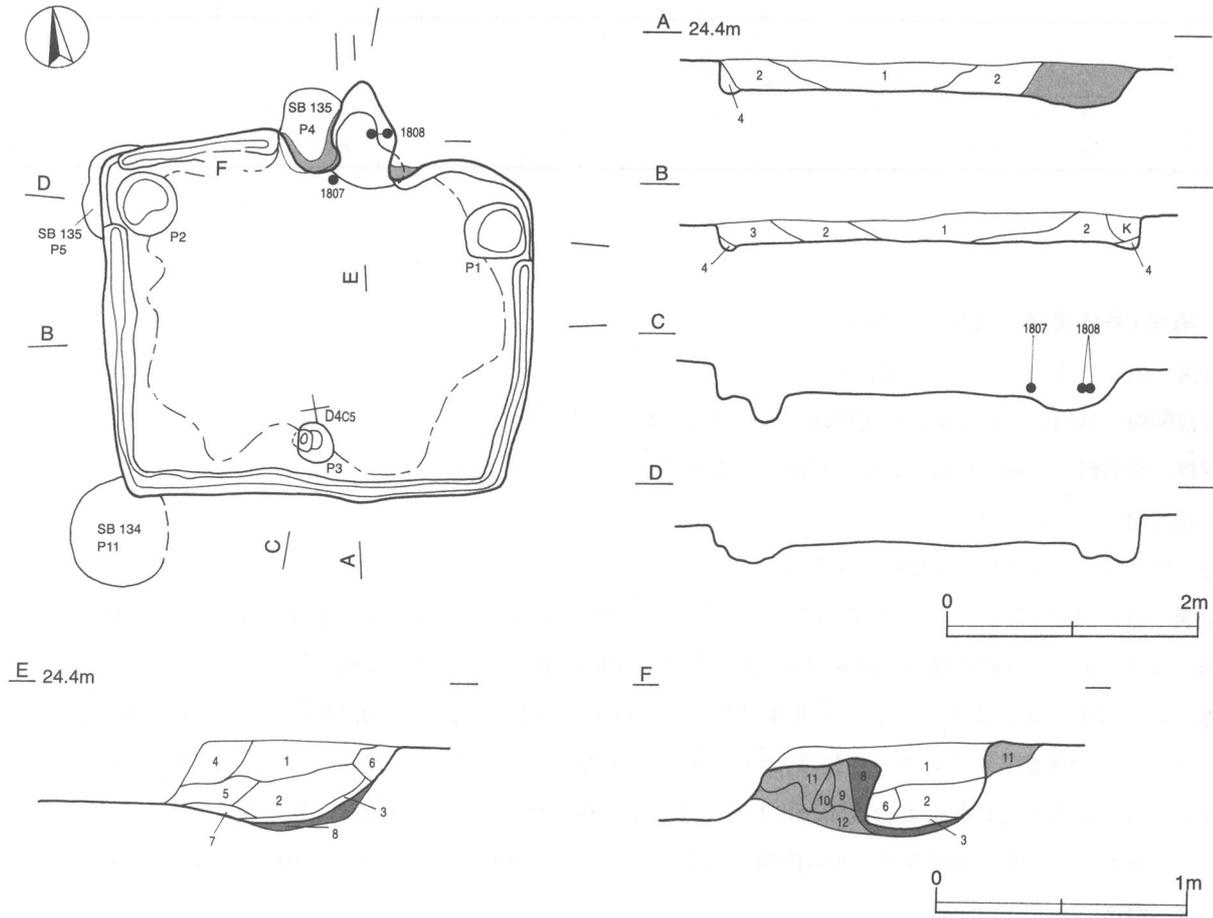
覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

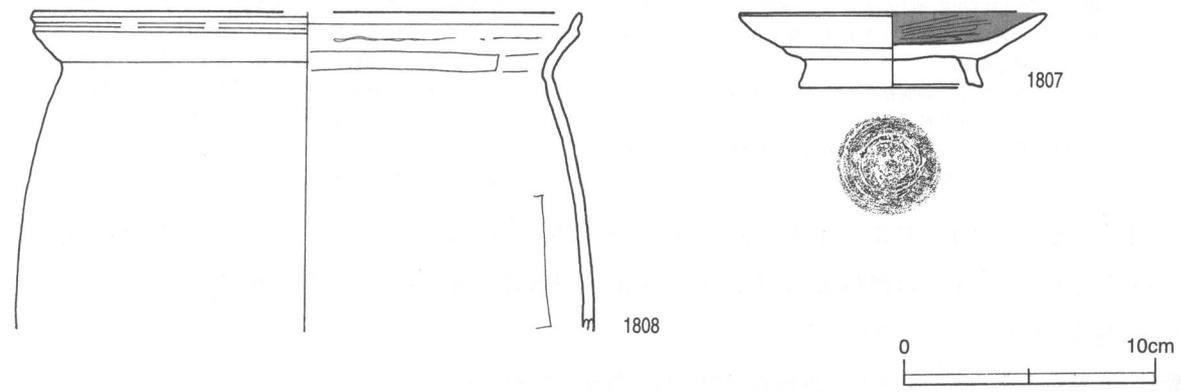
1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	4 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片187点，須恵器片70点，灰釉陶器片1点が出土している。第514図1807の土師器高台付皿は，竈焚口部の覆土下層から，1808の土師器甕は竈内から出土している。細片のため図示はできなかったが，須恵器甕には格子目叩きのものが多くみられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から9世紀後葉と推定される。



第513図 第461号住居跡実測図



第514図 第461号住居跡出土遺物実測図

第461号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第514図 1807	高台付皿 土師器	A 12.0 B 2.9 D 7.3 E 1.1	体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。高台部はハの字状にふんばる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・長石にぶい橙色普通	30% P L234
1808	甕 土師器	A [21.6] B (12.7)	底部欠損。頸部はくの字状に折れ、口縁端部はつまみ上げられる。外面1条の沈線をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面ヘラ当て痕。	砂粒・長石明赤褐色普通	10% P L235

第462号住居跡（第515・516図）

位置 調査区域の北西部，C4h9区。

重複関係 第475号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.30m，短軸4.24mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は32～40cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～16cm，下幅4～10cm，深さ12cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。P2周辺及び南東コーナー部には白色粘土が貼り付いている。中央部は地山を床面とし，壁際は貼床である。貼床は東・南・西壁際を幅20～25cm，確認面からの深さ50cmの溝状に，北壁側は幅50～100cm，確認面からの深さ64cmの溝状に掘り込み，焼土粒子・炭化粒子を微量に含むロームブロック主体の褐色土を埋土して構築している。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ101cm，袖部最大幅110cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。煙道部は，北壁を幅110cm，奥行き65cmにわたり三角形に掘り込んで，ロームブロックが貼り付けられ，40度の傾きで立ち上がる。火床部は確認面から30cmの深さで壁の内側に長径230cm，短径90cmの楕円形に掘り込み，ロームブロックを埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの外側

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量	8 赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量，焼土大ブロック・炭化物・炭灰微量
2 暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・炭灰微量	9 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭灰少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量
3 黄褐色	砂質粘土中ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭灰微量	10 暗褐色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土小ブロック・炭灰微量	11 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭灰少量，焼土中ブロック・炭化物微量（掘り方）
5 黄橙色	焼土粒子・炭中量，焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（掘り方）
6 暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 灰黄褐色	砂質粘土中ブロック多量，焼土粒子微量（掘り方）
7 赤褐色	焼土小ブロック多量，焼土中ブロック中量，焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・炭灰微量	14 暗赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量（掘り方）
		15 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（掘り方）

に位置し，火床面の上には20cmの厚さで，灰や焼土が堆積している。

ピット 3か所（P1～P3）。P1は25cmの円形，深さ15cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されており，出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径110cm，短径75cmの楕円形，深さ10cmである。この覆土は白色粘土ブロックやロームブロック・炭化物混じりの暗褐色土である（住居土層断面図第12層）。周りの床面にも1cmの厚さで白色粘土が貼り付けられている。このピットの性格は不明である。P3は径35cmの円形，深さ20cmで，北壁際に位置する。性格は不明である。

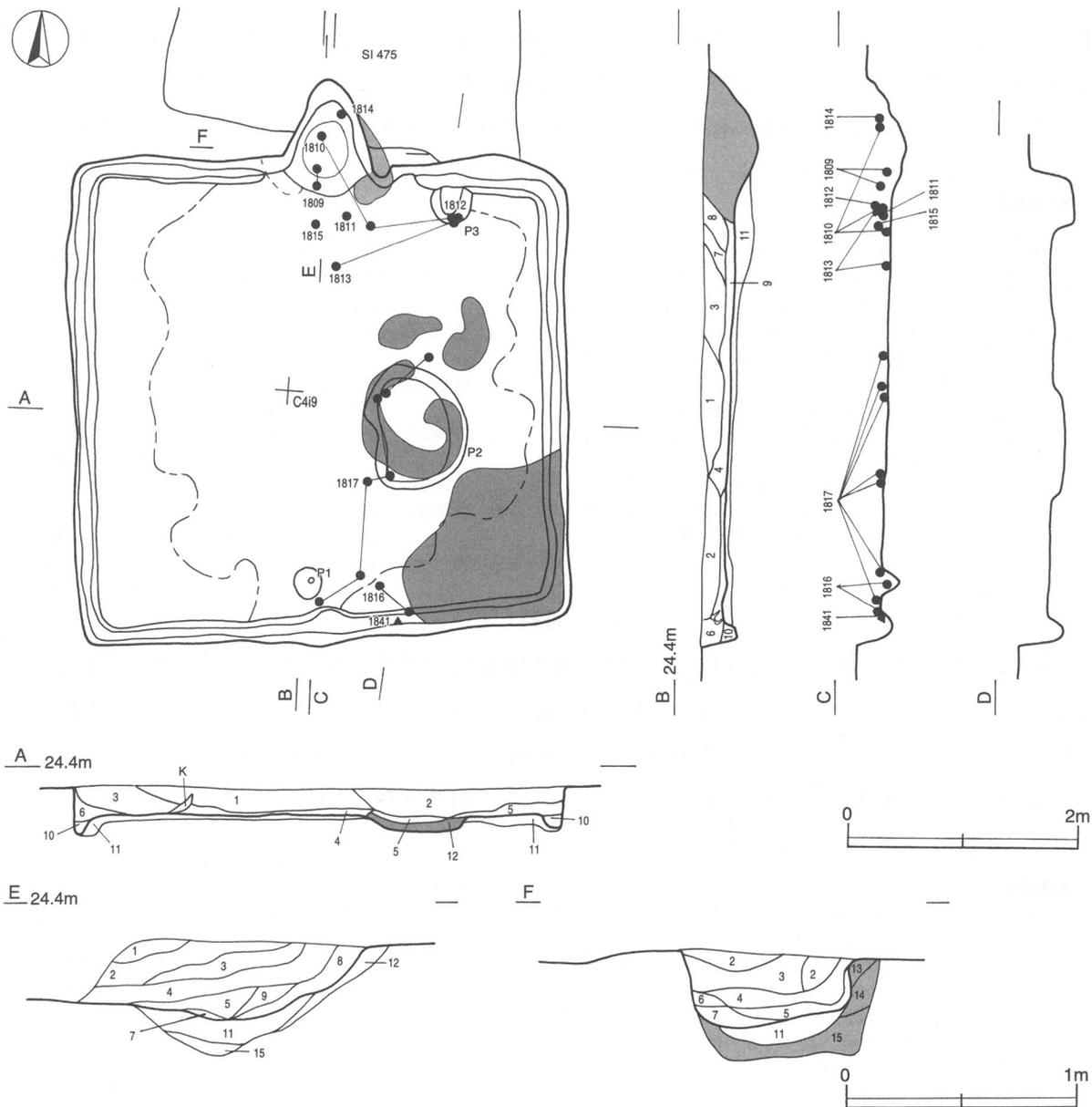
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
2 褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土大ブロック・炭化材・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 極暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
4 極暗褐色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック微量	10 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（壁溝）
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量	11 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量（貼床）
6 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	白色粘土粒子中量，ローム中ブロック・白色粘土小ブロック少量，炭化材微量（P2）

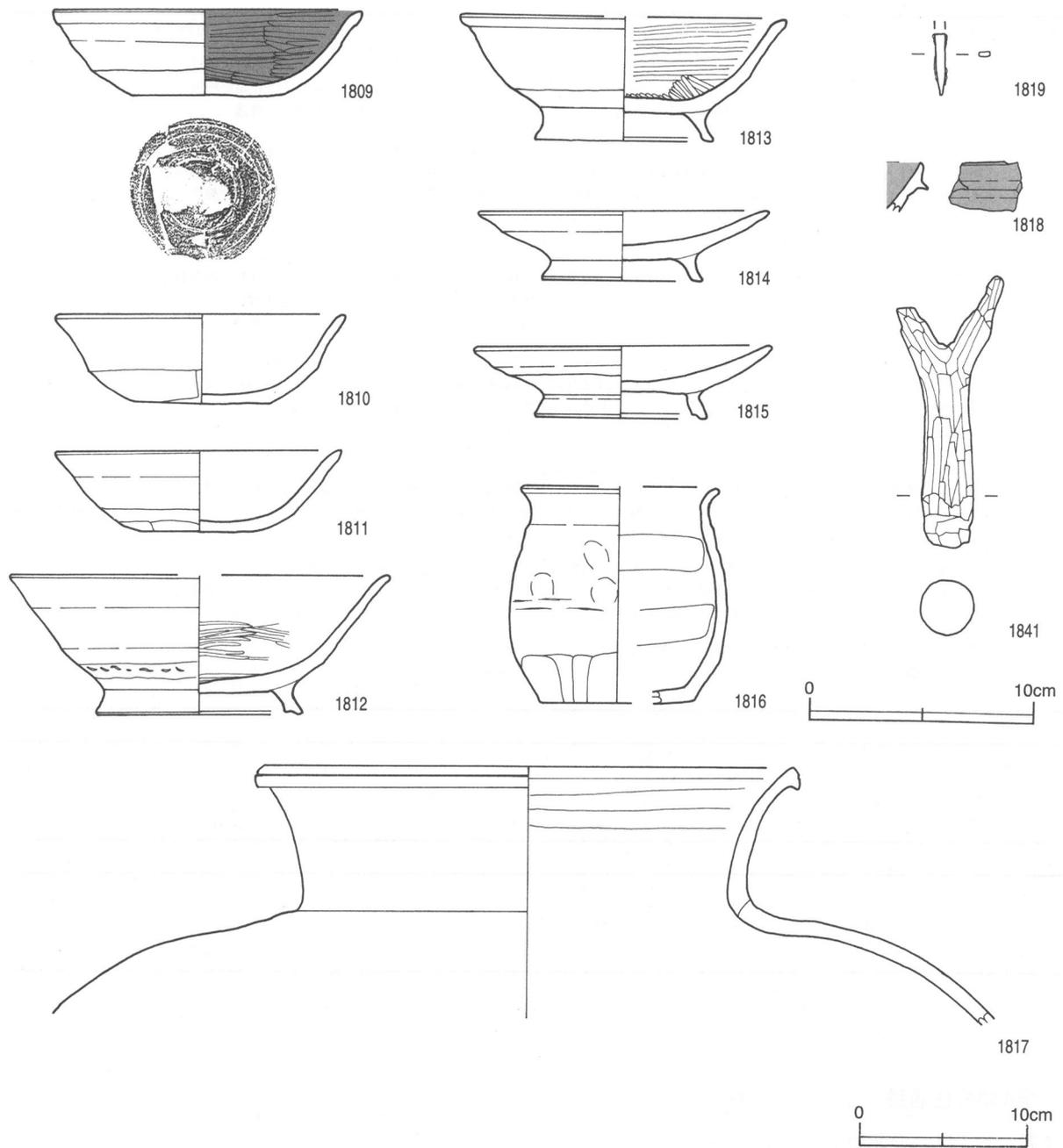
覆土 10層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

遺物 土師器片357点, 須恵器片126点, 灰釉陶器片4点, 鉄器1点(鏃), 土製品1点(不明)が出土している。第516図1809の土師器坏, 1814の土師器高台付皿は竈内から, 1811の土師器坏, 1815の土師器高台付皿は竈前面の覆土下層から出土している。1810の土師器坏, 1812・1813の土師器高台付椀は, 北東部の覆土下層から出土している。1816の土師器小形甕は南部の床面から, 1817の須恵器大甕は南部の床面から出土している。1817は体部の肩から口縁部にかけての破片で, 肩部外面・口縁部内面には自然釉が掛かっている。1818は灰釉陶器長頸瓶の口縁部片で, 1819の鉄鏃とともに覆土下層から出土している。1841は南壁溝の覆土から出土した不明土製品である。この土製品の形状は「Y」字形をしており, 丁寧にヘラ削りにより面取りがされ, 各端部は何かを差し込むためにか, わずかに削られ細くなっている。

所見 本跡の中央部東寄りには, 掘りの浅いP2が存在し, この周りの床面には白色粘土が貼り付いているこれと同様の形態は第240・340・453号住居跡でもみられる。このピットの性格は不明である。本跡の時期は,



第515図 第462号住居跡実測図



第516図 第462号住居跡出土遺物実測図

出土土器から9世紀後葉と推定される。

第462号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第516図 1809	坏 土師器	A 13.8 B 3.9 C 6.7	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁端部は肥厚する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒 橙色 普通	95% P L 235 二次焼成
1810	坏 土師器	A 13.0 B 4.1 C 6.2	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾し、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	55% P L 235
1811	坏 土師器	A 12.9 B 3.6 C 5.1	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾し、口縁部にいたる。口縁端部は内削ぎ状である。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	55% P L 235

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第516図 1812	高台付 土師器	A [16.9]	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状にふんばる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。高台貼り付け時の爪痕が高台部外周に残る。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	60% P L 235
		B 6.4				
		D 9.2				
		E 1.4				
1813	高台付 土師器	A [15.0]	平底。底部と体部の境は不明瞭。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。高台はハの字状である。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい橙色普通	60% P L 235
		B 5.7				
		D 8.0				
		E 1.5				
1814	高台付 土師器	A 13.2	体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。高台は、ハの字状にふんばる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・赤色粒子橙色普通	100% P L 235
		B 3.3				
		D 7.2				
		E 1.1				
1815	高台付 土師器	A 13.3	体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。高台は高く、ハの字状にふんばり、接地面は狭い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・赤色粒子橙色普通	100% P L 235
		B 3.3				
		D 7.8				
		E 1.2				
1816	小形 土師器	A [9.0]	体部は緩やかに立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部は外反し、端部は丸くおさめている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位指頭押圧後ナデ、下位指頭押圧。内面指ナデ。	砂粒・雲母明赤褐色普通	90% P L 235 支脚転用
		B (9.9)				
		C [6.8]				
1817	甕 須恵器	A 31.0	口縁部の破片。肩部は張り、口縁部は大きく開き外反する。口縁端部は断面三角形で下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面自然釉付着。内面ナデ	長石・小石にぶい黄褐色普通	40%
		B (15.3)				
1818	長頸 灰釉陶器	B (2.1)	口縁部の破片。口縁端部は上下に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。内・外面施釉。	黒色粒子、胎土灰白色・灰オリーブ釉、普通	5%

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	鎌身長(cm)	篋身長(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	重量(g)			
1819	鎌	(2.8)	—	—	(2.8)	0.3	(1.3)	鉄	茎部一部残存。	

器種	器種	計測値					材質	特徴	備考	
		上面径(cm)	下面径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第518図	1841	不明	13.3	2.40	—	—	58.1	土製	Y字形。ヘラ削りによる面取り。	P L 254

第463号住居跡 (第517・518図)

位置 調査区域の北西部，C 4 j0区。

規模と平面形 長軸3.36m，短軸3.08mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は，3～7cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 2か所(竈1・竈2)。竈1・竈2共に上面が削平されているため遺存状況は悪く，天井部・袖部ともに残存していない。竈1は北壁の中央から西寄りに位置する。規模は焚口部から煙道部までの長さ75cm，最大幅は73cmと推定される。竈2は北東コーナー部に位置する。規模は焚口部から煙道部までの長さ63cm，最大幅は60cmと推定される。遺存状況が悪かったため，竈の新旧関係を捉えることができなかった。

竈1土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量 | | |

竈2土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黄褐色 | 黄褐色粘土小ブロック多量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 砂粒微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | | |

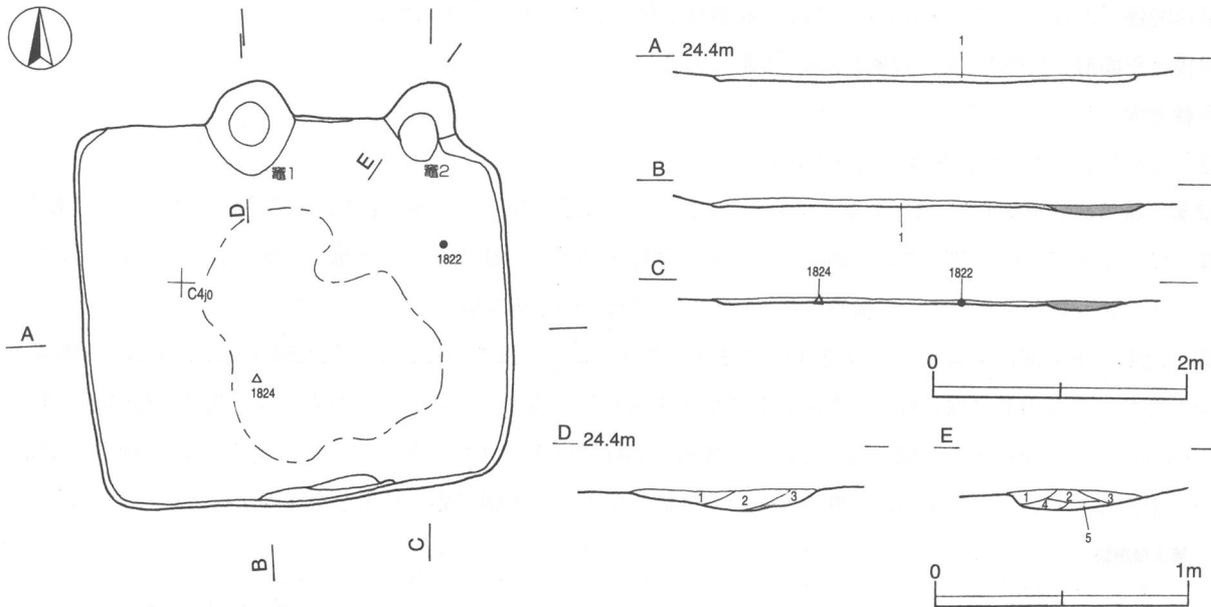
覆土 単一層である。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

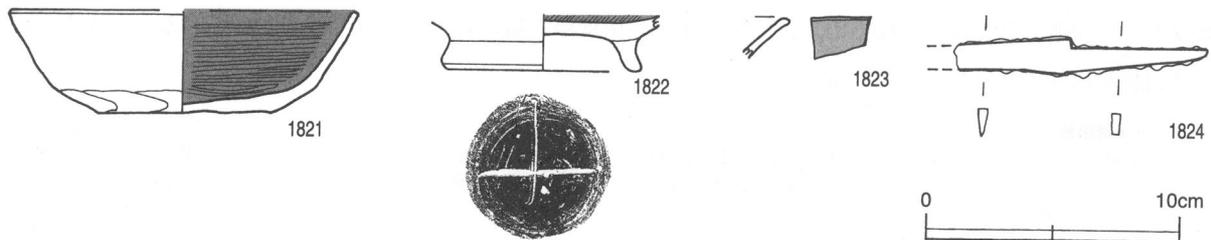
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, ローム大ブロック・炭化物微量

遺物 土師器片105点, 須恵器片122点, 灰釉陶器片1点, 鉄器1点(刀子)が出土している。第518図1821の土師器坏, 1823の灰釉陶器皿は覆土中から, 1822の土師器高台付坏は北東部の床面から, 1824の刀子は中央部の床面から出土している。1822の底部外面には「+」のヘラ記号が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と推定される。



第517図 第463号住居跡実測図



第518図 第463号住居跡出土遺物実測図

第463号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第518図 1821	土師器 坏	A [13.5] B 4.1 C 6.8	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部にいたる。底部中心部の器壁が薄い。	体部外面ロクロナア。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	50% P L 235

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第518図 1822	高台付 土師器	B (2.2) D 7.8 E 1.4	高台部破片。高台は厚く、ハの字状にふんばる。	底部外面回転ヘラ削り、高台貼り付け後、ナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	5% 底部外面ヘラ 記号「十」
1823	皿 灰釉陶器	B (1.6)	口縁部片。口縁部は端部で外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ、施釉。	砂粒、胎土灰白色 淡黄色釉、良好	5%

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(cm)	重量(g)			
1824	刀子	(10.05)	(4.8)	1.5	0.4	(5.40)	(16.3)	鉄	片関。	PL254

第464号住居跡（第519・520図）

位置 調査区域の北西部，D 4 a0区。

重複関係 本跡の上部には第7号方形堅穴状遺構が構築されており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.22m，短軸2.92mの方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は12～24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅10～16cm，下幅4～8cm，深さ8cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。全体が貼床で，確認面から40cmほど掘り込んで，ロームブロックを含んだ褐色土を埋土して構築されている。土層断面図中第5層がこの土層である。

竈 北壁の中央部に位置する。規模は焚口部から煙道部までの長さ99cm，袖部最大幅101cmである。袖部は地山をなだらかな山形に掘り残し，上部に砂質粘土を貼り付け構築されている。煙道部は，北壁を幅64cm，奥行き45cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は55度の傾きで立ち上がる。火床部は径25cmの円形で，地山を火床面としている。火床面は北壁ラインから外側に位置し，土師器甕を転用した支脚が据えられている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック微量 | | |

ピット 1か所。P1は径30cmの円形，深さ15cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されていることから，出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

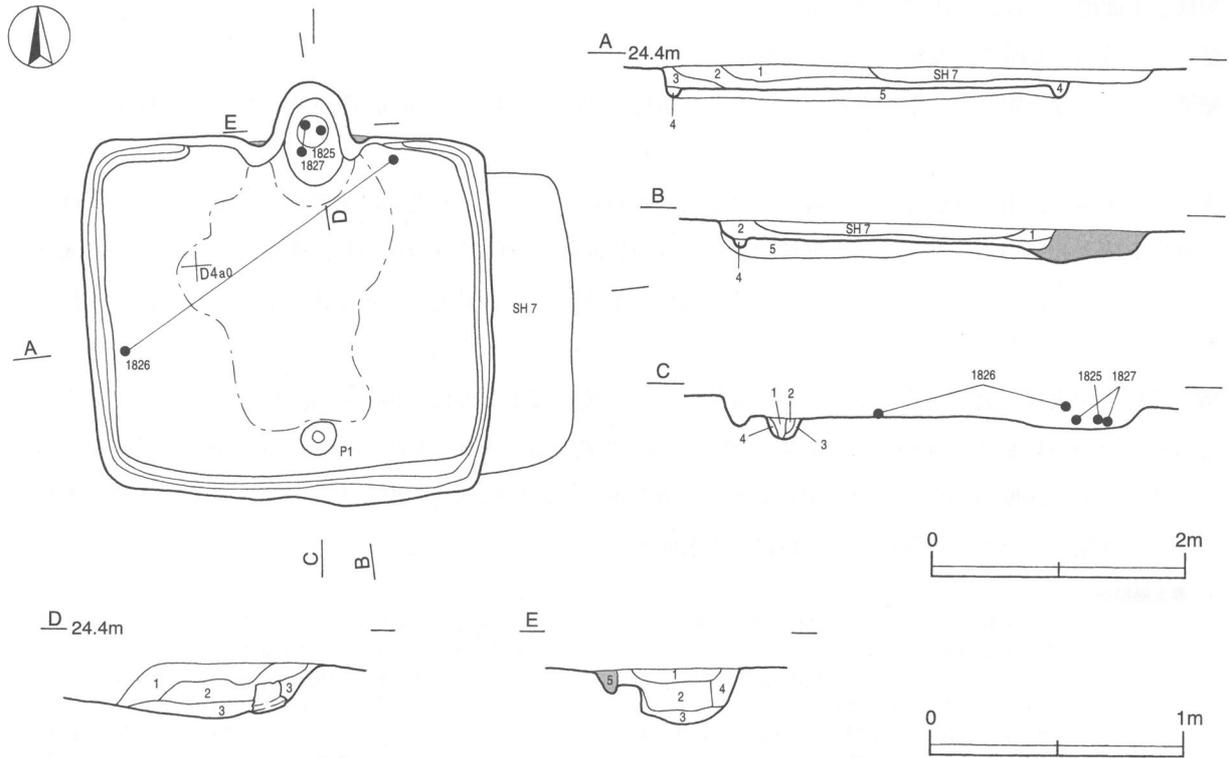
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量（貼床） |
| 3 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |

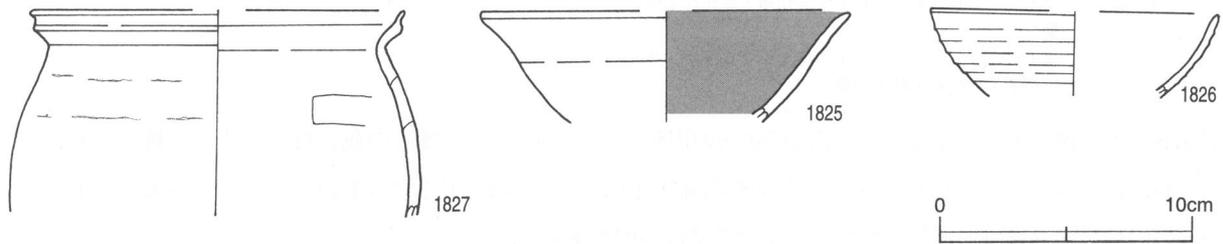
遺物 土師器片106点，須恵器片16点が出土している。第520図1825の土師器碗，1827の土師器小形甕は竈内か

ら出土している。1826の土師器坏は北壁付近の覆土上層から出土した破片と西壁付近床面から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と推定される。



第519図 第464号住居跡実測図



第520図 第464号住居跡出土遺物実測図

第464号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第520図 1825	椀 土師器	A [14.4] B (4.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子にぶい褐色、普通	20%
1826	坏 土師器	A [11.3] B (3.3)	口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母黄褐色、普通	5%
1827	小形甕 土師器	A [14.5] B (8.2)	底部欠損。体部は緩やかに立ち上がり、口縁部はくの字状に折れる。口唇部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面ヘラ当て痕。体部外面輪積み痕あり。	砂粒・長石にぶい褐色普通	20% P L 235

第465号住居跡（第521～524図）

位置 調査区域の北西部，D 5 b1区。

重複関係 第466号住居跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

主軸方向 N-6°-W

規模と平面形 一辺が3.70mの方形である。

壁 壁高は30～32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅12～20cm，下幅8～14cm，深さ8～12cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，出入口付近から竈にかけて踏み固められている。中央部の北寄りには貼床で，その他の部分は地山を床としている。貼床は，中央部北寄りの長径165cm，短径135cmの楕円形，確認面からの深さ45cmの土坑状に掘り込み，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んだ暗褐色土と黄褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm，袖部最大幅100cmである。袖部は砂質分の多い粘土で構築されている。煙道部は，北壁を幅100cm，奥行き80cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は20度の傾きで立ち上がる。壁の内側の掘り方は住居部分の掘り方と一体化している。そのため火床部は北壁ラインから外側にあり，地山を火床面としている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黄褐色	砂質粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量
2 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 赤褐色	焼土中ブロック中量，ローム粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黄褐色	ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量，ローム粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	11 黄褐色	砂質粘土小ブロック中量，ローム粒子微量
6 黄褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所（P1～P4）。P1は径40cmの円形，深さ26cmで，南壁際の竈に対する位置で確認され，出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径45cmの円形，深さ20cm，P3は径45cmの円形，深さ32cm，P4は25cmの円形，深さ16cmである。P2～P4の性格は不明である。

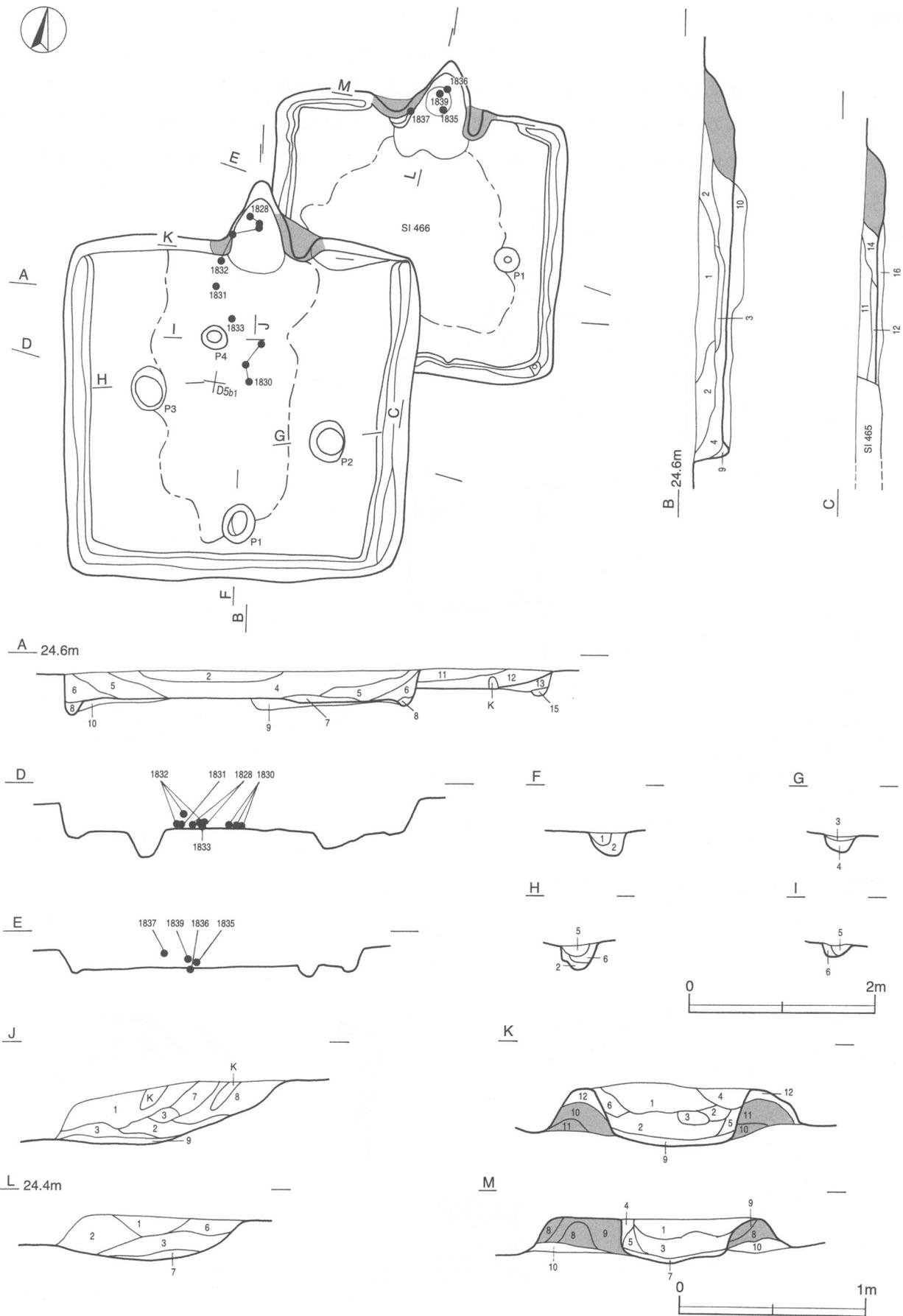
ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	4 暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化物少量
2 褐色	ローム中ブロック中量	5 褐色	ローム小ブロック少量
3 暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	6 暗褐色	ローム中ブロック少量

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

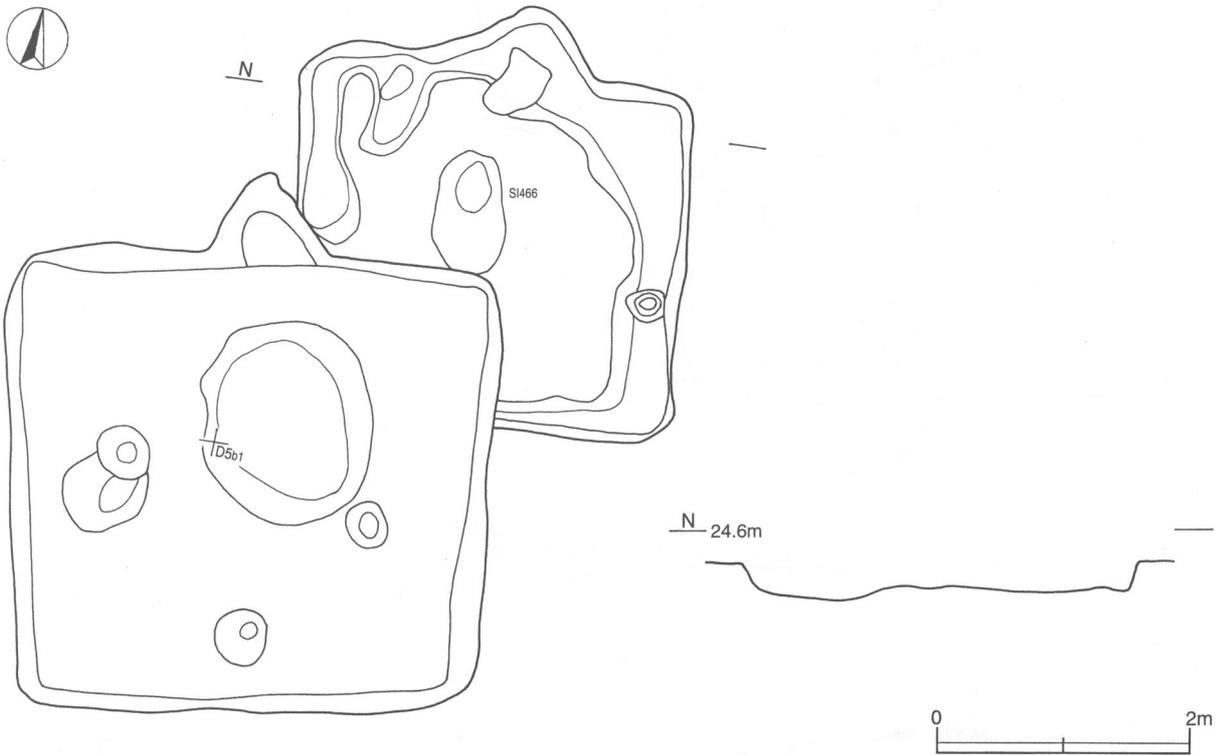
1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
4 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量	9 暗褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物微量（貼床）
5 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	10 黄褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量（貼床）



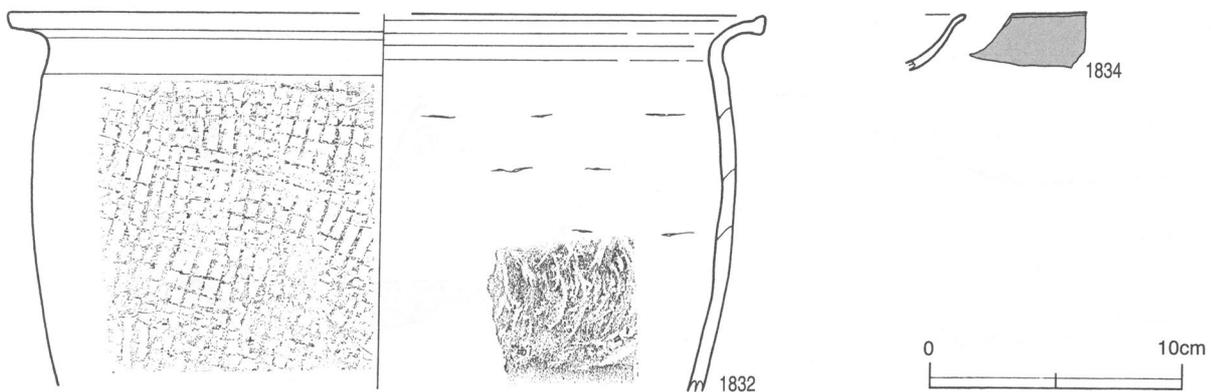
第521图 第465·466号住居迹实测图(1)

遺物 土師器片355点、須恵器片120点、灰釉陶器片1点が出土している。第524図1828の土師器坏は、竈内から出土したもので、二次焼成を受けている。1830の土師器高台付椀、1833の須恵器甕は中央部の床面から、1831の土師器高台付皿は北部の床面から出土している。1833の体部は器壁が薄く、格子目叩きが施されている。1829の土師器坏、1834の灰釉陶器皿は覆土下層から出土している。1832の須恵器鉢は竈内から出土した破片が接合している。1829の体部外面には2文字の墨書が認められる。土師器坏類は内面ヘラ磨き、黒色処理がなされているものが大部分である。

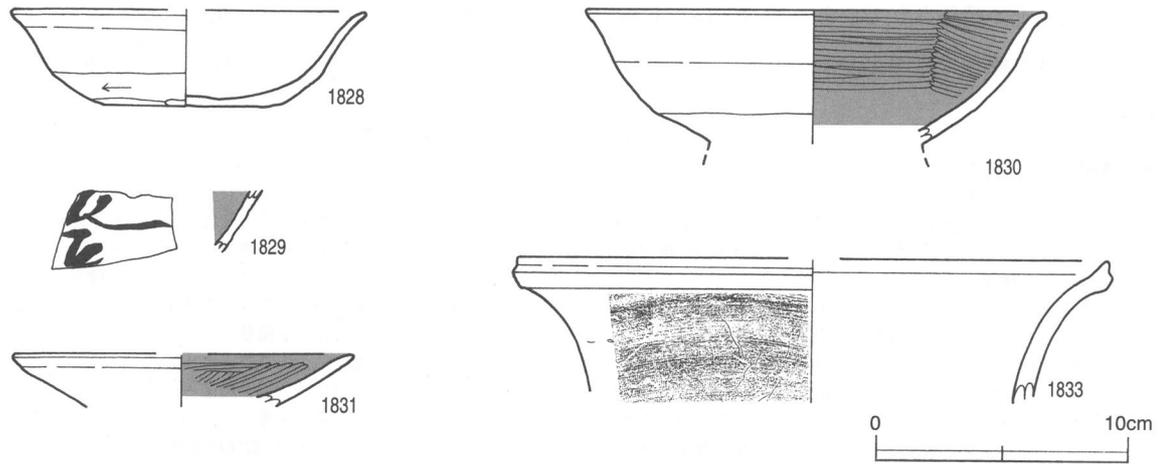
所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前葉と推定される。



第522図 第465・466号住居跡実測図(2)



第523図 第465号住居跡出土遺物実測図(1)



第524図 第465号住居跡出土遺物実測図(2)

第465号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第524図 1828	坏 土師器	A [14.0] B 3.8 C 6.4	平底。底部と体部の境に稜をもち、口縁部で外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。底部と体部の境手持ちヘラ削り。	砂粒・長石にぶい橙色普通	40% P L235 二次焼成
1829	坏 土師器	B (2.4)	体部片。	外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒にぶい橙色、普通	5% 体部外面墨書「□」
1830	高台付碗 土師器	A 18.1 B (5.3)	底部・高台部欠損。体部は丸みをもち、内彎して立ち上がる。口縁部でわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。口縁部・体部内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母にぶい黄褐色普通	70% P L235
1831	高台付皿 土師器	A [13.2] B (2.1)	体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒 橙色、普通	20% P L235
第523図 1832	鉢 須恵器	A [29.6] B (15.0)	体部から口縁部の破片。体部はほぼ直立し、口縁部は短く外反する。口縁端部は上方につまみだされている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き。体部内面同心円状の当て具痕、ナデ。内面輪積痕あり。	砂粒・雲母・長石 黄褐色 普通	10% P L235
第524図 1833	甕 須恵器	A [23.4] B (5.6)	口縁部の破片。口縁部は大きく開き外反する。口縁端部は断面三角形で上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰オリーブ色 普通	5% P L235
第523図 1834	皿 灰釉陶器	B (2.1)	口縁部片。口縁部は端部で外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ、施釉。	砂粒、胎土灰白色 灰黄色釉、普通	5%

第466号住居跡 (第521・522・525図)

位置 調査区域の北西部，D 5 a1区。

重複関係 第465号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.11m，短軸2.88mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は18~20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅8~12cm，下幅4~6cm，深さ4cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁際と中央部は貼床で，その他の部分は地山を床としている。

貼床は，壁に沿って幅20~40cm，確認面からの深さ25~32cmほど溝状に，中央部では，確認面からの深さ55cmの長径100cm，短径55cmの楕円形の土坑状に掘り込み，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を微量に含む暗褐色土を埋土して構築されている。土層断面図中第16層がこの土層である。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は焚口部から煙道部までの長さ106cm，袖部最大幅120cmである。袖

部は黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、北壁を幅150cm、奥行き50cmにわたり三角形に掘り込んでいます。煙道部は40度の傾きで立ち上がる。火床面は、北壁ラインから外側に位置する。火床部は住居跡の掘り方と一体化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒微量 | 8 黄褐色 | 黄褐色粘土大ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黄褐色 | 黄褐色粘土中ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 9 黄褐色 | 黄褐色粘土中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 1か所。P1は中央部の東壁寄りに位置する径25cmの円形、深さ14cmである。性格は不明である。

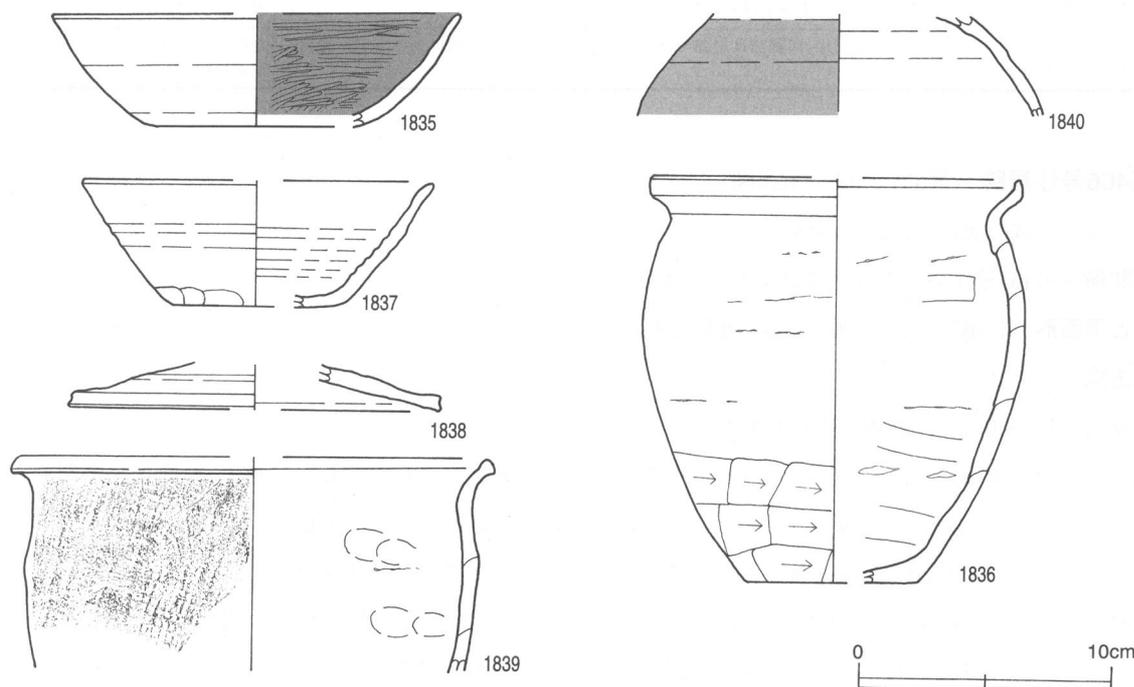
覆土 5層からなる。堆積状況に乱れないことから自然堆積と思われる

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 11 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 (貼床) |
| 13 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 14 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片92点, 須恵器片44点, 灰土陶器片5点が出土している。第525図1835の土師器坏, 1836の土師器小形甕, 1837の須恵器坏, 1839の須恵器鉢はすべて竈内から出土している。1836は支脚として逆位に据えられていたものである。1838の須恵器蓋, 1840の灰土陶器長頸瓶は肩部から体部にかけての破片で, 覆土上層から出土している。胎土は堅緻で, 焼成も良く, 極暗赤褐色を呈し, 肩部には自然釉が掛かっている。井ヶ谷78号窯式のものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉推定される。



第525図 第466号住居跡出土遺物実測図

第466号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第525図 1835	坏 土師器	A [16.0] B (4.5)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、丸みもち、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒 橙色、普通	25% P L235
1836	小形甕 土師器	A [14.5] B 16.1 C [6.6]	体部は緩やかに立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位ナデ、下位横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕、ヘラ当て痕。	砂粒・長石・小石 黄褐色 普通	40% P L236
1837	坏 須恵器	A [13.6] B 4.9 C [6.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	40% P L235
1838	蓋 須恵器	A [14.5] B (1.8)	口縁部片。口縁部はわずかに外反し、端部は短い。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・小石 灰色、普通	5% P L236
1839	鉢 須恵器	A [18.2] B (8.5)	体部から口縁部の破片。体部はほぼ直立する。口縁部は外反し、端部は断面三角形で上方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面格子目叩き、内面指頭押圧。内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	10% P L236
1840	長頸瓶 灰釉陶器	B (4.0)	肩部の破片。	内・外面ロクロナデ。	堅緻、外面にぶい赤褐色、灰オリーブ釉、内面灰黄褐色、良好	20%

第467号住居跡（第526・527図）

位置 調査区域の北西部，D 5 d1区。

重複関係 第131号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形 一辺が2.66mの方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は20～27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 西・南壁の壁下を巡っている。上幅15～18cm，下幅5～10cm，深さ5cmで，断面はU字状である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ74cm，袖部最大幅は70cmである。袖部はローム粒子混じりの黄褐色粘土で構築されている。西袖には土師器甕が袖材として貼り付けられている。火床部は，確認面から22cmの深さで長径37cm，短径25cmの楕円形に掘り込み，地山を火床面としている。煙道は，30度の傾きで立ち上がる。支脚は，土師器坏・高台付坏等を逆位に8点重ねて転用している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子微量 | 6 黄褐色 | 黄褐色粘土小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・灰少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量 | | |

ピット 1か所。P 1は径20cmの円形，深さ15cmで，南壁際の竈に対する位置で確認されていることから，出入口に伴うピットと考えられる。

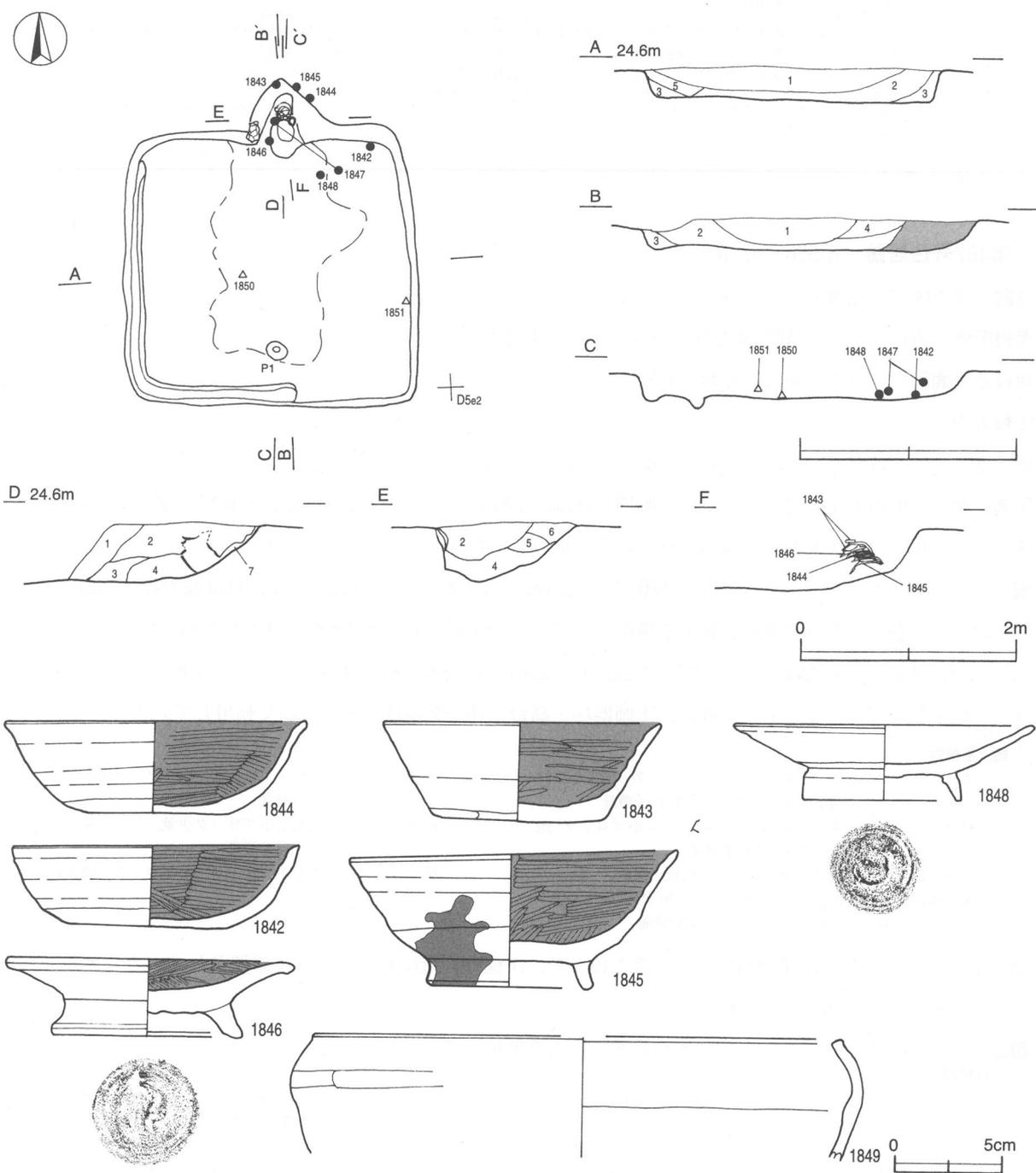
覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

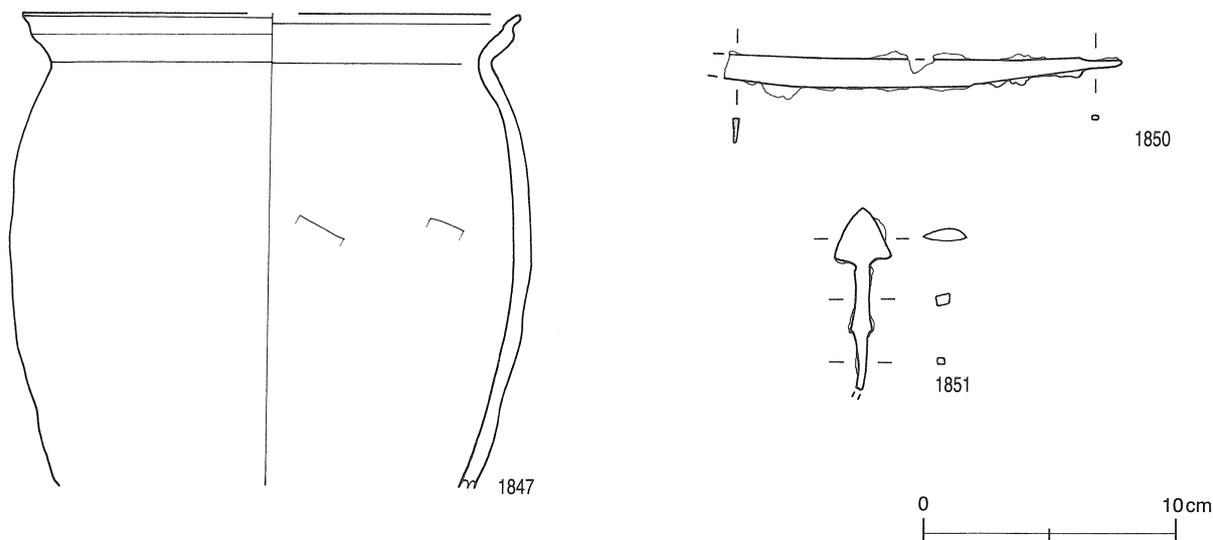
- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 粘土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片182点、須恵器片81点、鉄器2点（刀子1・鏃1）が出土している。第526図1843～1847は、竈支脚として8枚重ねで転用されていた土器である。1843の土師器杯は一番上に、1846の土師器高台付皿は上から2番目に、1847の土師器甕は上から3番目と北東部下層から出土した破片、1844の土師器杯は上から4・5・6番目に、1845の土師器高台付椀は一番下にそれぞれ逆位で重ねられていた。いずれの土器も二次焼成を受けている。1848の須恵器は北東部の最下層から、1849の須恵器鉄鉢形土器は覆土中から、1850の刀子は中央部の床面、1851の鉄鏃は東壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から9世紀後葉と推定される。



第526図 第467号住居跡・出土遺物実測図



第527図 第467号住居跡出土遺物実測図

第467号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第526図 1842	坏 土師器	A 13.2	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎し、口縁部にいたる。口縁端部は内削ぎ状。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	90% P L 236 二次焼成
		B 4.0				
		C 7.2				
1843	坏 土師器	A 12.7	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・赤色粒子明褐色普通	90% P L 236 二次焼成
		B 4.7				
		C 7.6				
1844	坏 土師器	A 13.8	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎し、口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒にぶい橙色普通	80% P L 236 二次焼成
		B 4.4				
		C 6.2				
1845	高台付碗 土師器	A 15.1	平底。底部と体部の境は不明瞭。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台は、ほぼ垂直に付き、太くしっかりしている。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	80% P L 236 外面煤付着
		B 6.3				
		D 7.3				
		E 1.3				
1846	高台付皿 土師器	A 12.9	体部は外方に大きく開き、口縁部で外反する。高台は高く、太く、ハの字状にふんばる。	口縁部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色普通	100% P L 236 二次焼成
		B 3.6				
		D 8.6				
		E 1.8				
第527図 1847	薨 土師器	A [19.6]	体部は緩やかに立ち上がり、頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ外面に1条の沈線をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石明褐色普通	20% P L 236 二次焼成
		B (18.8)				
第526図 1848	高台付皿 須恵器	A 14.0	体部は外方に大きく開き、口縁部にいたる。高台は高く外方に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石明オリブ灰色普通	90% P L 236
		B 3.5				
		D 7.4				
		E 1.4				
1849	鉄鉢形土器 須恵器	A [24.2]	口縁部片。口縁部で内側に強く屈曲する。口縁端部は平坦面をもつ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石オリブ灰色、良好	10% P L 236
		B (5.6)				

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	重ね(cm)	茎長(g)	重量(g)			
第527図1850	刀子	(15.9)	(14.3)	1.15	0.3	1.6	(14.4)	鉄	両関。切先欠損	P L 254

遺物番号	器種	計測値								材質	特徴	備考
		全長(cm)	鎌身長(cm)	身幅(cm)	籠被長(cm)	籠被幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	重量(g)			
1851	鎌	(7.2)	2.0	2.2	2.9	0.5	(2.3)	0.3	(8.2)	鉄	茎部一部欠損	P L 255

第468号住居跡 (第528・529図)

位置 調査区域の北西部, C 4 i5区。

規模と平面形 長軸3.53m, 短軸3.26mの方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は14~15cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅10~20cm, 下幅5~10cm, 深さ12cmで, 断面はU字形である。

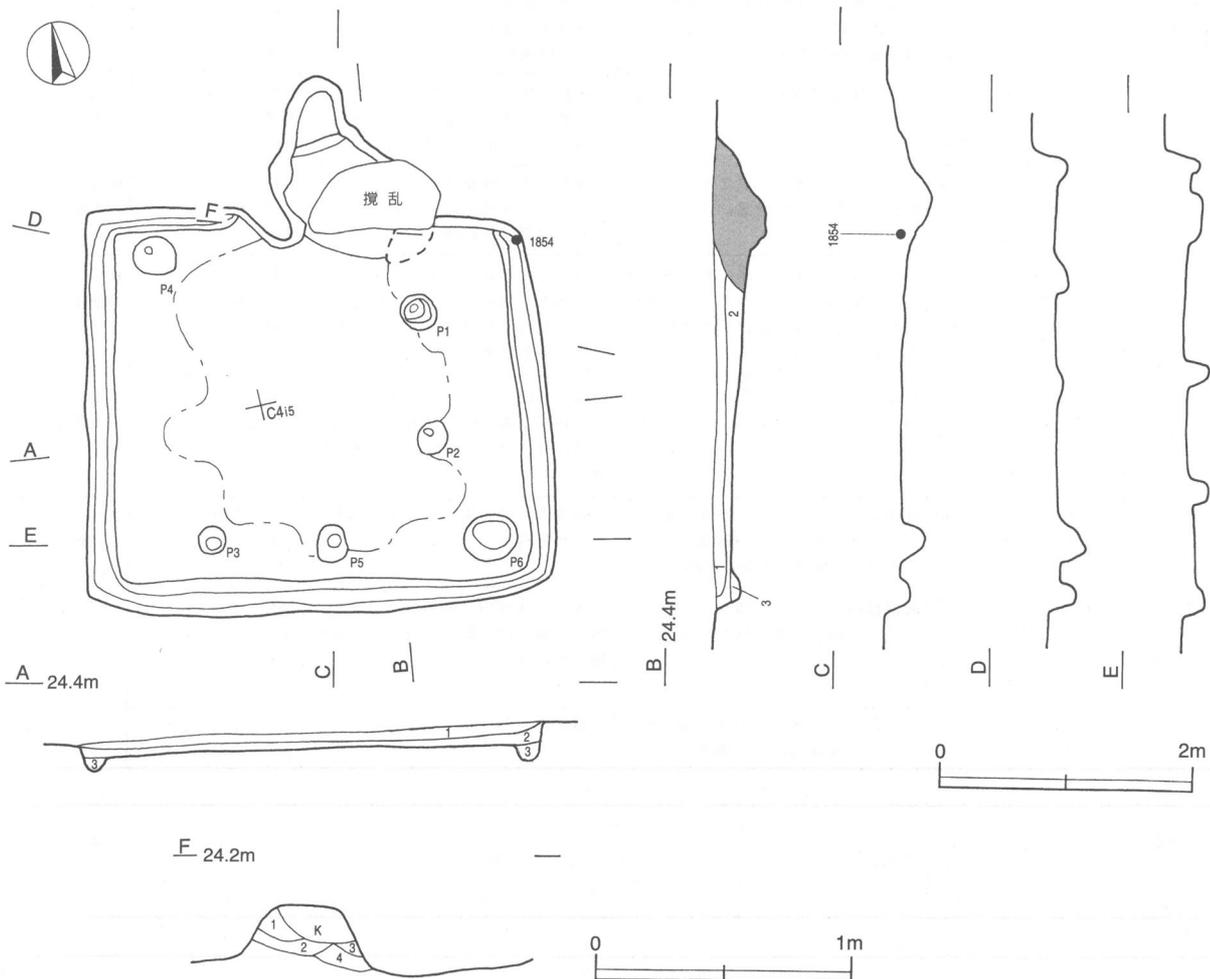
床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで, 床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ145cmである。東袖が攪乱により壊されているため, 袖部最大幅は約120cmと推定される。袖部は, 砂質粘土混じりの褐色土で構築されている。煙道部は, 北壁を幅85cm, 奥行き100cmにわたり, 逆U字状に掘り込んでおり, 煙道は30度の傾きで立ち上がる。

竈土層解説

- | | | |
|--------|------------------------------------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 小ブロック少量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黄褐色 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土 | 砂質粘土粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P6は径20~40cmの円形, 深さ12~20cmである。P5は南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。P1とP3は規模や配置から



第528図 第468号住居跡実測図

主柱穴の可能性もある。P 2・P 4・P 6 は性格不明である。

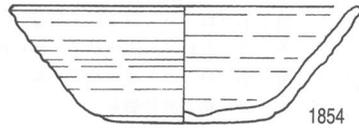
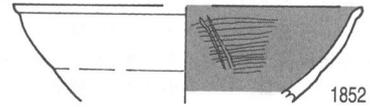
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片82点, 須恵器片39点が出土している。第529図1854の須恵器坏は北東コーナー部の壁溝底面から, 1852の土師器坏は覆土中から出土している。1854の底部は切り離しが雑なため, 雑なヘラナデを施しているものの丸みを帯びた底部である。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀中葉と推定される。



第529図 第468号住居跡出土遺物実測図

第468号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第529図 1852	土師器 坏	A [13.8] B (3.8)	体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。口縁端部は丸い。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内面黒色処理	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色普通	5%
1854	須恵器 坏	A 13.9 B 4.6 C 5.2	丸底気味。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後, 雑なヘラナデのため, 底部が丸底気味。	砂粒・雲母・小石 灰オリーブ普通	50% PL236

第469号住居跡 (第530図)

位置 調査区域の北西部, C 4 g5区。

重複関係 第1160・1171号土坑, 第42B号溝に掘り込まれており, いずれよりも本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸3.37m, 短軸3.20mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は18~26cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈と北壁の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅7~15cm, 下幅5~11cm, 深さ5~8cmで, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 特に踏み固められている部分はみられない。全面が貼床で, 確認面から28~40cmの深さに掘り込み, ロームブロックを主体とするにぶい黄褐色土を埋土して構築されている。

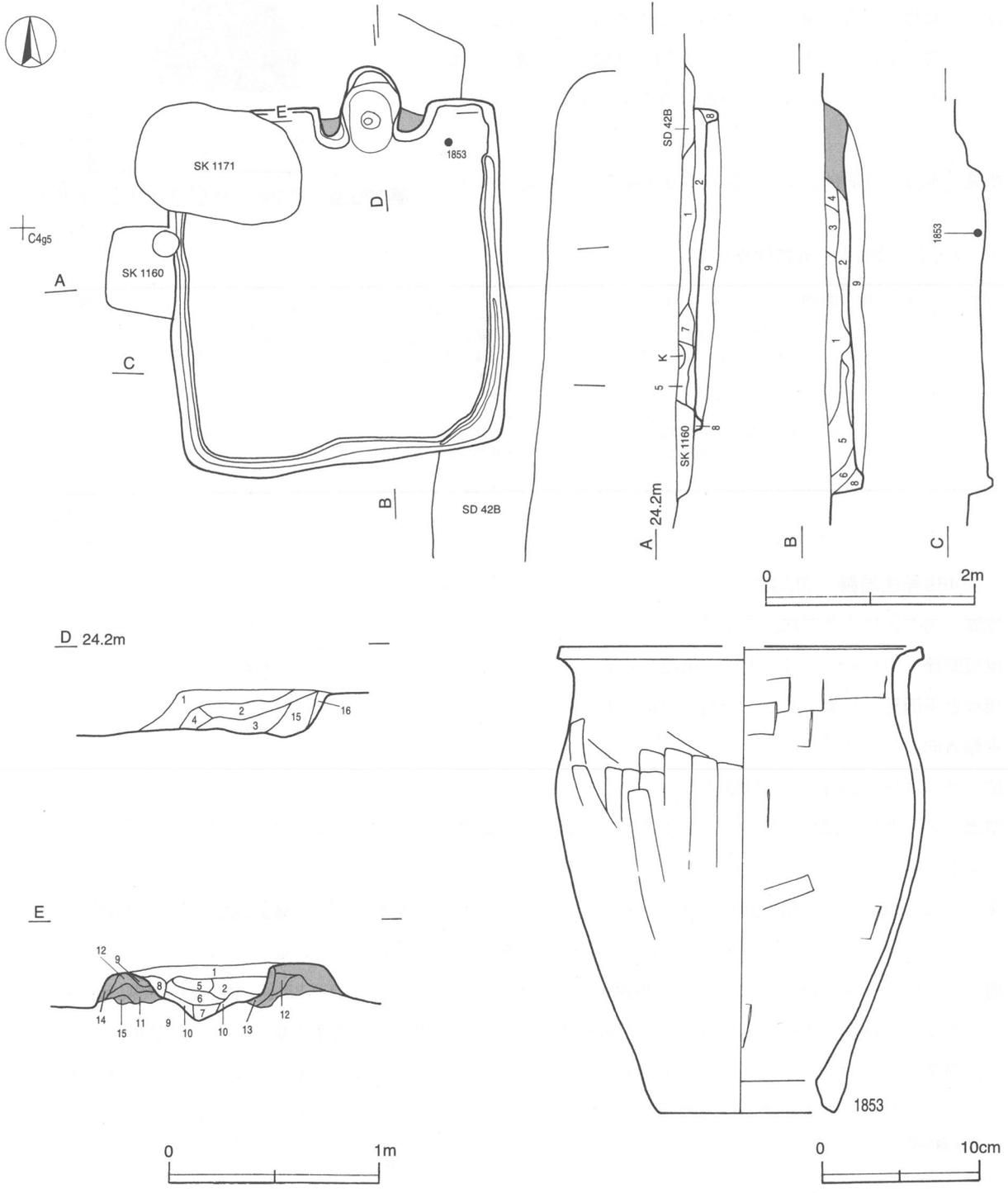
竈 北壁の中央部に設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ83cm, 袖部の最大幅は118cmである。袖部は, 砂質粘土粒子を多量に含んだ黄褐色土を芯とし, 周りに砂質粘土粒子を含んだ暗褐色土を貼り付けて構築されている。煙道部は北壁を幅95cm, 奥行き45cmにわたり長方形に掘り込んでいる。煙道は60度の傾きで立ち上がる。火床部は径18cm円形で, 床面から10cmほどくぼみ, 北壁ライン上にある。

竈土層解説

- 1 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量

- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 9 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・砂粒微量

- 10 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 11 黄褐色 砂質粘土粒子多量, 炭化粒子微量
- 12 暗褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
- 13 黒褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 14 暗褐色 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 15 暗褐色 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 16 黄褐色 粘土中ブロック多量



第530図 第469号住居跡・出土遺物実測図

覆土 8層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黄褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量(貼床) |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片94点, 須恵器片7点が出土している。土師器甕・甌の破片が大部分で, 須恵器・土師器をあわせても食膳具は4点と非常に少ない。図示できた遺物は第530図1853の土師器甌のみで, 北東コーナ一部覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉と推定される。

第469号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第530図 1853	甌 土師器	A [22.2] B 29.5 C 11.0	無底式。体部は外傾して立ち上がり最大径を上位にもつ。口縁部は短く外側に折れる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ヘラナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石にぶい橙色普通	70% PL236

第470号住居跡 (第531・532図)

位置 調査区域の北西部, C 3g0区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.56mの方形である。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は10~14cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で, 特に踏み固められている部分はみられない。地山を平坦に掘り込んで, 床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。竈の遺存状況は悪く, 袖・火床部などは確認できなかった。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ65cmである。煙道部は, 北壁を幅55cm, 奥行き50cmにわたりU字形に掘り込んでい。煙道は28度の傾きで立ち上がる。火床面は北壁ラインより外側に位置し, 雲母片岩製の支脚が据えられた状態で出土している。

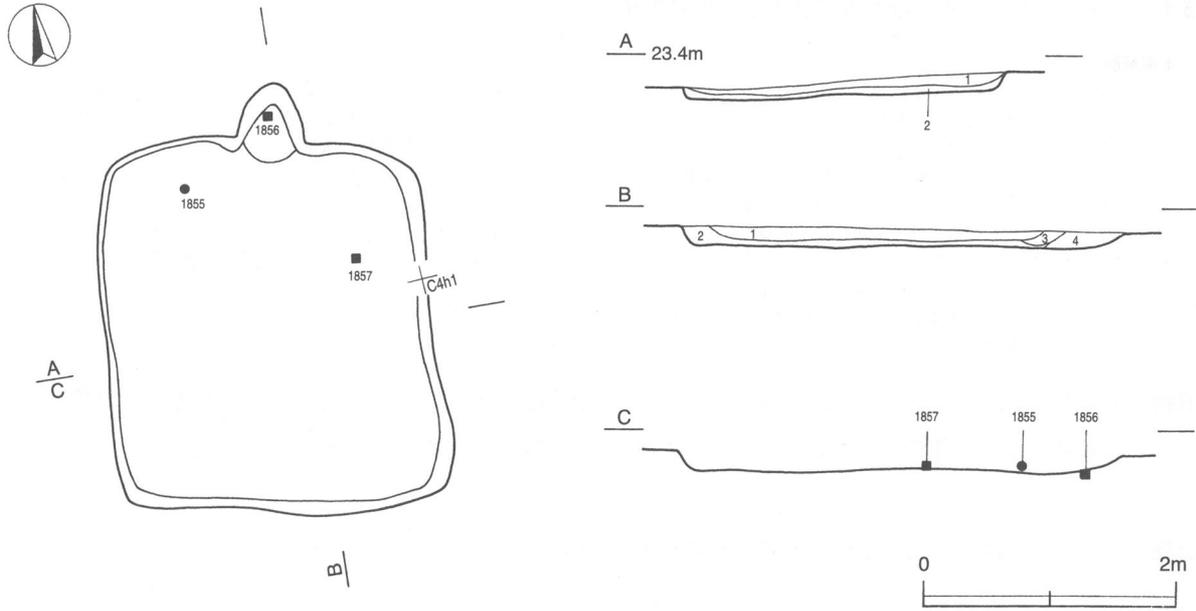
覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と思われる。土層断面図中第4層は竈の覆土である。

土層解説

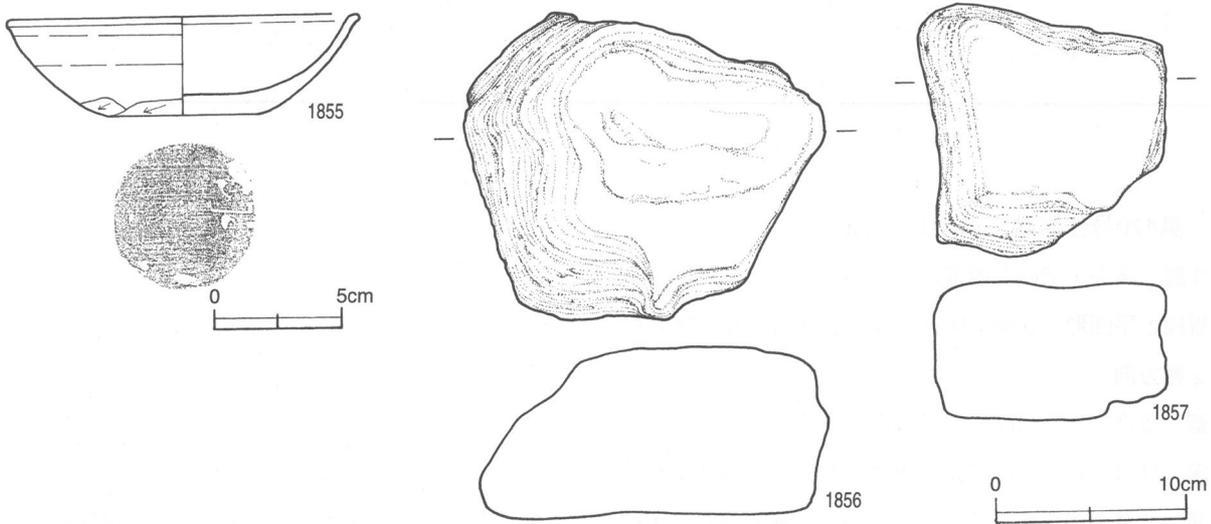
- | | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |

遺物 土師器片67点, 須恵器片8点, 支脚2点(雲母片岩)が出土している。第532図1855の土師器杯は, 北西部の床面から出土している。1856・1857は雲母片岩である。前者は竈の火床面に据えられていたもので, 支脚として使用されていたものである。後者は北東部の床面から出土しており, 竈袖が完全に壊れていることから竈部材の可能性も考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と推定される。



第531図 第470号住居跡実測図



第532図 第470号住居跡出土遺物実測図

第470号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第532図 1855	坏 土師器	A 13.9 B 3.9 C 6.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部は細くすぼむ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	60% P L 236

遺跡番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1856	支脚	16.2	18.2	8.8	3140	雲母片岩	火熱を受けている。	P L 253
1857	支脚	13.3	12.9	7.3	1720	雲母片岩	火熱を受けている。	P L 253

第471号住居跡（第533～535図）

位置 調査区域の北西部，C 4 e5区。

重複関係 第472号住居に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.98m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は27～36cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて，壁下を巡っている。上幅9～15cm，下幅5～10cm，深さ5～8cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。天井部・甕掛け口・袖部が確認され，遺存状況は良好である。規模は，焚口部から煙道部までの長さ68cm，袖部最大幅108cmである。袖部は，黄褐色粘土ブロックと粒子で，天井部は黄褐色粘土ブロックを主体とする灰黄褐色土とロームブロックを主体とする黄褐色土で構築されている。煙道部は北壁を幅60cm，奥行き15cmほど掘り込み，壁外への掘り込みはごくわずかである。煙道は58度の傾きで立ち上がる。火床面は地山を利用している。甕掛け口は北壁のライン上よりわずかに内側にあり，長径26cm，短径17cmの楕円形で，周囲は5cmの厚さで赤変硬化している。

竈土層解説

1 黄褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黄褐色	ローム粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黄褐色	ローム大ブロック多量，炭化物中量，粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	10 灰黄褐色	粘土大ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量
4 黄褐色	粘土中ブロック・粘土粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 赤褐色	焼土粒子・粘土小ブロック多量，焼土小ブロック中量 (赤変硬化した内壁)
5 黄褐色	粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物微量	12 黄褐色	粘土小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 黄褐色	焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量	13 暗赤褐色	焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・粘土小ブロック少量，焼土大ブロック微量 (赤変硬化した内壁)
7 黒褐色	灰中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量		

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は径30～35cmの円形，深さ35～43cmで，規模や配置から主柱穴と思われる。P5は南壁中央部の壁際に位置し，径25cmの円形，深さ30cmである。P5の周りには馬蹄形の粘土の高まりがあり，P5は位置と規模から出入口施設に伴うピット，馬蹄形の高まりは出入口施設の一部と考えられる。

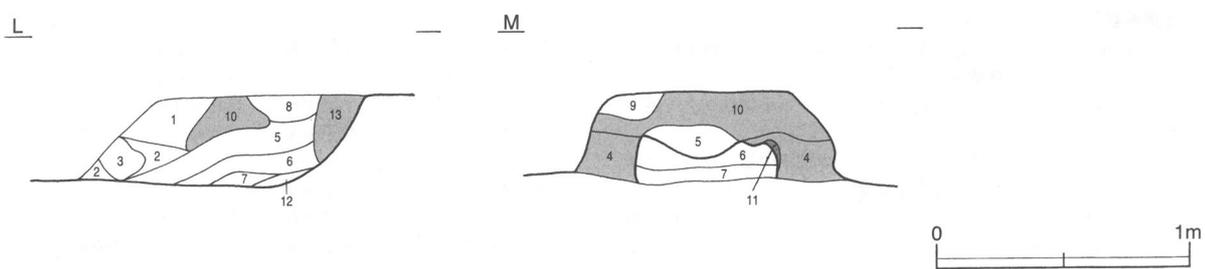
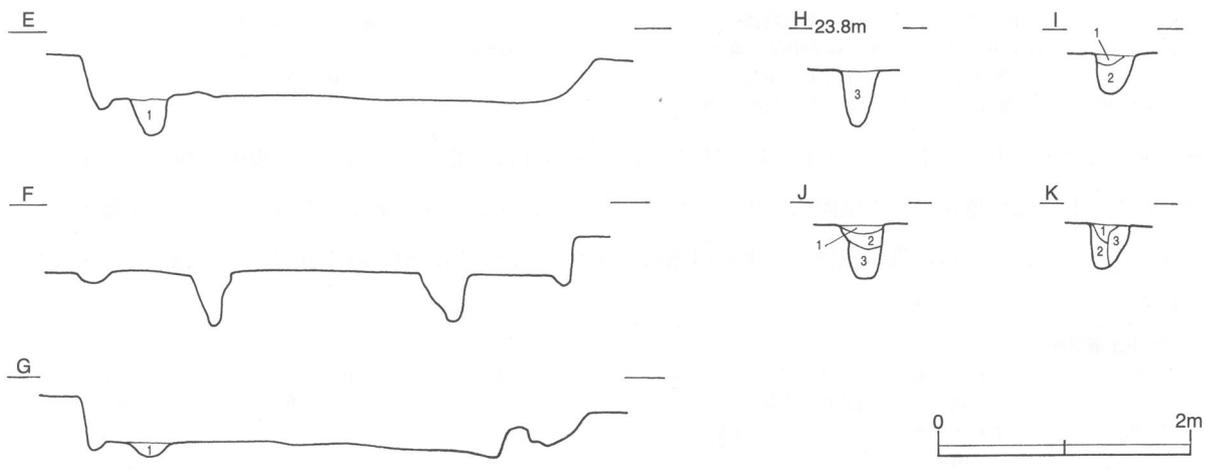
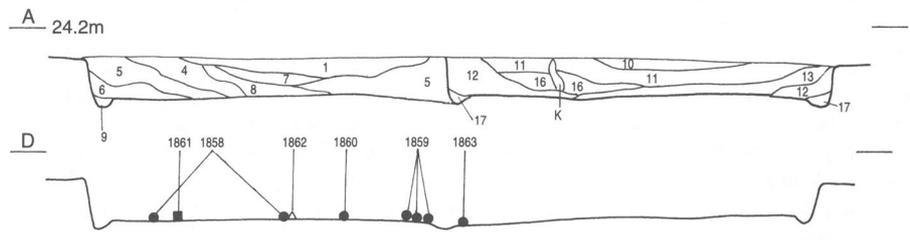
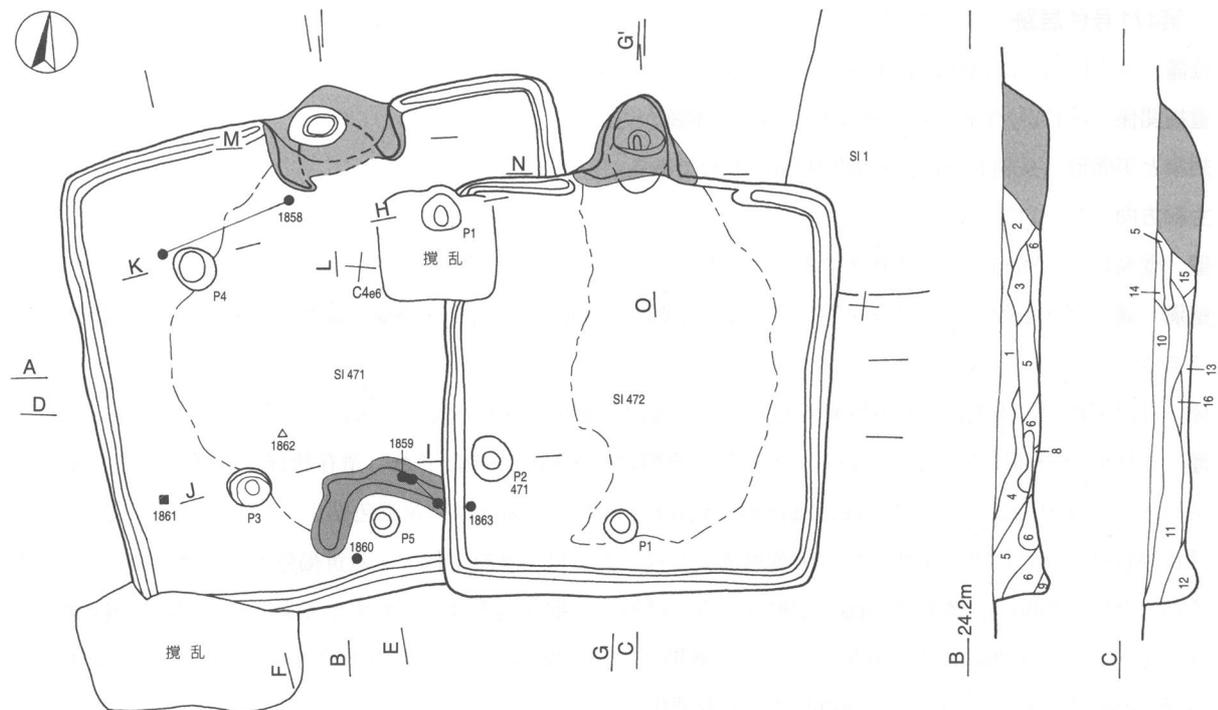
ピット土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化材微量
2 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量		

覆土 9層からなる。不規則な堆積状況から，人為堆積と思われる。

土層解説

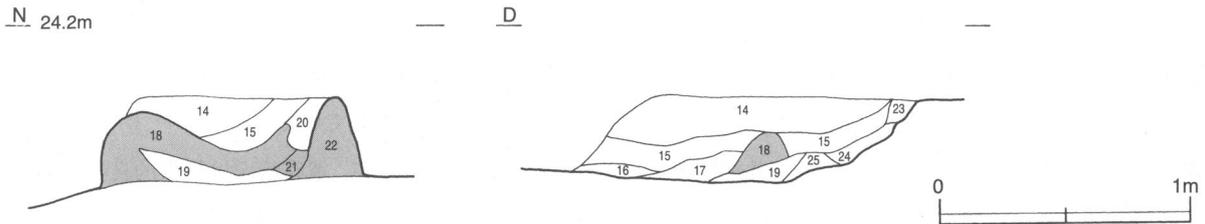
1 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	5 黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂粒少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	6 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4 にぶい黄褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
		9 にぶい黄褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量



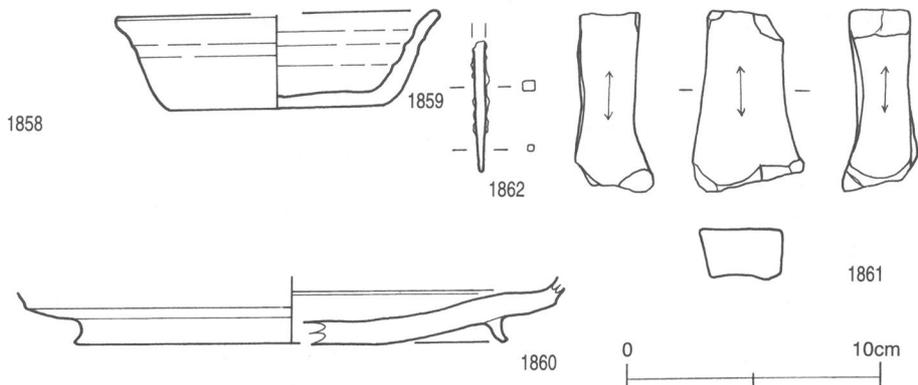
第533图 第471·472号住居跡实测图

遺物 土師器片63点，須恵器片61点，鉄器2点（鏃），石器1点（砥石）が出土している。第535図1858・1859は須恵器坏で，前者は北西部の床面から，後者は出入口施設に伴うピットの周りの馬蹄形の高まり部の床面からそれぞれ出土している。1859はわずかに丸底状を呈している。1860の須恵器盤は南壁際の中央部最下層から，1861の砥石は南西部の床面から，1862の鉄鏃は中央部の最下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器や住居跡の重複関係から8世紀後葉と推定される。



第534図 第472号住居跡実測図



第535図 第471号住居跡出土遺物実測図

第471号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第535図 1858	坏 須恵器	A 13.9 B 4.5 C 8.6	平底。底部内面中央はくぼむ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。端部はわずかに肥厚する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，外周手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 外面暗青灰色・内面青灰色，普通	80% P L 236
1859	坏 須恵器	A [12.7] B 3.7 C 8.0	丸底気味。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で外反する。	口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 オリーブ灰色 普通	50% P L 236
1860	盤 須恵器	B (2.6) D [17.0] E 1.0	底部の破片。丸底気味の底部に高台が付く。高台はハの字状で，接地面が細くなる。	内面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・角礫・黒色粒子，オリーブ灰色 普通	30% P L 236

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1861	砥石	[7.2]	4.4	2.0	102.1	砂岩。砥面は4面。	P L 253

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	筈被長(cm)	筈被幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	重量(g)			
1862	鏃	(5.2)	(3.9)	0.4	1.3	0.2	(3.7)	鉄	鏃身部欠損。	

第472号住居跡 (第533・534・536図)

位置 調査区域の北西部, C 4 e6区。

重複関係 第471号住居跡を掘り込み, 本跡の上部に第1号住居が構築されていることから, 本跡は, 第471号住居跡より新しく, 第1号住居より古い。

規模と平面形 長軸3.35m, 短軸3.03mの長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は18~36cmで, ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅8~13cm, 下幅4~8cm, 深さ8cmで, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。地山を掘り込んで, 床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。天井部は押しつぶされた状況ではあるが, 遺存状況は比較的良好である。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ78cm, 袖部最大幅93cmである。袖部と天井部は黄褐色粘土ブロックを主体とするにぶい黄褐色土で構築されている。煙道部は, 北壁を幅93cm, 奥行き65cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は22度の傾きで立ち上がる。火床面は地山を利用し, 壁外に位置している。支脚は石製であるが大変脆く, 山砂が焼けたような状況を呈するものであり, 火床部に据えられていた。

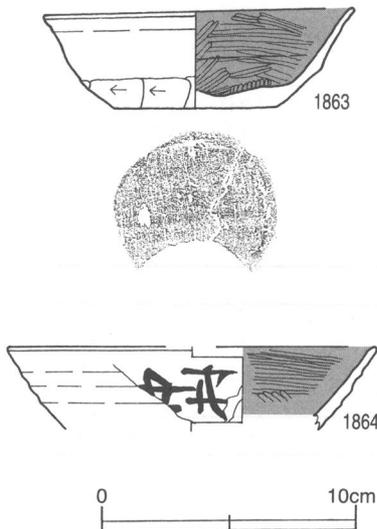
竈土層解説

14 暗褐色	ローム粒子・粘土中ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	20 にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子・粘土中ブロック微量
15 黒褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック微量	21 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック微量
16 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	22 にぶい黄褐色	粘土大ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
17 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	23 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
18 にぶい褐色	粘土大ブロック中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量	24 黒褐色	灰少量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
19 黒褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰微量	25 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大ブロック少量, 炭化物・炭化粒子・灰微量

ピット 1か所。P1は径28cmの円形, 深さ10cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 にぶい黄褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
----------	-------------------------------



覆土 8層からなる。不規則な堆積状況をしていることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

10 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
11 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12 にぶい黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13 にぶい黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14 灰黄褐色	黄褐色粘土中ブロック多量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15 にぶい黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
16 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第536図 第472号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片53点, 須恵器片37点, 灰釉陶器1点が出土している。第536図1863は西壁際の床面から出土した土師器坏である。1864の土師器坏は南東部の覆土中から出土しており, 体部外面に横位で「仲村」の2文字が墨書されている。灰釉陶器は細片のため図示することができなかったが, 長頸瓶と思われるものである。

所見 本跡の時期は, 住居跡の重複関係や出土土器から9世紀後葉と推定される。

第472号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第536図 1863	坏 土師器	A 12.0 B 4.0 C 6.3	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部で外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部1方向の手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・長石にぶい橙色普通	70% PL236
1864	坏 土師器	A [14.4] B (3.3)	口縁部片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・長石にぶい橙色普通	10% PL249 体部外面横位墨書「仲村」

第473号住居跡 (第537~539図)

位置 調査区域の北西部, C4c5区。

規模と平面形 長軸5.28m, 短軸4.14mの長方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は20~38cmで, ほぼ直立する。

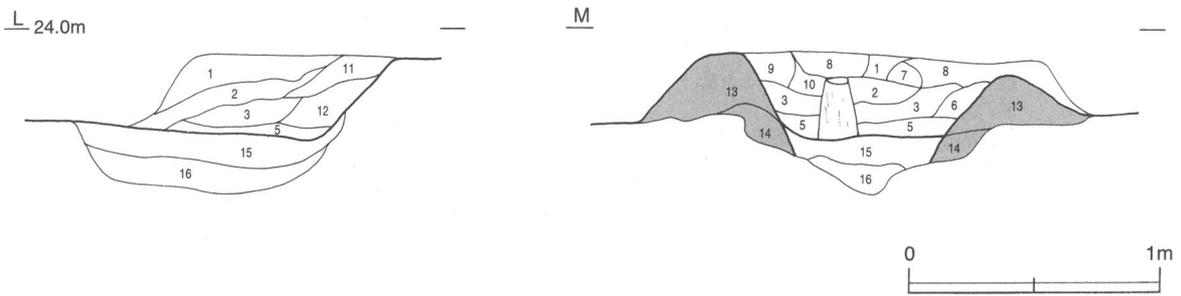
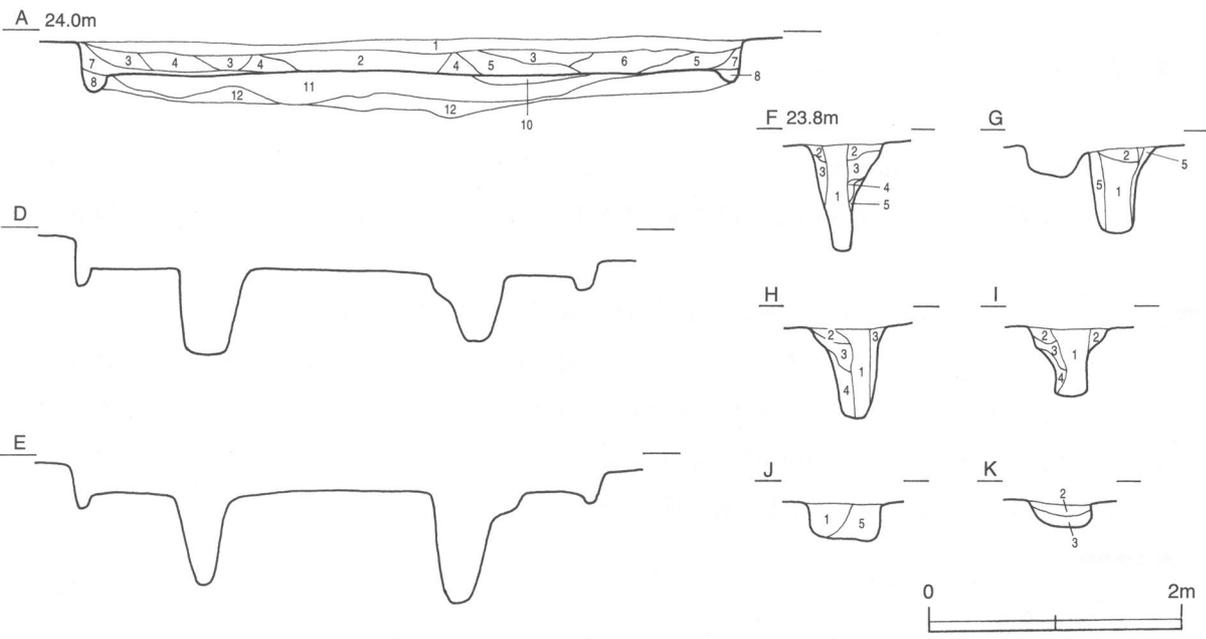
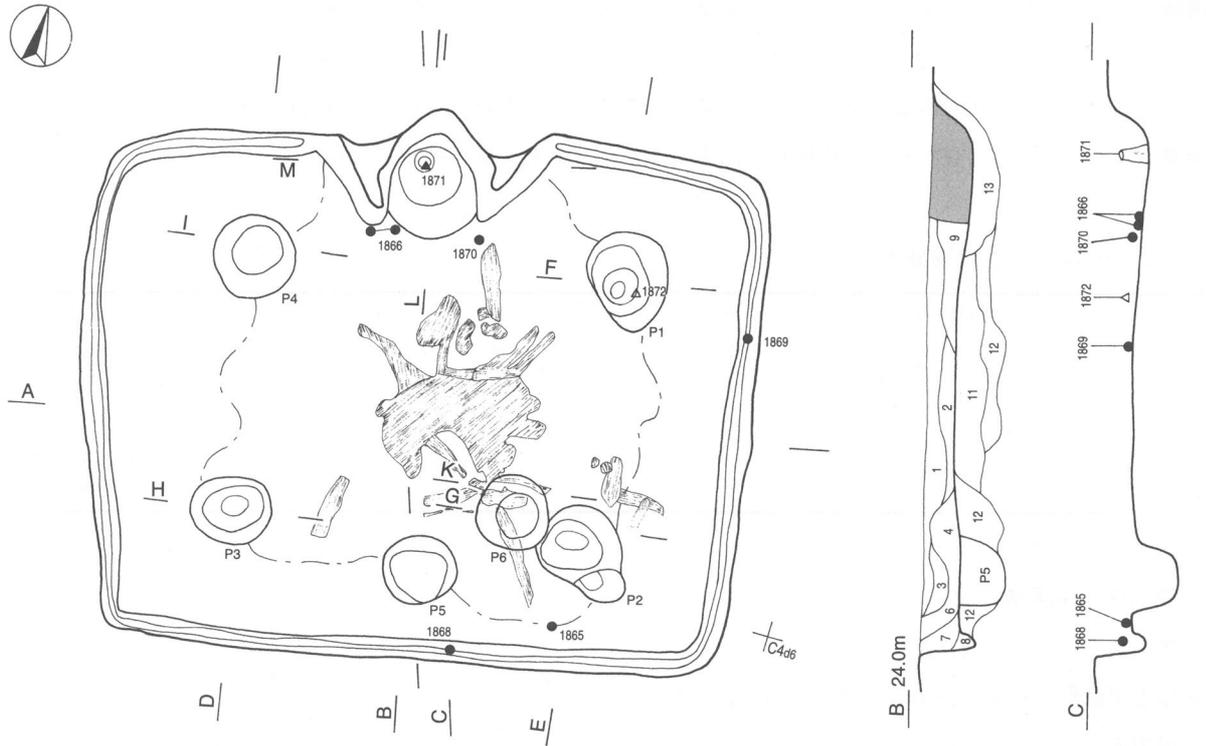
壁溝 竈の部分を除いて, 壁下を巡っている。上幅8~15cm, 下幅4~8cm, 深さ10~15cmで, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は, 全体的に確認面から深さ40~50cm, 中央部は確認面からの深さ60cmで径180cmの不整形に掘り込み, ロームブロックを埋土して構築されている。

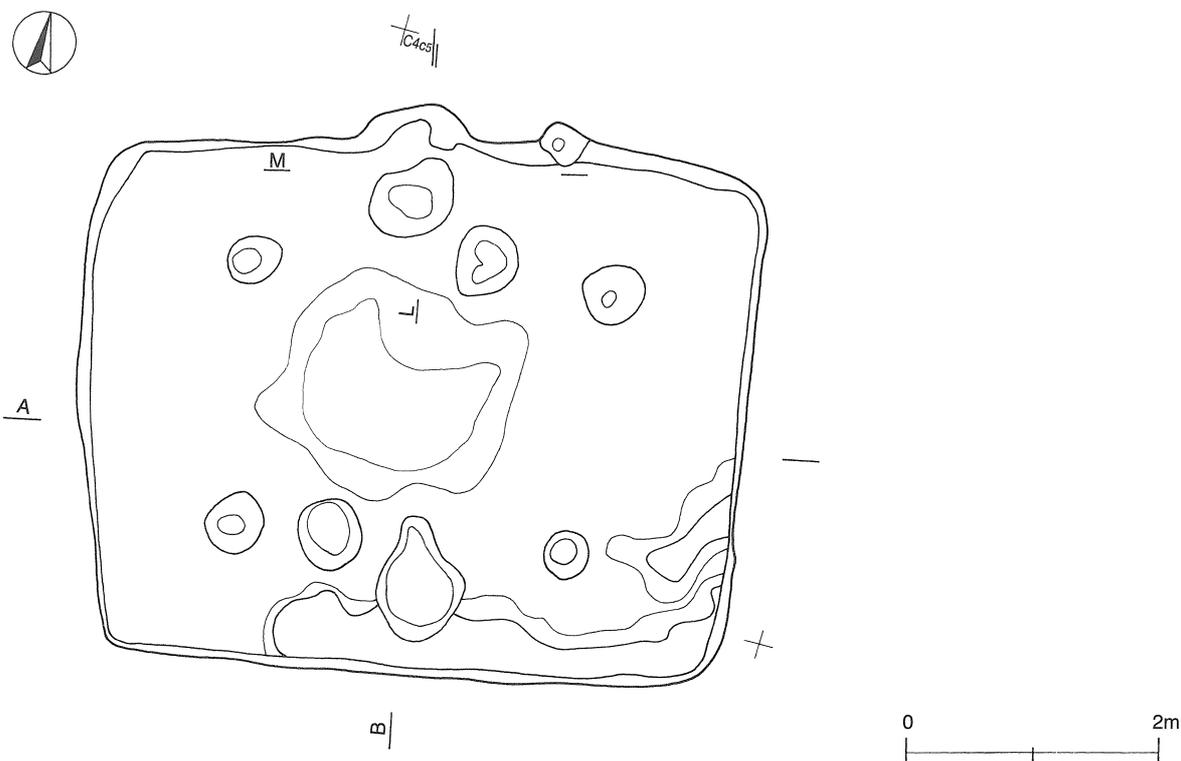
竈 北壁中央部に設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ108cm, 袖部最大幅は178cmである。袖部は, 砂質粘土とロームブロックを含む暗褐色土で構築されている。煙道部は北壁を幅108cm, 奥行き31cmにわたり半円形に掘り込んでおり, 煙道は50度の傾きで立ち上がる。焚口部から火床部は, 確認面から45~55cmの深さで長径83cm, 短径70cmの楕円形に掘り込み, ロームブロックを含んだ暗褐色土でつくっている。火床部は北壁のわずかに内側にあり, 土製支脚が据えられている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
2 灰褐色	焼土中ブロック・炭化材少量, ローム粒子微量	11 褐色	焼土中ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量
3 明褐色	焼土中ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4 明褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	砂質粘土小ブロック中量, ローム小ブロック少量
5 にぶい黄褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	14 にぶい黄褐色	砂質粘土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
6 灰黄褐色	砂質粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	15 暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化物微量(掘り方)
7 にぶい黄褐色	砂質粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	16 暗褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量(掘り方)
8 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土小ブロック少量		
9 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量		



第537图 第473号住居迹实测图(1)



第538図 第473号住居跡実測図(2)

ピット 6か所 (P1～P6)。P1～P4は長径80cm, 短径63cmの楕円形, 深さ50～85cmで, 規模や位置から主柱穴と思われる。P5は径52cmの円形, 深さ37cmで, 南壁際の中央部に位置するもので, 規模からも出入口施設に伴うピットと思われる。P6はP2の西に近接する径60cmの円形, 深さ27cmのピットで, 性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | | |

覆土 9層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

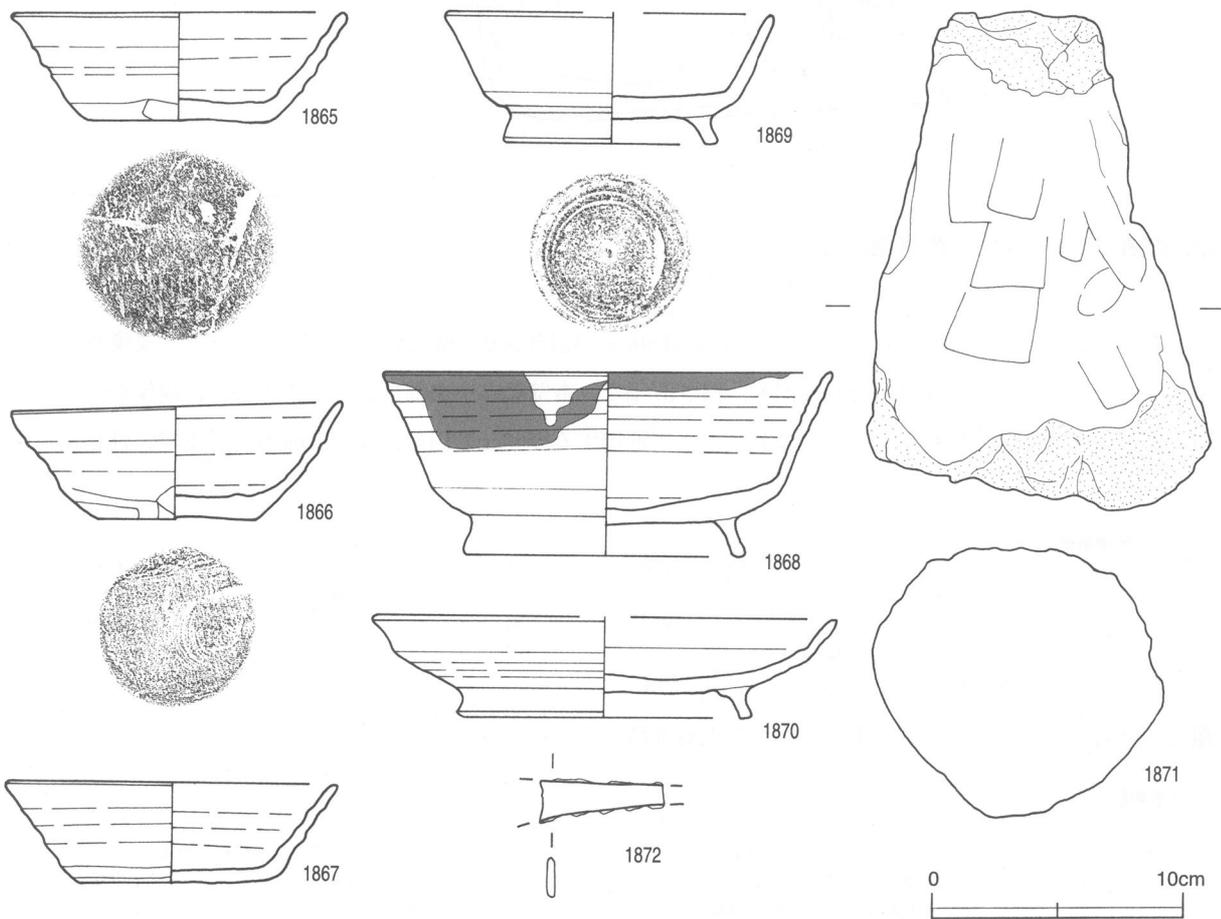
土層解説

- | | | | |
|-------|---|-----------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量 | 9 黒褐色 | 炭化材中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 (貼床) |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量 (貼床) |
| 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量 | 12 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 (貼床) |
| | | 13 暗褐色 | 竈土層断面第15・16層と同一 |

遺物 土師器片318点, 須恵器片179点, 灰釉陶器1点, 鉄器1点(刀子1)が出土している。床面の中央部には炭化材が集中して見られる。出土土器の割合をみると, 土師器では甕類が309点に対し坏類が9点, 須恵器

では甕類が35点に対し、坏類が102点であり、当該期の様相を良く示している。第539図の1865～1870はすべて須恵器である。1865の坏は南東コーナー部寄りの南壁際床面から、1866の坏は西袖付近の床面から、1867の坏は北東部の床下から出土している。1866は胎土に雲母を含んでおり新治窯産のものと思われるが、回転糸切り後1方向の手持ちヘラ削り調整を施しており特異なものである。1868の高台付坏は南壁中央部の覆土下層から、1869の高台付坏は東壁中央部の覆土最下層から、1870の盤は東袖付近の覆土最下層からそれぞれ出土している。1866を除いて雲母の他に角礫が多量に含まれ大変粗い胎土で、新治窯産のものである。1871は火床面に据えられていた土製支脚である。1872の刀子は北東部の覆土下層から出土している。

所見 出土土器の時期は、大部分が9世紀前葉までのものである。しかし、床面から出土している回転糸切り痕を残す須恵器坏1点が9世紀中葉の様相を示していることから、本跡の廃絶時期は9世紀中葉と推定される。



第539図 第473号住居跡出土遺物実測図

第473号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第539図 1865	坏 須恵器	A 12.9 B 4.4 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。底部は分厚い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 橙色、不良	95% P L236
1866	坏 須恵器	A 12.9 B 4.7 C 6.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。底部は分厚い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転糸切り後、1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰白色 普通	70% P L236

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第539図 1867	坏 須恵器	A 13.0 B 4.1 C 7.6	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部雑な1方向のヘラナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 暗緑灰色、普通	70% P L 236
1868	高台付坏 須恵器	A 17.5 B 7.4 D 10.9 E 1.5	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はハの字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰色、普通	70% P L 236 口縁部内・外面煤付着
1869	高台付坏 須恵器	A [12.8] B 5.2 D 8.3 E 1.1	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はハの字状にふんばる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 暗緑灰色、普通	70% P L 236
1870	盤 須恵器	A [18.1] B 4.0 D 10.9 E 1.2	体部は外方に開き、口縁部は屈曲して外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰色 普通	60% P L 237

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)			
1871	支脚	19.8	13.7	6.7	1740	土製	裾広がり。断面は円形。側面ヘラ削り。	P L 252

遺物番号	器種	計測値						材質	特徴	備考
		全長(cm)	刀身長(cm)	身幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)	重量(g)			
1872	刀子	(4.85)	—	—	(4.85)	1.6	(7.3)	鉄	茎部片	P L 254

第474号住居跡（第540～542図）

位置 調査区域の北西部，C 4 d3区。

規模と平面形 長軸4.65m，短軸4.18mの長方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は43～52cmで，ほぼ直立する。

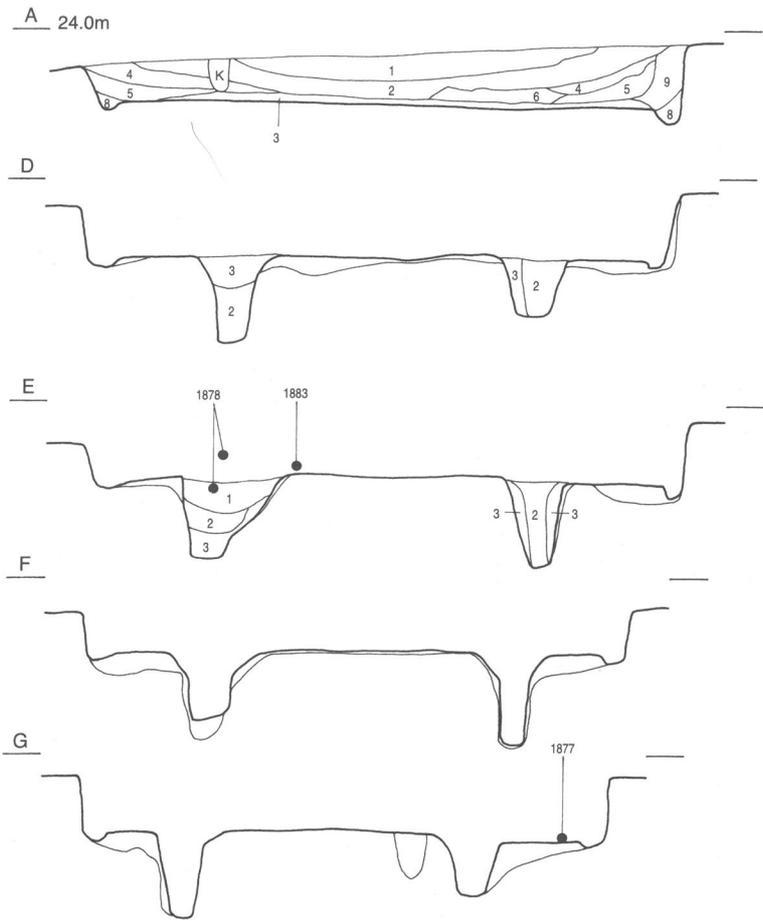
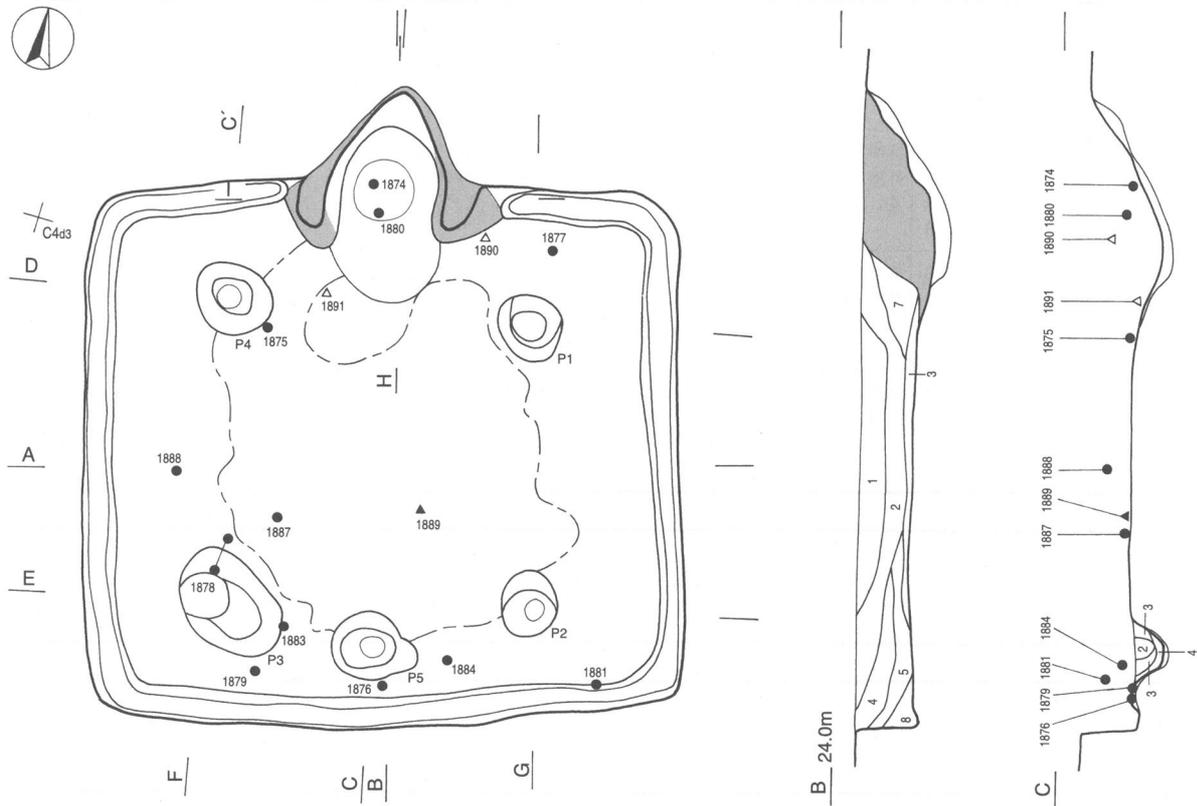
壁溝 竈の部分を除いて壁下を巡っている。上幅13～22cm，下幅9～18cm，深さ5～9cmで，断面は逆台形である。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。各コーナー部と壁際は貼床で，中央部は地山を床としている。貼床は，各コーナー部は確認面から50～70cmの深さで不整形に，壁際は15～25cmの幅で溝状に掘り込み，ロームブロックを含んだ褐色土で埋土して構築している。

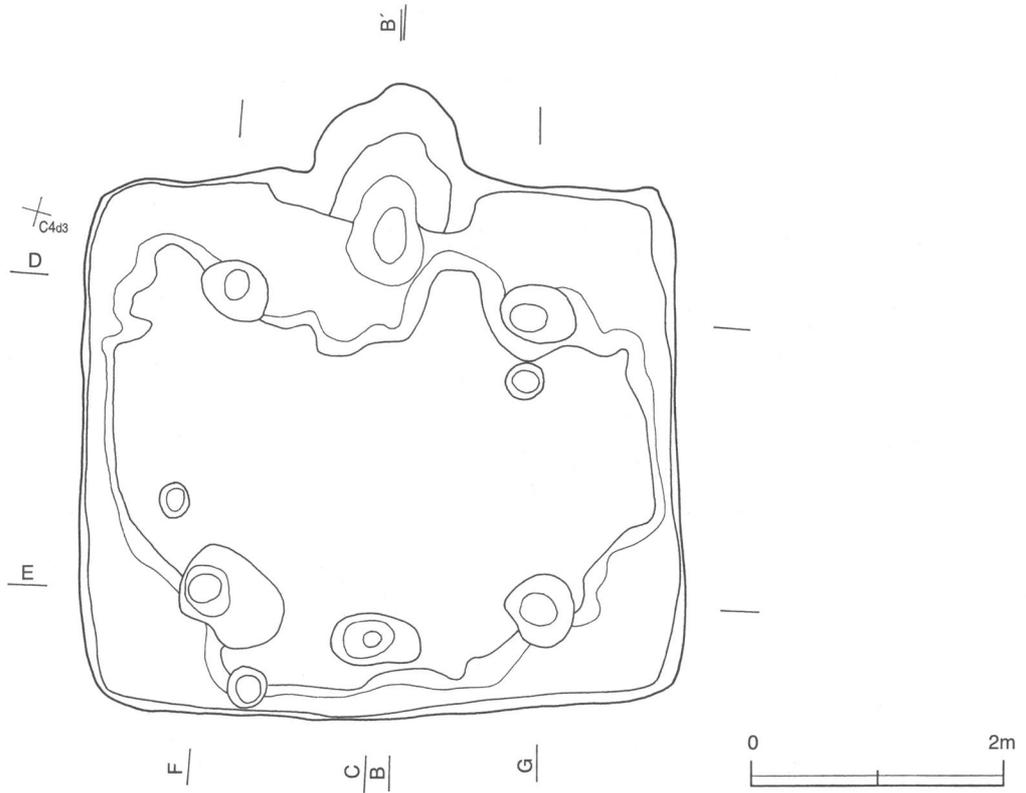
竈 北壁中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ170cm，袖部最大幅175cmである。袖部は砂質粘土で構築されている。煙道部は，北壁を幅140cm，奥行き78cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は38度の傾きで立ち上がる。焚口部から火床部は，確認面から35～70cmの深さで長径142cm，短径74cmの楕円形に掘り込み，ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子を含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインよりも30cm外側に位置し，支脚として転用された土師器小形甕が伏せて据えられていた。

竈土層解説

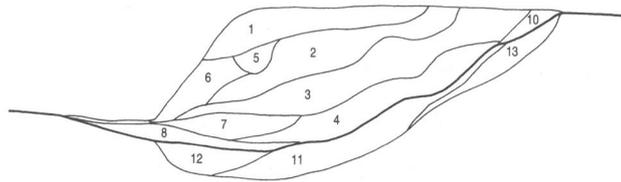
1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量	4 暗赤褐色	焼土粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，焼土大ブロック・ローム粒子微量
2 極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・砂質粘土粒子微量	5 暗褐色	焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子少量	6 極暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物微量



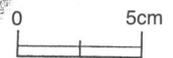
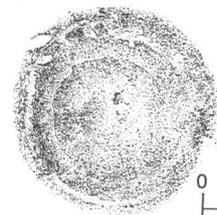
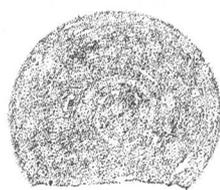
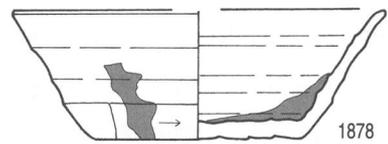
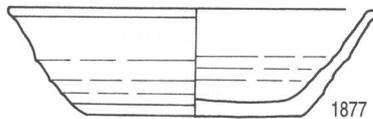
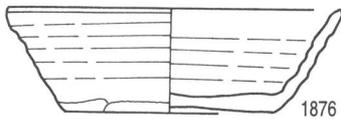
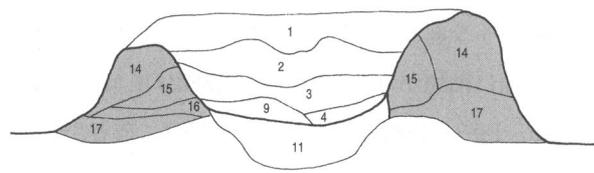
第540图 第474号住居跡実测图



H 24.0m



I



第541图 第474号住居跡・出土遺物実測図

7 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量（掘り方）
8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・砂質粘土粒子微量（掘り方）
9 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、砂質粘土粒子少量	14 にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
10 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土中ブロック多量、ローム粒子・焼土小ブロック微量
11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量（掘り方）	16 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土小ブロック微量
		17 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・砂質粘土粒子微量

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は長径53～95cm、短径45～64cmの楕円形、深さ45～70cmで、規模と配置から主柱穴と思われる。P5は長径70cm、短径55cmの楕円形、深さ32cmで、南壁際の中央部に位置しており、出入口施設に伴うピットと思われる。

ピット土層解説

1 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量	3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量	4 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

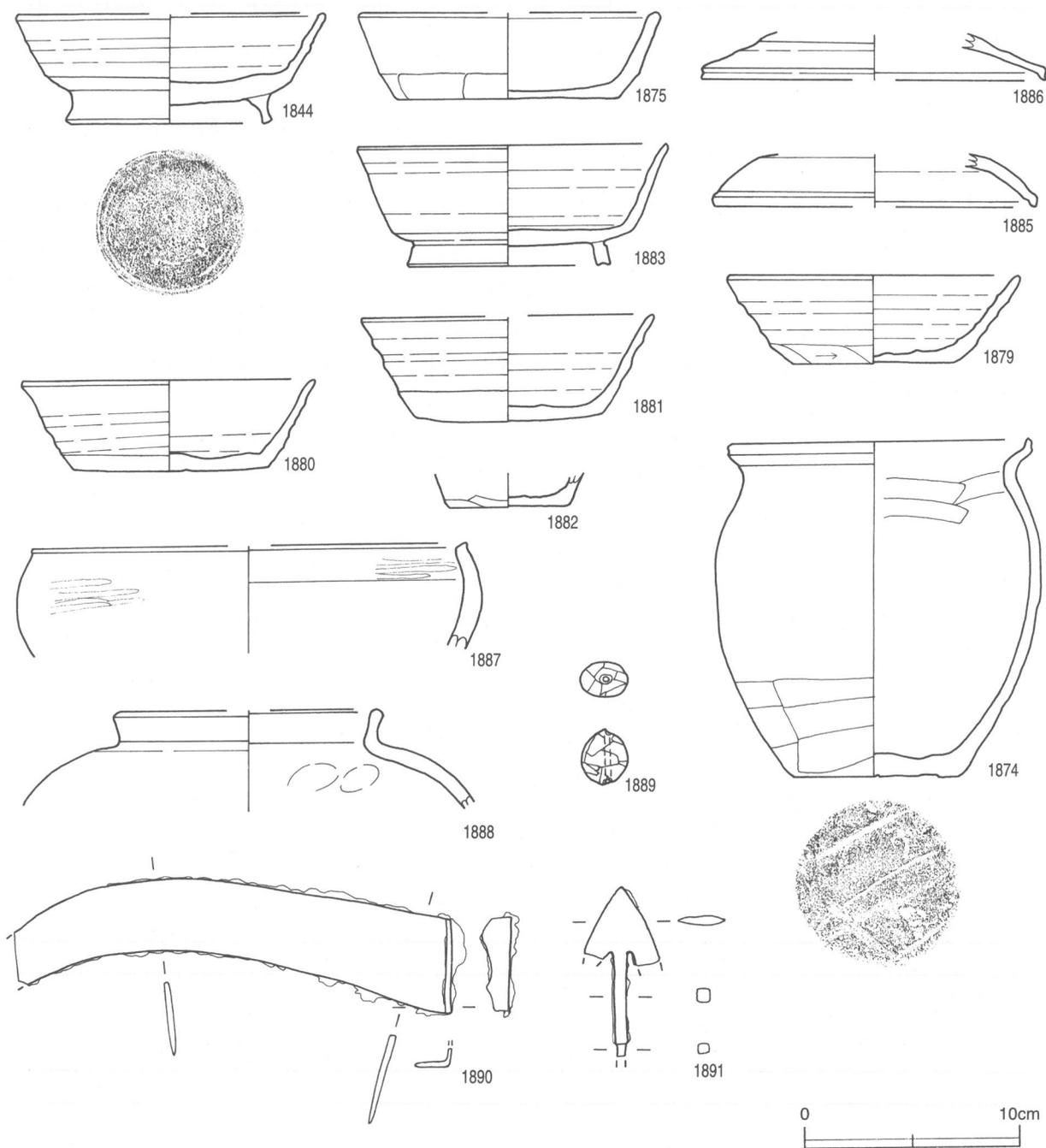
覆土 9層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・炭化物少量	5 極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量	6 暗褐色	焼土粒子中量、ローム大ブロック・炭化物少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・砂質粘土小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量	7 灰褐色	焼土小ブロック・砂質粘土中ブロック中量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量	8 極暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
		9 極暗褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック少量

遺物 土師器片408点、須恵器片322点、鉄器2点（鎌1・鍬1）、鉄製品2点（不明2）、土製品1点（土玉）が出土している。第542図1874の土師器小形甕は、竈内の底面に据えられており、支脚として転用されていたものである。1875～1881は須恵器坏である。1875は北西部の最下層から、1876は南壁際の床面から、1877は北東部の床面から、1879は南壁際の最下層から、1880は竈の覆土中層から、1881は南東コーナー部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。1878はP3の覆土中から出土した破片とP3脇の覆土中層から出土した破片が接合したものである。これらの坏の底部調整をみると、1875・1877・1881は体部下端と底部が回転ヘラ削り、1776・1779・1780は体部下端及び底部が手持ちヘラ削り、1878は回転ヘラ切り痕を残す雑なヘラナデというようにバラエティに富んでいる。1878は内・外面に油煙が付着している。1882は南東部の覆土中から出土した底部片で、須恵器のコップ形の土器と思われる。1883・1884の須恵器高台付坏は、前者がP3脇の覆土下層から、後者が出入口施設に伴うピット付近の覆土下層から出土している。1883は焼成が非常に良く、胎土には白色針状物が含まれており、木葉下窯産のものと思われる。1885・1886の須恵器蓋は覆土中から出土している。1887の須恵器鉄鉢形土器はP3北側の床面から出土している。この鉄鉢形土器は須恵器ではあるが、口縁部内・外面に磨きが施されている。1888の須恵器短頸壺は、中央部から西寄りの覆土中層から出土している。1889の土玉は中央部の床面、1890の鎌は竈東袖部付近の覆土中層から、1891の鉄鍬は竈付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中葉と推定される。本跡からは鉄鉢形土器や油煙の付着した坏が出土しており、仏教との関連をうかがわせる住居跡である。



第542図 第474号住居跡出土遺物実測図

第474号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第542図 1874	小形甕 土師器	A 13.9 B 15.7 C 7.7	体部は丸みをもつ。頸部はくの字状に折れ、口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面上位ヘラナデ、下端手持ちヘラ削り。内面ナデ。底部ヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・角礫、橙色 普通	90% P L237 支脚転用
1875	坏 須恵器	A [13.6] B 4.0 C 10.2	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。体部から口縁部は器壁が厚い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰オリーブ色 普通	50% P L237
第541図 1876	坏 須恵器	A 13.1 B 4.2 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。ロクロ目が強い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 橙色 普通	70% P L237

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第541図 1877	坏須恵器	A 14.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 オリープ色 普通	80% P L 237
		B 4.2				
		C 8.3				
1878	坏須恵器	A [14.8]	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後雑なヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 灰オリープ色 普通	50% P L 237 底部内・外面 油煙付着。
		B 5.1				
		C 8.2				
第542図 1879	坏須恵器	A 13.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い、雲母・長石・ 角礫 灰色、普通	60% P L 237
		B 4.1				
		C 7.3				
1880	坏須恵器	A 13.4	平底。底部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、1方向のヘラ削り。	粗い、長石・角礫 灰色 普通	80% P L 237
		B 4.2				
		C 8.9				
1881	坏須恵器	A [13.4]	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	40% P L 237
		B 4.9				
		C 8.5				
1882	コップ形 須恵器	B (1.6)	底部片。平底。体部はわずかに外傾する。	内面ロクロナデ。体部下端・底部1方向の手持ちヘラ削り。	精良、砂粒 暗緑灰色、普通	10%
		C 5.5				
1883	高台付 坏須恵器	A 14.4	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はほぼ直立する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	砂粒・角礫 暗緑灰色 良好	70% P L 237
		B 5.6				
		D 9.4				
		E 1.2				
1884	高台付 坏須恵器	A [14.0]	底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。高台はハの字状に端部で反る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後、ロクロナデ。	粗い、砂粒・雲母・ 角礫 灰色 普通	60% P L 237
		B 5.1				
		D 9.2				
		E 1.5				
1885	蓋 須恵器	A [14.8]	口縁部の破片。天井部は高く、丸みをもつ。口縁端部は短くつまみ出されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	10%
		B (2.5)				
1886	蓋 須恵器	A [16.0]	口縁部片。口縁部は短く屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色、普通	20% P L 237
		B (2.1)				
1887	鉄鉢形土器 須恵器	A [20.0]	口縁部片。口縁部で内側に強く屈曲する。口縁端部に平坦面をもち、断面三角形である。	口縁部内・外面ロクロナデ。内・外面ヘラ磨き。	精良、砂粒 暗緑灰色 良好	10%
		B (5.0)				
1888	短頸壺 須恵器	A [11.7]	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ナデ。体部内面指頭押圧痕。	砂粒・雲母 灰色、普通	10%
		B (4.7)				

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
1889	土玉	2.5	2.1	1.72	0.2	7.10	土製	平面楕円形	P L 250

遺物番号	器種	計測値					材質	特徴	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃部最大幅(cm)	刃部最小幅(cm)	重量(g)			
1890	鎌	(20.2)	0.3	4.3	2.5	106.7	鉄	基部の折り曲げは1cm。	P L 256

遺物番号	器種	計測値							材質	特徴	備考	
		全長(cm)	鎌身長(cm)	鎌身幅(cm)	莖被長(cm)	莖被幅(cm)	茎長(cm)	茎幅(cm)				重量(g)
1891	鎌	(7.9)	3.0	(3.3)	4.3	0.6	(0.6)	0.5	(18.0)	鉄	鎌部欠損。	P L 256

第475号住居跡（第543・544図）

位置 調査区域の北西部，C 4 h9区。

重複関係 第462号住居，第1142・1143号土坑に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.08m，短軸2.90mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は18~26cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁と西壁、南壁の一部の壁下を巡っている。上幅10~12cm、下幅4~6cm、深さ10~15cmで、断面は逆台形である。

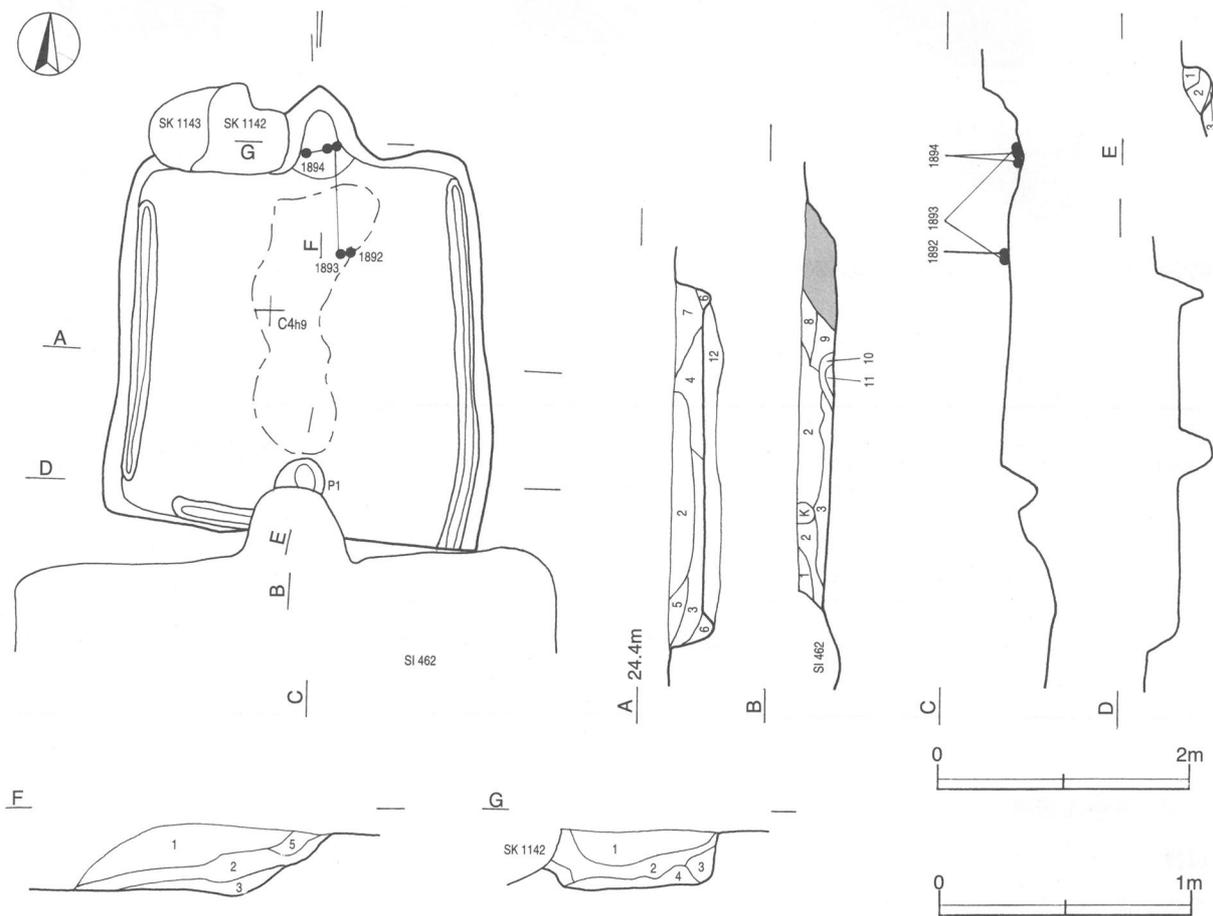
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。全面が貼床で、確認面から30~40cmの深さに掘り込んで、ロームブロックを主体とする褐色土を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ72cmである。西袖が土坑に掘り込まれているが、袖部最大幅は約65cmと推定される。袖部は砂質粘土で構築されている。煙道部は、北壁を推定で幅70cm、奥行き50cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道は40度の傾きで立ち上がる。火床部は、確認面から25cmの深さで径25cmの円形に地山を掘り込みつづっている。火床面は北壁ラインの外側につくられている。

竈土層解説

- | | | |
|--------|---|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量 | 子・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・砂質粘土粒子微量 | 4 褐色 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 |
| | | 5 赤褐色 |
| | | 焼土大ブロック多量 |

ピット 1か所。P1は径40cmの円形、深さ29cmで、南壁際の竈に対する位置で確認されており、出入口施設に伴うピットと思われる。



第543図 第475号住居跡実測図

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

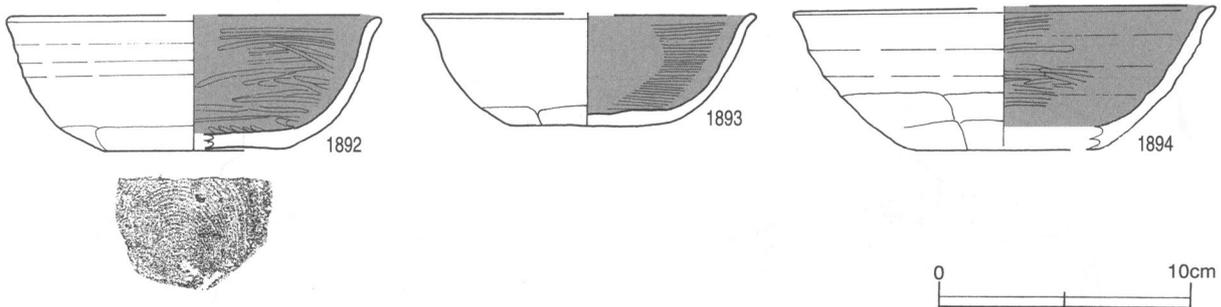
覆土 11層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量
- 7 極暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子微量
- 10 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 12 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量(貼床)

遺物 土師器片64点, 須恵器片13点が出土している。第544図1892~1894は土師器の椀である。1892は中央部北寄りの床面から出土しており, 底部に糸切り痕を残している。1893は, 中央部の北寄りの床面から出土した破片と竈の火床面から出土した破片が接合したものである。1894は竈の火床面から出土したものである。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係や出土土器から10世紀前葉と推定される。



第544図 第475号住居跡出土遺物実測図

第475号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第544図 1892	椀 土師器	A [14.3] B 5.4 C [7.0]	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部でわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部外面下端1方向の手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色, 普通	30% P L237
1893	椀 土師器	A [13.0] B 4.4 C 6.1	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部でわずかに外反する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部1方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色, 普通	50% P L237
1894	椀 土師器	A [16.9] B 5.6 C [7.5]	体部から口縁部破片。体部は内彎気味で, 丸みをもつ。口縁部は外反し, 口縁端部は内削ぎ状。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下面下端1方向の手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き, 黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	40% P L237

第476号住居跡 (第545・546図)

位置 調査区域の北西部, C 4 g9区。

重複関係 第477号住居に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.33m, 短軸3.23mの方形である。

主軸方向 N-7°-W。竈2の構築に伴い主軸も変更されているが, 住居構築時の主軸は竈1を通る軸線と

考えられる。

壁 壁高は22～27cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈と北西コーナー部を除いた壁下を巡っている。上幅10～16cm、下幅4～6cm、深さ9～13cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部分が踏み固められている。ほぼ東半分は地山を床とし、西半分は貼床である。貼床は、長径100～120cm、短径70～75cmの不整楕円形で、2か所確認面から50～55cmの深さで掘り込みがあり、ロームブロックを主体とする暗褐色土を埋土して構築している。

竈 2か所（竈1・竈2）。竈1は北壁の中央部に設けられているが、煙道部の掘り込みが幅55cm、奥行き20cmの三角形で残存しているだけである。竈2が構築されたため壊されたものと考えられる。竈2は、東壁の中央部からわずかに南寄りに設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ85cm、袖部最大幅は南袖が攪乱によって壊されているが約110cmと推定される。袖部は砂質粘土で構築されている。煙道部の掘り方は、東壁を幅98cm、奥行き44cmにわたり半円形に掘り込んでいいる。煙道は30度の傾きで立ち上がる。火床部は、東壁のライン上に長径40cm、短径30cmの楕円形に確認面からの深さ47cmほど掘り込んでいる。

竈2土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径20cmの円形、深さ19cmで、西壁中央部から南寄りの壁際の、竈2と対面する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径16cmの円形、深さ15cmで、西壁際の北西コーナー寄りに位置する。性格は不明である。

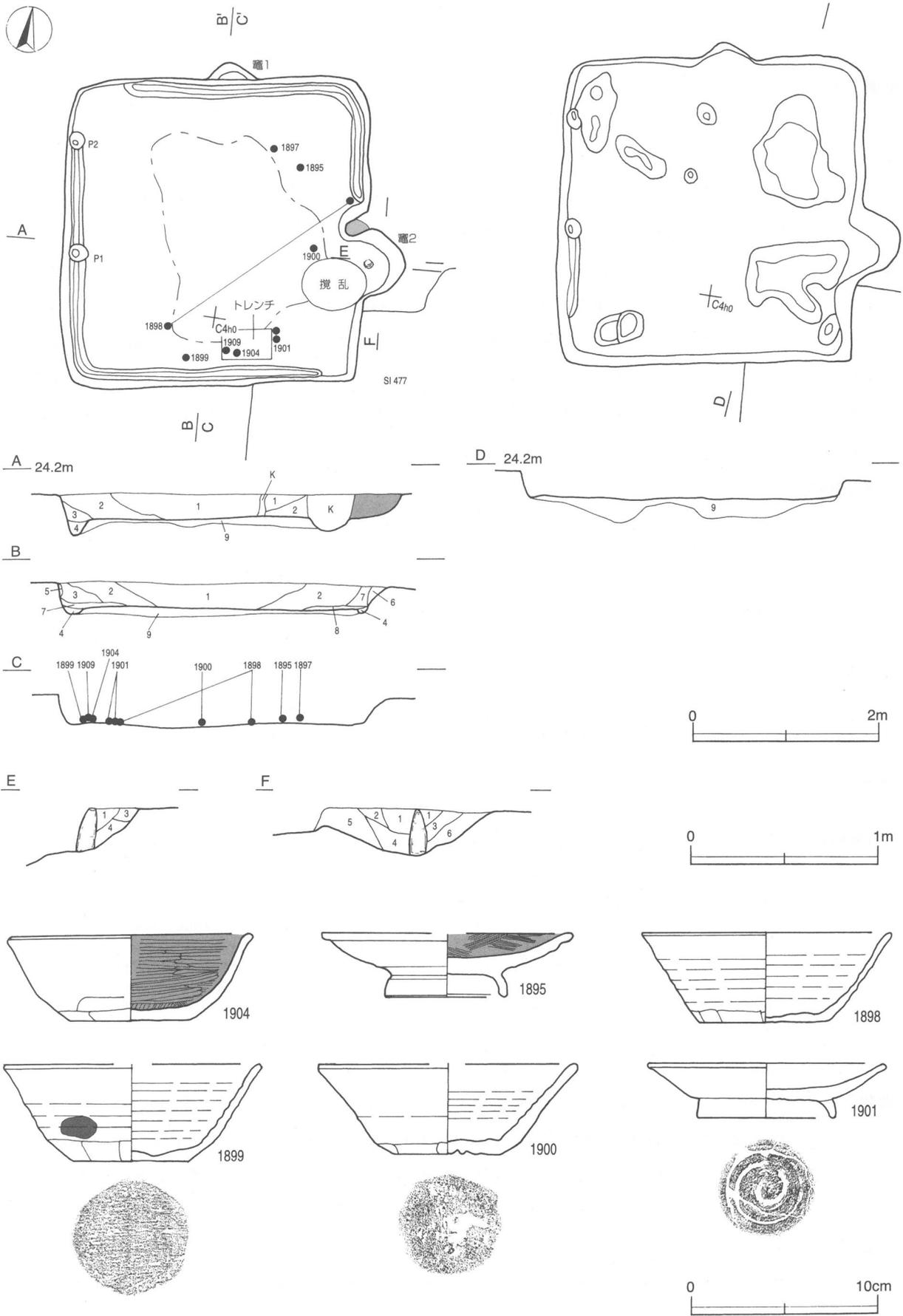
覆土 8層からなる。土層断面図中6層は竈1の覆土である。第1～5層はレンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

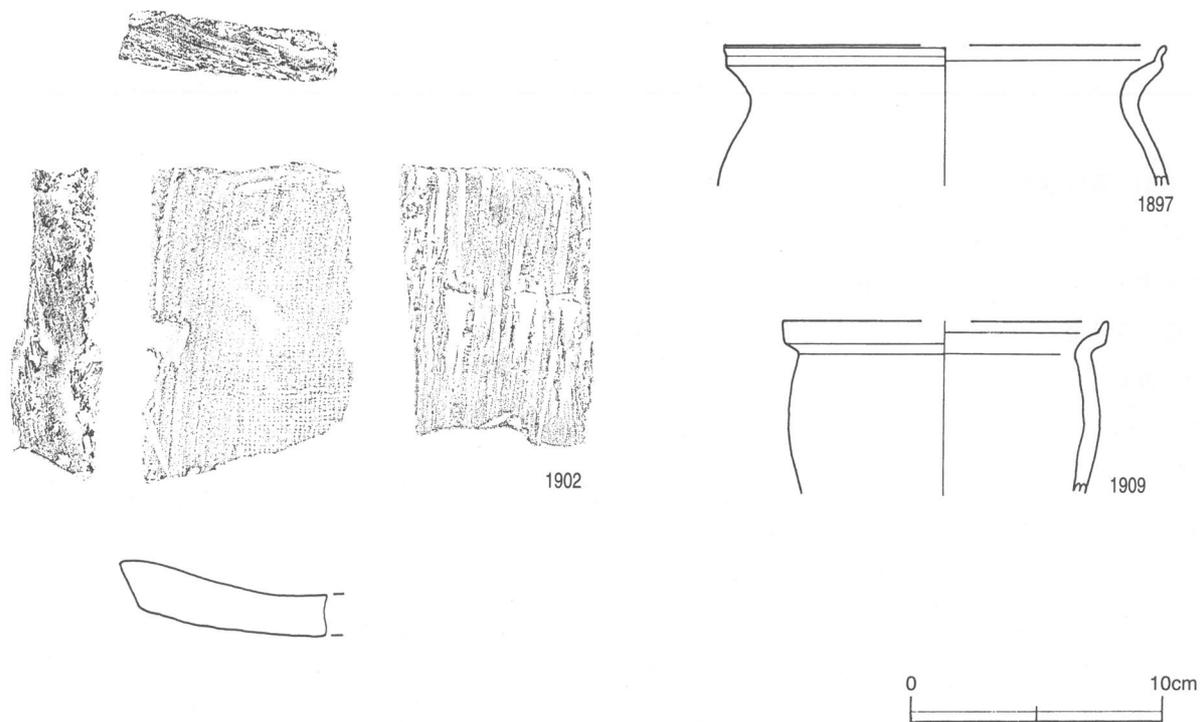
- | | | | |
|-------|---|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子微量（竈1） |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量（貼床） |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物 土師器片186点、須恵器片104点、灰釉陶器片4点、瓦片1点が出土している。第545図1895の土師器高台付皿、1897の土師器甕は北東部の覆土下層から、1899の須恵器坏、1904の土師器坏、1909の土師器小形甕は南壁際中央部の床面から、1900の須恵器坏は竈前面の床面から、1901の須恵器高台付皿は南東部の床面からそれぞれ出土している。1898の須恵器坏は、南西部の床面から出土した破片と竈北袖付近の床面から出土した破片が接合したものである。1902の平瓦は覆土中から出土したものである。灰釉陶器は長頸瓶の細片で、4片出土しており、接合はしないものの同一個体と思われる。釉はオリーブ色に発色し、胎土には砂質分が多く緻密な感じはない。

所見 本跡の時期は、住居跡の重複関係や出土土器から9世紀中葉と推定される。



第545図 第476号住居跡・出土遺物実測図



第546図 第476号住居跡出土遺物実測図

第476号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第545図 1895	高台付皿 土師器	A [13.2] B 3.3 D 6.4 E 1.3	体部は内彎気味に外方に大きく開き口縁部で外反する。高台はほぼ直立立し、端部は断面三角形。	口縁部・体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通	60% P L 237
第546図 1897	甕 土師器	A [17.4] B (5.6)	頸部片。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	5%
第545図 1898	坏 須恵器	A 13.4 B 4.8 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	90% P L 237 二次焼成
1899	坏 須恵器	A [13.6] B 5.2 C 6.1	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	70% P L 237 外面煤付着
1900	坏 須恵器	A [13.8] B 4.8 C 5.8	平底。体部は内彎気味に立ち上がり中位で外反し、口縁部にいたる。口縁端部は肥厚する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部雑なナデ。底部回転ヘラ切り痕。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 不良	70% P L 237
1901	高台付皿 須恵器	A 13.0 B 2.9 D 7.2 E 1.0	体部は外反しながら口縁部にいたる。高台はわずかに外に開く。器壁は薄い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、回転ヘラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・角礫 褐灰色 不良	85% P L 237
1904	坏 土師器	A 13.2 B 4.6 C 6.2	平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部1方向ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	70% P L 237
第546図 1909	小形甕 土師器	A [13.0] B (6.9)	頸部片。頸部はくの字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられ、直立する。	口縁部横ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 明赤褐色 普通	5%

遺物番号	器種	計測値					特徴	備考
		上幅(cm)	下幅(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
第546図1902	平瓦	(8.7)	—	(12.5)	2.0	(612.0)	凸面・側面ヘラ割り, 凹面布目。	P L 260

第477号住居跡 (第547図)

位置 調査区域の北西部, C 4 h0区。

重複関係 本跡が第476号住居跡を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.53mの長方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は, 14~19cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて壁下を巡っている。上幅10~18cm, 下幅4~14cm, 深さ8cmで, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 南東・南西コーナー部を除いた部分が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで, 床面としている。

竈 北壁の中央部から東寄りに設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ75cm, 袖部最大幅72cmである。袖部は, ロームブロックや粘土粒子・砂粒混じりの黄褐色土・褐色土で構築されている。煙道部は, 北壁を51cm, 奥行き55cmにわたり逆U字形に掘り込んでいる。煙道は26度の傾きで立ち上がる。火床部は北壁の壁外に径30cmの円形, 確認面から20cmの深さで掘り込み, 焼土・灰が堆積している。

竈土層解説

1	暗褐色	黄褐色粘土小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	にぶい赤褐色	焼土粒子・灰少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量 (掘り方)
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	黄褐色粘土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量	9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒微量	10	にぶい黄褐色	ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒微量	11	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	にぶい黄褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量			

ピット 2か所 (P 1・P 2)。P 1は長径75cm, 短径38cmの楕円形, 深さ14cmで, 中央部の北寄りに位置する。P 2は長径65cm, 短径35cmの楕円形, 深さ14cmで, 北東コーナー部に位置する。いずれも性格は不明であるが, P 2からは完形の坏と椀が出土していることから, P 2については貯蔵穴のような役目も考えられる。

ピット土層解説

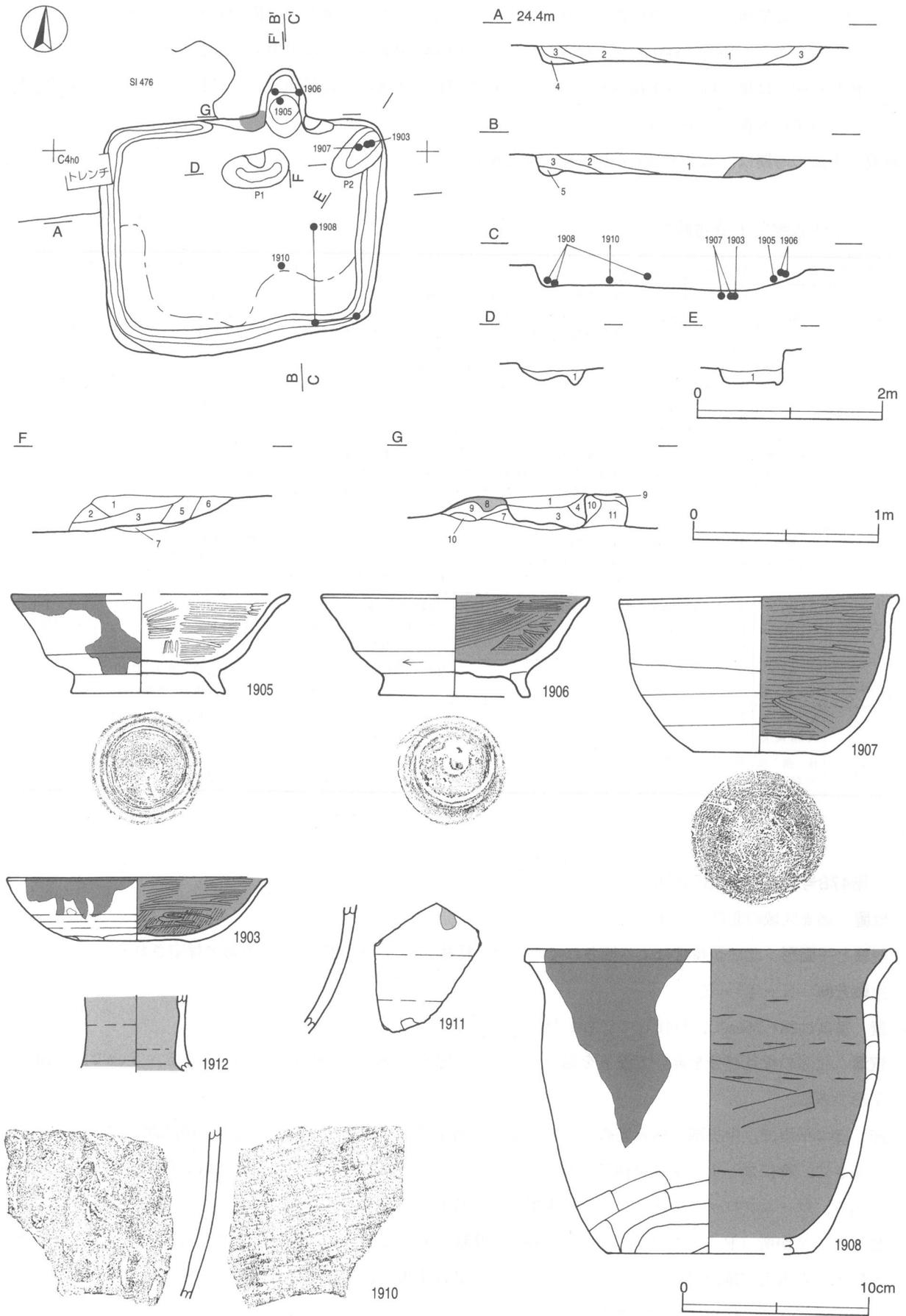
1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック焼土粒子・炭化粒子微量
---	-----	---------------------------------------

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	4	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物 土師器片143点, 須恵器片20点, 灰釉陶器片2点が出土している。第547図1903の土師器坏, 1907の土師器椀はP 2の底面から出土している。1905・1906の土師器高台付椀は, 竈火床部から正位の状態出土してい



第547図 第477号住居跡・出土遺物実測図

る。1908の土師器甕は、南壁際の覆土下層から出土した破片と中央部東寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。1908は外面に煤が付着している。1910の須恵器甕片は中央部の覆土下層から出土したもので、体部外面には格子目叩きが施されている。1911・1912は灰釉陶器の長頸瓶で、前者は体部片で、後者は頸部片で、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から10世紀前葉と推定される。

第477号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第547図 1903	坏 土師器	A 13.8 B 3.4 C 6.2	平底。体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。口縁端部は内削ぎ状で細くすぼむ。器壁は薄い。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部1方向の手持ちヘラ削り内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・長石 褐灰色 普通	95% PL237 外面煤付着
第547図 1905	高台付 土師器	A 15.0 B 5.4 D 8.3 E 1.2	体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。高台はハの字状で、端部は断面三角形。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	95% PL238 外面煤付着
1906	高台付 土師器	A [14.2] B 5.5 D [8.0] E 1.3	底部と体部の境に稜をもつ。体部はわずかに外反しながら口縁部にいたる。高台はほぼ直立する。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ナデ。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒 橙色 普通	45% PL238
1907	碗 土師器	A 14.9 B 8.7 C 7.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、中位ではほぼ直立し口縁部にいたる。器高が高い。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き、黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	90% PL238
1908	甕 土師器	A [19.8] B 16.5 C [11.2]	平底。体部は寸胴形を呈す。口縁部は外方に屈曲する。口縁端部は断面三角形。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面輪積み痕、黒色処理。	精良、砂粒 橙色 良好	40% PL237 外面煤付着
1910	須恵器	B (9.3)	体部片。	体部外面格子目叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 褐灰色、普通	5%
1911	長頸瓶 灰釉陶器	B (7.0)	体部片。	体部下端回転ヘラ削り。釉垂れ。	砂粒・長石、胎土灰色 灰オリーブ釉、普通	5%
1912	長頸瓶 灰釉陶器	B (3.9)	頸部片。	内・外面釉。	緻密、胎土灰色 透明釉、良好	5%

第478号住居跡（第548図）

位置 調査区域の北部，C 4 b2区。

規模と平面形 北部が攪乱により壊されているが、長軸3.24m，短軸3.20mの方形と推定される。

主軸方向 N-4°-E

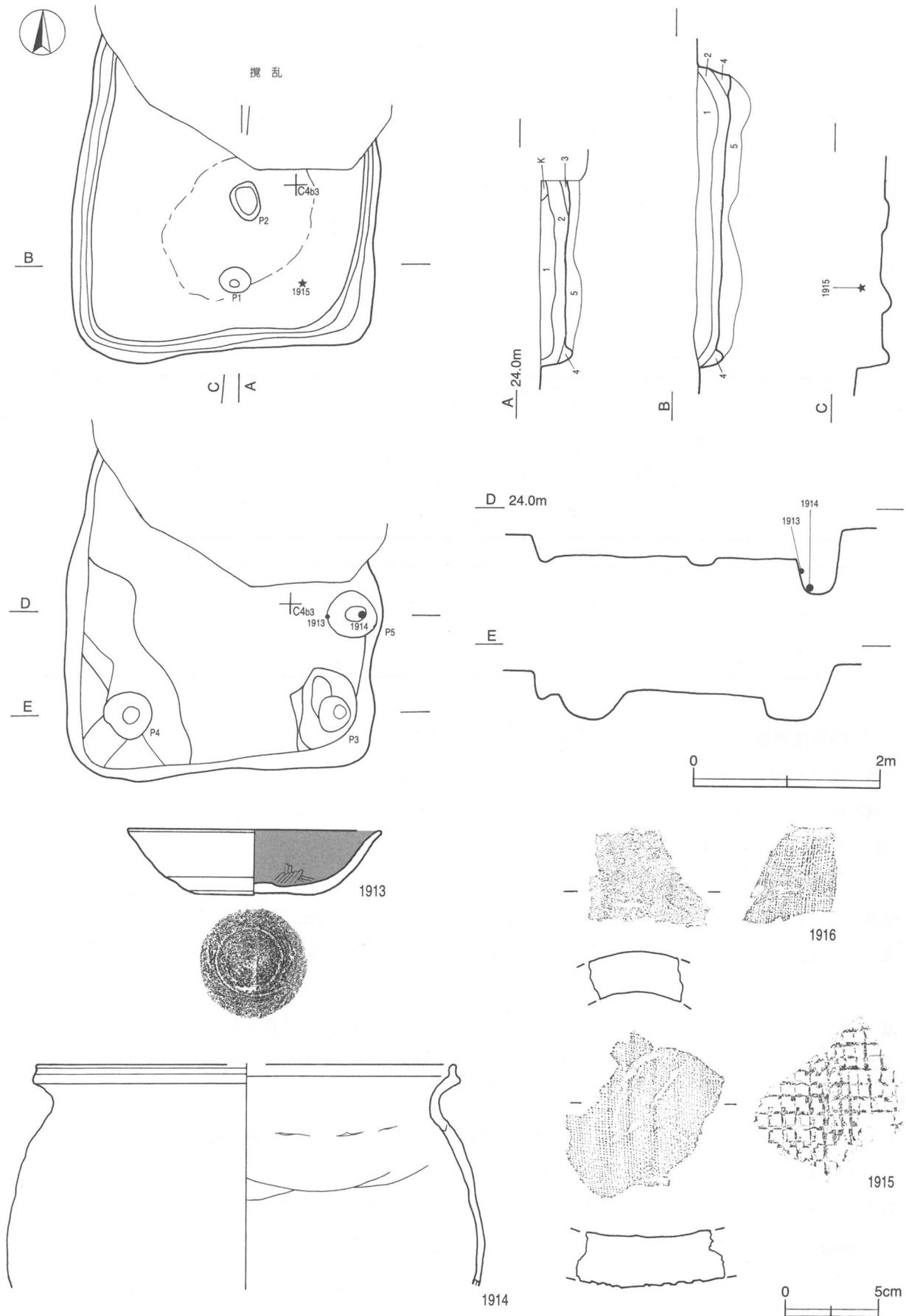
壁 壁高は28～36cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北部の攪乱部分を除いて壁下を巡っている。上幅9～18cm，下幅4～11cm，深さ5～7cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。全面が貼床である。貼床は、全体を確認面から40～48cmほどの深さに、特にコーナー部は長径55～80cm，短径50～65cmの楕円形の土坑状に確認面から50～60cmの深さに掘り込み、ロームブロックを含んだにぶい黄褐色土を埋土して構築している。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径30cmの円形、深さ12cmで、南壁寄りの中央部に位置しており、規模や位置から出入口施設に伴うピットと思われる。P2は中央部に位置する長径42cm，短径30cmの楕円形、深さ10cmのピットで、性格は不明である。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。



第548图 第478号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---|----------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 5 におい黄褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量 (掘り方) |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物 土師器片290点, 須恵器片30点, 瓦片3点が出土している。第548図1913の土師器坏と, 1914の土師器甕は床下の土坑状P5から出土している。1915の平瓦, 1916の丸瓦は覆土上層から出土している。

所見 床下出土の土器から, 本跡は9世紀中葉には構築されていたものと推定される。

第478号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第548図 1913	坏 土師器	A 13.4 B 3.5 C 6.3	平底。底部と体部の境に稜をもつ。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端・底部回転ヘラ削り。底部内面の一部ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 におい橙色 普通	60% PL237
1914	甕 土師器	A [22.4] B (12.2)	頸部の破片。頸部はくの字状に折れ, 口縁端部はつまみ上げられ, 内・外面に1条の沈線をもつ。	口縁部横ナデ。体部内面輪積み痕あり。	砂粒・雲母・長石・小石 におい橙色, 普通	10%

遺物番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
1915	平瓦	(8.0)	(8.5)	2.3	(258.0)	凸面格子目叩き。凹面布目。	
1916	丸瓦	(4.8)	(6.5)	2.1	(92.7)	玉縁部一部残存。凹面布目。	

第479号住居跡 (第549図)

位置 調査区域の北西端部, C2a7区。

主軸方向 N-21°-W

規模と平面形 長軸4.24m, 短軸3.52mの長方形である。

壁 壁高は16~36cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて壁下を巡っている。上幅12~16cm, 下幅6~11cm, 深さ5cmで, 断面はU字形である。

床 中央部にわずかにくぼんだ部分が見られる。踏み固められた部分は見られない。地山を平坦に掘り込んで, 床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。上面が削平されているため遺存状況は良くない。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ120cm, 袖部最大幅80cmである。わずかに確認できた覆土から, 白色粘土を使用して構築されていたと思われる。

ピット 1か所。P1は長径80cm, 短径40cmの楕円形, 深さ32cmで, 南壁際の竈に対面する位置にあることから出入口施設に伴うピットと思われる。

覆土 9層からなる。土層断面図中第8・9層は竈の覆土である。レンズ状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

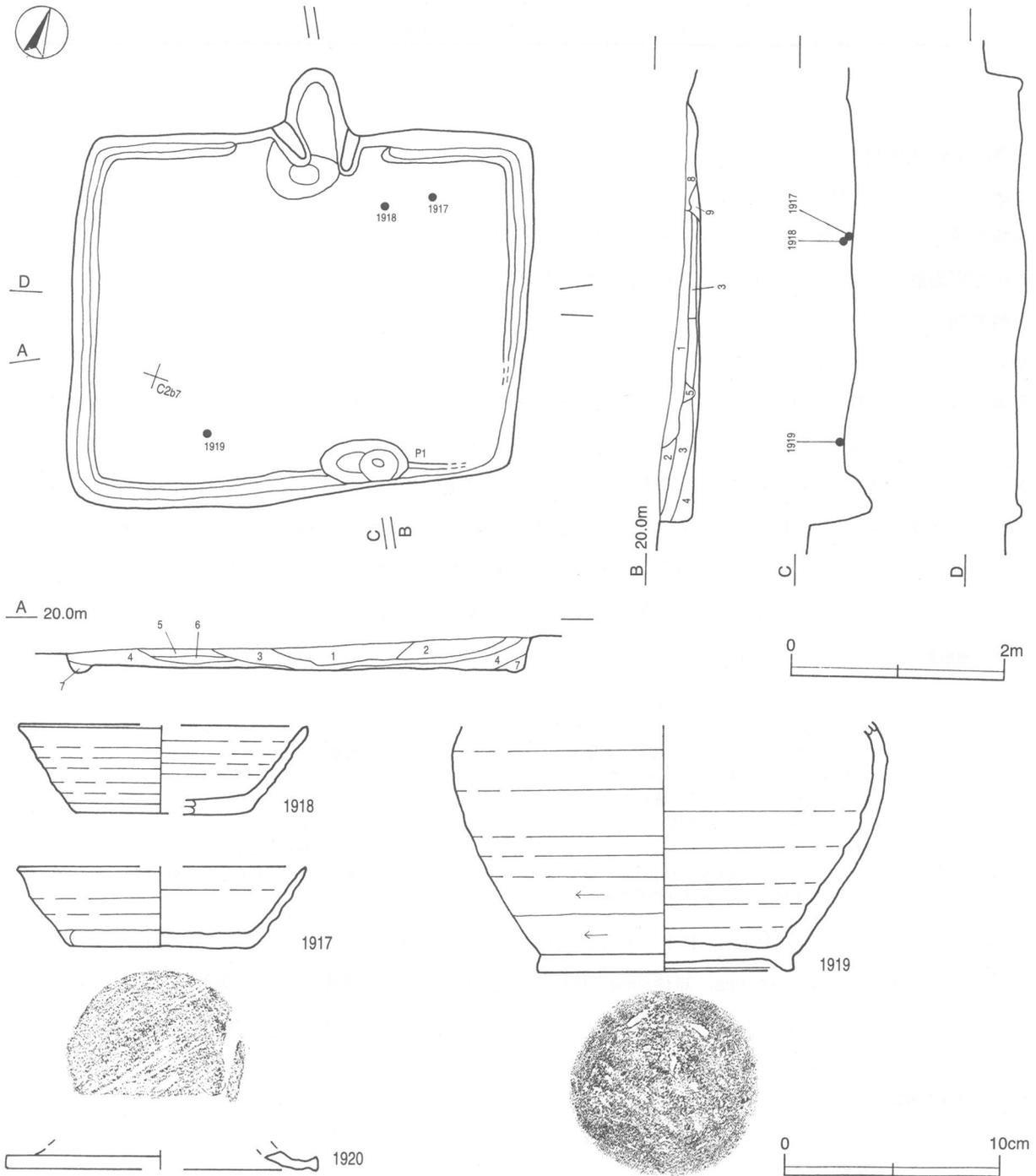
- | | | | |
|----------|----------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 におい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, 炭化粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物・粘土粒子中量, 炭化粒子・砂粒微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |

- 7 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
 8 暗褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量

- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 土師器片35点, 須恵器片42点が出土している。食膳具はすべて須恵器で30点出土している。第549図1917・1918の須恵器坏は北東部の覆土下層から, 1919の須恵器短頸壺は南部の覆土下層から, 1920の須恵器高盤の脚部は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と推定される。



第549図 第479号住居跡・出土遺物実測図

第479号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第549図 1917	坏 須恵器	A [13.4] B 3.7 C 8.3	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部の器壁は薄い。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母角礫 灰色、普通	60% P L 238
1918	坏 須恵器	A [13.6] B 4.2 C [7.9]	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後1方向のナデ。	砂粒・雲母・長石 オリーブ灰色 普通	40% P L 238
1919	短頸 須恵器	B (11.7) D 12.0 E 0.8	底部から肩部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。高台は短く、断面三角形。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 角礫、暗灰色 良好	50%
1920	高 須恵器	B (0.9) D [14.5]	脚部片。脚部端部は大きく外反し、上下につまみ出される。	内・外面ロクロナデ。透かし有り。	砂粒 暗灰色、普通	5%

第480号住居跡（第550～552図）

位置 調査区域の北西端部，B 2 i7区。

重複関係 第38・43号溝に掘り込まれており，本跡がいずれよりも古い。

規模と平面形 長軸5.03m，短軸4.13mの長方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は25～31cmで，ほぼ直立する。

壁溝 竈の部分を除いて壁下を巡っている。上幅8～15cm，下幅5～11cm，深さ5cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で，東壁沿いを除いた部分が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ134cm，袖部最大幅170cmである。袖部は，黄褐色粘土で構築されている。煙道部は，北壁を幅130cm，奥行き70cmにわたり三角形に掘り込んでいる。煙道部は36度の傾きで立ち上がる。火床部は，北壁ラインの内側に位置し，長径75cm，短径55cmの不整楕円形に確認面から50cmの深さで掘り込み，床面からは20cmほどくぼんでいる。

竈土層解説

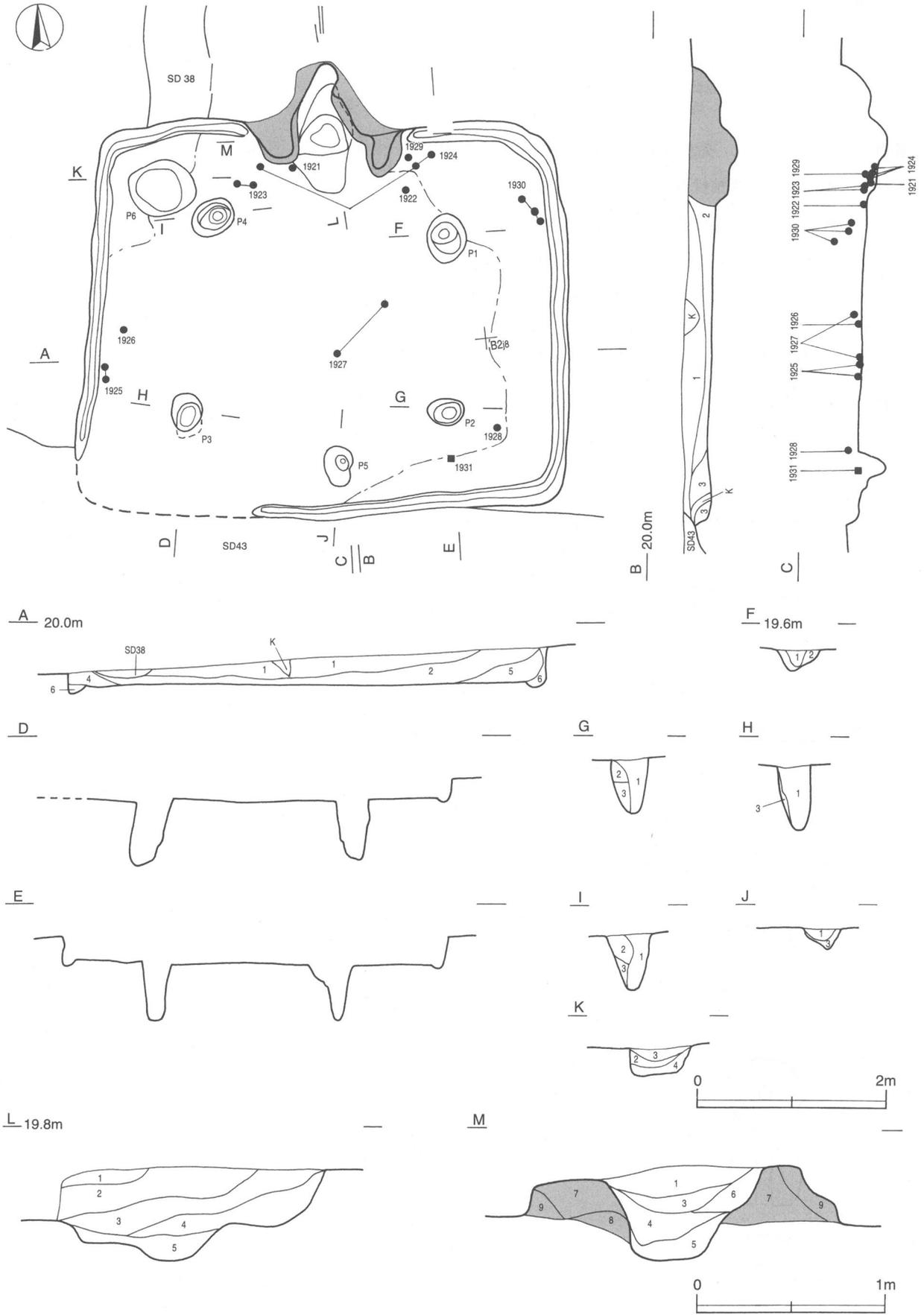
1 暗褐色	黄褐色粘土小ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量	5 におい黄褐色	黄褐色粘土粒子多量，砂粒中量，焼土中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 におい黄褐色	黄褐色粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	6 褐色	黄褐色粘土中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・黄褐色粘土ブロック・黄褐色粘土粒子・砂粒少量，ローム大ブロック微量	7 におい黄褐色	黄褐色粘土中ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
4 暗赤褐色	焼土小ブロック・黄褐色粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	8 暗褐色	黄褐色粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
		9 におい黄褐色	焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土中ブロック微量

ピット 6か所（P 1からP 6）。P 1～P 4は長径40～50cmの楕円形，深さ61～70cmで，規模や配置から支柱穴と思われる。P 5は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さは31cmで，南壁寄りの中央部に位置しており，出入口施設に伴うピットと思われる。P 6は北西コーナー部に位置する長径70cm，短径60cmの楕円形，深さ36cmのピットで，性格は不明である。

ピット土層解説

1 黒褐色	砂質粘土小ブロック中量，炭化粒子少量	4 におい黄褐色	砂質粘土粒子多量，砂質粘土中ブロック・砂質粘土小ブロック中量
2 褐色	砂質粘土粒子多量，砂質粘土小ブロック中量		
3 暗褐色	砂質粘土小ブロック・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量		

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。



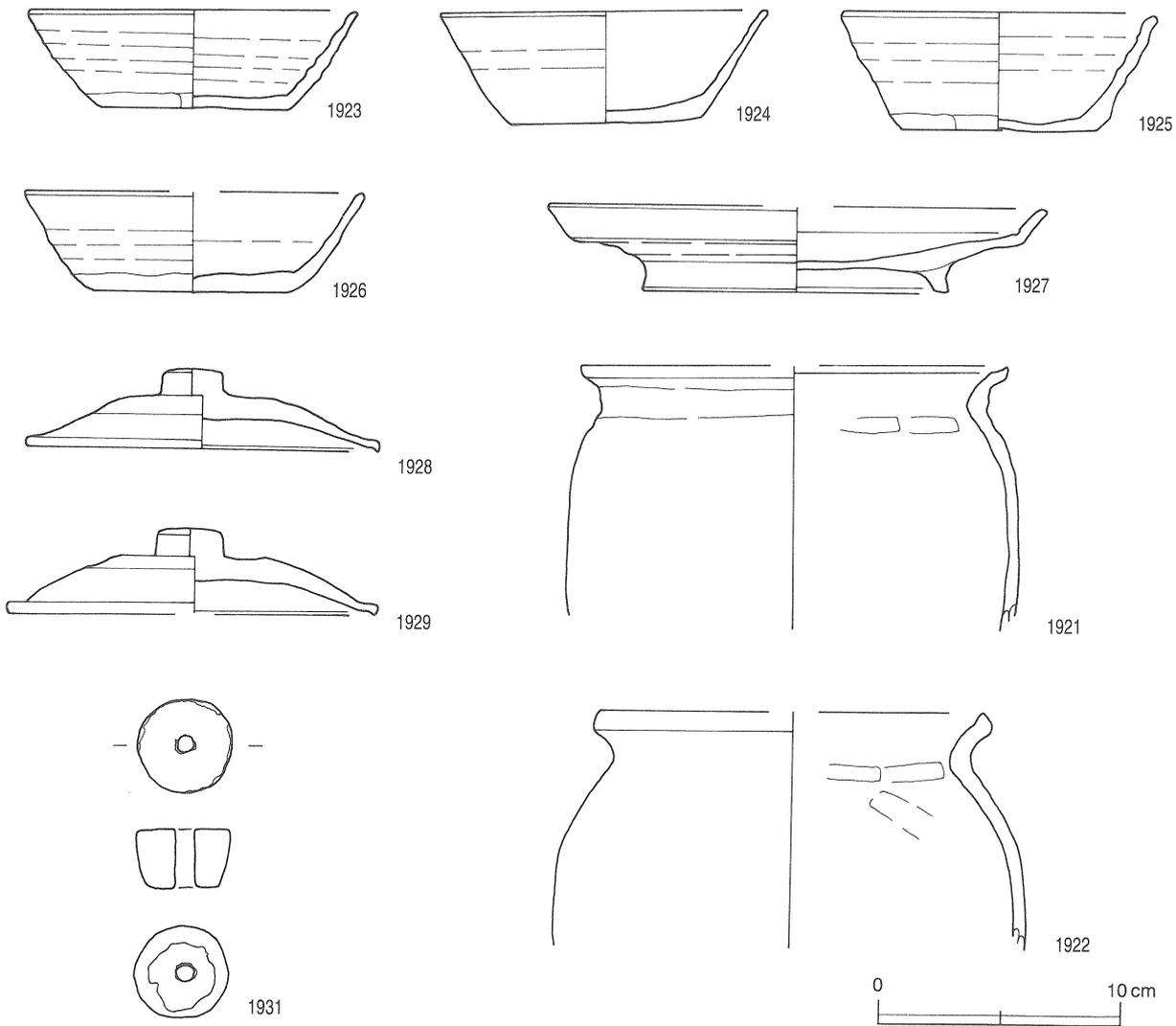
第550图 第480号住居迹实测图

土層解説

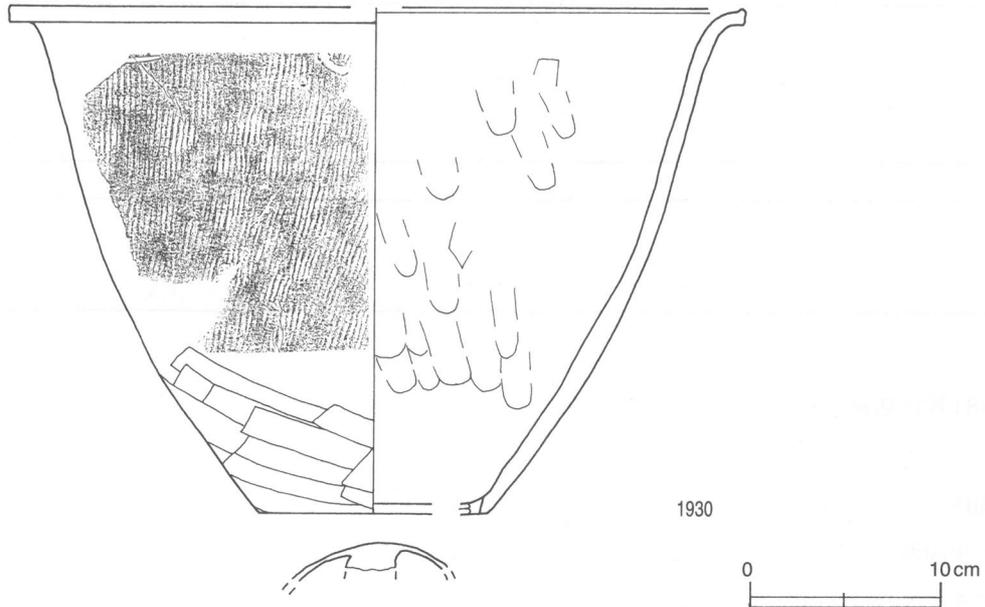
- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・黄褐色粘土小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・黄褐色粘土粒子微量 |

遺物 土師器片355点, 須恵器片242点, 石製品1点(紡錘車), 土製品1点(支脚)が出土している。第551図1921の土師器甕は竈西袖付近の床面から, 1922の土師器甕は北東部の床面から, 1923の須恵器杯は北西部の床面から, 1925・1926の須恵器杯は西壁際の床面から, 1927の須恵器盤は中央部の床面から, 1931の石製紡錘車は南東部の床面から, 1929の須恵器蓋は東袖付近の床面からそれぞれ出土している。1928の須恵器蓋は覆土下層から出土している。1924の須恵器杯は竈付近の床面から出土した破片が接合したものの, 1930の須恵器甕は北東壁際の覆土上層から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合したものである。いずれの須恵器も胎土が粗く, 角礫が多量に含まれている。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後葉と推定される。



第551図 第480号住居跡出土遺物実測図(1)



第552図 第480号住居跡出土遺物実測図(2)

第480号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第551図 1921	甕 土師器	A [17.5] B (10.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに立ち上がり、頸部はコの字状を呈し、口縁端部はつまみ上げられる。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	粗い、砂粒・長石・角礫 明赤褐色 普通	20% P L238
1922	甕 土師器	A [15.8] B (9.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は丸みを持って立ち上がり、頸部はくの字状に屈曲する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	粗い、砂粒・長石・角礫 明赤褐色、普通	20% P L238
1923	坏 須恵器	A 13.4 B 4.2 C 7.7	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定方向のヘラ削り。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰色、普通	95% P L238
1924	坏 須恵器	A 13.4 B 4.6 C 7.8	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。底部内面はくぼむ。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部1方向のヘラ削り。内・外面ともに磨減が激しい。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 灰白色、不良	90% P L238
1925	坏 須恵器	A 12.8 B 4.9 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部雑なナデ、回転ヘラ切り痕。	粗い、砂粒・雲母・長石・角礫 緑灰色、普通	60% P L238
1926	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C 8.2	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のナデ、回転ヘラ切り痕。	粗い、雲母・長石・角礫 灰色、普通	60% P L238
1927	盤 須恵器	A [20.2] B 3.5 D 12.6 E 1.2	体部は外反しながら大きく開き、口縁部との境で屈曲して、口縁部は外傾する。高台は短く、ほぼ直立する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部調整磨滅のため不明。高台貼り付け後、ナデ。	粗い、雲母・長石・角礫 明灰黄色 不良	70% P L238
1928	蓋 須恵器	A 14.4 B 3.3 F 2.5 G 1.1	天井部は高く、緩やかに口縁部にいたる。端部は短くつまみ出される。つまみは高く、擬宝珠状である。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後、ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	粗い、雲母・長石・角礫 にぶい黄色 不良	90% P L238
1929	蓋 須恵器	A [15.0] B 3.6 F 2.7 G 1.2	天井部は高く、緩やかに口縁部にいたる。端部は短くつまみ出される。つまみは高く、擬宝珠状である。	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後、ロクロナデ。口縁部内・外面ロクロナデ。	粗い、砂粒・長石・角礫 にぶい黄色 不良	70%

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第552図 1930	甌 須恵器	A [37.8] B 26.5 C [11.8]	底部の一部欠損。体部は外傾しながら立ち上がり,上半はほぼ直立する。口縁部は短く外側に屈曲し,端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面下半当て具痕,上半指頭押圧後ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	50% P L 238

遺物番号	器種	計測値					石材	特徴	備考
		上面径 (cm)	下面径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第551図1931	紡錘車	3.9	2.7	2.5	0.8	50.5	凝灰岩	断面逆台形。	P L 252

第481号住居跡 (第553図)

位置 調査区域の北端部, B 5 i 9区。

重複関係 第147号掘立柱建物に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.57m, 短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は28~35cmで, 外傾して立ち上がる。北壁には粘土が貼り付けられている。

壁溝 竈の部分, 北壁, 東壁の北半部, 第147号掘立柱建物のP 4に掘り込まれている西壁の一部を除いて, 壁下を巡っている。上幅5~13cm, 下幅3~7cm, 深さ7cmで, 断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 全体的に踏み固められている。床面は, 平坦に掘り込んだ地山を使用している。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ83cm, 袖部最大幅127cmである。東袖部は地山を台形状に掘り残して芯とし, 周りに焼土ブロック・粘土ブロック・粘土粒子・砂粒混じりの暗褐色土・黄褐色土を貼り付けて構築されている。西袖部は芯となる地山の掘り残しは確認されなかったが, 東袖部と同様の土で構築されている。煙道部は, 北壁を幅79cm, 奥行き65cmにわたり三角形に掘り込んでいます。煙道は, 20度の傾きで立ち上がる。火床部は, 確認面から37cmの深さで長径52cm, 短径41cmの不整形に掘り込み, ローム粒子・焼土粒子・砂粒を含んだ褐色土及び暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は, 北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|-----------|--|
| 1 極暗褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量 | 9 暗褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化物・粘土中ブロック微量 | 10 におい黄褐色 | 砂粒多量, 焼土小ブロック・粘土粒子中量 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒多量 |
| 4 暗褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量 | 13 黄褐色 | 粘土小ブロック中量, 砂粒少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, 砂粒微量 | 14 褐色 | 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・ローム粒子少量(掘り方) |
| 7 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量 | 15 暗褐色 | 焼土粒子中量, 砂粒少量(掘り方) |
| 8 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 焼土中ブロック微量 | | |

ピット 1か所。P 1は径29cmの円形, 深さ20cmで, 南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから, 出入口施設に伴うピットと思われる。ピット内の覆土は, ロームブロック・焼土ブロック混じりの黒褐色土である。

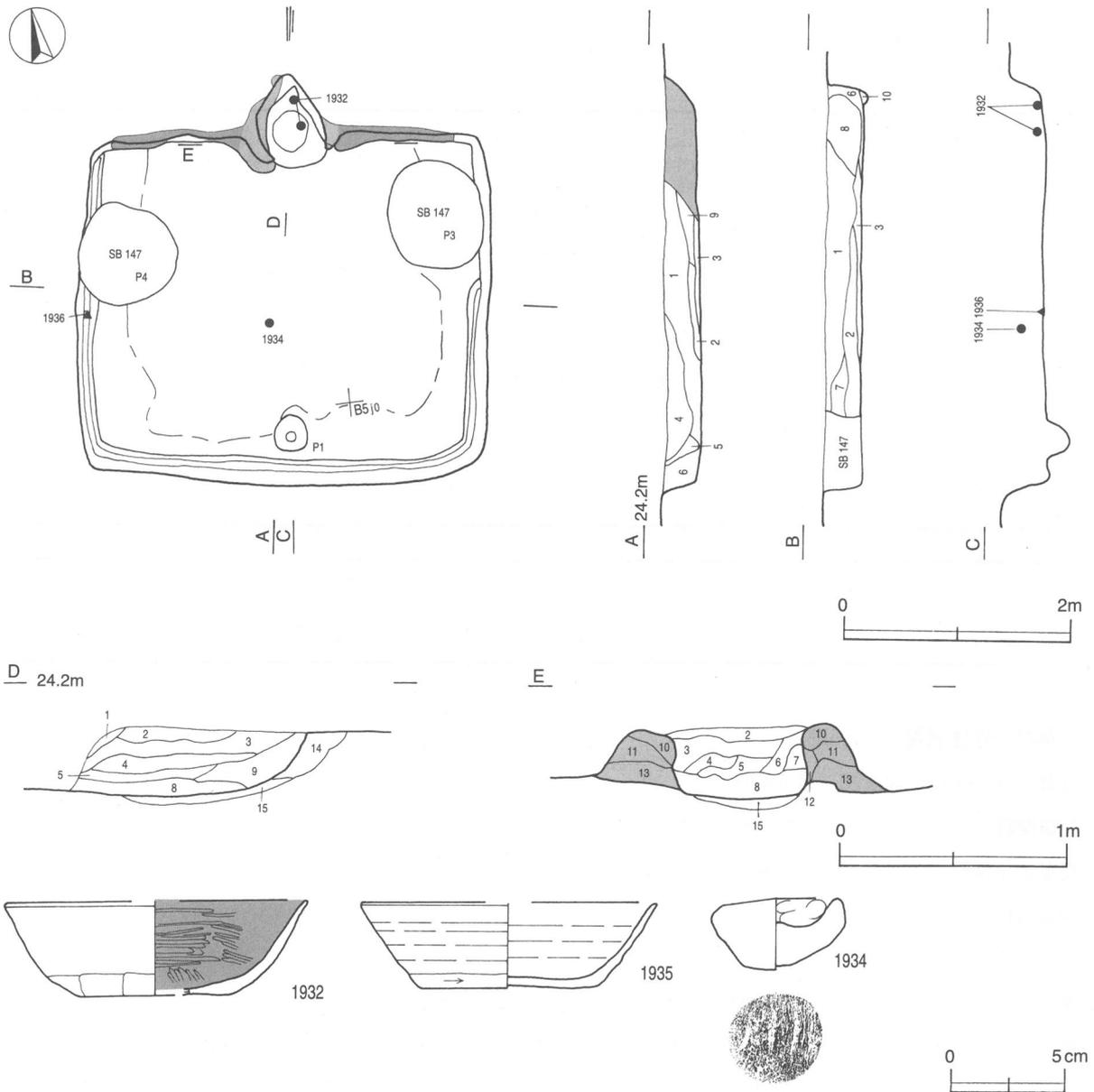
覆土 10層からなる。不規則に堆積していること, ロームブロックを多く含むことから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

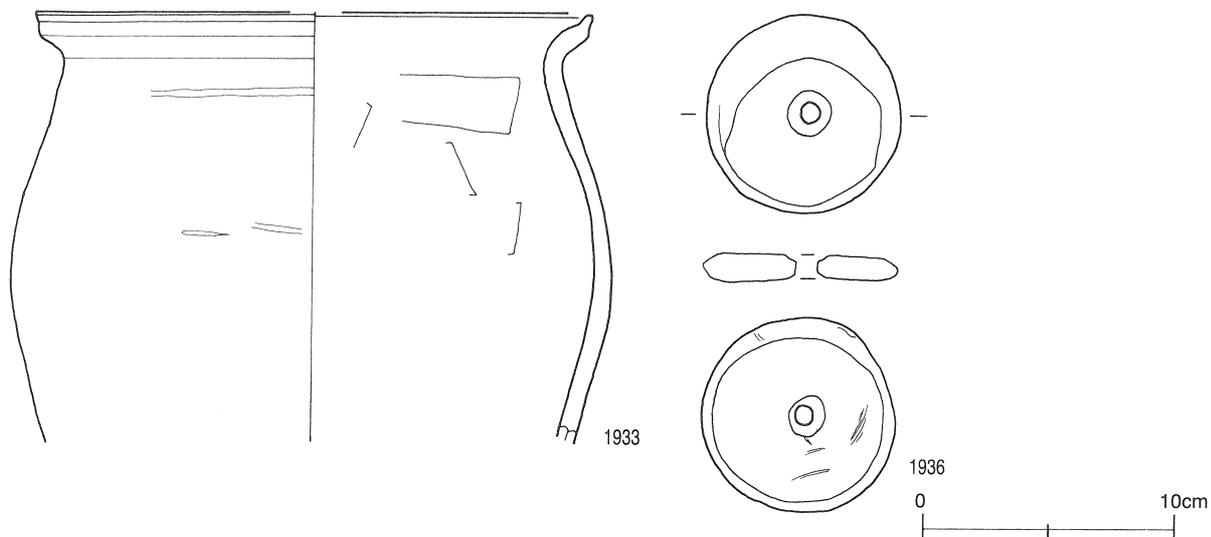
- | | | | |
|----------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | ローム大ブロック・粘土小ブロック少量，砂粒微量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック中量，粘土粒子少量，砂粒微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | 焼土小ブロック・砂粒中量 | 8 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム大ブロック中量 | 9 黄褐色 | 焼土小ブロック中量，粘土粒子少量，砂粒微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片121点，須恵器片168点，土製品1点（紡錘車），鉄器1点（紡錘車），鉄製品1点（不明）が出土している。第553図1932の土師器坏は竈の覆土下層から出土しているが，混入と思われる。1934の土師器手捏土器は中央部の覆土中層から，1936の土製紡錘車は西壁下の壁溝内からそれぞれ出土している。1934は正位で出土している。1933の土師器甕，1935の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，重複関係と出土土器から，8世紀後葉と推定される。



第553図 第481号住居跡・出土遺物実測図



第554図 第481号住居跡出土遺物実測図

第481号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第553図 1932	坏 土師器	A [13.3] B 4.1 C [6.6]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	15% P L238
第554図 1933	甕 土師器	A [22.0] B (17.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は屈曲する。端部は外上方につまみ上げられている。体部上位に2条の沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい褐色 普通	15% P L238
第553図 1934	手捏土器 土師器	A 6.0 B 3.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部内面指頭押圧痕。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	90% 底部擦痕
1935	坏 須恵器	A [13.2] B 3.7 C 7.6	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	10%

遺物番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
1936	紡錘車	7.9	1.1	0.8	71.5	土製	土師器甕底部の転用。	P L250

第482号住居跡（第555図）

位置 調査区域の北端部，B 5 h9区。

重複関係 第147号掘立柱建物に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.40m，短軸2.33mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は14~18cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で，中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで，床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ87cm，袖部最大幅95cmである。東袖部は焼土ブロック・砂粒・粘土ブロック混じりの暗褐色土及び黄褐色土で構築されている。西袖部は地山を山形に掘り残して芯とし，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒混じりの黒褐色土及び暗褐色土を貼り付け

て構築されている。煙道部は、北壁を幅80cm、奥行き50cmにわたり、丸みを帯びた三角形に掘り込んでいる。煙道は下半部で20度、上半部で65度の傾きで立ち上がる。火床部は、確認面から40cmの深さで径62cmの不整形に掘り込み、焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒を含んだ暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は、北壁ライン上に位置する。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・砂粒中量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 にい黄褐色 焼土小ブロック・砂粒中量、粘土粒子少量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック・砂粒少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 砂粒中量、粘土小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 9 暗褐色 焼土粒子・砂粒中量
- 10 暗褐色 粘土粒子・砂粒少量
- 11 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化物・炭化粒子・砂粒少量（掘り方）

ピット 3か所（P1～P3）。P1は径19cmの円形、深さ7cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径70cmの円形、深さ49cmで、南壁寄りに位置する。羽口・椀形滓・鉄滓が出土していることから鍛冶関連施設に伴うピットと考えられる。P3は長径78cm、短径58cmの楕円形、深さ20cmで、北東コーナー部に位置する。鉄滓・炭化物・焼土が検出され、鍛冶関連施設に伴うピットの可能性もあるが、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量、炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・鉄滓少量、ローム中ブロック微量
- 7 暗褐色 焼土粒子中量、炭化物少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量

鍛冶炉 中央部に設けられている。規模は、長径43cm、短径34cmの楕円形で、床面を14cm掘りくぼめた地床炉と考えられる。炉床面は火熱を受け赤変硬化し、覆土からは鍛造剥片が多量に検出されている。

鍛冶炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・鍛造剥片中量、焼土中ブロック微量

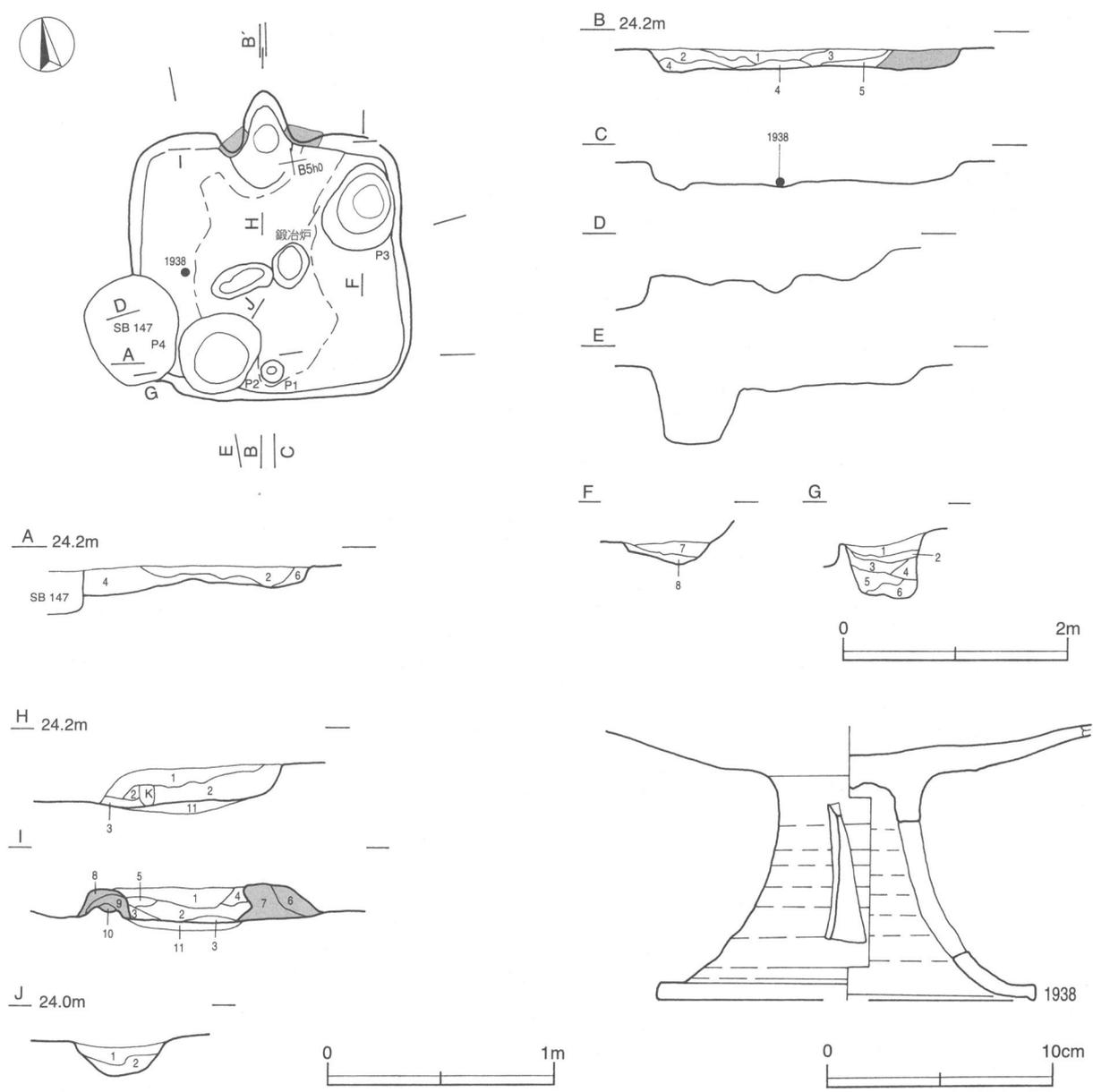
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・砂粒微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量、焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・鉄滓・粒状滓・鍛造剥片少量、焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片63点、須恵器片13点、土製品4点（羽口）、鉄器1点（刀子）、椀形滓8点（566g）、鉄滓（512g）、粒状滓、鍛造剥片、炭化物が出土している。第555図1938の須恵器高盤は西壁付近の床面から出土している。

所見 本跡には鍛冶炉、P2・P3の鍛冶工房関連施設が付設され、鍛冶工房跡と考えられる。本跡の時期は、重複関係と出土土器から、8世紀後葉と推定される。



第555図 第482号住居跡・出土遺物実測図

第482号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第555図 1938	高盤 須恵器	B (12.2) D [16.8] E 10.0	脚部から体部の破片。裾部はわずかに外反し、屈曲し垂下する。脚部はラッパ状に開き、三角形の3孔を有する。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部から脚部内・外面口ロナデ。	砂粒・雲母・石英 褐灰色 普通	60% P L238

第483号住居跡 (第556・557図)

位置 調査区域の北西端部, B 3 j1区。

規模と平面形 長軸2.92m, 短軸2.70mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は7~25cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。地山を平坦に掘り込んで、床面としている。

竈 北壁の中央部に設けられている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ98cm、袖部最大幅104cmである。袖部は黄褐色粘土で構築されている。煙道部は、北壁を幅90cm、奥行き35cmにわたり半円形に掘り込んでいる。煙道は30度の傾きで立ち上がる。焚口部から火床部は、確認面から35cmの深さで径63cmの円形に掘り込み、ロームブロック・焼土・炭化物を含む暗褐色土を埋土してつくっている。火床面は北壁ラインの内側に位置し、床面から10cmほどくぼんでいる。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・黄褐色粘土小ブロック少量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 6 明黄褐色 | 黄褐色粘土中ブロック多量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土中ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |

ピット 1か所。P1は長径45cm、短径30cmの円形、深さ28cmで、南壁寄りの竈に対する位置で確認されていることから、出入口施設に伴うピットと思われる。

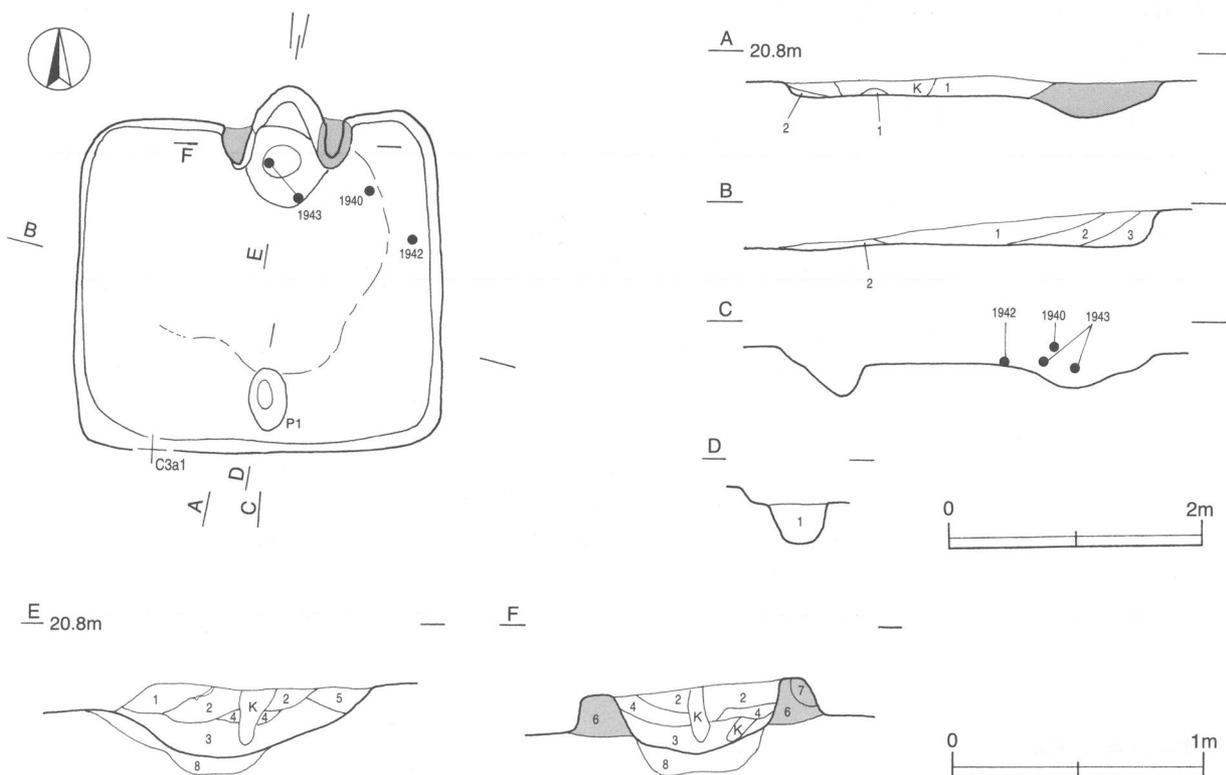
ピット土層解説

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
|-------|----------------------------------|

覆土 3層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--|-------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 | | |



第556図 第483号住居跡実測図